超衝撃マッチメイク あのミスター高橋を大槻ケンヂが直撃!!

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

RADICAL

57
2003



高山善廣
ボブ・サップ

待ったなし!!
『猪木祭り』超直前情報!!

“アントンの秘密兵器”
独占インタビュー
マチダ・リョウト

高田戦の後は
「UWFジャパン」発進!!
田村潔司

鈴木健&ターザン山本が
「高田vs田村戦」を大総括!!

1・19東京ドームに爆弾第2弾投下!!
武藤敬司&関係者Xが語る『W-1』

再上陸目前!! WWE濃密特集

03年正月、遂に見参!! ハシフ・カーン

ZERO-ONE両国大会、速攻リポート

03年は世界に羽ばたく!!
鷲ガクの創刊6周年記念号!!

『猪木祭り』でサップvs高山戦!!
“地球規模のタイマン勝負”だ!

喰いますか?
喰われますか!?

紙のプロレス RADICAL 2003 NO. 57
創刊6周年記念号!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

すべてを飲み込む

ボブ・サップは


暗黒肉弾大魔神

「底が丸見えの底なし沼」か!?
「底が見えない底ぬけ沼」か!?

……ボブ・サップって何なのよ?



『PRIDE』からK-1へ
K-1から『PRIDE』へ
『PRIDE』から『Dynamite!』へ
『Dynamite!』からK-1へ
K-1から新日本へ
新日本から『W-1』へ
『W-1』からK-1へ
K-1から『猪木祭り』へ
『猪木祭り』から『W-1』へ



ボブ・サップの「喜怒哀楽」の向こう側に何が見える!?

BOB SAPP



仰天！　あのボブ・サップが、あの伝統&格式のある東スポ制定「02プロレス大賞」MVPを受賞してしまった！　もちろん、外国人では初だ！　これは歴史的出来事である。

K—1や『Dynamite!』や『PRIDE』、そして純プロレスまでを回遊魚のように回り続けるサップが「プロレス大賞」のMVPを獲ったのだ。回遊魚は止まったら死ぬ。

もしかしたら！　ボブ・サップは大量消費社会の申し子なのか？　ボブ・サップは大量消費社会が生んだ怪物なのか？

10・5のGP開幕戦と、12・7のGP決勝戦で行われたサップvsアーネスト・ホースト戦は、まさに〝プロレス〟だった。あれはもはや純K—1の枠組みをとっくのとうに超えている。

話は飛ぶが、失業者の多い時代に、モーションピクチャーという見せもの小屋からハリウッドの映画産業は始まったと言われている。そして時代とともに巨大化していった。

なにかしら行き詰まると、実験映画を撮っていた人間に莫大な資金を投入して大作を撮らせたり、メジャーとは無縁だったアンダーグラウンドの監督に撮らせたりして、新しい血の導入を図る。

マット界も、K—1と『PRIDE』が絡んだり、K—1と猪木軍が闘ったり、格闘技的にはまったくアンダーグラウンドな存在だったボブ・サップが暴れ回ったりと、血の入れ替えがここ2〜3年で急速に行われた。

あのボブ・サップが、あの伝統&格式のある東スポ制定「02プロレス大賞」MVPを受賞してしまった！これは歴史的出来事である

そして、K—1、『PRIDE』、『Dynamite!』、『猪木祭り』、さらには『WRESTLE—1』をも含めた生態系は巨大化していった。

力道山や大山倍達の時代に「興行」として始まった〝闘いを見せること〟は、まだまだ他の産業に比べれば地盤が脆弱すぎるものの、もはや格闘技産業と言ってもいいほどの広がりを見せている。

「プロレス」もその新たな生態系の一部として存在していると言っても過言ではないのだ。

しかし、むしろ、壊れかけた既存の「プロレス村」より、新たな生態系のほうに〝プロレス〟という概念を探すことはラクである。

サップvsノゲイラを見よ。サップvsホーストを見よ。高山vsフライを見よ。吉田vsホイスを見よ。桜庭vsミルコを見よ。高田vs田村を見よ。さたやんvsブッチャーを見よ（これは違うか）。

不平等下での闘い、迫力、わかりやすさ、闘うテーマ、ストーリー、ドラマ、スポーツの枠を超えた勝敗、挑戦、克服、生き方、それらのすべてが詰まっていた。要は〝プロレス〟である。

ボブ・サップはバツグンに「凄くて・強くて・面白い」。救世主だ。いまの時代の象徴的存在でもある。

でもその遺伝子を残す方法を持たない一代限りの存在だ。

たとえ、「プロレス」という言葉がこの世から消えてなくなっても、〝プロレス〟という概念は、新たな生態系の中でも一番必要なものだ。

誰がその〝プロレス〟という概念を残していくのか。

ボブ・サップ人気の陰にはそんな大きな命題が隠されている……はずです。



大みそか、“地球規模のタイマン勝負”で
真の「2002年マット界MVP」が決まる

「このスピードの中で消費されてる実感はあるけど、頑張って光っとけば、30年ぐらい経っても“高山”って覚えてもらえてるかな、と」

聞き手／山口日昇　撮影／森“モーリー”鷹博

designed by hisa (Two Three)

6月の『PRIDE.21』では、ドン・フライと天地左右上下前後が揺れ動くかのような、意地の張り合いを超えた、意地のド突き合いを展開。満天下にその男塾っぷりを示した高山。

8月に入れば、天下の新日本〝夏の本場所〟G1で決勝進出、伝統復活のNWFトーナメント初戦でも藤田和之を撃破。

9月に入ればノアのリングでGHC王座を奪取！　初防衛戦で三沢光晴にベルトは獲られたものの、この一戦では、プロレスの凄みを見ているものの細胞に叩きつけた。

その三沢戦では、フライ戦と同じく右目眼窩底骨折&左肩関節脱臼という負傷を負い、その後、長期戦線離脱。

その間に、『Dynamite!』でノゲイラ相手に名前を上げたサップが、K−1のリングでもシリル・アビディ、そして〝スリー・タイムス・チャンピオン〟アーネスト・ホーストまでもブチ破り、アッという間にボブ・ステップ・ジャンプ！　大ブレイクをはたしてしまい、2002年度の東スポ制定「プロレス大賞」の栄えあるMVPまで外国人としては初めてかっさらっていってしまった。

高山も永田裕志戦（5・2東京ドーム）で年間最高試合賞&殊勲賞のダブル受賞となったが、怪我さえなければ断然MVP候補だった。

その高山が、12・15新日本の名古屋大会で83日ぶりのリング復帰。さらに大みそかの『猪木祭り』でぶつかり合う相手がなんとサップで決まってるというんだから、ん〜、父ちゃん、ドキドキして涙が出てくるわ!!

12・31――2002年度、真のMVP決定戦！　まさに喰うか、喰われるかの地球規模のタイマン勝負！　そこで高山はいったい何を我々に突きつけようというのか?

ん〜、ノーフィアーッ!!

――今日は練習しようとした宮戸（優光）さんのスネークピットがお休みだったそうですね。

高山　出鼻をくじかれました（笑）。

――いきなり（笑）。

高山　隔週木曜が休みだから、いつの週の木曜かわからなくなるんですよ（笑）。

――高山さんは、練習はほぼスネークピットですか？

高山　オフのときで、なんにも詰まってないときには。といっても、ドン・フライ戦の後は詰まりすぎててね。行く日がなかったっていうぐらい詰まってたんで。

――試合の連続、あるいは怪我の連続でしたからね。

高山　はい。試合して、ちょっとぐらいは休まなくちゃいけないじゃないですか。でも、すぐに試合になっちゃうから。だから、練習はちょっと整えるくらいですよ。宮戸さんのところに行くと、宮戸さんは「俺のアドバイスを聞かない」っていつも怒ってますけどね（笑）。

――じゃあ、普段どうやってコンディション整えてるんですか？

高山　それは、1人で普通にスクワットみたいのやったりとか。あと、シャドーボクシングだけは20〜30分やるとか。

――それはどこで？

高山　行くとこなかったら家でもやってますよ（笑）。

――い、家でやりますか！

高山　家でもやってるし、巡業中は必ず試合前にやるし。だって昔、山本小鉄さんが「レスラーはタタミ一畳あれば身体を鍛えられる」とか言ってたから。まさにその通



高山善廣

12・31『猪木祭り』で
日本が誇る"ノーフィアー"が
暗黒肉弾大魔神、征伐へ――。

り俺はやってるよって感じですね（笑）。

——ガハハハ！　高山さんの場合、人並みじゃないデカさだから、一畳じゃ足りない（笑）。

高山　ちょっと僕の場合大きいんで、二畳ぐらいないとマズいんですけど。

——すごいなぁ。でも、大みそかの『猪木祭り』でのボブ・サップ戦は、よくその体調で受けましたね。

高山　逆に、大晦日ぐらいしかやるときがないんじゃないかって思ったんですよ。

——そうか、むしろ今回しかないと。

高山　もしかしたらね。やっぱり、彼も今年は顔を売るためにいろいろやったけど、あれだけ売れちゃうと、来年はたぶん、そんなにバカみたいにやらないと思うんですよ。そう考えると、彼が出るのはK—1仕切りのイベントに限定されるんじゃないかな？　とか、いろいろ考えて（笑）。

——なるほど。決めた動機としてはそれが一番ですか？

高山　それが一番大きいですね。で、やっぱりどうせ痛い思いするんだったら、なるべくたくさんの人に見てもらった方がいいし！

——そこらへんの感覚の持ち方が、なんていうかダンディだよなぁ（笑）。いまの選手には、そういう感覚があんまり見られないですからね。

高山　それはね、幸せの感じ方と一緒ですね（キッパリ）。

——ガハハハ！　幸せ？

高山　そうでしょ？　なんでもいいから勝ちたいとか、人それぞれあるじゃないですか、その人の持ってる感覚って。僕はなるべく多くの人に見られたいと思うだけでね。でも、本来のプロレスラーのイメージからすると、そっちじゃないかなって思うんですけどね。

——断然、そうですね。でもボブ・サップ相手だと、ドン・フライ戦以上の凄絶な男塾っぷりを期待されちゃうでしょうね（笑）。

高山　あんまりそういうふうに期待されると嫌なんですよね。

——わかります。でもファンはそう見ちゃうでしょ。ドン・フライとあれだけガンガン殴りあった高山がサップとやるんだから、こりゃあ地球が壊れるくらいのタイマン勝負になるぞって（笑）。

高山　ハッハッハッハ！　どうなるんですかね。

——そういう中で、高山さんがどういう表現をするのかっていうのが一番興味ありますけどね。

高山　まぁ正直、リングに立ってからのことはあんまり考えてないですね。大みそかまではコタツに入ってノンビリ過ごしますから（笑）。でも、その場に出ることが、もう表現になってると思うんですよね。現時点でボブ・サップとあのリングで向かい合うっていうことが、それだけでもかなり大口叩いてるような感じでしょ（笑）。



高山善廣

——ふつう嫌がりますよね、あんな怪物とやるの。

高山　ええ。

——おいしいと思って、負け前提で出ていきたいっていう選手はいるかもしれないけど、高山さんは、もしかしたら勝とうと思ってますよね？

高山　なるべくなら（笑）。でも、どの試合でも大体そう思ってますけどね。

——高山さんの場合、いつも『PRIDE』とか総合格闘技関係って直前のオファーですよね？（笑）。

高山　なんででしょうね？　でも僕はけっこうね、「直前の方がいいかな？」とか、こないだのドン・フライ戦のときに思ったんですよね。

——やっぱり豪傑だなぁ（笑）。

高山　だって、ズッとドキドキしなくて済むでしょ（笑）。3ヶ月も前からズッとドキドキして「あれしなくちゃ、これしなくちゃ」「あ、怪我しちゃった！　どうしよう？」とか、いろいろ考えなくちゃいけないから。まぁ、大体コンディションキープして、急に言われて「はいよっ！」って出た方が……ラクだよなぁ。

——ガハハハ！　それをラクと思うところが凄いですね。普通なら断りますよ（笑）。

高山　どうなんですかね？　でも、普通っていうところで、普通の自分が嫌だからプロレス界に入ったんだから、やっぱり普通じゃダメなんですよ。

——じゃ、高山さんは異常ということで（笑）。でも、いまの選手って総合系にしてもプロレスラーにしても、非常に〝ビミョー〟な選手が多いじゃないですか。

高山　あ、〝ビミョー〟って流行り言葉らしいですね、そういえば（笑）。

——すべて〝ビミョー〟（笑）。高山さんはそこのラインを完全に突き抜けてますね（笑）。

高山　俺は〝ビミョー〟じゃないですもんね（笑）。

——ガハハハ！　そのビミョーさも、昔だったらマニアが自分から情報を引っ張り出して勝手に想像しながら楽しんでたけど、いまはそういうマニア自体がかなりの部分でビミョーですからね（笑）。

高山　そうですね。やっぱマニアばっかお得意さんにしてると、どんどん業界が狭く

なるんで。たしかにインターネットとか見るとね、「高山はバカじゃねぇか？　ボブ・サップとやるなんて」とか、あるんですよ（笑）。

――それこそ、「勝ってねぇじゃん」っていう部分を突っ込まれたり。

高山　そう書かれるんですけどね。でもさ、面白がってくれる爺ちゃん婆ちゃんとか、ガキがいるからいいじゃねぇかって僕は思っちゃうんですよね。

――その考え方は財産ですよ。ホント、マット界の財産だと思うな。そういう考え方をしてくれる人が、なかなかいないですからね。

高山　ねぇ。「そういうふうにしちゃダメ」って統一されてるんじゃないですかね。あとやっぱり業界が会社組織になりすぎて、それを保つために、みんな去勢しちゃったんじゃないですか？

――去勢！

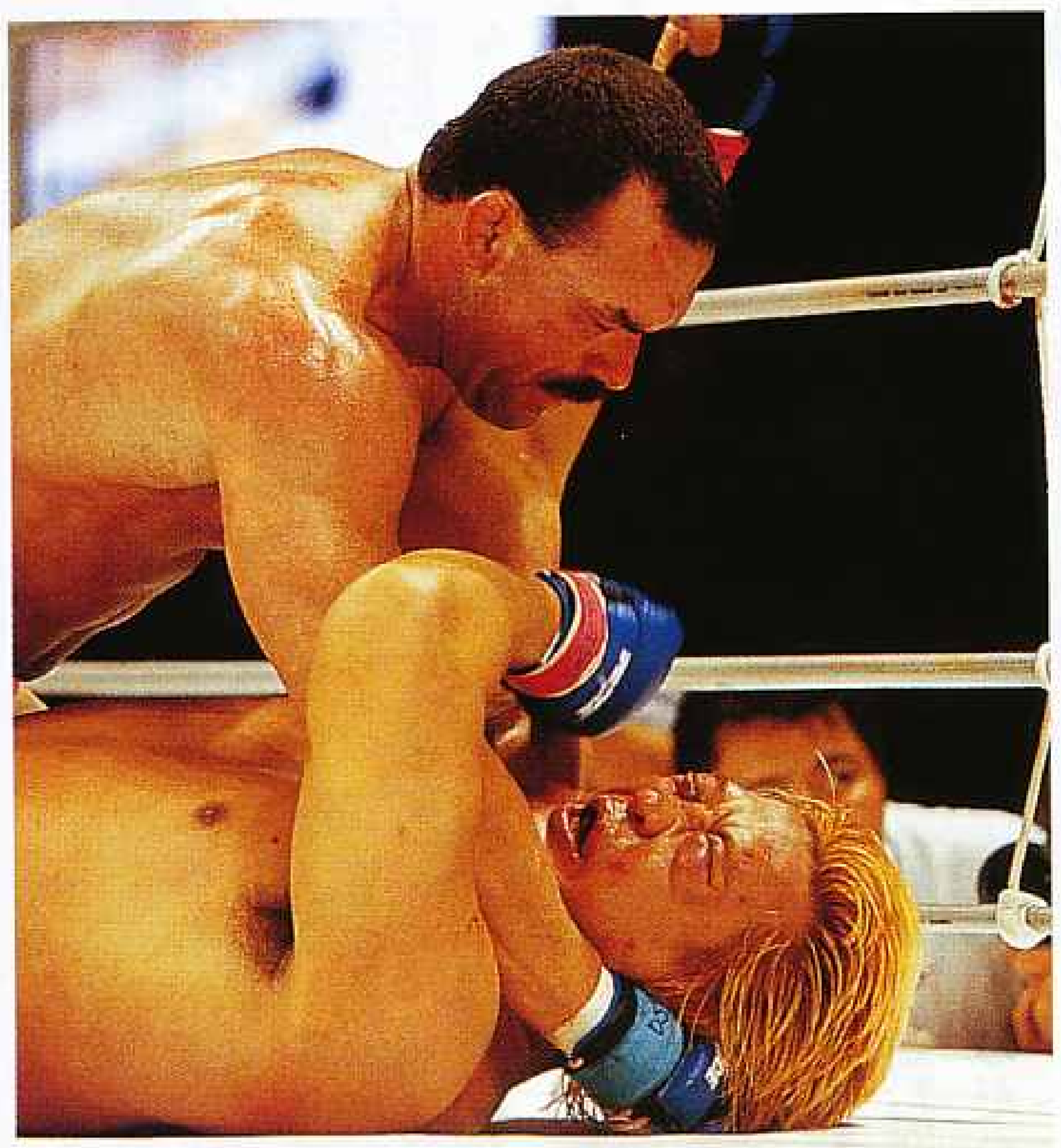
高山　はい。大体、僕らがファンの頃にガンガンやってた人って、去勢されてない人ばっかじゃないですか。「あのオヤジ気に入らないからリングでやってやる」「あいつ気に入らないからやっちまおう」とかいって。だからこそ面白かったじゃないですか。

――確かに（笑）。星野総裁言うところの「ビッシビシいくぞ!!」が、いい具合で横行してましたからね。

高山　ホントそうですよ。星野総裁、いまだに去勢されてないからね。場外で殴ってますからね、選手のこと。だって総裁は若い頃、試合後に控室に殴り込んだりとか、









6・23『PRIDE.21』――選手から関係者、マニア、一般層まで、誰もが高山を「豪傑」と認めたドン・フライとのメガトン級の殴り合い！　見てみィ、この高山の恐ろしいまでの顔とハート！

奴はよく出てきてくれたよなって感じ。面白いですよ、単純に！

そんなことしてたんでしょ？

――前田日明相手にモップ持って殴り込みに行った男ですからね、あんなちっちゃいのに（笑）。

高山　それってすごいですよね。僕は絶対やりたくないですもん。人に見られてるならやるけど。

――ガハハハ！　さすが、プロフェッショナル。

高山　でも、ああいう人が一番怖いと思いますよ。

――そうかもしれないですね。高山さん、プライベートではケンカしたとか、そういう話は聞かないですよね。

高山　ないですね。なんとなくそういうふうになっただけで。でもやっぱり……Uインターの頃なんかは、松井（大二郎）のドタマかち割ったりとかしたから、そう考えるとビッシビシやってたんですかね（笑）。

――そうか（笑）。高山さんのビッグフットで松井君が壁際までフッ飛んだんでしたっけ？

高山　あ、飛んでったのは上山（龍紀）です。だからボブ・サップがフライング・ホーストとかいって飛ばせなかったけど、僕はすでに上山を飛ばしてんですよ（笑）。

――ガハハハ！　豪傑極まりない。

高山　あれはちょっと自分でもビックリしましたね（笑）。

――自分の力に（笑）。力といえばサップですけど、サップはイメージ的には見たまんま？

高山　見たまんま！　客観的に見ると、ホントにああいう奴がよく出てきてくれたよなって感じですね。面白いじゃないですか、単純に！

――実に面白いですね。

高山　で、知り合いのおばちゃんや子供まで知ってて、「ボブ・サップ、ボブ・サップ」って言うんですよ。やっぱね、そういう人はホント必要ですよ。だって和田（良覚）さん家に電話したら、和田さん家のチビが出て、「昨日ボブ・サップ見た？」って、ボブ・サップのことしか言わないんですよ（笑）。

――和田サップ家のチビちゃんまでボブ・サップ！　ボクの親戚の子供も「ホーストってもうボブ・サップには勝てないの？」ってメール送ってきましたね（笑）。それは、もはやK―1というイメージより、昔の〝プロレス〟のイメージをまとってますよね。

高山　そうです、そうです。

――まず大前提としてわかりやすさがあるという。

高山　「アンドレとやったら、そりゃ勝てねぇだろ」っていうふうなね。

――だから、今度高山さんが現代のアンドレとやるタイマン勝負のテーマは、地球規模のわかりやすさ&ド迫力じゃないかと

高山善廣

も思うんですよね。

高山　ハッハッハッハ！　昔のプロレスって「夢の対決」とかいって馬場さんと猪木さんだとか、ハンセンとブロディーとか、いろいろあったじゃないですか。「この人とこの人がやればどうなっただろう?」っていうのが。でも結局、みんなやらなかった。で、いまのプロレスや格闘技の業界って、「やらないことが幸せだったんだよな」みたいに、変な納得の仕方してるじゃないですか。

——変な納得の仕方（笑）。

高山　あれ、絶対変なんですよね。「やらないことが幸せだった」とかじゃなくて、「やってるとこ見たかったよね」って思わせないと嘘であって。いまの時代ってそういう変な諦めというか、納得の仕方をみんながする。それをしたくないっていうのもひとつの理由ですよね。だからボブ・サップみたいな怪物が出てきて、僕も「日本人ではケタ外れ」とかいろいろ言われてますよね。で、ファンが「じゃあどうなるのかね?」なんて想像して、夢が膨らんで、「でもやっぱ、やらなかったね、あいつら」って5年後、10年後に言われるよりは、「よくやったね」っていう方がいいしね。僕はいまだにプロレスで一番インパクトあったのは、ハンセンvsアンドレですから。

——田園コロシアム！（81年）。

高山　はい（笑）。決着つかなかったけど、あれを見れてよかったと思いますよ。テレビでしたけどね。

——激しい工事現場を生で見てるかのような迫力がありましたよね（笑）。

高山　そうそう。僕が子供の頃に住んでたマンションの隣に材木の製材所があって、そこを取り壊すときに、建物を壊すハンマーあるじゃないですか?　あれが来てガンガン壊してたんですよ。それを子供の僕は窓からズッと口をポカーンと開けて見てましたからね。そういうイメージ（笑）。

——壊し合いの迫力がありましたね。

高山　あれですよ（笑）。

——高山さんがサップ戦をやった方がいいと思ったのは、自分のためですか?　それともファンのため?

高山　ファンのためって言っちゃうとカッコよすぎて嫌なんだけど、俺がファンだったら見たい、と。俺がファンだったら、いまの高山とボブ・サップがやるのを見たいって絶対思うはずなんですよ。だから、それをやらないプロレスラーの俺はダメなヤツになっちゃうから（笑）。

——なるほどなぁ。いまの選手って他人には厳しいけど、自分に厳しい人が極力少なくなってきてるような気もするんですよね（笑）。

高山　ねぇ。だから星野総裁が出てきちゃうんだよなぁ。

——ガハハハ！　高山さんは自分に厳しいよなぁ。

高山　厳しいっていうか、楽しんでますよ！　たしかにキツいですけど。

——ハードルをどんどん上げていくもんね、高山さんは。

高山　決してクリアーしてるとは思えないんだけどね（笑）。勝ってないし。だからハードルを飛び越えてクリアーしてるんじゃなくて、なぎ倒して、ごまかしてるから。ハードルを越えていくレースなのに、そのまま走ってるだけですから、僕は（笑）。

——ハードルを飛ばないで、なぎ倒し続けて走ってるっていう感じですよね（笑）。でも、そういう迫力やエネルギーをファンは見たいんじゃないですか?

高山　でも、そうだと思うんですよ。〃プロレス〃ってそういうもんだと思うし。

——じゃあ今度のサップ戦は高山さん的には、概念的に〃プロレス〃なんですか?

高山　〃プロレス〃ですね。僕はなにをやっても〃プロレス〃だと思いますよ。

——実際、高山vsボブ・サップ戦なんて、昔のプロレスのイメージそのものですよ。

高山　ホント、そう思いますけどね。

——いま高山さんは、いわゆる総合格闘技って言われてる試合と、純プロレスと二股かけることに対してしんどさは感じてないですか?

高山　う〜ん……まぁ、ラクではないってことなんでしょうね！

——ガハハハ！　そりゃあ楽じゃないよなぁ。

高山　でも俺がラクしちゃったら、高いお金払って見に来る人は魅力を感じなくなるじゃないですか。どんな仕事だって、『紙プロ』1冊作るんだってしんどいわけじゃないですか。

——しんどいんですよ、意外と（笑）。

高山　でしょ（笑）。どんな仕事でもそうでしょ。焼肉屋のおっさんが店を維持するのだってしんどいと思うし。そうやってみんなしんどいところで、「これだけやってりゃラクだから、こっちにいきます」ってプロレスラーが言っちゃったらヤバいでしょ。

——そこらへんの危機感みたいなものは、高山さん昔から持ってますよねぇ。

高山　どうなんですかね?　他の人も言わないだけで思ってるかもしれないですよ、フッフッと。なんせ、僕は『苦しみの中から立ち上がれ』を読んでるので。

——アントニオ猪木著！（笑）。

高山　あれが僕のバイブルなんで（笑）。

——ちなみにボブ・サップの試合は全部見てますか?

高山　たぶん見て……ますね。一番印象に残ってるのは、やっぱりノゲイラ戦かなぁ?　惜しいなって感じでしたね。

——こりゃあ強いぞ！っていうイメージはあるんですか?

高山　ありましたけど、でもまだ完成されてないんだなって思いましたね。ノゲイラほどのテクの前だと、辛いとこが出てくるんだなって。そういうとこが初めて見えたときじゃないですか、ノゲイラ戦って。

——そうですね。あとはほとんど秒殺するか壊す側ですからね。

高山　ねぇ?　それまでは、強いのはわかってるんだけど、響かないというか、つまんないなって感じだったんですよね。

——こないだのK—1・GP（12・7）でのホースト戦は見ました?

高山　見ました。

——サップを今度やる相手として見た場合、どうですか?

高山　ねぇ?（笑）。でもあれはね、見てるときは単純にイチ視聴者になってましたね。あれを見てるときは、ほぼ（試合をする決意が）固まりつつあったときなんで。

——今回の試合をやるかどうか?

高山　そうそう。で、「ホーストがどういうふうにこれを倒すんだろうか?」とか、そういうのをすごく意識して見たんですけどね。

——あのホーストでも攻略できないっていうのは、気持ち的にナーバスになったりしないですか?

高山　いや、逆にホーストに負けないでよかったと思いましたよ！

——（拍手しながら）素晴らしい！

高山　ホーストに負けちゃった後だったらね、嫌じゃないですか！

——素晴らしいなぁ。ちなみに体重差はど

れくらいあるんでしたっけ？

高山　いま、彼が160キロですか？

——多いときは170キロくらいあるんじゃないんですか。

高山　160キロだとしたら、40キロ差ぐらいですね。40キロ差っていうと、メチャクチャ太ってる頃の僕と桜庭くらいの差なんですよ。僕が80キロちょっとでしたから……なんだ、やれねぇことはねぇんじゃねぇかって。

——髙田延彦ばりに「高山、おまえ男だ！」という言葉をかけたいですね（笑）。

高山　だって、みんな僕と試合やってるじゃないですか。スパーリングとかも。だからそこに関しては決して無茶じゃないんじゃないかなって。もっと無茶なマッチメイクはたくさんあると思うんですけどね。ズッと前だけど、（エマニュエル・）ヤーブローと高瀬（大樹）選手がやったりとか。それ考えりゃあねぇ（笑）。まぁ、田村さんもボブ・サップとやったのは無茶でしょ。

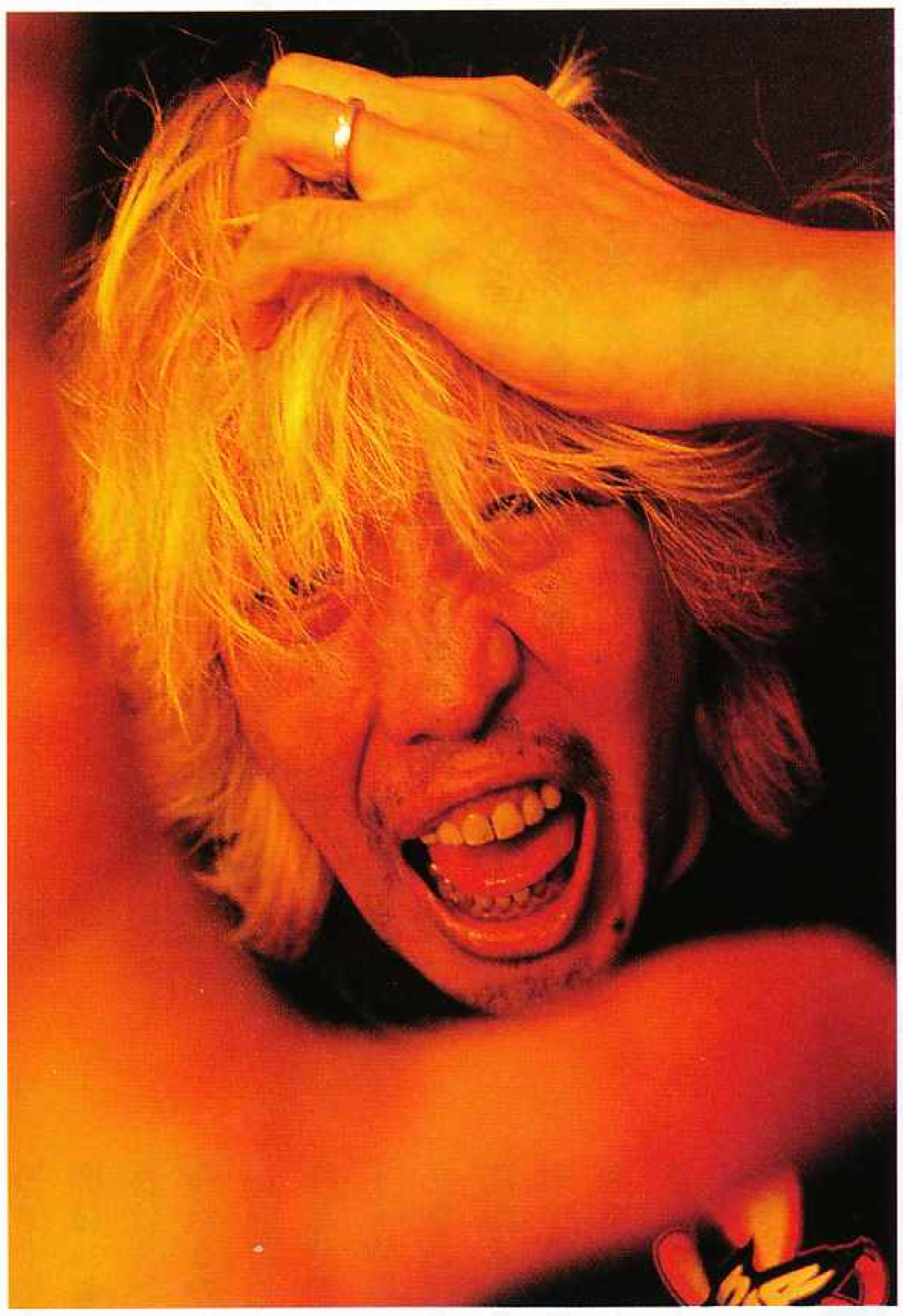
——あれは80何キロ差ありましたね。しかも田村選手は勝つ気でいて、しかも正面から行ったからなぁ。

高山　僕もね、田村さんはやるかなって思ったんですよ。

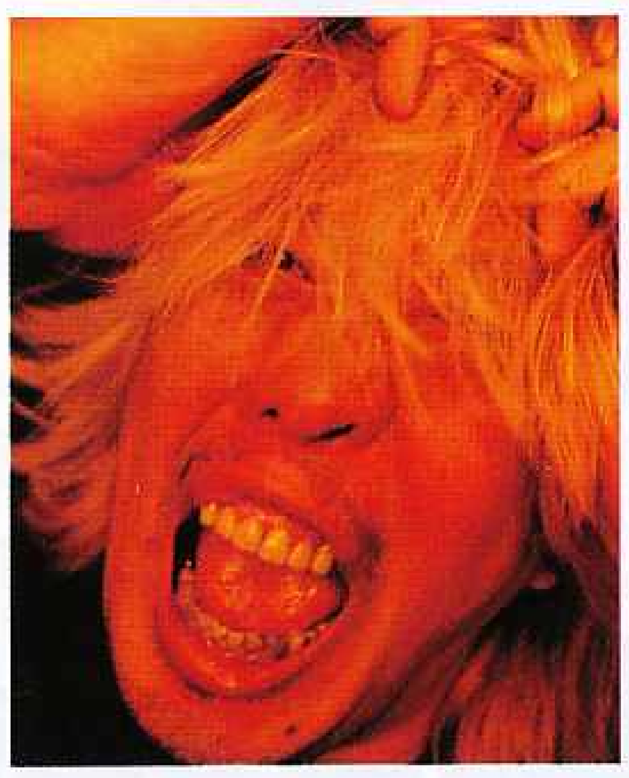
——その田村さんを引き合いにしてみた場合、サップの実力はどれぐらいだと見てるんですか？

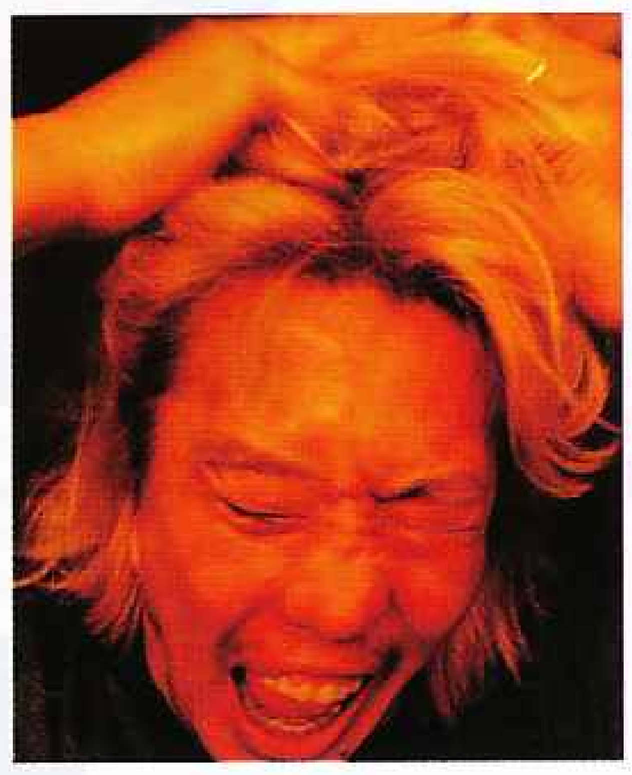
高山　見えないですね。実力っていうのは、「なにを差して実力っていうの？」って感じで。

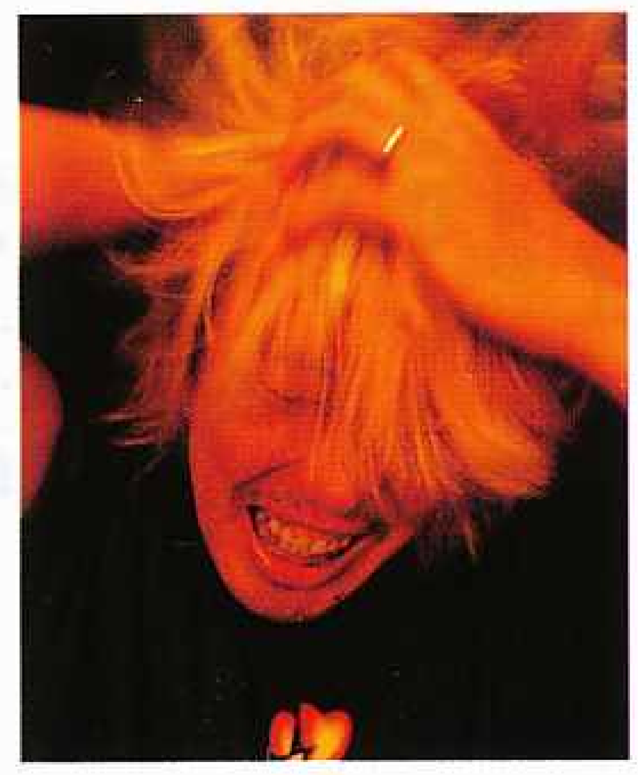
——たしかに「このダンプカーはどれくらい早く走れるのか」とか考えないもんね（笑）。



ホーストに負けちゃった後だったらね、嫌じゃないですか！







高山　ねぇ。ダンプカーの実力っていうのは、何トンの土砂をちゃんと運べるかとか、何年耐久力があるかとか、そういう実力じゃないですか。ダンプカーに対して「これ300キロ出るぜ」とか言わないじゃないですか（笑）。「コーナーすごい切ってさ」とか「グリップよくてさ」なんて言わないじゃないですか（笑）。

——いま、怪我の状態はどうなんですか？

高山　決してよくはないですね。

——いま、肩以外で悪いとこはないんですか？

高山　頭は昔から悪いですけど（笑）。

——ダハハ。満身創痍？

高山　そうでもないですよ。「ここが痛くて寝れません」とか、そういうのはないもんなぁ。

——左肩は万全な状態にはもう戻らないだろうなって不安はないんですか？

高山　いや、戻りますよ。3月ぐらいまで待ってくれれば！（笑）。でも、待ってくんないんだもん、みんな。

——それは時代が待ってくれないんでしょうね。

高山　いま、スピードが速いじゃないですか。で、このスピードの中で消費される……なんでも新製品が出ても、すぐ古くなっていらなくなっちゃうから。ボクらみたいなリングに上がる人間も、それと同じような感じで、どんどん磨り減っていくのかな、とか思っちゃいましたね、最近。

——好むと好まざるにかかわらず、そういう状況と向き合わなきゃならないでしょうからね。

高山　うん。で、そういう時代なのに、「いやいや、まだまだ出ていくべきじゃない」なんてやってたら、携帯で言えば、そんな機種どこにも対応できねぇよっていうふうになっちゃうじゃないですか。

——それどころか、「我慢してれば、俺の機種の時代が来る」って思ってる人もたくさんいますよ（笑）。

高山　だから、そうじゃなくなってるんですよね、いま。

——この機種がもう1回脚光を浴びるときがくるから、この機種のまんまでいようっていう考えなんですよね。でも高山さんのスタイルはいまの時代性には一番合ってると思うけど、しんどいでしょ？（笑）。

高山　しんどいですよ！　だって消費されてるって実感しますもん。だからホント携帯みたいなもんですよ。「高山、そろそろ電池切れたんじゃない？」って（笑）。「じゃあ次は誰がいるんだい？」とか言ってね。

——でも、そこで消費されてる実感を持てるということがすごいと思いますね。絶対そこは見ないようにするじゃないですか。「俺は消費されてなんかないぞ」と思うところまではいいんだけど、見て見ぬフリをするか、閉じこもるか。

高山　それはダメですね。でも大量消費社会でも、なんかその時代に秀でたり目立ったりすると、その時代のシンボルとして生き残るんですよね。たとえば車で言うと、50年代とか60年代のアメリカも大量消費社会じゃないですか。でも、あの頃一番輝いてた車って、いまでもマニアが大事に取っとくんですよね。その他大勢の車は忘れ去られてるけど。だから、いま日本は大量消費社会だけど、頑張って光っとけば、30年ぐらい経っても〝高山〟って覚えてもらえてるかな、と。

――それ正解だよなぁ。

高山　そうしないと、その他大勢で終わりますから。こんな痛い思いして、その他大勢で終わりたくない！　ハッハッハッハ！

――たぶんファンは高山さんが痛い思いをしてるってことすらも実感湧かないでしょうけどね（笑）。

高山　ダハハハ！

――翌日になったら治ってるだろうぐらいに思ってますよ（笑）。でも、ファンってそういうもんですよね。

高山　それはもうしょうがないことですよね。それでいいんですよね。変にマニアの人たちみたいに細かく心配されると気持ち悪いですからね。いまインターネットであぁだこうだって書き込みがすごいじゃないですか。「こんなことじゃ将来どうのこうの」とか細かい心配されると、「お前に将来を心配されてる俺はどうなるんだ？」とか思って（笑）。

――「お前がお前の将来を心配しろ」って感じですよね（笑）。

高山　だから、セコセコと生きていくのは嫌ですよね。せっかくこんな仕事してるのに（笑）。

――高山さんはこの業界に入ったときからそういう考え方なんですか？

高山　僕が入ったときは、1試合でもできればいいなって思ってましたよ（笑）。

――ガハハハ！　えらい違いだなぁ。その1試合がいまや年間何試合やってんだって話ですけど（笑）。

高山　まぁ、その都度その都度違うもんですから。同じ志でいくなんて無理ですよ。

――人間って変化していくのが当たり前ですからね。

高山　変化しない美しさもありますけど、みんながみんな変化しないってわけじゃ絶対ないですからね。

――変化すべきところは変化していきながら、変化しちゃいけない芯を見つければいい話ですからね。

高山　僕はホントに変化しちゃいけないものっていったら、自分がファンだった頃の気持ちは変化させてないんで。それだけは残ってますけどね。話は変わるけど、ファンということで言えば最近一番ムカつくのは、携帯付きカメラを構えて、いきなりなにも言わずに撮ろうとするヤツ！

――ガハハハ！　撮りますか――ッ!!

高山　「いいッスか？」とか言って、「嫌だ」って言ってんのに撮ろうとするから。こないだガーッて取り上げましたよ。でも、あれってまだ感度よくないから、こっちが動くと撮れないじゃないですか。だからこうやって動き回って（笑）。「握手してください」とか言いながら、3人目のヤツがカメラ付き携帯を構えてたから、ガーッて取って、「テメェ、へし折るぞ、コラ！」って言っちゃいましたけどね。嫌ですね、あれは。一応、断ってくる人には丁寧に「そういうのは嫌なんだ。俺を撮るんだったら10万円ぐらいのカメラ用意しろよ」って言うんですけど（笑）。



上の写真は、「プロレス大賞」ベストバウト賞を獲得した永田裕志戦（02・5・2）でのゴング前の不敵な面構え。下の写真は髙田引退試合でのワンシーン。まさに02年は高山の周辺が大きく動いた。



――ガハハハ！　携帯のカメラじゃ俺は写せない、と（笑）。

高山　「それか、そこらへんで『写るんです』でも買ってきなよ」とか言うと、「いや～」とか言って、買って来ないの。な～んだ、そんなもんかと思って。

――ガハハハ！　買ってまでは撮りたくない、と（笑）。

高山　じゃあこっちだって嫌だよって思うじゃないですか。

――知り合いの姉貴が、昔、タイガー・ジェット・シンの大ファンだったんですって。で、電車の中で偶然、シンに会ったらしいんですよ。

高山　偶然、シンに電車の中で会うのもすごいですね（笑）。

――で、色紙もノートもなんにもないから、どこにサインしてもらおうかって思って、思いきって新品のバッグを差し出して、「このバッグにしてください」ってマジックを渡したらしいんですよ。そうしたら、シンがちょうど日本語覚えたてで、幼稚園児が書くようなカタカナで「シ・ン」って書いたらしいんですよ（笑）。

高山　ハッハッハッハ！

――シンのサインなんだけど、どう見てもタイガー・ジェット・シンのサインじゃないんですよ（笑）。だから高山さんもそうした方がいいですよ。「こいつ憎たらしいな」と思ったら、メチャメチャ幼稚な字で「タカヤマ」って書くとか、ヘブライ語覚えるとか（笑）。

高山　それ、もらいました！　色紙以外は平仮名で書きますよ。子供のイタズラ書きみたいに。

――ぜひそうしてください（笑）。ちなみに先日、横浜文化体育館で行われた鈴木みのるvs獣神サンダーライガー戦、これは高山さん、いちファンとしても見てたと思うんですけど、あの試合はどうでした？

高山　試合までの持っていき方のムードはよかったですね。試合はもうちょっと……（笑）。

――もうちょっと（笑）。

高山　っていうのは正直思いましたけど。試合前の煽りとか、集まったお客さんの興奮の仕方はよかったから、いい興行だなって思いましたけどね。

――それとこれは肝心の、髙田vs田村戦なんですけど。

高山　あれはもう僕にとってはプライベートな感覚でしかないんで、ちょっと違いますよね。でも、ああいうふうにドーム一杯のお客さんが「髙田さん、お疲れさん」みたいなムードでできたから、よかったなって。それしかないですね。

〝見せもん〟をやる人間は、かなりのプライドを持たなきゃダメ

高山善廣

——鈴木みのるvsライガー戦にしても、高田vs田村戦にしても、純粋なバーリ・トゥードとは違いますよね。

高山　なんか違いますよね。

——だから、バーリ・トゥードでもなく、単なるガチンコでもなく、やっぱテーマあるタイマンっていうイメージなのかなぁ。そういう試合が行われるのは、高山さんにとってはいい方向ですか？

高山　いい方向ですね。だから僕が言う「サップ戦もプロレス」っていうのは、そういうとこに引っ掛かると思うんですよね。

——高山vsボブ・サップ戦を純総合格闘技だと思って見てるファンはいないでしょうからね（笑）。

高山　見せもんですよ、見せもん！　なんでもそうじゃないですか。どっかの箱借りて、お客さんから入場料取るのは、なんでも見せもんですからね、なにしようが。それでお客さんが「面白い」って言って帰りゃ、それで成功ですから。見せもんなんだけど、見せもんをやる人間はかなりのプライドを持たなきゃダメですよね。「見せもんだから」なんて変に自分たちを下げる人とかいるじゃないですか。それがダメなんですよね。

——それがプロレスを下げた一因でもありますからね。

高山　かもしれないですね。

——やってる方が「しょせん見せもんだから」っていう感覚に溺れきっちゃって、どんどんジャンルの価値を下げちゃうみたいなことはありますよね。

高山　それはそれだけ努力してなかった証拠ですよ。自分が努力してこなかったところのシワ寄せをそういうところで片づけちゃって、ごまかしてるって感じですよね。

——高山さんはドームにいて、「Uインターの頃はよかったなぁ」とか思いました？

高山　それはまた違うんですよね。

——あ、それは興味深いなぁ。じゃあ、Uインターに対しては、〝あのときのもの〟っていう感覚なんですか？

高山　はい。僕にとってもそうですね。だから……なんだろう？　たしかに昔の仲間がみんなあそこで活躍して、僕は怪我で試合はやらなかったけど、僕も『PRIDE』の一番注目されるところで闘える男になったっていう、そういう喜びはたしかにあるんですよ。かといって、あのドームのときに「Uインターは最高だった」とかはあんまり思わなかったんですよね。

——懐かしさみたいなものも特にない？

高山　僕は、ドームの最後でみんなが集まったシーンは、イベントとしては素敵なシーンだと思うけど、自分の中では「別に……」っていうシーンなんですよね。決して悪い意味じゃないですけどね。

——いい意味で〝あのときのもの〟って思えば、どんどん前に進めますからね。1〜2年に1回の同窓会興行とかはいいと思うけど、あのときと同じことをもう一度繰り返せっていうのは、その当時がどんなによくても、絶対にできないですよね（笑）。

高山　ねぇ。やる必要もないと思うんですよね。僕はそういう意味では、Uインターとかそういうのは、自分がなりたかったレスラーになれた、大事な学校って言っちゃおかしいけど、訓練の場ではあったんじゃないかな、と。学び舎かな？　経営はアバウトでしたけど、道場の姿勢はアバウトじゃなかったですからね。道場とか、選手の関係とか、キッチリしてましたけどね。それが他の会社と違うとこで。他は道場の形態はどうか知らないけど、会社形態はシッカリしてる（笑）。

——Uインターっていうのは、いま考えると、なんだか〝美しき若気の至り〟の集まりですよね（笑）。

高山　ハッハッハッハ！

——新日本に喧嘩売る、グレイシーに挑戦状を出す、1億円トーナメントをブチ上げるみたいに、みんな〝美しき若気の至り〟で突っ走ってたもんなぁ。

高山　そうですね。だからよく言えば、自分がファンで夢見た頃のことをそのままやろうとしてたじゃないですか、宮戸さんたちが。で、いまでも僕は、1人になってるけどそれをやり続けてるわけであって。じゃなきゃ、やっぱり面白くないですよ。

——この業界では〝オトナ〟っていうイメージの高山さんも、やっぱり〝若気の至り〟の遺伝子は持ってますよね。ロック好きっていうのがどれだけ関係してるかわかんないけど、〝永遠の若気の至り〟みたいなものを（笑）。

高山　そうですね。このままずっと続くんだろうかって、たまに不安になりますけどね。いったいいつまで青春してりゃいいんだって（笑）。

——たぶんジジィになってもやってますよ、きっと（笑）。

高山　やってますかね、内田裕也さんみたいに。50〜60歳になっても「ロッケンロール！」って（笑）。

——リングには上がらなくなっても、高山さんの場合はなんかやりそうですよ（笑）。

高山　別のなんかでね。身体が動かない分、口がもっと動いたりね（笑）。

——そういえば、高山さん的には吉田vsフライ戦はどうでした？

高山　いろんな意味で面白かったです。吉田選手の強さもそうですけど、ソツのなさというか。すごいじゃないですか、あれだけ言っといて、まったく違うことやるんですよ（笑）。

——「プロの奥義を教えてもらいたいから殴り合う」とか言ってましたね（笑）。

高山　「パンチを教わりたい」とか散々言ってて。そしたらドン・フライはドン・フライで「第三次世界大戦だ」とか言い出して、うまく乗せられて（笑）。やっぱオリンピックで金メダルを取るっていうのは、ホントに情報戦争とかそういうものに勝ち抜くにも、ホントにソツのなさが要求されるんでしょうね。

——「風邪をひいた。高熱が出た」とも言ってましたね。情報戦がエンターテイメントじゃないですからね、彼らは。試合の駆け引きですから。

高山　そうなんですよね。あのひと言がすでに武器なんですね。

——ホント、小川（直也）さんも「アマチュアの世界の方がプロより全然汚い」って言ってましたけどね。

高山　それはすごい感じで面白いなって。

しかも道着で絞めるっていうね。あれ、解説席で（サダハルンバ）谷川さんに「あれ反則じゃないんですか？」って聞いちゃって（笑）。放送中に言ってやろうかと思ったんですけどね、生放送で。でも、入っちゃうとよくないかなと思ってタイミング見計らって聞きましたよ。

――反則ではないんですよね。

高山　あれ、道着の人は、伝統的な着衣だからそれは許されるとか、わけわかんないルールがあるらしいですね。道着を着るのはいいと思うんですよ。キャラクターが立つから。だからって道着で首絞めていいのか！って（笑）。「じゃあ僕のスパッツの紐を緩めて、ギュッて絞めていいのか」って、コラムを連載してる『デイリースポーツ』に書いてやりましたよ。「じゃあ俺は今度『PRIDE』に上がるときは、ザ・シークのように絞めてやる。どうだ、島田裕二！」って（笑）。

――ダハハ。島田裕二がレフェリーのときには、まずレフェリーを血ダルマにしてほしいですね（笑）。

高山　それ『PRIDE』でやったらすごいですよねぇ。でも罰金取られるからなぁ。反則は罰金なんですよ。反則何個かで、1回につきギャラの何パーセント取られるってあるんですよ。じゃなかったら絶対反則しますもん、外人なんか特に。だから、そういう規則は大事だとは思いますけど、いつか紐でレフェリーの首絞めてやる（笑）。

――で、高山さんは、来年はどういう方向性を進もうと思ってるわけですか？

高山　いや、方向性を決めてもね、世間の流れにブチ壊されてしまうので（笑）。荒波がきたらうまくサーフするぐらいしか考えてないですね。

――闘いたい相手とかは？

高山　ホントにそういうのはなくて、無理矢理言えば、今年いろんなとこでやって、負け試合も多数あったんで、そういう人から取り返したいな、ぐらいはありますけどね。蝶野、三沢には負けてるし。あと永田にも負けてるし。取り返せればいいかなぁって。

――漠然としてるなぁ（笑）。

高山　漠然としか考えないようにしてるんですよ（笑）。



ちょっと上を見ながら歩いてるんですよ。坂本九じゃないけど（笑）。

――でも、もしかしたら、いまはファンも「いま見たいカードなに？」って聞いたら、明確にはないかもしれないですね。

高山　うん、そんなにはないと思いますね。自分で言うのもなんだけど、高山vsボブ・サップ戦が出たら、あとあんまりないんじゃないですか？

――高山vsサップ戦は大げさじゃなく、日本国中が見るようなもんですからね。

高山　ねぇ。来年、ネタがもうなにもなくなっちゃう（笑）。

――いまは飽和状態すぎて、「君、誰対誰が見たいの？」ってファンに聞いても、せいぜいマニアが「ボブ・サップvsマット・ガファリ戦」とか言うぐらいだと思うんですよ（笑）。

高山　ハッハッハ！　なるほどね。

――そういうマニアのニーズには合わせられないですからね（笑）。

高山　そこまでマニアックすぎるとね（笑）。「君らが珍味を食べたいのはわかったから」って（笑）。

高山　いま、プロレスだけに限って言えば、今度ノアで（1・10武道館）、蝶野さんと三沢さんが組むじゃないですか。「それホントにみんな見てぇのかな？」とか思っちゃうんですけど。

――いやぁ、どうなんでしょう。地熱みたいな渦は感じないですよね、正直な話。「とりあえず見ておかなくちゃ」という人は、たくさんいるかもしれないですね。

高山　なんか、「オォ～ッ！」って言わなくちゃいけないんじゃないか？っていうムリヤリ感みたいなものを、なんかそれに近いようなものを感じちゃうんですよね、僕は。それだったら三沢&川田組の方が見たいですよね（笑）。

――三沢&川田組は見たいなぁ。

高山　途中でケンカしそうで（笑）。

――ガハハハ！　でも、サップ戦の4日後に新日本でNWFトーナメントの決勝があるんですよね？

高山　はい。元NWF王者が「高山、やれ！」って言うんだから逆らえませんよね（笑）。

――この連戦はキツいんじゃないですか？

高山　連戦とは考えないです。

――どう考えるんですか（笑）。

高山善廣

高山　今年と来年では違う！　と考えるしかない（笑）。

——ダハハハ。しかも1・4ドームではTK（高阪剛）が相手ですからね。これはこれでまた別の部分でのしんどさはあるでしょうし。

高山　しんどいですね。TKとはUFCじゃなくてよかったと思いますけど。

——ガハハハ！　でもプロレスの試合って考えると、逆にTKが相手だからしんどくはない？

高山　いや、それは僕はしんどくないですよ。彼はかなりしんどくなると思いますよ、僕が元気だったら。あのリングでいろんなことが起こることを、彼は想像してないと思うんですよ。

——なるほど。

高山　まぁ、旧リングスルールぐらいの試合を想定して考えちゃってると思いますね。僕は必要とあらば、観客席まで乗り込んで乱闘しますからね！

——ノーフィアー！（笑）。ところで高山さん、これからプロレスって認知度は広がると思います？

高山　思わないです（キッパリ）。うん、ホント思わないですね。そうなったらホントは嫌なんですけど、でも変なのがウジウジ生きてるんだったら、1回消滅してくれた方がいいのかなって思っちゃうときもある！（キッパリ）。昔のままの形で昔みたいな隆盛っていうのは、もうあり得ないでしょうね。

——だからこそ、新しい土壌をつくるしかないですよね。

高山　そうそう。さっき山口さんが「Uインターをもう一度はやれない」って言ったことと同じことになっちゃうから。いま面白いことをつくるしかないですよね。

——たしかに。高山さんがサップ戦を〝プロレス〟だって言って、ボクらはピンと来るし、『猪木祭り』も『Dynamite！』も『PRIDE』も〝プロレス〟だっていう認識に立てるけど、世間一般的にはプロレスとは呼ばれないですからね。

高山　呼ばれないですね。でも僕の中ではプロレスラー・高山がやる活動の一環なんで。やっぱ〝プロレス〟でしかないですね。みんなの思うプロレスとは違うんでしょうけど。

——高山さんは『W—1』には興味あるんですか？

高山　舞台はすごくいい舞台だと思うんですよね。だけど、この前上がった人は選び抜かれた人ではないので、その部分は辛いでしょうね。

——あれを選び抜かれた人でやれば面白いでしょうね。

高山　ね？　それは思います。

——高山さんは出る気はないんですか？　高山vsホーガン戦とか噂に出ましたけど。

高山　ハッハッハッハ！　それだったらやっても面白そうですよね。そういう「オォー！」ってなるのはやりたいですよね。

——ああいう舞台に出ること自体は、別に抵抗はないと？

高山　抵抗はないですね。ただ、僕が出るからには、僕の意見をバリバリ言いますけどね。言われるままではやらない、と。でも「そうじゃなきゃ絶対ダメ」とかじゃなくて、ちゃんと話し合ってやりますね。

——その話し合いがなかなかできないんじゃないですかね、この業界は（笑）。両者とも「こうじゃなきゃダメ」って頭が固まっちゃってる場合が多いから。擦り合わせて面白いものにしていくっていう考え方の土壌がないんですよ、まだ。

高山　世の中ってみんなそうやってるじゃないですか、普通の社会人は（笑）。でもね、WWEが成り立つっていうのは、もうあそこしかないし、それだけのものを上から払われるから、じゃあ「イエス」になるんで。それでみんなが面白がることをちゃんとできるわけじゃないですか。中途半端なものを頭ごなしに「やれ」って言われたら「嫌だな」って思うし。でも、『W—1』に行くことには抵抗ないですよ。いやぁ、そういえば最近WWEにハマッてねぇ（笑）。

——遅いですね！（笑）。

高山　遅いんですよ（笑）。面白いなぁと思って。試合より、あのサイドストーリーが。アイドルみたいなお姉ちゃんのお父さんが、魔女キャラみたいな子に悩殺されちゃって（笑）。すげぇ面白いなと思って。

——WWEは心理劇を噛み砕いてやってる部分もありますからね。

高山　楽しませるものとしては面白い。僕はプロレスというか、また別の次元で見てますけどね。だから、日本でやることなくなったら、引退して行きたいですね。

——引退して（笑）。

高山　シリアスなリングからは引退して。

——シリアスなものをやりながら、あれをやってたらすごいでしょうけどね（笑）。

高山　それはちょっと難しいですね。

——さすがに（笑）。

高山　せっかくシリアスなことやっても、同じように思われちゃうとすごい損じゃないですか。

——まぁ、でも来年も高山さんの仕事は多いなぁ、そう考えると。

高山　さらに増えますかね。去年はノア、新日本、『PRIDE』だから3倍でしょ。来年もし『W—1』が入れば4倍になるじゃないですか……完璧に消費されてますね（笑）。

——ノーフィアーですよ（笑）。

高山　でも消費されるんならば、なるべく高く売りつけて、目立つ棚に置かれて、高山善廣っていう商品が時代から外れたときにでも、幻の名車として残るような、そういうふうになりたいですね。それしかないですよね、こんだけ流れが早かったら。

——逆に「消費されないようにした方がいいよ」って考えで凝り固まっちゃうのも、それはそれで難しい部分もあるし。

高山　そうですよね。消費されなかったら、俺らは箱から出されなかったら使われないじゃないですか。

——箱から出されたときに、どんな光りを放てるかが高山善廣の闘いなんですね。そういう気持ちを持てるっていうのはすごいなぁ。

高山　ただ、ちょっと上を見ながら歩いてるんですよ。坂本九じゃないですけど（笑）。

——坂本繋がりで言うと、坂本龍馬じゃないけど、死ぬんだったら前のめりに死にたいっていう感じが見えますよね、高山さんは。

高山　そういう気持ちはね、やっぱありますけどね。

——でも、大みそか、ボブ・サップ戦が終わった後はどうなってると想像しますか？

高山　たぶん病院に行くでしょ（笑）。ハッハッハッハ！

——いや、ぜひとも一発カマしてください！

【02年12月12日／東京・高円寺「東京飯店」にて収録】

11|21 『猪木祭り2002』開催正式決定!「オレがサップとやるか? ダーハッハッハ」(猪木)



開催、正式決定ーッ!! 発表記者会見で、アントン総帥は「今回は、TBSが金がねえということで。ンムフフフ」と、余計な内幕をバラして報道陣の笑いを誘ったあと「藤田は出ます。ミルコ・クロコップとやらせたい」と、昨年の『猪木祭り』直前に、悪夢のアキレス腱断裂に見舞われ不出場となった藤田和之の出場を断言。また、昨年の同大会でジェロム・レ・バンナに激勝し、一躍中年の星になった安田の出場も示唆。「長州にも声を掛けてみるか? あっちは嫌がるかもしれねえけどな。ダーハッハッ!」と余裕の高笑い。どうなる『猪木祭り』!?

10|30 アントン『猪木祭り』開催宣言!「アテネへの第一歩」



『猪木祭り』今年も決行! 大晦日まで2ヶ月に迫ったこの日、成田空港で毎度お馴染み猪木会見が行われ、『猪木祭り』第3回大会の開催をアントン総帥自ら明言した。「暮れはやります! テレビがやるかやらないか。やらないならそれでいいし、やらなくてもこちらでやります。選手は一声掛ければすぐ集まる」。ボブ・サップについても「出す方向でいます」と、交渉を行っていることを明かした。「(コンセプトは)いつも言っているとおり、アテネ(五輪)への第一歩を踏み出すようなもの。暮れから猪木旋風が起こる」と、今後の大波乱を予言するような一言も忘れなかった。

…っぱり大波乱



11|24 噂の"アントン二世"マチダリョウト現る! そして新日本・柴田も参戦直訴



髙田延彦引退試合が行われた『PRIDE.23』のリングで「柔道、そしてスモウのチャンピオン」と紹介されたマチダ・リョウトは「元気デスカーッ!!」と堂々と挨拶。ドーム中が「誰だろう?」と思う中、笑顔で去っていった。そして、新日本プロレスの若手精鋭選手・柴田勝頼が『猪木祭り』に出場立候補! 柴田は「これが新日本というものを見せつけたい!」と、興奮気味にアピール。対戦相手は「自分では佐竹選手が一番対戦可能じゃないかと思う」と、ドでかくブチ上げたが、後日、アントン総帥が「目が飛んでるんでね」と柴田を評したことからすると、ちっとも対戦可能じゃなかったようだ。

12|01 藤田極秘帰国「ミルコ戦以外なら欠場だ」



肉体改造を行っていた藤田和之、ロス道場から極秘帰国! 藤田は、『猪木祭り』出場について「出るならテーマはひとつ。ミルコ戦以外なら出ない! ミルコとできないのなら、家で紅白歌合戦を見る」と断言した。ミルコを成り上がらせたことに対する落とし前を取る、「勝算を10で表すなら、オレは1000ある!」と宣言。「去年は漠然としていたし、最近は負けが込んでいるし、そろそろ一発勝負の時。ひとつケジメをつけて、あとは好きにさせてもらいます!」。今ではすっかり"野獣"の称号も、ボブ・サップに取られてしまった感のある藤田。ミルコに勝って、その称号を取り戻せるか!?

11|28 アントン「高山vsサップ」を勝手にぶち上げる!

アントン、大フライング!! 会見冒頭から「オレも刺されないように気を付けなきゃなぁ、ンムフフフ!」と、笑い事ではない棚橋弘至ネタを披露したアントン総帥。「冗談はさておき」発表された出場選手は、猪木軍の藤田和之、安田忠夫、K-1軍からジェロム・レ・バンナ、ボブ・サップ。サップの対戦相手について「サップには、私が高く評価している、高山(善廣)なんかぶつけてみたい」と、いきなりサップvs高山戦をブチあげた。いきなりのカード発表に、高山サイドは「寝耳に水」と仰天。サップは「タカヤマは、噛むのは大変かもしれないが、飲み込むのは簡単だ」と大いに乗り気。新聞各紙は当然これを報道、残るは本人のOKだけとなってしまった。



12月16日現在、決定カードはわずかに2つ!

今年もやっ

『猪木祭2002』

一寸先はハプニングロード!!

一寸先はハプニング! 業界関係者を「今年も暮れまで仕事か……」と、肩を落とさせた『猪木祭り』第3回大会。日々関連する事件は起きるものの、カードの決まらない『猪木祭り』。それでもみんなが楽しみにしている『猪木祭り』。その流れを追ってみよう!

構成/ささきい designed by matsu (Two three)

12|03 安田、アントン&星野総裁の説得で「イエッサー!」



「大みそかは、こたつでミカン」と『猪木祭り』出場を断固拒否していた安田忠夫が、出陣を決意! 理由は「ボス（アントン）と総裁に直々に頼まれたら“イエッサー”以外の言葉は出せないヨ」と、昨年以降、再び増えた借金のためではないことを強調した。

12|04 アントン、今度は藤田vsミルコを勝手に正式発表



アントン、またも勝手に爆弾投下! 米国に旅立つアントン総帥は「昨日、ミルコ側から返事をもらって決めた」と、席に着くなりカードの決定を記者陣に報告!! 小川直也、吉田秀彦らにも「チャンスに貪欲になれ」と出場を呼びかけた。

12|07 K-1空前の大成功! 石井館長「サップvs健介」を提案



東京ドームはチケット完売、テレビ視聴率も、K-1史上最高の28.4％をマークと、格闘技史に残る大成功を納めた『K-1GP決勝戦』。だが、選手は皆満身創痍、アントンが勝手にブチあげた高山vsサップ戦も宙に浮いている……。そこで、石井館長が仰天の提案!! 「佐々木健介選手なんか総合に向いているでしょう」。意外な発言ではあったが、高山以外でサップに負けないキャラクターを持ったレスラーの持ち主は、健介くらいしかいない。健介のバーリ・トゥード用ラリアットが、サップに炸裂するか!?

12|09 サップ負傷、バンナ緊急帰国! どうなる『猪木祭り』!!



「K-1」を主催する興行会社「ケイ・ワン」が法人税を脱税したとして、東京地検特捜部が法人税法違反の疑いで、ケイ・ワン社長で空手道場「正道会館」館長の石井和義格闘プロデューサーらから、任意で事情聴取を進めていることが共同通信からの配信で判明した。昨年『猪木祭り』で敗北した、安田忠夫へのリベンジマッチを期待されていたジェロム・レ・バンナは、ホーストとの決勝戦で左腕を骨折。8日、母国フランスへ緊急帰国。他のK-1戦士も満身創痍の状態だ。どうなる、猪木祭り!?

12|11 高山vsサップ、藤田vsミルコ 2大カード正式決定!



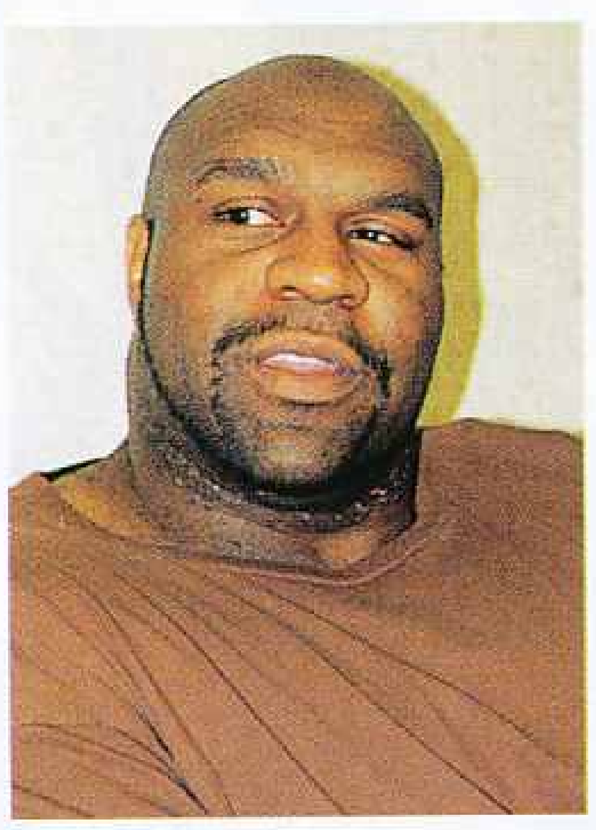
アントンの勝手な発表が現実に!! この日は大会20日前にしてやっと初のカード正式発表。ひとつは、アントン総帥がすでに発表済みの、藤田和之vsミルコ・クロコップ戦! もうひとつは……これまたアントン総帥が、本人の意思をよそに勝手にブチあげた高山善廣VSボブ・サップ戦が正式決定!! 藤田は「ミルコをひきずりおろすつもりでいる。完全決着で、血が出ようが何しようが、どっちかがブッ倒れるまでやりたい」と執念を燃やした。高山は「どんなに歌を練習しても、紅白には出れそうにないので、こっちに出ることにしました。サップという除夜の鐘を、いい音で鳴らせたらなと思います」と、ビースト相手にも“ノーフィアー節”は変わらずだった。

12|13 K-1大揺れ! 石井館長解任 谷川新プロデューサー誕生か!?



「K-1解散」の大きな文字がスポーツ報知の一面を飾った、13日の金曜日。石井格闘プロデューサーの脱税疑惑で、前日の12日、東京地検特捜部が「ケイ・ワン」などを家宅捜索。報道によると、この事件で、石井館長の引責辞任と、興行を主催するケイ・ワンの解散が関係者によって明言され、新しいK-1プロデューサーにサダハルンバ谷川氏（写真）が就任する見通しだという。現在、今後の人事については何も決まっていない、と広報氏がコメント。K-1プロデューサー・サダハルンバ誕生か!? んあ〜。

12|14 サップ早くも再来日「タカヤマを食わせろ」

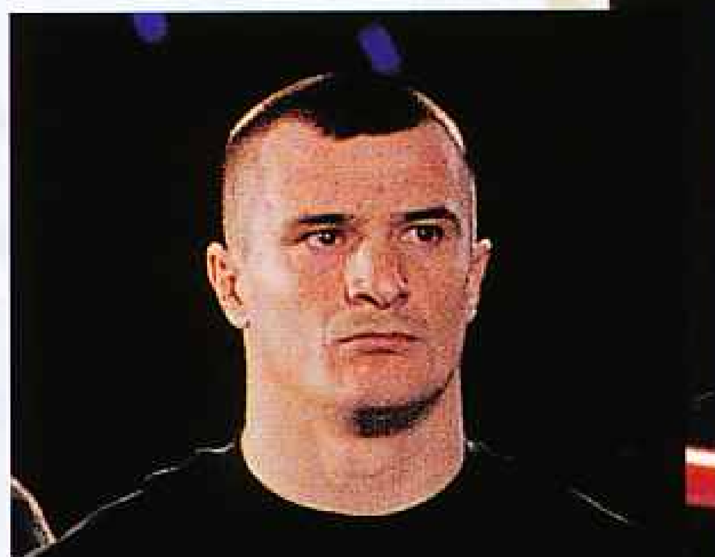


驚異!! ビーストは、骨折を疑われるほどの「強い打撲」を、わずか10日で「ほぼ完治」まで回復させていた!! 11日に一時帰国、シアトルの自宅滞在はわずか1日という、超ハードスケジュールで再び来日のサップは「サップ様が腹をすかせて帰ってきたぞ。早く高山を食わせろ。フハハハハハ」と、報道陣の期待通りに高笑い。翌日は「アッコにおまかせ」にまで登場、和田アキ子にキスを見舞うという勇気ある行為を行っていた。ゴッド姉ちゃんも恐れず大活躍のビーストが、高山を待ち受ける!!

もう〜いくつ寝ると12・31『猪木祭り』です!!

この号が出る頃にはいろいろ決定してると思いますが、16日時点ではこんな状況です!!

悪夢の一撃から1年4ヶ月——。大晦日の大復讐劇!!







ミルコ・クロコップvs藤田和之

「猪木軍vsK-1」対抗戦の幕開けとなった昨年の8・19K-1さいたまアリーナ。ミルコとの大将戦に挑んだ藤田は、自信満々でタックルにいったところをミルコのヒザ蹴りがカウンターで直撃! その一撃で藤田の額はパックリと口を開き、おびただしい血がマットに垂れ流れる! 傷口を診たドクターは、わずか開始39秒で試合の終了を宣告。バーリ・トゥードで快進撃を続けていた藤田は、まさかの敗北となった。ミルコはこの一戦を皮切りに強豪相手に無敗ロードを爆進中! トップファイターの座に君臨している。ミルコ大躍進のきっかけをつくってしまった藤田は「『猪木祭り』ではミルコ以外とはやらない」と、落とし前をつけるべく今回の対戦を直訴。大晦日の大復讐劇 どんな結末を呼ぶのか!?

K-1から大巨人登場! レコ、ベルナルドも参戦か!?

ヤン・"ザ・ジャイアント"・ノルキヤvs安田忠夫

感動の安田人生劇場が、今年も大晦日を揺るがせる!! 昨年の『猪木祭り』でバンナを破り、一躍お茶の間のヒーローとなった安田忠夫（魔界倶楽部）がK-1巨人戦士ノルキヤと、待ったなしの超ヘビー級のぶつかり合い! K-1からはゴールデン・グローリーで総合の練習に励むステファン・レコなどの参戦が有力視されている



柔道王・吉田秀彦も参戦!?

吉田秀彦、大晦日決戦に見参なるか!? 世間の注目度も高い柔道金メダリストが参戦となれば、打倒・紅白を掲げる『猪木祭り』には強力な柱となる。K-1のピーター・アーツ、安田忠夫との対戦が噂に上がっていたが……

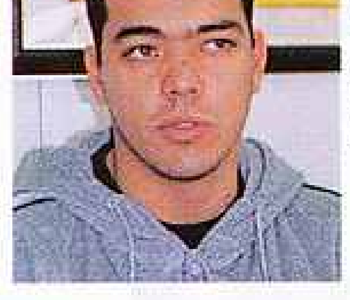
みんなが見てぇカードはまだ未定!! な〜んつってな、ンムフフフ! まぁ、LA道場にも「出たい!」と言ってる奴はいっぱいいますから!



参戦しなくても会場には姿を現すことは必至の「狂犬ストーカー」イズマイウ。「オレは4人のグレイシーを倒した男だ!」と、アーネスト・ホースト張りの叫びは大晦日で聞けるか?



青山学院レスリング部主将の経歴を持つ中邑真輔は、今年の8月に新日本プロレスでデビュー戦を消化後、LA道場に渡りVT修行。性格は中西に似ていると関係者談。強いけど、野人?



アントン総帥が発掘した日系二世マチダ・リョウト（写真）や、朝青龍&B・ウルフの実兄スミヤヴァザル・ドルゴスレンなど"未知過ぎてしょうがない強豪"も参戦?

INOKI BOM-BA-YE 2002

〜猪木軍vsK-1vs『PRIDE』全面対抗戦完全決着〜

◆日時　12月31日／17:00開始
◆会場　さいたまスーパーアリーナ
◆アクセス　JR高崎線・宇都宮線・京浜東北線さいたま新都心駅。JR埼京線北与野駅
◆入場料　VIP席¥100,000（特典:専用入場ゲート、グッズ付）
RRS席¥30,000／スタンドS席¥15,000／スタンドA席¥7,000
◆チケット発売所　全国有名プレイガイド
◆お問い合わせ　ドリームステージエンターテインメント　TEL.03-5775-5700



アントン総帥は20日に米国より帰国。今年も昨年同様、全国行脚で『猪木祭り』を大アピールする。昨年はホームレスに焼肉を振る舞う仰天パフォーマンスを見せたが、今年は?


チケット爆発的売れ行き!!

『猪木ボンバイエ』参戦決定！ 今年のマット界を大席巻した

究極のエンターテイナーが1年を締める!!



紅白歌合戦をブチ壊す野獣!!


祝!!「'02『プロレス大賞』
MVP」受賞!!
12・31『猪木祭り』
高山善廣戦ー。

SAPP

聞き手/ジャン斉藤
撮影/福島勝儀
designed by matsu (Two three)

ボブ・サップが大晦日を締める!!
12・7K-1でのホースト戦における右拳負傷で『猪木祭り』出場が
危ぶまれていたサップだったが、診断の結果、打撲であることが判明。
さすがビースト、すでに拳は完治しており、予定通り『猪木祭り』へ参戦!
相手は今年の『東スポ』プロレス大賞候補筆頭の“ジャパニーズ・ビースト”高山善廣。
もちろん、サップも同賞の候補であり、まさしく今年のマット界MVP決定戦となる。
本来ならば中西戦前のように「タァカヤ〜マ!」といった
野獣の雄叫びをお聞かせしたいところだが、皆さんもご存知のとおりサップは超多忙。
なんとか無理を言って高山戦決定前のサップを20分だけ捕獲し、プチインタビューを敢行!
ちなみに、この日、東京は初雪でした。



高山善廣戦——。大晦日に“108のビースト・パンチ”が炸裂する!?

——（雪が舞う外での撮影を終えて）いやぁ～、今日はホント冷え込みますね！

サップ　そうか？　耐えられない寒さではないけどな。

——サップさんは寒さにも強いんですねぇ。しかも半袖半ズボンだし、ビーストと言うよりは風の子ですよ（笑）。

サップ　フォッフォフォフォ！（外の景色を見ながら）とってもビューティフルな光景だよ！　シアトルではあんまり雪は降らないんだけど、日本はもっと降らないと思っていたからラッキーだよ。ところで……（テーブルのフライドポテトを指差し）食べながらでいいかなぁ？（可愛らしく）。

——どうぞどうぞ（笑）。それにしてもホースト戦は前回以上に最高でしたよ！

サップ　セェ～ンキュ～!!

——入場から抜群でしたしね。いきなり走って入場して、ちょうどサップさんのテーマ曲（『ツァラトゥストラはかく語りき』）の前奏が鳴り終わる瞬間にリングインしたじゃないですか。鈴木みのるも顔負けでしたよ！

サップ　いやぁ～、あれはとっさに思いついてやっただけだよ。

——瞬間的な行動だったんですか！　天性のエンターティナーなんですね。

サップ　走り込んでいけばモチベーションも上がるし、その姿を見てファンもエキサイトするからな。

——テレビでやってたみたいに、自転車に乗ったマッちゃん（松本人志）が先導してたら、もっと良かったですけどね（笑）。

サップ　オォ～、グッド・アイディア！（笑）。試合だってエキサイトしただろ？

——エキサイトどころの騒ぎじゃないですよ！（笑）。

サップ　オレもエキサイトしすぎて、ダウンは取られちゃったけどな（笑）。

——あ、K－1初ダウンはエキサイトしすぎが原因でしたか（笑）。

サップ　（ムシャムシャとポテトを食べながら）でもなぁ、ネットとか見ると相変わらずコアなファンは、オレの闘い方を批判してるんだよな（不満げに）。

——あら、サップさんは、そういう声を気にしてるんですか。

サップ　（怒り気味に）「あんな勝ち方はな

「高山はタフガイだが、軟骨みたいなもんだ。噛みにくいが飲み込むのは簡単!!」

BOB☆

い」とか「技術がない」とか好き勝手言ってるだろ！　……あ、でも、技がないのはたしかだな（苦笑）。

──ワハハハ！　とは言ってもサップさんは一戦ごとに確実に進化してますよ。ホーストにハイキックをやろうとしたり（笑）。

サップ　（照れ臭そうに）まあな。でも、「パワーよりもテクニック」って、よく言うだろ？　でもテクニックを持ってたとしても、それで勝てないなら、そのテクニックは無意味だって言いたいね。それにオレだってテクニックはあるんだよ。こないだホーストのパンチをどこで受けたと思う？（頭を指差しながら）このビースト・ヘッドで受けたんだよ（笑）。

──ワハハハ！　それは高度なディフェンス技術です（笑）。

サップ　（再び頭を指差して）この脂肪分に食らってもダメージは浸透しないんだよな。フォッフォフォフォ！

──でも頭より脂肪分が少ないせいか、右手をケガしちゃいましたね。頑丈なサップさんでもケガをするんですねぇ。

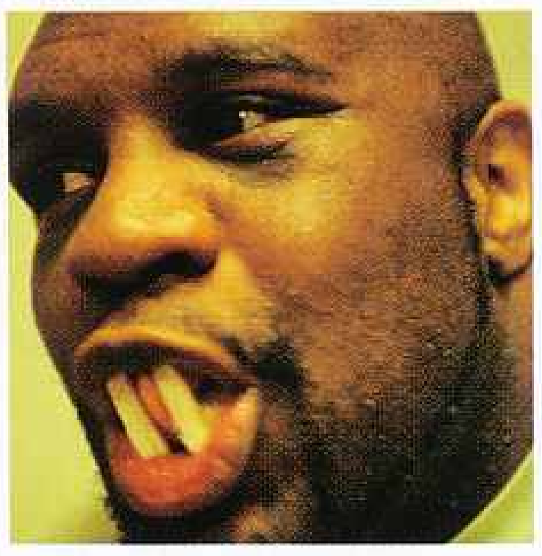
サップ　そりゃそうだよ（笑）。でもな、ビーストもケガはするが、どんなケガでもすぐに完治するんだ。次に会うときは、すっかり治ってるはずさ。フォッフォフォフォフォ！（※実際、この取材から2日後の帰国時、サップに会うと、すでに包帯が取られていた）。

──さすがビーストです（笑）。

サップ　もう一つビーストの凄さを教えてやろう！　他のファイターがどうかは知らないが、オレがケガの痛みを感じるのは2、3日経ってからなんだよ。

──闘ってると興奮してケガに気づかないと聞きますけど、サップさんはそこまで興奮状態が続くんですか（笑）。

「パワーよりもテクニック」って言うけど、そのテクニックを持って勝てないなら、無意味だと言いたいね



サップ　この右手だって痛みは全然なかったし、ケガしてる自覚なんかまったくなかったからな。だから、ドクターにケガの申告をされたときは驚いたよ。

──「ああ、オレはケガをしてるんだ」と（笑）。じゃあドクターチェックがなかったら、そのままトーナメントを続行してたんですか？

サップ　当たり前だよ！　オレはまだ闘いたかったし、あのまま続けてたら100％優勝していたはずさ（自信満々に）。

──観客のサップさんへの期待感は凄まじかったですからね。

サップ　でもドクターからストップされたら、大人しくしてないといけないじゃん？（可愛らしく）。

──ごもっともです（笑）。でもK─1の翌日会見では「ケガしていても構わない」と、参戦予定となっている『猪木祭り』に出場意欲をみせてましたよね。

サップ　ビーストにケガなど関係ない！……とはいっても、さっきも言ったようにドクターの診断がすべてだけどな（笑）。

──対戦相手には高山選手が有力視されてますよね。

サップ　タカヤマはとてもタフガイなファイターだということは十分理解している。でもな、オレから言わせればタカヤマはただの軟骨みたいなもんだ。

──得意の、たとえ話が出ましたね（笑）。ちなみに、その心は？

サップ　噛むのは大変だが飲み込むのは簡単!!　ビーストなら一口でペロリだ！

──高山さんは一口サイズですか（笑）。

サップ　フォッフォフォフォ！　まぁ、デンジャラスな試合になるのは間違いないだろうな。

──期待してます！　話はガラリと変わりますが、先日の『WRESTLE─1』（以下『W─1』）についてお聞きしたいんですけど。サップさんは、そこでも見事な活躍をされたわけですけど、ムタの毒霧を食らった感想を聞かせてください。

サップ　オォ～！　あのミストだけはもう勘弁だ。ムタ戦はコンタクトを付けてファイトしたんだけど、コンタクトがグリーンまみれにはなるし、目には沁みるし、本当に大変だったんだよ！

──コンタクトのアクシデント！　ガファリを彷彿させるエピソードですね（笑）。

サップ　しかも、手や足の爪のあいだにミストが付いてしまって洗い取るの苦労したんだよ（顔をひきつらせて）。

──そんな被害まで遭われたんですか（笑）。『W─1』は従来のプロレスの概念を覆すイベントとして発進したわけですけど、イベント自体にはどのような感想を持ちましたか？

サップ　そうだな。イベント自体に関して言えば、凄く可能性があると思う。ただ、いまはストーリーラインがないだろ？

──そうですね。まだ一回目ということもありますけど。


サップ　これからどんどん物語を発展させていって、シネマのようにスケールを大きくしていかないといけないと思ってる。大勢のお客さんがシネマを観るように楽しんでもらいたいよ。

──もちろん、そのシネマの主役はサップさんなんですよね？

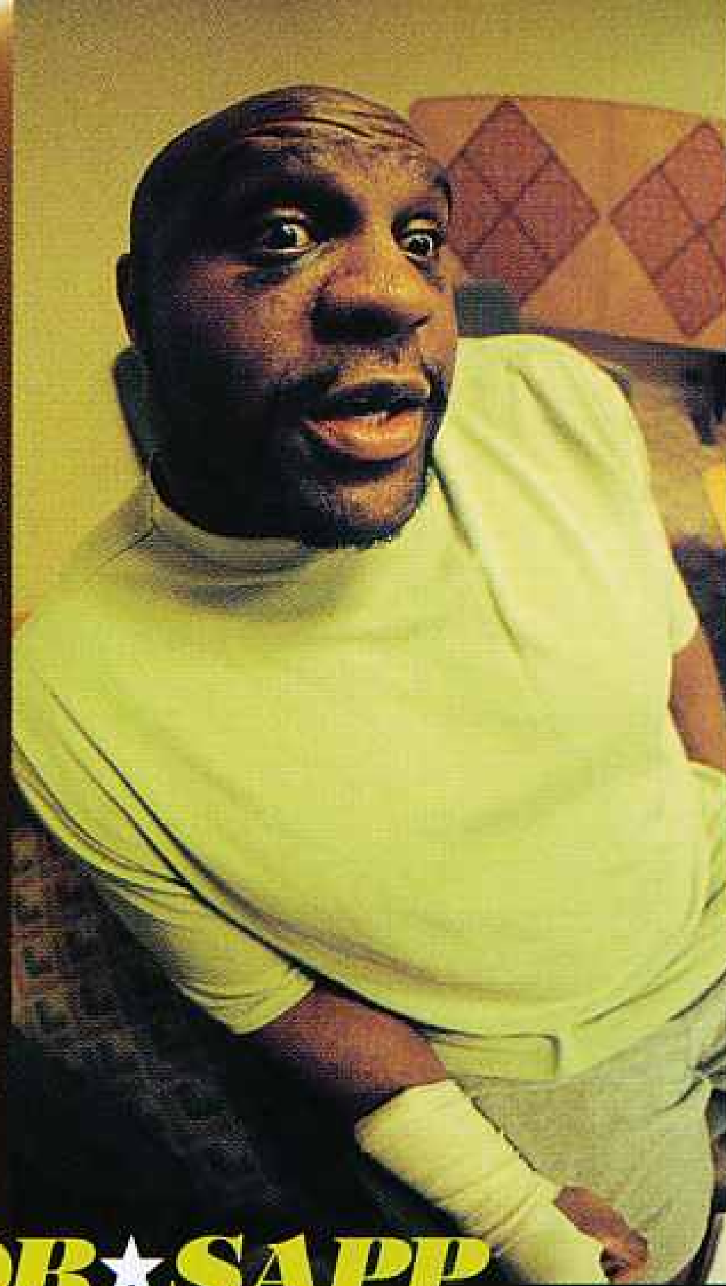
サップ　YES！（ニッコリ）。他に誰かいるかい？

──『W─1』第2弾となる1・19東京ドーム大会には、ハルク・ホーガンの参戦も噂されてますけれど。

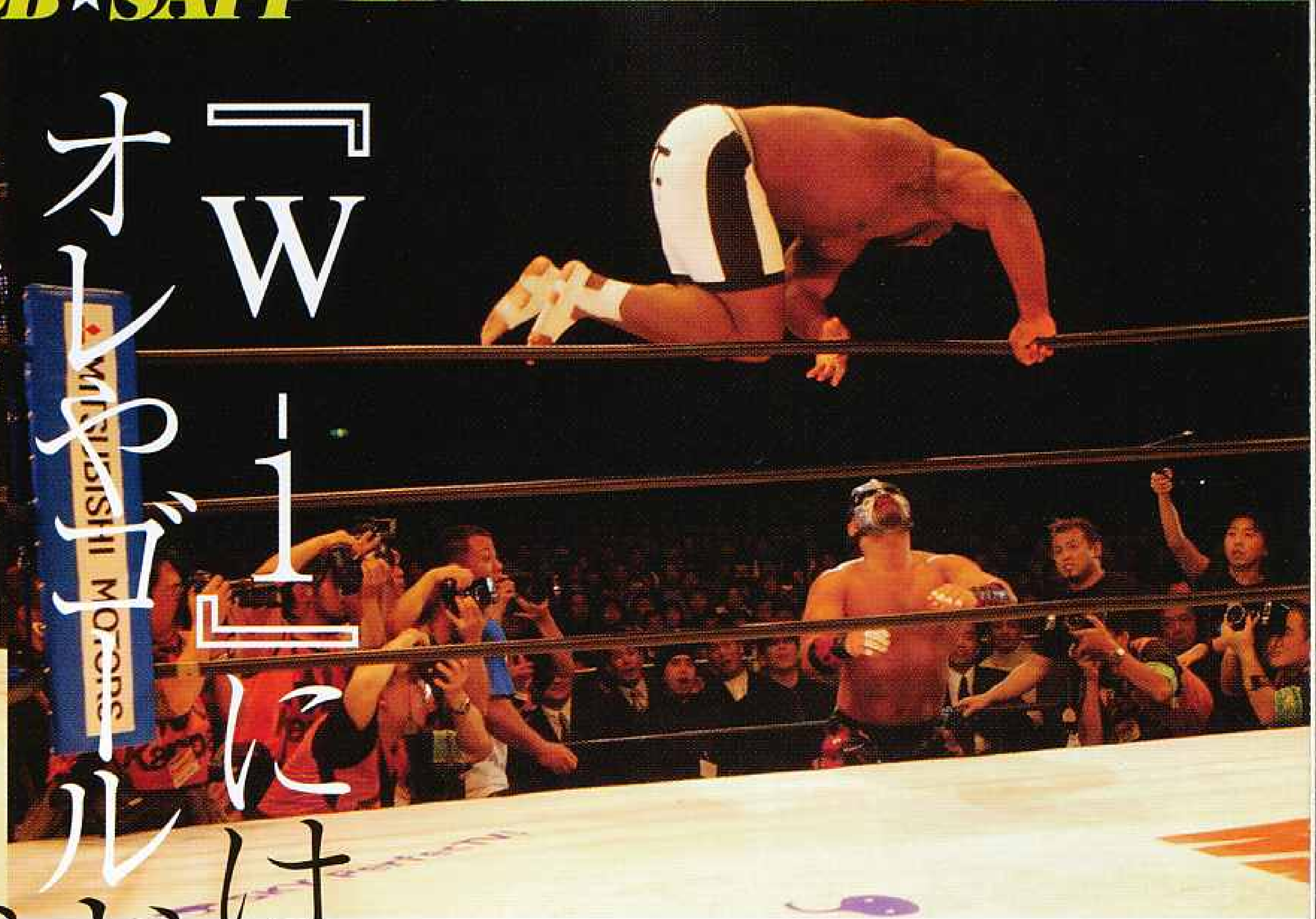
サップ　それはグレイトだね。ストーリー


BOB★SAPP









BOB★SAPP

『W―1』にはストーリーラインと、オレやゴールドバーグみたいな強烈なキャラクターが他にも必要だよ

ラインも重要だけど、『W―1』にはオレとかビル・ゴールドバーグみたいな強烈なキャラクターが他にも必要だと思うよ。

―ムタは異星人だから別にして、日本人だとSATA...yarn（さたやん）もかなり強烈でしたよ（笑）。

サップ （無視して）強烈なファイターとシネマのようなストーリーが絡み合えば、『W―1』は絶対に成功するよ。

―でも日本には、エンターテインメント性の強いプロレスを非難するマスコミやファンも多いんですよ。

サップ いや、それを嫌がるコアな層っていうのは、ちょっとしかいないだろ。本来プロレスファンというのはエンターテインメントなものを求めているんだと思う。プロレスっていうものを初めて見るような層なら、なおさらそうさ。オレは、そういったファンにも届くようなファイトをしていきたいんだよ。

―いまのところ、十分その目的は果たせてると思いますよ。

サップ セェ～ンキュ～‼（満足げに）。前回の『W―1』のテレビの視聴率は平均で8・4%、最高で12%。今後どう変わっていくのか注目してほしいな。

―それにしても、インテリジェンス・ビーストと呼ばれるだけあって、サップさんもいろいろ考えているんですね。正確な視聴率もサラッと口にしてるし（笑）。

サップ そんなのは当然だろ？ とにかくオレは『W―1』でエンターテインメントなファイトを見せていくだけだよ。

―『W―1』もそうですが、大晦日も大いに期待してます！ 何しろサップさんが参戦することで、裏番組の紅白歌合戦の視聴率が過去最低になるんじゃないかと言われてるぐらいですから。

サップ そうなのかい？ それは非常に名誉なことだな（笑）。なんなら、その紅白にも出てやってもいいけどな。フォッフォフォッフォ！

―わ、わかりました。来年は歌手デビューの方も期待してます！（笑）。

【12月9日／都内ホテルにて収録】

12.7 K-1 GP 2002 FINAL

サップ効果恐るべし!!

唖然！ 観衆74500人！ 瞬間最高視聴率33.4%!!

東京ドーム新記録



K-1 10年目のミラクル!!
一回戦負けのホーストが優勝だぞ!

当日券ナシの前売り完売。東京ドーム新記録となる観客を動員。同日に放送されたTV中継も高視聴率。特設ビジョンを8つも設置。すべてにおいて10周年に相応しい大会となったK-1GP。内容も、サップに1回戦で敗れたホーストが、サップ負傷のため繰り上がり進出。次戦のセフォー、決勝バンナらのアクシデント負傷で勝利を拾い、まさかの優勝を飾るサプライズな大会となった。不況に喘ぐマット界のイベントとは思えない盛り上がり。ホーストはK-1新記録となる4度目のGP制覇



サップ、ホーストを返り討ちも準決勝は負傷棄権!!

1Rにダウンを奪われたサップは、2Rに怒濤の逆襲!! パンチというかラリアット気味の大振りでホーストを捕らえる! 最後はコーナーに押し込んでの連打で2度目のダウンを奪い大爆勝! しかし右手骨折の疑いのため準決勝は棄権となった



「俺はスリー・タイム・チャンピオンなんだ!」
ホースト、執念の連打!!

試合の主導権を奪ったホーストのローキック！ サップの突進をかわしながら、連打で攻撃。サップはカットしようしたり、逆にローキックを見舞うモーションをみせたがいずれも不発。ビースト・キック御披露目はまた今度



サップ、K-1リングに初キッス! 奪ったのはホーストだ!

ホーストの秘策はレバー打ち!! 華麗なる左ボディブローで、サップをK-1リングに這いつくばらせた。ここで勝負あったと思いきや、石井格闘プロデューサー曰く「巨人の星を思い出した」根性でビーストは立ち上がった

アーネスト・ホースト

- レイ・セフォー
- ピーター・アーツ
- ボブ・サップ ※1回戦勝利も負傷により棄権
- アーネスト・ホースト ※シュルト負傷欠場によりリザーバーのホーストが参戦
- ステファン・レコ
- マーク・ハント
- ジェロム・レ・バンナ
- 武蔵



パンチを受ける! 受ける! 受ける!
ハントは痛みを知らないのか!?

サップの影に隠れてしまったが、サモアの怪人マーク・ハントの怪物振りもドームを震撼させた。準決勝のバンナ戦は判定で敗れたが、何発パンチを浴びても倒れない、インド人もビックリの頑丈さ!! 日本人は何を食べて、どんな運動をしたらこうなれるんすかね。サモア、バンザイ!!



「アマゾンにスゲエ奴がいる」
アントン総帥の噂の男は実在した!!

アントニオ猪木 "最後の弟子"

リョウト

a h o M a c h i d a

聞き手／ジャン斉藤
撮影／丸山剛史
designed by matsu (Two three)



力道山、ブラジルにて猪木発掘より42年——。

いま鮮やかに

闘魂輪廻

日系ブラジル二世

マチダ・

Lyoto Carval

"猪木二世"、日本初見参!!

アントン総帥が「アマゾンにスゲエ奴がいた!」と、第2の母国であるブラジルより発掘。激動のマット界に投入を予告していた噂の秘密兵器が遂に大観衆の前にその姿を現した!

11・24『PRIDE.23』東京ドーム——。

おなじみ「猪木ボンバイエ」のテーマに乗り、東京ドームの花道を闊歩するアントン総帥! そしてその後ろにピタリと付き添う男こそ、噂のマチダ・リョウト!

"闘魂師弟"は純白の『PRIDE』のリングに共に足を踏み入れ、まずはアントン総帥がマイクを握った!

●

猪木 ご報告があります。いまから42年前、ブラジルにいたときに師匠である力道山に見いだされました。そして時が流れ、先日ブラジルに行きまして、パンアメリカンの空手チャンピオン、柔道、相撲のチャンピオンである日系二世のマチダ・リョウトを紹介します!

リョウト (マイクを渡され)元気デスカーァァ!! 僕ハ今、オ父サンノ国、日本ニ帰ッテ来マシタ。頑張リマスッ!

●

いかにもブラジリアンといった顔立ちのリョウトは、カタコトの日本語で一気に捲したてた。

小川直也が距離を置き、ケンドー・カシンが全日本に転出するなど戦力ダウンを懸念される「猪木軍」であるが、この男が再編成の旗手になるのだろうか?

実力はベールに包まれたままである。しかし、42年の時を経て再現された"ブラジル闘魂劇場"にロマンを感じずにはいられない!

Lyoto Carvalho Machida



元気というか、香気さを感じさせるマチダ・リョウト。闘いで揉まれることによって顔立ちはどう変化していくのか

12・31『猪木祭り』出場が濃厚となっている"猪木二世"に独占直撃した!

●

——リョウトさん! 元気ですかーッ!?

リョウト ハハハ! ゲンキデスカーッ!?

——いや、こっちが聞いてるんですけど(笑)。リョウトさんは、日本語はどれぐらい喋れるんですか?

通訳 (リョウトは)いま勉強してる最中なんですよ。

リョウト ……アンマリ(日本語で)。

——あんまりですか(笑)。リョウトさんのことは猪木さんが「日系二世のスゲエ奴がいる」とよく言っていたんですけど、あまりにも謎に包まれていたんで本当に実在するのか噂になってたんですよ(笑)。

リョウト あぁ、そうなんだ(苦笑)。ボクはここにいるけどね。

——しっかりと確認しました(笑)。来日されたのは、今回が初めてではないんですよね?

リョウト 空手の大会でも来たことがあるし、去年の「猪木祭り」のときにも、猪木さんに呼ばれて来日してたよ。

——もしかして、その大会でジェロム・レ・バンナの対戦相手が直前まで決まらなかったときに、猪木さんが「ブラジルにイキのいい若い奴がいるから、そいつとやらせよう」と言ってたらしいんですけど、それってリョウトさんのことだったんですか?

リョウト そうなのかなぁ? それは初耳だけど(笑)。

——きっと猪木さんの頭の中では、リョウトさんは出場メンバーに入ってましたよ(笑)。それで、今日はいろいろとお伺いしたいことがあるんですけど、まずは師である猪木さんと出会った経緯からお聞かせください。

リョウト だったら、まずはボクの家族のことから話さないといけないね。こないだの『PRIDE.23』でも言ったけど、ボクのお父さんは日本人。23歳のときにブラジルに移民して、ブラジル人のお母さんと知り合って結婚したんだ。

——お父さんは、猪木さんと同じ移民の方

コンデ・コマ渡伯から、マチダ・リョウト来日まで 日本・ブラジル激動史

コンデ・コマ、グレイシーに柔術を伝える

講道館・嘉納治五朗門下で三羽烏と呼ばれる実力者であった前田光世は、講道館破門後、「コンデ・コマ」に名を変えてブラジルに渡り柔術を伝えた。2000戦無敗という肩書きや、「ヤングサンデー」で連載していた漫画「コンデ・コマ」を読めばわかる通り、幻想だけで御飯のおかわりができるマス大山並のキャラクター力を持つ。「コンデ・コマ」の名がついたブッ飛んだ由来は、スペース都合上各自調査。

アントン総帥、ブラジルへ(昭和32年)

サントス丸に乗り込み、ブラジルに旅立った猪木一家。途中、青いバナナを食べて食中毒になった祖父が、腸閉塞を患い船中で病死。海葬された。ちなみにアントン総帥の実兄・快守氏は、キューバ元首・カストロに、祖父が葬られた海上付近の島を「くれ」とお願いした。

アントン総帥、力道山にスカウトされる(昭和35年)

快守氏の薦めで陸上競技に励んだアントン総帥は、オールブラジル大会で円盤投げと砲丸投げで優勝するなど活躍。ブラジルに立ち寄った力道山にその才能を見いだされ日本に帰国。当初は日系二世として売り出すため日本語禁止の仰天命令が下されていた。



猪木さんと初めて会ったのは、柔術が伝わったベナンという町さ

だったんですね。

リョウト そう。おじいちゃんは茨城に住んでるんだ。

――あ、茨城ですか（笑）。

リョウト こないだおじいちゃんの家に行ったけど、やっぱり親戚はいいもんだねぇ（嬉しそうに）。

――それは良かったですね（笑）。

リョウト 日本に来て一番の思い出だよ！

――一番の思い出ですか。なんかほのぼのしますね（笑）。

リョウト それで話を戻すと、お父さんが移民したときが、ちょうど猪木さんがブラジルに渡った時期と同じだったらしいんだ。

――そういう繋がりがあったんですか。

リョウト だから去年、猪木さんがブラジルに帰ってきたときに、お父さんがボクのことを紹介してくれたんだよ。そのとき猪木さんがボクの身体を見て気に入ってくれて、格闘家として育ててくれることになったのさ。

――猪木さんがブラジルで力道山に見いだされたエピソードと同じですね！　猪木さんが言うには「リョウトと出会ったのはアマゾン」とのことですけど、それは事実なんですか？

リョウト 正確に言うとアマゾン地域のアマゾーナス州だね。柔術がブラジルに伝わった地でもある、ベナンという町で初めて

イワン・ゴメス、新日本に挑戦状（昭和49年）

ブラジルに遠征した新日本プロレスに、快守氏の仲介により当時のバーリ・トゥード王者イワン・ゴメスが挑戦を表明。アントン総帥とカール・ゴッチの協議により、木戸修が対戦に抜擢されるが木戸は拒否。それでもアントン総帥は「やれっていってんだよ！」と闘魂指令を下したが結局、諸問題で試合は消滅。ゴメスは新日本に入団することになる。

ゴメスvsルスカ、シュートマッチ（昭和51年）

再びブラジルに遠征した新日本プロレス。凱旋興行となったイワン・ゴメスはウイリアム・ルスカと対戦したが、ゴメスがシュートを仕掛けたからさあ大変。キレたルスカも大暴走。収拾がつかないまま無効試合となった。なおその遠征でゴメスは、ストロング金剛（当時・小林）とバルツーズ（バーリ・トゥード）ルールで対戦したと当時の報道。ゴメスが完勝。金剛氏は「記憶にないよぉ！」と笑顔で証言している。

アントン・ハイセル設立（昭和55年）

廃棄物であるサトウキビの絞りカスを活用することで、食糧問題を解決するブラジル発のエコロジカル仰天プロジェクト。新日本の収益が流用されたことで、不信感を抱いた選手のよるクーデター騒動まで発展した。噂では、我らがドラゴン（外回り社長）が、家族ぐるみで莫大な金額を投資をしていたらしい。

ヒクソン上陸（平成6年）

400戦無敗の肩書きを引っ提げて、ヒクソン・グレイシーが来日。オープン・トーナメント二連覇、高田に連勝。いつのまにか450戦無敗に昇格して、船木も

会ったんだ。

――前田光世が柔術が伝えた町ですか！　またロマン溢れる地で出会ってますね（笑）。当然リョウトさんは、猪木さんのことを御存知だったんですよね？

リョウト　すごく尊敬してたんだよ！　子供のころからお父さんに活躍を聞かされていたし、猪木さんが載ってる格闘技の雑誌もしっかり読んでいたからね。

――その影響もあってか、リョウトさんは様々な格闘技を習得してますよね。空手、柔術、そして相撲まで（笑）。

リョウト　相撲は14歳ぐらいからやってたよ。空手は4歳からで、柔術は15歳ぐらいから始めたんだ。

――柔術といえば、ブラジルではヒクソン・グレイシーがビックネームですよね。

リョウト　もちろん知ってるよ。ヒクソンには会ったことはないけど、ボクはカーウソン・グレイシー系の柔術を習っていたんだ。カーウソンの弟子にデラヒーバという選手がいるんだけど、その一番弟子から教わったんだよ。

――カーウソンはもちろんですけど、デラヒーバも柔術通には有名ですよ。ボクはよくは知らないんですけどね（笑）。

リョウト　素晴らしい選手だよ！

――それで、リョウトさんはどの競技が闘う上でベースになるんですか？

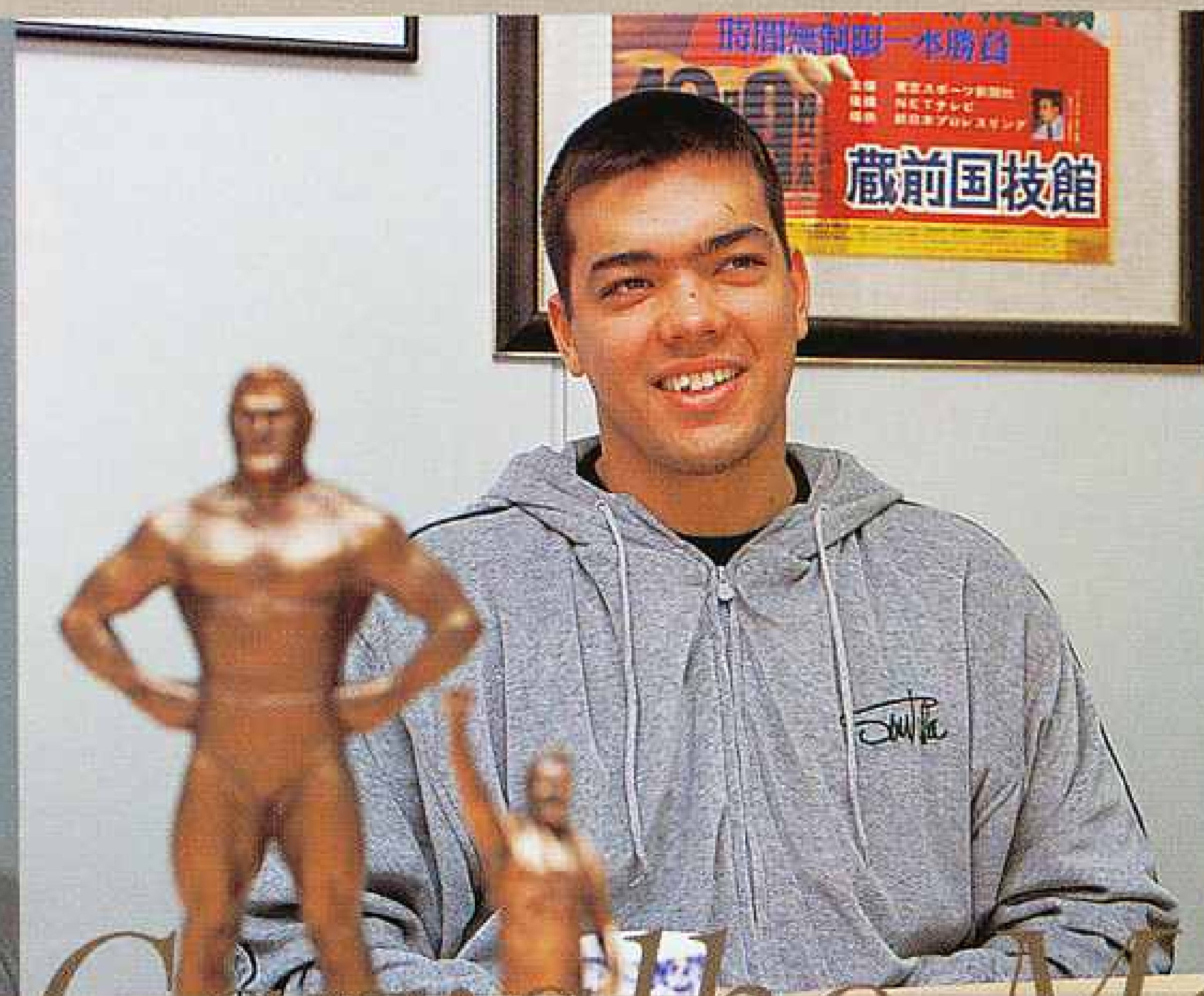
リョウト　やっぱり空手だね！　柔術にも自信があるけど、空手は小さいころからやってるから安心感あるんだよ。

――猪木さんには延髄蹴りやアントン・スペシャルとか、たくさん得意技があったんですけど、リョウトさんにも得意技はあるんですか？

リョウト　トクイワザ？（日本語で）。

――そうです（笑）。







Lyoto Carvalho Machida

バーリ・トゥードは小さいころから見てるから、闘い方は知ってるよ

リョウト　それはパンチ！

――パンチが"リョウト・スペシャル"！

リョウト　そうそう、スペシャルなパンチなんだよ（笑）。パンチは誰でも打てる技だけど、ボクはすごく自信を持ってるんだ。まぁ、状況に合ったベストの技で相手を仕止めようとは思ってるけどね。

――ブラジルではバーリ・トゥードが盛んですけど、試合をしたことはあるんですか？

リョウト　いや、まだないんだよ。17歳のときに試合に出ようとしたんだけど、若すぎるから止められてしまって（笑）。

――経験がないことで、不安とかはないんですか？

リョウト　全然！　バーリ・トゥードは小さいころから見てきたし、どう闘えばいいか知ってるからね。

――なるほど。

リョウト　いまはロス道場やニュージャパンの道場でも練習してるから準備は万全だよ。早く試合をして、『PRIDE』のチャンピオンになりたいよ！

――夢は『PRIDE』王者ですか！　では、先日ご覧になられた『PRIDE.23』の印象はいかがでしたか？

リョウト　イベント自体がオーガナイズされていて、とても良かったよ！　優秀なバーリ・トゥーダーもたくさん出てたしね。

――どの選手が印象に残りました？

リョウト　やっぱりノゲイラだね。それと、アローナ、ニンジャ、シウバかな。

――4人とも、リョウトさんの母国の選手ですね（笑）。

リョウト　いやいや、エメリヤ（ーエンコ・ヒョードル）も凄かったよ（笑）。

――彼らに限らず『PRIDE』には世界の強豪選手が集ってますけど、誰か闘っ

撃破した。ヒクソンは以前、無名時代に日本に来日。アントン総帥に賞金マッチをオファーした話もある。

石澤常光、ブラジル修行（平成9年）

カシンに変身前の海外遠征時代、ブラジル修行に出向いた石澤。当時危険な関係であった柔術とルタ・リーブリの道場に交互に通う物騒な出稽古を敢行した。

藤田、ブラジル遠征キャンセル（平成13年）

昨年の12・31『猪木ボンバイエ』に備えて、安田と共にブラジル遠征を予定していた藤田。カゼによる高熱を理由に急遽キャンセル。しかしその後、アントン総帥に無断でタイに極秘渡航。現地でアキレス腱を断裂する、謎の事故に見舞われた。

アントン総帥、マチダ・リョウトを発掘（平成14年）

スカウトしたのは昨年。存在を口にし始めたのは今年に入ってから。アントン総帥は「アマゾン出身ですからね。根性が違うというか」と素質はもちろん、出身地にも惚れ込んでいた。

村上和成、トップチームと合流（平成14年）

兄貴分・小川直也に噛み付き姿を消した村上は、ブラジルでブラジリアン・トップチームと練習に励んでいた。その凱旋試合となった8・8『LEGEND』イズマイウ戦では敗北。今度は魔界倶楽部に合流した。

マチダ・リョウト初登場（平成14年）

11・24『PRIDE.23』にて初挨拶。

てみたい選手はいるんですか？
リョウト　う〜ん、特に闘ってみたい選手はいないけど……。猪木さんが「やれ！」と言われたら、誰とでも闘うよ！
――オッ、「いつ何時、誰とでも闘う」ですね。
リョウト　そういう気構えはもちろん持ってるよ。
――日本にはK―1という立ち技のプロモーションもあるんですけど、猪木さんに「いけーッ！」と言われたら、どうします？
リョウト　う〜ん……正直言って、ボクはバーリ・トゥードのほうに興味があるんだ。でも、猪木さんが「やれ！」と言えば……ね（笑）。
――やれんのかーッ！（笑）。
リョウト　ボクは空手のチャンピオンだったし、自信はあるよ！
――じゃあ、プロレスのリングはどうでしょうか？
リョウト　う〜ん、プロレスのリングに上がるには、まだ準備が必要じゃないかな？　でも猪木さんが言えばやるけど（笑）。
――条件付きの「いつ何時、誰とでも闘う」ですね（笑）。
リョウト　猪木さんがが言うことは全てやるつもりだよ。やっぱり猪木さんがボクを発掘してくれたわけだからね。
――師弟愛が強いんですねぇ。猪木さんもブラジルで発掘されてこともあって、リョウトさんと重なり合う部分も多いこともあってか、リョウトさんのことを〝猪木二世〟って報道しているところが多いんですよ。知ってました？
リョウト　そうなのかい⁉　それは……。



【マチダ・リョウト】ブラジル名：リョウト・カルヴァーリョ・マチダ。日本名：町田龍太。1978年生まれの24歳。185センチ、94キロ。空手3段、相撲2段、柔術紫帯。空手は州大会、ブラジル大会、パン・アメリカンで活躍。型、組手とも優勝は数え切れない。相撲は州大会15歳までの部・優勝、00年ブラジル大会115キロ以下で準優勝。柔術は州大会15歳以下で優勝、白帯の部で準優勝。本人が言うように、実績から言っても空手がベースになるファイターである。

――それは？
リョウト　（日本語で）ウレシクテ、タマラナイ！（ニッコリ）。
――たまらないですか（笑）。
リョウト　さっきも言ったけど、猪木さんは小さいころからずっと尊敬すべきファイターとして憧れていたからね。イノキニセイ、ガンバリマス（日本語で）。
――実はですね、〝猪木二世〟を名乗るためには、いち早く猪木さんから伝承しないといけないものがあるんですよ。
リョウト　エ⁉　それは何？
――ブラジルにダジャレってあります？
リョウト　ダジャレ？（通訳に説明を受け）あぁ、あるよ（笑）。
――猪木さんはすごいダジャレ好きなんですよ（笑）。リョウトさん、ダジャレは得意ですか？
リョウト　いや、ボクはまだまだだね（苦笑）。
通訳　フフフフ！（なぜか笑いが止まらない通訳）。
――あ、通訳さんは猪木さんの洗礼を受けてるわけですね（笑）。
通訳　ええ（笑）。（リョウトは）猪木会長が日本語で言うからあまりわかってないですけどね。
リョウト　ちょっとボクには難しい（笑）。
――早く習得することをオススメします（笑）。最後に撮影をお願いしたいんですけど、よろしいでしょうか？
リョウト　OKだよ！
――え〜と、この猪木さんのポスターみたいに、身構えてほしいんですけど。
リョウト　こうかな？　どう？　これ、イノキニセイ？　イノキニセイ？（日本語で）。
――ワハハハ！　OKです！　ダジャレも含めて、闘魂伝承を期待してます！
リョウト　ガンバリマス！

【02年11月28日／猪木事務所にて収録】

●

13日現在、いまだマチダ・リョウト『猪木祭り』参戦の報はなされていない。この号の発売時には出場が決定してるかもしれないが、もしかしたら大会直前まで、いや、『猪木祭り』だけに当日突然の登場もありえる。ん〜、年を越して、来年デビューなんてこともありえるな。とにかく！　期待にアゴを長〜くして、〝猪木二世〟の登場を待とう！　ダーッ！

髙田vs田村以外も好試合連発!! 11.24 TOKYO DOME 観衆52452人 撮影・乾晋也

PRIDE.23 REVIEW





『PRIDE』ミドル級のチャンピオンシップとなった一戦は、試合早々ハイスパートな打撃戦！ 王者シウバの強烈な左ハイがヒットし、もんどりうってマットに倒れた金原。右ヒザの状態が思わしくなく踏ん張れないこともあったが、恐るべしはシウバの凶撃！ 金原もシウバをグラつかせるパンチを繰り出すが、シウバの左フックにまたもダウン。シウバは寝ころぶ金原の顔面に、蹴り＆カカトを叩き込むまさしく人を足蹴にする凶悪攻撃！ それでもその足をキャッチしヒールを極めにいった金ちゃん！ しかし、危険を感じたセコンドよりタオルが投入。日本人最後の砦もシウバの前に陥落した

無念のタオル投入！「これからだったのにさぁ～。もっとやりたかったぁ～」



「タオル投げるの早いよ～ぉ」と言っていると思われる試合後の金ちゃんの表情。よっぽど無念だったのか、インタビュールームでは「もっとやりたかったなぁ」と何度もボヤいていた（本誌の数えでは5回）。もう１回見たいなぁ！

●ヴァンダレイ・シウバ
［1R3分31秒／TKO］**金原弘光×**

サク苦勝！ 山喧圧敗！ 金ちゃんは…ボヤキっ放し！ “男の中の男”Uインター戦士は1勝2敗！

靭帯損傷を負っての勝利! サク、髙田引退に男気を添える!!

桜庭は大会直前、右ヒザ裏の腱断裂に見舞われたが、「師匠の引退を黙って見てられるか！」と言わんばかりに強行出場！ 高田よりメインを任された桜庭は、セミファイナルで試合を終え花道から引き揚げる高田を入場ゲートで出迎えガッチリ抱擁！ その直後、桜庭のテーマ曲が鳴り響き、サクタイガーの覆面を被って入場をはたした





“バンナからの刺客”を相手に、桜庭は終始有利なポジションをキープしたが、動かないヒザと、アーセンのガチガチの守りに阻まれ膠着。苛立つ桜庭に、髙田が爽やかに「サク、モンゴリアンチョップ！」と指示を出すシーンも。結局、桜庭が最終Rに意地の一本！ 髙田は、ケガを負って出場した弟子の男気溢れる勝利に、「男の中の男だ！」と褒め称えた

●桜庭和志［3R2分8秒／腕ひしぎ十字固め］
ジル・アーセン×

昨年のリングス12月大会以来、久しぶりに表舞台に姿をみせた山喧。セコンドには安生、入場曲は友人であり、Uインターに入門するため上京した当時の想いを胸に抱き、シャ乱Q「上京物語」が流された。山喧は大会前日、確執がある田村をまたもや「オッサン」呼ばわりで挑発したが、大会終了後の閉会式で田村と握手！ 髙田の引退は、もう一つの因縁を氷解させた



モンスターパワー爆発! されど、山喧の心は折れず



ランデルマンのアームロックに、山喧の腕が危険な角度で曲がった！ 山喧は「極まってなかった」とコメントしたが、視覚的には目を覆うシーン。痛い！ 試合は、ランデルマンがサイドからバネを生かした滞空時間満点のヒザ攻撃を連打！ しかも両ヒザのツープラトン!! ダブルで痛い!! 慌てて和田レフェリーが試合を止めた

●ケビン・ランデルマン
［3R1分16秒／レフェリーストップ］**山本喧一×**

★髙田vs田村戦はP65～、ノゲイラvsシュルト戦はP81～に特集しています

暴れ馬、場外逃走!!
最後のリングス王者の実力爆発!!





ノゲイラの挑戦者はヒョードルに決定!!　ヒーリングvsヒョードルの『PRIDE』ヘビー級王座挑戦者決定戦と銘打たれた一戦は、寒気も覚える強さでヒョードルが快勝した！　『PRIDE』のリングで十分な実績を持つヒーリングと、リングス2冠王のヒョードルの対決とあって好戦が予想されたが、ヒョードルの一方的な残虐ショー！　何しろあの暴れ馬ヒーリングが血塗れとなって、ウゴ・デュアルチ、小原道由を彷彿させる場外逃走を計るぐらいだからそのヤバさがわかるだろう。体格では自分を上回るヒーリングを投げ飛ばすパワー。広いドームに響き渡るロシアン・フックの衝撃音。ヘビー級とは思えないグラウンドでの身のこなし。すべてにおいて皇帝閣下は完璧だった！

●エメリヤーエンコ・ヒョードル
［1R終了／TKO］ **ヒース・ヒーリング×**



試合後の第一声が「勝ちました、イエイッ！」と、赤面モノのマイクアピールとなった吉田だが（地上波ではカット）、試合はマイクとは違って落ち度のない内容。試合前に「フライの男気を学びたい」とコメントしたことで、てっきり打撃に付き合うのかと思ったら、すぐさま組み付きグラウンドへ。道着を使った絞めを見せるなど、金メダリストの実力をまざまざと披露した。吉田はフライに一発も殴られず、何もさせないまま完勝。この男、強い！　イエイッ！

強さ&展開に唖然!
柔道王、初VTを無難にこなす!



オイオイ、どうしちまったんだフライ!?　試合は何も出来ず、腕を極められ病院に直行……。試合直前に脱ぐんだったら、せめて星条旗をあしらった道着を着てほしかったなぁ。今回の男塾劇場はあっけなく終幕となった



●吉田秀彦 ［1R5分32秒／腕ひしぎ十固め］
ドン・フライ×

戦慄!! ヒョードル、ヒースを殺戮!
吉田はフライに完勝!!
新たな英雄たちの伝説が始まった!!

突然の参戦となった横井は、『Dynamite!』で松井を破ったK—1ファイター・ジェレルと対戦。試合早々見事なタックルを奪い、グラウンドではヒザ＆マウントパンチで攻勢！　噂の怪物くん振りを披露。ジェレルはオープニングバウトに相応しいガンズの「ウェルカム・トゥ・ザ・ジャングル」で入場し、試合前にはわざわざ敵コーナーに詰め寄り横井に眼付け。会場をあっためた。このオランダ人、興行論がわかってるのか!?





『PRIDE』初登場、初白星を飾った横井は、総合のリングではいまだ無敗。屈強なガイジン勢に苦戦を強いられる日本勢に、怪物くんの登場は頼もしい限りだ。次回の登場も期待！

怪物・横井が白星デビュー!! 明るい未来が見えてきた!

●横井宏考 ［2R3分39秒／腕ひしぎ十固め］
ジェレル・ヴェネチアン×

アローナ、
シュートボクセの若頭を殺る!



シュートボクセvsブラジリアン・トップチーム「ブラジル仁義なき闘い」は、アローナがニンジャに勝利することで、スペーヒーの仇を討った。前回ニンジャvsマリオ戦で汚い野次を吐き続け、関係悪化の火種となったペレがシュートボクセを離れたこともあり、それほど険悪でアグレッシブな試合にはならず。ペレのカムバック希望！



『PRIDE』ミドル級が誇る実力者の2人だけにハイレベルな技術の応酬となったが、そのレベルの高さが膠着を生んでしまうシーンも見られた

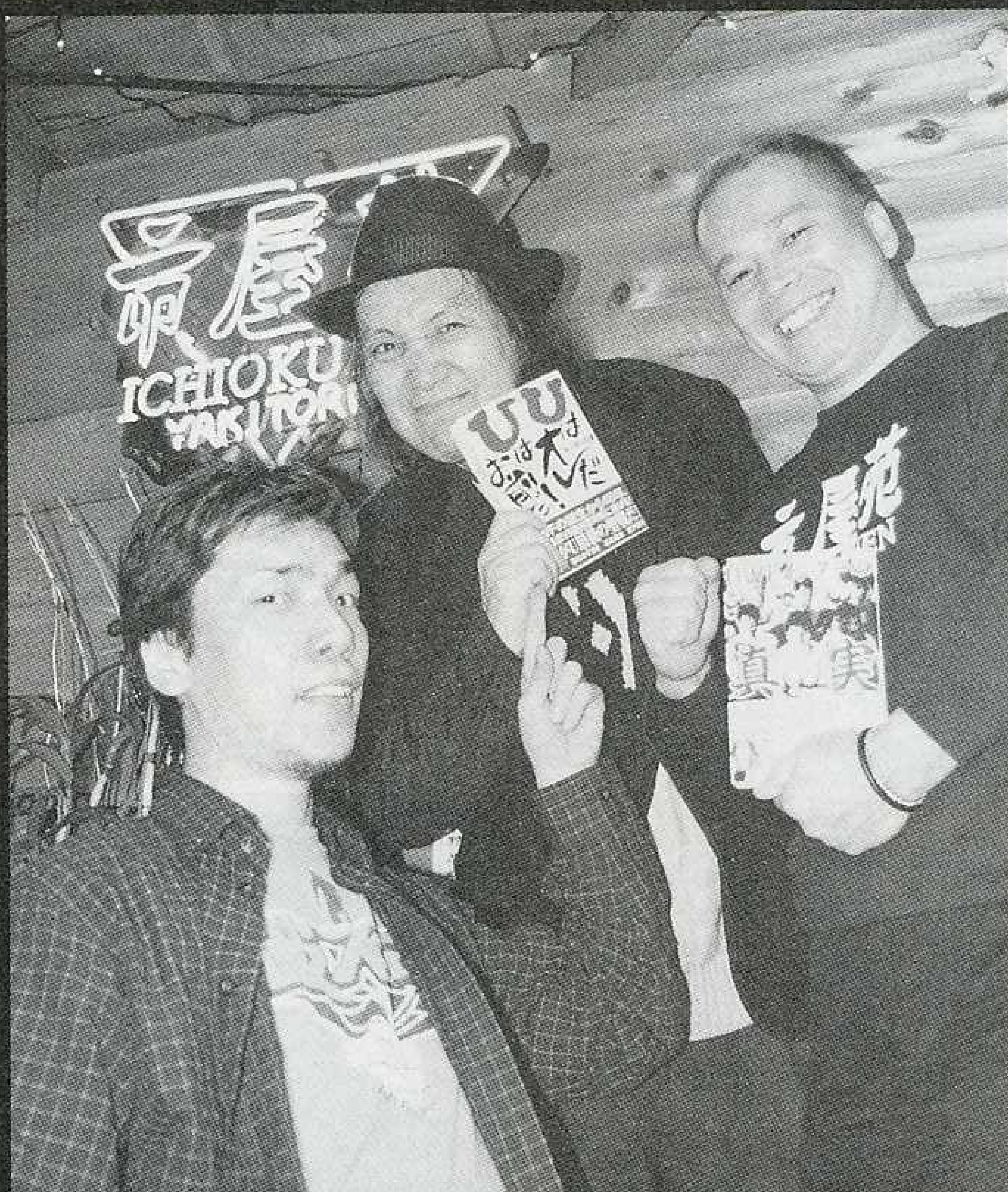
●ヒカルド・アローナ
［判定3-0］ **ムリーロ・ニンジャ×**



「オマエが男だよ、髙田さん!!」

鈴木健氏、絶叫!!

未曾有の大河ドラマ「髙田vs田村」を語り尽くせ!!



『週プロ』編集長とUインター取締役
“共犯関係のエリート”（byターザン）がこの一戦の深みに迫る!!

ターザン山本×鈴木健

元・『週刊プロレス』編集長

元・Uインター取締役

合いの手・山口日昇
［本誌鬼畜編集長］

RADICAL創刊号に実現した超危険対談が6年振りに復活！ Uインターの取締役だった鈴木氏と、「週プロ」編集長時代、同団体をプッシュし続けたターザンの対談は、感動の一戦となった「髙田vs田村」を大総括！ 大炎上！「男の中の男」の試合の、深みに迫りましたよォォ！

山口 さて山本さん、今日はライバルとの対談です（笑）。

ターザン なにぃ？ どういうことだ、それは!?

山口 山本さんと鈴木さんは、同時期にUインター本を出した、いわば商売敵ですよ（P.36参照）。

鈴木 あ、そういうことね。フフフ。

ターザン （鈴木健の本を指差して）いや、そっちは単なるファンの本ですよォォ！

山口 鈴木健は単なるファン（笑）。

ターザン 髙田選手の単なるファンですよォォ！ そしてえ、俺のはプロの本なんですよ!!（興奮気味に立ち上がって）。この2冊の本には、プロとアマの差が歴然と出てる！ バンバン！（本をテーブルに叩きつける）。

山口 でも、このファンの本のほうは、かなり売れてるらしいですよ。

ターザン （急激にテンションが下がって）それはどっちが売れるといったらそっちですよォ。なぜかといったら、そっちにはファンの良さが出てんだよなぁ。

鈴木 まぁ、ファンと同じ立場で見れたのが一番良かったのかもしれないね。

ターザン そういうことです！ いまは、プロは受難の時代なんだよぉ。（投げやりに）大勝ちですよ、そっちの!! しかも鈴木さんはファンというか、もっと言うならば髙田選手のミーハー。ミーハーが成り上がってここまでやったわけだから、これは記念碑的な本なわけです。

鈴木 そうだね。たかが以前は文房具屋だった男が書いたわけだからね。

ターザン そう！ たかが文房具屋！ たかがミーハーが書いたんですよォォ！「たかが」「たかが」「たかが」の、三重奏ですよォォ！

山口 ガハハハ！ 相変わらずトバしますね（笑）。で、妙な前置きはともかく、今回は先日の髙田vs田村戦を含めて、Uインターという存在を軸に、思う存分語ってもらいましょう。

ターザン だったらさぁ、俺はまず、ここで懺悔しなきゃいけない!!

山口 いきなり懺悔!!（笑）。

ターザン だってハッキリ言ってさぁ、俺たちはそんなに髙田選手のことを評価してなかったじゃない？（山口を促しながら）。



引退という予定調和をブチ壊したんですよ！（ターザン）

山口 そこで同意を求められても知りません（笑）。

ターザン いや、そういうんじゃなしに、Uインターは別にして、旧UWFや新生UWFでは佐山さんや藤原さんや前田選手が上にいたこともあって、髙田選手のポジションは高くなかったわけですよ。だけど、鈴木さんは髙田選手が偉大であることを最初から見抜いていたんだよなぁ（鈴木健をジーッと見て、やけに感心しながら）。



「髙田延彦、お疲れさま」じゃなかったもんね（鈴木）

山口 最初から目のつけどころが違ったわけですかね。

ターザン いまごろ評価をしている俺たちはダメだよなぁ、山口さん！ 俺たちは陸上でいうと、大周回遅れみたいなもんですよォォ！ 鈴木健ちゃんは偉い！ ミーハーには見る目がある！

鈴木 フフフフフ。

ターザン 要するにぃ、ミーハーというのは理屈抜きで好きになるけど、俺たちは論理を積み重ねて見るじゃない？

山口 その論理を積み重ねて見た場合、たしかに髙田延彦というのは、トップにしてはちょっと物足りない存在として映った時期はありましたよね。

ターザン 髙田選手はスター性はバツグンだけど、パンチに欠ける部分があったんだよなぁ。思想的にも表に出てることはなかったわけだからさ。

山口 要するに、本質が見えづらいから概念化できなかったわけですよね。

ターザン 前田選手だと概念化しやすいじゃない。いらんこといっぱい喋るから（笑）。

山口 前田日明は数撃ちゃ当たるというか、数撃ちゃ本質を射るという感じですからね（笑）。

鈴木 そうだねぇ（笑）。でも髙田さんも徐々に「レスラー・髙田延彦」というものを形成していったと思うよ。喋りもだいぶ上手くなってきたしね。

山口 Uインターのときの髙田延彦は、恐ろしいくらいに喋らなかったもんなぁ（笑）。

鈴木 マスコミ方面に関しては、宮戸ちゃんや俺がやっていたからね。

ターザン Uインターのときにさ、鈴木健、安生洋二、宮戸優光のことをマスコミが裏でなんて言っていたかわかるぅ？ 三バカ大将と呼んでいたんですよォォ！ そうだろ、山口さん!?

山口 だから同意を求められても知りません。まだ俺は将来ある身なんだから（笑）。

ターザン （無視して）三バカトリオとも言ってたんだよなぁ、俺たちは！ Uインターから『週プロ』に記者会見開催のFAXが届くと、今度はどんなアホなことする

かとゲラゲラ笑ってたんですよォォ。
鈴木　そうなんだ（笑）。
ターザン　ハッキリ言えばぁ、俺たちは鈴木さんのことを蔑んでいたわけよ！
山口　ガハハハ！　つまり山本さんは、Uインターというか、鈴木さんを蔑んでいたことを懺悔したいということでよろしいんですか？（笑）。
ターザン　そうだねぇ。しかも鈴木さんは、いまはまともにこの店（『市屋苑』）を経営してるでしょ？　立派なもんですよ。普通はマット界に毒されたらさ、流れ者になってイカサマ商売するに決まってますよ！

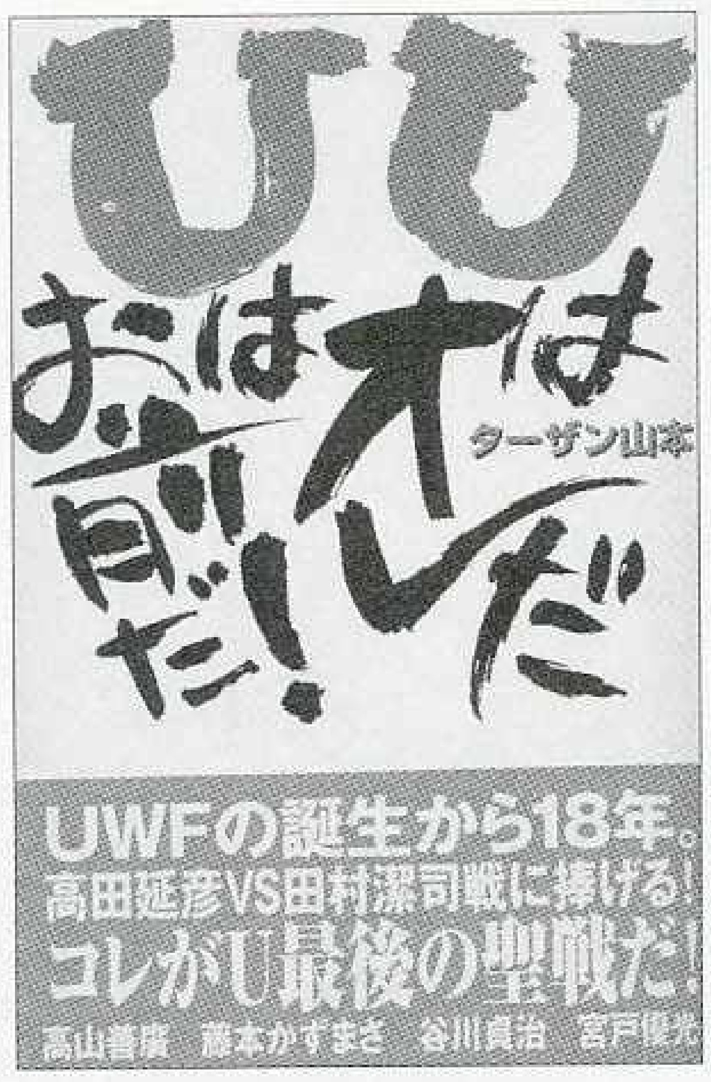


山口　しっかし、今日も言葉を選ばないなぁ（笑）。
ターザン　この店は、健全な市民を相手にやってるんでしょ？
山口　健全じゃない市民を相手にしてる居酒屋って、いったいどんな店だ（笑）。
鈴木　プロレスファンをターゲットにはしてないよね。それは商売というのがどういうものかわかっていたから。前に『舌心』をやったことがあったでしょ？
山口　髙田延彦との共同経営でやっていた店ですね。
鈴木　髙田さんとお金を出し合ったんだよね。バブルが崩壊してダメになったけど、その『舌心』もターゲットはプロレスファンじゃなかった。だって売るのはなにかといったら、プロレスじゃなくて、味や値段であったり雰囲気でしょ。売り物を間違えないようにするのがプロだからね。
ターザン　美しいねぇ！　鈴木さんが言う言葉だとは思えないよォォ！
山口　実にウソ臭く聞こえますけど、真実なんでしょうね（笑）。
鈴木　俺は真実しか言わないから（キッパリ）。いまは店は結果も出てるからね。Uインターで背負った●●●●万円の借金が、いまは●●●万円になったから。4年半でだよ。
ターザン　わかった！　鈴木さんが美しい理由がわかったよ！　それは借金を返そうとするからですよ！　負債を抱えてるときの人間は、美しくなれるもんなんだよねぇ。人間はゼロに戻そうとするときが一番美しいわけよ。ゼロからプラスになろうとするとダメになるわけ。だから鈴木さんはいまが一番美しい！

ターザン山本×鈴木健
髙田vs田村を語り尽くせ!!

鈴木　だったら髙田さんも美しいよ。Uインターのとき、髙田さんには未払いのギャラが4千万円もあったんだから。
ターザン　アチャーッ！　そりゃ髙田選手も美しいわけだよ！
鈴木　それで『週プロ』でやった『夢の架け橋』（95・4・2東京ドーム）に出てもらったときに「ギャラは●●●万です」って髙田さんにお願いしたんだけど払えなくてさ、試合後に「すいません」って頭を下げたら、「いいよ。わかってたよ」って。
山口　「わかってたよ」！　いい言葉だなぁ。結果的に貧乏なのは仕方ないけど、〝貧乏くさい〟のが世の中では一番悪ですからね。Uインターの内情は火の車だったんだろうけど、貧乏くさくなかったからね。
鈴木　だって、そういうことがあったのに、髙田さんは『市屋苑』に来てくれたときに「健ちゃん、これからも頑張ってやっていこうね」と言ってくれて、帰り際に20万円をそっと置いていったの。
山口　鈴木さんの本の感動的なラストシーンの話ですね。
ターザン　そうなの？　俺、読んでないからわかんないんだよねぇ。
山口　読んでないのに「ファンが書いた本」って断言してたんですか（笑）。
ターザン　いや、プロに見えて、俺も相当なミーハーだからねぇ。だから読まなくても匂いでわかるんですよ。
山口　そうですか（笑）。それにしても、『週プロ』をやっていた山本さんも、Uインターをやっていた鈴木健も、当時は〝若気の至り〟でやってたとしか思えないんですよね。あの当時の勢いは、いま考えると〝美しき若気の至り〟です（笑）。
鈴木　たしかに若かったよねぇ。『週プロ』の編集部に殴りこんだときもあったねぇ。
ターザン　だいたいさぁ、〝若気の至り〟なんてものは永遠にやるべきことなんですよ（キッパリ）。
山口　それを髙田延彦が気づかせてくれたんですよね。だって、引退試合であんな衝撃的な負け方はないよね。いくら「強いやつとやりたい」「意味のある相手とやりたい」と思ってても、引退試合くらいは有終の美を飾りたいのが本音でしょ。だから髙田延彦やUインターが「プロレスこそ最強」「挑戦し続ける」というのをブチ上げたのが、例えそれが〝若気の至り〟が発端だったとしても、結果はついてこなかったけど、その方向性にウソはなかった。それを髙田延彦は『PRIDE』参戦後の道のりで示してきたからね。最後まで。
鈴木　いや、あの試合は髙田さんもタムちゃんも、双方が勝ったんだよ。というか、結果的に髙田延彦は勝ったんだよね。途中に急所蹴りを喰らったり、最後はノックアウトされたりしたけど、相手や観客を泣かせたわけじゃない。こないだ某雑誌にボクの携帯のアドレスが載っちゃったんだけど、「あの試合を見てから髙田さんのファンになりました」というメールがいっぱいあったんだよ。そういうのを見てたらね、髙田延彦は勝ったんだなぁと思う。
ターザン　まぁ、勝負の領域の勝った負けたを超越してるんだよね。超越してるところに俺たちの想いがあるんですよ!!　普通の引退試合だったら、みんなが拍手喝采して、何も起こさず予定調和のなかで終わらせる申し合わせができてるわけだよ。でも！　この試合はすべてを打ち壊してるんだもんなぁ。

鈴木　「高田延彦、お疲れさま」じゃないもんね。高田延彦が相手まで指名して、そして介錯させて「オマエは男だ！」とまで言った。でもね、「オマエが男だよ、高田さん!!」って俺は言いたいよね。
ターザン　俺が痺れたのは「田村潔司、よく、このリングに上がってきたな」。あのひと言ですよォォ！
山口　「よく嫌な役割を引き受けた」とも言ってましたよね。
ターザン　でも実は、高田選手も「よくリングに上がってきた」し、「嫌な役割を引き受けてる」んですよ！　あの試合は、お互い秀でていたんだよなぁ……。今回の試合はさ、高田選手がレベルの高い現場にいたからできたんだよね。
山口　絶頂期の新日本やUWFと、高田延彦はその時代性の中でのメジャーを知ってますからね。
ターザン　メジャーを経験しないとダメ！　高田選手はメジャーを知ってるから物わかりが良くなったとは思わないけども、それに近い知性を身につけたんだよね。そこに到達するかどうかですよ、人間は。プロレスラーにはさ、いい意味で物わかりがよくて、いい意味で物わかりが悪い、その二つを併せ持つ人間になってほしいわけよ。
山口　田村が今度「UWFジャパン」を発足させますけど、「U」が再び脚光を浴びたことによって、良くも悪くもいろんなナチュラルアングルが生まれそうですよね。高田さん&鈴木さんと田村が協調していくのか、また揉めていくのかわからないけど、観てる方からすれば揉めたら揉めたで面白いですしね（笑）。
鈴木　どうなるんだろうね？（笑）。
山口　でも、そんな緊張関係の中にいた高田延彦と田村潔司の2人が、あんな大観衆の前で、しかも引退試合というシチュエーションの中で、バーリ・トゥードのルールで試合をしたんですからね。
ターザン　クゥ～ッ！　とんでもないことですよ!!
山口　前号の『紙プロ』でI編集長（井上義啓氏）が言ってたんだけど、高田vs田村戦は道場マッチでやるべきだと。たとえば夜10時ごろ田村が無人の道場に訪れて、まず高田に以前の無礼を詫びて試合をする——。で、凄絶なサブミッションの応酬を精根尽き果てるまでやる。そこでただひとりその試合を見守っていた桜庭和志が、一升瓶を持ってリングに上がり、3人で酒を酌み交わすというね。そういう世界なんじゃないかと言ってるんですよ。
鈴木　ああ、なるほどね。客の前でやるもんじゃないと。





本文中でも触れられているターザン山本・著「Uは俺だ Uはお前だ！」（新紀元社・刊）と、鈴木健・著「UWFインターの真実～夢と1億円～」（エンターブレイン・刊）。前者はレスラー＆関係者らのインタビューを中心にUWFそのものを回顧し、後者はUインター経営に携わった鈴木氏が、その魅力に満ちていた蒼き団体の全貌を顕わにしている。両冊とも即買いの内容

山口　〝井上小説〟の中ではそうなってるそうです（笑）。
ターザン　井上さんは、ひと言で言えば、〝昭和プロレスの変態〟ですよォォ！
山口　ガハハハ！　〝昭和プロレスの変態〟ですか!!
ターザン　〝昭和プロレスの妖怪〟とも言いますよォォ！



山口　井上さんはさらに、『紙プロ』的に見ればこの試合は〝荒野の決闘〟で、黒澤明的世界だと。「そう山口のダンナは解釈してるはずだ」とまで言ってましたね（笑）。
ターザン　クックック！　それは爆笑もんだねぇ（笑）。
山口　俺は今回、そんな妄想をする隙間もなかったんですけどね。なぜだか当日まで気分が張り詰めちゃって（笑）。
ターザン　そもそも〝荒野の決闘〟というのは、勝つとか負けるとか、殺す殺されるとかじゃなくて同性愛的感情でやるわけですよ！
山口　ホモ的感情ってこと？（笑）。
ターザン　そう。ホモセクシャルな感情以外の何でもないよ！　本当にお互いを理解し合うとき、人はホモセクシャルな精神状態になってると思うなぁ。だから勝っても負けてもどうでもいいという感じになるんだよ。ホモセクシャルな感情ですよ、高田vs田村戦は！　バンバン！（テーブルを叩きながら）。
山口　一時期ホモセクシャルじゃないかと噂が立った鈴木さんとしてはどうでしょうか？（笑）。
鈴木　ん～、俺は「いま2人が何を考えながら闘ってるんだろう？」と考えながら見てたけどね。
山口　うん、それは俺もそうですね。
鈴木　田村がいま何を考えてるか？　それがなんかね、手に取るようにわかるのよ。高田さんも何を考えるのかわかるのよ。
ターザン　（頭を掻きむしりながら）カァーッ！　羨ましい！　それは実に羨ましいですよ、鈴木さん！
山口　そこにも嫉妬しますか（笑）。
ターザン　羨ましい限りですよォォ！
山口　井上さんの定義に着地するわけじゃないけど、高田延彦と田村潔司の2人は、数々の記憶や歴史に一旦ピリオドを打つために、〝荒野の決闘〟に仕立て上げた。しかもその決闘を観客の前でやったんですよね。
鈴木　まさしくプロだね！
山口　ですよね。その決闘に〝仕立て上げる〟という感覚が、いまのプロの選手には希薄なんですよ。高田vs田村戦は、俺

は〝オーダーメイドの闘い〟って気がするんですよ。いまは洋服でもわざわざオーダーメイドなんかしなくても、吊しでも既製品でもいいものはたくさんあるし、オーダーメイドなんて、それこそスピード感溢れるいまの時代の中では面倒くさいからやらないだろうけどね。でも、その面倒くさいことをクリアしてこそ楽しみが見えてくるっていうものもあるんですよ。

鈴木　なるほどね。でも他のファンはどう見てたんだろうね？

山口　「高田・命」の鈴木さんの前で言うのもなんだけど、やっぱり新しい『PRIDE』ファンやバーリ・トゥードから格闘技を見てきた人たちからはナマぬるく見えた部分もあるでしょ。1ラウンドが終わったときに一部からブーイングも起きてたでしょ。でも、洋服でも〝仕立てる〟っていうのは、やっぱり思い入れを持って着れるし、それに、いま既製品でも安くていいものができてるっていうのは、これまでの歴史や成功や失敗の上に成り立ってるものでしょ。そういう感覚は大事ですよ。

鈴木　（頷きながら）長い歴史をすべて集約されたものがあるわけだから。だからブーイングしたファンは新しいファンであったり、時が来たら「つまんない」と去っていくようなファンであるんだよね。

ターザン　それはハッキリしてる。彼らに時間軸がないからですよ！　ロング・スタンスの時間軸のなかの起承転結だから、ものすごくスケールが大きいしね。

鈴木　その時間軸を踏まえて上で見てるファンは、最高の試合だったと思うし、逆に知らないファン、そういう彼らにとってはかわいそうだったなと。

山口　でもそういうファンも何か引っかかってるはずだよね。通常のバーリ・トゥードじゃないですからね。例えば「この試合、ムリーロ・ニンジャvsヒカルド・アローナの試合に比べたら、全然ヌルイな」と思ったファンもたくさんいるでしょ、実際（笑）。だけど「何か引っかかるな、この試合は」と思ってるはずですよ。

ターザン　要するに、新日本プロレス、UWF、Uインター、『PRIDE』へと繋がって見えてるわけだからねぇ。これは贅沢なことなんだよ！

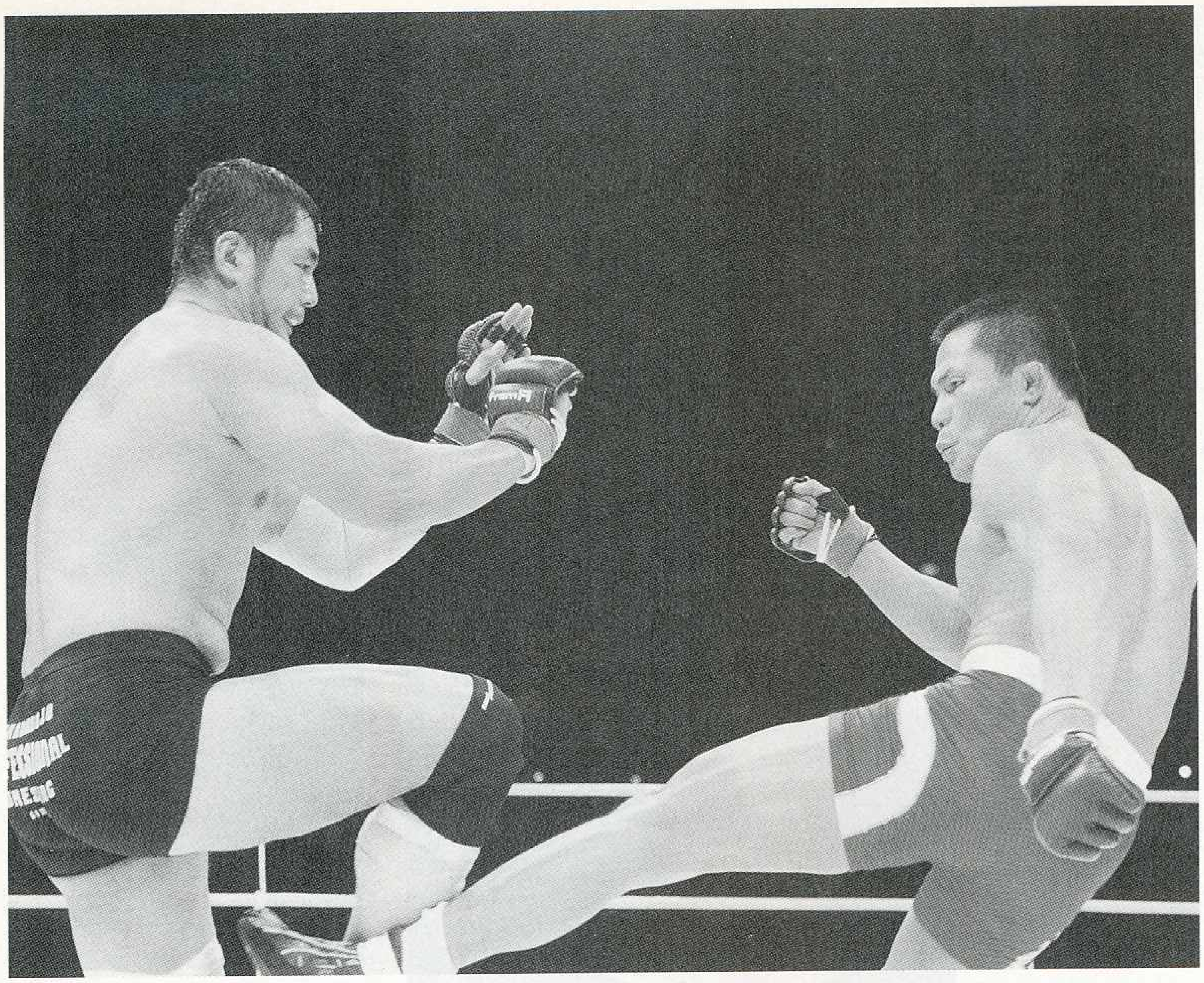
山口　しかも「喜怒哀楽」も全部詰まってましたよね。試合中の田村の表情からは「哀」が見えたし、試合後の晴れ晴れとした高田延彦の表情には「喜」や「楽」も見えたし。

ターザン　そうそう！　だからものすごく思い入れが激しいんだよね。そこが最大のポイントですよ！

山口　この試合のように繰り返し見れるのは、いまとなっては滅多にないことですよ。俺、もうすでに4～5回見てるからね（笑）。メインの桜庭の試合がつまんないって言ってる人も多いけど、あれもVTRで見たら相当面白いよ。イライラしてるサクの表情とか克明に追うと。

鈴木　桜庭もね、あとで足をケガしてたって聞いて、それですべてがわかったよ。

山口　だから、あの大会にはいつもの『PRIDE』では見れない面白さがありましたよ。山本さんも『SRS』で書いてたけ



試合中、2人が何を考えてるかわかったから（鈴木）カァーッ、それは実に羨ましいよ、鈴木さん!!（ターザン）

ターザン山本×鈴木健 高田vs田村を語り尽くせ!!

ど、『ＰＲＩＤＥ』は正真正銘の勝負論の世界」で「本物の強さしか通用しないシビアな空間」じゃないですか。

ターザン　そう、そうなんだよ！　いいこと言うねぇ。

山口　だから山本さんが書いてるんですよ！（笑）。「でも、ちょっとばかりドライ過ぎると思わない？　一歩間違えると、身も蓋もないことになる」とも書いてますよ。たしかに『ＰＲＩＤＥ』は美しい世界だし、厳しい世界じゃなきゃダメなんだけど、そこにウェットな感情が埋め込まれていく隙間があれば、これからまた新しい世界が始まりますよ、間違いなく。

ターザン　それが『ＰＲＩＤＥ』の新しいテーマだよねぇ。

山口　それには、リングに上がる者の中に、闘いを〝仕立てる〟という感覚が必要なんですよね。だから高田vs田村戦みたいな闘いがあったことは『ＰＲＩＤＥ』だけじゃなくて、マット界全体に影響すると思う。『ＰＲＩＤＥ．23』を見た関係者は、「やっぱり身もフタもない世界だけじゃダメだ」って、漠然と感じたと思いますよ。

ターザン　でもそういう世界をつくるのは難しいんじゃないかな、それはもう。

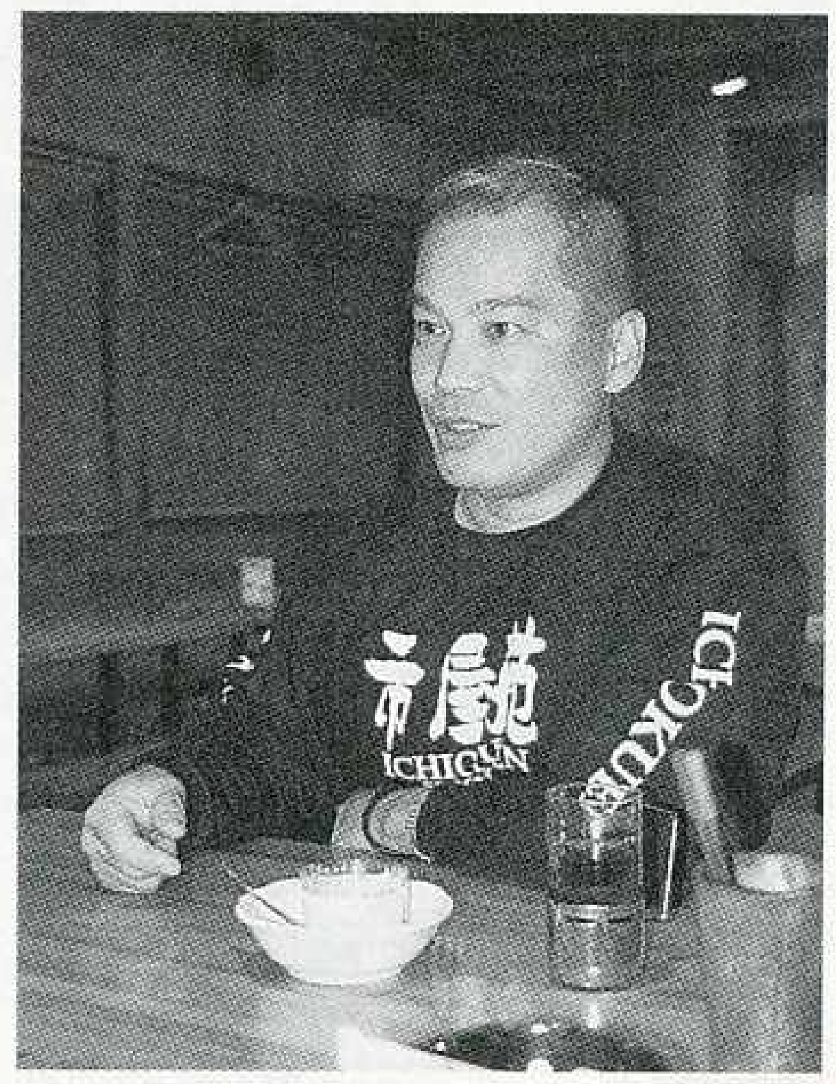
山口　なにを言ってるんですか。それをいまからつくるんですよ。高田vs田村戦で、記憶の貯金は完全に吐き出されたけど、これから新しい時間軸を構築していきましょうよ（笑）。

ターザン　（目をマンマルに丸くして）山口さん、ポジティブだねぇ！　そんな言葉、山口さんから聞くとは思わなかったよ！　山口さんも美しいよォォ！

山口　ガハハハハ！　内舘牧子じゃないんだから（笑）。Ｋ—１や純プロレスで、何度も何度も繰り返して見る試合なんていまはないですからね。

ターザン　やっぱＫ—１とかは、技術とファイティング・スピリットの攻防に終始するからね。打撃が中心になると身もフタもない世界になるんだよなぁ。

山口　でも高田vs田村戦みたいな試合を見せられちゃうと、改めて気づくわけじゃないですか。闘うほうも膨大な時間をかけて闘い、見るほうも時間をかけて見て解釈していくっていう、実に面倒くさい作業を必要とするものこそ面白いって。だってアローナやニンジャに、ああいう試合ができるかっていったら逆立ちしたって無理ですよね（笑）。





あれは命懸けの1億円だったからね（鈴木）

だからその思いを信じて表紙にしたんですよ！（ターザン）

ターザン　言っちゃ悪いけど、彼らにとっては、そんなことは無駄なことなんですよ。必要ないもん。そんなもの持っていたら勝てないよ！

山口　だから山本さんも以前に言ってたけど、時代そのものがいまはハイスパートですからね。井上さんが言うような黒澤明の世界だとかさ、２人にしかわからない〝荒野の決闘〟だなんてのは、ハイスパートな時代の価値観の中では不必要に思えちゃいますからね。だからこそ、真剣勝負の中で「喜怒哀楽」がどれくらい出せるか、プロとして闘いを〝仕立てる〟という感覚が持てるかどうかが問題になってきますよ。吉田秀彦もバカ強いのはわかったけど、その感覚が問われてきますよ。

ターザン　それはね、人間的な器量がものすごく問われますよ！

鈴木　いや、吉田は高田さんと同じ心を持った格闘家になれると思うけどな。

山口　先見の明がある鈴木さんが言うんだからそうかもしれない（笑）。

ターザン　いや、鈴木さんが言うんだから吉田はスーパースターになりますよ！　しかし、鈴木健さんの感覚というのは皮膚感覚なんだなぁ。見直した！　俺はただのチンピラだと思っていたよ！

山口　ガハハハ！　右に同じく。

ターザン　Ｕインターは〝ガキ帝国〟だと思っていたからね。

山口　ガハハハ！　Ｕインターは〝ガキ帝国〟！　でも実際そうでしたよね？（笑）。

鈴木　怖いもんもなかったしね（笑）。

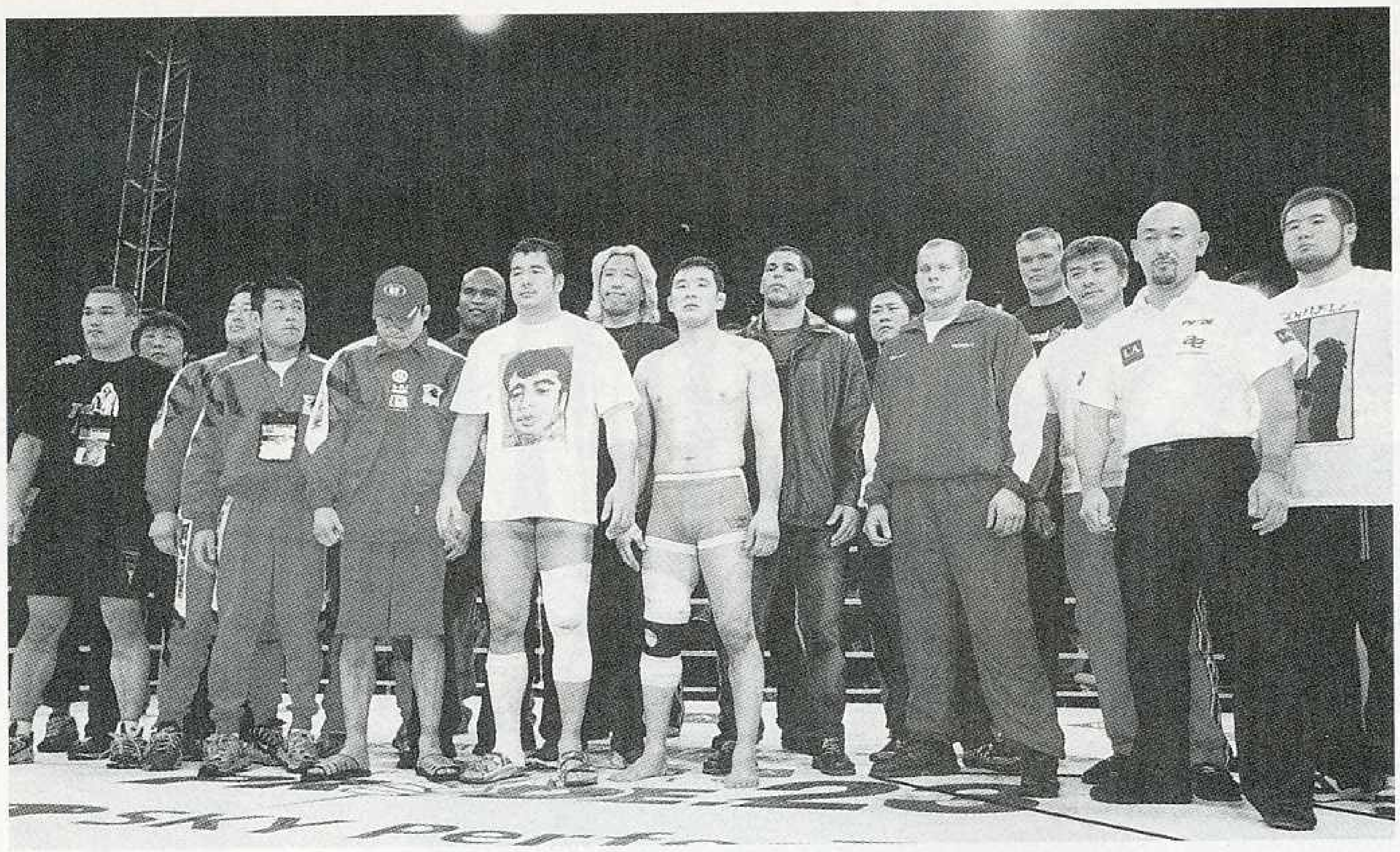
山口　世の中にはままならないことはないと信じて突っ走ってたわけでしょ。それをプッシュしてた『週プロ』も凄いですよ。

ターザン　ただ勘違いしてほしくないのは、俺たちはベッタリしてないんですよ。お互いに横を向いて、ちょっと牽制しながら意識してたんだよなぁ。馴れ合ってなくて、ケンカしながら共犯する。これはぁ、最高のエリートのやることなんですよォォ！　バンバン!!（テーブルを叩いて炎上）。

山口　エ、エリート！　そこにフローチャートが行くとは思わなかったな（笑）。

ターザン　違う？　共犯関係とは約束し合いながら意志を確認して、煮詰めていって企むわけでしょ。俺らは全然打ち合わせするわけでもないし、Ｕインターは勝手にやってる。『週プロ』は『週プロ』で勝手にや

ターザン山本×鈴木健
髙田vs田村を語り尽くせ!!



ってる。でもお互いに標的が一緒だったんですよ！　反骨の精神や時代を撃つという感覚で、何の打ち合わせもしてないのにお互いの意志が通じ合ってる。こんなエリートいるか!?　これぞ人間関係のエリートですよォォォ！　バンバン（再び大炎上）。

山口　ガハハハ！　人間関係のエリート!!

ターザン　エリートの共犯関係である、俺と鈴木さんにしかできないですよ！　エリートかつ天才なんですよ、俺はァァァ!!（山口に顔をくっつけ詰め寄りながら）山口さん！　何で俺がエリートで天才的かわかるか!?

山口　まったくわからないので、教えてください！（笑）。

ターザン　類い希なね、比類なき人間だからですよ！

山口　たしかに比類なき人間です（笑）。

ターザン　俺も鈴木さんも、あの時代は本気だったんだよなぁ（しみじみ）。

鈴木　美しい共通の財産を持ってるよね（ニッコリ）。

ターザン　（まったく無視して）ハッキリ言ってさ、俺は鈴木健さんを表紙にしたこともあったからねぇ（目の前に現金1億円を積んだ、通称『1億円トーナメント』開催会見のとき）。

鈴木　本当に感謝してますよ。ボクたちがやったことを評価してくれたわけですからね。いまでもその表紙は、額に入れて店に飾ってますよ（笑）。

山口　トイレにね（笑）。

ターザン　ドガーンとやったんだよなぁ!!　誰ができる?　あんな表紙！　俺しかできないよォォ！……しかし、あの表紙のときは、鈴木さんは凛々しい顔してたなぁ。

鈴木　ちょっとやめてよ（苦笑）。

ターザン　いや、ハンサムないい顔！　俺は鈴木さんの顔を見た瞬間、これは本気になってるんだなと。ウソじゃない。信じ切ってやってるんだなぁと。だから俺もその思いを信じ切って表紙にしたんですよ！

鈴木　あれは命懸けの1億円だったから。3～4日で集めるの大変なんだから。

山口　いやぁ、ホントに〝美しき若気の至り〟ですよ。

鈴木　そういう意味では俺も命を懸けていたんだよねぇ。

山口　でも、当時の髙田延彦というのは鈴木さんたちの気概とはちょっと違うポジションにいたように見えたでしょ。ファンから見るとピラミッドの頂点にいて保守的な存在にも見えた。神輿に乗っかってるのがまんざらでもないんだなって見られていたのも事実なわけですよ。

ターザン　わかるわかる。

山口　でも一連の『PRIDE』の闘いで、髙田延彦にも〝美しき若気の至り〟があったのが証明されたもんね。グレイシーへの挑戦にしても、『1億円トーナメント』にしても、「誰の挑戦でも受けます」って言ったことも、「プロレスは最強でなければならない」っていう理念も、本気だったなと。

鈴木　結局Uインターができたのも、髙田延彦がいたからというのも事実だからね。そして、『PRIDE』を作ったのは髙田延彦であったし、それを隆盛に導いていったのは桜庭。桜庭はプロレスファンが溜まっていた鬱憤を晴らしてくれて溜飲を下げた。そういう功績にファンがガーッと集まってきたんだよね。ファンも気持ち良くなりたいから。そして気持ち良くさせてくれる最高の場が『PRIDE』なんだよ。

ターザン　それは、要するに〝バトンタッチの思想〟なんだよね!!

山口　〝バトンタッチの思想〟！

ターザン　新日本からUWF！　UWFからUインター！　そしてUインターから『PRIDE』にバトンタッチされた。Uインターは死んだんだけど、終わったんだけど、崩壊したんだけど、でも髙田選手と桜庭選手が何かを『PRIDE』にバトンタッチしたんですよ！

鈴木　さすがプロ！　いやぁ、いいこと言うね!!（笑）。

ターザン　たとえ滅んだとしても敗れたとしても、バトンタッチするのものがあれば、絶対にィ、敗れざる者になるんですよ。たとえ無くなろうが、何かをバトンタッチすれば最後に絶対に勝つんですよ！

山口　利己的遺伝子みたいなもんですね。

ターザン　時代が変わっても移行されてるわけですよ。

山口　グレイシーやバーリ・トゥードが出現したことによって「プロレスなんかチンケだ」「プロレスなんか弱い」という風潮が広まる中で、髙田延彦は乗せられてではなく、「我こそは」という気持ちで、その思想に従順だったんだよね。

ターザン　髙田選手はその思想に殉じたんだよな！　美しい殉死。ある意味殺されたんだけど、こんな名誉なことないよ！

山口　髙田vs田村戦を山本さんは『SRS』でリポートしてるけど、田村にピンスポットを当てながら書いてますよね。「美しすぎる介錯人」っていうコピーもいいですよ。だっていままで引退試合で「介錯」されることなんて皆無でしたからね。

鈴木　「介錯人」かぁ……。凄いよね!!

山口　「UWF、時間軸、記憶、髙田vs田村戦のポイントはそこに尽きた。田村が帽子を被って現れた。その帽子を脱ぐと頭は丸刈りだった。そのシーンを見ただけで、そうか、そういうことかとわかった」と、

Uインターは崩壊したけど、髙田選手が『PRIDE』に“何か”をバトンタッチしたんですよ！（ターザン）

ターザン山本×鈴木健 髙田vs田村を語り尽くせ!!

ターザン山本さんという人は思ったらしいんですよ（笑）。

ターザン 俺が書いたの？ ま〜ったく覚えてないねぇ。

山口 「こういうことはノゲイラやシウバには必要ない。必要もない。田村はプロレスラーである。プロレスラーはどんなことにも伏線を張る。意味を持たせる。ディテールの部分でも表現にこだわる。その表現するものが、意図するものがひとつのメッセージになっている。何でそんな面倒くさいことするのか？」とも書いてるんですよね。ホントここ重要なんだけど、「何でそんな面倒くさいことするのか？」ということに尽きるんですよね、今回の一戦は（笑）。

ターザン いやぁ、しかし、凄くいい文章だねぇ！

山口 また自分を自分で褒めますか（笑）。つまり、髙田vs田村戦というのは「面倒くさい」のひと言に尽きるわけ。でも、その「面倒くささ」が面白いんだよね。（笑）。

ターザン 面倒くさいことをやるのは本当に粘り強い精神が必要だよね。ギブアップしないというね。

鈴木 あの試合は、深い……深いよ！

山口 これまでの時間軸を考えれば、闘った2人も面倒くさいことは腐るほどあっただろうし、関わった人も見る人も、面倒くさかったと思うんですよ。でも得体のしれないエネルギーは渦巻いてましたよね。

鈴木 最後にすべての人たちの涙を出させたんだから、結果的に素晴らしいことだったんだよね。だから、今回この座談会を読んで、もう一度巻き戻して試合を見てごらんと。彼らの歴史を知らなかった人たちは、それでわかるはずだよね。

ターザン しかし、この試合があったことで、鈴木さん、救われたね！

鈴木 フフフフ。本当にね（笑）。







ターザン 最後の最後でものすごく救われたね！ だって鈴木さんが一番言いたかったことを、髙田選手が最後に現実として見せてくれたわけでしょ。それによって人の涙を誘ったわけだからね。

鈴木 最高だねぇ。俺たちがやっていたのはUインターだけじゃなくて、プロレス界が隆盛していくためで、それが大前提で突き進んできたけど、今度は新しい人が変わってやってほしいよね。

山口 それこそさっきのバトンタッチの思想ですよね。で、鈴木さんは、来年Uインターの同窓会興行はやるんですか？

鈴木 その前に、Uインターの内臓の立場だった宮戸優光が本を出しますよ!!

ターザン エェッ、あの宮戸優光が！

鈴木 俺はファンの立場から書いたけど、プロレスラーの立場からの本を宮戸ちゃんが書いてます。プロレスはこうあるべきとか、スパーンやオブライトの出会いとか、俺が書けなかった部分についてね。

山口 タイトルは「Uインターの逆襲」ですか？（笑）。

鈴木 いや、「Uインターの内臓」じゃない？（笑）。

山口 ガハハハ！ ファンの視点から書いた本の次は、内蔵の視点から見た本（笑）。

鈴木 自分の本の倍は売れるだろうな。宮戸ちゃんの本が出た暁には、ボクの本と両方セットで持ってくれれば、『市屋苑』で生ビールを一杯サービスしま〜す（笑）。

ターザン （羨ましそうに）俺の本は何もないのぉ？

鈴木 山本さんの本も併せて3冊持ってくると、軟骨の唐揚げを出しま〜す（笑）。

山口 ダハハハ。軟骨の唐揚げ（笑）。

ターザン いやぁ〜、今日は鈴木さんを見直したよ!!

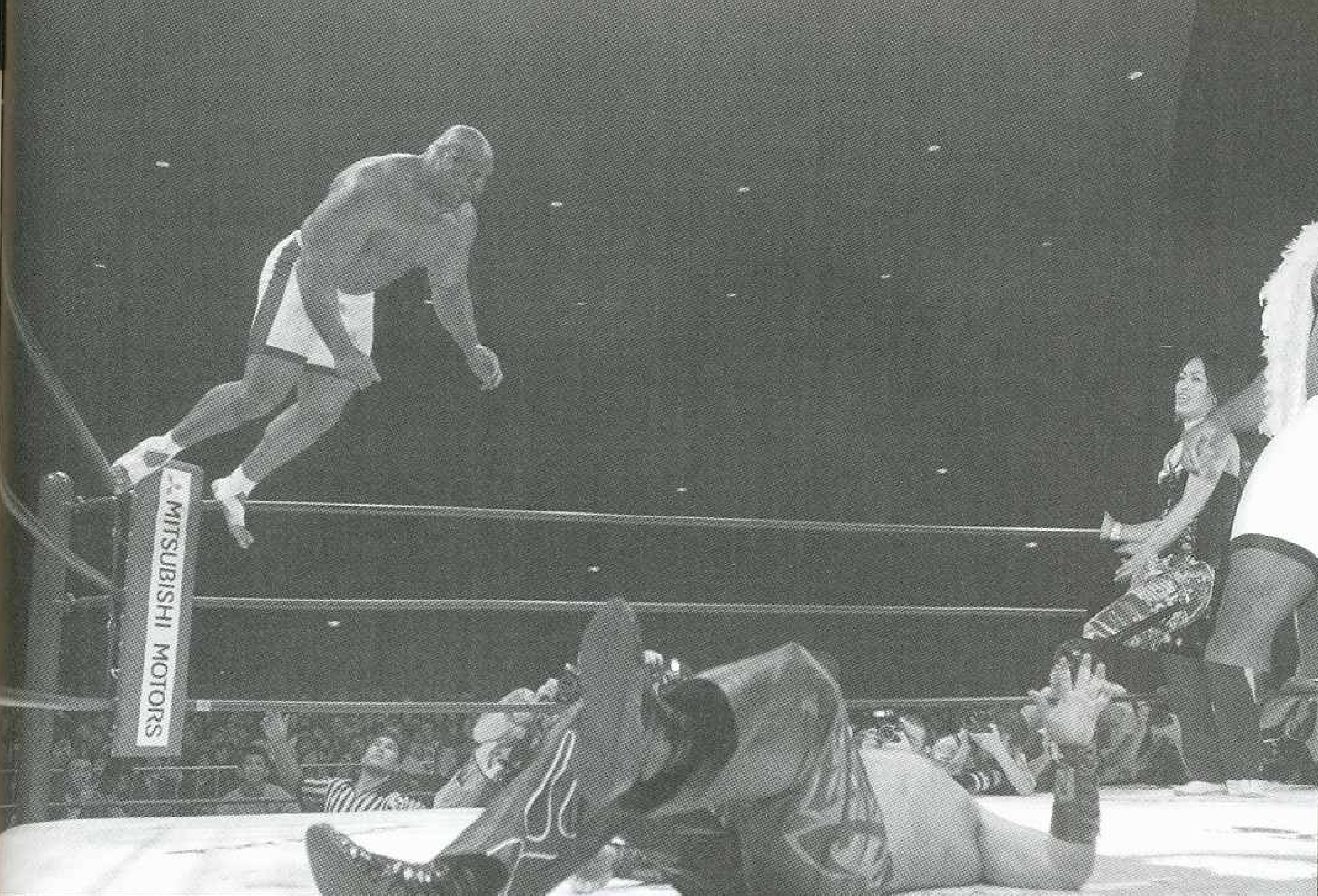
山口 さ、こんな締めじゃなんだから、最後にひと言お願いしますよ（笑）。

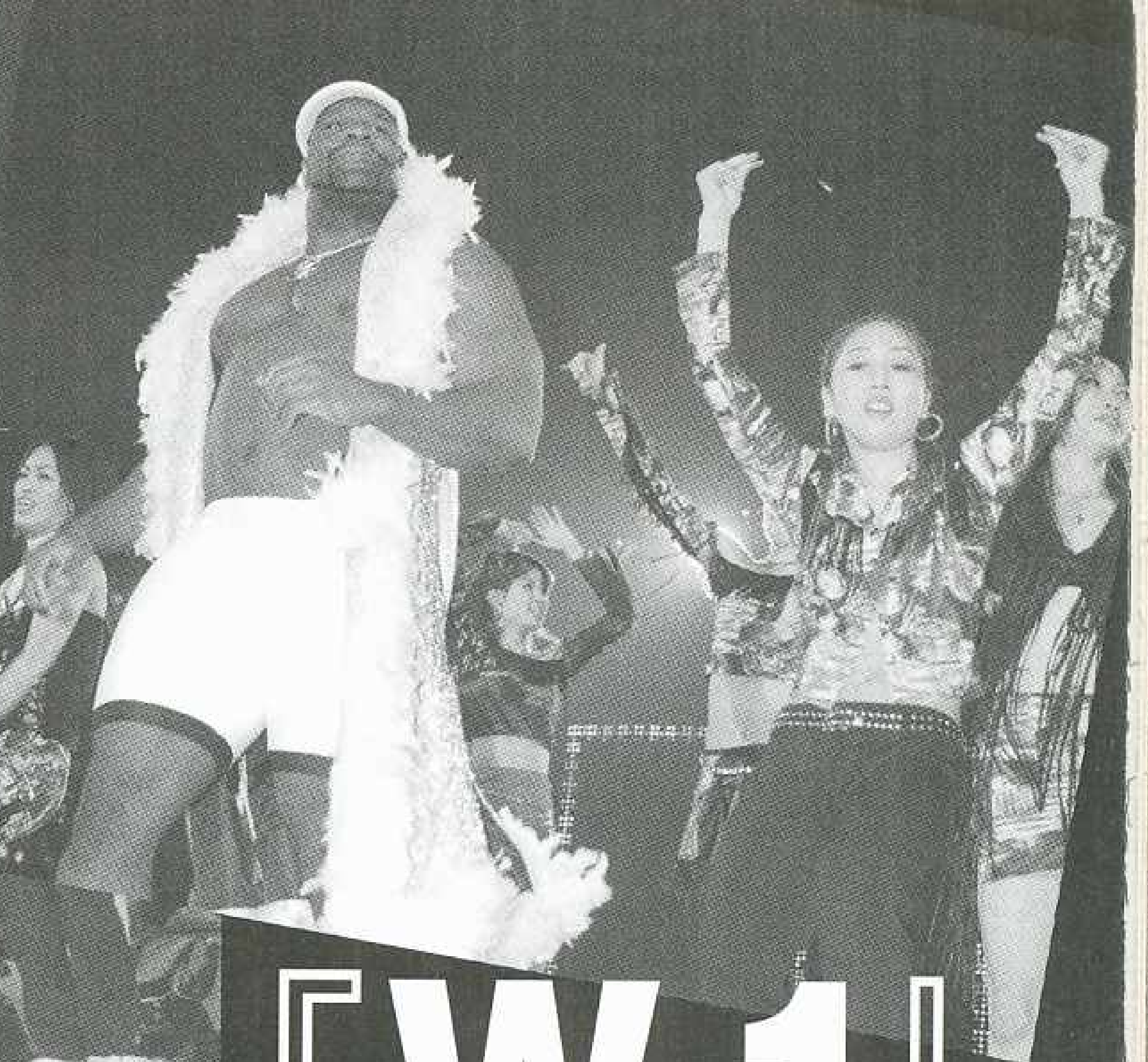
鈴木 そうね……。髙田vs田村戦は素晴らしい決着だった。さっきも言ったけど、髙田延彦がすべて自分でやった。「髙田さん、オマエが男だよ！」っていうことだあ、電話だ!!（携帯から田村潔司の入場テーマが鳴り響く）。

山口 ガハハハ！ 「髙田・命」の男の着メロは田村潔司のテーマ（笑）。鈴木さん、アナタも男です！

ターザン やっぱり鈴木さんは能天気だよオォォォ!!

【02年12月4日／東京・世田谷区用賀「市屋苑」にて収録】





『W-1』、“棚橋事件”から『WJ』そして新・高橋本まで



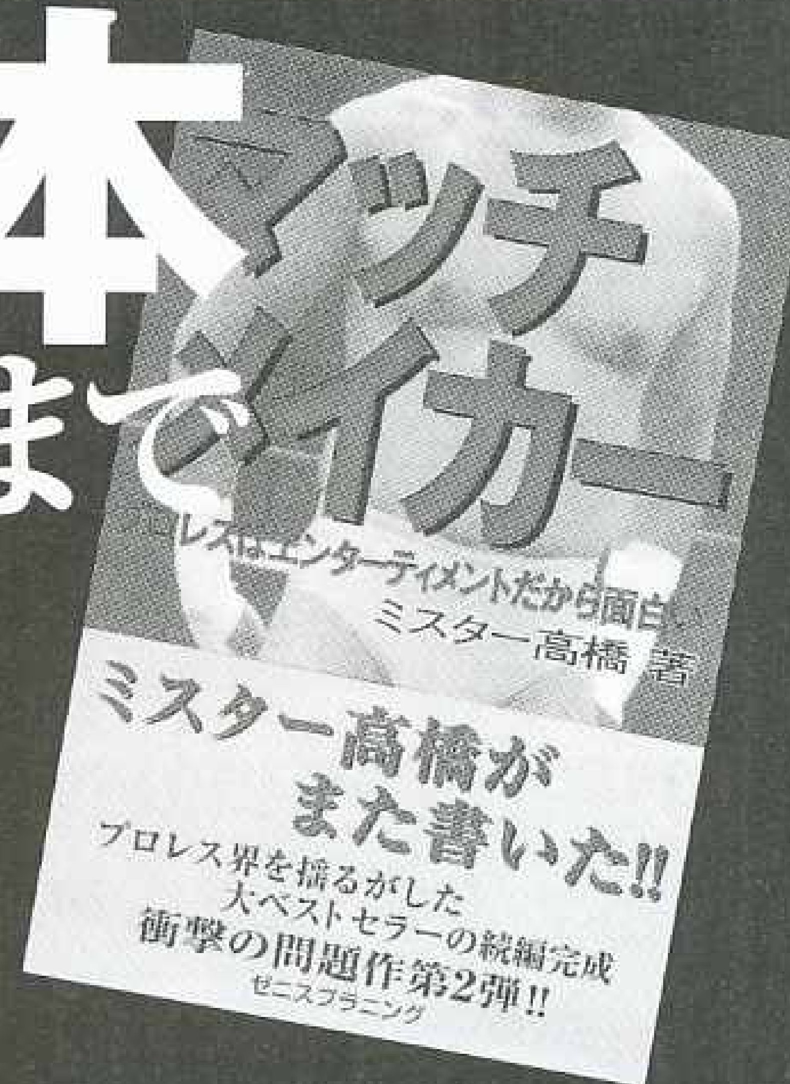












構成／松澤チョロ
designed by matsu（Two three）

この1ヶ月のマット界をぶった斬り!!

山口日昇&吉田豪 月刊Y²談

ムタvsサップの11・17『WRESTLE-1』、髙田引退試合の11・24『PRIDE23』、みのるvsライガーの11・30パンクラス等々、ビッグマッチ連発となった11月後半のマット界。リング外でも棚橋事件や高橋本第2弾発売など話題てんこ盛り。てなわけで急遽、新連載開始！ この1ケ月のマット界の出来事を山口日昇と吉田豪のYYタッグがぶった斬る!!

『W-1』は、プロレスじゃないっていう形にすればゴールデンで放送できることを実証した（山口）

――え～、今回から唐突に新連載が始まります！　山口&吉田のYYタッグで、その月にマット界で起きた出来事をワイワイ語っていくというコーナーです。

吉田　（冷たく）あ、そういう小ネタ？

山口　お前は、いつ何時でも肝心のテーマは考えないで、小ネタだけは考えてるね。

――（聞かないフリをして）で、この1ヶ月といえば、まず11・17に横浜アリーナで『WRESTLE―1』（以下『W―1』）が行われたわけですけど、吉田さん的にはいかがでしたか？

吉田　会場で見た限りは面白かったよ。進行がスムーズなだけでもこんなに違うのかって驚きもあったけど、入場時に風が吹いたのもやっぱり驚いたね。

――でも、それは前々号で関係者Xさんがインタビューでも言ってましたし、ある程度予想できたじゃないですか？

吉田　いや、ノブなんかもそうだったけど、風力が弱くて風が吹いてることに気づかない人が予想以上に多かったから、そこにまた驚いたんだよ（笑）。

山口　（アブドーラ・ザ・）ブッチャーのテーマ曲の「吹けよ風、呼べよ嵐」とともにステージに設置された2台の最新鋭大型扇風機から、そよそよそよ～っと風が吹いてたんだよね。

吉田　だけど、アリーナ席ぐらいまでしか届かなかったんですよ。風だけじゃなくて、嵐も呼べれば良かったんですけどね。もちろん高木功じゃなくて（笑）。

山口　あ、キミも小ネタに走るわけ？

吉田　いや、一応（笑）。あと、「象が出る、出ない」で話題になってたけど。

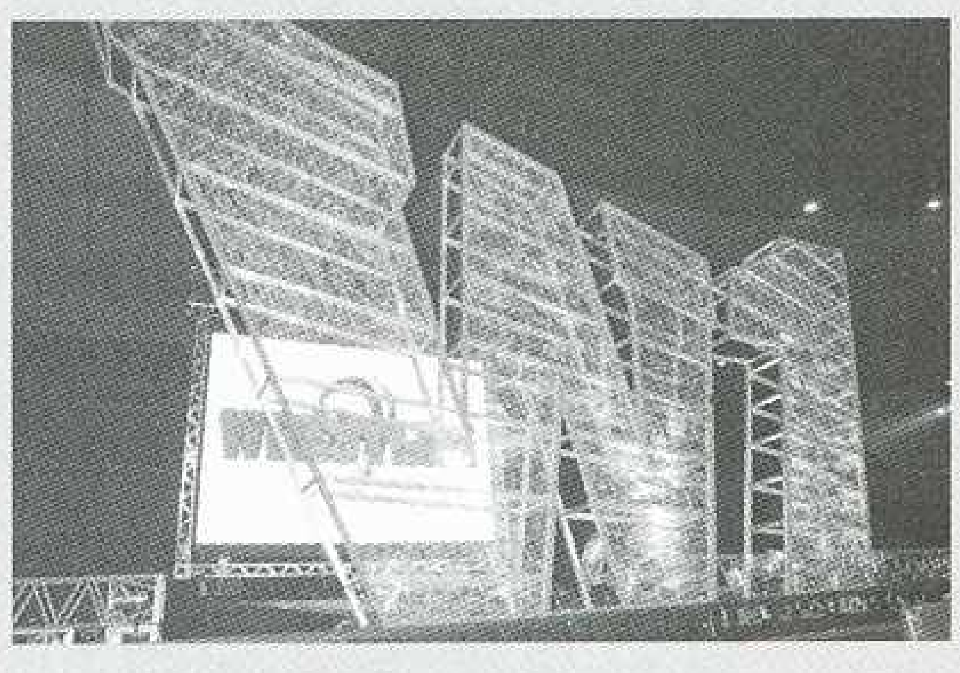
山口　は？　象がどうしたの!?

吉田　煽り番組で「象が出るかも」みたいなことをテレビ側の人が言ったら、噂広がっちゃったんですよね。だけど、ボクが思うに、あれはモーニング娘。がやってる『キダム』のCMネタなんですよね。「象は出ないの、象は？」って言って「象は出ません！」となる。つまり、出ないのを前提にあらかじめネタ振りにしてたのを、みんな鵜呑みにしちゃったわけですよ。

山口　ああ、そういうフジテレビ的なネタ振りなんだ。細かいなぁ（笑）。

吉田　それも含めて、「プロレスではない何か凄いことが起きるらしい」って煽りで過大な期待を抱かせる部分がかなりあったから、期待外れって声も多かったですけどね。

山口　いま『キダム』で思い出したけど、要は『サーカス』っていう言葉だと手垢が付きすぎたイメージになっちゃうでしょ。それが『サルティンバンコ』とか『キダム』ってパッケージになれば、新しいイメージを植えつけられるって感覚だよね。『W―1』は、そういう感覚で仕立ててると思えばわかりやすい。だから、キックボクシングじゃなくて『K―1』、プロレスじゃなくて『W―1』っていう形にすれば、ゴールデンタイムでもできるってことを実証したわけでしょ？



11・17『WRESTLE-1』横浜アリーナ大会の花道に設置された巨大な「W-1」オブジェ。この他にも演出面では従来のプロレス会場とは一味違う様々な試みが見られた

吉田　実際、「プロレス」って言葉は放送禁止になってたみたいですからね。

山口　ただ俺、ゴールデンタイムで放送されたものはまだ見てないんだよなぁ。

吉田　あれは良かったですよ！「この後、さたやんが使った凶器は何でしょう？　1・たわし　2・金だらい」みたいに、試合途中でクイズにしたのも凄いんですけど、さたやんの試合はそれで終わりなんですよ！

山口　ガハハハハ！　なぜだ!!

吉田　その後、試合もオチもないっていう画期的な編集で（笑）。「佐竹がしょっぱいから、どうしよう」「でも佐竹もブッチャーも有名だから、素材としては欲しい。じゃあクイズでいいか」みたいな、ある意味シビアな編集でしたね。深夜枠バージョンも、普通なら気を遣ってやらないような編集をしてたし。あの長すぎた（ケンドー・）カシンとかの試合も短くして、試合後の冗長なネタも削ってるから、けっこう面白く見れたんですよ。

山口　でも、会場で見たファンの声的にはおおむね好評だけど、PPVや地上派放映の評判は芳しくないよね。当然プロレス村からは批判の声や戸惑いの声も多いし。新日本の上井取締役が「演出や資本は確かに凄かったけど、リングの中まで演出されたような気がした」ってコメントしてたけど、プロレス村の反発みたいなものがあるとすれば、それに象徴されてると思うんだよ。

吉田　ぶっちゃけた話、外部からリング内まで演出されるのを嫌った試合っていうのがカシンの試合であり、そして破壊王の試合だと考えていいわけですよね。

山口　うん。まずそうでしょう。

吉田　演出を嫌って反発した試合が面白くなるんだったらいいけど、その2試合がワーストバウトになっちゃったというのが象徴的だと思うんですよ。

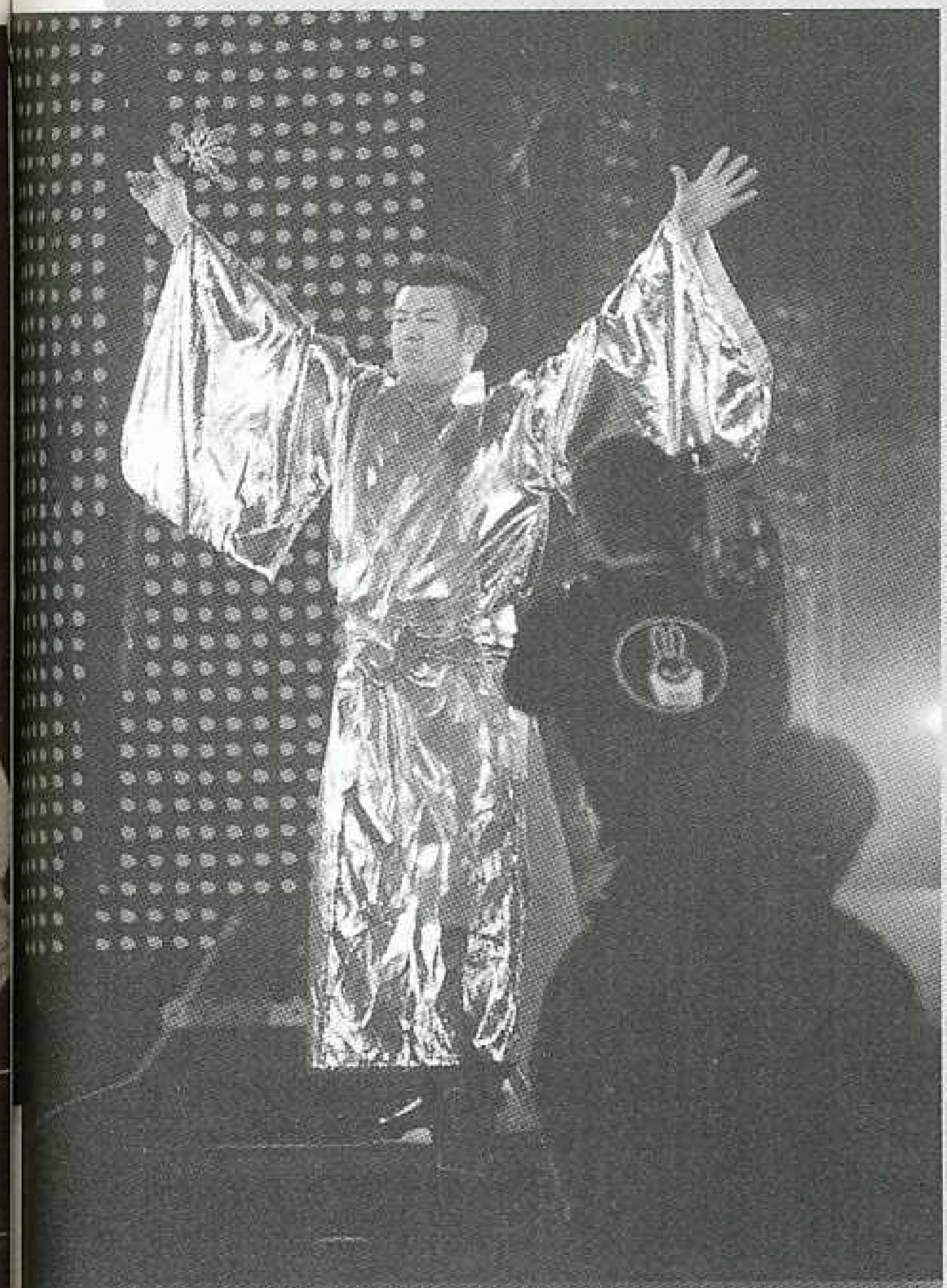
山口　だから、そこでわかるのは、いままではプロレス村に住民票のない人間が入ってきたり、外部の資本が入ってきた時に、反骨心をぶつけたレスラーや団体が支持を受けたんだけど、『W―1』ではそういった現象や機運がなかった。これは時代を表す、歴史的で象徴的な出来事なんだよね。

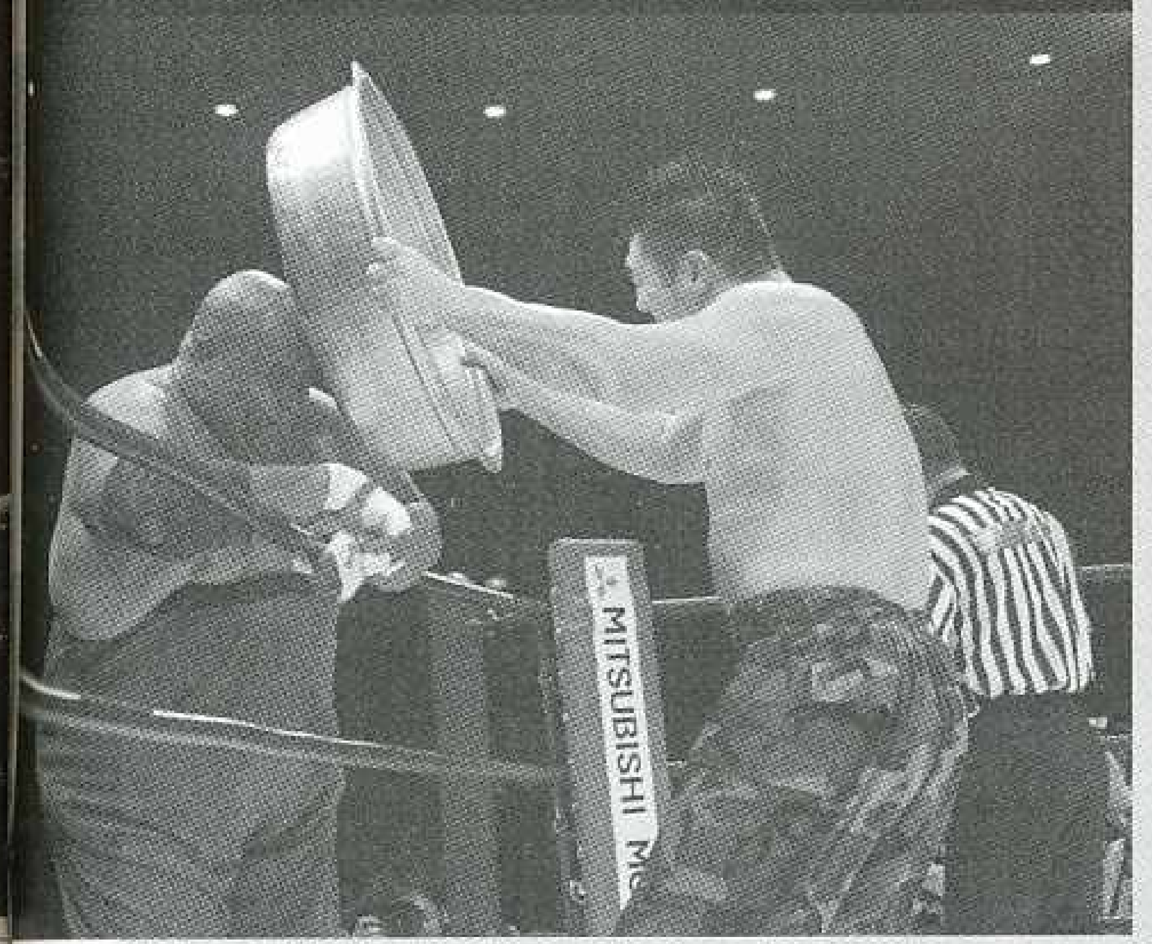
吉田　そういえば馳先生も演出を嫌ってたようなことを『ファイト』で言ってましたけど、あれは会長（山口日昇のアダ名）的にどうなんですか？

山口　いや、ズバリ言って馳先生は汚い！（笑）。本人は『W―1』の方向性は完全支持してるはずだし、その意味だって誰よりも汲んでるはずなのに、村に対しては「外部の関係ない人たちが、あーだこーだと指示を出すのは不愉快だ」みたいなことを言ってるんでしょ？

吉田　演出にある程度乗っておいて、ああいうことを書くっていうのが、さすが国会議員だと思いましたね。どっちにも転がれ

るようにしておくっていう。
山口　まあ、二枚舌もはなはだしいよね、馳先生は（笑）。
吉田　結局、昔『ギブUPまで待てない！』で山田邦子に噛みついたらファンに支持されたのが、いまでも忘れられないでいるんじゃないですかね（笑）。
山口　反骨精神を見せないとファンの指示を得られないと思ってるんだったら、馳先生の感性も器量もそこまでってことですよ（笑）。反発のための反発じゃ届くわけないんだから。『W−1』の誕生をきっかけにプロレスが新たな方向性に踏み出すには、馳先生の能力は必要不可欠なはずなんだけど、そういうのを聞くと先生も保守的すぎるよねぇ。まぁ、先生はこざかしい戦略として、わかった上でやってるんだろうけどさ（笑）。
吉田　ただ、残念なのは外部の演出に乗った選手がちゃんと光ったわけでもなかったじゃないですか。試合のレベル的に、とことんエンターテインメントの試合ができたかっていうと、まだできてない。じゃあ、とりあえず様子見しておこうと思う馳議員みたいな選手も出てくるだろうし、そこが批判の対象だと思うんですよ。
山口　その批判してる人たちが言いたいのは、「乗るんなら、とことん乗れ」ってことなの？
吉田　それと、「拒否するなら、とことん拒否しろ」ってことなんじゃないですか？
山口　じゃあ今回の『W−1』でとことん乗ってた選手は誰？
吉田　武藤さんには、そういう覚悟が見えましたよね。ただ、サップ戦もゴールドバーグの試合も含めて、メイン2試合がエンターテインメントとしての出来が悪かったのが問題なんですよ。他の試合は、格闘家が参戦したりでレベルが低くなるのは見る側も覚悟してるじゃないですか。だからこそ、上の2試合でキッチリ締めなきゃいけなかったのに、それがプロレスラー同士でもできなかったと。ターザン（山本）は『W−1』はエンターテインメントなんだから試合はあれでいい！」「試合内容は関係ない」みたいな感じで言ってたけど、それが大きな誤解なわけですからね。
山口　試合内容的には、格闘家も含めた豪華なメンツだからこそ、もっと見せれなきゃいけないんだよ。そこはハードルを上げとかないとね。
吉田　あと、やっぱりストーリーラインの重要性は感じましたね。WWEではトイレで小便ひっかけられたとか、くだらない理由で抗争が始まったりするけど、それでも「闘う意味」がちゃんとしているんですよ。





ある意味、『W-1』で一番の話題となったのがSATA...yarnこと佐竹雅昭のプロレスデビュー戦。入場シーンや金だらい攻撃等、衝撃シーンの連続。ホーリー5はどうなるの？



俺は『WRESTLE-1』とはナマコである」っていう定義をしたんだけど

日本だとプロレスの闘う意味としては、もともと日本人対外国人というわかりやすい対立構図があったのに、いまじゃそれもZERO−ONEぐらいにしかなくなってるじゃないですか。
山口　あれは一見さんにもわかりやすいから、地方でも確実に届くんだよね。
吉田　闘う意味が新日本隊vsTEAM2000にあるかっていったら、絶対ないだろうし。「本隊ぶっ潰す」系の説得力の無さは、いい加減考え直した方がいいですよ。「潰して何があるんだ？」っていうビジョンが無い限り、そこに説得力は生まれないですからね。
山口　WWEは「あれはプロレスじゃない」だとか、「あれはアメリカのもの」という切り口から語られることは多いけど、実はまさに〝プロレス〟なんだよね。「闘う意味」や「闘うテーマ」を見せるっていう部分でいえば。
吉田　そして、日本では「闘う意味」を『PRIDE』が奪っちゃったじゃないですか。
山口　つまり、ガチンコをエンターテインメントにした『PRIDE』、肉体劇と心理劇を噛み砕いた形で展開していくWWE。そこには一番ファンに届かせなければならない「テーマ」が存在するんだよ。いまの日本のプロレス界にはそれが欠けてるから、小ネタのオンパレードになっちゃうでしょ。
吉田　『PRIDE』みたいに、「この2人がなぜ闘わなければいけないのか？」って意味をちゃんと作って、それをビジョンで一見さんにも説明してあげるっていうことすらしてないですからね。新日本隊がなぜ魔界倶楽部と抗争してるかなんて、確実に誰も知らないですよ。会長、わかります？
山口　いや、わかんない（笑）。
吉田　前はゴールデンタイムにテレビ中継されてたから説明しなくても良かっただろうし、なおかつ説明しなくてもわかるようなプロレスだったけど、それが週刊誌時代になってからそれを読む層を基準にしてプロレスが多少ややこしくなった。そこで止まっちゃってると思うんですよ。
山口　でもさぁ、毎週、専門誌を読みこんでる人なんて、いまやもうほとんどいないでしょ？
吉田　ヒドイこと言いますねえ。いまでもいますよ、たぶん1万人ぐらいは（笑）。
山口　どっちがヒドイんだよ！（笑）。いま、俺が軽はずみに「毎週、専門誌を読みこんでる人なんていない」って言ったけど、そういう発言を聞いたら週刊誌を作ってる人たちとか怒るでしょ。『週プロ』の佐藤（正行）大編集長なんて「それを言ったら

ダメなんだよぉ」なんて、売れないターザンみたいなジェスチャーしながら必ず言うと思うんだ（笑）。

吉田　ましてや、「『週プロ愛モード』を見る人はいても、『週プロ』を読む人はいない」とか言い切ったら、確実に怒るでしょうね（笑）。

山口　だって、佐藤大編集長は「『週プロ』の部数が落ちたのは『週プロ愛モード』のせいだ！」って言い切る感性の男なんだから（笑）。だけど、俺も『週プロ』は読まないけど、『週プロ愛モード』は見てるよ。いま40歳の大台を目前にした俺でさえそうなんだから、週刊誌を読みこんでる層なんて、そんなにいないよ。その少ない層を相手に、なにやら込み入った小ネタをやってもしょうがないでしょって話なんだよね。

吉田　実際、ボクも仕事が絡んでなかったら『週プロ』は読んでないと思いますよ。

山口　こんなこと言ってたら営業妨害で訴えられるかな？（笑）。でもさ、それはウチも含めて、『週プロ』だけの問題じゃなく業界全体の問題なの。そういう現実と向き合わないで、「俺がやってることをバカにするな！」とか「俺がやってることを否定するのか！」とか、そういうレベルのこだわりの仕方をしてたらダメなんだよ、もはや。極端に言えば、週刊誌にしたって、週刊という形態や紙媒体に必要以上に執着する必要はないわけさ。

吉田　活字はネットであれ携帯であれ、活かしようはあるわけですからね。

山口　うん。で、そういうことは『W—1』と他団体の関係にも言えるんだよね。

吉田　『W—1』でいうと、外部のテレビスタッフが「従来のプロレスではゴールデンタイムに耐えられない」みたいなことを言うと、「お前ら、俺らがいままでやってきたことは何だと思ってんだ！」って怒る人が出てくるというか。

残念だったのは外部の演出に乗った選手がちゃんと光れなかったこと



山口　出るでしょ。従来のファンも、新参者にはいい顔はしないでしょ。みんな、新しいものが出てくると、自分の居場所が無くなるっていう不安で閉じこもるわけ。でも、猪木さんじゃないけど、居場所なんて「見つけろ、テメェで！」って話でさ（笑）。

吉田　せっかく、いま未来を見据えた動きが始まったわけですからね。まあ、明るいかどうかはともかくとして（笑）。

山口　結局、『W—1』側が言いたいのは、「あなたたちが培ってきたものを、もっと新しい形で華を咲かせましょうよ」ってことなんだろうから。プロレス団体が、そこで素直に応えたり、『W—1』が投げかけたテーマを吸収していけるかどうかが、今後のマット界の課題になるだろうね。そういえば、この間、俺の知り合いが三谷幸喜にインタビューしたら、こう言ってたんだって。「よく『あの気持ち悪いナマコを一番最初に食べた人は偉い！』っていう話があるけど、ホントに偉い人は二番目にナマコを食べた人だ。大体一番目にナマコを食うなんていうのは、ほとんどがキ●ガイか、つまはじき者か、みんなからバカにされてるヤツなんだ」って。

吉田　確かに、ボクの近所でもザリガニを生で食ってるキ●ガイはいましたよ。

山口　ガハハハ。つまり、最初に得体のしれないナマコを食べたときには「あいつならナマコぐらい食うよ」って感じで、「あいつ」が主役になっちゃう。「ナマコ」は主役にならない。で、二番目に食べる人が出てきて、初めて「あの人も食べて『おいしい』って言ってるんだから、ホントはナマコっておいしいんじゃないの？」となる。そうなってやっとナマコは〝食品〟として存在していくわけでしょ。「だからホントに偉いのはナマコを二番目に食べた人だよ」って三谷幸喜が言ってたらしいんだよね。

吉田　プロレスで例えると、猪木さんが最初に永久発電を作ったとか言っても「あぁ、また始まった……」で終わるわけじゃないですか。それをちゃんとビジネスにする人が入ってきたら、その人が偉いってことですかね。

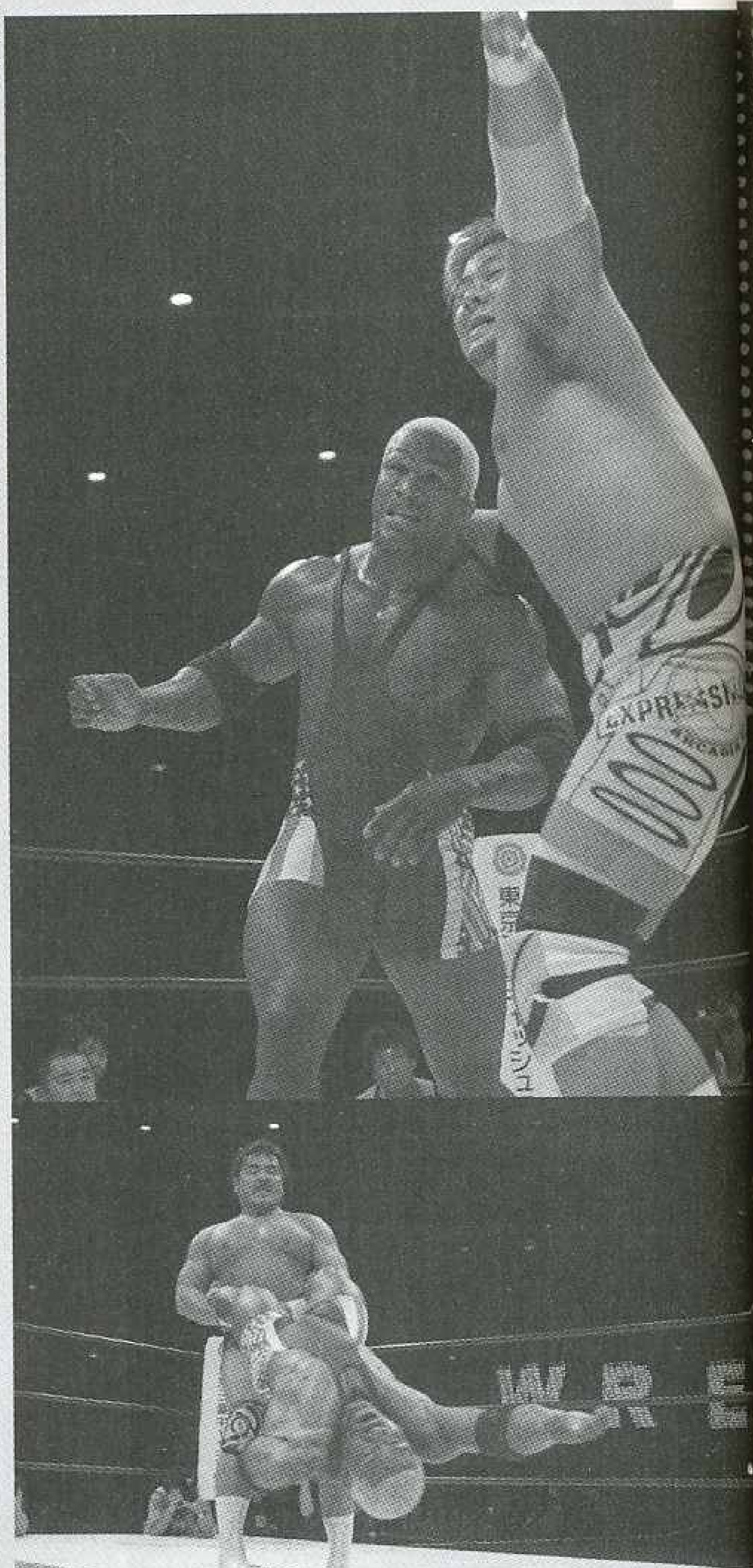
山口　そういうこと……かな？　それで初めて猪木さんがやったことが光るというか、永久電気も光るというかね（笑）。だから、そういう意味で、俺は「『WRESTLE—1』とはナマコである」っていう定義をしたんだけどね。

吉田　なるほど。それは、わかりやすく言うと「武藤がキ●ガイ」ってことですか？

山口　誰もそうは言ってない（笑）。まぁ、『W—1』もまだちゃんとは光ってないしね。結局、そういう中で『W—1』がやったことがプロレス界で活かされるとしたら、どんどんパクられていくしかないと思うんだよ。二番目にナマコを食う奴は誰だ？ってことが試されるし、そうなって初めて『W—1』の意義が見えてくるはずだから。

吉田　他団体が意固地になって、演出もない段取りの悪い興行をやり続けたってしょうがないですからね。とりあえず、使える部分だけでもパクればいいし。

山口　『W—1』側は、むしろ『W—1』が提示したものをどんどんパクるんだったらパクって、自分たちのところを良くすればいいじゃんっていう意識だと思うよ。『W—1』は団体じゃないしね。そういうことから言うと、『W—1』で立ち昇った意義みたいなものを一番吸収してほしい団体は、個


格闘家タッグのコールマン＆ランデルマン組と対戦した馳＆小島組。小島がいつもの雄叫びをあげる瞬間、ビジョンには「いっちゃうぞ　ばかやろう!」との文字が映し出された

人的にはZERO―ONEなんだよなぁ。

吉田　ボクは圧倒的に新日ですけどね！

山口　あっ、そう。俺は新日に関しては『W―1』がやったことなんて、とっくの昔にやってなきゃいけないと思ったんだよ。あれだけ体力があって資本力がある以上、絶対できたんだから。ただ、いまのZERO―ONEにそれを望むのは酷なんだけどね（笑）。

吉田　失敗したら一発で崩壊ですよ（笑）。

山口　でも、あれぐらいの演出の中でのZERO―ONEを見たら楽しいと思わない？

吉田　あの演出の中で大谷（晋二郎）vs小島（聡）とかやったら、日本のエンターテインメントとしてかなりのレベルになるんでしょうね。

山口　そう！　そこなんだよ！　いまはZERO―ONEの両国大会前だから実際どうなってるかわからないけど、大谷vs小島っていうのは当日は盛り上がるだろうし、熱戦になるよね、確実に。でも、ZERO―ONE vs全日本のジュニアの対抗戦にしてもそうなんだけど、既存のプロレスのフォーマットにいまは戻っていくべきじゃないと思う。既存の宝石を既存のショーケースの中で光を当てても、盛り上がりから内容から想像できちゃうんだもん。

吉田　手探りなことをやって面白かったZERO―ONEが、急に確かな物を求めちゃったって感じはしますよね。むちゃくちゃ安パイというか。

山口　しかも、それがいまは安パイにすらなってないことに気づいているかどうかなんだよ。確かに両国では大谷vs小島は会場的には一番盛り上がると思うよ。でも、そのパイの盛り上がりだけで満足してたとしたら、ボクらの支持してるZERO―ONEは一体どうなっちゃうの？って（笑）。

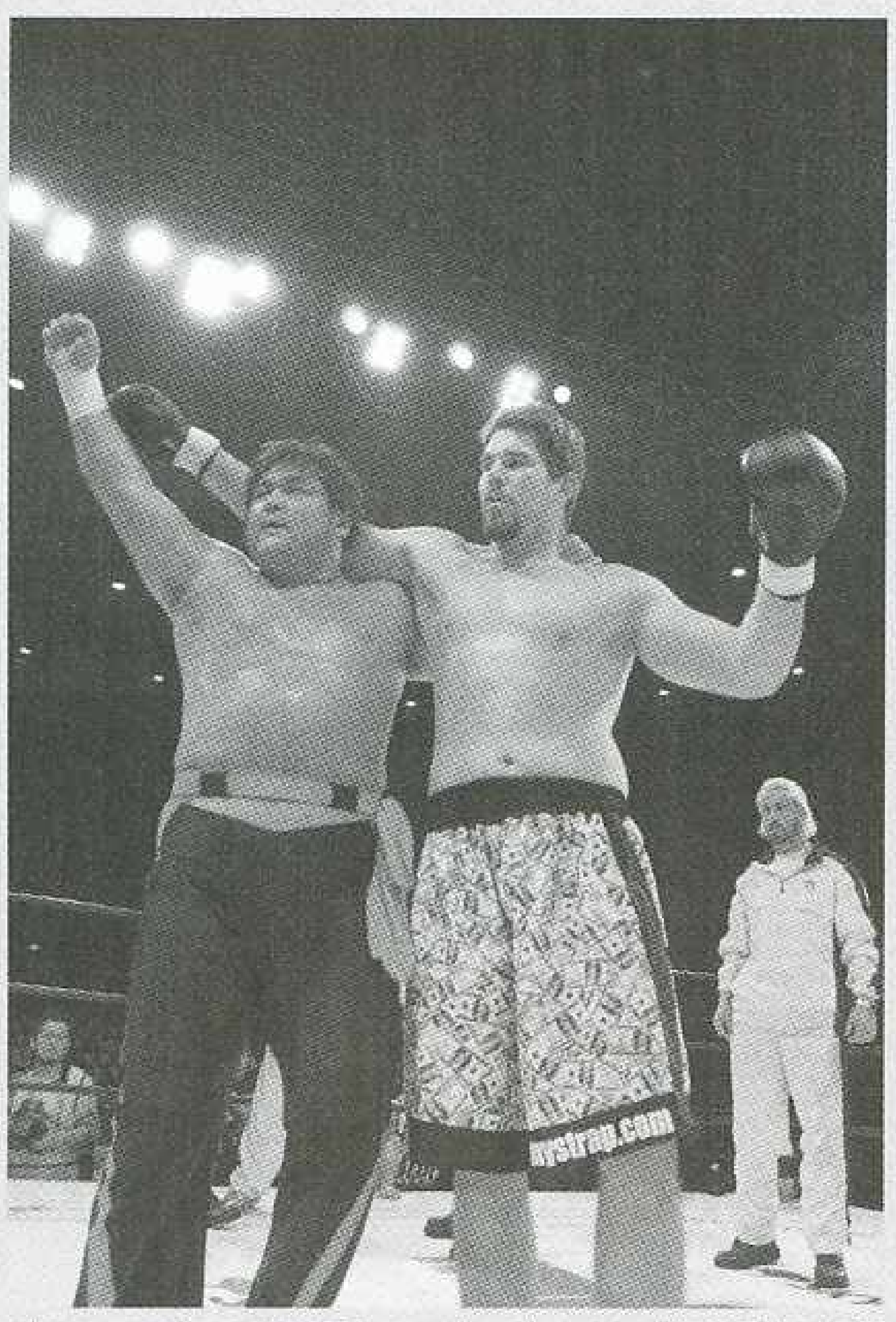
吉田　そういうものが見たいんだったら、NOAHにでも行ってますからね。

山口　こういうときこそZERO―ONEには、いままでやらなかったことをやってほしいよね。プロレス業界に限らず、ホント不景気になればなるほど、追いつめられれば追いつめられるほど、人間って、自分たちのできることしかやらなくなるからね。こういうときこそ、自分たちができなかったこと、やらなかったこと、できそうもないことにチャレンジしなきゃしょうがないだろうって、ワタクシは思います（笑）。

『W-1』で立ち昇った意義を一番吸収して欲しい団体はZERO-ONEなんだよ（山口）


『W-1』の実況席にはK-1、『PRIDE』でお馴染みの三宅アナ、さらにターザン山本、浅草キッドらが並んだ。破壊王の試合からは蝶野正洋がゲスト解説として加わった

吉田　破壊王も『W―1』を過剰に意識するあまり（ジョシー・）デンプシー相手に真撃チックな試合をやっちゃったりとか、何かズレ始めてるような気がするんですよ。『W―1』のような流れに敢えて反発して、そういう「怖いプロレス」をやろうとする気持ちはわかるんですけどね。


ゼロワンでも、まだ実現していないデンプシー戦を提供した橋本だったが、観客の盛り上がりはイマイチ。危ない男・デンプシーも子供が産まれた喜びから、何故かいい人に

山口　破壊王がよく言う「緊迫感のあるプロレス」を見せようとしたわけでしょ。それは意識としてわかるんだけどね。むしろ逆に、破壊王が活きる舞台装置って意味では、『W―1』のやったことなんかはいいヒントになるはずだけどね。『W―1』は実験ができる舞台ってことなんだから。

吉田　具体的には、どんな実験ですか？

山口　『W―1』の舞台で、大谷と小島に勝負させると仮定するよね。そこで直接対決をさせるんじゃなくて、例えば東京ドームの観客全員にスイッチを持たせて、大谷と小島が別々に試合をやると。2人とも「熱さ」にかけては他人には負けないという自負があるでしょ？

吉田　つまり、「どっちが熱いのか、ゴチャゴチャ言わんとお客さんがハッキリさせたらいいんや！」ってことですか？

山口　そう。渋谷駅前にある何ホーンって出る騒音を測る装置を会場に設置して「どっちの声援が高かったか？」を計測するとかね。そういう実験をやってほしいんだけどね。ダメ？（笑）。

吉田　でも正直言って、普通に「2人が何年振りかに闘います」って言われてもピンときませんからね。なんだか、ケロちゃんの不愉快な前口上まで幻聴で聞こえてくる気がするし（笑）。

山口　新日本で何回もやってたでしょって話だし、大谷vs小島の「行き着く先は？」と言えば「一勝一敗の論理」みたいな世界に落ち着いてしまうんじゃないって思われちゃうわけでしょ。

吉田　近頃の対抗戦というか、何一つ対抗もしていない交流戦に刺激を感じないのは、そういう部分なわけじゃないですか。

山口　そういう状況じゃ、大谷と小島がいま闘う意味の芯が見えてこなきゃ、大きな意味で後に活かされないでしょ。だったら、「小島！　どっちが熱い試合をやるか競おう。俺たちの相手は観客だ！」って言えば、新しい勝負論が提示されるわけだし、それはプロレスの本質を示すことにもなるでしょ。大谷と小島が別々に試合やった後に、2人が再びリングに揃って、ファンの判定を待つと。そうなったら、大谷と小島がイベントに出るモチベーションも上がるはずだし、大谷応援団も小島応援団も、ZERO―ONEファンも全日本ファンも気合いが入るし、一見さんも能動的に声援を送りやすいでしょ。あれだけ『W―1』に能動的なファンがいたんだから、むしろそういう方がファンの熱を取り込みやすいと思うけどね。ダメ？（笑）。

吉田　『W―1』は夢が膨らみますよね。ボクは小川vs北尾をやってほしいんですよ。

「どっちがホーガンか？」っていう、〝ホー魂伝承マッチ〟なんですけどね（笑）。

山口　ガハハハハ！　ホーガンの魂ね（笑）。

吉田　ホーガンは立会人で、「オマエの方がホーガン！」って手を上げるだけでいいんですよ（笑）。それならWWEとの契約問題にも引っ掛からないだろうし。結局、ボクに言わせれば『W―1』は「現代のSWS」っていう定義なんですよ。お金によってアメリカンプロレスと格闘技スタイルを融合させて、豪華な演出で見せるわけですからね。

山口　試合内容の評が低いのも、SWSっぽいしね（笑）。

吉田　しかも、最初の予定通り武藤の獲得に成功して、さらにターザンも抱き込んだ理想のSWS。これで予定通りホーガンと天龍が加わってたら、『W―1』は完全にSWS化してましたよ！

山口　でも、天龍とホーガンが上がったところで、何をやらせるかによって全然違ってくると思うんだよね。

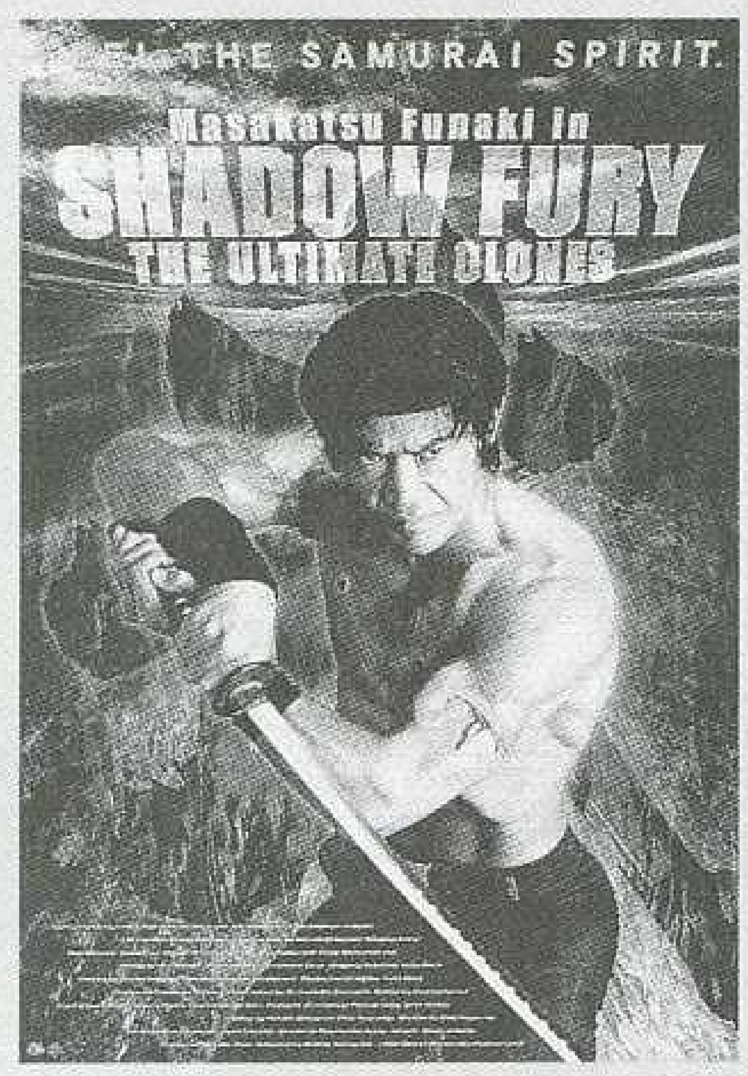
吉田　ホーガンはアメリカでは輝いてますけど、日本に来たらダメになりそうな匂いがプンプンするじゃないですか。新日ドームにブルータス・ビーフケーキとセットで来ていた頃の、使い勝手のないホーガンみたいな感じで（笑）。

山口　つまり、「誰が出るか」とか「誰vs誰」っていうのは、興行的にも視聴率的にも一番大事なポイントに変わりはないんだけども、そういうなかで「誰が出て、何を見せるか？」っていう部分の「何を見せるか？」という部分が一番重要なわけでしょ。何をテーマにするかっていうところが。

吉田　ホーガンをただ引っ張ってきただけじゃ、絶対にWWFと同じ熱狂は生まれないですからね。

山口　たとえばゴールドバーグを呼んだら、「ゴールドバーグが何をやるのか？」「ゴールドバーグに何をやらせるのか？」っていうことだと思うんだよ。で、いま俺は敢えて「何をやらせるか？」っていう言い方をしたけど、その「何をやらせるか？」っていう物言いに対して、プロレス村の住人は意義を唱えてるわけでしょ？

吉田　馳議員が怒るポイントも、そこなんでしょうね。プロレスラーに対するリスペクトがないっていう。



山口　「プロレスラーのプライドが許さない」とかね。それは十分に理解できるんだけど、じゃあ「プライドってなんですか？」っていう根っこの部分まで行っちゃうもんねぇ。だって、「何をやらせるのか？」っていう物言いに怒る人たちに、「じゃあアナタたちはどんなプロレスを見せたいの？」って聞いても答えられないと思うよ。漠然と「対抗戦」とか「夢のカードを」って言うくらいで。

吉田　そんなこと言っても、いま本当にリアリティがあって、なおかつ夢のある対抗戦になるのなんて、対PRIDEなり対K―1なりしかないでしょうからね。

山口　だったら、外部の人の仕掛けに頭ごなしに反発するんじゃなく、乗っかってみる器量も必要だと思うよ。特にいまは。だから、上井取締役の言うように「リングの中まで演出されるのはゴメンこうむる」というのは十分わかるんだけど、じゃあ「あなたたちのこだわってるプロレスって一体何なの？」ってことを、いまは突きつけられてるわけでしょ。

吉田　「それをリングで見せてくれよ」っていうところですよね。ただ、レスラーを従わせるためには、やらせる側にそれだけの力も必要なわけじゃないですか。石井館長が直に指示を出すとか、わかりやすいヒエラルキーがあればまだいいんだけど、バラエティ斑のディレクターやADに言われたら反発したくなる気持ちは確かにわかるじゃないですか。

船木の言語センスや天然キャラは『W-1』のような舞台でこそ光る（吉田）

山口　うん。でも、たとえばそれがスポーツ斑やドラマ斑だったら、そうはならないんだろうか？（笑）。

吉田　この前、松本人志さんのインタビューをやったんですけど、そのときも「食べ物を粗末にしたとか抗議が来るのはバラエティだから。ドラマで粗末にしても、まず抗議はこない」って話になったんですよ。

山口　じゃあ、『W―1』が批判される原因は、「バラエティ斑が作ったから」なの？（笑）。

吉田　たとえば『キダム』の演出家や『劇団四季』の演出家が作ってたら、もっと違った結果になってた気はしますけどね。で、やらせる側の説得力に話を戻すと、「サップがムタに勝ったと思ったら幕が下りてきちゃいました。つづく」じゃ、エンターテインメントとして致命的にダメなわけじゃないですか。再び幕が上がったらサップがいないとか、ブッチャーと入れ替わってるとか、何らかのオチがないと（笑）。やらせる側に凄いことができる保証があるんならまだしも、あれを見せられちゃうと「まだ全部は任せきれないな」と思っちゃいますよね。

山口　でも、いろんな批判が出てきていいんじゃない。だからこそ、実験を続けていくっていう『W―1』側の姿勢は試金石になりえると思うし。

吉田　とりあえず、いろんなことがわかりましたからね。さたやんがダメだってことも含めて（笑）。

――希望も課題も多い『W―1』ですけど、これからどうなっていけばいいと思いますか？

山口　わかんないよ（笑）。『W―1』は単発イベントだから、どうやって「闘う意味」、すなわちストーリーラインを作っていくかっていう課題もあるでしょ。主催する側が「毎週中継するわけじゃないから、ストーリーラインはいらないんだ」って考えてるのかもしれないし。いっそ、単発イベントで続けるんだったら、船木誠勝が電撃復帰してホーガンと闘うとかの夢があった方が面白いよね。「プロレスでもない格闘技でもない新しい海にボクは船出します」みたいな形で船木が出てくればね。

吉田 "海人"なだけに（笑）。「これこそが21世紀のプロレスです」って感じで出てくれば。

山口 船木vsライガーのエキジビションマッチが新日本の1・4ドームで企画されてたらしいけど、そうした従来のフォーマットの舞台に出るより、船木は断然輝くと思うな。生まれ変わったイメージで出てくれば。『W―1』みたいな舞台で活きる能力は、あまたのレスラーに比べれば段違いにあるだろうしね。

吉田 船木の「おら、死なねば駄目だ」的な言語センスや、ようやく世間に浸透してきた天然キャラも、エンターテインメントの舞台でこそ光るはずだし（笑）。

山口 なんでそっちの方向に持っていくんだよ（笑）。ライブで見せるアクション俳優っていう、新ジャンルを切り拓くヒーローになれるよ、船木だったら。そういう舞台に出たら、もっと映画出演のオファーも殺到するでしょ。

吉田 現役じゃないと仕事が来ないのは、大仁田を見ればわかりますからね。……って、ボクらはいまさら『W―1』の話ばかりしてていいんですか？

山口 でもホント、先月は『W―1』と『PRIDE』の高田vs田村戦しか記憶に残ってないからなぁ……。その『W―1』のことすら、もう忘れそうなんだけど（笑）。

吉田 WJのことは完全に忘れてますね（笑）。

山口 ああ、長州力の団体だっけ。ところでWJって、どういう意味なの？

吉田 ワールドジャパン、つまり「世界日本プロレス」ってところですかね（笑）。3月1日に横浜アリーナで開催される旗揚げ戦の大会名が『MAGUMA―01』っていうのも、ちょうど『M―1』が騒がれてる時期だからピンとこないし。

山口 漫才トーナメントの方ね（笑）。マスコミに配られたプレスリリースとかの文面や記者会見のやり方、その周辺の匂いみたいなものは、言っちゃ悪いけど、20年遅れてるって感じがするんだよね。

吉田 まあ、ジャパンプロレスで時代が止まっている長州力と、ヘルレイザースや電流爆破マッチの成功で時間が止まっている背広レスラー（永島勝司）との団体ですからね。そりゃあ、ホーク・ウォリアーも襲撃予告ぐらいしますよ（笑）。



WJに関しては別に何もないけど、長州ブランドは本気で見たい（吉田）

山口 長州力は「業界のド真ん中を突っ走る」って言ってるんでしょ？

吉田 ちなみに『ゴング』（NO946）ではWJの記事は中カラーの部分だったから、とりあえず「業界"誌"のド真ん中」は突っ走ってるんですけどね（笑）。

山口 ……やっぱりWJプロレスを話題にするのは無理があるわ。俺的には全く興味ないもん。……とか言ったら、旗揚げ前から取材拒否確実だなぁ（笑）。豪ちゃんは、長州のどういう姿を見たい？

吉田 いや、別に何もないですよ。長州力が目の前にいたら、真鍋アナみたいに「長州さんの電流爆破マッチが見たいです！」って、心にもないこと言っちゃいそうですけどね（笑）。ただ、あれは本気で見たい。長州ブランド『ROCK UP』！

山口 ブランド？ じゃあ、長州が「俺に文句があるヤツは言ってこい！ ロックアップしてやる！」とか吠えてたのは、ブランドの宣伝だったわけ？

吉田 知らないですよ（笑）。ただ、マグマ、WJ、ROCK UP、ヘルレイザース復活、荒井社長の騒動を経た大仁田、それに電流爆破と、時代から取り残されたつら〜いキーワードばかり揃ってる感じがビンビンしてますよね（笑）。

山口 不思議なことに、俺の周りでもWJプロレスっていうのは全く話題になってないんだよ。まあ、旗揚げまでまだ時間があるから、もう少し煮詰まってきたら爆発するだろうけどね。

吉田 マグマなだけに（笑）。会長的には、WJより棚橋（弘至）の事件の方が興味あるんじゃないですか？

山口 ああ、大事件があったらしいね！

吉田 浮気相手にナイフで背中を刺されて、肺に達しちゃったんですよ！ 会長は、ああいう目に遭ったことはあるんですか？

山口 刺されたことはない。放火されそうになったことはあるけど（笑）。でも、背中から刺されたっていうところがちょっと寂しいんだよ。敵に背中を向けるな！（笑）。

吉田 でも力道山だって刺されたのは脇腹だし、猪木さんなんか後ろから首を切られてるんですよ！ しかも客前で。

山口 猪木さんの場合は暴漢じゃん（笑）。女がナイフで刺すっていうのは、相当な殺気があると思うんだよ。その殺気を察知できないっていうのは、やっぱりプロレスも変わったなっていうか（笑）。棚橋は好きだったんだけど、そこら辺が甘いよなぁ。相手をナメ過ぎたんじゃない？ プロレスラーたるもの、格闘技者たるもの、ナメちゃダメですよ、たとえどんな相手でも。

吉田 でも、力道山が刺されながら大暴れしたり、猪木さんは自分で止血しながら演説を続けたみたいに、棚橋も血をダラダラ流しながら自分でスクーターを運転して接骨院に向かった姿勢だけは、断じてプロレスラーだと思いますよ（笑）。

山口 へぇ〜。せ、接骨院？

吉田 三沢トレーナーのとこらしいですけどね。で、印象的だったのは、上井さんの「自覚が足りない。三銃士が若い頃にはそんなことをしなかった」って発言で。絶対、三銃士はみんなそんなことぐらいやってるじゃないですか（笑）。ただ、刺されないで済んだだけで。

山口 やっぱり、三銃士は揉め事にも背中を向けなかったんだよ（笑）。

吉田 でも、これで一般的な知名度は急激に上がったんだから、棚橋の復帰戦が楽しみですよね。ついでに、「棚橋が刺されるなら、同僚のSは100回刺されてもおかしくない」とか一般誌に書かれて、鈴木健想の知名度も急激に上がったのがいい話なんですけど（笑）。

山口 健想はともかく、棚橋は『猪木祭

り』に出るべきだよ。怪我してるから出れないだろうけど、それくらいのことして吹っ切ってほしいね、早く。

吉田　やり方次第では全然スターになれますよね。スクーターで入場するとか（笑）。

山口　ガハハハ！　でもホント、『猪木祭』に出たら絶対光れるはずだよ。

吉田　『猪木祭』といえば、いま、柴田（勝頼）が「大晦日に佐竹とやらせてくれ」って言ってきてるじゃないですか。そこに狙いを定めるのはいいんだけど、理由として「最近、立ち技格闘技にプロレスが押されているのが許せない」とか言ってるから、まったく説得力が感じられないんですよね。どうせなら「『W—1』で佐竹を見て許せないと思いました！　アイツはプロレスをナメてる！」って言った方が、断然乗れるはずだし。

山口　ガハハハハ！「だからガチンコでやってやりますよ！」って（笑）。

吉田　それができれば、プロレスファンから絶対的な支持を得られるじゃないですか。

——そこで佐竹も、さたやんとして金だらい片手に戦場に向かったらカッコいいですよね。「俺がどれだけの覚悟でこの金だらいを使ったのか、お前にわからしてやる！」って（笑）。

吉田　ダハハハ！　ところでナイフといえば、隠し持っていたはずのナイフを使う暇もなく、（獣神サンダー・）ライガーが鈴木みのるにあっさり光を消されちゃ



新しい高橋本で最大の衝撃だったのは、あとがきのラスト5行（吉田）

ったわけですけど、かつて女房の車を売り飛ばしてイギリスまで山田恵一を取材に行った男としてはどうですか？

山口　正直言えばね、あの闘いに出ていくのは新日本としては10年遅い！　ああいった、いわゆる総合格闘技ではない〝プロレスをベースにしたガチンコ〟にパンクラスが踏み出すのも3年遅いって感じだけどね。

吉田　ただ、ライガーも「ガチンコの練習をするのは何年かぶり」とか「GRABAKAに出稽古に行きたい」とか発言したりで、確実に時代が変わってきたとは思いましたよね。

山口　うん。それに、鈴木みのるもライガーも、やっぱりプロだよね。試合内容はライガーが浴びせ蹴りをかわされてポジション取られて秒殺っていう、アルティメット初期のようなものだったけど、入場から試合後のマイク、退場まで、やっぱり見せるということを肌でわかってる。プロレスであれガチンコであれ、〝見せる〟ということで成り立ってる職業なんだっていうことを2人はわかってたから面白かったね、俺は。次にどういう展開を見せるかはわからないけど。

吉田　このまま、下の方ではみんなが地味に強さを競ってるのに、なぜか鈴木みのるだけはメインで新日本の外敵を迎え撃って「俺がパンクラスだ！」って叫ぶようなパターンを確立させたら、どんどん面白くなると思いますよ（笑）。

——あと、昨年と同じタイミングで新たな高橋本が出版されたわけですが、吉田さんは読んでみて、どうでしたか？

吉田　装丁がヒドイとか、内容が薄いとか、警備会社問題や藤波批判みたいな突っ込まれる恐れのある本音を封印したとか、いろいろ言われてるよね。だけど、あとがきのラスト5行っていう著者が最も訴えたいことを書くような部分で、「近未来に出現すると確信しているロボットファイターの悪徳マネージャーになって、ニューヨークに乗り込むつもりでいる」って書いてることが最大の衝撃だったなぁ（笑）。以上！

山口　ボクはまだ読んでません。以上！（笑）。

——それと、猪木さんと新間寿さんの電撃和解というのもありましたが。

山口　それは新間寿に近い吉田豪から見解を聞こう。

吉田　「豪ちゃんと山ちゃんには先に言っとこうと思って」って、新間さんから電話がありましたよ（笑）。

山口　山ちゃんって俺のこと？

吉田　会長に伝えてどうするんですか！（笑）。会長と新間さんの間の誤解はまだ解けてませんよ！　ターザンのことですよ。

山口　あ、な～んだ（笑）。

吉田　ただ、和解も衝撃的ですけど、その時に猪木さんが新間さんにアダ名をつけたのが、さらに衝撃的でしたよ。

山口　なんて付けてたの？

吉田　マーシー・コトブキ！「俺が1・4で（スティーブン・）セガールとやる時にはマーシー・コトブキとしてマネージャーをやってくれ！」って（笑）。

山口　ガハハハ！　意味わかんないよ！

吉田　ところが、これは『東スポ』の誤報だったんですよ！　あとで新間さんに確認したら、正確には「マンシー・コトブキ」だったそうです（笑）。

山口　大差ないよ、それ（笑）。

吉田　しかし、猪木vsセガールは本当に楽しみだなあ（笑）。サップやローラーみたいな使えるタマがいれば必ず暴走する新日本の中継が、流暢な訛りで日本語を喋るセガールを絡めて何をやってくれるのか考えるだけでも期待できますよ。

山口　そう？　最近の猪木さんは、ホントに何をやりたいかわからないなぁ。10年ぐらい前、猪木さんがスティーブン・セガールに初めて会った時、「先日、スティーブン・リーガルと会いまして」って言ってたのはよく覚えてるけど（笑）。

吉田　リーガルとは、しっかり試合もしてたんですけど、忘れてるんですかね（笑）。

山口　セガールだったら、猪木vsリーガルがまた見たいなぁ。今度はWWEのキャラのままでやってほしいよ。猪木さんのナックルパートとか、いい顔して受けてくれそうじゃない（笑）。でも、セガールかぁ……。

吉田　だけど、これでタッキー（滝沢秀明）戦に続くベストバウトが生まれるかもしれませんよ！

山口　言葉に詰まるなぁ……。全然ピンとこない。エンターテインメントをはき違えてるとしか思えないよ。『力道山メモリアル』とかでそっとやってくれたら、こっちもピンスポットを当てて拾いがいがあるんだけど、そんな大々的に番宣までうたれてやられた日には、こっ恥ずかしくて（笑）。

吉田　確かに、番宣では「猪木vsセガール実現か？」というのと、まず出場しないと言われているサップをメインにしてますけど、そうでもしなきゃチケットが売れない新日本にこそ問題があるはずですからね。だって永田vsサップの師匠（ジョシュ・バーネット）でチケットがどれだけ売れるかっていったら、せいぜい1000枚程度じ

やないですか！
山口　お前、飛ばすね、今日は（笑）。でも、新日本は最近頑張ってるし、努力してると思うよ。新間寿との和解も含めて、変えようとする空気は感じるから。この間、プロレス専門誌じゃない某国民的週刊誌の編集部に新日本の人間から、「1・4の東京ドーム、よろしくお願いします」っていう電話がかかってきたらしいんだよ。
吉田　珍しくやる気になってるわけですね。
山口　で、編集部の人間が、「じゃあ、何か決まったら教えてください。もしネタ的に使えるようでしたら大々的にやらせてもらいますので」って言った後、「失礼ですが、新日本のどちら様でしょうか？」って聞いたら「木村健悟と申します」って答えたらしいんだ（笑）。スカウト部長のキムケン自ら広報活動だよ！
吉田　キムケンも頑張ってるんですねぇ……って言いたいところですけど、今年もやっぱり大晦日のスケジュールを開けてオファーを待ってるらしいから、あんまり危機感は感じないですよ（笑）。もちろん、TBSじゃなくてNHKの方からのですけどね。
——この間の猪木さんとのアゴマスク対決に続いて、『猪木祭り』でも紅白仮面をキムケンにやってもらったら丸く収まるんじゃないですか（笑）。
吉田　ダハハハハ！　珍しく面白いね、チヨロの小ネタとしては（笑）。時節柄、紅白仮面のマスクを取ったら石井館長だったりすると爆発的に盛り上がると思うんだけどなぁ……。反省の意味を込めて、今度は石井館長が地上3000メートルから突き落とされる表情をビジョンで大写ししてみるのもいいだろうし（笑）。

紅白仮面のマスクを取ったら石井館長だったりすると盛り上がるよ（吉田）

山口　それを、解説席から不気味な笑顔で見つめるサダハルンバっていうのも、俺ら的には実にいいドラマだよね（笑）。
吉田　いまじゃ谷川さんもK—1プロデューサーらしいですからね（笑）。結局、石井館長の件をやたらタブー扱いするのも不愉快だけど、ここぞとばかりに批判するのもやっぱり不愉快じゃないですか。
山口　いや、猪木さんのスキャンダルのときもそうだったけど、そんなことくらいじゃ館長のこの10年の功績は逆立ちしたって消えないと思うよ。いま、K—1がなかったらマット界がどうなってたか考えると空恐ろしいもん。もちろん、いまだに昔の興行フォーマットが続いてたわけだろうから（笑）。
吉田　おそらく、マット界でいちばん今風なのはNOAHになってたはずですよ（笑）。まあ、脱税ぐらいは猪木さんだってターザンだって、ついでに言えば『紙プロ』だってしてるんだから、まったく問題ないですよ！　ねっ、会長？（笑）。
山口　俺もそろそろ危ないかなぁ……って、それまったくシャレになってないよ！

【12月3日／『紙プロ』編集部にて収録】

※悪気は全く無いのですが、「健介新日退団」を語るのをすっかり忘れていました。正直スマン！

CAT FIGHT WORLD

第22回 **「ライブの魅力」**

『月刊バトル通信』編集長 猫宮さん

キャットファイトの魅惑の世界を知るには「CAT FIGHT WORLD」が一番！
おなじみ猫宮さんが魅力のすべてを語ります！

観客の欲望熱が、キャットファイターの闘志に火を付ける！

——猫宮さん！ 現在日本には、数多くのキャットファイト団体があるわけですけど、一番の魅力と言ったらやっぱりライブですよね？

猫宮 キャットファイト団体を取材し続けてはや2年。「月刊バトル通信」編集長のボクから言わせればまったくその通りです！

——キャットファイト団体の解説と言えば猫宮だと言われるだけあって力強い言葉ですね！（笑）。まあ、それはさておきいま、キャットファイトはプロレス界をも巻き込んで何やらプチブレイクしてるらしいですね。

猫宮 巻き込んでるといっても女子格闘技イベントなんかとは違いますよ、明らかに。真剣にファイトしていても、やっぱりエンターティナーな部分ってあると思うんですよ、キャットファイトのライブでは。

——魅せる部分。つまり、お色気部分ってことですか？

猫宮 いや、何でもお色気とつなげてはいけません（笑）。まあ、お色気も重要な要素ではありますけどね。

——と言うことはお色気以外にも、魅せるエンターティナーな部分があるわけですね。

猫宮 そうですねぇ。たとえば、女の子特有の「毒舌」なんてのもイベント内では盛り上がる要因のひとつです。キャットファイトを盛り上げる要因になりますよね。

——ど、毒舌ですか!?

猫宮 女子プロレスでもあると思うんですけど、女子プロレスの場合は観客に聞かせる毒舌じゃないですか。パフォーマンスのひとつですよね。

猫宮 でも、キャットファイトライブではそういうアピール部分じゃなくて、本気で相手に浴びせる罵声だったりするんですよ（笑）。

——アハハハ！ 本気ですか（笑）。

猫宮 キャットファイターは、まあ言っちゃえば素人の女の子ですよね。普段から格闘技を練習しているわけじゃありませんし、そういう普段は何気なく生活している女の子たちが闘うから、その「罵声」も凄いんですよ（笑）。

——かなり、相手にグサっと刺さるような（笑）。

猫宮 そうそう（笑）。「そこまで言うか!?」みたいなね。

——はぁ〜。女の子って、口喧嘩じゃ絶対に勝てない相手ですからね。

猫宮 そうですよねぇ（しみじみと）。で、あとライブの魅力ですと、やっぱり観客。これ重要。

——あ、それ前にも聞きましたよね？

猫宮 言った記憶があるような……ないような。

——観客がいると、ファイターが盛り上がるみたいな……。

猫宮 そうそう、それです。観客がいると、やっぱり魅せなきゃいけないから、ファイターたちにも気合が入るわけですよ。

——重要な要素になるわけですね。

猫宮 そうなんです！ 観客のテンションが高ければファイト内容も良いものになり、一進一退の攻防が繰り広げられて大興奮の展開なることは間違いないですよ。

——興奮必至ですか！

猫宮 お客さんが盛り上がれば盛り上がるほど、ファイターたちのテンションもどんどん上がるわけですからね。だから、思わぬドラマが生まれたりするわけですよ。そうすると（笑）。

——なるほどねぇ。

猫宮 まあ、そんなわけで、キャットファイトライブってのはお客さんとファイターが一緒になって盛り上がっていくという魅力がありますね。

——観客と一緒になって盛り上がる、プロレスと全く同じ気がしますが……その奥底部分がかなり違うと（笑）。

猫宮 まあ……とにかく見るほうが興奮できればなんでもいいですけどね。

——アハハハ！ それって単純な欲望ですね（笑）。

猫宮 ナマで、目の前で女の子たちが取っ組み合いの喧嘩バトルを繰り広げてくれるんですから、魅力もなにも……（笑）。とにかく「見ろ！」って感じです。

——アハハハハ！ よくわかりました（笑）

猫宮 はい、わかってくだされば結構です（笑）。

今月のオススメビデオ

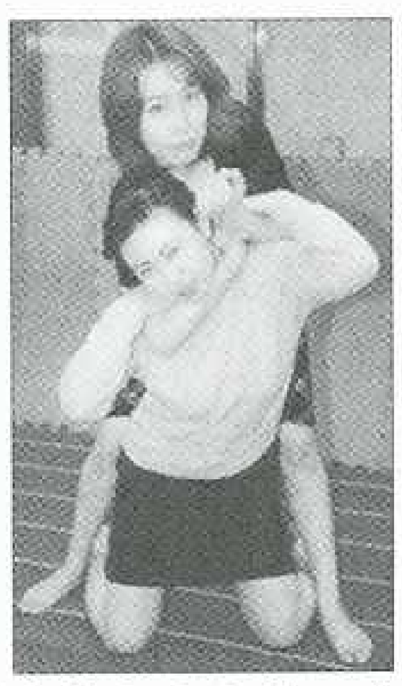
新年一発目からバトルでは、年末に行われたキャットファイトライブのビデオをプレゼントする予定です。お正月は、是非バトルにレッツ・ゴー!!



■新日本キャットファイト連盟「2001 FINAL!!」
収録時間60分／¥8900

vol.12

新日本キャットファイト連盟のライブに、他キャットファイト団体CPEが乱入!? 見所満載です



■バトルオリジナル「キャットファイト（熟女編）」〜人妻熟女バトル編 パート1〜
収録時間50分／¥8000

no.19

ライブではありませんが、バトル新作ビデオ発売です。人妻の熟した体が激しくぶつかり合う一本！

紙の新聞

●マット界の1ヶ月丸わかり●

編集長／堀江ガンツ
文／ささきぃ

11/19 ↓ 12/10

全国1千万人の『紙の新聞』ファンの皆さま、今年も1年間ご愛読いただき誠にありがとうございました。来年もよろしくお願い申し上げます。さて、来月号では日頃の感謝の気持ちを込めまして、恒例の『紙の新聞スペシャル　語録で振り返る2002年』をお送りします。あのドラゴンの数々の迷言が蘇ります。お楽しみに！



11/25



【新日本プロレス】

猪木・新間まさかの電撃和解！

仰天！　かつて“過激な仕掛け人”と呼ばれ、アントニオ猪木と二人三脚で新日本プロレスを巨大帝国にした元新日本プロレス営業本部長、「アントニオ猪木のPKOは、パンパン、来い来い、オ○ンチョ野郎！」でお馴染み、新間寿氏が、アントン総帥とまさかまさかの和解！「新日本黄金時代復興」をスローガンに黄金コンビを復活させることとなった。新間氏はさっそく1・4ドームで猪木vsスティーブン・セガールブチあげ、アントン総帥は新間氏を「マンシー・コトブキ」と名付けるなど、早くも狂乱の名コンビぶりをいかんなく発揮しているのであった。

11/26



【WJプロレス】

長州断言！ 新日本は崩壊する!!

猪木・新間合体報道を受けて、長州力が大激怒した！　80年代前半、アントン・ハイセルを元とした一連のゴタゴタをリアルタイムで嫌と言うほど経験してきた長州は、「猪木・新間和解」の東スポを見て、「何をトボケたことを…」とまずは絶句。その後、「新日本が自社ビルを建てられなかった原因はあの2人」「俺たちの時代だったら選手は全員いなくなるだろう」「新日は崩壊する」と長州節をこれでもかと連発！　そして「選手は新天地を求めるべき」と離脱を奨励した。さすがは、「俺が拾ってやる」の長州力。はたして長州が言うように、新日本の次なる大激震は起こるのか!?

11/21



【WJプロレス】
WJプロレス事務所

谷津嘉章、WJプロ入団！

長州率いる新団体『WJ』が谷津嘉章の正式入団を発表。さらに練習生としてSPWFの高智政光、IWAの宇和野貴史、フリーの石井智宏の入団も併せて発表した。これを機に自身が代表を務めるSPWFを離れるという谷津は「残った連中が道場マッチからスタートして秋くらいからやれると言ってるし、そっちもこっちもというわけにはいかないんで。ここで有終の美を飾りたい。(長州について) 過去にはこだわらず全知全能にかけて奉公する。桜じゃないけど最後はビシッと散りたい」と発言した。ちなみに会見終了後、谷津と親交がある本誌チョロが改めて谷津にWJ入りの真意を聞いたところ、「大人の事情！」と答えたという。オリャ！

11/19



【UFO】

『LEGEND・2』開催宣言!!

すべてガチンコ！でお馴染み、UFO川村社長が「3月〜4月くらいに、また東京ドームでやりたいと思っています」と、『LEGEND・2』の開催をが唐突に宣言！　やれんのか――ッ!?　「小川選手の相手は今後、オリンピックのメダリストを中心とした選手にしたいという希望がありまして、いろんな形で協力するっていう言葉は、この間カレリン選手や、ドイエ選手からもいただいておりますし。まずはヒクソン選手から」と、格闘技界でもっとも招へいが難しそうな選手たちの名前をあげた上「やらせたい選手がいたら、あげてください」と、リクエストを募る余裕まで披露した。ビバ、川村社長！

11/19



【UFO】
田辺音楽出版

UFOに大型即戦力加入!!!

UFOに新選手加入!!　パンクラスヘビー級ランキング1位藤井克久のUFO入団が、小川直也・川村社長立ち会いのもとで正式に発表された。川村社長は「小川イズムを受け継いで、ガチンコでいきたいと申しております」と藤井を紹介、その言葉通り、藤井の当面の主戦場は、小川の活躍するZERO-ONEのリングになるという。……なんでだよ！　なお、もうひとりのUFO所属選手・村上和成は、“川村社長預かり”として、小川・藤井とは別に行動していくような形になるという。小川は「彼は魔界倶楽部らしいんで、魔界で頑張って欲しい。オレには想像もつかない世界だから、なんともコメントしようがないけど」と語っていた。

12/4

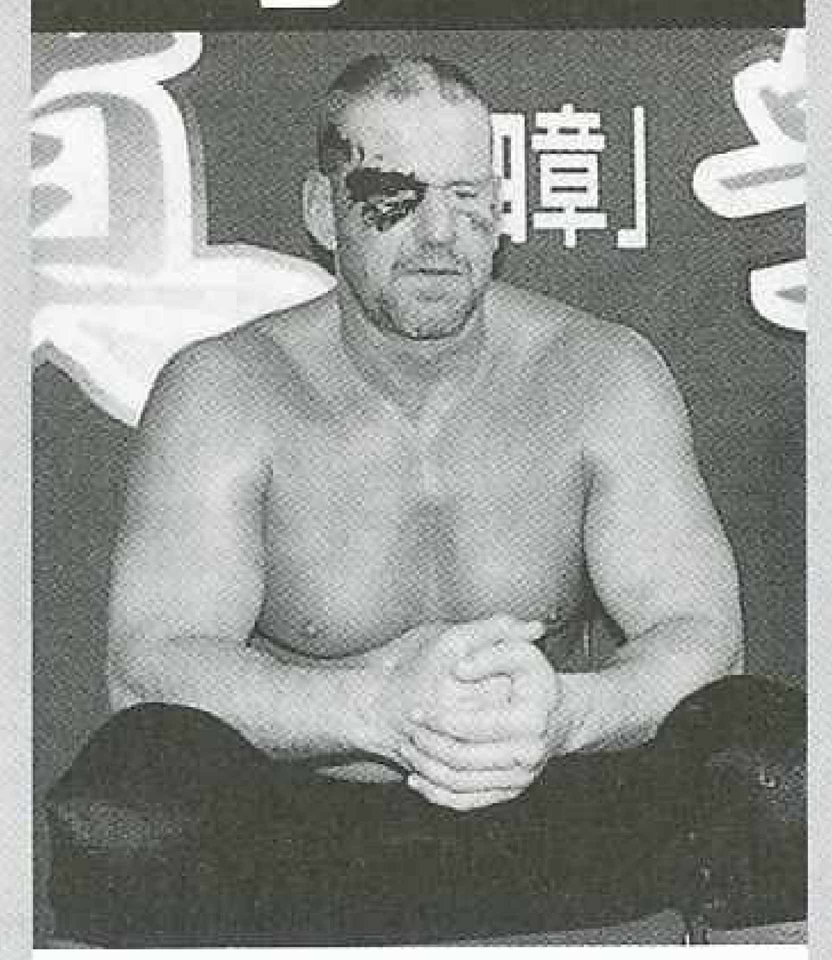


【新日本プロレス】

新日本、ハワイツアー中止

『紙プロ』55号の情報ページでも告知した、新日本30周年記念・レスラーと一緒にハワイに行けるという夢のツアー「俺たちと楽しもうぜ!! IN HAWAII」が中止(延期?)になったことが、ひっそりと発表された。募集期間を延期していたのにもかかわらず、この残念な中止の理由は、公式HP「佐々木選手の退団、棚橋選手の事件、来年1月10日蝶野選手NOAH日本武道館大会出場、等の理由」によるものだという。健介、棚橋はともかく、蝶野のNOAH参戦を理由にするのは、NOAHに失礼な気もするが、ともかく残念この上ない。健介退団の時の抗議電話は2通だったというが、今回ははたして何本だったのだろうか?

12/3



【WJプロレス】

ホークがWJに殴り込み予告!

長州力率いる業界のど真ん中をつっ走る団体「WJプロレス」に、マグマ級の外敵が殴り込みを予告してきた! 3日早朝、WJ事務所の電話に永島ナマハゲ専務が出ると、なんと相手はホーク・ウォリアー。どこで電話番号を調べたのかは不明だが、ホークは「米国で軍団を束ねて、長州軍を叩きつぶしてやる」と挑発。そして「ケンスキーが新日本を退団したらしいな」と、不気味な言葉を残したという。ケンスキーとホークと言えば、かつて「ヘル・レイザース」というコンビを組んでいた仲。もしこれが再結成されるとなると、いまや伝説となった「プロレス茶屋パワー・ウォリアー」までが復活してしまうことも……あるわけねぇか。

11/29



【新日本プロレス】

無念! キムケン今年も紅白出場ならず!

毎年毎年、懲りもせず大晦日のスケジュールを空けて、NHKの使者を待ち続ける男・木村健悟に今年も運命の日がやってきた。そう、この日は紅白歌合戦出場歌手発表の日なのだ。マット界1の美声の持ち主として、廃盤になっても廃盤になってもなぜか数年に一度新譜を出し続けてきたキムケン。「引退するとプロレスファンがCDを買ってくれなくなるから」という、仰天理由で引退を先延ばししているのだから本物だ。しかし、今年も吉報は訪れず「NHKさんは俺の連絡先がわからなかったのかな」とクビを傾げるキムケンなのであった。

11/28



【新日本プロレス】

棚橋、ナイフで女に刺される!

棚橋、刺される!! 午前10時ごろ、東京都目黒区のCSテレビ番組アシスタントの女性宅で、新日本プロレスの棚橋弘至が、女にナイフで背中を刺されるという事件が起きた。容疑者は「棚橋さんを殺して、自分も死のうと思った」などと供述している。傷口は肺まで達したが、棚橋は自力でバイクを運転して病院で治療。命に別状はないが、担当した医師によると「普通の人なら死んでいた」ほどの深い傷だったという。広報・ケロちゃんは『ワールドプロレスリング』内で、この事件について「プロレス雑誌に書いてあることだけが本当です!!」と、世間の常識を覆す驚愕の事実を発表した。逆だろ!!

12/10



【K-1】

武蔵、なんと優勝宣言!

我らがK-1ニッポンの大エース、武蔵が『K-1GP直前会見』終了後、大いに吠えた! この日、サップに「タコヤキ」呼ばわりされて怒り心頭の武蔵は、「サップはホーストに勝てないだろうが、個人的には決勝で闘いたい」と、なんと最高の舞台での決戦を要求。サップより自分の1回戦の心配しろよ!という声も聞こえてきそうだが、武蔵にはタイで修行してきた「世界3大スープのひとつから名前をとった、世界に通じるキック」その名も「トムヤム」があるため自信満々。しかし、実際のトムヤンクンは酸っぱ辛いスープだが、武蔵K-1GPはやっぱりしょっぱかったのであった。

12/4



【新日本プロレス】
ロフトプラスワン

新間寿、藤波vsみのるをブチあげる!

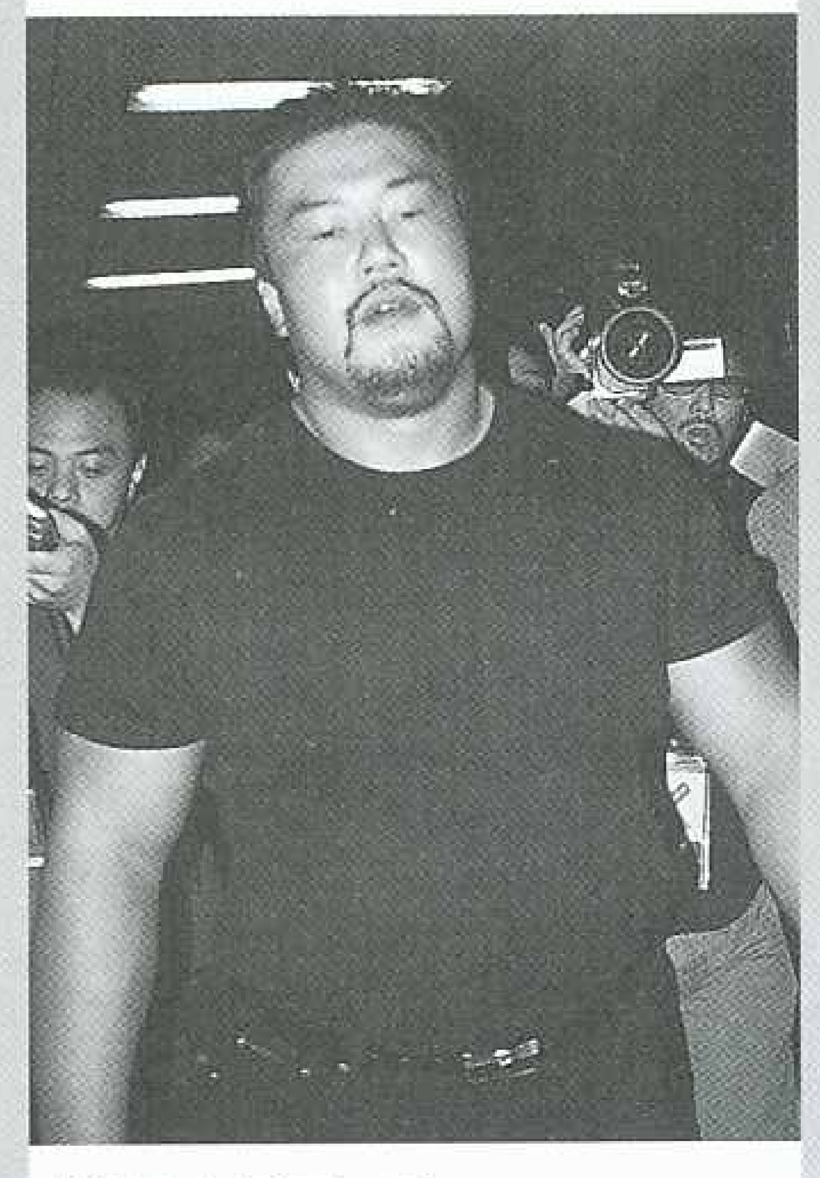
過激な仕掛け人が大いに吠えまくった! この日、ロフトプラスワンの恒例イベント「ターザン山本&吉田豪、格闘2人祭」のゲストとして新間寿が登場! 気心知れた吉田豪の上げるトスに新間節が冴え渡り、かねてからブチあげていた猪木vsセガールのレフェリー決定戦として大仁田vs山本小鉄を提案。さらに来年2月には東京ドームで猪木還暦祝いを仕掛けると宣言。さらに吉田豪の「みのるvs藤波なんかいいですよね」の発言をすぐさま受けて、その場で新日本上井取締役に電話。「藤波vs鈴木みのる戦やれ!」と直接交渉(命令)を行った。はたして、ドラゴンのVTがホントに見られるのか!?



【DEEP】

“偽造王”一宮、脂肪吸引で大減量!

“偽造王”こと一宮章一が、112キロの身体を12・8『DEEP』でのアステカ戦の契約体重95キロまで落とす最終手段として、なんと脂肪吸引手術を行った。手術後、マスコミの前に姿を現した一宮は、脂肪吸引した腹部を抑えながら「筋肉痛になったみたいだ」と言いながらも、「手術は成功」と担当医。最大の不安を取り除いた一宮は、万全の体調で二度目のバーリ・トゥードに臨むことなる。ちなみにマット界二度目の脂肪吸引手術には、“名古屋のマット・ガファリ”こと『DEEP』佐伯代表が候補に浮上。プロレスラー・デビューを夢見る佐伯代表は、手術トライに意欲をみせるガッツポーズで気勢を上げ、異例の会見を締めくくった。



【新日本プロレス】

佐々木健介、新日本退団正式決定!!

ヴァーッ!! “フリー選手”佐々木健介誕生!! 新日本の倍賞鉄夫専務が、都内の事務所で会見を開き、10月6日に涙ながらに辞表を提出していた佐々木健介の契約を11月いっぱいで解除することを正式に発表!! 新日本は、何度か話し合いの場を持ってきたが、その結果、健介と新日本と双方の合意としてこの結論に至ったという。倍賞専務は「人の気持ちは、一度固まったら、粘土細工のように簡単には変わらない」とコメント。健介は、この翌日、自分が大変なのにもかかわらず、棚橋の入院している病院にキャディラックで見舞いに駆けつけた。50分後、病院から出てきた健介は「今日は勘弁してください」とノーコメントを貫いていた。ヴァーッ!!

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝Ｉ編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク



I noue mode

——井上さん、今日（12月10日）の新日本プロレス、大阪（府立体育会館）大会は行かれました？

井上　そんなもんアンタ、新日本なんかに行かないですよ。

——「新日本なんか」ですか（笑）！

井上　もうプロレスは観に行かない!!

——えぇ〜〜！　もうプロレスは観に行かないんですか!?

井上　プロレスは観んでも書ける材料やからね。まぁ、観たほうがいいんだろうけど、こっちもそんなにヒマがないですよ。やっぱり府立なんかにしても、行けば往復するだけで3千円ぐらいかかりますからね。

——それはヒマというより、電車賃の問題ですね（笑）。

井上　言うちゃ悪いけど、あんまり身を入れて観る気になれないでしょ？　結果だけで「まあ、いい」っていう段階にきてしまってるんですよ。

——確かにそうなりつつありますよね。

井上　この前のK-1（12・7東京ドーム）にしたって、あれだけの人間が見て視聴率が上がったっていうのが真実ですよ。真剣勝負だからどうとかじゃなくて、やっぱりみんなの興味がそこにいってますから、僕なんかでもやっぱし21時をテレビの前で待っとったからね！

——わざわざ時間前から待ってましたか！（笑）。まぁ、そんな感じで今年は特にプロレスがパワーを失った年のような気がするんですけど、この連載も今年最後の回ということで、今日は2002年総括という感じでお聞きしたいと思います。

井上　総括っていうのはあんまり喋る気になれないんだけど、いま言ったようにプロレスっていうのが「純プロレス」、「エンタメプロレス」っていう形に変わってしまったんで、「それでいい」って言う人たちはあいかわらず、見続けるけど、「ダメだ」って言う人は見捨ててしまうと。そういうことがハッキリした年じゃないの？

——ふむふむ。

井上　でも、いまはもう「エンタメプロレスが八百長だ」と言う人はおらんのだけどね。というのは俺がいつも言ってるように、これは八百長じゃなくて、筋書きあっての暗黙の了解のある闘いであって、これは水戸黄門なんだと。それをガタガタ言う人はいないんであってね、闘龍門、WWEが好きだ、武藤のプロレスが凄い、ノアも面白い、「OH砲が大好きだ」っていう女の子もおるしね。100人プロレスファンがおったら100人のプロレスがみんな違うんですよ。だから俺らの意見はプロレス者の玄人の意見であって、それを代表としたらいけないんですよ。OH大好き姉ちゃんが俺の書いたものを見て感心したりは絶対しませんよ！

——OH大好き姉ちゃんには関心されませんか（笑）。

井上　されっこない！（キッパリ）。俺が言ってることは井上義啓ワールドであって、一般社会ではないんですよ。

——確かに井上ワールドが一般社会だったら大変な気はしますね（笑）。

井上　ただ、俺はプロレスというものは「エンタメプロレス」だけじゃなくてね、「バーリ・トゥード」というのを時代の極みにしてね、最下層に「ナンセンス・プロレス」までがあるものと考えとるんだよな。

——プロレスは、「バーリ・トゥード」から「ナンセンス・プロレス」まであるものですか。

井上　そう。一番上にバーリ・トゥード……俺は「バード」と言っとるんだけどね。

——バード！　ずいぶん略しましたね（笑）。

井上　そのバードが凄さの点で一番で、次に来るのがプロ格であって、これが「猪木プロレス」であり、かつての異種格闘技戦ですよ。そしてストロング・スタイルのプロレス、俺は面倒くさいから「ストプロ」って言ってるんだけど、それが来るわな。

——今度はストプロですか（笑）。

井上　だからね、バード、プロ格、ストプロ、エンプロ、そしてナンセンス・プロレスにわかれるというのが僕の定義付けなんですよ。で、いまストプロをやってるのはノアだと思うんですよね。

——「ストプロ」はノアですか！

井上　ノアというか、かつての全日本プロレスがストプロなんですよね。新日本プロレスから猪木が抜けた後は、ハッキリ言って「ストプロ」っていうのはなくなったわけですよ。長州あたりが気迫だけで少しやっとったけど、気迫だけで実績は伴ってないのよ。だからホンマもんの「ストプロ」をやったっていうのは、全日本プロレスの時の小橋、三沢、川田とかあのへんなんですよね。

——じゃあいまの新日本はストロングスタイルというより、ナンセンスプロレスの方に足を突っ込み始めてると（笑）。

今月のお題

2002年のマット界とは何であったのか?

毎回毎回読者に熱いメッセージを送り続けてきた『喫茶店トーク』も、2002年度分は今回がラスト。今年の締めくくりとして、I編集長に「2002年とは何だったのか?」を定義してもらいました。さて、その答えは? 今月も熱い熱い井上節、炸裂です。

聞き手/堀江ガンツ

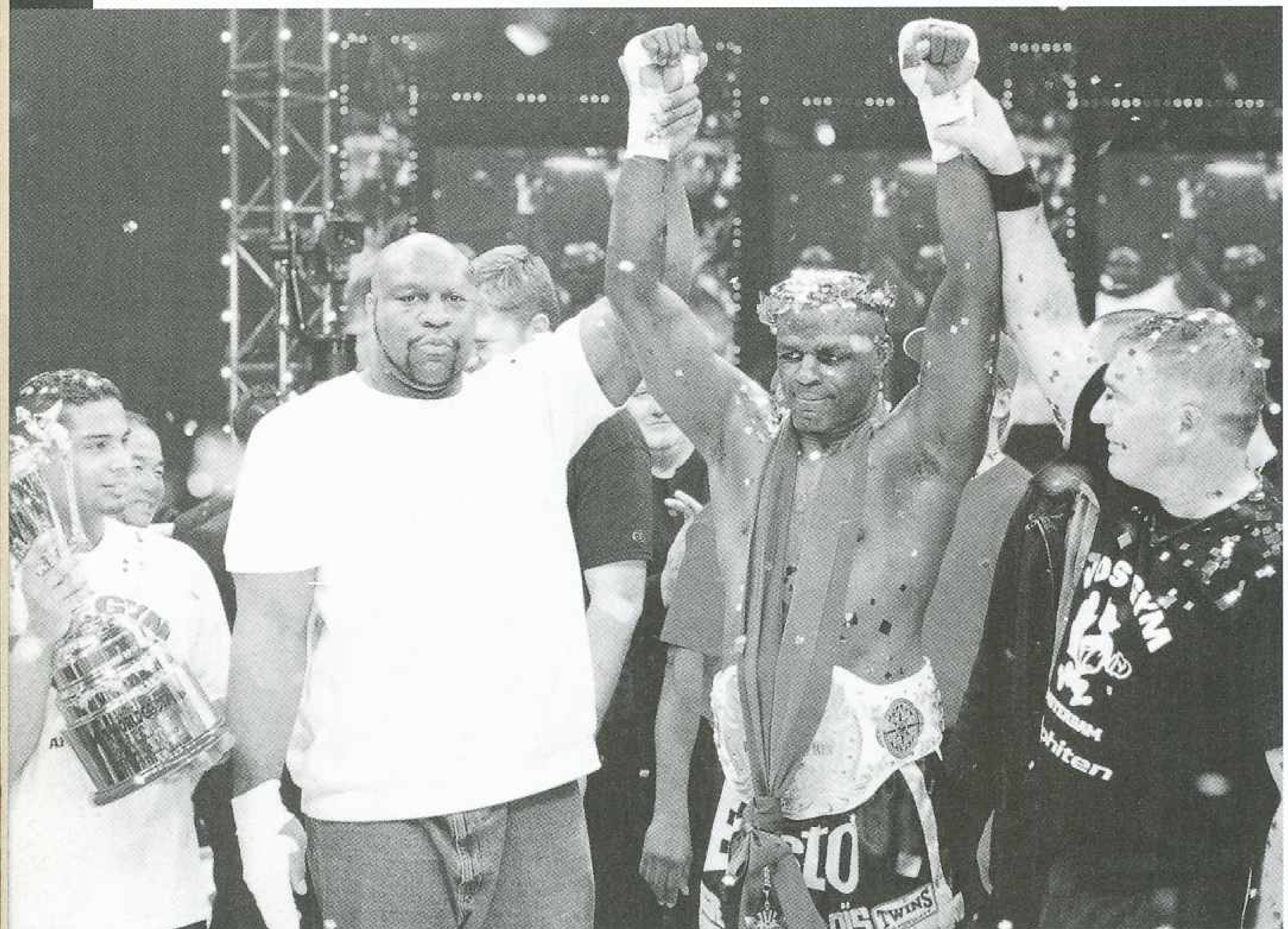
井上　足を突っ込んどるけど、それはそれでダメじゃないんですよ。ナンセンストリオっていうお笑いトリオがおったけどね、あれにしたって結構、客を掴んだしね、僕らでも面白いなと思って見とったんですよ。だから、僕はナンセンスプロレスが「ダメだ」とか「八百長だ」とか言ってるんじゃなくて、人によって好き嫌いがありますよと。それで私は「嫌いですよ」と言っとるだけですよ。

――やっぱり嫌いなんですね（笑）。

井上　だから猪木あたりに期待するのは、ロスの道場を中心にして、かつてのモンスターマンと闘った猪木のようなキチンとしたプロ格選手を出してくださいということですよ。それはバードじゃなくてプロ格でいいんだから。極端な話、裏のほうで筋書きがあってもいいわけですよ。

――筋書きがってもいいんですか!?

井上　裏で筋書きがあってもその通りにならないからね。いつ真剣勝負になるかわからないというのはモンスターマンの時でも痛感しましたよ。あんな結末になるとは誰も思ってませんでしたからね！　みんなが「パイルドライバー気味の技でやっつけると決まっとったんだろう」と思ってるけども、そうじゃないんだから。猪木はそんな練習はいっぺんもしとりませんよ！　俺はリングがまだ出来てるか出来てない時に猪木が横に立ってリングができるのを見とったからね。



――井上さんは練習も見てましたか。

井上　それで猪木は佐山とかをリングに上げて、飛び込んでいってタックルで倒して後はスリーパーとかそういったことを一生懸命やっとったわけですよ。そこらへんをジッと見ると、筋書きがあると言っても何が出てくるかわからないからね。そういった意味で猪木とモンスターマンの試合を「あんなバカな試合はない」って言ってる奴は、猪木が2時半や3時に会場に来て練習してるのを見たことがあるのかと！（ドンッ）。もし八百長であれば誰がそんなことをするかと！　暑い最中に早く来て、昨日も試合をやっとるんですよ。「首がまわらん」とか言ってましたよ。そこらへんのことを僕らはジッと見てるわけですよ。だから猪木の試合は皆さんが考えてるもんと違うんだよと。僕がずっと言い続けてたことはそこらへんに理由がある。

――なるほどなるほど。

井上　そういったことを来年、猪木にやってほしいということですよ。自分がセガールとやったり、そういうことじゃないんだよ！

――確かにそういうことなわけがありませんよね（笑）。

井上　だからまぁ、僕も今週は身内のゴタゴタがあってプロレスの研究ができてない一週間だったから、今年の総括と急に言われても思いつかんのだけど、来年も含めた展望という形でね、しっかりとしたプロ格を確立して欲しいと思いますよ。

――わかりました！　ちなみに井上さん、大晦日はどうされるんですか?

井上　大晦日はテレビ観戦ですよ。まぁ、第1回の『猪木祭り』は、2000年というケジメだから、猪木が「やる」と言ったからにはニューヨークだろうがラスベガスであろうがいってましたけどね。

――ラスベガスでも行ってましたか（笑）。

井上　やっぱし猪木をずっと追い続けた男なんだから、2000年から2001年に変わる歴史的瞬間には猪木と一緒におろう、と。猪木と同じ場所に立とう、と。そういう気持ちはもの凄く強かったね。だからハッキリ言って、ボクはいつも「1、2、3、ダー」なんてアホらしくてやりませんけどね、あのときばかりはやりましたよ！

――ガハハハ！　井上さんの「ダーッ！」はゼヒ拝見したかったですね（笑）。では、来年もまたよろしくお願いします！

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミでI編集長に影響を受けた人間は数知れない。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第18回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

北海道札幌市　**藤原章男**

★藤原章男さん、採用オメデトーッ!!　御希望の「ボブ・サップ」Tシャツ(XL)、お楽しみに!!!　ナント今回は69枚もハガキが来ました。とてもとても(by西川のりお)嬉しいです!!

★ハガキを送って頂いた方の中から抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」をプレゼント!!　採用された方にはTシャツをプレゼント!!　1枚で良いのでハガキちょうだい!!　欲しいのよ。



➡前号のTシャツ 猪木マスク&A・猪木

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。〈例〉小野瀬邦英のS

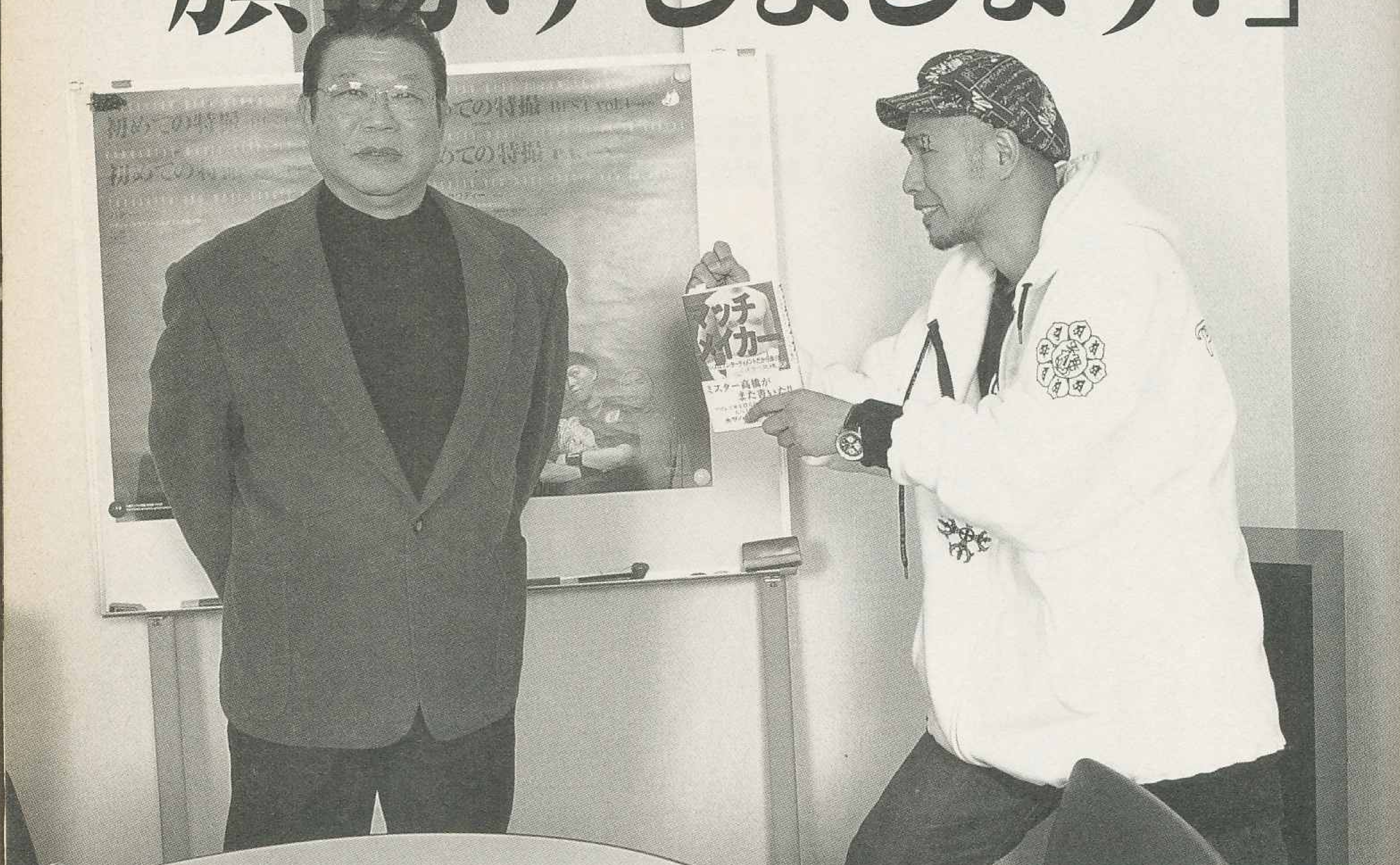


『流血の魔術　最強の演技』

“高橋本”の衝撃から1年!

ピーター教信者·オーケンが新たに『マッチメーカー』を出版した教祖様に大胆提言!!

「高橋さん、新団体を旗揚げしましょう!」



ミスター高橋×大槻ケンヂ

昨年暮れに発売され、マット界に多大な衝撃を与えた通称·ミスター高橋本。あの大槻ケンヂいわく「ピーター教信者」まで生み出したとされる、この高橋本。本誌では、この本を絶賛するわけではないが、黙殺するマスコミが多いなか、マット界への問題提起として受け止め、昨年末、高橋氏をインタビュー。あれから1年、新高橋本を出版した高橋氏と、自らピーター教信者と宣言している大槻ケンヂをマッチメイク!

構成／松澤チョロ
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by matsu(Two three)

中川雅博 爆笑連載!?

大槻　今日は、よろしくお願いします!
高橋　こちらこそ。
大槻　いやぁ〜、ボクはですね、いわゆる高橋本に凄い衝撃を受けまして。
高橋　そうですか（微笑）。
大槻　は、はい。ボクは一般的なプロレスファンの気持ちとして、ある程度の段取りというか、そういうのはあるだろうけれども、かなりの割合でガチンコと言われるようなものがあるんではないかと思ってる部分があったんですよ。でも昨年、高橋さんの本を読んで、まえがきから「勝ち負けとおおよその流れは決まっている」って出てきたんで、衝撃を受けたわけですよ!
高橋　つまりね、そうしなきゃならないのは、プロレスラーが強すぎるからこそであって、そうやってやっていかなかったら、試合の度に誰かしら死ななきゃならないんですよ。でもそれは、さすがにできないんで、そういうルールが生まれたんだと思いますよ。
大槻　でも実際、『流血の魔術最強の演技』は、もの凄い反響でしたよね。
高橋　だったみたいですねぇ。
大槻　そんな人ごとのように（笑）。
高橋　ボクから見ると衝撃でもなんでもないんで。最初出したときには、誰だったかな? 業界の人でしたけど「しょせん、たいして売れる本じゃないよ」「売れなかったら高橋はヒールになって終わりだよ」と。だけど、何万部売れたか知りませんが（微笑）、「もし売れたら一般のファンたちは評価してくれたことになる」って言ってましたんで、そうするとボクはベビーフェイスなのかと思ってるんですけどね（笑）。
——正確な数字はわからないですけど、10万部以上とも言われてますからね。
大槻　じゅ、10万部! それは破格ですね。でも、いままでもプロレスに暗黙の了解っていうか、エンターテインメントだよ、なんていう話は、ちょっとプロレスと離れたような人から、たとえばロバート・ホワイティングっていう人の『東京アンダーワールド』って本にもそういうことが書いてあったりとか、作家のCW・ニコル、あの人も昔レスラーをやってて、「あれはショーだから」みたいなことをいろいろ書いてたんですけど、高橋さんという、プロレス界の当事者からそういう話が出たというのが衝撃なんですよ!
高橋　いや、ショーだからこそ面白いんであってね。日本でのプロレスの歴史って、力道山以来50年あまりになりますけど、だからこそ、ずっと続いてきたんじゃないですか? それがもし真剣勝負だったら、あんまり見向きもされなくなったんじゃないかと思いますけどね。





高橋本に対しプロレスマスコミが黙殺を続ける中、ターザン山本が「誰も言わないなら俺が言う!」とブッ放したのが『プロレスファンよ感情武装せよ!』（新紀元社）。この中ではオーケンをはじめ7人の刺客が高橋本に対して熱く語っている。

いまのプロレスは面白いですか?
ボクは、いま圧倒的に面白くないんですよ

大槻　でも、いまのプロレスは面白いですか? ボクは、いま圧倒的に面白くないんですよ。
高橋　ああ、そうですか? 面白くなりつつあると思うんですけどねぇ。
大槻　そうかなぁ。そういえば、高橋さんの本の中で、だったらプロレス中継もガンガン変えちゃって解説は浅草キッドにしろって書いてたら、この間の『WRESTLE—1』（以下『W—1』）! ホントに解説は浅草キッドでしたね!
高橋　そうでしたねぇ。
大槻　おまけにターザン山本までくっついていて。これは高橋本がメディアを動かしたって言えるんじゃないですか?
高橋　いやいや、大槻さんとかも解説で出てくれれば、もっといいんですけどね（笑）。
大槻　あれ難しいんですよ! 実際、どこまで言っちゃっていいの?っていう。どのスタンスで行っちゃっていいのって。
——この間の『W—1』の解説では、「プロレス」っていう単語は言っちゃいけないということだったらしいですね。キックボクシングが『K—1』にイメチェンしたように、プロレスじゃなく『W—1』という形で浸透させたいっていう狙いがあったみたいですけど。
高橋　ああ、そうなんですか。
大槻　だってですよ、ボブ・サップが勝って、ムタが去って行って、去ったところで合図をすると、花火がバ〜ンって鳴るんですよ。それじゃあ、最初っから勝敗決まってたんじゃん? リハしてたんじゃん?って、あそこまでバレバレなのも凄かったですけどねぇ。
高橋　ボクはそこまで勘ぐって見ないんで（微笑）。でも、あの演出は楽しかったですねぇ。
大槻　そうですかぁ。で、いろいろとお伺いしたいことがあるんですけども、まず高橋さんは新日本プロレスを辞めたあと、具体的には現在はどういった活動をしておられるんですか?
高橋　いや、活動なんてほどのことはしてませんよ。
大槻　い、印税で生活してるとか?（笑）。
高橋　印税でメシ食えるんだったら、そんないいことないですね（笑）。ボクがいまやってるのは、給料も何もないボランティアみたいなものです。
大槻　ある意味、浪人の身というか?
高橋　う〜ん、そうだねぇ。失業中というか（苦笑）。
大槻　し、失業中だったんですか!
高橋　アルバイトかな? いまで言うとフリーターか（笑）。
大槻　フ、フリーターだったんですか!（笑）。フリーターによってマット界がしっちゃかめっちゃかになってますよ!
高橋　そんなことないと思いますけど。これから良くなっていくと思いますよ。
大槻　そうですかねぇ。でも、いわゆる、通称・高橋本以来ですね、何を見ても、あれも演技だったのかなぁ? とか思っちゃって。試合の中だけじゃなくて、例えば猪木さんに「藤波さんに負けたら、引退ということも考えら



れるわけですか？」ってアナウンサーが聞いたら、「(アントンロ調で)やる前に負けることを考えるバカがいるかーッ！」ってひっぱたいた事件があったじゃないですか？

高橋　あぁ、あったねぇ(笑)。

大槻　あれもアングルだったのかなぁって。よく見るとひっぱたかれたアナウンサーがうまい具合に映ってないんですよね。

高橋　あっ、そう(笑)。

大槻　練習したのかなぁ？って思っちゃったりするんですよ。

高橋　やっぱりね、レスラーだってバカじゃ勤まらない社会ですよ。バカはバカなりに置いてかれてしまいますよ。ですから、そういう部分でね、いわゆるリングの中のシナリオ作るでしょ？で、それが頭の中に、しっかり入ってれば試合が終わったあとでも、あるいはその前でも、自分のアドリブで、ちゃんと対応できるわけですよ。

大槻　はぁ〜(と感心する)。そういったアドリブの特にうまい選手というと誰になるんですか？

高橋　う〜ん、誰だろう？

大槻　猪木さんは、ちょっとアドリブに走りすぎる人だったんでしょうね。

高橋　ハッハッハッハッ！　でも、あの藤原組長もそういうところは凄くうまいですよ。怖くて誰も近寄れないほどの迫力だけども、頭いいですからねぇ。

大槻　しかし、それを思うとレスラーっていうのは、あれだけ激しい運動をしながら、ちゃんと言われた通り動いてるっていうのはもの凄いことですねぇ。

高橋　でも、それがレスラーですからね！

大槻　ただ、協調性のないアドリブに走りやすいレスラーの方が上に行くことが多いような気がするんですけど……まあ猪木さんを筆頭に(笑)。

高橋　ハッハッハッ！　でもレスラーっていうのは、いわゆるマッチメイカーに「ここでこうやってね」って言われて、「できません」は通らないわけですよ。でね、ボクはあるとき、映画のエキストラに出させてもらったことがあるんですよ。

大槻　なんていう映画ですか？

高橋　あの、『虹をかける男』の第一作目なんだけど。

大槻　あぁ、はいはい。

高橋　その頃に東急沿線新聞っていう新聞でコラムを連載させてもらってて、その時に(三遊亭)楽太郎さんに会う機会があって、こういう言葉を言われたんですよ。「テレビジョン　映らぬ人の　陰の汗」って。……「汗の数」だったかな？

大槻　「白粉(おしろい)の　下に涙の　喜劇人」みたいなヤツですね(笑)。

高橋　そうです(笑)。その言葉を聞いて、いい言葉だなぁと思ったんですよ。それをボクの友達の、あるエキストラ専門で出てるヤツと話してたんですね。「自分は、かなりの数の映画に出てるけど、あの社会は人間扱いなんかされませんから。虫けらと一緒です」って言うんですよ。で、「俺もそれを味わいたい」って思ったんですね。

大槻　む、虫けらの気分を味わいたい？

高橋　そう(笑)。それで紹介してもらって、大船の松竹の撮影所に行ったんですけど、全く言う通りなんですよ。12月の寒風吹き荒ぶ凄く寒いときでね。我々は小屋も何にもないところで声掛けられるまで震えてジーッと待ってるんですよ。役者さんたちは温かいストーブのところで暖を取っててね。そのとき、ボクは失業者の役だったんですけども……。

大槻　そっちも失業者ですか？(笑)。

高橋　そんな役やったから、ホントにそうなっちゃったんだけどね(笑)。

大槻　そ、そうだったんですか！(笑)。

高橋　ハッハッハッハッ！　で、職業安定所の中っていう設定なんですけど、仕事がなかなか見つかんなくて落ち込んでる役で。でもって、助監督さんから「灰皿の中からタバコ拾って、吸ってくれる？」って言われてたんですよ。

大槻　ほぉほぉ。

高橋　ボクは「すいません。ボク、タバコ吸えないんです」って言ったらね、「吸う格好だけでいいんだよ」って言われたから、「たぶん、むせちゃうと思います」って答えたら、「じゃあ向こう行って！」って言われちゃったんだよ。

大槻　はぁはぁ。

高橋　プロレスでいうマッチメイカーが「こうやってね」って言ったときに、「それはできません！」って言ったら同じことになっちゃうと思うのね。

大槻　いやぁ〜、面白いッスねぇ。マッチメイカーの仕事を山田洋次の映画で例えるのは高橋さんだけですよ！(笑)。

高橋　あっ、そうですか？

大槻　それでね、マッチメイカーっていうのは高橋さんのようにレフェリーがやる場合とかいろいろありますけど、本来は誰が一番やるのがいいんですかねぇ？

高橋　いわゆるレスラー出身の、それだけの能力を持った人がやったりするでしょ？　それを補佐する外部からの人がこれからは必要だと思います。

大槻　それはレスラー以外の？

高橋　そうです。いままで、それができなかったのは〝ケッフェイ〟を守るためですからね。外部から人を入れてしまうと、全てバレてしまうわけですよ！

大槻　〝おんねこ〟ってヤツですね？

高橋　そ、そうだね(笑)。なんで、おんねこなんて知ってるの？

大槻　いやいや、高橋本で知ったんですよ(笑)。高橋さんが書いてるんじゃないですか！

高橋　あ、そうですか(笑)。まあ、そんなようなことでね、外部の人を入れるわけにはいかなかったんだけどもね。

大槻　でもカミングアウトしてしまえば……。

高橋　そう！　もっと外部から

ああ、そうですか？ 面白くなりつつあると思うんですけどねぇ





こちらが12月に発売された高橋氏の新著『マッチメイカー〜プロレスはエンターティメントだから面白い〜』(ゼニスプランニング)。今回の本では新日時代の体験を元に、プロレスにおけるマッチメイカーの重要性を一歩踏み込んで描いている。

中川雅博 爆笑連載!?

能力を持った人を入れられるわけですよ。ですから、ボクはマッチメイカーは外部の人とレスラー出の人間が2人でやっていくのが一番いいなって思いますね。プロレスの中に携わった人たちだけでやっていったら結局行き詰まってしまっていいものができないし、外部の専門の人を入れて、その力を借りて、いろんなアイディアを出してもらった方が面白いものがドンドン作られていくと思いますよ。

大槻 でもそうなると、とんでもない人が食いついてきちゃうんじゃないですか？　なんかこう、プロレスゴロみたいなヤツとか（笑）。

高橋 いやいや、バカじゃないから、そんな人は選ばないよ。

大槻 そうですか。そういえば、猪木さんが最近また新間さんと手を組んだじゃないですか？

高橋 ボクはね、あれは凄くいいことだと思うんですよ。

大槻 エッ!?　し、新間さんが戻ってくることがいいことなんですか！

高橋 前の本でも書きましたけど、プロレスは、ここ最近、格闘技に、ちょっと押されてしまってるから、新間さんが復帰して猪木さんと仲直りしてくれたら、ともいいなって思ってましたから。

大槻 でも新間さんが新日をグチャグチャにしちゃった部分ってあるんでしょ？

高橋 ボクはねぇ、よくわかんないんですよ、その辺のことは。

大槻 よ、よくわかんないんですか！（笑）。

高橋 確かに新間さんが辞めたあとで、選手たちがずいぶんいろんなことを言ってたりしたですけど、ボクは新間さんとお付き合いしてましたんでね。新間さんの能力っていうのは、ボクはイヤっていうほど知ってますから。

大槻 でも、そこで結びついた第1弾として、アクション俳優のスティーブン・セガールと猪木さんのエキシビジョンマッチっていうものをブチ上げたわけですけど、ちょっとわけがわからなくて、大丈夫かなぁって気も正直するんですけどね（笑）。

高橋 あぁ、そうですか（笑）。まぁでも、ファンが喜んでくれるならいいんじゃないですか？

大槻 逆に、いまこそミスター高橋が新日本のマッチメイカーに就任するっていうのは、オレはいいと思うんですよ！

高橋 いやいや、とんでもない。ボクがやってた頃と、いまは全然違うから。ボクの能力では通用しないですよ。

大槻 そうかなぁ？　だって、いま蝶野選手のマッチメイクって、わけわかんないじゃないですか！

高橋 あ、そうなの？（笑）。

大槻 だって、天山と蝶野がIWGPのタッグ王者で、ジョニー・ローラーは女性ですよ！　その女子レスラーと、誰かと思ったらタッグパートナーはザ・グレート・カブキ！　もう何年も前に引退した飲み屋のご主人ですよ！　それと闘うんですよ！もうなんですか、それ！　ホントわけわかんないですよ!!……爆笑しましたけどね（笑）。

――そこで笑ったら新日の思うツボですよ（笑）。

大槻 ……そうなのよ（笑）。オレのために、オレひとりを喜ばせてくれてんのかって思ったけどね。あれと小川vsガファリ戦は。

高橋 ありましたねぇ（苦笑）。

大槻 いまこそ、高橋さんがマッチメイカーって、いいと思うんですけどねぇ。

高橋 いやいや、違う違う。ボクがやってたときには、いまよりもズ～ッとラクだったですよ。だって、シリーズが4週間だとか流れが決まってたじゃないですか？年間7シリーズないし8シリーズやって。で、その他に、このシリーズはトップの外人選手は誰々って決まってて、それをうまく使いこなしていけば良かった。いわゆる日本人対外国人選手の闘いの構図ができてたんでラクでしたよ。でもいまは、凄く難しいと思いますよ。ボクの古い頭では、とっても無理です。

大槻 いやいや、それなら、もう団体作りましょうよ！

高橋 ハッハッハッ。作りますか？（笑）。

大槻 いまね、高橋さんの本を読んで、ピーター教って言ってもいい信者はたくさんいますよ！よくぞ書いてくれたっていう。そういう信者から、1人いくらか募って（笑）。もう団体作りましょうよ！　ボクも解説でもなんでもやりますよ！

高橋 あっ、そうですか（笑）。もしやるんだったら完全エンターテインメントでやりますよ。真剣勝負はやりません。怖いですから（笑）。

――前作も、今回もそうですけど、日本のプロレス界も行き着くところはWWEのようなエンターテインメントにするべきだ、みたいなことを書かれてますよね。

大槻 そうそう、これはみんな言ってるとこなんだけど、いわゆるアメリカンプロレスっていうのは日本人には合わないんじゃないかっていうね、その部分はありますけども。

高橋 そうですかねぇ。でもプロレス自体がアメリカから来たもんだし、アメリカのあとを追っかけていくように自然となるんじゃないですか。ですから、大槻さんもボクの本を読んで、いろいろと感じてくれたんならプロレスをこれからも見てくださいよ。お願いします！（微笑）。

大槻 でもねぇ、最近ドンドン歪んだファンになっちゃって。

高橋 そうじゃなくて、新しい楽しみ方を見出していただきたいんですよ。

大槻 た、たとえば、どんな楽しみ方があるんですか？

高橋 それは個人個人の違いがあるかもしれないけど（笑）。例えばね、ボクはいま高校で講師やってるんですよ。

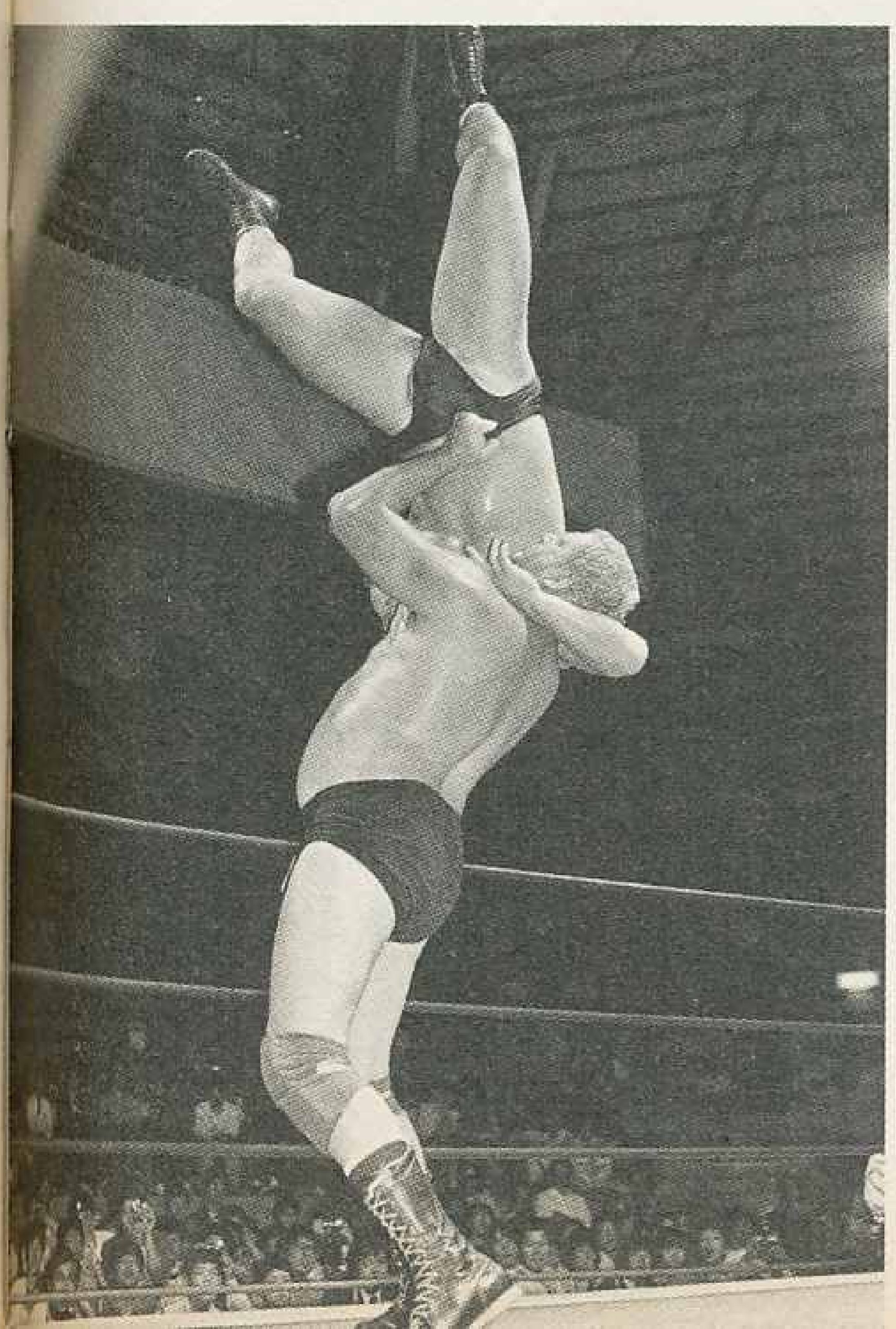
大槻 そ、そうなんですか？　いろんなことやってるフリーターですね（笑）。

高橋 そうだね（笑）。そこへ最初行ったときには、生徒は全く プロレスの話なんかしないんです

いまこそミスター高橋が新日本のマッチメイカーに就任するっていうのは、オレはいいと思うんですよ！

橋 ×大槻ケンヂ





『マッチメイカー』第2章のテーマは「興行会議」。その会議ではマードックが「ブレーンバスター」と叫んでから技を出すのはおかしい等々、様々な議題を真剣に話し合っていたという



よ。自分がその年代のときはプロレスの話をしなかった日なんて、まずないぐらいだったですよ。

大槻　ないですよ！　で、休み時間はプロレスごっこですよ。

高橋　で、なんでだろうな？って思ってたんですよ。でもボクもプロレスを辞めたばっかりだし、それまでプロレス漬けでしょ？　そこから解放されたんで清々したなって思ってたんですけど、だんだん寂しくなってきちゃってね。こっちから逆に「みんなプロレス見ないの？」って話しかけたりしてね（笑）。

大槻　ミスター高橋が学生に「みんなプロレス見ないの？」と聞く！（笑）。

高橋　そうすると「あれ八百長でしょ？」ってひと言が返って来るわけですよ。「八百長でしょ？　だから見ない」って言われたときには、それこそ衝撃だったですね。そういう風に思ってんのかって。だったら「エンターテインメントなんだ」ってキチンと公表すれば「八百長だ」って言われないよなって思ったんですよ。エンターテインメントって言ったって、生半可な訓練じゃできませんからね！　真剣勝負に負けない訓練や真剣さが要求されますから。そういうところも見せていけばいいと思いますよ。

大槻　カミングアウトしたところから、何かが始まるんではないかということなんですかね。

高橋　うん。ボクは、その期待でもって、前回の本を書いたんですよ。大体、プロレスのような試合数こなすのに真剣勝負ってできないですもんね。だって、一時は新日本は年間に230試合ぐらいやってたことありますからねぇ。そんなに毎日毎日……やりきれないですよ（笑）。

大槻　それをガチンコだと思ってた新日ファンもいたっていうのは、いい時代だったんだなぁって……ホント、のんきな時代だったんだなぁ（しみじみと）。

高橋　でも、その頃から「ガチンコで、そんなに試合ができるの？」って疑問を持ってた人だって相当いたわけだよね。

大槻　はい。もちろん。

高橋　その辺を「いや、これは真剣勝負だ」って言い張ってたから、「もういい加減にしてよ」って、もう見なくなっちゃったファンだって相当いるわけですよ。でも、そういう人たちがボクの本を読んでくれて「あぁ、そうだったのか」って、あらためて、そういう目で見ればプロレスって楽しいよなってことで、戻ってきてくれたファンだって相当いますよ。

大槻　でも、去っていったファンも多いんじゃないですか？

高橋　あぁ～、そういう人もいるでしょうね。戻ってきてほしいんですけどね。

大槻　いや、プロレスのレフェリーをしていた方に、しかもプロレスの雑誌でこんなこと言うのもなにかと思うんですけども、あの～、プロレスっていうジャンルはねぇ、卒業していくもんなんじゃないかなって思うんですよ。

高橋　あぁ～、なるほど。

大槻　ロックもそうです。ロックも、やっぱりファンというのは「一生お前についていくぜ！」って言った人も、大人になるとやがて卒業していくんですよ。で、プロレスというのもドンドン去っていくもんなんですよ、きっと。そういうジャンルってあるんだと思うんですよ。そういうジャンルにしがみついているファンが異常なんですよ。

高橋　あぁ、なるほどねぇ。

大槻　ホント、30歳とか40歳になりながら『紙プロ』とか真剣に読んでたりする連中が気持ち悪くてしょうがないんですよ。まぁ、そういうオレも『紙プロ』は読んでるんですけど（笑）。

――やっぱり長いプロレスファンっていうのも、その間に1回や2回は離れたりするっていう方が普通だと思いますよ。

高橋　あぁ、そうなんだ。そう言われればウチの生徒たちの親は「よく見てた」って言うんですよ。ちょうどゴールデンタイムで見てた時代のお父さん、お母さんなんですね。この間も生徒がなに言うかと思ったら「ミスター高橋って、あのミスター高橋か聞いて来いってお父さんが言うんですよ」って（笑）。

大槻　はぁ（笑）。

高橋　「意味はわからないんですが、お父さんがそう言うんですけど」って言うから、「そうだよ。そう言っとけ」って（笑）。だから、親たちはゴールデンでプロレスをうんと見てきた世代なんだけど、いまはあんまり見てないってのは卒業しちゃったのかな？

大槻　そういうジャンルだと思うんですよ。一度、プロレスから離れてプロレスの世界を見ると、非常に奇妙なものに見えたりなんかして、なんか最近、ホントにプロレスとか見なくなっちゃって。

高橋　そうなんですか。

大槻　でも、久しぶりにこの間、後楽園にZERO―ONEを見に行ったんですよ。橋本さんが一番最初に出てきた大会だったんだけど、その会場に立ちこめてる〝モテないオーラ〟がなんか気持ち悪くて、吐きそうになっちゃって、メイン見ないで帰っちゃったんですけどね（笑）。

高橋　あっ、そう（苦笑）。それはファンの雰囲気ですか？

大槻　雰囲気ですね。なんかプロレタリアのルサンチマンみたいな、「お前らまだそういうことやってんのか？」みたいな気持ち悪い感じがしちゃって。「これじゃあプロレスはモテねぇよなぁ」って思いましたね。でもね、『PRIDE』とかK―1の会場も、またオレは違うと思うんですよ。K―1なんかたまに見に行くんだけど、あれは成金感覚ね！

高橋　そうなんですか（笑）。

大槻　金に物言わせて強い連中呼んできて、花火焚いてドンドンやってっていう日本人のイヤらしい成金感覚というか、しかもラスベガスで興行って、そのラスベガスっていうところの安っぽさが、もうなんだかイヤだなって気持ちになったりとか……なんかね、いろいろ思っちゃうところがあるんですけどねぇ。

高橋　困りましたねぇ（苦笑）。

大槻　『PRIDE』に関して言えば、なんかこうスポーツに対するコンプレックスみたいなものが見えて、ちょっと気持ち悪いなぁみたいなところがあるねぇ。で、新日本を見ると蝶野と飲み屋の親父が闘ってるし、そこに女子レスラーが絡んだり、わけわかんないんですよ！　なに見たらいいのよ！っていうとこなんですよ。

――ちなみに大槻さんはボブ・サップとかもダメなんですか？

大槻　サップはね、サービス精神ありすぎ！　あれ飽きるよ、すぐ。オレもう飽きたよ。だって芸ないんだもん。トークのパターンも全部レスラーを何々に例えるみたいなね。この間、武蔵敬司をタコ焼きに例えて、そしたら武蔵がサップをおはぎに例えたんだよね。

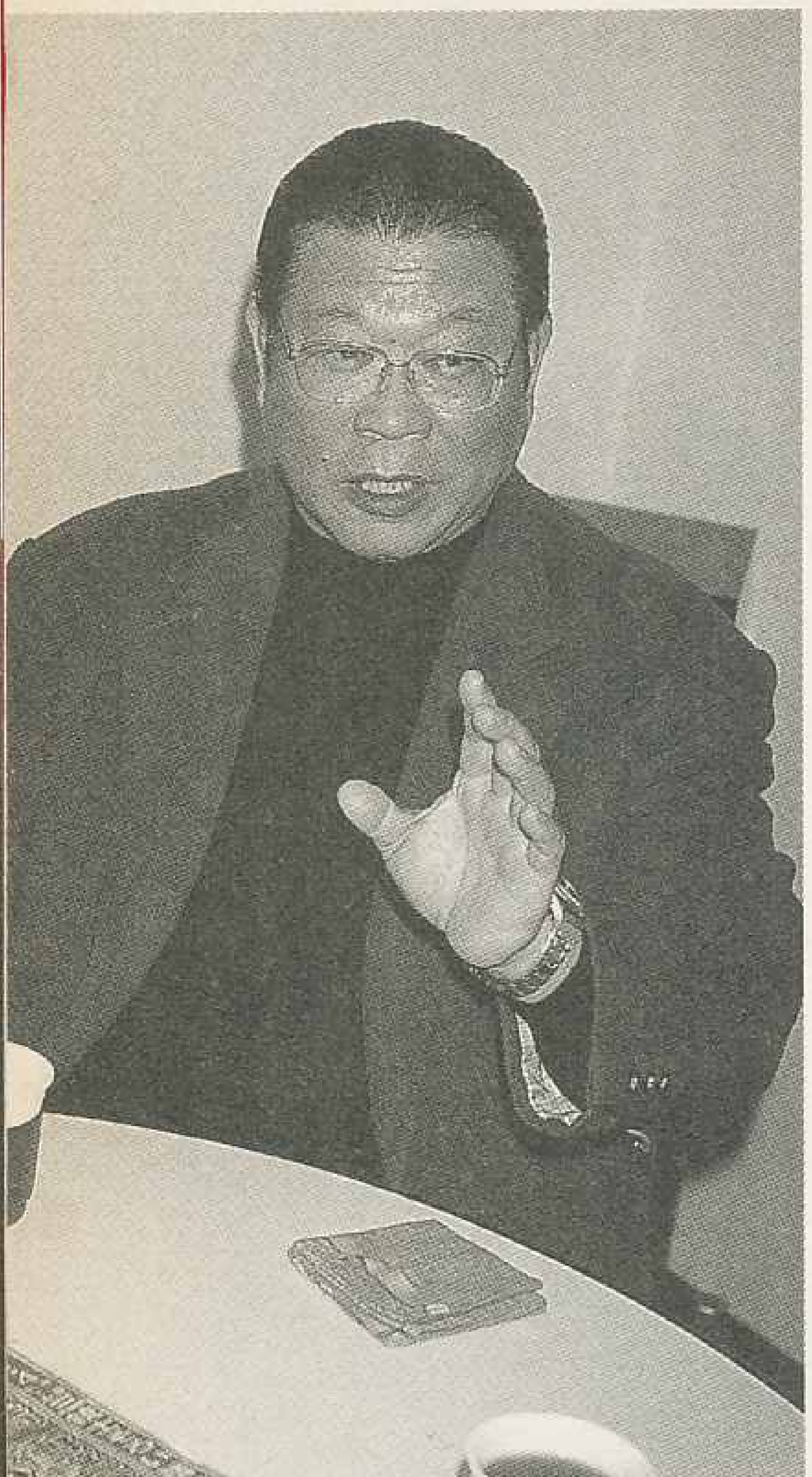
高橋　エッ!?　おはぎ？（笑）。

――見た目はグロテスクで中身は甘いと（笑）。

大槻　もうね、あれで足元見られたね、ボブ・サップは。

――でも、サップまで否定しちゃうと、もう見るものないでしょう（笑）。

高橋　サップは凄い選手だよ。



いやいや、とんでもない。ボクがやってた頃と、いまは全然違うから通用しないですよ

中川雅博 爆笑連載!?

いい選手だと思うんだけどね。

大槻 みんなサップに賭けようとしてますよね、マット界が。コイツでブレイクオンスルーできるんじゃないかって。

高橋 たしかに、テレビにあんまり出過ぎっていうのもどうかと思うよね。バラエティーだとか、自分の本職じゃないところへやたら出て行って愛嬌を振りまいてしまうっていうのはね。

大槻 でも、いまはテレビを利用しないとどうにもならないっていうのはあるんでしょうね。小川直也なんかも、ひと頃タレントとして出倒していて、あの人、もの凄い芝居ヘタなのに出たりするんだよね。

高橋 ヘタなんですか？（笑）。

大槻 もうなんかね……安部譲二ぐらいヘタですよ（笑）。安部譲二が映画に出たとき、凄いヘタでビックリしたんですけどね。

高橋 でも小川選手は、そうやって出れるだけ凄いじゃない？声が掛かってくるだけ凄いことだと思いますよ。うまいとかヘタっていうのは、ちょっとわからないけど（笑）。

大槻 高橋さんもドンドン、テレビとか出ていってくださいよ！

高橋 いやぁ～、誰も呼んでくれませんよ、ボクなんか（笑）。

大槻 なんか、高橋さんは仕掛けようって気はないんですか？

高橋 あんまりないですねぇ。

大槻 ないんですかぁ（残念そうに）。それと、あの警備会社の方はどうなったんですか？

高橋 うまくいかなかったね（しみじみと）。

大槻 そんな哀しく言わないでくださいよ！（笑）。

高橋 いやいや、ボクの能力不足だったと思いますよ。やっぱり資金も足りなかったし、能力も足りなかったし、足りないだらけになっちゃってね。

大槻 でも前回の高橋さんの本を見た時に、新日がお金を出して警備会社をやると、そしたら土壇場でお金を出さなかった、と。そのことへの恨み辛みが、あの書を書かせたんじゃないかって思ってしまったんですけど。

高橋 と～んでもないですよ。

大槻 結構、そう思ってる人は多いですよ。

高橋 それは、全く違います！（キッパリ）。そんなことないですから。それに、あのときは警備会社っていってもボディーガードをやりたかったんですよ。

大槻 はいはい。

高橋 プロレスラーって礼儀正しいし、上下関係も厳しい中で生きてきてるんで、そういう人材はボディーガードに打ってつけだなって思ったんですよ。それに、これからの日本は欧米諸国のようにボディーガードを必要とする時代になっていくだろうなって思ったんで、ボクはその提案をしたわけですよ。

大槻 はい。

レフェリーの仕事としてケッフェイの部分も守秘義務があるわけじゃないですか？

高橋 で、最初は「それ、いいですねぇ」ってことで、その資格を取ったりいろいろと進めてきたんだけど、ボクが辞める間際に「ちょっとね」って言われてしまったわけですよ。正直かなりショックだったですけどね。それだけで、ずっと進めてきて、やるつもりだったから。

大槻 そうでしょうね。

高橋 でも、いまになって考えてみると新日本プロレスがやらなかった判断の方がボクは正しかったと思いますよ。

大槻 やんなかった判断の方が正しいと？

高橋 と思ってます。ボクは新しい世紀に変わっていった頃から経済は良くなっていくと単純にそう思ってたんですよ。ですから、その波に乗っていけるんじゃないかと思ってたけど、いまだに先の見えない不況じゃないですか？

大槻 まぁ、そうですよね。

高橋 そんなことを考えると、新日本の上の方の人たちの判断は正しかったとボクは思ってます。あのときにもし、その会社を作って新日本が100%出資してボクがそこの代表になってやっていたら、もうズッとおんぶに抱っこで、凄く肩身の狭い思いをしてただろうなって思います。たしかに、あの頃の新日本の名前で営業できなくはなかったかもしれないけど、ボクがずっと描いてた風には成功はしなかっただろうなって。

大槻 それを立ち上げようとしたとき、実際声を掛けたレスラーはいたんですか？

高橋 いや、いないです。それから、すぐにじゃないんですよ。ボクは資格は取ったけれども、実務経験ってないじゃないですか？それっていうのは、かなり重要なのね。

大槻 はぁはぁ。

高橋 そんなんでもって、1年間ボクは警備会社に勤めて、実務経験をしてきて、そっからあとにスタートするはずだったんですよ。新日本の方から「会社をやらない」って言われたあとででも、その約束どおりボクは、そこへ行って1年間過ごしてきましたからね（笑）。

大槻 あっ、そうなんですか！じゃあ、実際ボディーガードをされてきたと？

高橋 やりましたね。

大槻 どんな感じでした？

高橋 ボディーガードの場合は、何をやったっていうのは業務上言っちゃいけないことなんですよ。

大槻 あ、なるほどぉ（笑）。言える範囲でかまいませんけど、要人警護とかはされたんですか？

高橋 ええ、やりましたよ（アッサリと）。

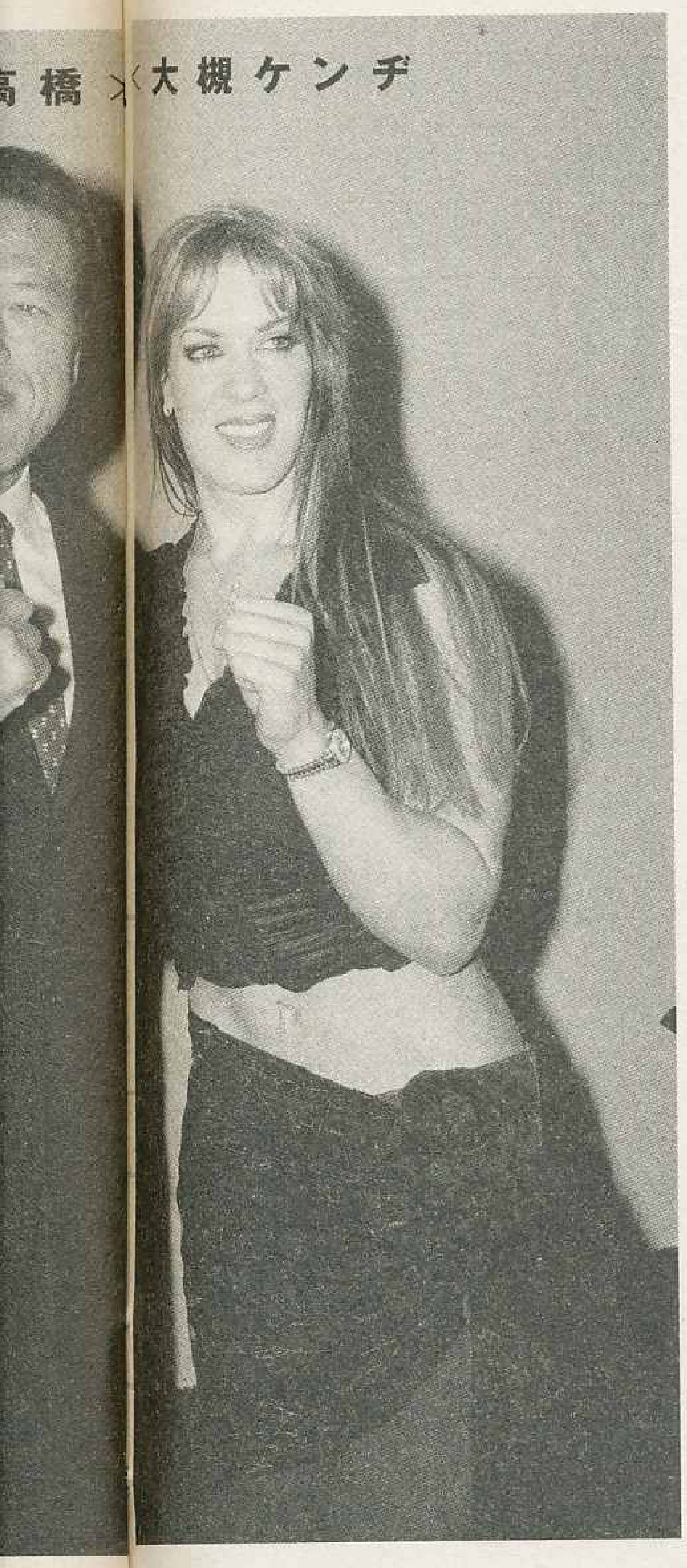
大槻 ほぉ！

高橋 ボクが業務体験してきた中で、詳しくは言えないけど（笑）、拉致された女性を取り返してきたことありますよ。

大槻 エ～ッ!? そ、それは詳しく聞かせてくださいよ！言える範囲で（笑）。

高橋 いやいや、これは業界の鉄則で言えません（笑）。

大槻 それは、もしかして曽我ひとみさんじゃないですよね？







高橋　違います、違います（笑）。

大槻　良かったぁ。でもいつか、ほとぼり冷めたら、そのことも本にして欲しいですけどねぇ。

高橋　いえいえ（苦笑）

大槻　いや、面白いと思ったのは要人警護の話は守秘義務があるから言っちゃいけないと。でも、ある意味レフェリーの仕事としてケッフェイの部分も守秘義務があるわけじゃないですか？　それは言ってもいいわけですか！（笑）。

高橋　フッフッフッ！　だって言っちゃったもんねぇ（笑）。

大槻　ハッハッハッ！「言っちゃったもんねぇ」って（笑）。まぁ言っちゃいましたけどね。

高橋　でも、言っちゃいけないっていう法的規制はないですよね。暗黙のうちに、ケッフェイを守っていくんだよっていうのはあったですけど、言っちゃいけないとは誰も言ってないですから（キッパリ）。

大槻　（パンと手を叩き）それそうですよねッ！　そうですよッ!!（笑）。

高橋　ボクは本にしてしまったから、もの凄い衝撃があったのかもしれないけど、レスラーにしたって他のレフェリーにしたって友達と一杯呑んでるときには、ほとんどしゃべってますよ。だから、聞いたことある人も多いと思いますよ。実際、ボクの本に載ってるようなことを。

大槻　ですよね。でも高橋さん、それ最高ですよ！　言っちゃいけないって決まりはないですよ（笑）。考えてみればそうだよなぁ。ファンの側が勝手に「知っちゃいけないんだ！」みたいなバリアを張ってただけよ、考えてみたら！　そうだよ、そう！　高橋さんは何も罪はない。悪いのは……プロレス雑誌の読者だよ!!（キッパリ）。

――そうでしたか！（笑）。

大槻　そう！　我々だよ！　我々が勝手に「秘密だ秘密だ」って言って知らないようにしてただけだもん。そうですよ。コペルニクス的発想の転換ですよ！

高橋　だから、知った方が逆に面白いんでねぇ。知らなくて、プロレスオタクなんて言われる人がいるじゃないですか？

大槻　いますねぇ！

高橋「プロレスは真剣勝負だ！」って、自分の中で信じて凝り固まってる人。なんか異様っていうか不気味だもの。自分の殻の中に閉じこもっちゃってる人たちいるじゃないですか？

大槻　はいはい。いわゆるプロレスオタクですね。『紙プロ』さんの読者にもよくいると思うんですけどね（笑）。

――うちの読者にいますかね？（笑）。うちではそういうファンは少数派だと思いますよ。

高橋　ですから、プロレス界も、ある部分カミングアウトしなきゃならない時代に来てると思うし、ファンもカミングアウトしなきゃならないと思いますよ。

だって言っちゃったもんねぇ(笑)。それに誰も言っちゃいけないとは言ってないですから



大槻　たしかにそういうオタクは、いまは『紙プロ』は読んでなくて、逆に『●●●』とか毎週買ってるような連中だよね。なんか『●●●』毎週読んでるヤツって気持ち悪いよねぇ（しみじみと）。絶対おかしいよ！　どうかしてるよ。

高橋　そう？　そんなことないと思うけどなぁ（笑）。

大槻　絶対そうですよ！　いま一番ヤバイ……人類ですよ！

――人類ですか！（笑）。

高橋　ボクの生徒なんだけどオタクがいたんですよ。やっぱり暗かったの。で、プロレスのTシャツ着てるんですよ。

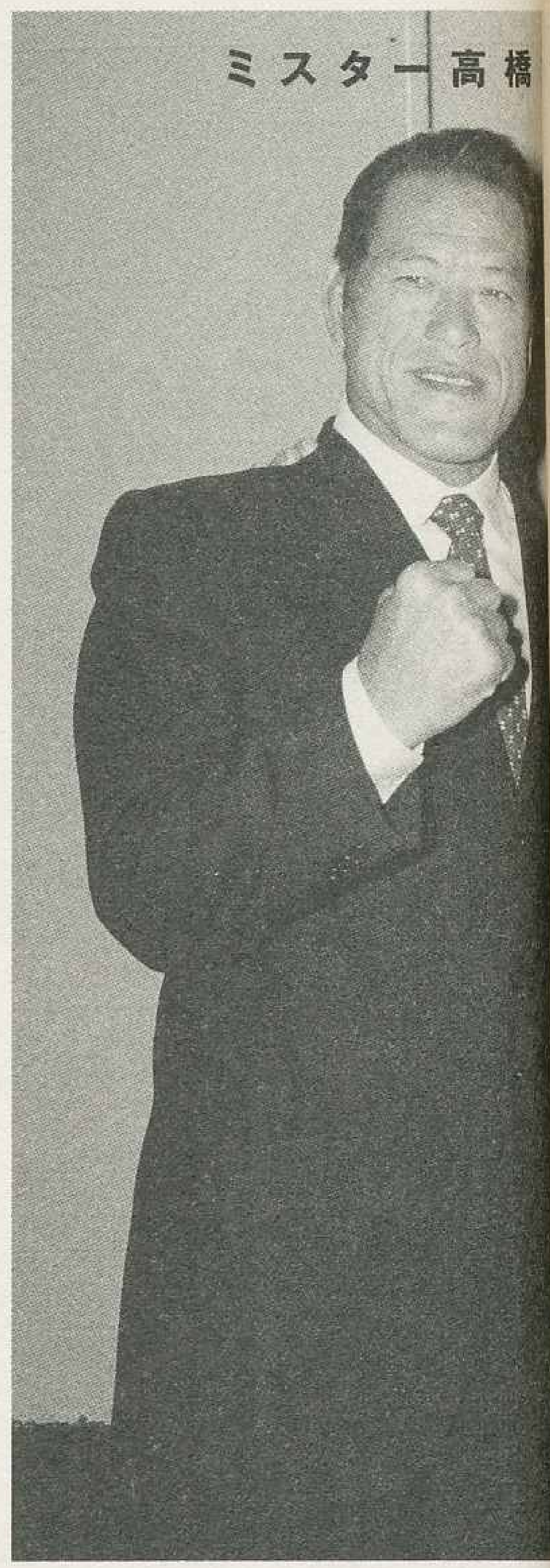
大槻　いいじゃないですか！（笑）。ボクだって着ますよ！

高橋　で、「どこで買ったの？」って聞いたら小さい声で「闘魂ショップ」って。

大槻　闘魂ショップ！（笑）。

高橋　モソモソって言うだけで、なに聞いたって「はい」とか「うん」しか言わないのね。これがプロレスオタクなんだって。なんとかこの子を直さなきゃって思ったんですよ。そしたら、その子があとになって「サイン入れてください」ってボクの本を持ってきてね。それから段々明るくなってきて、この間も「オレの本読んでから明るくなったな。オレの本がお前を救ったんだよ」って言ったら笑ってましたよ（笑）。

大槻　いや、そうですよ！　全く、そうですよ!!　かなりの人を救ってると思いますよ。



高橋　救ってるかどうかわかりませんけど、ボクは本でも書いてるとおり、プロレスをもっと楽しく、もっとファンを増やそうって思ってるだけなんでね。

大槻　武藤敬司が言うところの〝プロレスLOVE〟ってヤツですか？

高橋　そ〜うね。似てるかもしれない。

大槻　いや、いろんなお話をうかがって、ボクとしては、高橋さんの新日のマッチメイカー復帰、そしてできれば新団体設立を望みたいですね！

高橋　ハッハッハッハッ！

大槻　でもいま、特に新日なんかからは高橋さんは敵対視されてるんですかね？

高橋　そうでしょうね（苦笑）。

大槻　具体的になんか言われたりとかってあるんですか？

高橋　あ、具体的にはないです。

大槻　でも大手振って新日の会場に行ける立場ではないってことですよね？

高橋　そうですねぇ。たぶん追い返されるんじゃないですか？「チケット持ってます？　払い戻ししますよ」って感じで（笑）。

大槻　大仁田厚みたいな感じですね（笑）。でも、新間さんと猪木さんがくっついたりとか、長州さんと谷津さんがくっついたり、一時敵対してたもの同士っていうのも、いつかは……。

高橋　いや、敵対してたっていうか発展的な和解ですよ。

大槻　高橋さんと新日も発展的な和解というのも数年後にはあるやも……しれないですよね？

中川雅博 **爆笑連載!?**



【みすたー・たかはし】元新日本プロレス役員待遇審判部長。通称・ピーター。新日本在職25年間の間に約２万試合を裁き1998年引退。レフェリー時代から数多くの本を出している高橋氏。ここ最近の著書としては『プロレス至近距離の真実』、『流血の魔術・最強の演技』（共に講談社刊）などがある

ミスター高橋×大槻ケンヂ

【おおつき・けんぢ】1966年、東京都出身。88年『筋肉少女帯』としてメジャーデビュー。現在はロックバンド『特撮』で活躍。94、95年と2年連続でSF小説の賞である「星雲賞」を受賞するなど、小説家、エッセイストとしても評価が高い。プロレス＆格闘技ファン（過去形?）としてもお馴染み

高橋　う〜ん……そうだね。

大槻　ボクはそれを期待……いや、もう新日は高橋さんがいないとダメですよ！　まぁ新日じゃなくてもいいや。とにかくマット界にいないとダメですよ！

高橋　でもやっぱりね、新日はボクの故郷ですから。

大槻　心の故郷！

高橋　はい。新日本にはプロレス界のリーダーシップを取ってほしいしね。

大槻　でも、いまの新日は、なんか背に腹を変えられないっていうか、そんな言い方はあれだけど（笑）。なんていうか手を変え品を変え、とにかく刺激的なことやんないとダメだ、「じゃあミスター高橋呼べ！」みたいなことにもなりかねないっていう状況ですからね。

高橋　そうなのかなぁ?

大槻　棚橋（弘至）も刺されちゃいましたしねぇ。

高橋　あぁ、そうだってねぇ。

大槻　あれはジョーニー・ローラーが怒って来日っていうアングルでどうですかね?　女の敵、棚橋を制裁するっていう。

高橋　彼は相当にモテたみたいだからね。でも大槻さんはストロングスタイルを基本としている新日本のリングへ女の選手を上げてしまったっていうところに反発感じてるみたいだったけど、ボクはあんまり抵抗ないんですよ（笑）。

大槻　あ、そうですか！

高橋　ただ、使い方がちょっとな。自分だったらもう少し面白い使い方するけどなぁとは思うよ。まぁでも、それはマッチメイカーが考えることなんで余計なことは言えないけど、仮に、仮にだよ、ボクがあの選手を使うんであれば、もう美女軍団作っちゃいますよ。

大槻　び、美女軍団!?（笑）。

高橋　日本にはキレイなプロレスの女の人いるよね。うまい人もいっぱいいるじゃないですか?　その人たちを手下に5〜6人付けてね。

大槻　ハンディキャップマッチですか。

高橋　やっぱり男子にはかなわないからね。だから、タッグマッチでも男は2人、女の方は5人ですよっていう闘いをしたりなんかしてね。で、最初の何分間は普通のレスリングやって、最終的にボクだったら、1人ターゲットを絞ったら、いわゆるライオンの世界でもって、獲物取ってくるのはメスじゃないですか?　もうね、ターゲットを絞ったら、それだけを目もくれず追っかけ回させますよ。

大槻　いいですねぇ（笑）。

高橋　タッグチーム2人いたら、片方をターゲットにして、それだけを徹底的に痛めつけて絶対タッチさせない。でもって最終的にローラーが必ず押さえ込むっていうね（笑）。

大槻　でもたぶん、少年期にそれ見たら完全にマゾヒストになりますよ！

高橋　あぁ、そう（笑）。でも普通にやったら男子にはかなわないけど、女子は頭の良さや身体の柔らかさとか男子より動ける部分だってあるわけだしね。それでもって徹底的に1人マークして、さっき言った通りメスライオンが獲物を追っかけ回すのと同じですよ。

大槻　その1人は棚橋じゃないですか?　タナしかいないですよ！　女の敵、言うて（笑）。

高橋　それは可哀想だよ（笑）。たしかにローラーも強いかもしれないけど、男の選手がうしろから金的やられるとか、あまりにも単純なストーリーじゃないかなって思うけどね（笑）。

大槻　それをやるんだったら、そのローラー美女軍団はキレイ系の女子レスラーがいいですよね。井上貴子あたりですかねぇ?　あと、能見佳容とか?

高橋　キレイな子いっぱいいるからね。

大槻　それだったらオレも見たいなぁ。ボブ・サップvs12人の美女レスラーとか。その美女軍団の悪のマネージャーが星野勘太郎とかだったら、なんかもうそれ、やばいスナックじゃないですか（笑）。

高橋　ハッハッハッハッ！

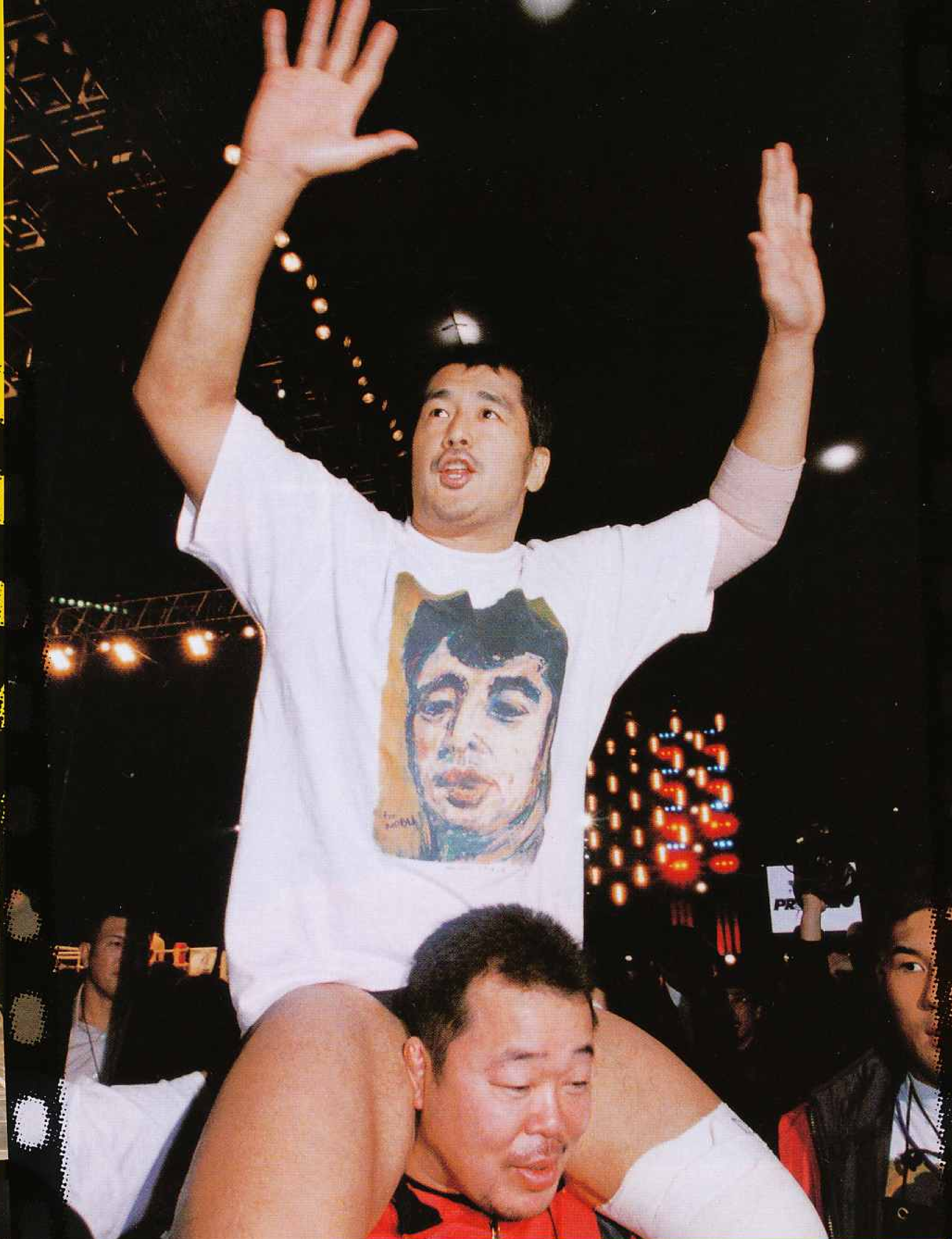
大槻　これ絶対、裏にヤクザいるなって思いますよ。キャッチバーですよ、歌舞伎町の（笑）。それで「ビッシビシいくからな!!」とか言ってくれるんだったら見たいね。夢膨らみますねぇ。

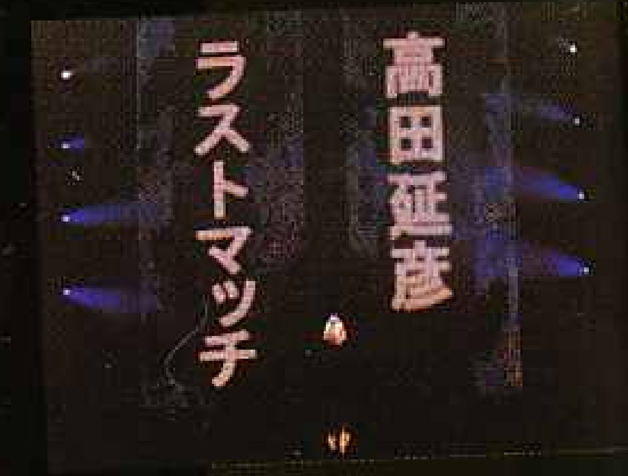
高橋　ハッハッハ、そうですか（微笑）。でも、ホントにプロレスはエンターテインメントとして、厳しくて楽しい、一流のジャンルなんだよってことをもっともっと伝えたいよね。

大槻　なるほど。これからもピーター教信者として、ボクは高橋さんのマッチメイカー復帰を願ってますよ！　今日はありがとうございました！

高橋　どうも、こちらこそ、ありがとうございました！

【02年12月5日／都内某所にて収録】







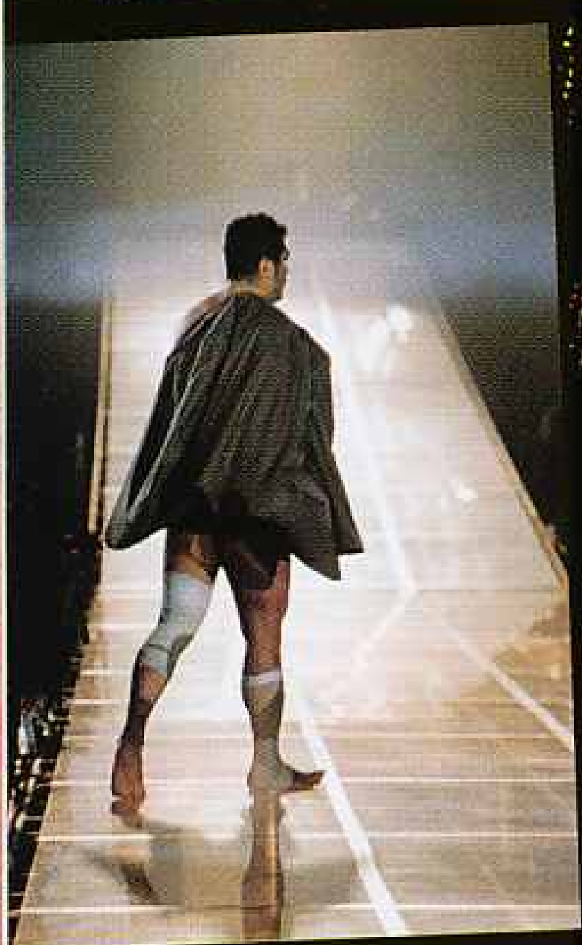








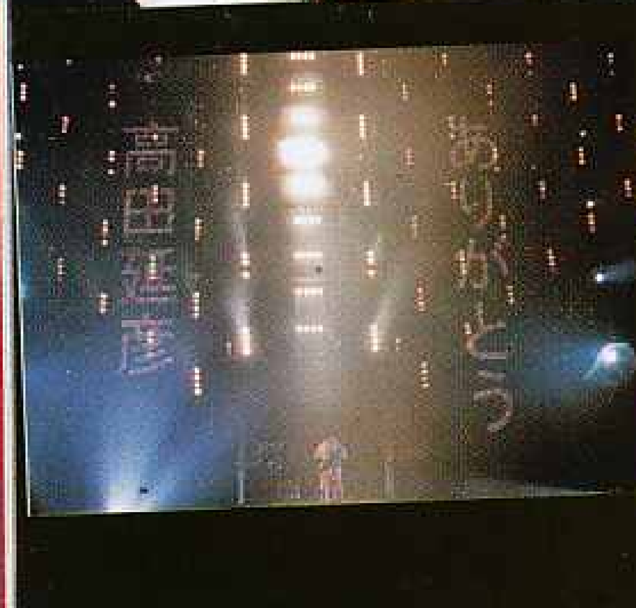






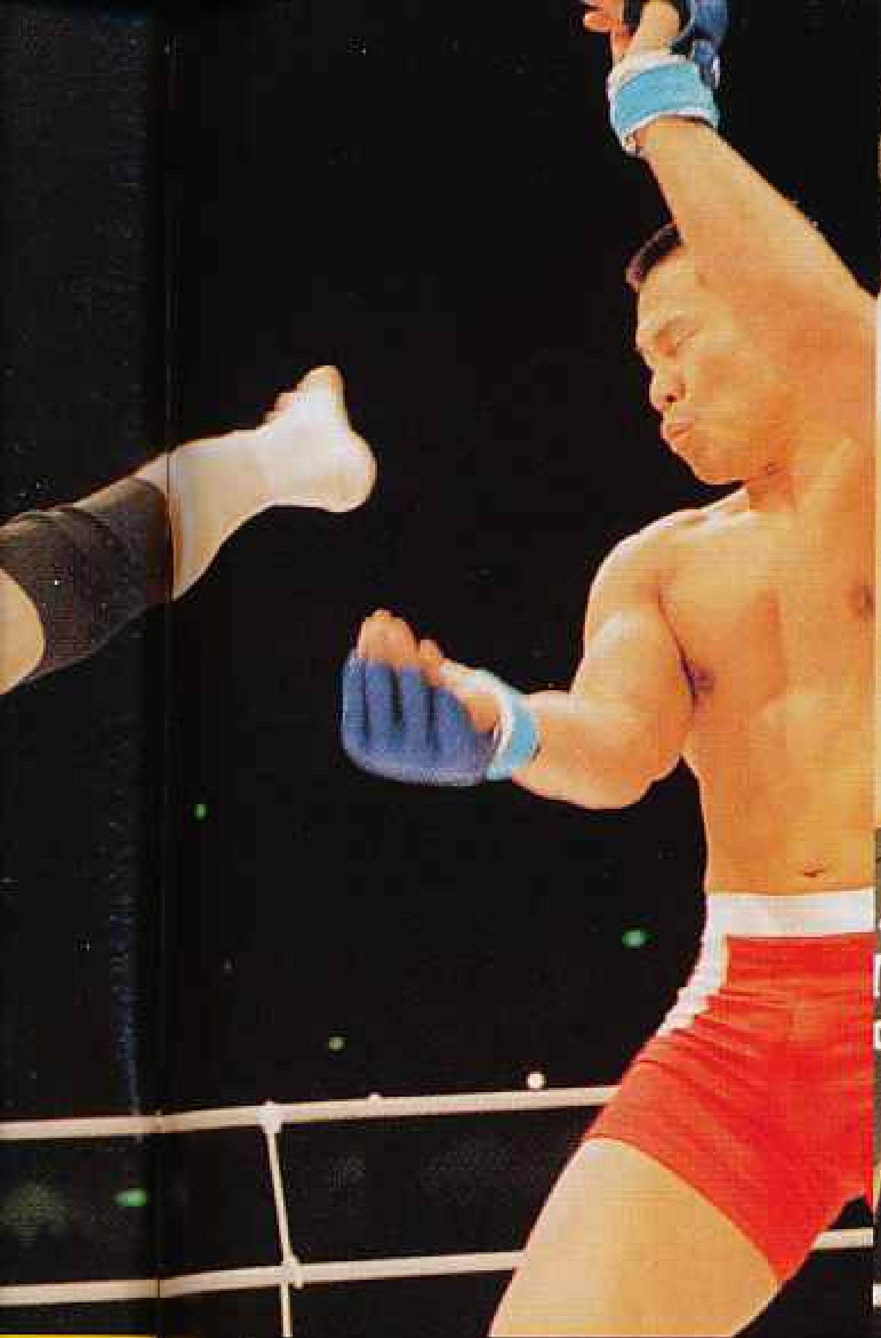






一瞬の11・24

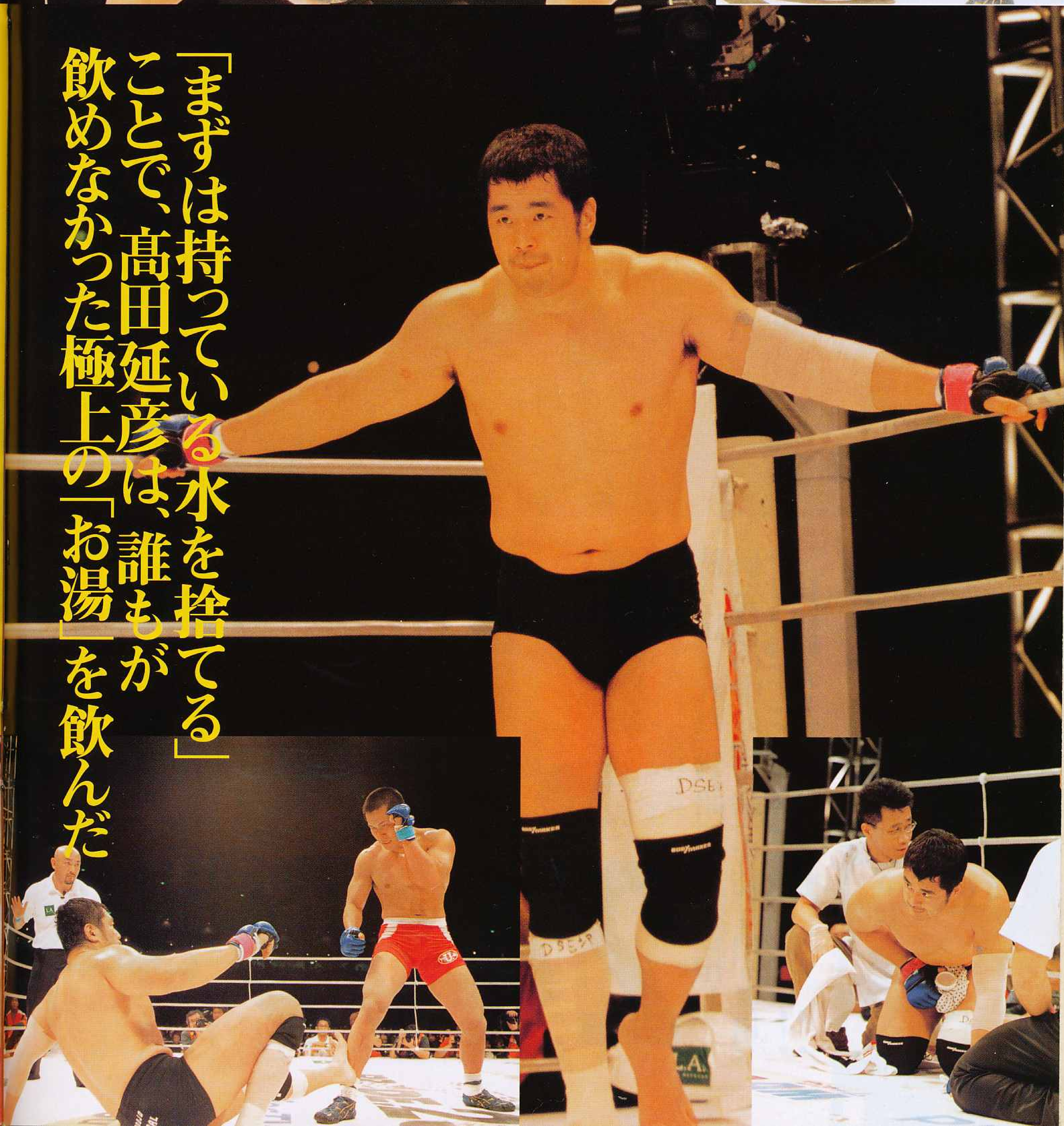
練り込まれた「物語」から飛び出し
偶発性の中の「物語」を紡ぎ出した男
高田延彦、引退——!!







「まずは持っている水を捨てる」
ことで、髙田延彦は、誰もが
飲めなかった極上の「お湯」を飲んだ









一瞬の11・24

11・24――髙田延彦にトドメの一発を食らった気分だ。こんなに複雑で生々しく、なおかつ清々しい引退試合はお目にかかったことがない。

『海馬』（朝日出版社）という本に、中村天風とかいうおそらく偉い人が、ヨガの行者に会ったときに言われたという〝たとえ話〟が載っている。

「コップ一杯の水を持った男に、お湯をやるとしよう。男がコップの水を捨てなければ、そこにいくらお湯を注いでも、男はぬるま湯しか飲むことができない。コップの中の水を捨てることで、はじめてお湯が飲めるのです」

さらにヨガの行者はこう続けた。

「おまえはまだ、自分のコップの水を捨てていない。だから、わたしが今熱いお湯を注いでも何にもならない。まずは持ってる水を捨てろ」

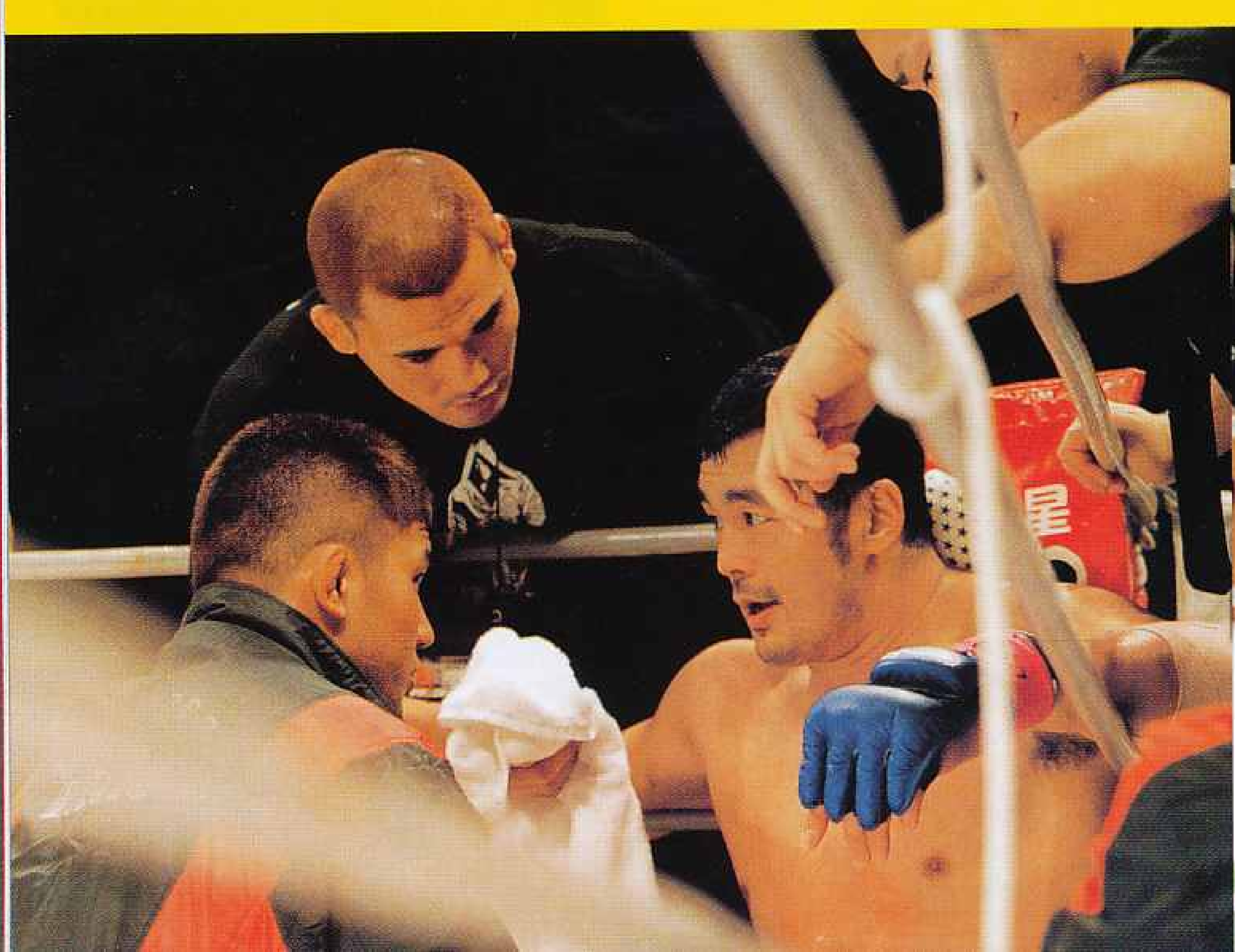
こういった類のたとえ話は、簡単に言えば、固定観念を捨てろ、とか、成功体験を捨てろとかに結びついて、訓話とかビジネス書によく引用されるような話だろう。

でも、このたとえ話に、強引に髙田延彦の引退試合を絡めていうと、髙田は「水」を捨てたことで、「お湯」を飲むことができたのだ。

ヒクソン・グレイシーに、マット界の歴史がガラッと変わるほどの〝世紀の敗戦〟を喫する前には、Uインターという団体が形成しているピラミッドの頂点にいた髙田。〝最強〟を旗印とする御輿に座っていた髙田。

そして、その敗戦をきっかけにして『PRIDE』のリングを主戦場に選ぶことで、〝最強〟という御輿に座り続けるという「水」を捨て、髙田は〝挑戦〟していく緊張感と解放感、不安と快感という「お湯」を飲むことができたのだ。

リング上の勝敗という意味では結果を出しきれなかった髙田だが、「お湯」







偶発性の中に身を置いたことで、髙田延彦は凄絶な一枚の絵となって“額縁”におさまった

を飲むことによって、存在として見事に蘇生し、人々の記憶に残るシーンをいくつも紡ぎだした。

練り込まれた「物語」から飛び出し、偶発性の「物語」を見せていった。

髙田の師匠であるアントニオ猪木は、「リングに這いつくばって死んでいくのが俺には似合ってるかもしれない」という生き方を、プロとして見事に仕立て上げてファンの前に提示していた。

でも、そのアントニオ猪木の引退試合も、〝額縁〟にムリヤリに入れてしまえとお膳立てされたものだった。前田日明の引退マッチもそうだ。

関係者も、会場に詰めかけた人も、額縁に「美しいアントニオ猪木」なり、「思い出の前田日明」なりをセレモニーごと押し込めて、部屋に持ち帰って飾ろうとした。

猪木も前田も〝額縁〟には入りきらない大きな存在だったからかもしれないが、周囲の〝額縁〟に閉じこめてしまえ、というお膳立てや、それをよしとした両者には、なんとなく違和感みたいなものを感じた。

しかし、今回の髙田延彦の引退試合には、最初からお膳立てなどなかった。すべては偶発性の中に身を置いたことから始まったのだ。

愛情、憎しみ、恩讐、怒り、悲しみ、共有していた時間、離れていた時間——すべてを解き放つために、髙田延彦は田村潔司を最後の相手に選んだ。リングに上がる前に帽子を取った田村の頭は新弟子時代のように刈られていた。

かつての後輩にローキックを打たれまくり、髙田は何度もよろけた。ローブローが入り、髙田はうめき声を上げて悶絶した。蹴り足を捕らえ、髙田は必死の形相でテイクダウンを奪った。

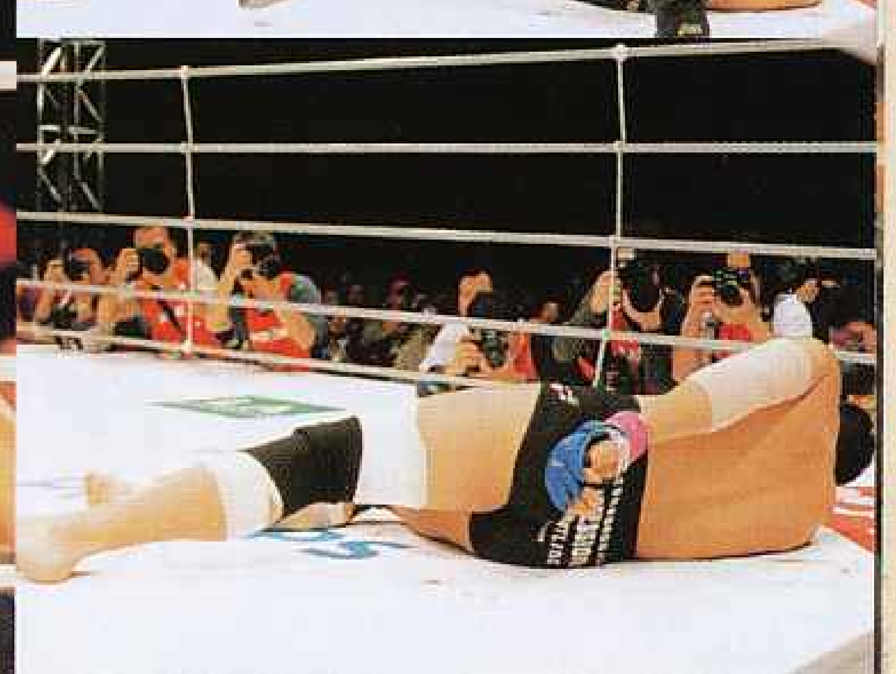










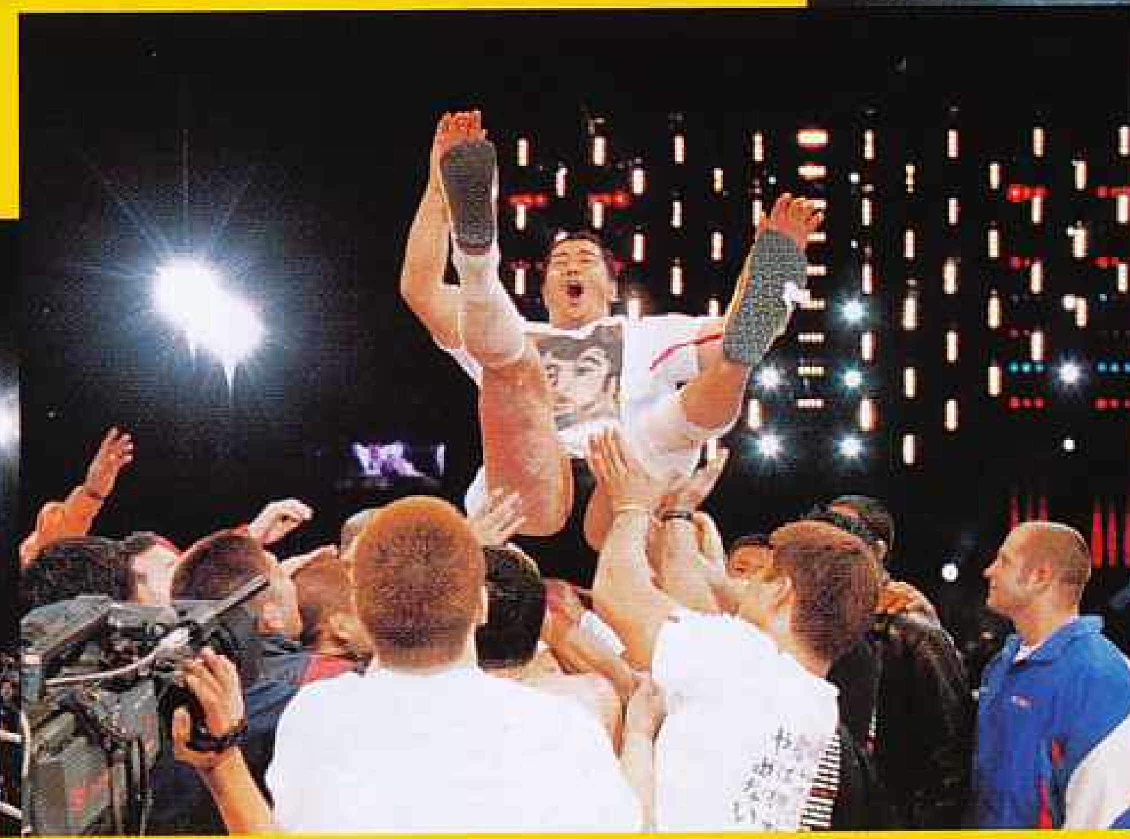














一瞬の11・24

田村は上のポジションを取っても殴りに行かなかった。

そして2ラウンド――。果敢に突っ込んでいった髙田のアゴを一瞬、田村の右フックが捉えた。

倒れ込み、白目を剥いて動かない髙田。

その倒れ込む髙田を、瞬間的に、なんとも切ない表情で追う田村。

こんなにやりきれなくて、哀しくて、かつ晴れ晴れしい引退試合は見たことない。まさにア然とさせられた。

リングの上に這いつくばって、格闘技者としての死を迎えた髙田。

まるで映画のようだ。まるで劇画のようだ。まるで幻想のようだ。まるで冗談のようだ。

でも、すべて現実である。

こんな引退試合、誰ができる?

こんな引退試合、誰が仕立て上げられる?

すべては偶発性の中で起きた出来事をリングの上で〝仕立て上げた〟のだ。

それはすべて、髙田が「ぬるま湯」を飲むくらいなら「水」を捨て、熱い熱い「お湯」をコップに注がれる決心をしたときから始まった。

そしていったん捨てた「水」さえもが一瞬の煌めきを放ち、大地に染み込み、なんらかの花を咲かせる生命線となる予感さえする。

お膳立てよりも、偶発性の中に身を置いたことで、髙田延彦という存在は、凄絶なる一枚の絵となって、見事な〝額縁〟への収まり方をした。

この〝額縁〟に収まった絵を、何度も何度もこれから見ることになるだろう。

偶発性の中に身を置いたプロレスラー・髙田延彦、最強ッ!!





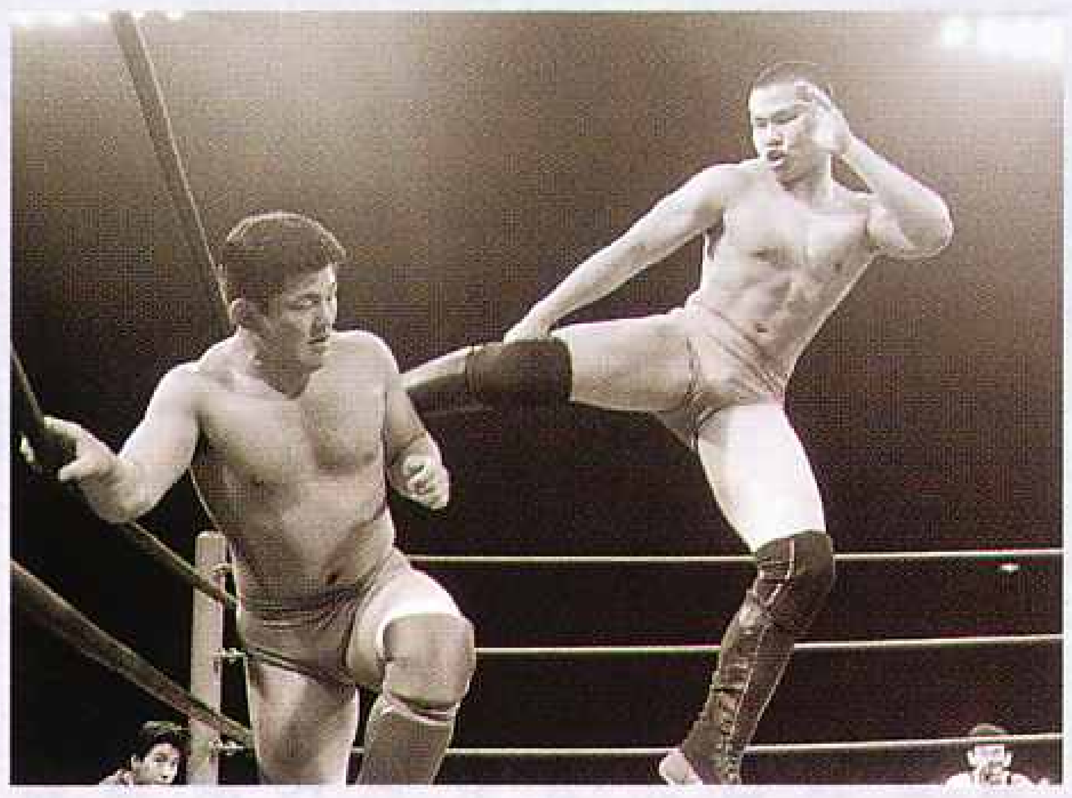


〝運命〟の髙田延彦戦を終え
田村潔司が遂に
〝U〟再興に立ち上がった！

潔　司

2・15ディファ有明『UWF JAPAN』旗揚げ!

“プロレスリング”UWF宣言

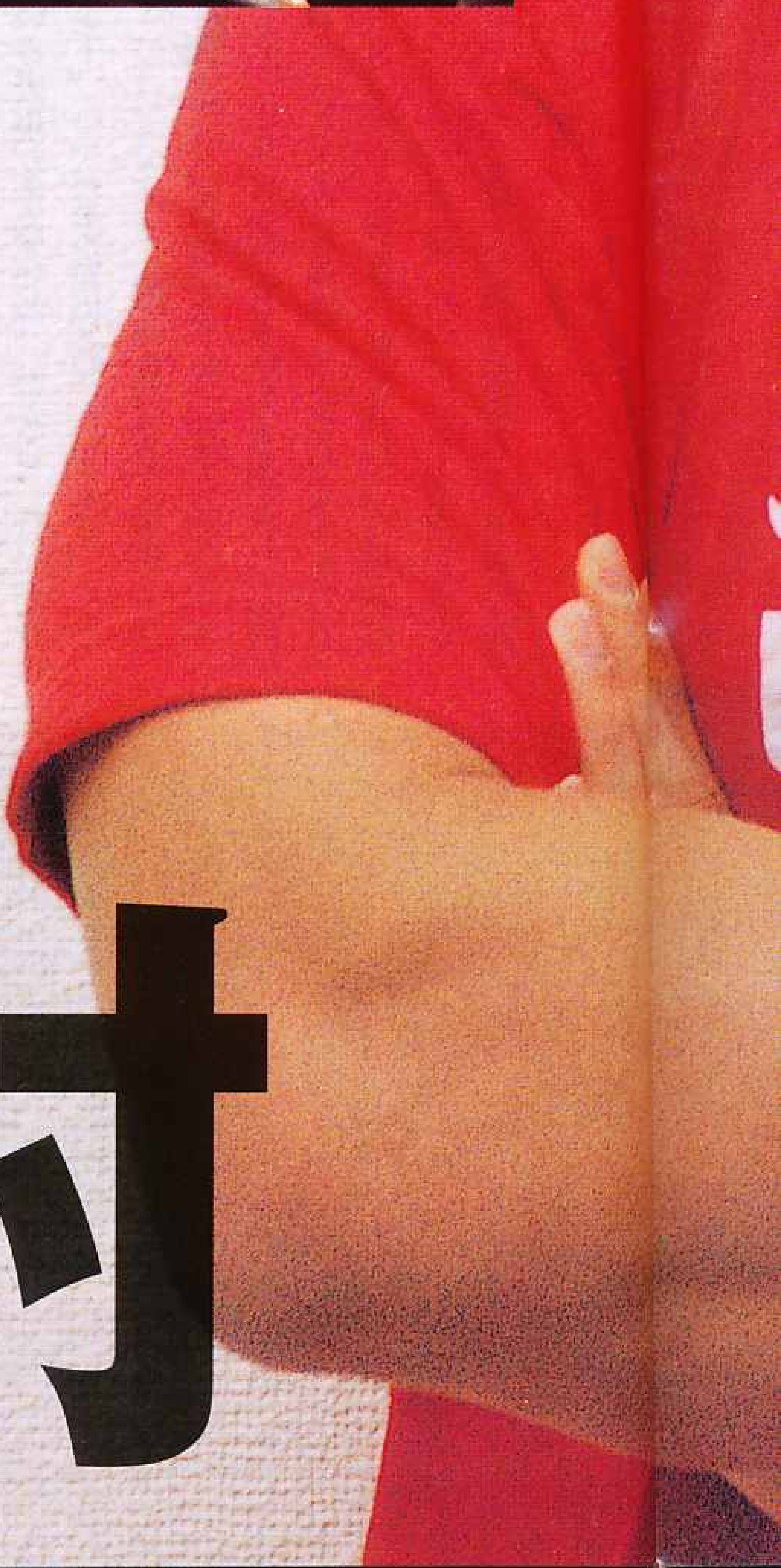






遂に田村潔司がUWFを復活させる！　11・24高田延彦vs田村潔司を機に、
いままた「UWF」というものが注目される中、田村がかねてから望んでいたUWFスタイルの復活。
UWF復興を実現させるべく、2・15ディファ有明にて『UWF JAPAN』を旗揚げすることが決定したのだ。
はたして田村はここでどんな“UWF”を見せようというのか？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)



田村

あらゆる気持ちがニュートラルで止まってしまっていたから、全て本能に任せるしかなかった

Kiyoshi Tamura

——さて、〝運命の一戦〟と言われた髙田さんの引退試合が終わったわけですけど、率直ないまの心境としてはいかがですか？

田村　ハァ〜ッ（ため息）。

——なんでいきなりため息ついてるんですか！（笑）。

田村　いやぁ重いのよ、この話すると。いろんな感情が重なり合ってて、自分でもよくわからんからね。

——とりあえず、終わってホッとはしてますか？

田村　いまは、大分落ち着いてますね、いろんな意味で解放されたんで。

——やっぱり試合前は、精神的にも追い詰められた部分がありました？

田村　そう。何に追いつめられてるんだか自分でもわからないんだけど、精神的にはもう……バタバタ。これは僕だけじゃなくて、間に入って交渉してくれた人も神経を削ったんじゃないかなって思いますね。

——髙田vs田村戦を実現させるために関わった人は、みんながみんな大変な思いをしたわけですよね。

田村　でも、結果論で言うと、髙田さんの引退興行っていうのは、成功だと思うんで。まぁ、僕が言うのはおかしいですけど、いい大会だったと思うから。そういう意味ではホッとしてるし、僕も自分としても、ああいう歴史を作る側にいられたっていうことは凄く光栄ですね。

——ああいう舞台に立てた、ああいう場面が巡ってきたというのは、やっぱり田村潔司は選ばれた人間なんだと思いますよ。

田村　そうねぇ……、でもああいう凄い舞台に立てたたっていう実感はないんだけどね。プライベートっていうか、普段生活してる田村潔司っていうのは、ホンット32歳の普通のオッサンだから（笑）。

——田村潔司は普通のオッサン（笑）。

田村　そう。32歳のセクハラオヤジだから（笑）。

——あ、セクハラまでしてる（笑）。まぁ、ボクもあの試合はドームの記者席で見ていたんですけど、あのリングで髙田延彦の引退試合の相手を努めている人が、この『カラオケベイブリッジ向ヶ丘店』で2〜3ヶ月に1回お会いしてる方とは思えないですからね、やっぱり（笑）。

田村　アハハハ、そうでしょ（笑）。

——その試合までの心境っていうのを、田村さんは「複雑」と答えてましたけど、見てる方も凄い複雑な気持ちっていうか、もう見たいんだか、見たくないんだかもよくわからないぐらいの試合だったんですよ。

田村　やっぱそうなのかね、見てる方も。

——普通、大一番だったら「どっちが勝つんだろうか？」っていうのが一番の大きな興味なわけじゃないですか。

田村　うんうん。

——ところが今回の髙田vs田村戦っていうのは、そういうものを超えて、もっと大きな意味で「どうなっちゃうんだろう？」「なにが見られるんだろう？」っていうのが大きかったんですよ。田村さん的にも、普通の大一番を迎える心境とはまったく違う感じがあったんじゃないですか？

田村　うん、そうね。まったく違う精神状態だったし。緊張もまったくと言っていいほどなくて。

——あ、緊張はないんですか。

田村　全然なかった。特別な人とやる試合だから、勝ち負けの次元じゃないから。だから、どう表現していいかわからないんだけど、普段やるような大一番とはまったく違う緊張感で。不思議な1日だったね。

——僕らは競技者じゃないから、普段の試合に挑む気持ちっていうのもわからないんですけど、想像するには普段は「相手をKOしてやる」「1本取ってやる」とか、そういう気持ちでリングに向かうわけじゃないですか。

田村　うん。

——じゃあ今回の髙田戦っていうのは、どういう気持ちでリングに向かったんだろうっていう興味が凄くあるんですけど。

田村　それについては、ホント「複雑」っていう表現しかないね。だから、行ったり来たりなの。

——行ったり来たり？

田村　うん。「勝ちたい」っていう気持ちもあるし、「別に負けてもいいや」っていう気持ちもあるし。それ以前に僕が出ていいのか、いけないのか。殴れるのか、殴

11・24「PRIDE・23」髙田延彦引退試合
髙田vs田村 BOUT REVIEW


1


2


3


4


5

①②セコンドに上山、大久保、そして宮戸を従え、なんとも言えない鬼気迫る表情で入場する田村。リングに上がり帽子を取ると、なんと坊主頭だ。そしていつものように四方に礼。しかし、最後が「睨み」ではなく、コーナーへの礼であるとことがいつもと違った。③対する髙田は3匹の虎をあしらった特注ガウンで入場。『トレーニング・モンタージュ』の旋律に胸は高まる！④遂にリング上で向き合った髙田と田村。しかし、ゴングが鳴るまで田村は一度も髙田と目を合わせることはなかった。レフェリーはもちろんUWFインターメインレフェリー和田良覚だ！



れないのか。そういうのは気持ちが行ったり来たりというか、ニュートラルな状態でピタッと止まってるから、非常にいろんな感情もありながら変動もしないんだよね。ホント、自分の中で答えが出なかった。で、「答えが出ないのに何で試合やったんですか?」ってなると、最終的には、僕は「やります」って答えを出してないよね。

――らしいですね。

田村　だからこれは「運命」としか考えられない。ただ、中途半端な気持ちで受けられる試合じゃないし、それでも答えが出ないから2回お断りはしてあるんで。それが最終的にこういう形になったっていうのは、やっぱり「運命」だったんだろうね。

――でもゲームプランっていうのは立てなかったんですか? 普通、試合前に作戦っていうのは立てますよね。

田村　いや、今回は全然立ててない。だから、どうしようもないんだよ。たとえばマウント取ったとしても「どうしよう?」ってなるから。そっから先が続かないから、試合を組み立てるのも一切ないんで。

――どうしていいかわからないから、作戦の立てようがない、と。

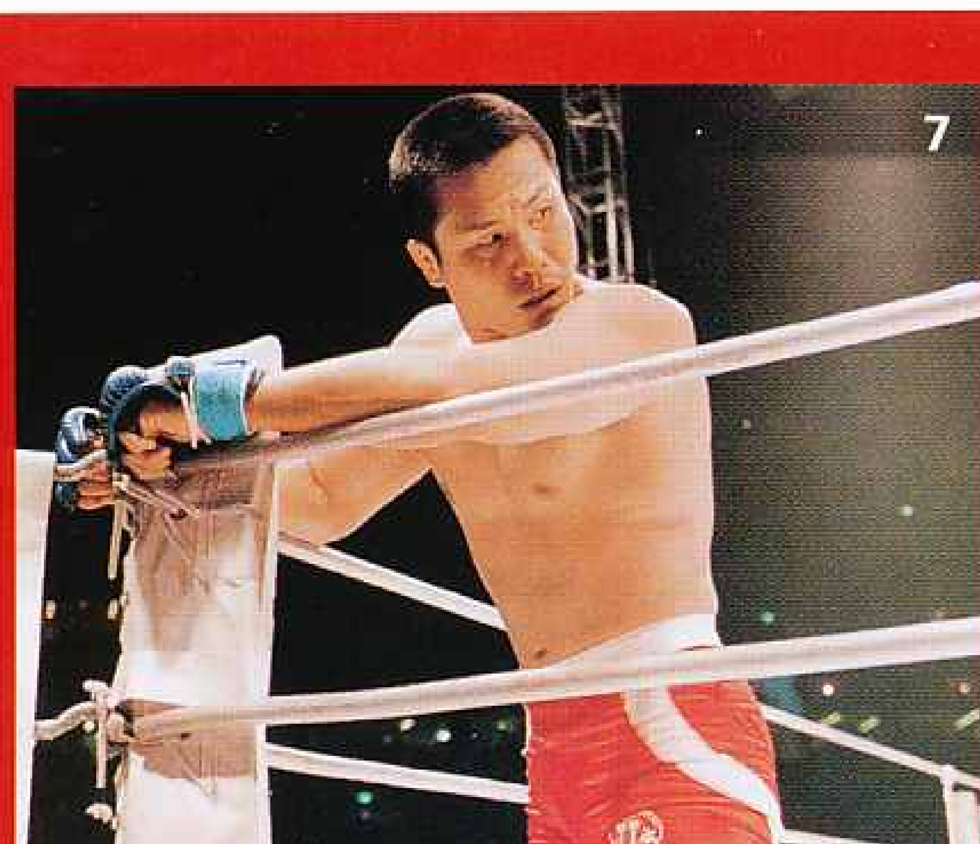
田村　正直、(勝ち負けは)どっちに転んでもいいかなっていうふうに思ってたんで。どうしても勝つ気で行くって気持ちにもなれなかったから。だからある程度本能に任せて、流れでやるしかなかったから。何も考えないで、ぶっつけ本番だったから。

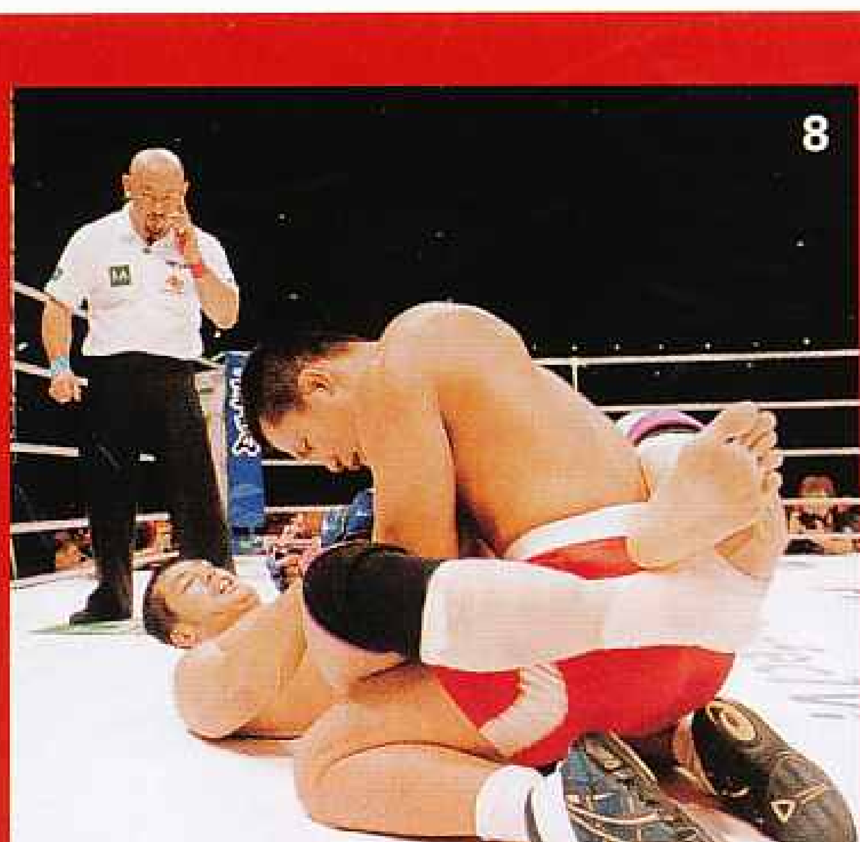
――では、あのローキック一辺倒っていうのは、考えていた作戦なんかじゃなくて、あの場面ではあれしか出せなかったということですね?

田村　そうそう。そのへんはその本能なんだよね。試合を組み立てる本能。









⑤遂に始まった運命の一戦。田村は開始早々から左ローキック一本槍! 髙田の左太股がみるみるうちに紫色に腫れ上がる。長年の激闘で両足がボロボロの髙田はこれで完全に出足を止められた。⑥田村が放った右ミドルが髙田の急所をまともに直撃。髙田の回復が遅れ場内がざわめく。⑦インターバルを取る髙田を心配そうに振り返る田村。その後は、髙田が回復するまで、ずっとコーナーにうつぶし、下を向き精神を集中させた。⑧ようやくグラウンドになり、上のポジションを取るも田村は髙田の顔面を殴ることができず!

桜庭戦はデリケートな問題。オファーがあれば考えます

——なるほどなぁ。ただ、あの試合って名画みたいなもんで、一場面一場面いろんな解釈があっていいと思うんですね。

田村　そうそう。

——だからビデオで何度見直しても面白いんですよ。正直に言うと、会場で見てたときが一番つまんなかったですから（笑）。

田村　ハハハハ！　そうなの？　ちなみに何回見たの？

——もう5～6回は見ましたね。それで見れば見るほど、いろんな発見、想像、解釈ができるんですよね。そんないろんな場面の中でまず最初に入場で宮戸さんがセコンドについていたことに驚いたんですけど。

田村　意外だった？

——ええ。あれはどうして突然宮戸さんだったんですか？

田村　いや、どうしてというか……あの試合に必須な人でしょ？

——まぁ、言わんとすることは何となくわかります。でも、技術的なセコンドだったら、高阪さんでも、上山選手でもよかったわけじゃないですか。そこであえて宮戸さんに付いてもらった意味を田村さんの口から聞きたいんですけど。

田村　あの大会はUインターの同窓会って形になったわけでしょ？　それだったら、Uインターとなればやっぱり宮戸さんだから。逆にあそこに宮戸さんがいないとおかしいというか。

——なるほど。それで聞くところによると、宮戸さんは田村さんのセコンドなのに髙田さんに声援を送ってたらしいですね（笑）。

田村　うんうん（笑）。確かにそうだね。

——ホントに髙田さんに声援送ってましたか（笑）。

田村　でも、それについては「あ、宮戸さんて純粋に髙田さんのことを応援してたんだな」って思っただけだから。

——ある意味、宮戸さんはセコンドというより、あの試合の立会人ですよね。

田村　そうだね、そうそう、いい表現。



Kiyoshi Tamura

——そもそも宮戸さんと田村さんっていうのは、関わりが深かったわけですか？

田村　まぁ、唯一先輩の中で連絡をいただいてる方でしたね、心配してくださって。それで僕から見たら宮戸さんっていうのは、どっかで性格的にも似てる部分があるし。

——確かに同質のものは感じますね。頑なな部分、譲れない部分を持ってるっていうか。プロレス観が似てるというより、その持ち方の質が似てる気がしますね。

田村　宮戸さんに関してはそういう面では凄い尊敬してるし。宮戸さんは宮戸さんで、僕に対して1選手としての目線で、話をしてくれているから。

——新生Uの頃はどうだったんですか？

田村　いや、そういう関係になったのは最近。新生Uの頃はただの新弟子だから。

——その頃は、邪気下し風呂に入れられたりしていたわけですよね（笑）。

田村　その話はいいよ（笑）。それは俺としては新弟子修行のひとつだからね。

——あれも修行でしたか（笑）。

田村　そんなこと挙げていったらいくらでもあるよ。でもそれは修行だから、イジメじゃないからね。でも、新生Uのときの僕の上にいた6人の先輩（前田日明、髙田延彦、山崎一夫、中野龍雄、安生洋二、宮戸優光）っていうのは、善し悪しあるけどホントいろんな意味で個性が強かったからね。その6人の背中を見て育ってるから、もっと俺ってひねくれてもいいんじゃないかって思うんだけどね（笑）。

——アハハハ！　それ以上にひねくれますか（笑）。

田村　だけどそうならなかったのは、田村潔司の本質がシッカリしてたんだろうね。

——と、田村潔司が自分で申しておりま



①グラウンドの膠着状態を嫌い、田村はスタンドポジションを取ると、いわゆる「髙田ーミルコ状態」に。しかし、ここでも田村は踏み込めず。②田村の左ローキック地獄で完全に右足を殺された髙田は、パンチで思い切って前に踏み込み、一か八かのラッシュに出る！③パンチで前に出る髙田に対し田村は、まるで闘牛士のようにひらりといなし、カウンターの右クロス一閃！この道場の練習で身体に染みついた無意識の一撃で、髙田は前のめりに倒れた。④倒れた髙田は白目をむき失神。髙田を"倒してしまった"田村はその場に座り込んだ。

す（笑）。で、Uインターというのも、新生UWFに負けないくらい個性派揃いでしたけど、11・24のラストでは、みんながリング上に集まりましたよね。あの時は何か感慨みたいなものはありました？

田村　いや、そういうのはあんまり。あれはあれで送り出すために、みんな純粋に来てたと思うし、俺はもう、対髙田延彦っていう付き合いだけだから、周りがそういうふうに思うだけであって、あんまり深くは考えてないですね。

——Uインターとしての横の繋がりというより、みんな「髙田延彦」という共通項を持った人が集まったと。

田村　そうそう。みんないろんな感情はあると思うのよ。それでも、ああいう場を提供できたっていうのは、よかったなと思うね。大人になったね、俺も。

——そうですね（笑）。ところで、「ありえない」と言われていた髙田vs田村戦がホントに実現できたことで、やっぱり〝その先〟にも期待したくなりますよね。

田村　その先って、Uインター？

——いや、そうじゃなくて。残された「究極の夢のカード」田村潔司vs桜庭和志というのも、髙田vs田村戦が実現したぐらいだから、あり得るんじゃないかと期待してるんですけど。

田村　う～ん……（オファーが）ないことを話してもしょうがないから。ないものはないし、オファーがあった時点で検討します！　可能性がある話だったら〝た〟の字や〝さ〟の字も出てくるとは思うし、ない話をしても相手に対しても失礼な話だから。このへんはちょっとデリケートな問題だから。DSEサイドに聞いた方がいいんじゃないの？　以上！

——では、それとは別の〝夢の続き〟として、田村潔司がいよいよ動き出すという記



全試合終了後、髙田の「Uインター出身者、上がってこいや！」の呼びかけで集結したUインター勢（と、外人勢）。髙田を中心に左右を田村と桜庭が固める。こんな日が来ようとは……。はたして田村vs桜庭は実現するか!?

者会見リリースが流れてきたんですけど。これは田村さんがUWFを復興させると受け取っていいわけですか？

田村　うん、そうですね。やっぱり前から僕が言ってるように、UWFスタイルっていうのはなくしちゃいけないと思うから。

——その手段が「UWFジャパン」旗揚げだ、と。

田村　いや、発音が違うね。「UWFジャペ～ン」だから（笑）。

——あ、「JAPAN」は「ジャペ～ン」と読ませますか（笑）。

田村　そうそう（笑）。ここはちょっとお茶目な田村を出してね。僕が「UWF！」って言って客席にマイクを向けたら、みんなで声を合わせて「ジャペ～ン！」って言ってもらうから（笑）。

——…………。ま、それはいいとして（笑）。本日はその「UWFジャペ～ン」についても、根掘り葉掘り聞かせていただきますので、よろしくお願いします！

田村　はいはい（笑）。

——この「UWF　JAPAN」旗揚げっていうのは、かねてから暖めてたプランなわけですか？

田村　そう、暖めてたっていうか。いまもちょっと自信ないけど、いままでは格闘技界の全体的な流れを見て、いまここでUWFを立ち上げても、ちょっと流れに乗れないなっていうのがあったから。

——確かにここ数年はバーリ・トゥードが急激に広まっていって、「UWF」というものは、過去の物というか求められてる時代じゃないとされていましたよね。

田村　うん。で、これも運命だと思うんだけど、いま「UWF」っていうものが見直されてきて、ちょうどタイミングがよかっ









11・24「PRIDE.23」東京ドーム

田村潔司（2R1分0秒　TKO）**髙田延彦**

⑤⑥試合後マイクを持った田村は「髙田さん、ありがとうございました。いろいろと暖かい目で見ていただいて、ご迷惑おかけしてすみませんでした。夢と感動をありがとうございました」と言って深々と頭を下げた。すると髙田は真剣な表情で田村を真っ直ぐに見つめ「田村潔司！　よく上がってきてくれたよ。よく嫌な役目引き受けてくれたよ。田村…お前は男だ。ありがとう！」と返答。この日、最大のハイライトだ。⑦そして、髙田から田村に握手を求め、田村の手を挙げ勝利を讃える。田村の目からは大粒の涙が止め処なく流れ出た。

たんじゃないかな、と。ただ、それは今回のこと（髙田戦）がある、ないに関わらず、進めてた話だから。

田村　あぁ、そうね。長かったねぇ。

――今回のプランが具体的に動き始めたのはいつ頃からなんですか？

田村　動き始めたのは半年前ぐらいかな。もっと前から発想はあって、どういう形でやろうかっていうのは頭の中では描いてたんだけど、実際、リスクの部分で踏み込めないっていう部分もあったから。ちゃんと動き始めたのは『ＤＥＥＰ』有明コロシアムの前だから、今年の夏ぐらい。

――美濃輪戦をやる前ぐらいに。佐伯さんとお仕事の話をする機会が増えてその延長みたいな感じですか？

田村　そうそう、最近では佐伯さんだけど、他にもリングス時代からも「ＵＷＦ」の協力者の方はいるし、いろいろな方の力は必要だと思うんで。リスクは僕らが背負うわけだから、いろいろお付き合いをさせていただいての流れではあるけど、佐伯さんはいろんな発想を持ってる人だし、ああ見えて小回りが聞く！

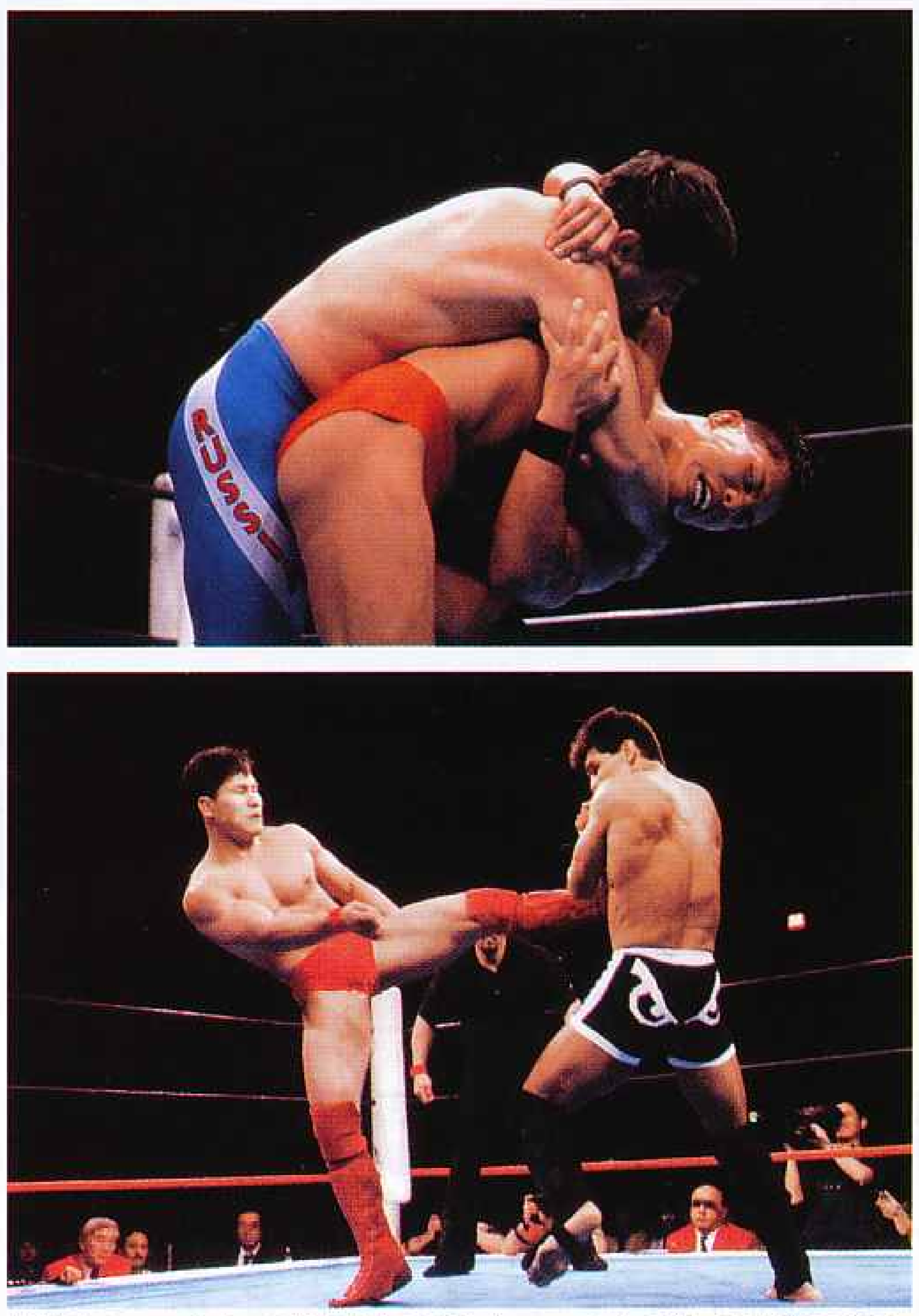
――１１０kgだけど小回りはきく（笑）。

田村　何かやるときにはリスクはあるしそれ以前に目的意識を持って、やり続けたいんだって気持ちがないと、たぶん無理だと思うから、純粋に……あの人、好きなんだろうね、格闘技とプロレスが。

――相当好きですよね（笑）。

田村　純粋に好きだから。お互いのそういう目的意識がハッキリしたから一緒にやっていこうと。ＵＷＦっていうものは、やっぱりみんなに応援してもらって、みんなで大きくしたい組織だから。同じ目的意識を持ってる人だったら、協力をしていただきたいな、とは思いますね。……もうちょっと毒吐いた方がいい？

――なんで協力を呼びかけるのに毒吐く必要があるんですか（笑）。それで、いざＵＷＦっていう団体名を自分が名乗るっていうことについては、ちょっとした思い切り、決意みたいなものはありました？　これって、ある意味「俺がＵＷＦです」って宣言してるのに近いと思うんですよ。



（写真上）Ｕスタイルの最高峰と呼ばれたＶ・ハンとの闘いは芸術と呼ぶに相応しいものだった。（写真下）20分間、一度も緊張感が途切れなかったフランク戦。これもＵスタイルもう一方の最高峰だろう。

田村　名前はこだわってた部分があるから、これに関しては「お前はちょっと違うだろう」みたいな言い方をされても、要はＵＷＦのスタイルっていうのを継続させていきたいというだけだから。小さな田村潔司ワールドとしてのＵＷＦ。広い意味でのＵＷＦじゃなくて、俺個人的に残していきたいっていう部分でやろうとしてるから。

――要は「田村ＵＷＦ」だと。

田村　はい。さっきも言ったけど、興行やるにあたっては、こっちがリスクを背負うわけだから、まず続けていく作業が必要だと思うんだよね。だから純粋に、先のことはわからんけど、俺が現役でやってるうちは、やれるだけのことはやりたいし。俺だけじゃなく、これから格闘技をやりたい選手とか、下の世代につながる感じにしたいと思うから。

――年に何回開催とか、興行プランは固まってるわけですか？

田村　年に５回前後。２ヶ月に１回っていうのを目安にしてるんで。まぁ、それはそのときの時代の流れにもよって違ってくると思うんだけど、まぁ、今後決まってる日程っていうのは２ヶ月に１回、１年間に５～６回っていう感じですね。

――ビッグマッチもあるんですか？

田村　まぁ、ケンケンパー。

――は？　ケンケンパー？

田村　そう。いきなり大きなことやるんじゃなくて、一歩、二歩と……あ、ホップステップジャンプか（笑）。

――アハハハ！　ケンケンパーとホップステップジャンプは全然違いますよ！（笑）。

田村　まぁまぁ、要はメリハリをつけてやろう、ということ。

――田村さんは毎回出るんですか？

田村　出ないで成り立つんであれば、出ないけど。出ないと成り立たないと思うんで。今後は、Ｕ―ＦＩＬＥ所属でＵＷＦという団体に上がるのがメインになってくるかと思います。だから田村潔司はＵＷＦじゃないと見れないような感じで。まぁ、そのときの状況によって、他からオファーがあれば、そのときにまた考えるけど。

――いまのとこ出場選手、出てほしい選手っていうのはどういう人を考えてるんですか？

田村　最初はＵ―ＦＩＬＥ中心になってきますね。まぁ、こちらとしても出てもらいたい選手とかもいるんだけど、まずこっちがやってることに対して興味を持ってもらうことが先だと思うから。選手に関しては、こちらからお願いするっていうんじゃなくて、ＵＷＦっていうのを魅力的な団体にして、「出たいです」って言ってもらえるような団体にしたいと思ってます。

――じゃあ、いまのところは旧Ｕインター、リングスの選手たちをプロデューサー的に集めてみようとか、そういうのではないわけですね？

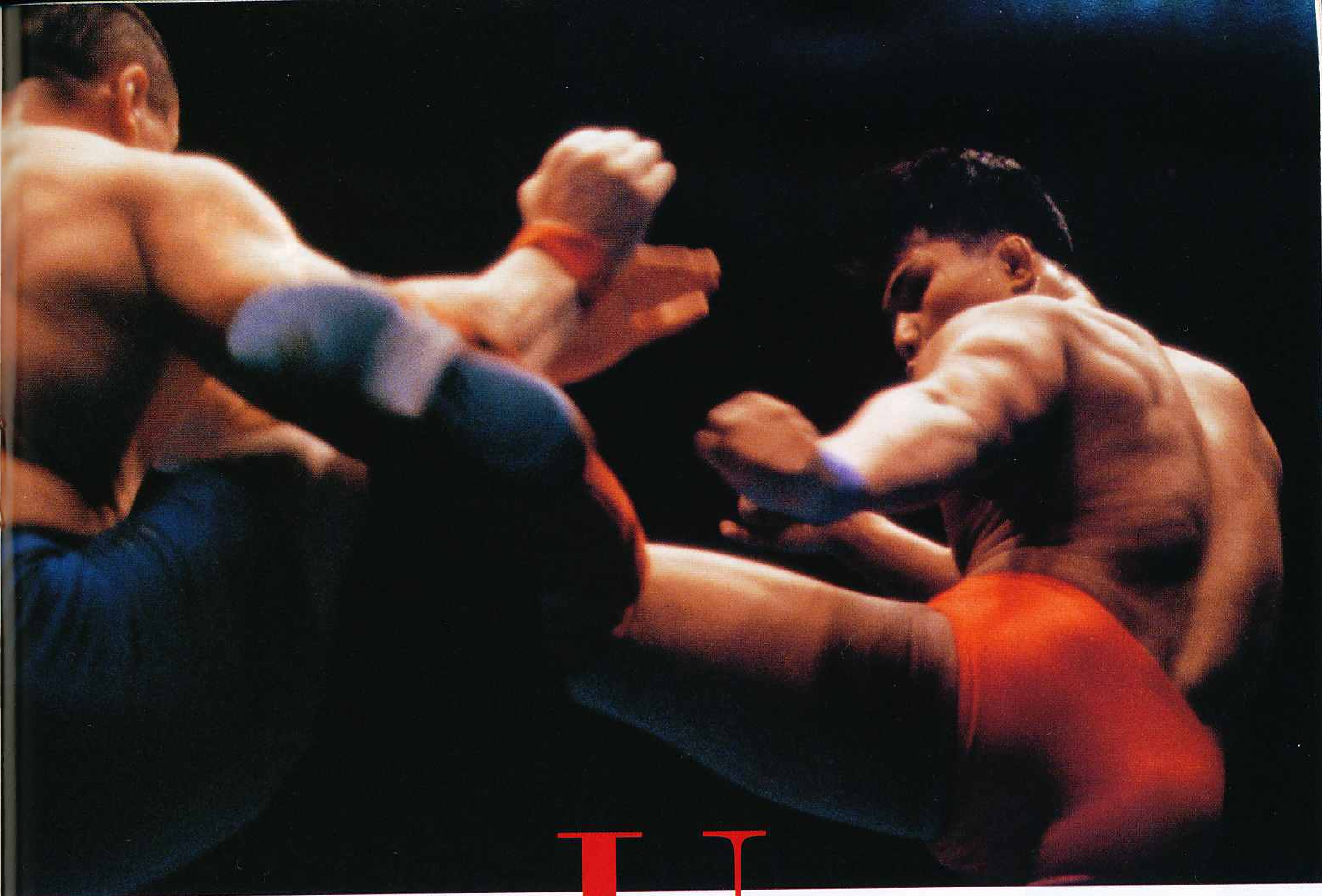
田村　うん。いままでＵ系の選手でも、ＵＷＦに対してどれだけ思い入れがあるかと言えば、人それぞれだし。同じ目的意識を持ってる人だったらということだよね。これはＵ―ＦＩＬＥの選手も同じで、あくまで本人の気持ちを尊重してあげたいから。「ＵＷＦをやってみたい」っていう人を募って、その中で人選してね。結局、古いものも残しておきながら、新しいものも取り入れていく作業をしなきゃ生き残っていけないんだから、いいところは残して、削ったぶん新しい力を入れていくって感じの作業ですね。

――いま「新しいもの」って言われましたけど、単なる昔のＵＷＦのリバイバルとい

パンクラスはＵＷＦじゃない
リングスはＵＷＦであり格闘技
そしてＵＷＦはプロレス



U
Kiyoshi Tamura



U

Kiyoshi Tamura

「UWFって何をするの?」そう思ったのなら自分の目で確かめて欲しい

うだけでは行き詰まるだろうから、何かしら新しい部分が必要だと思うんですけど、昔と違う部分ってどんなところですか?

田村 う~ん、難しいねぇ。いまはまず「UWFをやる」ということが大事だと思うから。今後に関しては、やってみないとわからない部分もあるし、やって尻つぼみになるかどうか、それはやらなきゃわからないことだから。これで消えていく団体であれば、やっぱり(UWFは)求められてなかったのかなって自分の中でも整理がつくでしょ? だからまず行動に移すことだと思うから。先のことはね、考えてるようで考えてなくて。で、「先はどうするんですか?」って言い方をされるんであれば、1年経って振り返って答えたいなって感じだよね。こういう喋り方ダメ?

—いや、なんとなくわかります。

田村 だからね、そんなに深い意味がないってこと(笑)。

—あ、深い意味はない(笑)。

田村 いまは「UWFジャパンをやる」、「やって生き残るか、生き残らないか」って問題だけだから。それを生き残らせるために頑張るっていうね。

—その〝UWF〟っていうのも、いろいろ解釈はあると思うんですけど。一言で「UWFスタイル」って言ってもいろんなスタイルがあると思うんですよね。例えば田村さんはUスタイルで名勝負がいくつもありますけども、求める方向としては、田村vsヴォルク・ハン戦方面を求めるのか、それとも、田村vsフランク・シャムロック戦みたいなものを求めるのか。はたまた、どちらもあるのがUWFなのか。そこをお聞きしたいんですけど。

田村 ええとね、まぁ、UWFでやってることがUWFになるんだろうけど、お客さんにワクワクするような刺激があって、楽しめるスタイル。夢や感動を与えるようなスタイル。その要素が基本……って答えになってないなぁ。

—ちょっとなってませんね(笑)。

田村 う~ん、やっぱりそれは選手の個性だから、さっき言ったヴォルク・ハン戦、シャムロック戦って、それは俺が表現したUWFスタイルでしょ? だから、UWFの表現するものは個性もあると思うから、個々の選手がいろんなUWFを持っててていいと思うから、それはそれぞれのセンスになると思うし。

—ただ、「UWF」というのは、単なる試合スタイルになってしまったらダメな気がするんですよ。例えば、今年2月15日にリングスのラストマッチってあったじゃないですか。あのときに高阪さんと宇野薫選

手がエキジビションって形で旧リングスルールの試合をやって、あの2人の攻防は文句なく素晴らしかったんですけど、心に響くかっていうと、僕は響かなかったんですね。そこの微妙な部分が大事なんじゃないかなって。

田村 心に響かなかった?

——素晴らしいUWFの攻防ではあったんですけど、微妙な意味で闘いではなかったというか。

田村 でもさ、それを言ったらさ、いまは闘いを見るんであれば『PRIDE』を見に行くだろうし、試合を楽しみたければ新日本に行くでしょ? UWFっていうのはその間を行ってるわけだよ。だから、人それぞれチョイスすればいいと思うんだよね。でも、100パーセント要求に応えられる興行って少ないから、枠という意味で、新日本と『PRIDE』の間にUWFというものがあっていいと思うんだよ。

——UWFが『PRIDE』、新日本の真ん中であるなら、その二つとの境界線があいまいな方が面白い気がしますね。限りなく『PRIDE』に近いUWFがあってもいいと思う。

田村 そのへんになると難しいんだよね。そうなるとしこりも残ったりするから。極論で言うと、そういう細かいことは考えると深くなっちゃうから。さっき言ったいい試合っていうのは何回も見たいでしょ? 4回も5回も見たいじゃない。そういう内容の試合を見せつけたいから。まぁ、あんまりゴチャゴチャ言ってもややこしくなるから、UWFをやります、と。「じゃあどんなスタイルなの?」ってなったら、見に来てもらって、それでUWFっていうメニユーが美味しければ、また食べに来ればいい話だから。そういう問題だから。だから2月15日にディファ有明に来て!!

——とりあえず見て判断してくれっていうことですね。

田村 そうそう。そうやって「格闘技」「プロレス」みたいなジャンル分けって難しいのよ。「プロレスも格闘技」って言う人もいるだろうし。たぶんね、そういう思いっていうのは、人それぞれあっていいから。僕が「何をやるんですか?」と聞かれたら、「UWFをやります」と答えるだけだから。で、「どんなことするんだろう?」っていうのは、思ってる人が想像すればいいだけであって、細かいことはいいと思うんだよ。見に来て面白かったらまた来てっていう問題だから。深く考える人は、自分の中でいっぱい想像できるのって逆に面白いでしょ? だから想像しといて(笑)。それをね、俺はもう単純明快でやりたいから。

——じゃあ田村さん、ひとつ聞きたいんですけどリングスはUWFでした?

田村 う〜ん、リングスはUWFであり、格闘技。

——じゃあパンクラスはUWFですか?



【たむら・きよし】1969年12月17日、岡山県岡山市出身。88年新生UWF第1回入門テストに合格し、89年鈴木実戦でデビュー。その後、Uインター、リングス、PRIDEと渡り歩きながらも、常にUにこだわり続ける。そして2・15田村ワールドの集大成を見せる。

田村 パンクラスはUWFじゃないね。ただUWFはプロレス。「UWF JAPAN」も頭に「プロレスリング」が付くから。「プロレスリングUWFジャペ〜ン」(笑)。

——「ジャペ〜ン」は譲れないと(笑)。

田村 まあね(笑)。やっぱり「プロレス」っていう言い方は人それぞれモノサシがあるから、「格闘技」「プロレス」って分ける人もいるし、「プロレスリング」「プロフェッショナル・レスリング」って分ける人もいるし。そういう分け方じゃなくて、足し算引き算みたいな、「これは見て面白い」、「これは見ても面白くない」っていう査定でいいと思うんだよ。で、あとは「プロレスですか? 格闘技ですか?」っていうのは、別にそんなのはいいんだけど、俺がやろうとしてるのは、「プロレスリングUWFジャパン」だから。

——宮戸さんが言ってる「プロレス」や「UWF」っていうものに近いですよね。

田村 そうそう、それなんだよ。昔、Uインターがいいキャッチコピーを使って、「格闘技ですか? イエス。プロレスですか? イエス」その先はちょっと忘れたけど、そういうコピーがあったの。だから俺がやりたいUWFも「格闘技ですか?」の答えは「イエス」だし、「プロレスですか?」と聞かれたら「イエス」だから。やっぱり、見てワクワクするものだったり、試合を見て凄い感動したっていうのって、いまの世界だと、あるにはあるんだけど……いいや、ややこしくなるわ(笑)。そういうことです。

——強引にまとめられちゃいましたね(笑)。ただ、いまのファンって目が肥えているし、しかもUWFって記憶やイメージの中で美化されてるから、凄く大きな期待をされると思うんですけど、それはいかがですか?

田村 そうね。これ書いといて、「過剰な期待を持つな!」って(笑)。

——アハハハ! じゃあ、見出しに打ちましょうか?「UWF JAPANに過剰な期待をするなby田村潔司」って(笑)。

田村 いやいや、「by『紙プロ』」にしといてよ(笑)。

——じゃあ、旗揚げ戦のカードはまだ決まってませんけど、いま田村潔司の相手としてが一番UWFを魅せられる選手っていうのは誰が考えられますか?

田村 (即座に)いない!

——いませんか!

田村 だから、それは作り上げていかなきゃいけないんで。それは新しいものを取り入れて、育てていく作業だから。そのへんは俺1人の力じゃどうしょうもできんところだから、まぁ、暖かい目で見てほしいなっていうのはあるよね。

——UWFは試行錯誤の歴史ですもんね。

田村 でもUWFスタイルっていうのは確立してあるから、それに対して消えていく団体なのか、そうじゃないのか。そこで俺は勝負したいし、それこそ同じことの繰り返しになるけど、「どういう内容になるの?」って思うんなら、まずは見に来てっていうことだから。

——では、2月15日ディファ有明の旗揚げ戦に期待したいと思います!

田村 いや、だから過剰な期待をしたらダメだって(笑)。

【02年12月6日/毎度お馴染み『カラオケペイブリッジ向丘店』にて収録】

2・15ディファ有明
18:30 START
UWF JAPAN
旗揚げ戦



プロレスとは何か？
UWFとは何か？
その目で確かめろ！

12月9日、川崎市内にある田村のジム『U－FILECAMP』で田村潔司とDEEP代表の佐伯繁氏が会見を行い、田村のかねてからの念願であった「UWF JAPAN」の旗揚げを発表した。

プロレスとバーリ・トゥードの棲み分けが進むマット界において、あえてプロレスと格闘技の中間で勝負しようというこの新団体は、ルールもかつてのUWF同様、レガースを着用、オープンフィンガーグローブは付けず素手で闘い、ロープブレイクも認められる。これによって田村の言う「夢を与えられるスタイル」寝技の技術の攻防を見せる腹づもりだ。

ただ、これだけバーリ・トゥードの広まった中で、あえて「プロレス」を宣言してのUWF旗揚げに対して疑問符を投げかけるファンがいるのも事実。しかし、今号のインタビューを含む田村の発言を総合し推測すると、総合格闘技にも、観客との勝負にも、どちらにも出ていける選手を育てるためには「UWFスタイル」の修得が不可欠と考え、そのために『UWF JAPAN』という場を作ろうと決意したようだ。総合格闘技のアマチュアが急速に進む中、そういう意味では「UWF」が本物のプロ選手を生んでいく舞台になっていくことも考えられるのだ。

注目の旗揚げ戦は2月15日ディファ有明で開催。その後は年6回、2ヶ月に1回のペースで興行を行い、首都圏以外では大阪への進出も決まっている。運営面で協力するDEEP佐伯代表によれば、2004年には年20大会、全国ツアーも考えているという。参加メンバーは発表されなかったが、「同じ目的をもった選手に来てもらいたい」（田村）と、広くプロレスラー、格闘家からの参戦を呼びかける方針で、"エース"田村潔司は全戦参戦予定。『PRIDE』などへはUWFの日程とのかね合いを見て、参戦オファーを受けることになる。

まず当面は「続けていくのが目標」と後楽園、ディファクラスの会場で地固めをし、UWFスタイルの魅力をアピールしていくというこの新イベント。まずは2月15日の旗揚げ戦に注目だ！



運営面をサポートする
DEEP佐伯代表の声

まず、僕が賛同したのは、今、格闘技をやっている選手がこれから歳を取っていって、できなくなってきた時に、どういうことができるのかな、という部分。いまとにかく格闘技人口はすごい増えていて、その人たちは道場を出すしかなくて、そうしたら10年後、道場の数はめちゃくちゃになりますよ。かといってプロレスができるかと言ったら、プロレスはそんな簡単ではないので対応できると思わないし。でも、ちゃんと技術を持っていて、そのスタイルができるようになれば、UWFスタイルでできると思うんですよ。だから将来的に、ある程度の技術を持った人たちの選択肢に（UWFが）入ればいいかな、と思っているので。いまは確実に大会場ではなくて、後楽園クラスでやっていくこと。若い選手にもどんどん試合してもらって、すごいメンバーだけを集めてガッとやるというのは僕の中ではないですね。
僕はU＝田村潔司だと思ってますんで、『UWF-JAPAN』のエースとして毎回メインで出場してほしい。（出場選手は）まだ考えていませんが、村濱選手やドス・カラスJr選手なんかも面白いと思うし、幅広いマッチメイクをしたいです。

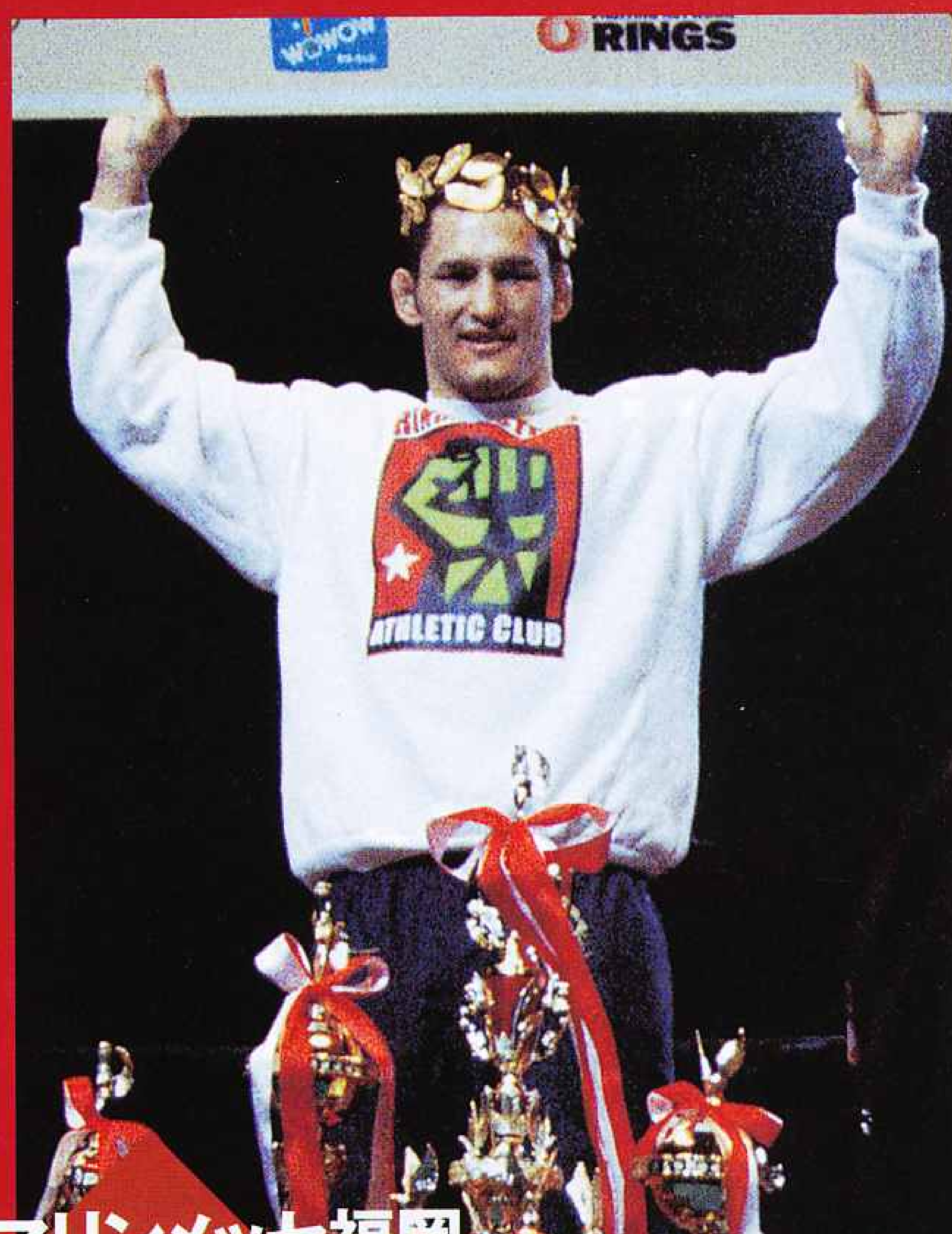
ショック！ ヒョードル、12.23『PRIDE.24』負傷欠場
ノゲイラとの“最強対決”吹っ飛ぶ！

そしてノゲイラはかつて敗れた
もう一人のリングス王者を指名した！

“リアルKOK王者”
決定戦実現!!



リングス（KOK）最強の男はPRIDEが決める!?



12.23『PRIDE.24』マリンメッセ福岡

第2回KOKトーナメント優勝者

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
Antonio Rodrigo Nogueira

（ブラジル／ブラジリアン・トップチーム）

×

第1回KOKトーナメント優勝者

ダン・ヘンダーソン
Dan Henderson

（アメリカ／チームクエスト）

ヒョードルの負傷欠場により、急遽中止になってしまったノゲイラvsヒョードルのPRIDEヘビー級選手権。ファン待望だっただけにこの決定は非常に残念だが、代わりにノゲイラが指名したのが、ダン・ヘンダーソンだ。この2人は言うまでもなく第1回2回のKOK優勝者同士。しかもノゲイラが唯一（微妙な）判定負けを喫した相手とあって、実に興味深い一戦だ。はたしてノゲイラは3年前の落とし前をつけることができるか！

8・28『Dynamite!』で170

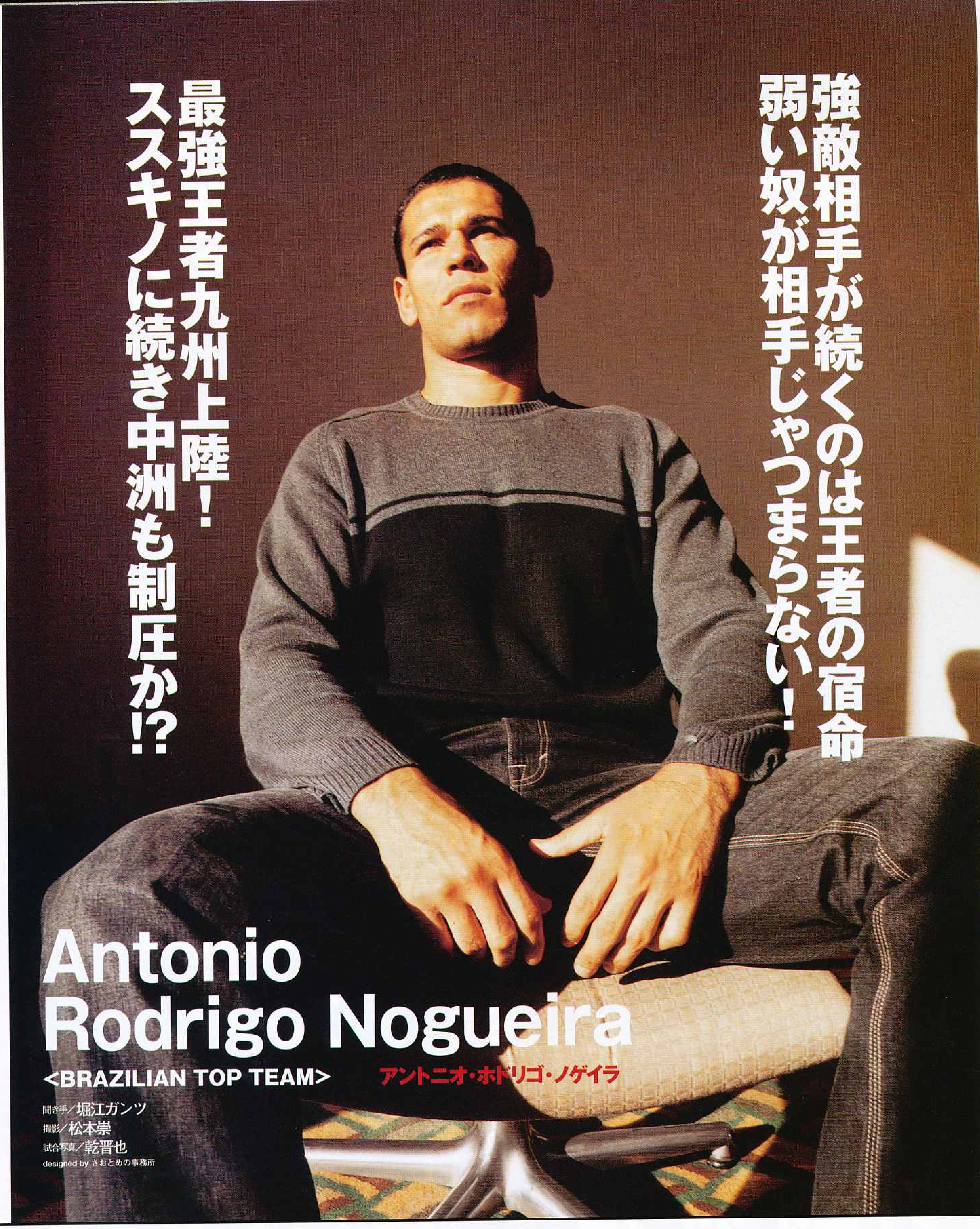
——ガハハハ、しょうがない人だ（笑）。そ

サップだろうとシュルトだろうと、もちろん

からでも極めることができるから、グラウン

うこ

を奪



強敵相手が続くのは王者の宿命 弱い奴が相手じゃつまらない！

最強王者九州上陸！ ススキノに続き中洲も制圧か!?

Antonio Rodrigo Nogueira

<BRAZILIAN TOP TEAM> アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
試合写真／乾晋也
designed by さおとめの事務所



なんとか胴タックルで組み付くノゲイラだが、シュルトはこれを身長差を利用しかんぬきの要領で止める。序盤はシュルトペースだった。



これだけデカイとやはり懐が深いのも強み。決してタックルが上手いといえないノゲイラは、このように何度もテイクダウンを阻まれた。



見てみ、この身長差！ 身長191cmの“大ノゲイラ”が“小ノゲイラ”に見えてしまうほどシュルトはデカイ！

11.24「PRIDE.23」BOUT REVIEW
ノゲイラ魔術 またしても炸裂！ 大巨人シュルトを一蹴

○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
（1R6分36秒、三角絞め）
×セーム・シュルト

8・28『Dynamite!』で170キロの〝ビースト〟ボブ・サップを見事一本勝ちで下したのに続き、11・24『PRIDE・23』では、212センチの大巨人セーム・シュルトを撃破！

もはやノゲイラは「普通の相手じゃ満足できな～い」とばかりに、不平等な格闘ロードをばく進し、向かうところ敵なし状態だ。

そんな快進撃を今度こそ止めるのではないか？と期待されたのが、『PRIDE・23』で、ヒース・ヒーリングを一方的にボコボコにしたエメリヤーエンコ・ヒョードル。

このノゲイラvsヒョードルの最強対決は、11月29日京王プラザホテルで行われた記者会見で正式発表され、ファンを小躍りさせたがその後、ヒョードルがまさかの負傷で急遽中止になってしまった。実に残念無念！

というわけで、会見直後に行ったこのインタビューも、いささか間抜けなものとなってしまったが、シュルト戦の感想、ヒョードルの印象、そして『猪木祭り』と、短い時間ながら興味深い話を聞かせてもらったので、知らん顔してここにお届けしよう。

――え～、毎月同じ事を言っているような気がするんですけれど（笑）、またしても見事な勝利おめでとうございます！

ノゲイラ　ホントに毎回カミプロに出られて嬉しいよ。ボク自身いつも他とはちょっと違ういい話ができていると思うからね（笑）。

――ありがとうございます（笑）。では、まずはその〝いい話〟なんですけど。シュルト戦のあとイベントのために北海道に行かれていたらしいですけど、ズバリ、ススキノの夜はいかがでしたか？（笑）。

ノゲイラ　アハハハハ、もう知ってるんだ（笑）。もちろん楽しかったよ！　まず、サッポロの街自体が凄くキレイで気に入ったし、向こうでいろんなイベントに参加したけど、サッポロは『PRIDE』の試合をしたことがない土地なのに、あんなにたくさんボクのファン、『PRIDE』のファンがいることにビックリしたよ。それからなんといっても食べ物が凄く美味しかった！　あんなに美味しいスシは初めて食べたね。でも、夜の街の女の子はトーキョーの方がかわいいかな（笑）。

――あ、夜の女性は東京の方が上（笑）。

ノゲイラ　（満面の笑みで）ロッポンギ、イチバーン！（笑）。

――ガハハハ、しょうがない人だ（笑）。それはいいとして、今日はインタビュー時間が15分しかないので、さっそく本題に入ります！　シュルト戦は見事な完勝でしたけどノゲイラ選手的には満足度はいかがですか？

ノゲイラ　いままで闘ったことがないくらい大きな相手で技術もある強い選手だったけど、一本勝ちできて満足しているよ。またボクが誰とでも闘えること、そして一番強いことを証明できたと思う。

――フィニッシュの三角絞めは最初から狙っていたんですか？

ノゲイラ　そうだね。試合前からトライアングルで極めたいとは思っていたので、ほぼ自分が思い描いた通りの試合ができたと思う。シュルトに極めたトライアングルの入り方は、僕たちがいつも練習している技のバリエーションの中のひとつなんだ。僕らトップチームのテクニックは、常にひとつの技を仕掛けながら他の技も狙っている。だから対戦相手がボクの試合を研究してきても、さらに裏をかいた技を極めることができるんだよ。

――なるほどなるほど。シュルトも試合後、「三角絞めは十分警戒してたのに……」と言ってましたよ。

ノゲイラ　まだまだバリエーションはあるからね（笑）。

――それにしても、8月から170キロのボブ・サップや211センチのセーム・シュルトと、人間離れした選手ばかり続いて、いい加減嫌になりませんか？（笑）。

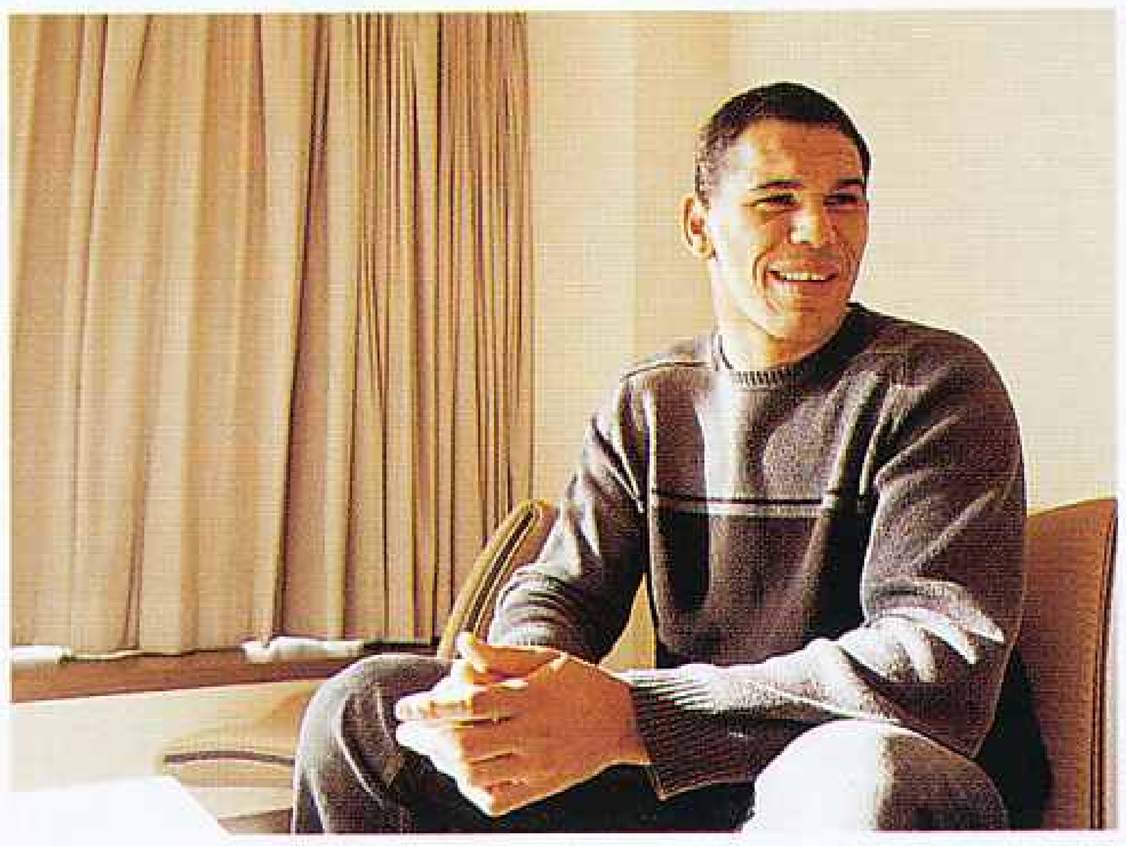
ノゲイラ　チャンピオンになってから精神的にも肉体的にも休まるときがないから、ホントいうと少し休みたいよ（笑）。この1年で王座というのは、奪うより守り続ける方が数倍難しいことだと痛感したね。

――実感こもってますねぇ（笑）。

ノゲイラ　でも、ボクは格闘技界の頂点に立つ『PRIDE』のチャンピオンだから休むことは許されないんだ。ハイレベルな『PRIDE』という舞台のトップで闘うのだから、強敵が続くのは仕方がないことだろう。これは王者の宿命だと思う。だから、ボクはサップだろうとシュルトだろうと、もちろんヒョードルであろうと、誰の挑戦を受けるよ。

――そして次回、12・23『PRIDE・24』では、エメリヤーエンコ・ヒョードルとのタイトルマッチが決まりました。（※その後、ヒョードルの負傷欠場でダン・ヘンダーソンとのノンタイトル戦に変更）いまの心境はいかがですか？

ノゲイラ　ヒョードルは才能がある選手でしかもクレバーだから、非常に難しい試合にはなると思う。だからこそボクも自分の技術をすべて注ぎ込もうと思っているよ。彼のような強い相手と闘うことは自分にとってもいいチャレンジだし、ファンも楽しみにしてくれるんじゃないかな。



――いやぁ、まさに待望のカードですよ。ちなみにヒョードルvsヒーリングはあんなに一方的な試合になると思ってましたか？

ノゲイラ　ヒーリングは今回は下になったときのガードがあまりに無策だった。ヒョードルを甘く見すぎていたんじゃないかな。あの闘い方ではヒョードルには勝てないよ。

――では、ヒョードルはどこが強くて、またどこが弱点だと思いますか？

ノゲイラ　彼のテイクダウンとパウンド（グラウンドでのパンチ）は凄いね。それからスタンドでの打撃もいいものを持っている。彼に上のポジションを取られたら非常に危険であることはよくわかったよ。でも、彼が下になったときになにができるか？　ボクはそこが弱点だと思う。でも、ボクは上からでも下からでも極めることができるから、グラウンドになったら彼を極める自信はあるよ。下になってもヒーリングのような闘い方はしないつもりだ。

『猪木祭』では紅白仮面になってイノキさんと闘いたい（笑）

――さきほどの会見で「ロシアン・トップチーム」という名前を使ってほしくないと言ってましたけど、因縁の「トップチーム」頂上対決になりますね（笑）。

ノゲイラ　ハハハハ、彼らを特別敵視しているわけじゃないんだけどね（笑）。ボクはこれまで彼らのチームから4人の選手（ハン、コピィロフ、コーチキン、ラバザノフ）を破っているし、ゼ・マリオも『PRIDE』でコピィロフに勝っているから、僕らの方が優れていることはもう証明していると思う。だから、彼らがロシアの中で最強である。トップであると思っていることは構わないけれど、真にトップチームと呼べるのは、ブラジリアン・トップチームだけだよ。

――福岡の後は大晦日の『イノキ・ボンバイエ』への出場も考えているんですか？

ノゲイラ　『イノキ・ボンバイエ』に出場するかどうかは、まだ考えないようにしているよ。いまは100％次の試合のことだけに集中したいんだ。だから『イノキ・ボンバイエ』については『PRIDE』が終わってからの話しになるね。でも、試合に出る出ないに関わらず、『イノキ・ボンバイエ』の会場には顔を出そうと思っているよ。

――じゃあ、去年のマリオ・スペーヒーさんばりに、棺桶担ぎでもやりますか？（笑）。

ノゲイラ　ファンが喜んでくれるなら棺桶でもなんでも担ぐよ（笑）。でも、それをやるなら棺桶の中に入っていた覆面レスラーになる方がいいなぁ、あれだったらイノキさんと闘えるじゃないか（笑）。

――ノゲイラ選手が紅白仮面に変身ですか！いやぁ～それは実に贅沢ですね。ゼヒやりましょう！（笑）。

ノゲイラ　まぁ、それも『PRIDE』が終わってから考えるよ（笑）。フクオカで試合をするのは初めてだから、多くの人にボクの試合を見て欲しいね。初めての土地に行くのはボク自身楽しみだから。

――では、福岡では見事勝利して、ゼヒ中洲の夜を満喫してください！（笑）。

【02年11月29日／京王プラザホテルにて収録】

Antonio Rodrigo Noqueira



なんとか引き込んで寝技に持ち込むと、もうここはノゲイラの世界。あっさりとマウントを奪い、完全に試合の主導権を取り返した。



マウントから一気に腕ひしぎの体勢に入るノゲイラ。シュルトもそれを素早く察知し、身体を起こして防ごうとするが……。



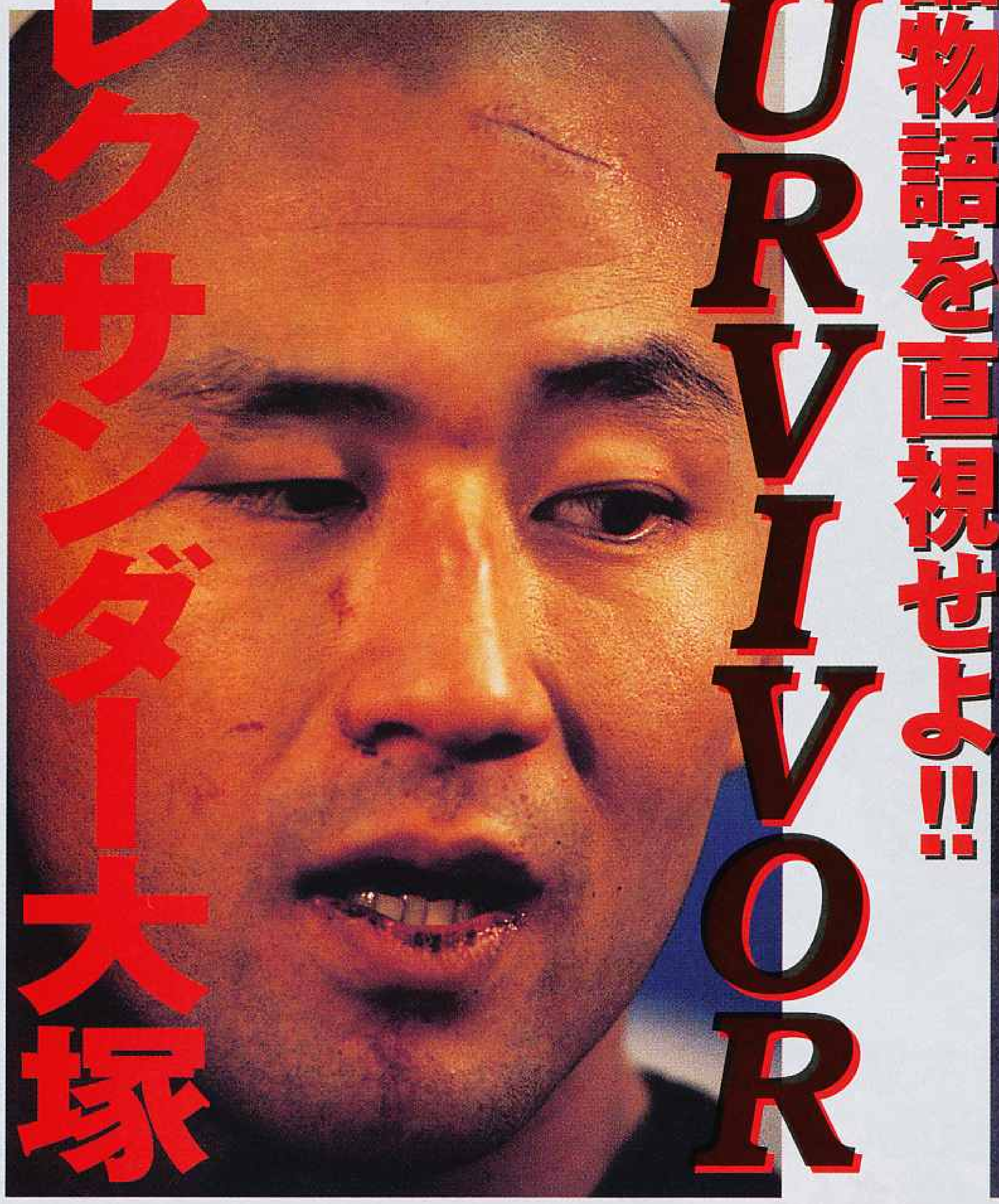
腕ひしぎねらいはフェイントでノゲイラの本命はやはり三角絞めだった！　シュルトはまんまと罠にハマリ、しばらく耐えた後、無念のタップ。



ノゲイラの見事な一本勝ちに、マリオ・スペーヒーとヒカルド・アローナがすぐさま駆け寄る。それにしてもこのメンツ、まさにトップチームだ。

SURVIVOR

生き残りを賭けた『PRIDE』残酷物語を直視せよ!!



アレクサンダー大塚
〈日本／AO／DC〉



山本憲尚
〈日本／高田道場〉

アレクvs山憲、崖っぷちの一戦！　ガイジン天国と化した『PRIDE』のリングで日本人同士の壮絶なサバイバルゲームが始まった！　敗者が『PRIDE』から突き落とされるとはけして大袈裟な煽りではなく、勝者にしても賞賛に値しない不甲斐ない内容であれば失格点を出される可能性もある。格闘技者としての実力と、プロとしての意識が問われる重要な試合となる。残酷なテーマを背負い、両者は殴り合うことになるのだ。『PRIDE』隆盛の力となったアレクが輝きを取り戻す？　久しぶりに山憲の武人振りが爆発？　生き残るのは一人なのか!?

アレク過去4戦戦績



×菊田早苗／3R判定3-0
『紙プロ』での菊田発言が発端であり、交渉過程で火が付き、ソラールのみのる金的事件で油が注がれ爆発した超遺恨マッチ。菊田の完勝。ローブロー問題で遺恨は消えず



×アンデウソン・シウバ／3R判定3-0
1階級下の相手にまさかの敗北。タックル→テイクダウンの技術は見事であったが、移行したグラウンドでは度々危機に瀕した。この一戦でアレクは足首を負傷し悪夢の一戦に



×K・R・ジャクソン／2R終了時TKO
バトラーツのリングで行われたランペイジとの『PRIDE』出場決定戦。果敢にタックルを敢行し、腕も極める好機もあったが、黒い力にあと一歩及ばす。涙ながらにリングを降りた



×V・シウバ／3Rドクターストップ
シウバが最も苦しんだ日本人はアレクである。ランペイジに敗れた直後のエントリーということもあり注目度は低かったが、反して大熱戦を展開。昨年の福岡大会のMVPだ

山憲過去4戦戦績



×ガイ・メッツアー／3R判定3-0
本誌インタビューで「6：5で俺の勝ち」と迷言で勝利予言した山憲は、藤原道場仕込みの打撃でメッツアーと打ち合い。しかし、的確さで上回るメッツアーの前に見せ場なく敗れた



×ボブ・サップ／1RTKO
サップ暴風最初の犠牲者となってしまったが「スタミナがない」「試合前に足が震えていた」など、魔人攻略への糸口を発見。とはいっても、いまだノゲイラしか勝っていないのだが



×アスエリオ・シウバ／1RTKO
リングス離脱後、その去就が注目された山憲は前田日明のテーマ曲「キャプチュード」に乗って『PRIDE』見参。大型日本人の逸材として期待されたが、アスエリオにわずか11秒で敗北



○ヤン“ザ・ジャイアント”ノルキヤ／1R一本
昨年の福岡大会にも出場。K—1巨人戦士から腕ひしぎ十字固めで見事な一本勝ちを収め『PRIDE』初勝利を飾った。試合後リング上から心機一転ならぬ「イッキシンテン」と発言

12・23『PRIDE・24』FUKUOKA

ロシア、オランダから新世代の波が押し寄せる!



ヴォルク・アターエフ
〈ロシア／ロシアン・トップチーム〉

VS

アリスター・オーフレイム
〈オランダ／ゴールデン・グローリー〉

ロシアがまた来た!!　ロシア最強ストライカー・アターエフ登場!

ヴァルク・ハンの愛弟子と、オランダ軍団最後の秘密兵器が『PRIDE』初登場！　アターエフは、ヒョードルともに、末期のリングスマットを席巻したストライカー。散打のスペシャリストで五輪出場を目指すため『PRIDE』出場は困難とされていたのでこの参戦は嬉しい誤算だ。ホンモノの打撃を知る男が待望の登場である。一方、今回兄弟参戦となったアリスターも、潜在能力では兄・ヴァレンタインを超えると周辺関係者の一致。『THE BEST』で今村を秒殺した打撃もさることながら、グラウンドにも長けており、寝技に引きずり込んだらアリスター有利。好勝負が期待できるカードだ



アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
〈ブラジル／ブラジリアン・トップチーム〉

VS

ガイ・メッツァー
〈アメリカ／ライオンズ・デン〉

ノゲイラ・ブラザーズ揃い踏み!　難攻不落の獅子に挑む!!

駒の揃った『PRIDE』ミドル級戦線ではインパクト不足が拭えないが、侮れない実力を持つ両者である。ホジェリオは、マティシェンコ、高阪戦で揺らいだ評価を立て直したいところ。兄の幻影からも脱したいところだ。ベテランの域に達したメッツアーも、もう一花咲かせたい。完全決着はなるか!?　いぶし銀同士の闘いが実現！

U-FILE、GRABAKA参戦



大久保一樹 VS 松井大二郎

〈日本／U-FILE.COM〉

〈日本／高田道場〉

高田道場 VS U-FILE CAMP

その先に何が見えるのか!?
高田vs田村はまだ終らない!!

マジ!?　大久保ちゃんが『PRIDE』参戦だよ！　田村潔司の弟子であり、ゴージャス松野から指導を受け、元DDT認定アイアンマンチャンピオンの経歴を持ち、対戦相手が向かってきたら「イヤイヤ、来るなぁ」と心に抱く大久保一樹がまさかの『PRIDE』登場！　相手は高田道場の切り込み隊長・松井大二郎。高田と田村の過去が清算されたとはいえ緊張溢れる組み合わせである。経験で優る松井有利は動かないが、「泣いたら強い」大久保の意外性も見逃せない。HIROの「AS TIME GOESBY」で入場する姿も絶対に見逃せない!?　高田道場vsU-FILEの対抗戦は、どんなうねりをつくるのか？



佐々木有生 VS ホドリゴ・グレイシー

〈日本／パンクラスGRABAKA〉

〈ブラジル／ヘンゾ・グレイシー柔術〉

菊田の悪夢から8カ月……。パンクラシスト再び登場！

電撃戦隊グレイシーが
パンクラス第2の刺客を迎え撃つ!!

グレイシーらしかぬ『電撃戦隊チェンジマン』のテーマで電撃登場！　高田道場・松井を強烈無比なネックロックで仕留めたホドリゴが、再び『PRIDE』のリングに上がる。相手はGRABAKAの実力者・佐々木有生。菊田早苗以来パンクラスより２人目の参戦である。佐々木はパンクラスでのリングで、『PRIDE』でもおなじみのA・スティーブリングに判定勝ち。11・30パンクラス横浜では美濃輪に僅差の判定で敗れたが、ほぼ互角以上の展開で渡り合った強者だ。菊田vsアレクで生じたレフェリング問題についてパンクラス側は「解消されていないが、話し合いは継続している」とコメントしている。



ムリーロ・ニンジャ 〈ブラジル／シュートボクセ〉 VS ケビン・ランデルマン 〈アメリカ／ハンマーハウス〉

ニンジャ、ランデルマン連続参戦!!
ガイジン同士の潰し合い!!

やたら殴る蹴るの大味な展開も、ド迫力なら問題なし！　人間とは思えないバネを持つランデルマンと、人間とは思えないスタミナを持つニンジャである。両者共『PRIDE.23』から間もない連戦となるが、人間じゃないんだから問題なし！　ボコボコやってくれそうだ。『PRIDE』ミドル級の潰し合いはまだまだ続く!!



ロン・ウォーターマン 〈アメリカ／コロラド・スターズ〉 VS ヴァレンタイン・オーフレイム 〈オランダ／ゴールデン・グローリー〉

“アイ・アム・プロレスラー”
ウォーターマンがやってきた

WWEの二軍組織OVW、UFCを転戦してきた異色のファイター、ロン・ウォーターマンが『PRIDE』に初登場！　逆襲に燃えるヴァレンタインと対戦する。ウォーターマンは先日パンクラスのリングで謙吾を秒殺。その類い希なキャラはWWE 上層部からも高評価を得ていた。眠れるヴァレンタインは『PRIDE』初白星を狙う

『PRIDE』1年振りに九州上陸！
『PRIDE.24』

◆日時：12月23日[祝・月]
15：00開場　16：30開始
◆会場：マリンメッセ福岡
◆チケット

VIP席	￥100,000
[特典：専用入場ゲート・グッズ付]	
RRS席	￥ 25,000
スタンドS席	￥ 15,000
スタンドA席	￥ 7,000

◆お問い合わせ
ドリームステージエンターテインメント
TEL.03-5775-5700

◆対戦カード〈順不同〉

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	vs	ダン・ヘンダーソン
ヴォルク・アターエフ	vs	アリスター・オーフレイム
ムリーロ・ニンジャ	vs	ケビン・ランデルマン
アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ	vs	ガイ・メッツアー
山本憲尚	vs	アレクサンダー大塚
佐々木有生	vs	ホドリゴ・グレイシー
ヴァレンタイン・オーフレイム	vs	ロン・ウォーターマン
松井大二郎	vs	大久保一樹

緊急　サバイバル座談会

『Dynamite!』『猪木祭り』“マスリング”の時代到来!

パンクラス、ZST、DEEP

…そしてPRIDEは生き残れるか?

構成／中村カタブツ君
designed by さおとめの事務所





佐伯 繁 ＜嘆きの『DEEP2001』代表＞

×

＜本誌鬼畜編集長＞山口日昇

もう手は打ってあります 宝クジを買いました！（佐伯 繁）

『Dynamite!』、『猪木祭り』など、ハイスパート時代の象徴ともいえるビック格闘技イベントが大激震を巻き起こすマット界！　総合格闘技イベントの未来はどうなっていくのだろうか？　本誌・鬼畜編集長に、大会開催に悩める佐伯『DEEP』代表と、『LEGEND』前煽り番組に登場した格闘技通のミスターX氏を加えて「生き残る」ためのサバイバル座談会を敢行ーッ！　佐伯『DEEP』代表の切実なる悩み＆能天気な食欲にググイと迫った！

佐伯　（いきなりメニューを凝視して考え込み）地鶏……照り焼き丼……う～ん、うまそうだなぁ。

山口　そんなに地鶏の照り焼き丼が気になるんですか？

佐伯　このパレスホテル伝統の、ピラフにシャトーソースも……。

山口　気になる？（笑）。

佐伯　う～ん……難しいなぁ。ん？　これなんだ？

山口　ガハハ！　まだ気になるのがある（笑）。

佐伯　いやいや。これ、あれかなぁ？……あ！　こいつか！

山口　なにをひとりで言ってるんだ（笑）。ボクは、海の幸ピラフに伝統のシャトーソースを添えたものをお願いします。

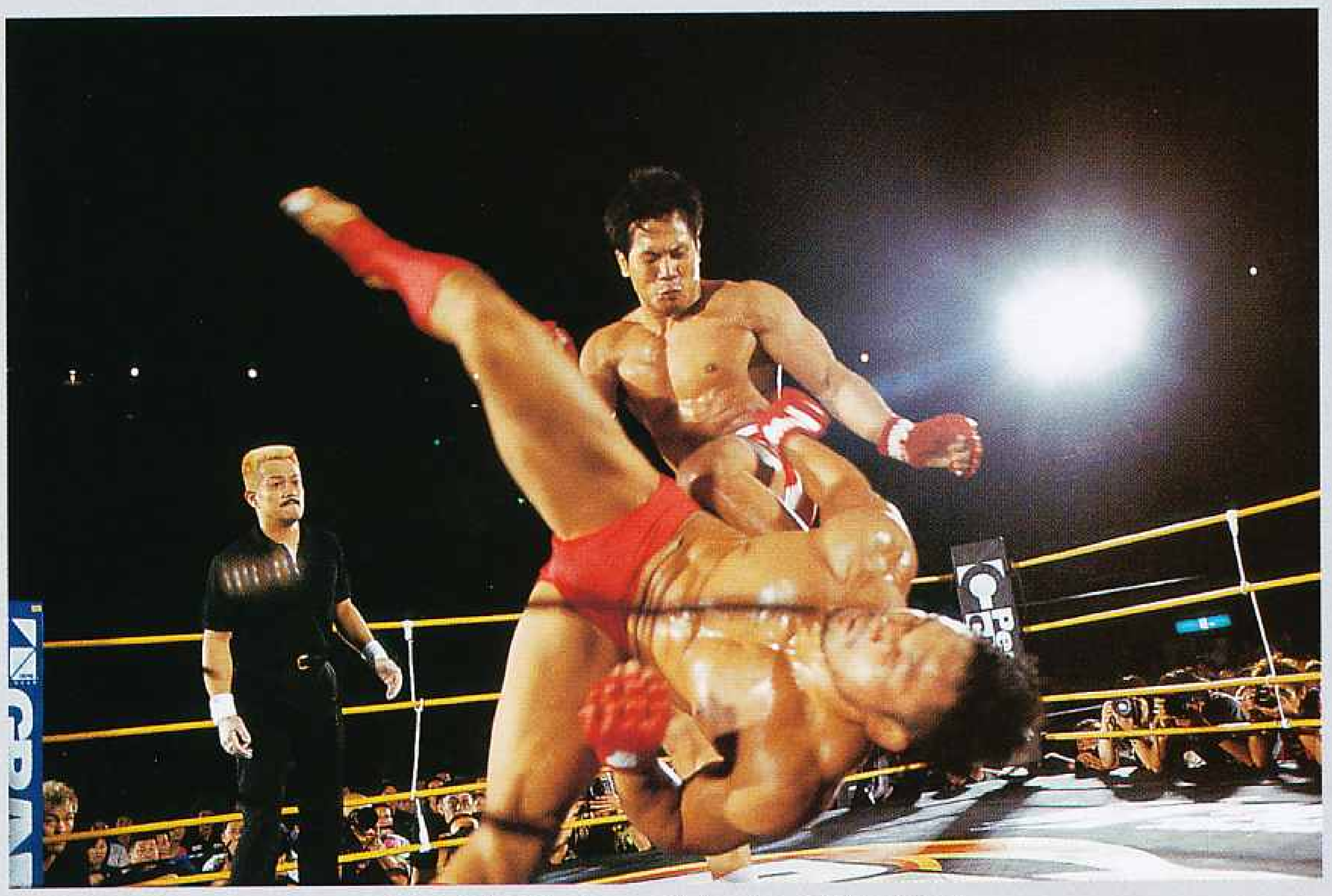
佐伯　（ボーイに向かい）それと地鶏照り焼き丼ってどっちがおいしいの？

ボーイ　どちらも同じくらいご注文を多くいただいてますが、照り焼きの方は外国人のお客様に特に好まれております。

佐伯　よ～し！　俺も決まった！………う～んと……。

山口　決まったと言って、なぜ悩む！

佐伯　う～んとねぇ……俺もそれ！　ピラフのシャ、シャ、シャトーソース？　で、ご飯大盛り！



田村vs美濃輪をメインに『DEEP』史上最大のビックマッチとなった9・7有明コロシアム。しかし、観客動員は苦戦を強いられた

山口　……オレ、もう帰っていいかなぁ？　もう佐伯さんの人となりがよくわかったんで（笑）。あとは堀江ガンツ記者におまかせします！

――（シレッと）え、そうだったんですか？

山口　お前の企画だろ！　だいたい佐伯さんとオレがなにを喋るんだよ！

ミスターX　（突然）それに興味があって来たんですけどね。

山口　あ、こちらの方は、もしかしたら『LEGEND』の前煽り番組に登場したミスターXさんじゃないですか？（しらじらしく）。ということは、総合格闘技系の話になるっていうこと？　さぁガンツ、今日のテーマはなに？　さっさと終わらそう。

――今日のテーマは、『DEEP』さんを筆頭に、『ZST』、パンクラスという個性溢れる格闘技イベントが、『Dynamite!』、『PRIDE』などの大きな格闘技イベントがある中で、どのようにして生き残っていくのか、あるいはどういう方向性を示していったらいいのかということなんですよ。つまり、総合格闘技イベントの未来はどうなっていくのかということですね。

佐伯　（まだメニューを見ながら）ふんふんふん。

山口　いきなりマジメに全体的な話をすると、要はK―1、『猪木祭り』、『Dynamite!』、あと『W―1』まで含めていいと思うけど、ターザン山本用語でいう〝新たな生態系〟ができつつあるでしょ。その生態系以外のところにいる個性溢れる総合格闘技の団体、あるいは〝場〟が『DEEP』であり、パンクラスであり、『ZST』ってことでしょ。で、『PRIDE』は、いまどっちに行ったらいいのか、非常に曖昧な位置にいると思うんだよね。

佐伯　（メニューを見ながら）そうだねぇ……もう、ちょっとわかんないよね、見てると。

山口　な、何が？　まだ照り焼き丼にするかピラフにするか迷ってるんですか？（笑）。

佐伯　いや、だから、僕からしてみると、選手の人選が微妙じゃないですか。

山口　『PRIDE』が？

佐伯　そうそう。

山口　それはシャトーソースとデミグラスソースの違いみたいな感じ？（笑）。

佐伯　いや、簡単に言うと、シウバとかノゲイラっていうのは凄い選手だと思うんですけど、あとは僕のイメージでは、あんまりレベルは変わんないかなって。

山口　『DEEP』やパンクラスと？

佐伯　そうそう。実際、田村選手、菊田選手、横井選手、パウロ（・フィリオ）、ホジェリオ（・ノゲイラ）だってウチに出てるし、もうタイミングが合って話題があったときに出ているんであって、強いとか弱いとか上とか下とかそういう問題じゃないなっていう。

山口　要は、『『PRIDE』も『DEEP』も変わらないじゃないかと（笑）。

佐伯　いやいや、そういう言い方じゃないですよぉ（笑）。もちろん……えぇっと……うぅんっと……なんだったっけ？

山口　地鶏の照り焼き丼？（笑）。

佐伯　だから、たとえば、いまの流れからいくと、じゃあ、滑川選手が次の『PRIDE』に出ますっていうのは、別に変じゃないと思うんですよ。っていうことは、もうそういう問題じゃないんですよね、いま。

山口　選手のレベルの違いはない、と。でも、選手のレベルは変わらないとしても、単純に言うと、規模の違いはありますよね。

佐伯　そう、規模、規模！　だって僕、こないだ『PRIDE』さんのドームを見させてもらいましたけど、規模が違いますよ！

山口　会場の規模の話ですか！（笑）。

佐伯　だから、ホントのこと言えば、これからの時代は、PPVが普及してくれて、みなさんが見る癖がつけば、小さい会場で演出にあまり金をかけずに、いいカードでいい試合内容を提供できるっていうこともあり得ると思うんですよ。それに、ホントにお客さんが見て楽しむっていうことを考えたら、僕はいまの『PRIDE』さんのルールじゃ見ていられないですね、ブレイクが遅すぎて。だからウチはロープ際のブレイクもあるし。

山口　という、佐伯繁の簡単な『PRIDE』批判でした（笑）。

佐伯　いやいや、批判じゃないよぉ（笑）。

山口　でも、佐伯さんから見ても、『Dynamite!』や『猪木祭り』って、いわゆる〝総合格闘技〟のイベントって感じじゃないでしょ？

【ここで海の幸ピラフが運ばれてくる】

佐伯　あのぉ、僕、食べながらでいい？

山口　好きにしてください（笑）。で、要は『Dynamite!』や『猪木祭り』は、総合格闘技の競技化を推進するものじゃなくて、ガチンコをエンターテイメントに仕立て上げたイベントであって、そのスタンスがハッキリしてますよね。じゃあ『PRIDE』は、『Dynamite!』みたいなものが出てきたことによって、イベントとして総合格闘技の確立を目指すのか、あくまでもエンターテイメントを目指すのか、その位置がいま微妙になってるわけですよね。それは『PRIDE』に限らず、パンクラスも『DEEP』もボクから見ると同じなんですよ。

佐伯　なるほど、なるほど。だから、その中でエンターテインメント性を追求しようと思うんだったら、僕はルールを変えた方がいいと思うんですよ。そういう部分では、僕は「ドント、ムーブ！」っていうのはおかしいと思うし……モグモグモグ（もの凄い勢いでピラフを食べ続けてるので、よく聞こえず）。

山口　「ドント、ムーブ」がどうしたんですって？（笑）。



佐伯　そうなると一番見やすいのはウチのリングだと思いますよォ（ニッコリ）。

山口　まったく人の話を聞いてないな、この人（笑）。だから、ルールはともかく、イメージ的にも実質的にも、総合格闘技をスポーツとして普及していくのが目的なのか、それともテレビと連動してエンターテイメントに仕立て上げて大衆に届けていくのが目的なのかっていうところのせめぎ合いがあって、思いきりエンターテインメントに主軸を置こうってなったのが『猪木祭り』であり、『Dynamite!』であって……。

佐伯　（まったく話を聞かず）ウチもメディアに乗せてほしいんだよねぇ。でも、どうにもならんもんね、そればっかりは。そうでしょ？　よっぽど頭のネジがなくなったテレビ局の上の方の人とかがさ、「やるか！」ってなる以外は。

競技性とエンターテインメント性のどちらを選ぶか、分岐点に来てるんですよ（山口）

山口　ガハハハ！　そんなテレビ局のトップいないですよ（笑）。

佐伯　いつも思いますよぉ。どっかテレビが「よし、やろう！」とかの話がいつかは来ないかなって待ってるけど、まったく来んわね！　そういう夢みたいな話来んかな？って思いながら現実的に進めてるんだけど。

山口　夢ある話を待つんじゃなくて、夢をつくるのが佐伯さんの仕事なんですよ（笑）。

佐伯　ん～………金がない！

山口　ダハハハ。まぁ、その話はいまは置いといて（笑）。メディアってことで言えば、わかりやすいテーマがある試合は乗せやすいでしょ。要はK—1のホーストvsボブ・サップだったら、格闘技歴はないけどデカくて強い奴と、その競技の達人がやったらどっちが勝つのかっていう。

佐伯　ウチで言えば、エル・カネックvs大刀光戦かぁ。

山口　そのカードにテーマがあったとは思えないけどな（笑）。

佐伯　ありますよ！　相撲対ルチャですよ！

山口　ガハハハ！　失礼いたしました（笑）。だから、競技性が主軸ではなく、ガチンコをエンターテインメントに仕立てあげることに主眼を置いてる。総合格闘技業界っていうものがあるとすれば、競技性とエンターテインメント性のどちらを選ぶのか、どこもその分岐点に来てると思うんですよ。

佐伯　だから、僕の最近の悩みはね、昨日もずっとXさんとも話してたんですけど、結局、斬新な奇をてらったマッチメイクっていうのがもうダメな時代なのかな？って。

山口　というのは？

佐伯　『クラブDEEP』という、名古屋で地元の連中が集まってやってく大会があるんですけど、こないだのディファ大会（12・8）より『クラブDEEP』の方が一部コンビニでチケットの伸びがいいんだもん！　だから……もうわかんない！

山口　なるほど（笑）。でも、いまの佐伯さんの言ってる「わかんない！」っていうのは、関係者の気持ちを代弁してると思いますよ。ファンのニーズがわかんないし、いま、ファン側もどんなカードを見たいのか、ハッキリわかってないと思いますよ。飽和状態で。

佐伯　だから、もうわかんない！

山口　でもハッキリしてるのは、子供からお爺ちゃんまで見て喜ぶのがボブ・サップなんですよね。

佐伯　それはそうでしょうね。

山口　だから、ボブ・サップこそ、エンターテインメントを象徴してるわけですよ。「強くて、凄くて、面白い」という、あそこまでのレベルのわかりやすさが出てきちゃうと、あそこのレベルに追いつかないと、こっちの世界ではやっていけないっていう一つの指針を示したようなもんですよ、ある意味。じゃあ、そういう方向に行かない人たちはどこを目指したらいいのかっていうのが、たぶん今日のテーマなはずなんですよ、おそらく（笑）。

佐伯　難しいねぇ……。

山口　パンクラスにしても、鈴木みのるvsライガー戦とかを特別枠で設けたりしたけど、そっちの方がチケットも売れるだろうし、熱が生まれるわけですよね。じゃあいままでスJr.vs謙吾とかを実現させてきた『DEEP』はどういう方向を目指してるのか、ぜひここは佐伯さんに聞いてみたいですね。

佐伯　…難しいなぁ。ただやっぱり、パンクラスさんのこないだの9月と10月の大会で、あんなに入るとは思わなかったから。

——9月はビッグマッチと言いながら、國奥選手がメインでしたね。

佐伯　そうそう。だけど逆に言ったらパンクラスの底力を見たかなって思うし。それだけの歴史があるからね。

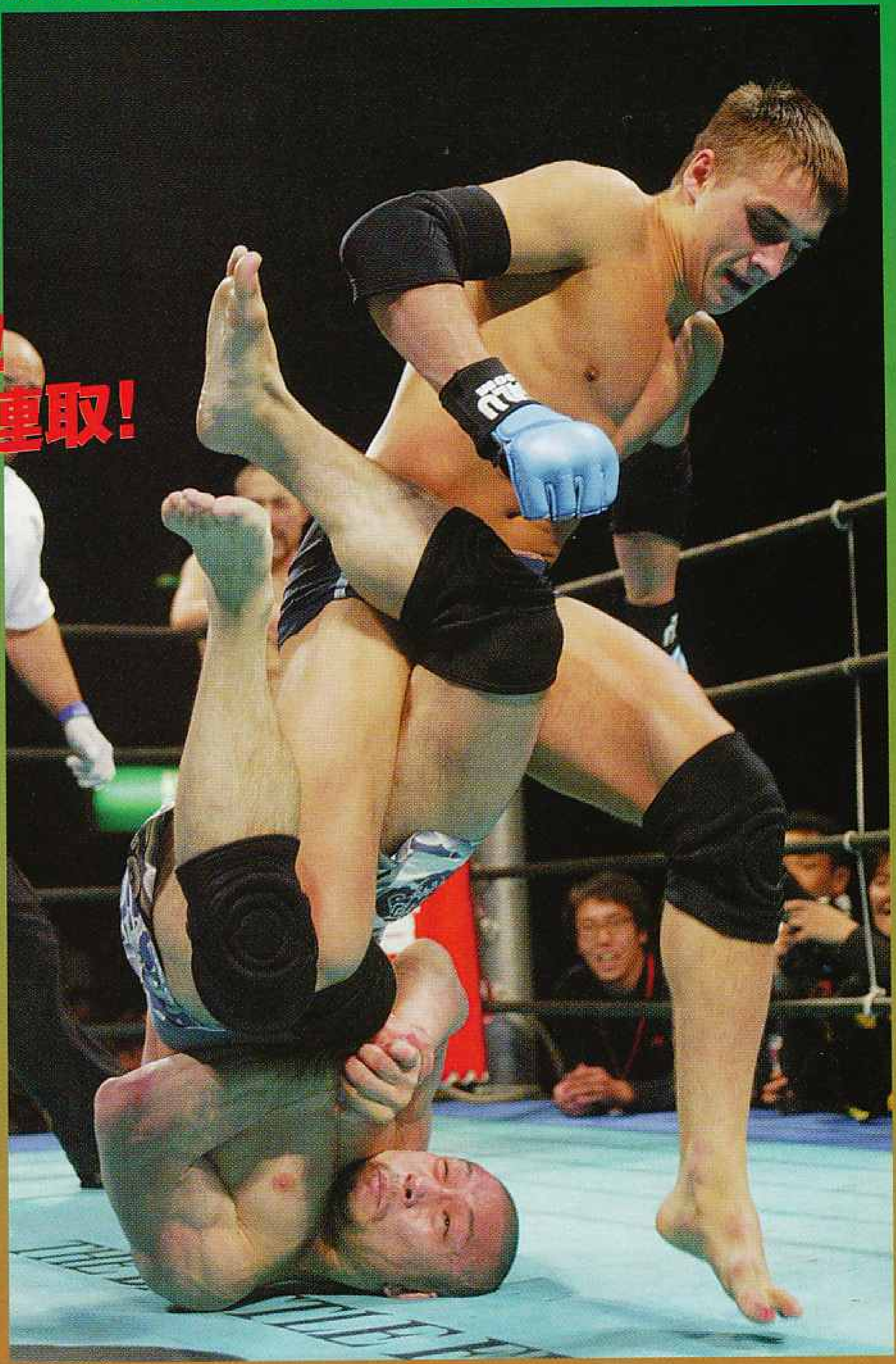
ZST

11.23　ディファ有明

撮影／乾晋也

"チーム・イリホリ"衝撃デビュー!!
"足関十段"今成、あざやか2本連取！

わかっていても極まってしまう足関節！　とにかく足をキャッチしたら今成の時間なのだ





リングス・リトアニア勢を相手に、"足関十段"振りを強烈にアピールした今成。ヤノタクとの「チーム・イリホリ」の由来は各自調査



二本奪取した今成はラウンドガールをはべらせ御満悦の様子。一方のヤノタクは眺めるのみ。職人コンビの次なる試合も楽しみだ！



園田隆からチョークで見事な一本を極めたサム・ネストはリングス・オーストラリア所属。リングスでは滑川を下したこともある実力者だ



メインを締めたのは、リングスライト級無敗のエース・小谷直之。リングス・リトアニア戦士相手に横綱相撲の試合運び。三角絞めで勝利した



向かって左から太田章、藤原敏男、和田レフェリー、野呂田メディカルアドバイザーと、リングス者なら感涙必至のバックステージ



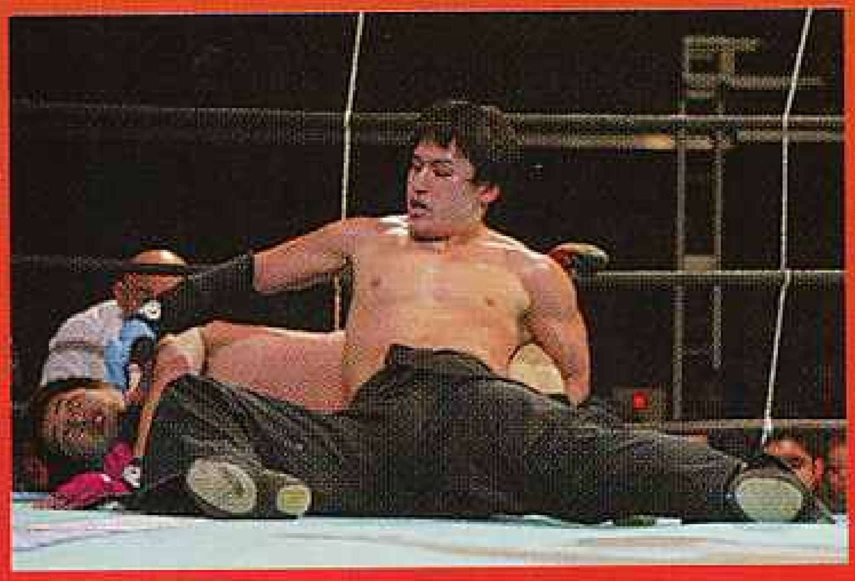
リングス『バトルジェネシス』で活躍した所英男も参戦！　極めに拘るスタイルで好試合を連発する所は、この日も腕ひしぎで一本勝ち！



入場ゲートやビジョンも設置！　進化したリングスがここにあった！　不在の前田総帥に代わってシーザー武志会長が挨拶を務めた



KOKルール復活の記念すべきオープニングバウトは佐々木恭介（U-FILE）と小野瀬哲也（ストライブル）で幕を開けた。判定で小野瀬が勝利



KAIENTAI-DOJOより真霜拳號が参戦し、サンボ界の大物・松本天心と対戦した。判定で敗れたが、真霜は総合経験のないアドバンテージを跳ね返す奮闘振りをみせた

山口　それは10年の積み重ねであり、そのパイなりの固定ファンが育ってるっていうことでしょうね。K—1なんかでも、サップvsホースト戦のときに、「ホースト負けるな」っていう、地から湧き出るような歓声が起こるわけでしょ。K1というジャンル自体に求心力はないと思ってたんだけど、実際にK—1ファンというか、K—1というジャンルを応援するファンは育ってるわけですよね。10年間やってなくなった団体もあるけど（笑）、それは積み重ねですよね。

佐伯　でもね、K—1に関してはね、やっぱり凄くわかりやすいですよ。ましてや海外の選手も名前を上げて作ってるじゃないですか。そういったことはすごく難しいですよ。言い方は悪いけど、じゃあウチも同じように外国人を連れてきて、スターを作ったとしたら、お金があるところが持っていっちゃう可能性ありますよね？　それをわかってる分だけ、どういうふうにしてやっていこうかってことなんですよね。パンクラスさんは自分のとこに選手がいる。ある程度、マッチメイクを長い目で見ながら組めるでしょ。「これがマズかったら、次はこういうふうに攻めようか」って。ウチは、たとえば「次、今度やりましょう」「いや、契約取れませんでした」って話になっちゃう。そのへんの問題もあるんでね、どうやったらいいのかってなるんですよ。

山口　だから『ZST』にしてもパンクラスにしても『DEEP』にしても、結局どの方向を目指すのかっていうのがいま一番問われてるわけですよ。たとえば鈴木みのるvsライガー戦だとか、ああいう系統の試合、いわゆる〝不平等な試合〟。でも、不平等な試合をエンターテインメントに仕立て上げるってことでいえば、『Dynamite!』や『猪木祭り』にはかなわないわけですよ。ライガーvsみのる戦を『Dynamite!』でやったら、よりたくさんの人が見てくれるわけだし。でもパンクラスの本道はそれとは違うわけですよね。そういう意味で『DEEP』の本道ってどこにあるの？っていうのを、単純に素直に聞いてみたいんですよ。

佐伯　やりたいことは、いろんなことを考えるんだけどね。奇をてらったカードもね、お客さんも見慣れてるんですね。僕も昨日、興行終わったばっかりだからさ、いろいろとまた考えちゃうよね。

山口　でも昨日の客層を見てると、選手がチケット売ったり、ジムに通ってる人が来てたり、やる側の人が多いですよね。

佐伯　そうですね、多いですね。

山口　あの規模だったら、あれでいいと思うんだけど、そこが佐伯さんのストライク・ゾーンなんですか？

佐伯　まぁ、その規模以上のことは難しいなっていうのは、田村vs美濃輪戦でわかりましたよね。他にも『PRIDE』さんに負けないカードを組んで、あそこまでしかできなかったっていうのは、やっぱり僕ら的にはショックですよね。なに持ってきても入らんのか？って思いますよね。

ミスターX　あれ、山口さんから見て、なんで入らなかったと思います？

山口　もう、客層が違うんですよ。いわゆる昔からの流れをズッと追ってるファンっていうのが、僕らの想像以上に離れてますよね。5年前、10年前のファンがズッと見続けてると思ってたら大間違いっていうか。だから、そういう新しいファンに響くというか、それこそマニアじゃなく、世間に向けて弾を撃って、さらにそれを引っ張ってこないと客は入らないですよね。で、総合格闘技側に問われてるのは、不平等な設定にするのか、平等な設定にするのかってことだと思うんです、大きく分けると。



やっぱりプラマイゼロにはしなアカンでしょ。もう慈善事業にはしたくないからね！（佐伯）

佐伯　（ミスターXが頼んだハンバーグの付け合わせのポテトをジーッと見ながら）うんうん。

山口　平等な設定っていうのは、簡単に言うとランキングや階級性を設けてってやっていく世界ですよね？

佐伯　（ポテトを一本口に入れて）ふんふん。

山口　不平等な設定というのは、ノゲイラvsサップ戦に代表されるようなもの。

佐伯　（ポテトを口いっぱいに頬張って）うん、うん。

山口　で、不平等な設定にするならするで、選手に対して、イベントの意義や闘いの意味をキチンと説明して、「ウチは不平等な世界なんだ」ってことをキッパリ言えるかどうかが、肝になってきますよね。

佐伯　そ〜だねぇ。

山口　聞いてます？（笑）。もう、父ちゃん、情けなくって涙が出てくるわ（暴れはっちゃく風に）。

佐伯　いやいや、聞いてますよ。フンフン。

山口　やっぱり地鶏の照り焼き丼の方がよかった？（笑）。

佐伯　いやいや、次はなに食べようかなと思って。

山口　ガハハハ！　いま佐伯さんはズバリ言って、方向性云々より、興行をやっていくので精一杯な状態ですか？

佐伯　ぶっちゃけた話、ホントなんとかしないと！　まずはどんな手を使ってでもお客さんを入れないと。まずそれが一番だよね。やっぱり、プラマイゼロにはしなアカンでしょ。もう慈善事業はしたくないからね！

山口　興行を打っていく側にも突きつけられてる問題はたくさんあると思うんですよね。ぶっちゃけた話、いくら好きだとはいえ佐伯さんだってズッと赤字でやっていくわけにはいかないでしょ（笑）。

佐伯　（ピラフを一気に口に掻きこみながら）うん。方向性とかいろいろ考える前に、まず生きていくことを考えないと。モグモグ。

山口　ガハハハ！　そんだけ食欲があれば生きていけますよ（笑）。皿抱えて、スプーンでガバガバ口に入れながら喋ってんだもん（笑）。

佐伯　ぶっちゃけた話、ホントにそうだと思いますよ。変な話、1年前ぐらいだったらカッコつけたこと言えましたよ！　でもいまの状況じゃ他を助けてる場合じゃないから。まず自分のとこで目先のことをやらないと、自分のとこが食ってけないですよ。たとえばね……ツナサンドウィッチ。

山口　は？　たとえばツナサンド？（笑）。

佐伯　（ウェイトレスに）お姉さん、お姉さん、ツナサンドなかったっけ？

山口　単なる注文かよ！　ツナサンドをたとえにして、どれだけ話が広がっていくのかと思ったら（笑）。

佐伯　（全く無視して）大会自体はいま増えてるように見えても、実際にはパンクラスとウチと『ZST』さんと……。

山口　『PRIDE』は？

佐伯　全然違うんですよ、デカすぎてぇ。

山口　でも『DEEP』は、『PRIDE』を狙えるポジションにいますからね（笑）。

佐伯　ブッ（といってアイスコーヒーを吹き出す）。

山口　狙えませんか？（笑）。

佐伯　マジメな話、総合格闘技やってる人口はメチャクチャ多いんですよ。だって昨日もウチでフューチャーキングトーナメントっていうのをやりましたからね。ウチは『クラブDEEP』って大会やって、ホントにマジメ

パンクラス

11.30　横浜文化体育館

撮影／平工幸雄





通常とは異なる戦闘用マスクを装着したライガーは開始早々、骨法仕込みの浴びせ蹴り！　しかし、みのるは間一髪回避



笑いながら殴るみのると、笑いながらパンチを受けたライガー!! 狂ってるとしか思えない、2人にしかわかりえない世界だ

ライガー敗れる！健介も来た！ みのる劇場が帰ってきたぜ～！

試合後、お互いに一発ずつ殴り合い抱擁を交わした両者は、マイクも抜群!!
みのる「ちょっとだけ錆びてましたね（笑顔で）。でも、アンタは最高だよ！　世界の獣神ライガーだよ!!」
ライガー「もう1回、やろう！　こんなんでやめてたまるかッ!!　でも今度は2年くらい時間をよこせ。次はブチ殺してやるからッ！」



ヴァーッ！　健介も来場！　みのるの挑発に「あの時の青春、もう1回、オレとお前で取り戻そうや！」とガッチリ握手！　来年実現!?



尾崎社長に来年の10周年記念興行での健介戦を直訴したみのるは「10周年興行はオレが仕切る！」。ヒクソン戦もブチ上げた！



『PRIDE』にも登場したヘンゾの弟子・ヒカルド・アルメイダがチョークで渋谷修身を秒殺!! 渋谷をアッサリ葬るとは……。強敵出現だ!!



沖縄にジムを構える「HYBRID WRESTLING 武∞限」所属の砂辺光久はフェザー級の新星。渡邉将広から見事に一本。今後の活躍を期待したい



「錯乱男」伊藤は、元・修斗の和田拓也に熱戦の末、判定勝利。錯乱まで達しなかったが号泣！　先日完敗を喫した三島にリベンジを誓った



ハイアンの弟子パンプロナに膠着三昧の末、判定勝利を飾った菊田。試合後、自身が持つライトヘビー級王座の挑戦者に近藤有己を指名した



美濃輪はグラバカ佐々木有生に苦しい判定勝ち。田村との再戦を訴えた。惜敗の佐々木は『PRIDE・24』でグレイシー狩り（死語？）に挑む

に選手育成っていう部分でやってますけど、ある意味『クラブDEEP』だって、生きていく手段ですよね、ウチは。

ミスターX　でもそれはキックでもボクシングでもそうじゃないんですか？

佐伯　でも現実的にさ、そういう話になっちゃうと、やってる側の人間以外をターゲットにしようと思ったら、いまの体制とか資金じゃ無理ですよ。たとえばね、もう1回昔の金を戻してもらって、じっくりやらせてくれるんならやれるのになぁ。

山口　「お金よ、戻って来い」（笑）。

佐伯　いまさら無理だよなぁ（しみじみ）。だからいまは、確実に2ヶ月に1回やって、社員に給料払ってあげて、普通に生活できるようにするのが当面の目標ですよ。だって、前と違うんだもん。いまは好きなことやってるからって済まされる状況じゃないないんだもん。そっからじゃないと、次の目標が立てらんないですよ。

山口　だから、非常に失礼な言い方しちゃうと、オレはやっぱり出てる選手にチケットを売ってもらうっていうのは、昔ながらの興行スタイルではあるけども、イベントじゃないと思ってるんですよ。

佐伯　でも、それがイベントじゃないっていうんだったら、じゃあ、総合格闘技のイベントっていうのは『PRIDE』しかないわけじゃない？

山口　総合格闘技でいえば、いまは『PRIDE』でしょうね。

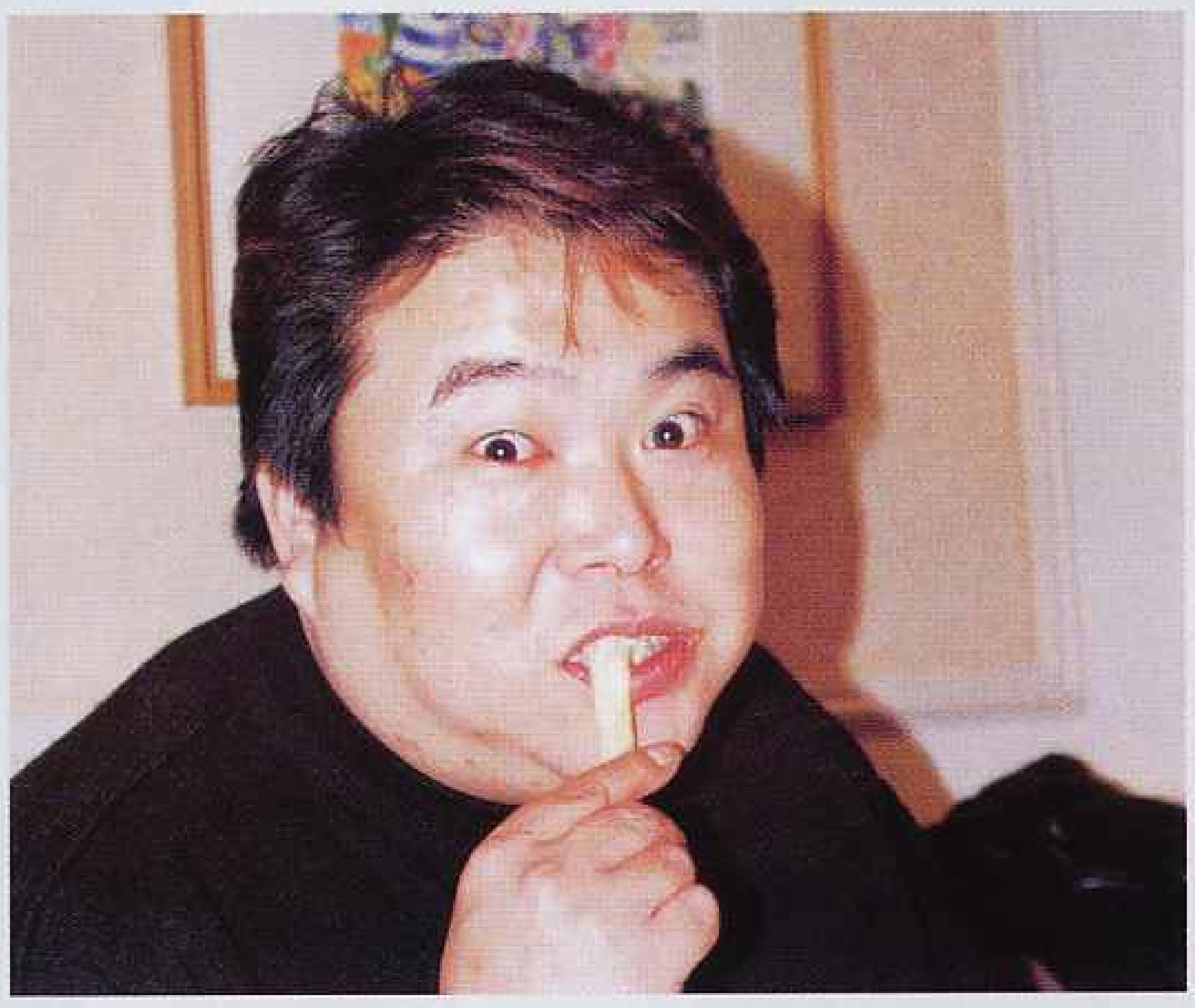
佐伯　俺からすれば『PRIDE』も『猪木祭り』も一緒みたいなもんですよ。つまりね、金がかかるってことです。金がかかるとしか思えないですよ！（キッパリ）。でも、正直言えば、ウチだってやりたいのはそれですよ！

山口　ですよね。

佐伯　でも、どうにもならんもんね。

山口　だから田村vs美濃輪戦がなんでお客さんそんなに入らなかったのかっていったら、「マニアのファンは大きなものよりもこっちを選ぶだろう」って認識がまだボクらの頭の中にあるわけですよ。でも、もうそれも限界。それだけK―1をベースにした潮流が力つけちゃってる現実というのがあって。やるんだったらそれとまったく違うものをやらなきゃいけないかなって思うんですけどね。

ミスターX　伝える方法がないですからね。『PRIDE』とかだったら、テレビだったり、伝える方法は山ほどあるじゃないですか。『DEEP』とかって伝える方法がないですよね。一宮vsアステカ戦とか、すごい面白かったんですよ。あれを「面白いですよ」って事前に伝える方法がない。



山口　専門誌もいま力ないしね。ホントに難しい時期なのはわかりますよ。でも、『DEEP』は、佐伯さんの個性でやってきたものだから、それをどうしていきたいのかっていうのは一番聞きたいですね。

佐伯　そりゃあやっぱり夢は大きな団体にすることですよ。ただ現実が見えてきたもんだからさぁ（笑）。

山口　UWFジャパンは今日はどういう発表の仕方したんですか？

佐伯　日程。

山口　あ、日程だけなんですか。

やってる側以外をターゲットにしたら いまの体制や資金じゃ無理ですよ（佐伯）

佐伯　………わからんなぁ。ぶっちゃけた話、ウチと『ZST』さんってまったく一緒だと思うんですね、基本的なベースがなくて大会ごとに選手を呼んでっていう。『ZST』さんはKOKルールっていう違いがあると思うんだけど、やっぱり難しいでしょ。僕はマジメな試合もあり、プロレステイストの試合もあり、ミックスした試合ってイメージで売ってるんですよ。

山口　その『ZST』は佐伯さんから見てどうでした？　結構評判はいいんですよね。

佐伯　僕も面白かったですよ。でも、グラウンドでの顔面パンチがないからちょっと緊張感がないな。

山口　あ、またもやルールがダメ（笑）。あれもオレからするとイベントじゃないんですよ。それはスタッフが一生懸命やってるのもわかるし、選手が一生懸命やってるのもわかるけども、こういう辛辣なことを言っていかないと、イベントとしてエンターテインメントには仕立てあげられていけないですよ。

佐伯　だからやっぱり、お客さんに自分のとこに目をつけさせるっていうのは長い目でやってかなきゃいけないし、余裕がいるわけですよ。僕はイチからやり直したいなって思いますよ。でも、いまさら間に合わんし、絶対不可能でしょ。宝くじでも当たらん限り……一応宝くじ買ったけど。

山口　ガハハハ！　買いましたか！（笑）。タイトル決まったな、「今後の総合格闘技界のために宝くじを買いました」（笑）。

佐伯　だってさ、有明コロシアムが終わってからホントに思ったから。「もうコケれない」って思いすぎちゃったもんだから、昨日とかもそうだけど、（収益は）興行はものすごく盛り上がったけど、イマイチじゃないですか。だから、なんかシックリしないんですよ。

山口　ビジネスにならない、面白くないじゃやらなきゃいいじゃないですか（笑）。

佐伯　そうもいかんもん！

山口　好きなのはわかりますけどね。あ、それか、いっそのこと佐伯さんが『PRIDE』やったらどうですか？（笑）。

佐伯　この人、ムチャクチャ言いますからね（笑）。僕、ぶっちゃけた話、有明コロシアムでやった日ね、「俺もここまで来たか」って思ったもん。それでテーマ曲流れたときに涙出ましたもん。「すごいな、ここまで来たんだな」って思ったのは……一瞬でしたね。その日の夜には違う部分で泣けましたね。「もうお金ないんだ」って。

ミスターX　『DEEP』も可能性はあるんですけどね。PPVは目標の数字の3倍行ったんですよね。

山口　凄いじゃないですか！

ミスターX　だから可能性はなくはないなって思ったんですけど、それにつながる体力がなくなってきたんですよね（笑）。

佐伯　よく「こないだの有明コロシアムよかったです。頑張ってください」って言われるけど、そりゃあ当たり前だって、いっぱい金かかってんだから。予算かけて選手呼んできてるんだし、当たり前だっつうの！「今回のディファのマッチメイクはちょっと弱いですね」とも言われたけど、当たり前だっつうの！　お金かけられないんだから！

山口　同じ有明でも、それこそ規模が違いますからね。

佐伯　オ・カ・ネも違うからさぁ。

山口　あ、またお金の話（笑）。

――パンクラスの後楽園大会っていうのは、そんなにビッグカードは期待しないで普通にファンが通うわけですよ、毎回。『DEEP』はもっと毛色が違うビッグなカードが見られると思っちゃってるんですよ。いつも田村選手や美濃輪選手やドスJr.が出るんじゃないかっていうのが頭にあるんで、そういう選手が出ないと「今回はちょっと1回休もうかな」ってファンが出てるんですよね。

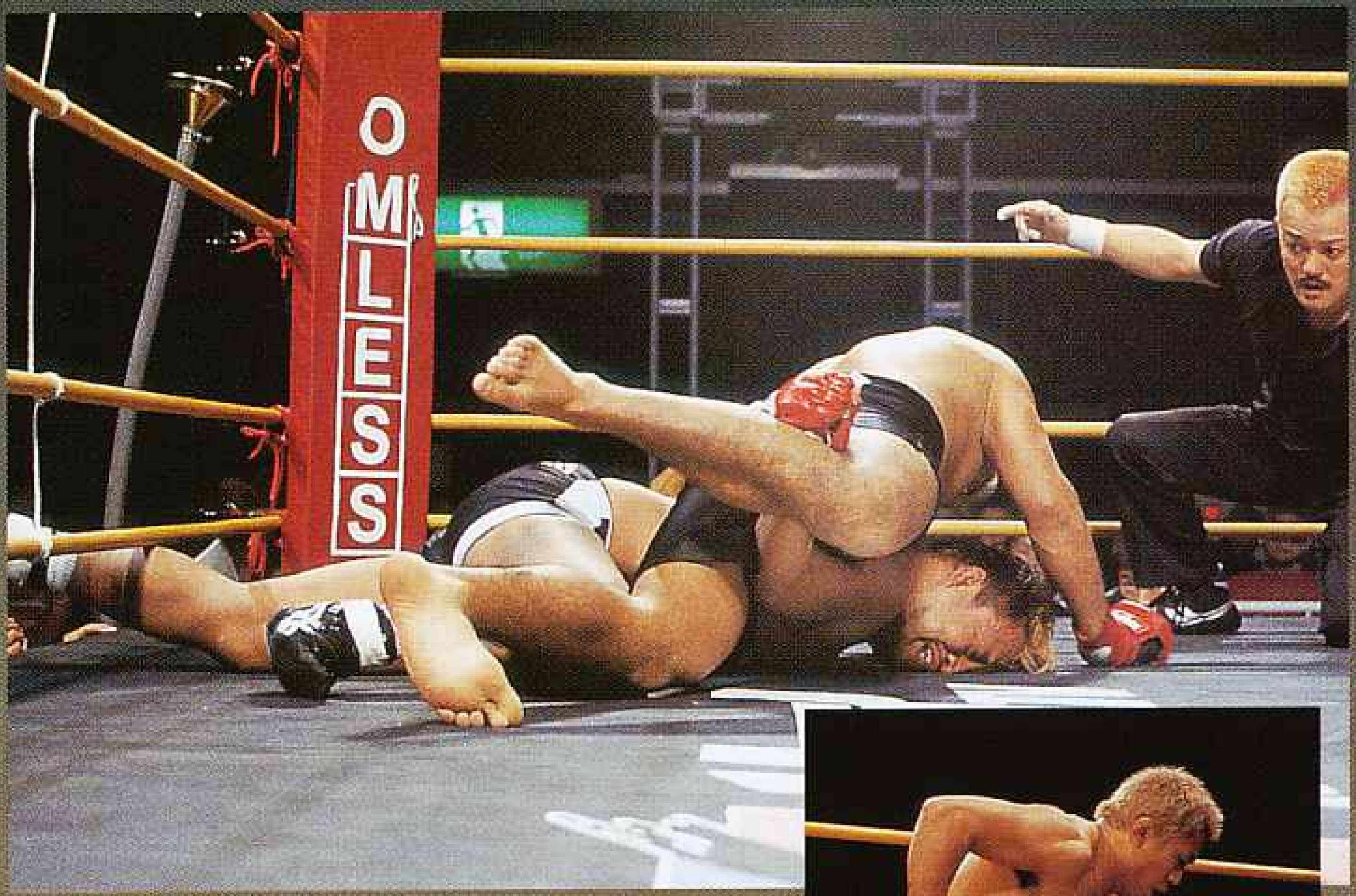
佐伯　ウチはマニアックすぎるのかなぁ？　でもさ、ウチのディファはかなり金かかってるし、選手だって現役のムエタイチャンピオ

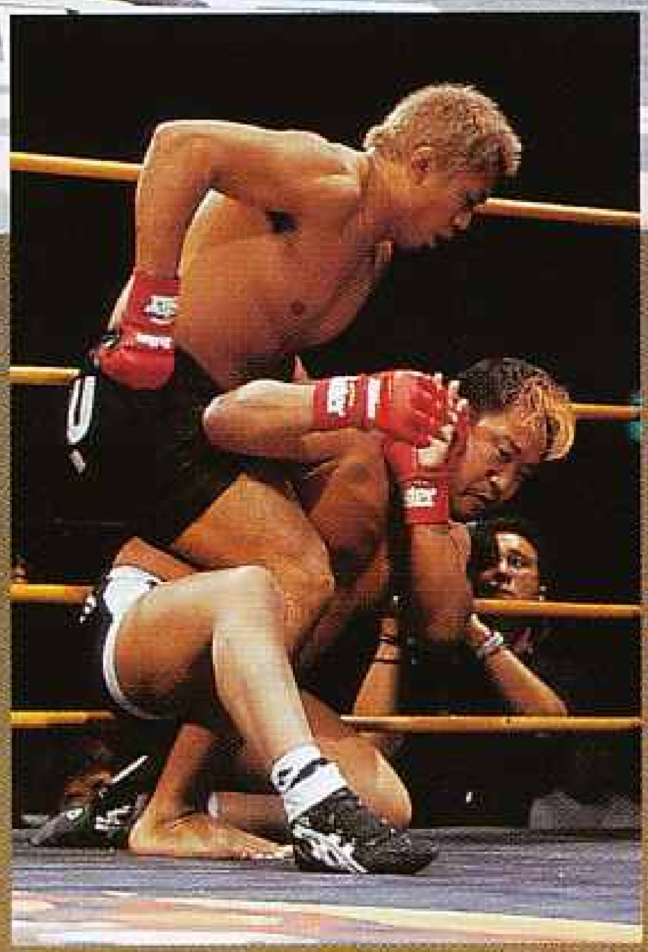
DEEP

12.8　ディファ有明

撮影／吉澤晃

手負いの長南、修斗王者に肉薄！ 石川は無念の完敗！





○滑川康仁（フリー）【1R3:46TKO】石川雄規×（格闘探偵団バトラーツ）
仰天!!　決まり手は腹固め！　石川を身動きに取れない体勢に追い込んだ滑川が、パンチの連打でレフェリーストップに追い込んだ！　試合後、滑川はリング上で「石川さんの勇気を感じてボク自身感動しています。バトラーツのリングに上がる気はありませんが（笑）、僕の通帳に20万あります。いくら貸そうか迷ってます。全部は無理ですけど、少しは何かできると思います」と観客＆関係者を惑わせるマイク。一方、石川社長は「2日前に腐ったジュースを飲んだのが敗因かな。自分はダメだけど、（バトラーツ）の原（学）選手は大丈夫。若いし、強いし、顔もいいし、オレとそっくりだ（笑）」と、らしいコメントを残し会場をあとにした





○須田匡昇（CLUB J／修斗ライトヘビー級王者）【3R判定2-1】長南亮×（U-FILE-CAMP.com）
手堅い須田に対して鬼気迫る攻勢をかける長南に、観客が大「長南」コールで後押しをしたメインイベント。2週間前に右足靱帯損傷に見舞われながら「経験の浅い自分がチャンピオンとやらせてもらえるんだから、どんなことをしてでもやりたかった」と、足を引きずりながらの出場となった長南が、パンチのみで修斗王者に肉薄！　必殺の飛びヒザ蹴りを出さずして、須田を鼻骨骨折に追い込む奮闘振りをみせた。長南、オマエは男の中の男だ!!



未来のスターを発掘するため行われたフィーチャーキングトーナメントは、69キロ以下級、82キロ以下級の二階級で開催。写真は82キロ以下級を制した藤沼弘秀。注目のファイターだ



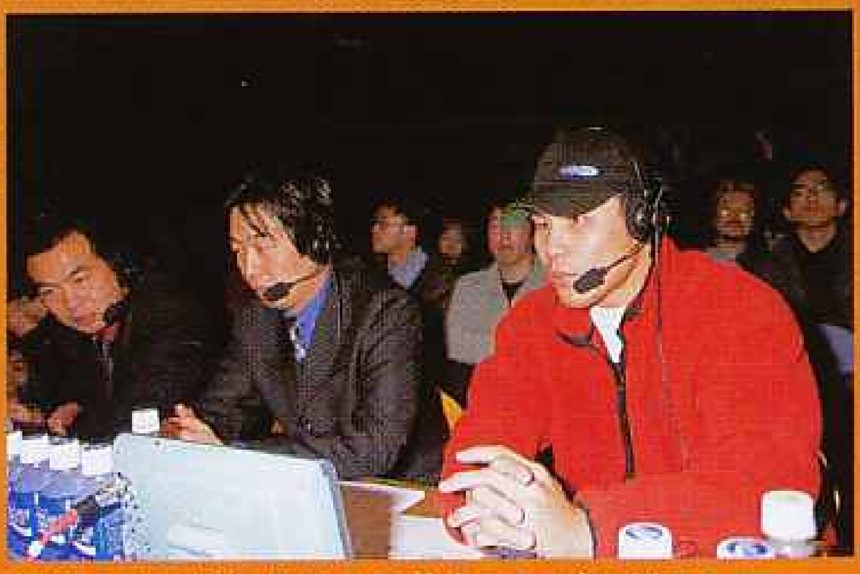
現役ルンピニー王者も名を連ねたムエタイvs日本の対抗戦は2-1で日本の勝利。タイ側唯一の白星はランバーが廣野剛康を下した1勝



注目の一宮の偽造は「シウバ」！　しかし試合スタイルまでは同様にはいかず、アステカとドロー決着となった。試合後にゴージャス松野が乱入し、次なる刺客投入を予告した



バト魂は死なず！　新生バトラーツ期待の新星・原学は、アステカが主宰する「華☆激」所属のプロレスラー・KAZEをマウントパンチでTKO！　今後の活躍も期待できる若武者だ



高柳アナ＆熊久保さんの黄金コンビにゲスト解説として田村潔司が登場！　ダウンを脱ぐと珍しく『紙プロ』田村Tシャツを着用！



上山＆大久保のU-FILE勢と パンクラス窪田＆金井のタッグマッチ3本勝負は、一本も勝負が付かず時間切れのドローとなった



先日の『クラブDEEP』に続いての参戦となった元リングス・伊藤博之。MAX宮沢に惜しくも判定負け。伊藤には、金原、高阪らがセコンドが付いた

ハンドメイドの興行をやる快感や面白味を、芯から考え直す時代にきてるんですよ（山口）

ンが来るんだから。石川雄規選手も出てね。だから、僕の中ではトーンダウンしたつもりないんだけどなぁ……。

山口　それが届かないっていう。

佐伯　だから長南選手の良さだって、僕らは見てるからわかってるけど、一般の人には伝わってないのかなって思うし。俺らは「石井大輔ってアグレッシブで面白いな」って思うじゃないですか。でも一般の人は石井大輔じゃ伝わらないんですよね。

山口　だから、極端な話、知ってるのは米粒ぐらいのパイしかいないと思わないと、いまの時代、イベントなんて客は入りませんよ。

佐伯　それが入ると錯覚し始めてきたんですよ、変に業界を見すぎちゃって。でも、僕だって最初は金かけてさ、ホイラー呼んで、ヒクソン呼んでさ、「対『PRIDE』」みたいな気持ちでやったんだけど、やっぱり体力尽きてきてさぁ（つぶやくように）。

山口　それはビジネス構造が全然違うからですよね。『PRIDE』がやってることは、極端に言えば、興行収益をアテにしてやってるわけじゃないから。イベントとしてテレビ局と組んだり、事業協賛を取ったりしながら、やってるわけだから。それを上回るのが『Dynamite!』や『猪木祭り』だけど。

佐伯　そうだねぇ。そういう部分は全然勝てないですね。

山口　ハンドメイドの興行をやっていくっていう快感や面白みというものを、もう1回芯から考え直さないといけない時代にきてますよね、マジメなこと言うと（笑）。ボクらも一緒なんですよ。毎日のように携帯やネットで情報を見れる時代にね、紙媒体が好きなんだって言ったって、好きなだけで続くわけがない。活字というものに一応こだわりはあるけど、それは紙であれ、携帯であれ、ネットであれ、一番活きるところでやりたいですよ。

佐伯　媒体によって違う情報じゃないとね。いま週刊誌だって写真見るだけですよね、ホントに。

山口　読まないですからね。情報だけならネットのほうが見る。まだウチみたいなのは情報にあんまり頼ってないし、読み物として多少色があるから紙でやる意味もあるけど、それでも根本的に考え直さないといけないのは確かなんですよ。



佐伯　（話をまったく聞かずに）……サンドウィッチ来ねぇなぁ。……サンドウィッチ来ねぇなぁ。

山口　早い話が、例えばカシンvs高岩をまたやったところで、いままでと同じ「関係性」だったら、すぐ飽きられますよ。だから、田村潔司がUWFというものを媒介にして、ファンとこれまでと同じ関係性を築こうと思ったら長続きしませんよね。UWFというものを媒介にして、いまの田村潔司といまのファンとの間に、新たな「関係性」を築きあげるべきですよね。

佐伯　（さらに話を聞かずに）……ツナサンドまだかなぁ。（ボーイに向かって）サンドウィッチまだ？

ボーイ　あ、はい。すぐに確認します。

山口　ガハハハ！　バッグンに面白いなぁ、佐伯さん。ガンツ、これ対談っていう設定が失敗だよ。インタビューにすればよかった。総合格闘技の未来なんかより、俺は佐伯さん自身の現在・過去・未来のほうが断然興味があるなぁ（笑）。

ボーイ　も、申し訳ありません、オーダー入ってませんでした。すぐにお作りしますので。

佐伯　えええぇ～っ、ホント、マジ!?……ついてないなぁ。

山口　ダハハハ。でも佐伯さん、以外に他のところも同じような状態だから、心配することはないですよ。頑張りましょう！

佐伯　そんなこと言わんとってよ！　ウチは3月の興行コケたくないですよ。初めての後楽園ですよ。

山口　いや、大丈夫ですよ（笑）。

佐伯　まず生き延びることね。昨日なんか淡々と普通に終わったもん。こんなに普通に終わっていいものかと思ったもんね。

山口　でも、メインはメチャメチャ面白かったなぁ。長南選手はいいですね。石川vs滑川戦はイマイチだったけど。

佐伯　あれはね、スタンドで殴り合ってほしかったなぁ。それかスタンドで殴られて倒れた方がカッコよかったね。

山口　まぁ、だから、以前のアルティメット初期の頃とか、グレイシーが出現した頃とか、『PRIDE』が立ち上がった頃からのファンとか、リングスファンとかもまだいますけど、総合格闘技も、そういうファンとどんな新たな「関係性」を築いていくのかってことじゃないですか？　それも人間関係と同じで、ズーッと同じ関係性が続くと思ったら大間違いですからね。

佐伯　（やっぱり話を聞かずに）やっぱり、目指すはエンターテインメントですよ！　じゃないと意味ないでしょ。だって、興行終わって、選手にギャラ払って、社員に給料あげられればいいぐらいですよ。それで十分ですよ！　まずは目標として。そういうふうにしていかないとね。

山口　ん～、父ちゃん、情けなくって涙が出てくるわ（再び、暴れはっちゃく風）。

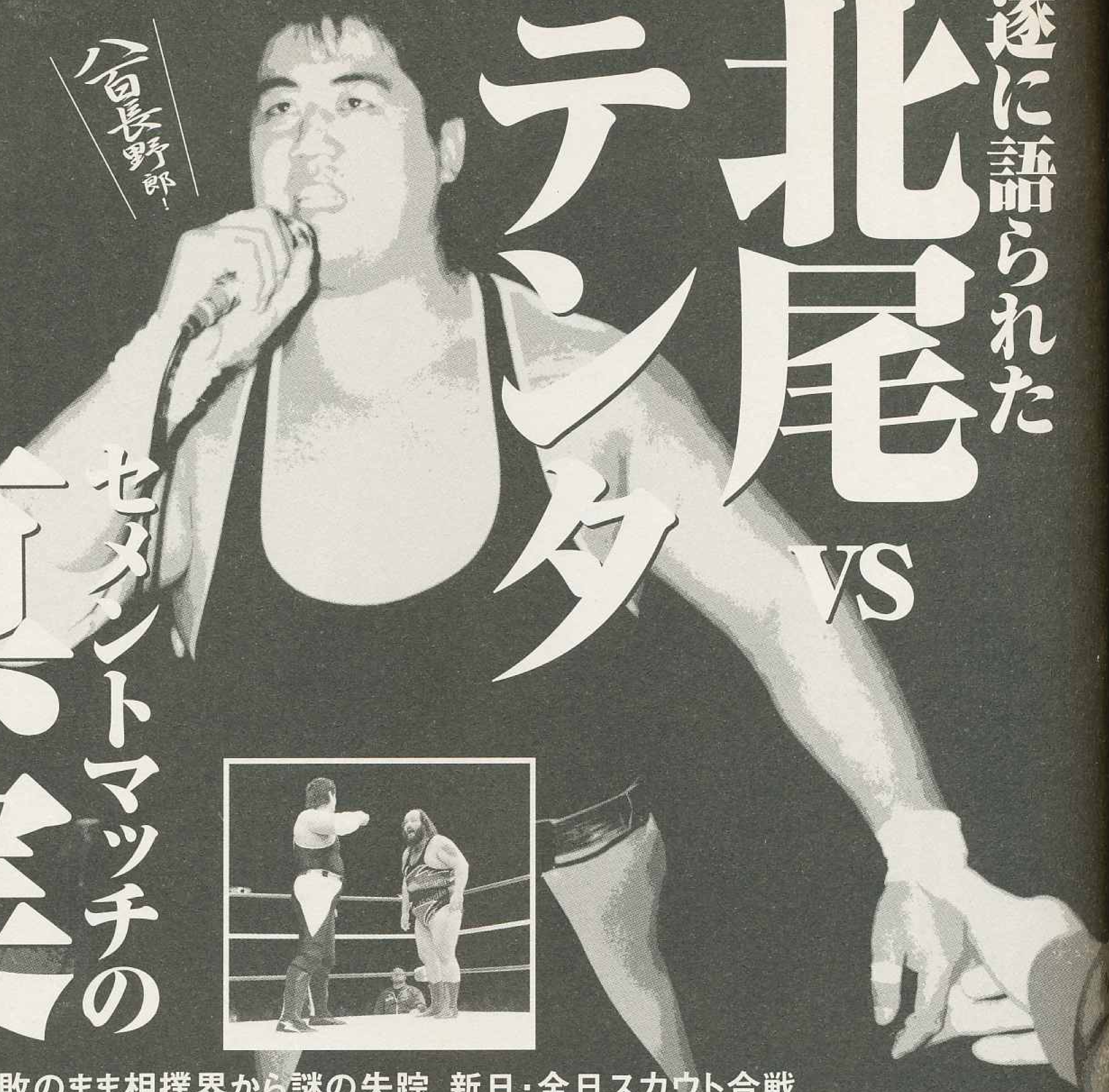
［02年12月9日／東京パレスホテルの某レストランにて収録］

衝撃!!　この対談のあと、田村潔司が2月に旗揚げを予定している『UWF－JAPAN』の名称が、『U－STYLE』に変更となることが、明らかになった。今号の田村潔司インタビュー&旗揚げ発表会見記事において（P70～）、『UWF－JAPAN』の名称が使われてますが、名称変更前のインタビューであることを御了承ください。ツナサンド、まだぁ!?





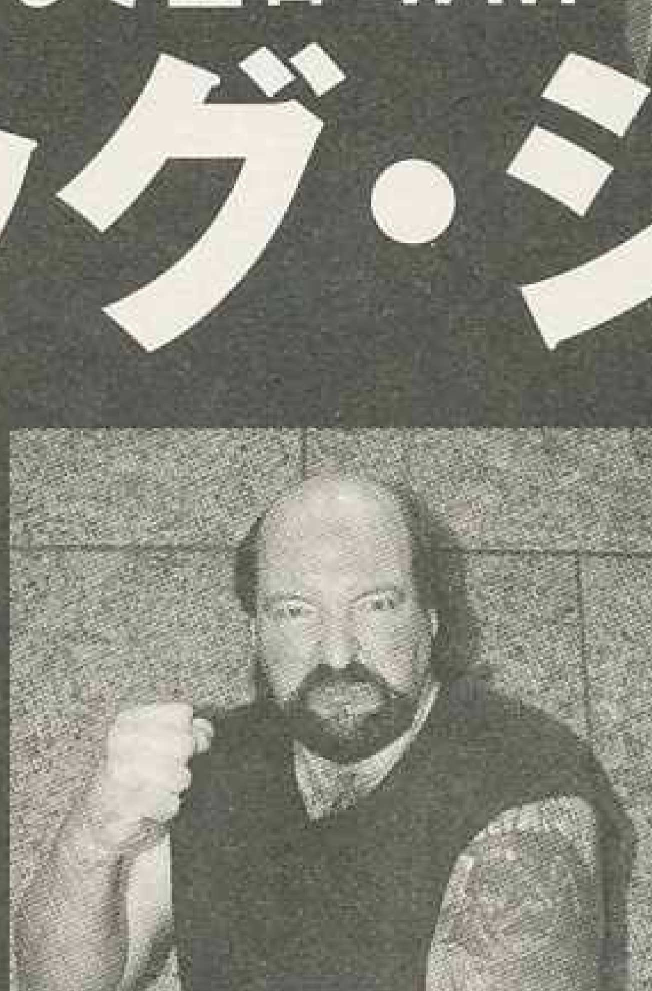
multiple ALIBI "S"
STRAIGHT AND STRONG
SWS RETURNS



遂に語られた北尾vsテンタ セメントマッチの真実

無敗のまま相撲界から謎の失踪、新日・全日スカウト合戦
そして全日・WWF・SWS・WCW時代のすべてを語る!

ビッグ・ジョン・テンタ



かつて「SWS再評価」という誰もやらないことに挑み、
『紙プロ』紙上で大好評を博した連載インタビュー
「S多重アリバイ」が遂に帰ってきた!
久々登場の今回は、なんとジョン・テンタが登場し、
あのSWS最大の謎とも言える
「北尾vsテンタ、セメントマッチ」の真相を11年の時を経て
遂に禁断の大公開! さぁ、心して読め!

聞き手&撮影／堀江ガンツ
スーパーバイズ／吉田 豪
designed by matsu (Two three)

――さて、今日はテンタさんの波瀾万丈のレスラー人生をたっぷり聞いていきたいと思いますので、よろしくお願いします！

テンタ 振り返ってみれば、オレの人生は選択ミスの連続のような気もするけど（笑）、まぁ、よろしくたのむよ。

――まずは今回、久々の日本マット登場でしたけど、実に動きがよくてビックリしましたよ！

テンタ そういうふうに言ってくれるのは嬉しいけど、今回は3週間前にオファーを受けたから準備期間が短かったんだ。ちょっとブランクもあったし、自分としてはもう少し早く知らせてくれてたら、もっともっとできたハズだと思ってるんだけどね。

――最近は試合数を減らしているんですか？

テンタ 減らしているも何も、リングに上がったのは一年前にUKでやって以来だよ。あとはレスリング・スクールで教えている若い生徒のテープを全日本、ノア、新日本なんかに送っていたくらいだね。

――それじゃ、もうプロレスはやめていたんですか？

テンタ ああ、そうだよ。そのUKツアーですべてが嫌になってね。トラックを買って、運送業で細々と食っていこうと思っていたんだ。だから不本意だけど、結果的にあれが自分の引退試合になると思っていたよ。

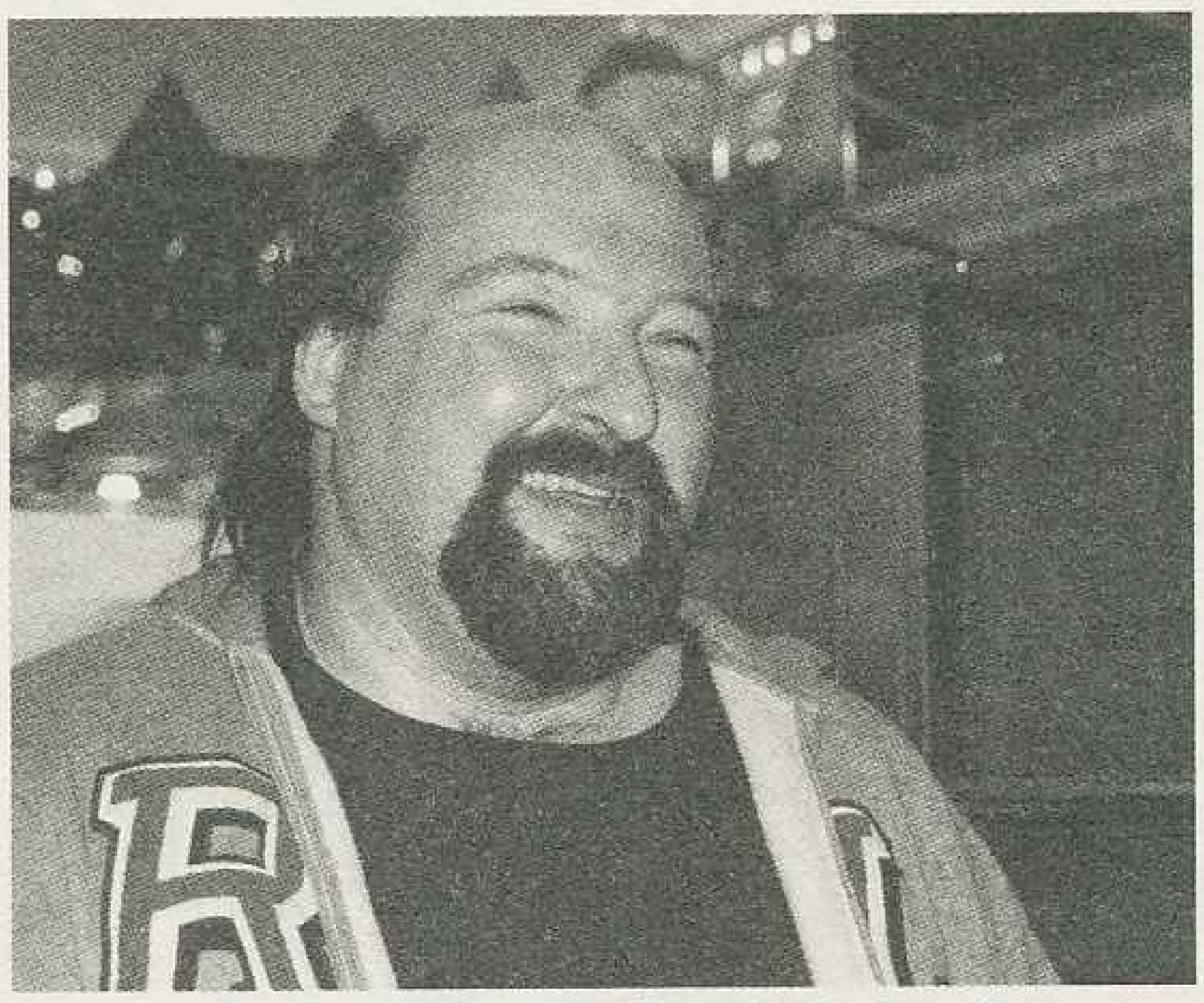
Tenta

――UKツアーでは、そんな酷い目に遭ったんですか？

テンタ スコット・コーンウェイのレスリング・アライアンスとブライアン・ディクソンのオールスター・プロモーションの両方に行ったんだけど、ちっとも約束のお金を払ってくれやしない。当然それでさっさと引き上げたわけさ。UKだけじゃなく、WCW時代からそんなことが続いていて、この業界自体がいいかげん嫌になっていたんだ。UKマットなんてヒドイもんでWWEのギミックを勝手にパクって、そのままやったりしてるのもあるからね。

――WWEスーパースターズのニセモノはたくさんいるみたいですね（笑）。

テンタ それぐらいだったらかわいいもんで、来る予定もないオレやブリティッシュ・ブルドッグ（故デイビーボーイ・スミス）の



なんで新日本ではなく全日本を選んだかって？猪木さんより馬場さんの方がいい人に見えたんだよ（笑）

写真をポスターに載せたりしもしてるんだ。こっちはギャラを払ってくれないから行くわけないのに。それで会場に来たお客さんには「9・11（同時多発テロ）のせいで来れなくなった」とか嘘ばっかり言ってるんだ。ヒドイ話だろ？

――見事なくらいのデタラメぶりですね（笑）。それじゃあ、久々に全日本プロレスのシリーズに参加したことで凄いやりがいを感じているんじゃないですか？

テンタ もちろんやりがいは感じているよ。ずいぶん前から全日本に戻ってきたいとは思っていたからね。でも、3年ぐらい前にコンタクトを取ろうとしたら、「ダメだ、ダメだ」って言われちゃったよ。なんでも「ババさんの会社はダブルクロス（裏切り）した人間のカムバックを許さない」と言うんだ。

――ああ、その方針は有名ですね。

テンタ でも、オレはダブルクロスしたわけじゃないんだよ。だってオレはババさんの許可を得てWWFに行って、そのWWFのボスに「行け」と言われたからSWSに行っただけなんだから。しょうがないじゃないか。選択はなかったんだ。

――好きでSWSに上がったわけじゃない、と。

テンタ でも、理解してもらえなかった……。だから今回はホントに念願の来日なんだよ。で

ただ、そこにババさんがいないのはやっぱり寂しいな……。欲を言えば、ババさんが生きてるあいだに仲直りして全日本に上がりたかったよね。

――それでは、この辺からテンタさんの半生を振り返っていただきたいんですけど、元々はアマチュア・レスリングをされてたんですよね。そこから大相撲を経てプロレスに転向したってことでよろしいんですか？

テンタ 順番的には間違ってないけど、オレはもともとアマチュアの前からプロレスファンだったんだよ。親父がプロレス好きでね。当時は貧乏だったからテレビも一台しかなくて、土曜の朝といったら子供はアニメが見たいのに、親父はプロレスにチャンネルを変えるんだよ。最初はチクショーと思ってね（笑）。でも、強制的に見せられているうちにいつの間にかオレもプロレスファンになっていたんだ。だから俺とプロレスの関係は6歳の頃から始まっているんだよ。

――ちなみに誰のファンだったんですか？

テンタ ジン・キニスキー、ドン・レオ・ジョナサン、ブルドック・ボブ・ブラウン、ジミー・スヌーカなんかが好きだったな。あとはサージェント・スローターも前座で試合をしていたし、アファとシカのサモアンズも来ていた。でも、なんと言っても一番好きだったのはアンドレ・ザ・ジャイアントだね。子供の頃にアンドレのファンだったことはいまでも大切な思い出だよ。写真もずっと持っている。そんなオレが大人になったらアンドレと対戦したんだから凄い話だよ（ニッコリ）。

――では、アマレスはプロレスラーになりたくて始めたんですか？

テンタ いや、そういうわけではなくて、担任の先生がたまたまレスリングの監督だったんで誘われただけなんだ。でもハイスクールのチャンピオンになって、ルイジアナ州立大学に奨学金で「レスリングで行ってくれないか？」って話が来たんだよ。

――学生チャンピオンにもなったんですよね？

テンタ ああ、アマレス経歴のハイライトは83年にロサンゼルスで開催されたジュニアワールドチャンピオンシップだよ。その決勝の相手がゲーリー・オブライトだったんだ。

――え!? あのオブライトとアマチュア時代に闘ってましたか！

テンタ 彼とは3度試合していて、ロサンゼルスの時は一勝一敗で迎えた闘いだったんだ。オブライトは同じカナダ人で年も同じだし、お互いプロになったって知ったときは驚いたけど、個人的に付き合いがあったわけではなかった。でも、おかしな因縁だよね。

――そんなアマチュアのトップでやっていたテンタさんが、日本の相撲界に入ることになったという経緯を教えていただけませんか？

テンタ 86年にバンクーバーでワールドフェア（万博）があった時に日本館が相撲のエキシビションをやることになったんだ。それでカナダで日本人だけの相撲をやっても面白くないんで、







「誰かローカルなヤツはいないのか？」となって、320ポンドのオレがやることになった。そこで認められてスカウトされたんだ。でも、最初は「勘弁してくれよ」って気持ちだったんだけど、ちょうどその時に、幸か不幸かオレが通っていたルイジアナ州立大学でスポーツへの予算カットが始まってね。オレのレスリングでの奨学金もなくなりそうになっていたんだ。それで「成功すれば金持ちになれる」と言われたこともあって日本で相撲をやる決心をしたんだ。親方も親切そうに見えたし。まぁ深く考えてなかった。

Big John T

——深く考えずに相撲入りですか（笑）。そんな感じでまったく文化の違う相撲界に入ったら、かなり苦労したんじゃないですか？

テンタ　そうだね。相撲という競技自体は自分に合っていたといまでも思っているけど、やっぱり人間関係と文化の違いに悩まされたよ。確かにオレも色んなルールを守らなかったり、9時の門限を破ったりして悪い部分はあったけど、他の連中とはジェラシーというか、オレだけに特別なアテンション（注目）が集まっていることが軋轢になってきたんだ。

——そういった溝がだんだん深くなってしまい、最後は廃業という形になったわけですか？

テンタ　そういうことになるのかな。そもそもの発端は、ある日のこと、オレが部屋に遅く帰ってきたらドアに鍵を閉められてしまってね、二階から親方の奥さんがじっと見てるのに入れてもらえなくて、インターホンで話もできない。それで困って、結局ガールフレンドの家に泊まって朝の5時に帰ったんだ。すると次の日から周りの態度が一変してしまった。稽古ではイジメられて、初めて竹刀でガンガン殴られてね、「なぜこんなことをするんだ」って怒ったら、彼らは「素行不良だからだ」と言ってきた。親方のことは大好きだったけど、なぜかその件がキッカケでね……。しかもちょうどオレは無敗で注目を浴びていたこともあって、親方も余計に厳しくしていたときでね。オレは膝がガクガクで痛くて仕方なかったんだけど当然休ませてくれない。それで精神的にも肉体的にも追い込まれて、確か名古屋場所の直前だったかな、「もう限界だ、辞めてやる！」って逃げ出したんだよ。

——やっぱり部屋の期待の力士だったっていうプレッシャーも相当でしたか？

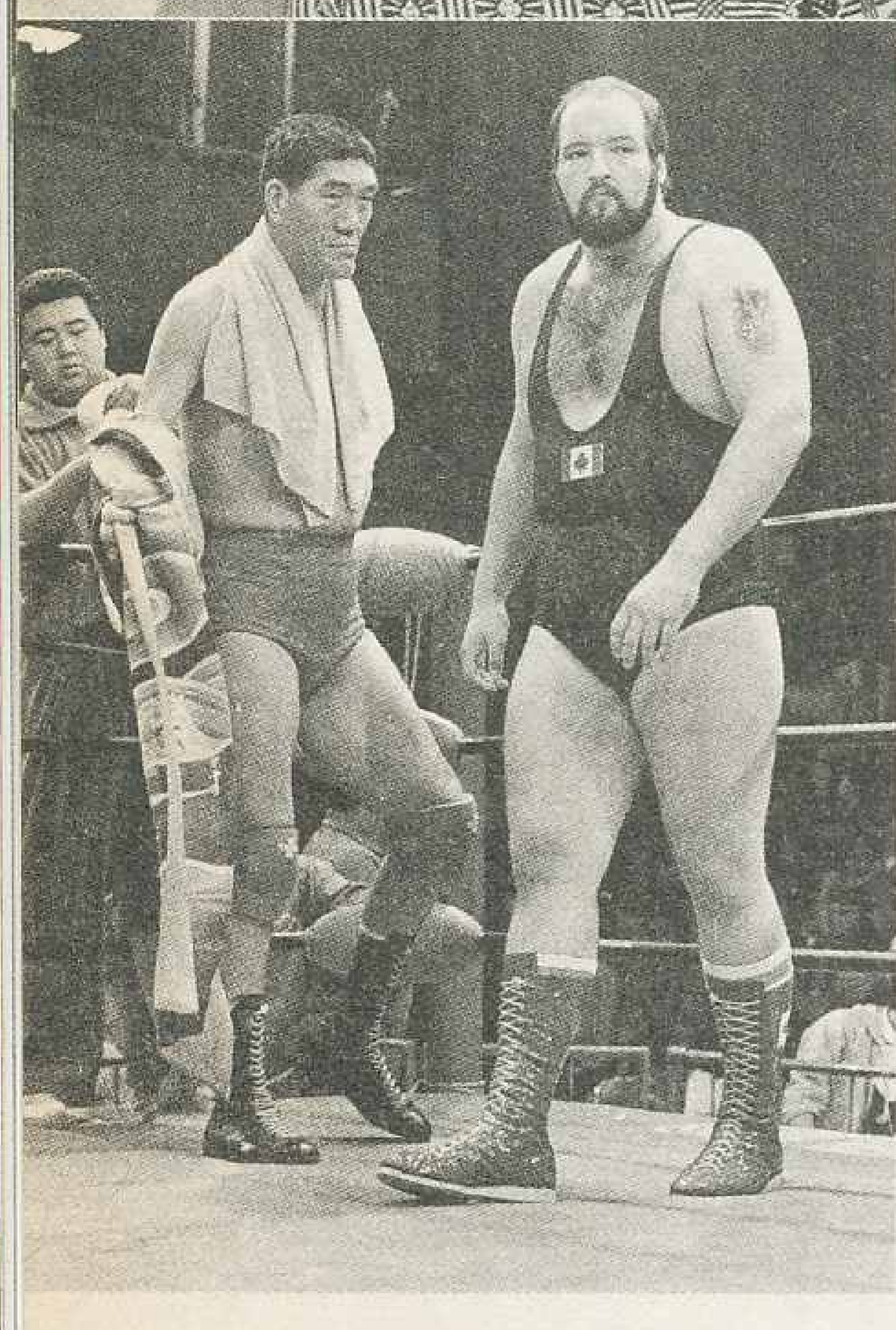
テンタ　そうだね。オレは連勝記録を作っていたから期待が高まり過ぎて、そのギャップがそういうことを生んだんだ。親方からの期待とは裏腹に周りのジェラシーも相当だったしね。それでオレはオレで7歳年下のまだ15歳の兄弟子に指図されたりするのを「冗談じゃねぇよ」って反発したりね、そういうカルチャーの違いもあったんだ。

——やっぱり角界独特のしきたりという点に馴染めませんでしたか？

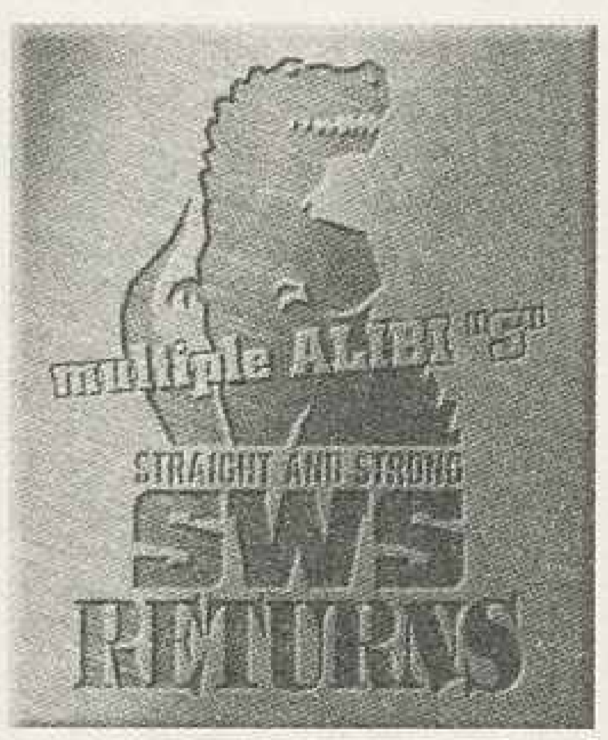
テンタ　オレにとっては「何が悪いんだ？」ということだらけだったよ。確かにその通りだとは思う部分もあるが、タバコを吸っただけで背中をムチャクチャに叩かれるのはおかしいと思わないかい？　関取にもなっていないのにガールフレンドがいるということもダメだと言われたんだよ。あと、オレの腕の刺青も問題になったね。

——ああ、そういえば刺青が見えないように、腕にサポーターやテーピングをして相撲を取っていたんですよね？

テンタ　そう。相撲取りが刺青をしているのはよくないということで、消してくれるドクターのところに連れて行かれたんだが、そのドクターが「消すのは数回し



1986年、無敗の快進撃を続けていた白人力士が、名古屋場所前に突如失踪したということで、大いに話題となった琴天山の失踪。そのまま廃業し、プロレス入りということで、そのスキャンダラス性はワイドショーなども巻き込み大騒ぎとなった。琴天山ことジョン・テンタはそんなことはどこ吹く風、恋人と言われる通訳女性と一緒に新日本プロレス、全日本プロレスを訪問し、前代未聞の両団体公開争奪戦となった。その後、テンタは全日本を選択。当時のプロレス雑誌では、UWFと抗争中だった過激な新日本を避け、"楽な"全日本を選んだと書かれたのだから酷い話だ。その後、テンタは翌年、馬場と組みR・木村＆鶴見組相手にデビューした。



かやったことがない」とかっていう奴でさぁ。単に通訳のミスだったのかも知れないけど、「こんなヤツに任せられないよ」「嫌だ」と言ったのがまた余計に周りの誤解を生んでね……。そこの問題があったのかもしれない。

――相互理解ができないまま、悪循環を生んでいったんですね。当時は相談できる力士とかはいなかったんですか？

テンタ　当時はあまり友達もいないし、最初の二日間だけ通訳がいたけどすぐにいなくなって、あとはブロークンイングリッシュを言うだけだから、相談なんかできなかったよ。通訳をつけなかったのは日本語を覚えさせるためということもあったらしいけど、相撲を長くやるっていう気も段々となくなってきたこともあって、日本語の勉強もしなくなってたんだ。稽古に関してもオレは一日に2～3時間集中して練習をするのが一番いいと思うんだけど、相撲界は朝から晩まで一日中やっていた。そんなやり方は非科学的だろ？　オレは10ヶ月間で60ポンドも痩せたんだ。食事も合わなかったけど、稽古が激し過ぎたことも原因の一つだよ。とにかくすべてに疲れきっていたんだよ。

――では、相撲時代にはあまりいい思い出はありませんか？

テンタ　いや、競技としての相撲はいまでも好きだよ。オレは番付がドンドン上がっていって、幕下の上のヤツにも勝ってたから、そのまま続けていたらどこまでいったんだろうとはいまでも思うしね。ただテンリューさんから「いまの相撲は外人ばっかりで日本のスポーツではなくなっている」ということも聞いてるし、そういう点ではどうかなと思うよ。伝統の国技だろ？　それは大切なことだからね。

――相撲を廃業した後はすぐにプロレスラーになろうと思われたんですか？

テンタ　確かにチャンスはすぐにあったよ。相撲部屋にいたときから、周りのプロレス好きの連中と一緒によくプロレス中継は見ていたこともあって、相撲を辞めた時点で「プロレスラーしかない」とは思っていたんだ。

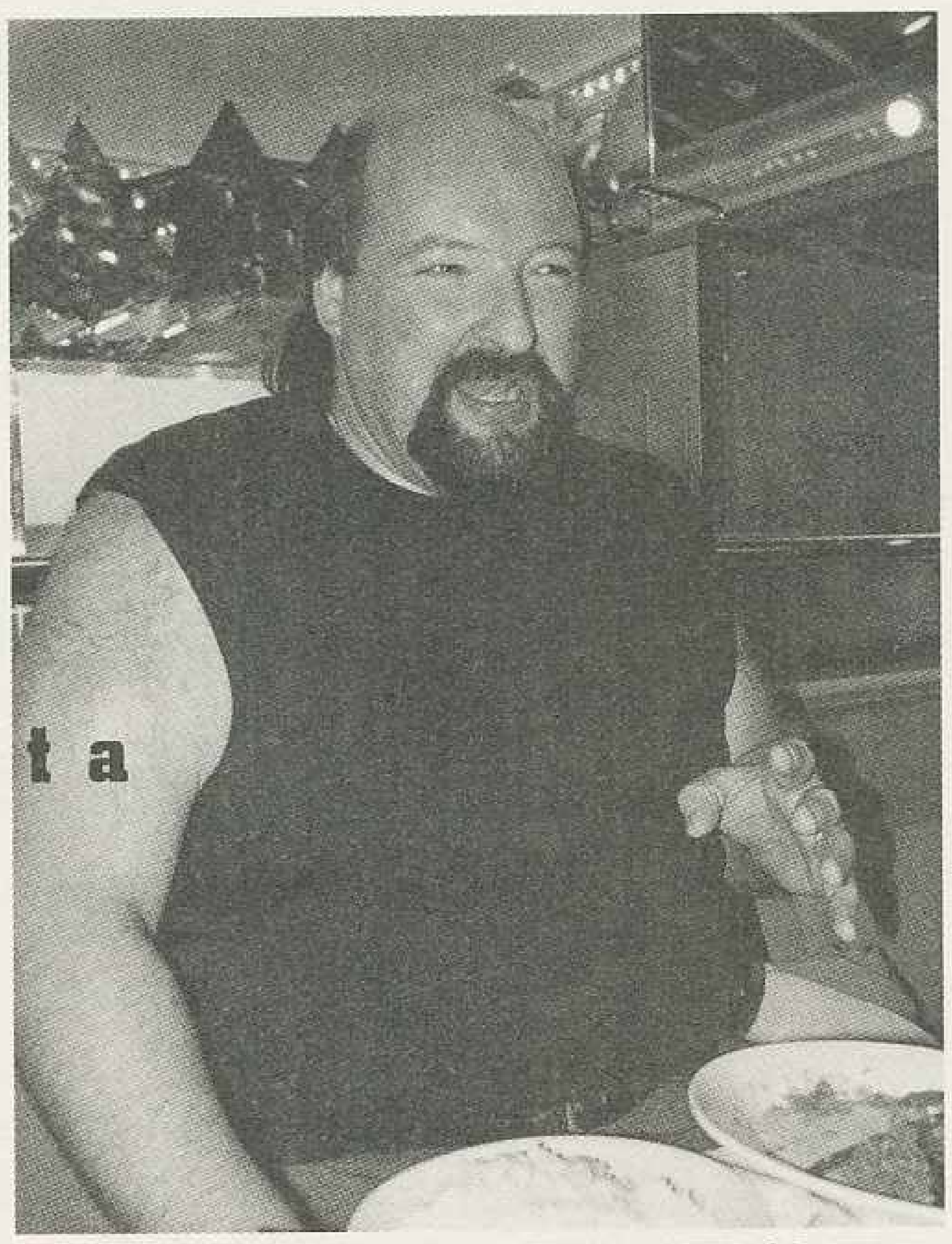
――当時は全日本と新日本の両方からオファーがあったんですよね？　新日本ではなく、全日本を選んだ理由は何だったんですか？

テンタ　う～ん、当時は相談できる人もいなかったし、なんとなくババさんのほうがニコニコしてたから全日本を選んだのかもしれないな。安心できたっていうか……。これは言うべきかどうか迷うけど、実は金額的にはニュージャパンのオファーのほうが大きかったんだよ。

――え!?　そうだったんですか？

テンタ　でも、相撲に入るときも親方の人柄で決めたように、やっぱりなんとなくババさんに惹かれたんだよね。

――当時のプロレス雑誌なんかでは、「新日の厳しい練習風景を見学して、楽なほうの全日を選んだ」なんて書かれてたんですけどね（笑）。



Big John Tenta

WWFに入ってすぐ"兄弟子"キング・ハクと仲良くなれたんで控室の王者だったよ（笑）

テンタ　あのなぁ、オレは相撲でもアマレスでも厳しい練習をやってきたんだ。そんなことあるわけないよ！　個人的にババサンの方がいいと思っただけなんだ。ババサンは自分の日本人親になってくれたしね。ただ、ババサンとずっと仲良かったわけじゃないよ。全日本に入ってしばらくして、自分はフィリピンの女の子と結婚したんだけど、そのときババさんに凄く反対されてね、カブキさんに「気にするな」って慰められたけど、悲しくてシャワー室で泣いちゃったよ……（しんみりと）。

――なぜ結婚に反対されたんですか？

テンタ　ババさんは日本人の女の子と結婚して欲しいと思っていたみたいなんだ。

――なるほど、馬場さんは、それほど〝日本陣営〟としてテンタさんを期待していたのかもしれませんね。

テンタ　でも、当時はそうは言ってくれなかったから、凄く悲しかったよ。それから15年、幸せに暮らしているのにね。

――3年間の全日本プロレス所属からWWFに行ったのも、そういうことが影響してるんですか？

テンタ　全日本が嫌になったわけじゃないし、直接そういうことはないけど、「結婚をしてカナダに家を持っちゃうと全日本のマネーでは苦しいよ」とは言っていたんだ。それでドリー（ファンクJr.）に相談したら、冷たい感じで「オマエはまだ若いんだから他のことをやれよ。レスリングはもう辞めたら？」って言われちゃってね。でも、テリー（ファンク）は全然違って「プロレスこそが最高の金になるんだ。オレがWWFに話をつけてやる」ってことで上手くいったんだ。その時、ババサンは契約が残っていたのに寛容に「行ってこい」と言ってくれて、それでWWF入りすることができたんだ。

――当時からすでにWWFは世界最高の団体でしたけど、テンタさんは最初から結構いいポジションで使われてましたよね？

テンタ　そうだね。WWFに入ってすぐ「カナディアン・アースクェイク」というリングネームをもらって、ディノ・ブラボーやアルティメット・ウォリアーの相手として、最初からハイランクで使ってくれたし、その後はハルク・ホーガンのライバルに抜擢されたからね。たかだかキャリア3年ぐらいのオレが重宝されたのは、間違いなく日本で修行させてもらったおかげだよ。

――全日本の教え方が良かったということですか？

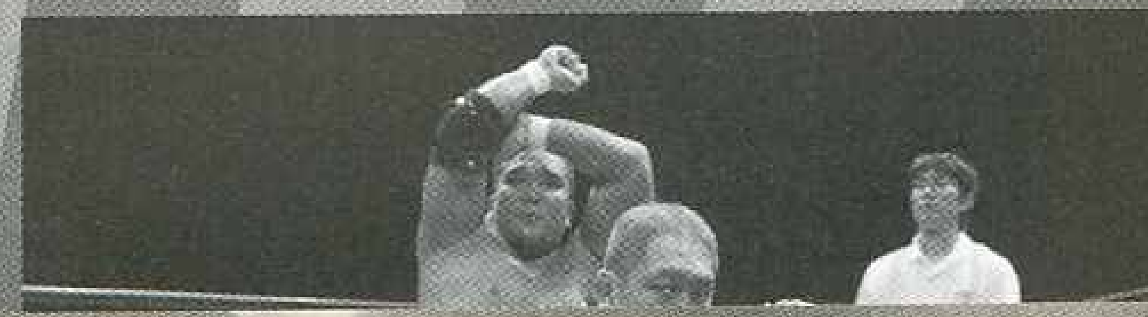
テンタ　うん。やっぱり日本人の先生は最高だよ！　確かに日本式の練習は、同じことを何回も何回もやらされて苦痛ではあるけど、「プロレスで最も大切なことは、いかに相手に怪我をさせないで闘うか」っていうことをキチンと教えてくれたんだ。おかげでオレはいままでのキャリアで相手のレスラーを傷つけた事は一度もないよ。だからホーガンも使ってくれたんだ。知ってるだろ？　ホーガンは自分を怪我させる相手とは絶対にやりたがらないからね。ホーガンが信用してくれて初めてオレもメインイベントに出られたんだ。

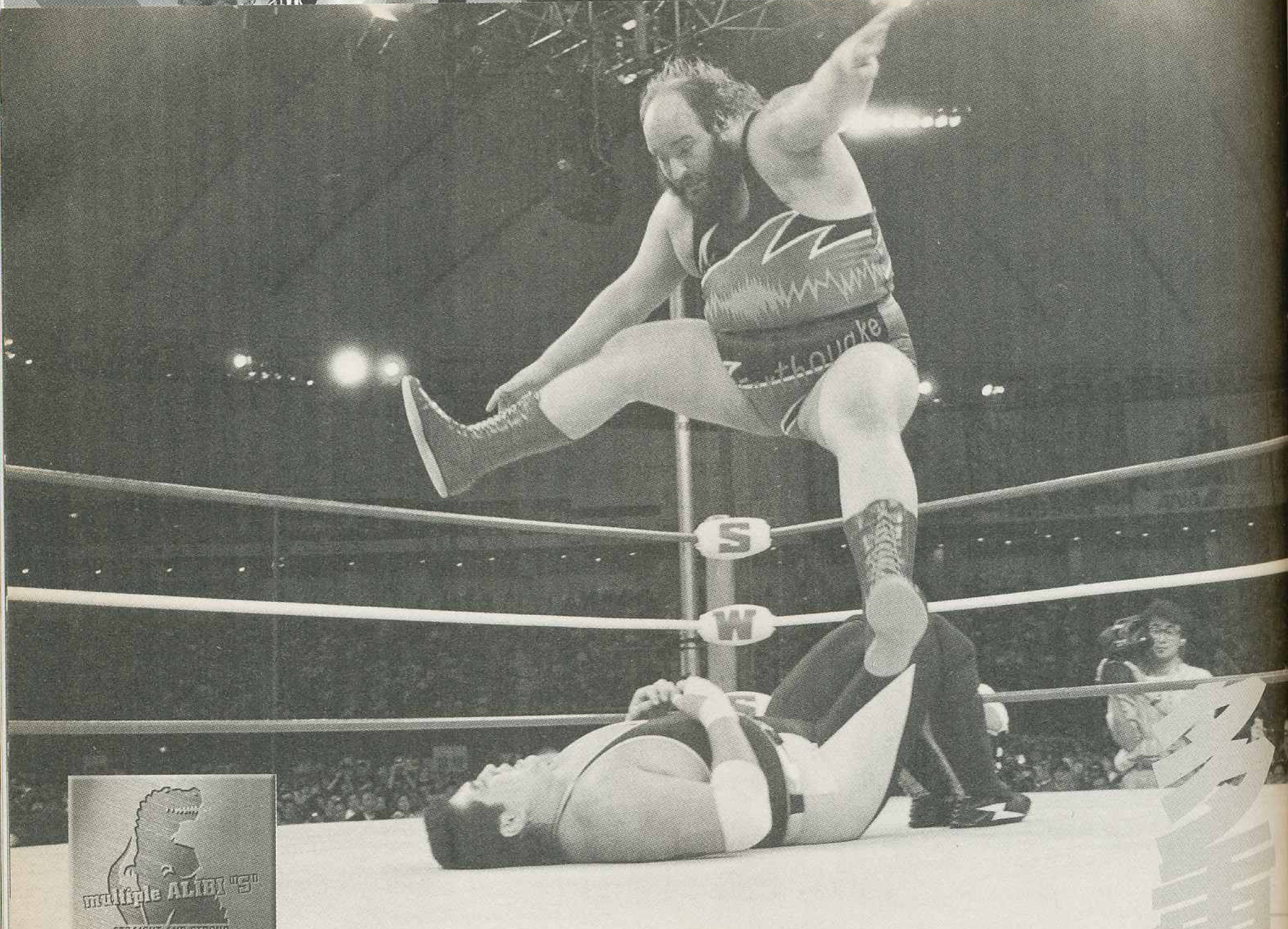
――そういったプロレスを教えてくれたのは、やっぱりカブキさんですか？

テンタ　いやいや、もちろんカブキさんはオレの先生だけど、ジャンボさん、ソノダさん（故ハル薗田）、その他道場のみんなだよ。フチさんなんか一旦ツアーから離れて付きっきりでコーチしてくれたこともあった。ホントに周りに恵まれたんだ。

――その後、全日本プロレスか







1991年３月30日東京ドーム。"セメントマッチ"の前日にもテンタvs北尾は実現。２連戦の第１ラウンドで北尾は技のミスを連発、最後はご覧の豪快なヒップドロップでテンタのフォール勝ちとなった。

らＷＷＦに行った時、日本とアメリカのプロレスの違いは感じましたか？

テンタ　もちろん最大の違いはアメリカに行ってお金持ちになったことだね（笑）。でも、その分アメリカでは大変だったんだよ。日本にいたときは全部周りがやってくれたけど、アメリカでは自分で交渉もしなければならないから非常に戸惑ったよ。

――他の選手や現場監督との関係はうまくいったんですか？

テンタ　その点は問題なかった。オレはブッカーの言われた通りにやっていたから彼らと揉めることもなかったし、他のレスラーからはオレが相撲とアマチュア・レスリングをやっていたことで、「アイツとはモメてはいけない」って評判がすでに成立していたからね（笑）。

――なるほど（笑）。やっぱりアメリカでもシュートが強いっていうことは一目置かれるんですか？

テンタ　そういう部分はやっぱりあるよ。しかもオレはＷＷＦに入ってすぐ、「アニデシ（兄弟子）、よろしくお願いします！」って挨拶して、キング・ハクと友達になったからね（笑）。ハクの伝説は知ってるだろ？　だから余計に「あの二人は近づき難い」っていう存在になっていたんだ（笑）。

――アハハハハ！　まさに「控室の最強コンビ」だったわけですね（笑）。やっぱりアメリカでもジェラシーとかで試合中に何かを仕掛けてやろうとかあったりするんですか？

テンタ　いやぁ、それはないね。そんなことがあったのはキタオの時だけだよ（苦笑）。

――やっぱりあのＳＷＳでの北尾戦だけですか（笑）。実はその時の話を当事者であるテンタさんに、じっくり聞くのが今日の大きなテーマだったんですよ！

テンタ　キタオねぇ。アイツはプロレスをリスペクトしてないし、プロレスの歴史もリスペクトしていない。ふざけた態度でやっていたんだな。闘ってみて、それがよくわかったよ。

――テンタさんと北尾は、ＳＷＳの91年３月30日東京ドーム、４月１日神戸ワールド記念ホールで２連戦を行ったわけですけど、その２日目がおかしな試合になってしまったんですよね？

テンタ　そう。あのとき初日の東京ドームでオレがキタオをピンしたんだけど、もちろん２日目もオレは勝つつもりだった。向こうは横綱だろうがなんだろうが、ここはプロレスのリング。オレが２連勝したってなんらおかしくないからね。オレはマッチメイクの意向どおり、キッチリと自分の役目をはたすつもりでいたんだ。ところがあの野郎、コウベの試合当日になって文句を言ってきたんだよ。

――どんなことを言ってきたんですか？

テンタ　「昨日の東京ドームのフィニッシュ、アースクェイク・ドロップ（ヒップドロップ）で胸の骨を怪我させられた」とか周りに言いふらしていやがって。オイオイふざけんなって。オレはいままで相手を怪我させたことは一度もなかったのに。オレがいつ怪我させたっていうんだよ！　ＷＷＦの選

手はみんなオレのフィニッシュを受けてくれてるぜ。文句を言うヤツなんて誰もいなかった。それなのにキタオは当日になってマッチメイクに渋ってるという。それでカブキさんがオレのところへ飛んできて、意向を伝えに来たよ。オレはさっきも言ったとおり、ブッカーの指示には背かないから、カブキさんからの要請を素直に受け入れたんだ。しょうがない、今日のところはキタオに花を持たせて、試合後にひと暴れしてやろうってね。ところが、試合にすらならなかった。ホントにどうしようもない野郎だよ。

——では、試合前から不穏な空気はあったんですね。

テンタ　まぁね。そんなことがあったから、控え室にいたときから、ランディ・サベージやホーガンから「おかしなことになりそうだから、何かあったらやってしまえ！」って言われていて、「よし、やってやる」って、そういう会話はしていたんだよ。

——え!?　テンタさんの控え室でもそんな話がされていたんですか！　一説によると北尾さんの方も「横綱なんだからやってしまえ」って、周りのレスラーから言われていたらしいんですよ。

テンタ　フフフ、そうなんだ（笑）。でも、オレはちゃんと試合をするつもりだったから、コウベでの試合はまず普通にチョップを入れることから始めたんだ。ところがキタオはセルもしない。それでもオレは普通にプロレスをしていたんだが、あいつに腕を取らせたら、いきなりフジワラ・アームバー（脇固め）を極めてきたんだ。オレは「ヤバイ」と思ってかわしたが、そこからおかしくなった。

——そこで「北尾がやる気だ」って気づいたんですね？

テンタ　そうだね。キタオはその後、全力でキックを入れてきたり、サミングのポーズで威嚇してきたりした。そこでオレは基本的に試合をするのをやめたんだ。あとはヤツが仕掛けてくることを対処するだけだったな。

——でも、北尾選手がプロレスの範囲を超えた蹴りをしようが、関節を極めてこようが、テンタ選手はノー・ダメージですべて対処してましたよね（笑）。それだけでも凄いことですよ。「テンタ強い！」って、いまビデオで見ても思いますからね。

テンタ　オレはただ単に、自分の身を守っただけだよ。シュートを仕掛け返すこともできたけど、そんなものに付き合っても仕方ないからね。自分の強さを証明するために失明覚悟でセメントをやる気は、オレにはなかったよ。

——最終的にあの試合は北尾選手がリングを下りて試合放棄みたいな形になりましたが、テンタさんはどういう形で終わらせようと思ってましたか？

テンタ　オレだってこのままフォーエバーに続くんじゃないかと、一瞬怖かった部分もあったけど……。結局、彼が勝手に逃げて終ってくれたんでオレもよくわからなかったんだ。

——北尾選手が最後、リングを下りてマイクで「八百長野郎！」って叫びましたけど、言葉の意味はわかりましたか？

テンタ　その時はわからなかったけど、あとから聞いて知ったよ。でも、もし彼が「フェイクだ」とか、何だかんだ言うんだったら、「お前はリアルなのか？」と言いたいよ。だったらオレをブチ負かしてから言えばよかったんだ。でもブチ負かせずに自分で勝手に帰って行ったじゃないか。つまりオレが勝ったんじゃないかな。別にだからどうってわけじゃないよ。オレはこんな不細工な試合を自慢する気なんてないからね。

——でも、観客は明らかにテンタさん支持でしたよね？

テンタ　そうだね。彼がビックキックしてきた時も手で払って「こんなもんたいしたことねぇよ」ってポーズやったらお客さんも笑ってくれたし、こうやって（目潰しポーズ）きた時もオレが逆にやり返したから、お客さんはオレのほうが強いって感じてくれたようだった。そもそもオレは、こんな試合になってしまった発端は前日のファンの反応にあったと思ってるんだ。

——どういうことですか？

テンタ　初日の東京ドームの時点で、すでにお客さんはオレに歓声を上げてキタオにはブーイングをしていたんだ。そのへんからそもそも彼のあれは始まったんじゃないのかな。キタオは自分のことをスーパースターだと勘違いしてるんだよ。

——スーパースターなのに、試合には負けるはブーイング受けるはでキレてしまった、と（笑）。

テンタ　「オレは横綱なのにアイツは幕下で」っていうのもあったんじゃないの？　ヘンな野郎だよ（笑）。別に彼を「バカ」と呼ぶつもりはないが、プロレスリングというビジネスをわからなかったっていうことは確かだね。

——日本でも北尾選手は性格に問題があるって言われてたんですが、テンタさんもそれは感じますか？

テンタ　ああ、全くその通りだと思うよ。あの試合だって、彼のエゴでああなってしまったんだからね。あれは試合自体はしょうもない試合だったし、オレが彼をブチのめしたわけじゃないし、彼がオレをぶっ殺したわけでもない。いま考えれば何でもない試合なんだけど、ひとつだけ役にたったことがあるんだ。

——どんなことですか？

テンタ　アメリカに帰ったら、話に尾ひれがついて、なにかもの凄いシュートをやったって大袈裟な噂になっていたんだ。横綱が仕掛けたシュートを返り討ちにしたっていう風にね。それでますます他のレスラーから一目置かれるようになった（笑）。

——シュート伝説が一人歩きし始めたんですね（笑）。その後は一切、テンタ選手にそういうことは起こってませんか？

テンタ　あれが最初で最後だよ。別にＳＷＳに次に戻ってきた時はもう全然問題なかったし、ＷＡＲでキタオと再戦を組まれたときも、ちゃんと普通に試合をしたからね。

——その後、北尾選手はシュートの大会であるＵＦＣにも出ましたがご存知ですか？

テンタ　知ってるよ。鼻を折ら







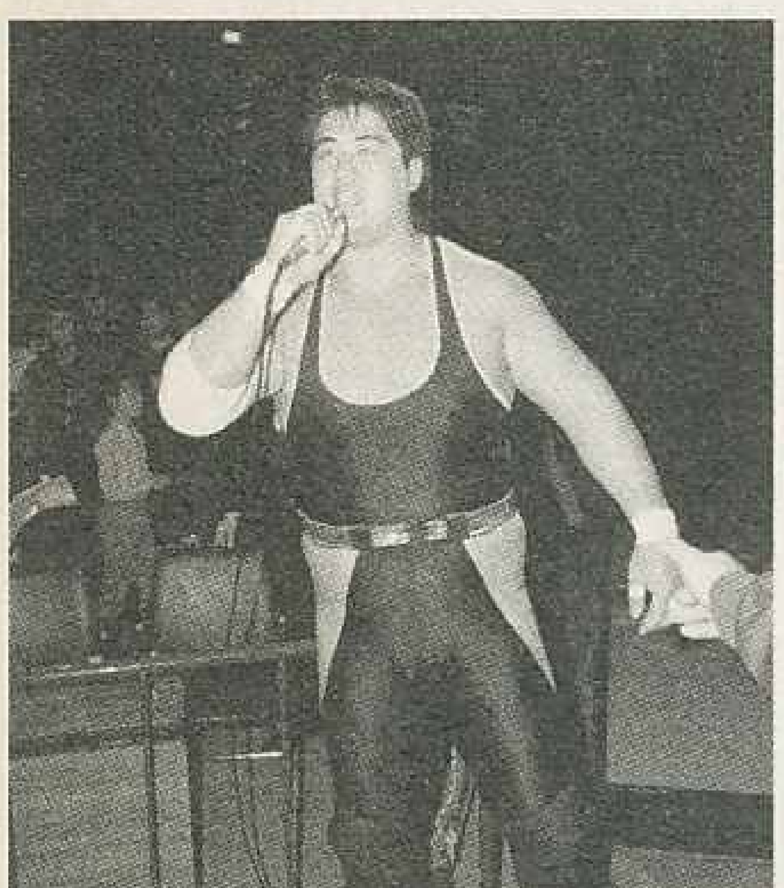
北尾のセメント暴走（しかも返り討ち）＆禁句である「八百長野郎」発言にSWSは大混乱。にも関わらずSWS田中社長が北尾に対し、「謹慎1ヶ月」というペナルティにもなっていないスーパー甘々処分に、所属レスラーから抗議の声が一斉に噴出。あまりの騒動に田中社長もようやく事の重大さを認識し、北尾を解雇処分にした。また、天龍は責任をとって役員辞任を表明。さらにマッチメイカーのグレート・カブキも責任をとって、カブキ変身以来伸ばしていた長髪をバッサリとサラリーマンカットまで切った。当時SWSをプッシュしていた『週刊ゴング』はこの事件を大きく報道。取材拒否を受けていたターザン『週プロ』は大喜びでこの模様を書き殴っていた。







神戸の試合当日になって
キタオがマッチメイカーに
文句をつけてきたんだ



1991年4月1日神戸。問題のセメントマッチ。北尾はスポット破りの脇固めやヒザを狙った蹴り、喉輪などで“仕掛ける”が、テンタがことごとく対処。次の瞬間いきなりサミングポーズで威嚇した。しかし、それでもひるまないためレフェリーに暴行、そして反則負けが下されると場外へ出て「八百長野郎!」と叫んだ。

Big Joh

れたんだろ? まぁ、甘くはないよね。

――テンタ選手はああいうバーリ・トゥードみたいなものはいかがですか?

テンタ UFCが始まったばかりの頃に少しだけ考えてみたことはあるよ。でも、その時のオレはちゃんと契約があったわけだから、そんな事までしてシュートの強さを証明する必要はないっていう考えだったよ。

――いま『PRIDE』のようなリアルファイトが日本では凄い人気がありますが、見ていて面白い競技だとは思いますか?

テンタ そんなには詳しくないけど、別にそれぞれ違うものだからいいんじゃないの。一つはエンターテインメントでもう一つはファイティングだろ。好きなほうを選んで観に行けばいいんであって、だからどうとは思わないよ。そもそもオレは観てないけど、それが人気があるんだとしたら世の中が荒廃していて、血に餓えた大衆がバイオレンスを求めているだけだろう。良いことではないね。ただバイオレンスと言ったらマクマホンだってセックスとバイオレンスを売ってるしね。しかも女(マネージャー)が男にパワーボムをされたりで、あれはひどいと思うよ。人それぞれいろんな意見があると思うけど、オレはああいうのはおかしいと思うんだ。

――テンタさんはその後、WWFからWCWに移りましたけど、それはどういった理由で移ったんですか?

テンタ WWFでの最後の方はバリー・フォロイッツっていうジョバーのヤツと第1試合をやらされたり、ヨコヅナの負け役とか、そんなマッチメイクばかりで、いまいちでお金も稼げてなかったんだよ。それで(移籍したばかりの)ホーガンに相談したら「WCWに来い」と言われたんだ。

――あ、そこでもホーガンの誘いがあったんですね。

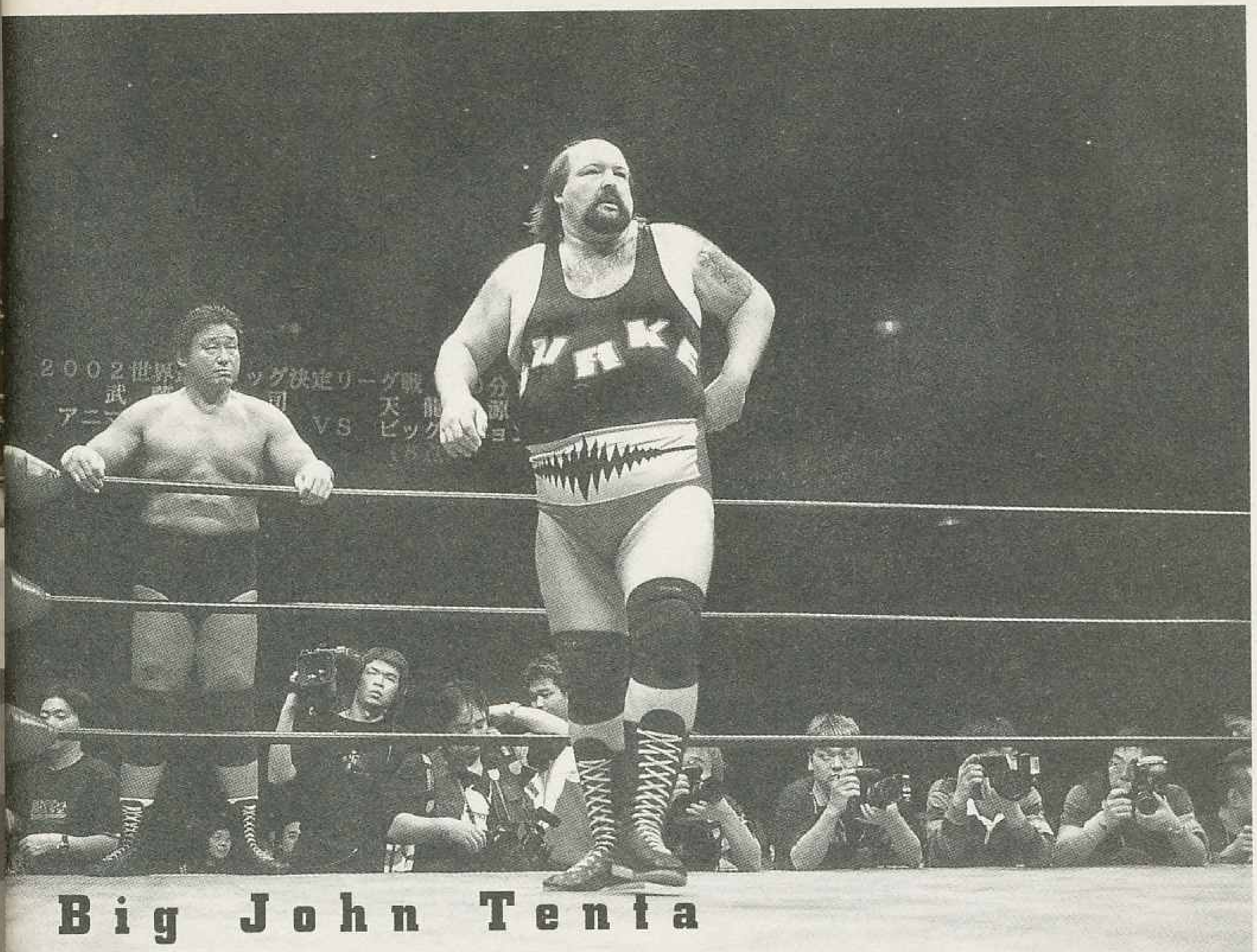
テンタ それでエリック・ビショフ(当時のWCW副社長)に会って、WCWに入るならカナダのバンクーバーから引っ越して来いと言われたんだ。でも(WCW本社のある)アトランタは嫌なんで、フロリダのオーランドに行ったんだ。契約自体は2年ごとだけど少なくとも5年はやってくれという話だったから、デカい家も買った。人生の決断を迫られる大きな引越しだよ。ところが2年間の契約が終わる6ヶ月前にビショフはオレをクビにしようとしたんだ。結局2年間は続けられたけど、それっきり。2年で切られるとわかっていたら、バンクーバーからオーランドに引っ越すわけないだろ!だから、オレはいつもビンスに「ビショフvsオレのケージマッチをやってくれ!」と言ってるん

だよ。それだったら「ノーギャラでもやってやる」ってね。それぐらいビショフのクソ野郎と思ってるんだ。

——そこまで恨んでますか（笑）。

テンタ　そもそもアイツは最初の契約のときから、「（年間）10万ドル」とか言いやがって、普通にサーキットしてるだけで6万ドルは経費だぜ。トラベルとかホテルに金がかかって、残りを税金に取られたらタダ同然じゃないか。それで「ふざけんな、10万ドルなんか安すぎる」と言ってやったら、25万ドルで一応ディールしたんだ。だって（ハルク・）ホーガンみたいに100万ドル、200万ドル貰ってるヤツは「100試合以下にしてくれ」とかムチャクチャ細かいことまで言ってるのに、オレは試合の数なんて制限せずにアンリミテットでやってる。なのに、それで25万ドルしか貰えないのはまだまだ少ないくらいだよ。

ひとつだけ心残りなのは佐渡ヶ嶽親方のこと。会ってあの時のことを謝りたいんだ


Big John Tenta

——そんなに扱いに差があったんですか。

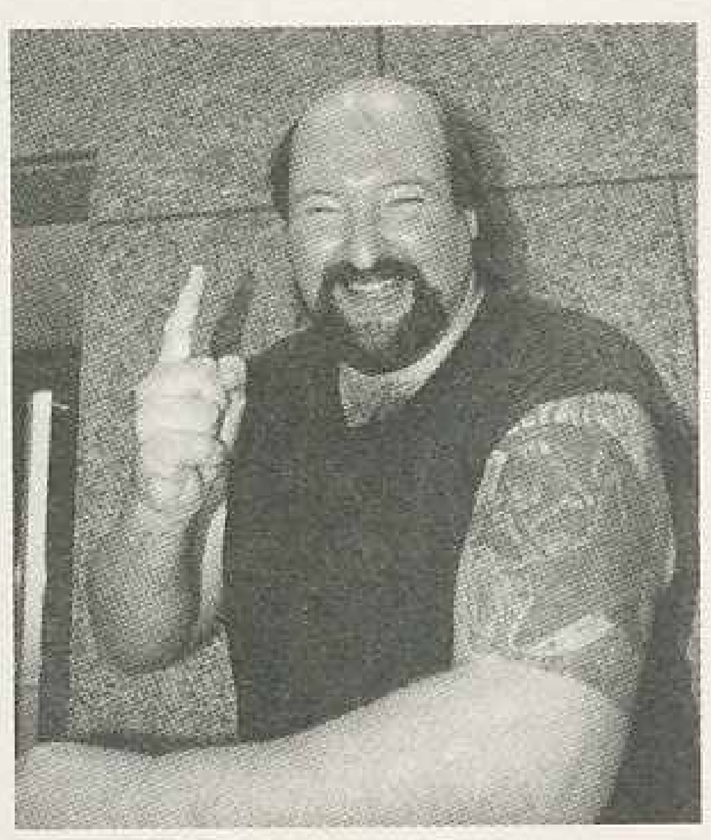
テンタ　オレはWCWの崩壊の原因の一つはトップ選手のわがままだと思うよ。50～100試合しかやらないという契約をケビン・ナッシュ、スコット・ホール、ハルク・ホーガンと結んじゃって、『ナイトロ』のTVに出ているスターは地方にやってこない。ハウスショーに普通に行ったらバグ・バグウェルとかあんなのしかいなかったら客も怒るさ（笑）。

——そりゃそうですね（笑）。そういう問題は日本よりアメリカのほうが多いのですか。

テンタ　う～ん、日本がいいとか悪いとかは何とも言えないよ。ゴールドバーグが一回ずつ出るだけで、もの凄い金を貰ってるという話も聞いたからね（笑）。

——あ、なるほど（笑）。

テンタ　一部のトップ選手だけが特別待遇っていう業界の構造は変わってないからなぁ。


ジョン・テンタ■JOHN TENTA

1963年６月22日、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー出身。ルイジアナ州立大学時代アマレスで鳴らし、85年大相撲入り。琴天山の四股名で序の口、序二段、三段目と無敗の快進撃、史上３人目の３場所連続優勝という大記録を樹立。前相撲をを含め幕下43枚目まで昇進するが、場所前に突如失踪。そのまま廃業してしまう。その後、全日本プロレス入団。89年にはWWF入り、カナディアン・アースクェイク、ジ・アバランチャ、シャークと改名。WWF時代、SWS参戦時に展開した北尾とのセメントマッチはあまりにも有名。196cm、170kg。

——さて、それでは久々に帰ってきた全日本プロレスっていうのはテンタ選手から見ていかがでしたか？

テンタ　う～ん、いまはホントにスターと呼べるのがテンリュウさんとムトウさんしかいないんでね。そういう点では全然違うよ。昔の方がやっぱりスターがたくさんいたからね。でも、日本の選手はアメリカの選手と違ってみんな基礎が出来ているから、そういう点では全員にチャンスがあると思うよ。そこから先を決めるのはファンだ。コジマなんかはカリスマがあっていいと思うよ。

——テンタ選手は今後も全日本プロレスで頑張っていきたいっていう気持ちはあるんですか？

テンタ　そりゃもちろんだよ。ただねぇ、「1年間に3回だけ来てくれ」って言われてもそれは中途半端で困るんだ。トラックのビジネスもやってるんで、「5回ぐらい来てくれ」と言われたらそっちは辞めてプロレスをフルタイムでやりたいんだけどね。だから明日が自分の現役最後の日になるかもしれないのはわかってるよ。でも、ブドーカンが最後だったらいいじゃないか。それもまた人生さ。いま左肩を負傷していて100％のファイトが見せられないのがちょっと悲しいけど、目いっぱい頑張るよ。

——そう言われると、ちょっと切ないですね。

テンタ　そんなことないよ。最後にテンリュウさんと組めるというのも嬉しいことだしね。オレのファーストマッチはババさんと組んでキムラさん、ツルミさんとの試合だったけど、その試合前にリングシューズとコスチュームをプレゼントしてくれたのはテンリュウさんなんだ。その関係がいままでもずっと続いているんだ。

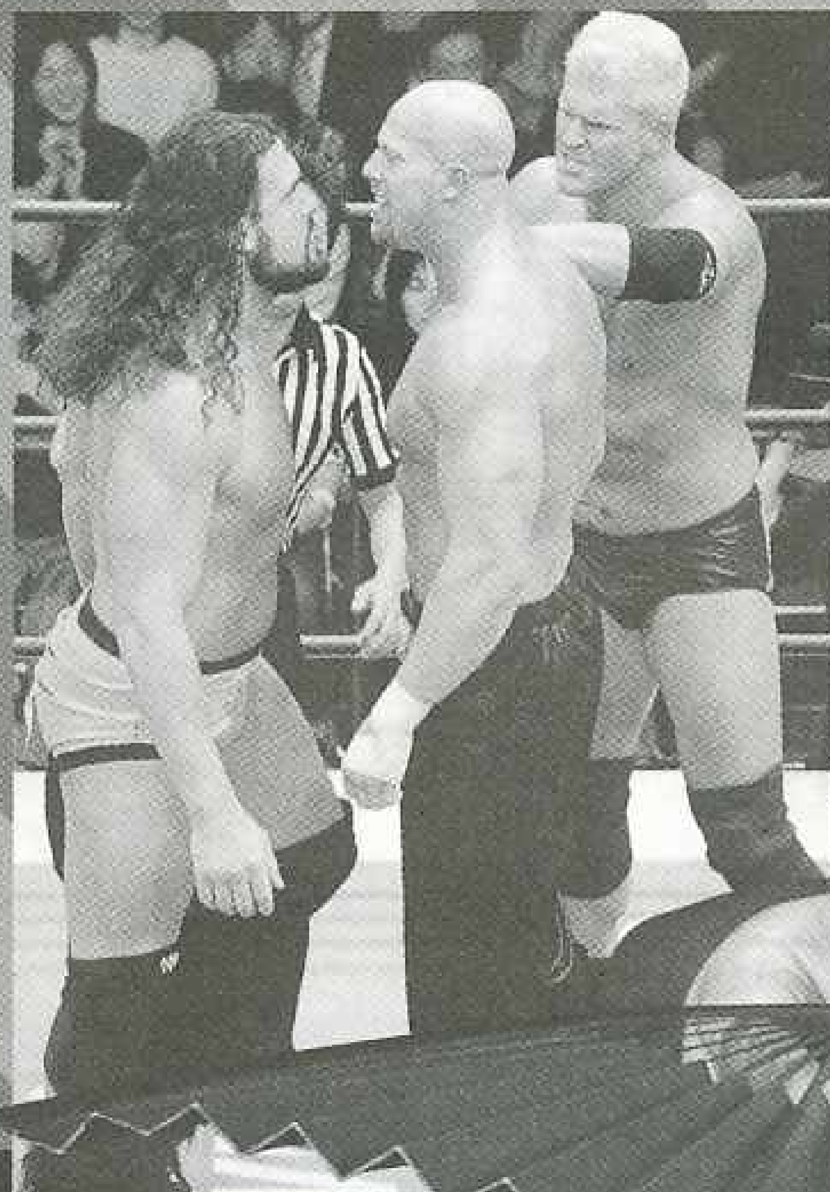
——へ～、天龍＆テンタ組にはそんな秘話もあったんですか。

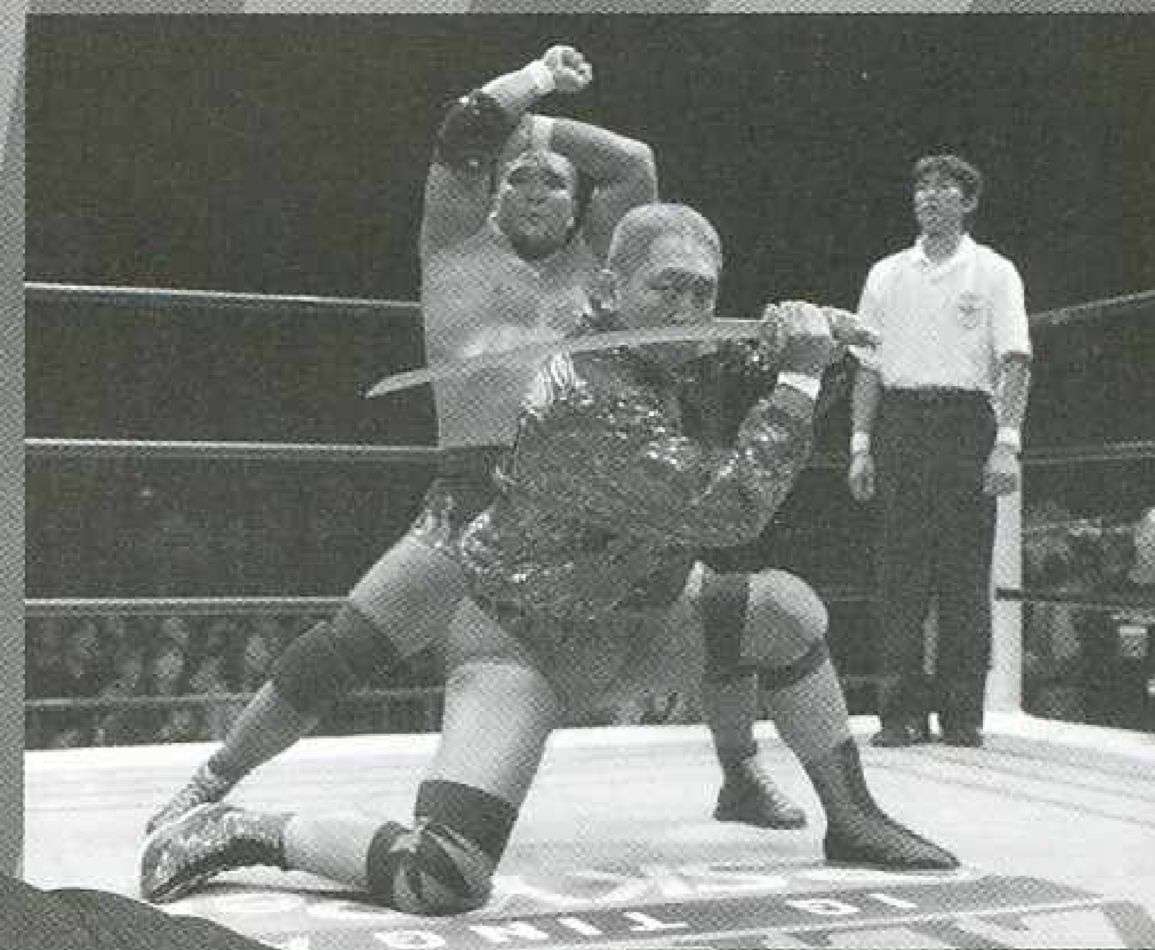
テンタ　だから悔いはないよ。ただ、ひとつだけ心残りなのはサドガタケ・オヤカタのことかな。相撲を辞めて以来一切会ってないんで、時間もたってるし、会ってあの時のことを謝りたいんだ。

——それは実現してあげたいですねぇ。今日はどうもありがとうございました。ゼヒまた日本に帰ってきてください！

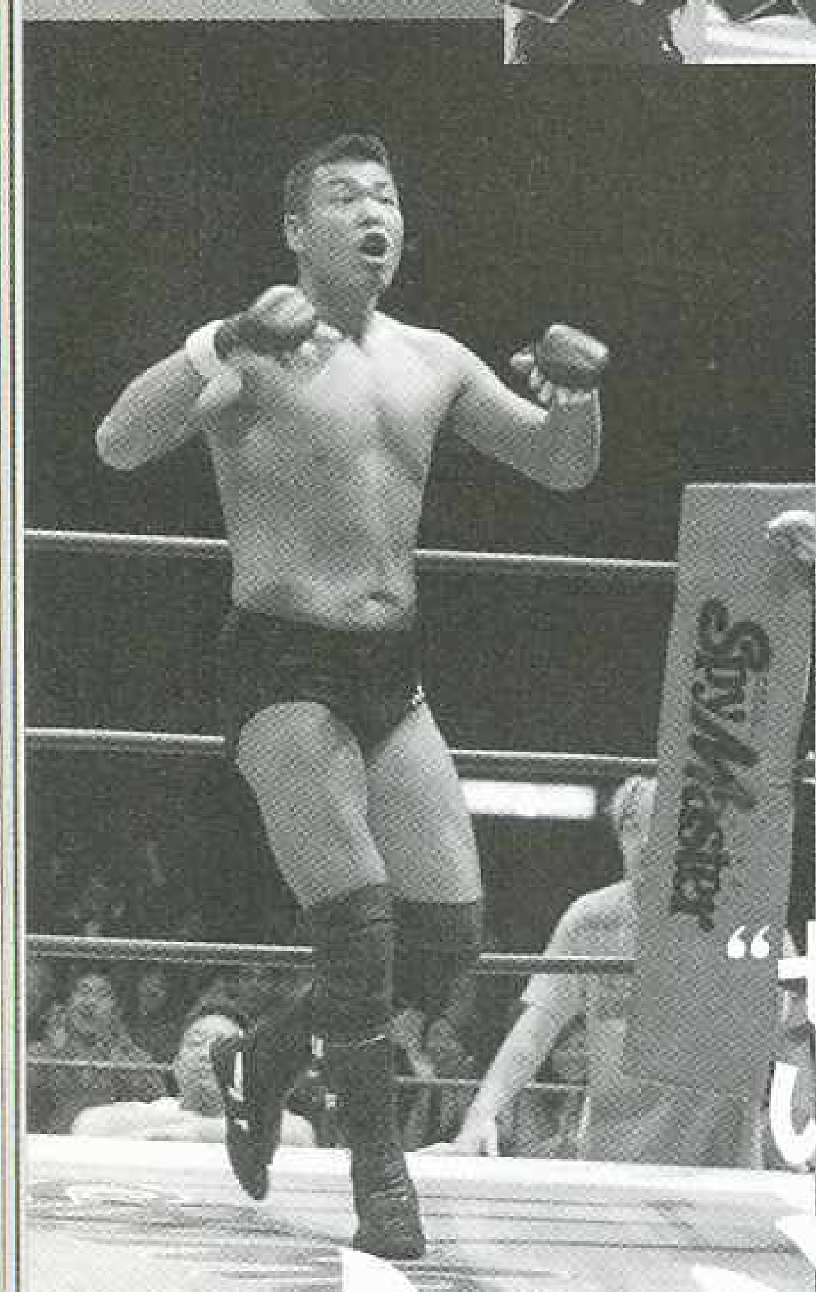
テンタ　ありがとう。さて、じゃあ今晩はカブキさんの店にでも行って、昔話をしてくるよ（ニッコリ）。

［02年12月5日／都内・某ホテルにて収録］









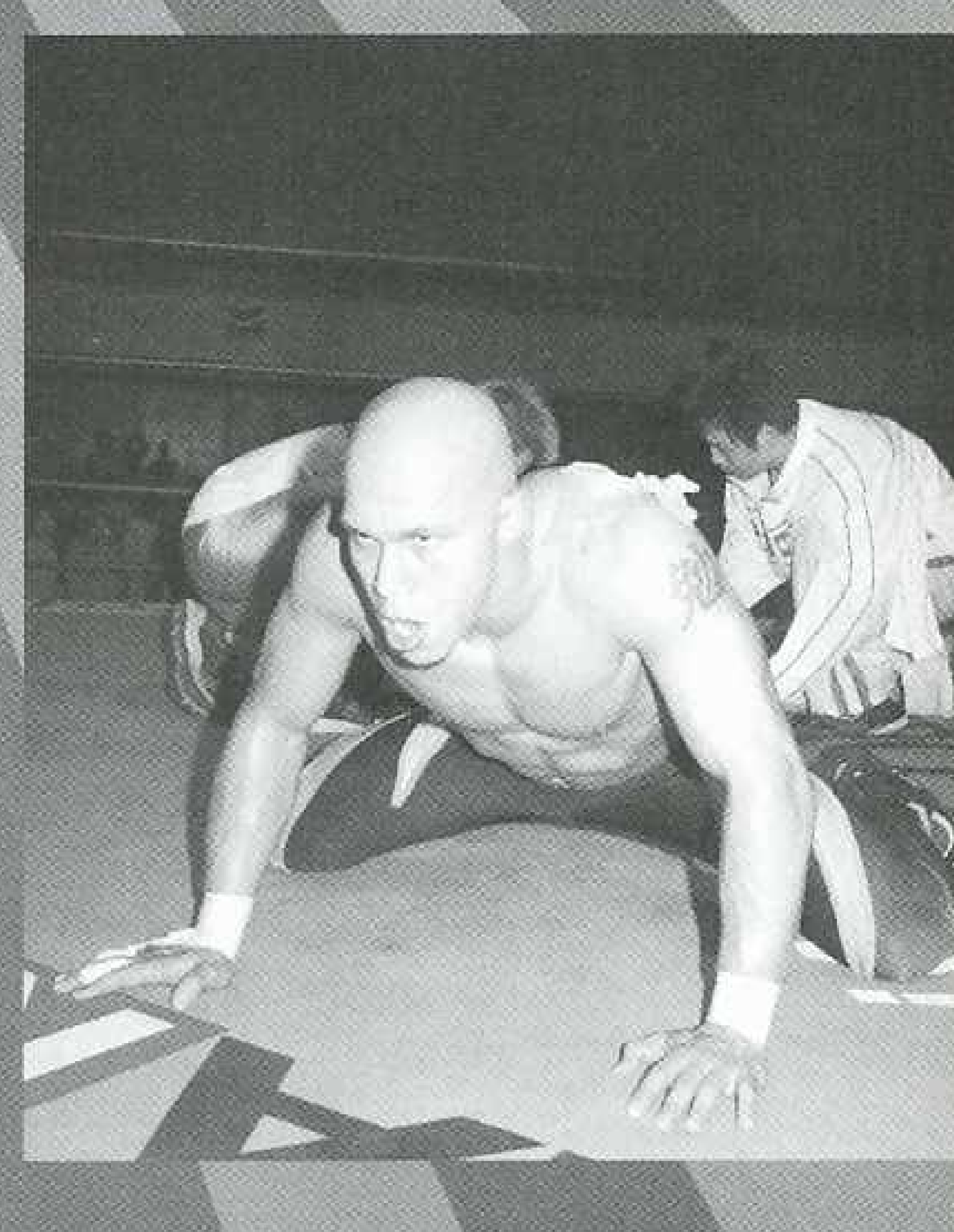
"ゼロ族"も、そうでない人も、これを読めば
いまのZERO-ONEの魅力が丸わかり!!

ゼロ族集会

ZERO-ONE
11月シリーズ&
12・8金沢大会
リポート付き

『紙プロ』で絶賛プッシュ中のプロレス団体と言えばZERO-ONEだ。しかしながら、ZERO-ONEをいまだに見たことがないという『紙プロ』読者も多いだろう。今回は、破壊王が言うところの「ゼロ族」(団体的にはゼロワン中毒、略して「ゼロ中」)を集め、まだ、その魅力に気づいていない人のためにZERO-ONEの見所を、たっぷりと語ってもらいました。みんな、行くぞーッ! オー・エイチ・ホーーッ!!(かなり強引)

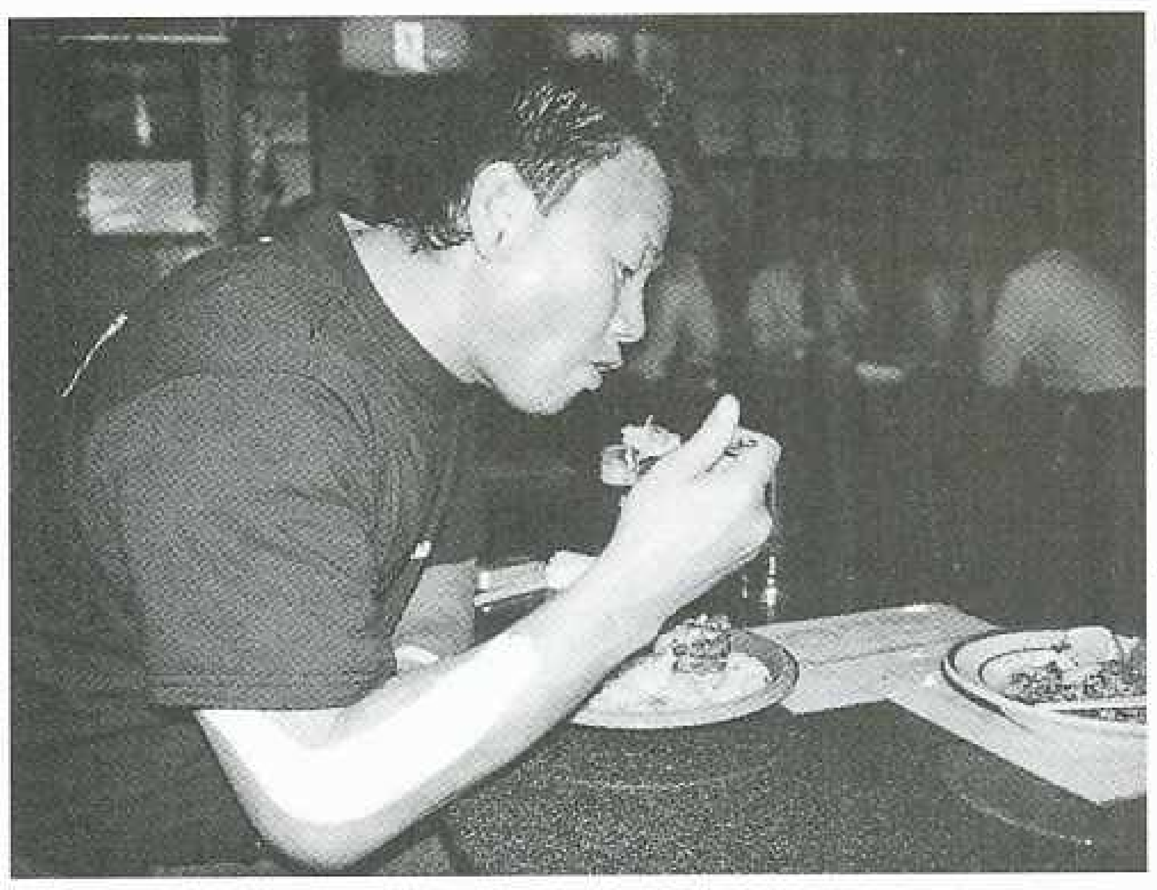




構成/松澤チョロ designed by matsu (Two three)

今回のゼロ族集会の集合場所『梵婆家』へ行くと、偶然にもゼロワンで活躍中の小笠原先生がグラスを傾けていた。チェストーッ！

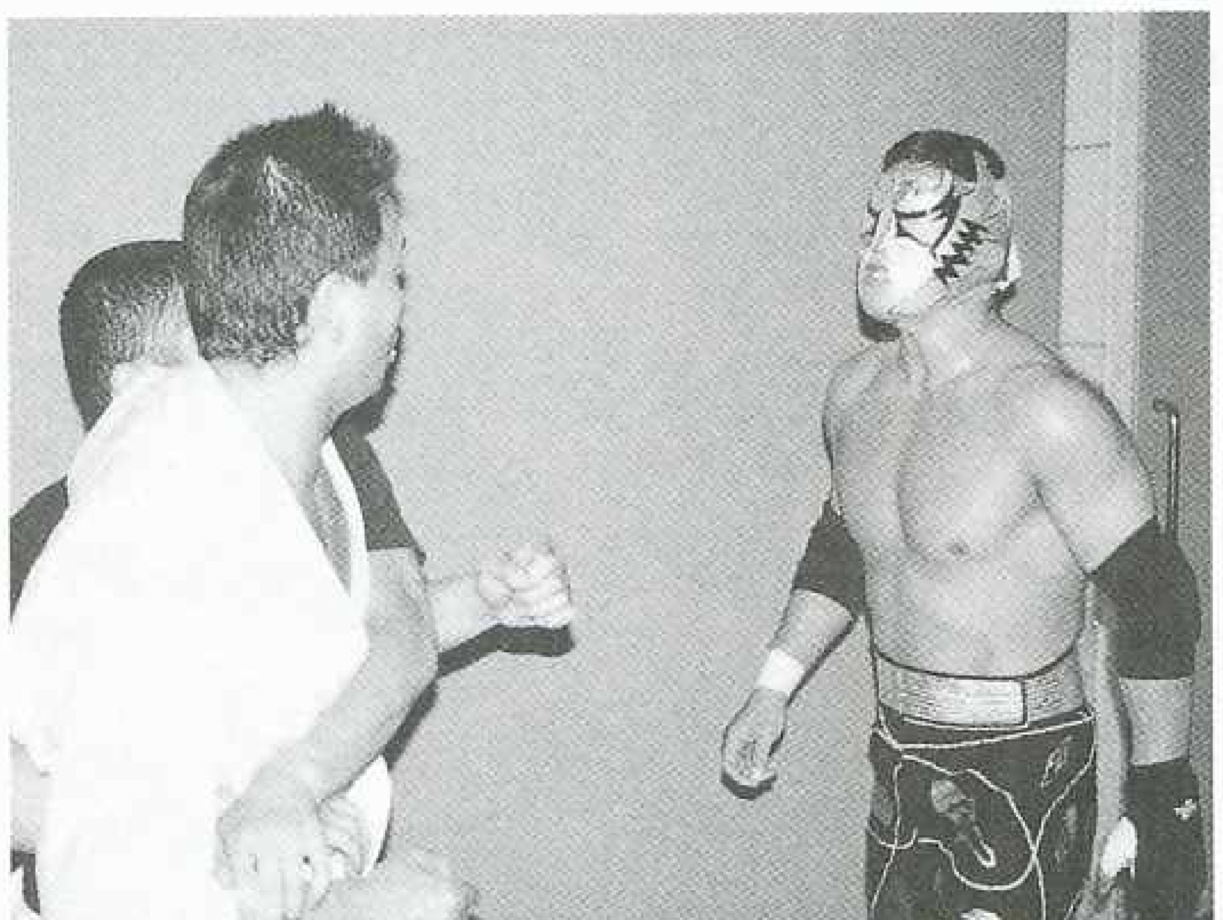
——あれ、小笠原先生じゃないですか！ ちょうど、これからゼロワンの魅力をみんなで語ろうと思ってたところなんですよ。
小笠原 あ、そうなんですか（笑）。ボクも語っていいですかね？
——いや、全然かまわないですけど（笑）。ここ（梵婆家）にはよく来られるんですか？
小笠原 ここの近所に自宅があるものですから、しょっちゅう飲みに来てますよ。ここで対戦相手のビデオを見て研究してます。
——あ、そうでしたか（笑）。早速であれなんですけど、ゼロワンの魅力ってどんなところですか？


この取材後に控えたカシン戦の研究のため、熱心にビデオを見ていた小笠原先生。今回の対談場所となったプロレスファンにもお馴染み『梵婆家』は、先生の自宅近くということもあり頻繁に訪れているという。この日も名物・破壊王チャーハンをペロリ！

小笠原 ハードな当たりがいいですね。崖っぷちまでやるのが当たり前っていうね。破壊王の当たりなんてメガトン級ですから。
——その破壊王は「（小笠原）先生は脳が宇宙で出来てるから、先生の言うことは気にしない方がいい」って言ってましたけど（笑）。
小笠原 ハハハハ！ たしかにそうですね。僕は大山倍達総裁に脳を宇宙まで飛ばされてしまいましたから。スペース・イズ・マインですから（笑）。
——おおっ、さすが！ 唐突に英語が出ましたね（笑）。
小笠原 ええ、宇宙ですから（キッパリ）。僕も極端に大柄なわけじゃないですからね、破壊王みたいなスーパーヘビーの人間と闘うときは脳を宇宙に置いておかないと。普通の感覚では闘えないです（笑）。総裁の発想もどちらかと言えば宇宙的でしたけど、破壊王も似てますからね。まさか一生のうちに2度も同じような人間に合うとは思わなかったですねぇ。
——そうでしたか（笑）。では、また話の流れで先生に登場して頂くかもしれないので、その時は、よろしくお願いします！
小笠原 押忍！
——というわけで、改めて座談会を始めたいと思います！ ゼロワンファンのことを「ゼロ中」（ゼロワン中毒の略）、もしくは「ゼロ族」（破壊王命名）と呼ぶみたいなんですが、今日ここにお集まりの皆さんもゼロ族ということでよろしいでしょうか？（笑）。

ボクは大山総裁に脳を宇宙まで飛ばされてしまいましたから

笠井 ……たしかにゼロワンのファンではあるけど、「ゼロ族」とか「ゼロ中」って呼ばれることには抵抗あるなぁ（笑）。
GAMMY でもさ、ここにいる人たち、みんな以前は大日本の会場に必ずいたじゃん！（笑）。
イナズマ そうそう（笑）。
GAMMY みんな大日仲間だったのに、いつの間にかゼロワン仲間になってんだもん。こないだ登坂さん（大日本プロレス統括部長）に会ったら「最近、来てくれませんね」って言われちゃって「いやぁ、忙しくて」って答えたんだけど、そこはゼロワンの会場だったんだよ（笑）。


11・24小倉大会で突如因縁が勃発した小笠原先生とカシン。たまたまバックステージで顔を合わせたケンドー・カシンは「タクシー呼んでこい！」と小笠原に絡みまくり、その後、一騎打ちにまで発展することに


カシンの「タクシー呼んでこい！」事件から数日後、「先生がバカにされたのが許せない」と激怒した小笠原の弟子が木刀を片手にゼロワン事務所に殴り込み。いまやゼロワンでの小笠原劇場は見逃せない名物に

イナズマ 大日本にも頑張って欲しいんだけどねぇ。
——ちょっと前の大日本といまのゼロワンに共通する魅力といえば、やっぱり外人選手の活躍だと思うんですけど、ズバリ言って、ここ最近のゼロワンで一番評価の高い選手は誰ですか？
笠井 ロウ・キーかなぁ。
イナズマ そうだね。
サント ロウ・キーでしょう！
——全員、ロウ・キーですか（笑）。
GAMMY そうだね。でもロウ・キーも素晴らしいんだけど、俺はフランキーを推すね！ この間の後楽園（11・26）でのあの雪崩式エクスプロイダー？ あれは凄かったよ。なんであれがフィニッシュにならなかったのか、かなり疑問だったけどね。
イナズマ 大日本がCZWを発掘して、「アメリカのインディーにはこんなにプロレスが出来る選手がいるんだ!?」ってことがわかったんだけど、それをゼロワンは、さらに推し進めてるからね。
GAMMY ハッキリ言って、そういう外人の発掘がいまのメジャー団体って下手じゃん。
イナズマ それは言えるよね。でも、ロウ・キーのホームページなんかを読んでると「MY GOAL：日本で試合をすること」とかって書いてあるんだよね。そういう選手が日本で大人気を獲得するって、夢のある話だよね。
笠井 ロウ・キーの動きって、ここ何年かで見たレスラーの中でホントにズバ抜けてると思うよ。
サント たしかに、あんな選手は記憶にないよね（笑）。
イナズマ 来日前から海外のファン・サイトでは話題になってたんだよね。俺も来日してすぐの頃はゼロワンを追っかけてなかったから気付かなかったけど、ディファ有明でスパンキーとベルトを賭けて試合をやった時に「スゲーッ！」って衝撃を受けた。
笠井 あれは凄かったもんね。「どっかに引き抜かれる前に見ておこう！」って翌日の福島大会まで見に行っちゃった（笑）。
サント 俺は10月の大阪大会に行ったんですけど、そこでもロウ・キーはズバ抜けてましたよ。

ゼロ族集会



イナズマ　ちょうどWWEで小柄なレイ・ミステリオがブレイクしたりして、リンクしてる感じもあるでしょ。

――初来日した頃にゼロワンの道場でネイサン・ジョーンズと練習してたのを見かけたんですけど、その時は打撃の練習だけで、顔もシウバ似だし格闘技系の選手かなと思ってたら、打・投・極、どれを取っても完璧なんですよね。

イナズマ　そうそう。合気道もやってたみたいだし。でも、ああいうアメリカのインディーの選手って、日本のプロレスのビデオを見て「すげぇ、すげぇ！」って衝撃受けて、「自分もやろう！」ってプロレスを始める人が多いっていうよね。別に日本の選手が怠けてたとは思わないけど、逆に抜かされちゃったもんね。今度は逆に日本のプロレスラーが彼らに触発される番だと思うよ。

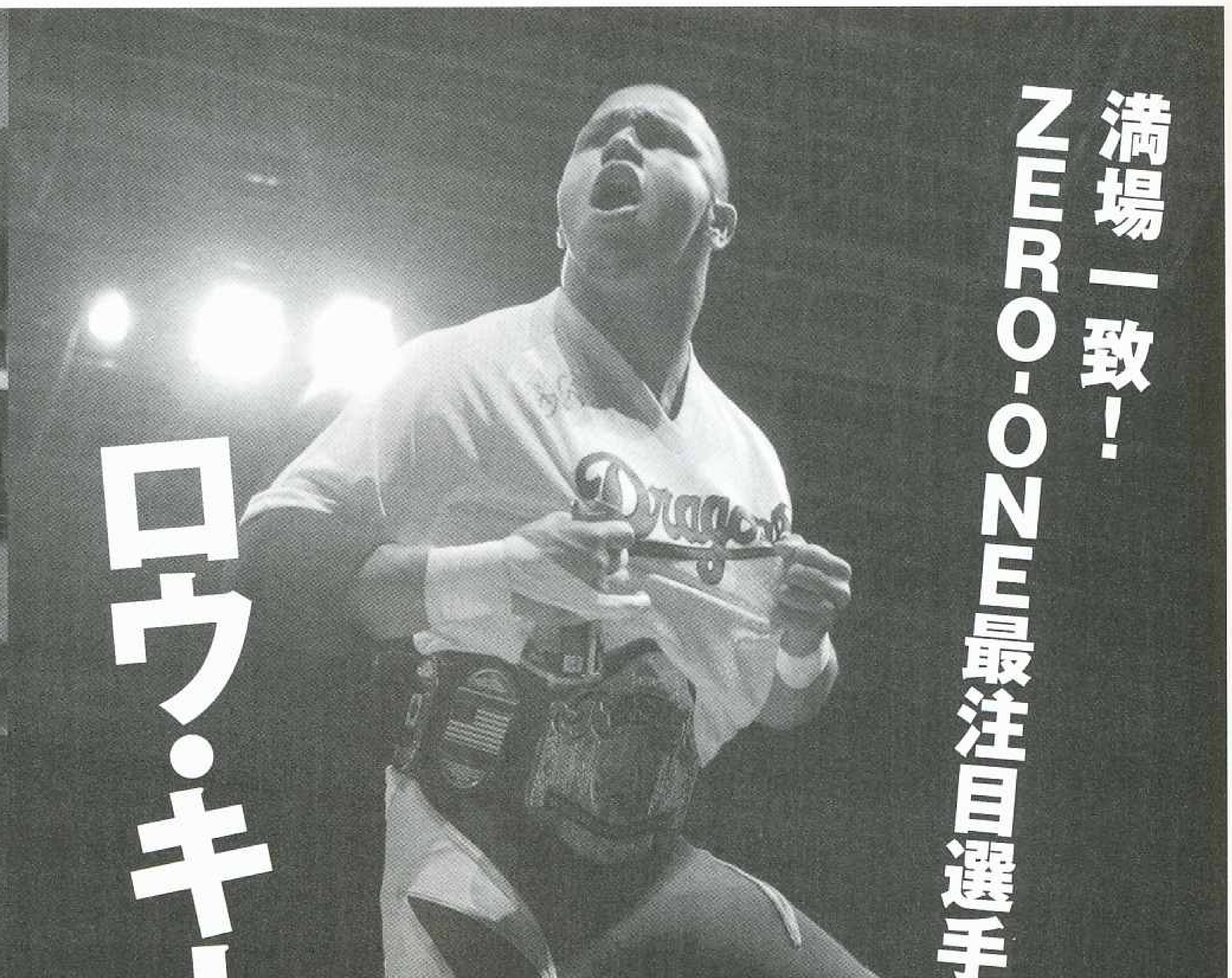
GAMMY　運動神経の違いもあると思うけどなぁ。もともと身体能力の高いヤツらがプロレスをやり始めたってことでしょ。

サント　アメリカのサッカーが強くなったのと一緒で、「やりゃあ強い」ってことだよね。

イナズマ　あとは、使う技も凄く研究してるよね。「ホントにやりたくてやってるんだなぁ」っていう雰囲







満場一致！ ZERO-ONE最注目選手は ロウ・キーだ!!

コイツらがいてこそZERO-ONE！

←のっけから **結論**

ゼロ族集会参加者

【笠井 修】



かさい・おさむ■プロレスビデオでお馴染みのヴァリスで勤務したのち、退社後はデザイナーとして活躍。『紙プロ』プロデュースのゼロワングッズのデザインはこの人だ！

【イナズマ★K】



いなずま★けー■W★INGマニアとしても有名な音楽系ライター。W★ING解散後は大日本に頻繁に足を運んでいたが、最近外人の魅力もあってゼロワンフリークに

【GAMMY】



ぎゃみー■プロレスTシャツ等で『紙プロ』読者にもお馴染み『バンバンビガロ』のボス。ゼロワンだけでなく、いろんな会場で見かけることが多いが、大抵ほろ酔い加減

【サント親父】



さんと・おやじ■『バンバンビガロ』大阪店の店長。たまたま東京に来ていたため参加してもらったが、言いたいことだけ言うと気持ち良さそうに眠りについてしまった

気が伝わってくるもん。
GAMMY　ただ、ゼロワンの外人選手にひとつ問題点があるとすると、女の子ファンを取り込むことが出来る選手が少なすぎると思うんだよ。マニアックな層には強いんだけど、掴みが弱いんだよね。
――破壊王も、「ウチには男前の選手がいないんや」って、よくぼやいてますからね（笑）。
GAMMY　だから、たとえ弱かったとしても、スパンキーみたいな顔のいい選手が5人くらいいた方がいいと思うんだよ。もうね、ゼロワンでバックストリート・ボーイズみたいなユニットを作っちゃうっていうのはどうかな?
イナズマ　そう考えるとスパンキーがWWEに引き抜かれた穴っていうのは、予想以上に大きいかもしれないけど……。
GAMMY　だから、もう外人選手っていうより外タレって感じで。日本人で掴みが弱いならそれぐらいやってもいいと思うよ。
サント　Jメンズかい（笑）。でも、ありそうでないよね? イケメン・プロレスって。
GAMMY　そういう、ゼロワンの会場にお客さんが足を運ぶキッカケが欲しいよね。他団体との交流以外の方法で会場まで足を運ばせてほしいなぁと思うよ。今度の両国の小島聡vs大谷晋二郎も、たしかにいいカードなんだけどさ。
笠井　いい試合になるのは間違いないけど結果が見えちゃうもんね。それが嫌だからゼロワンを見てるの

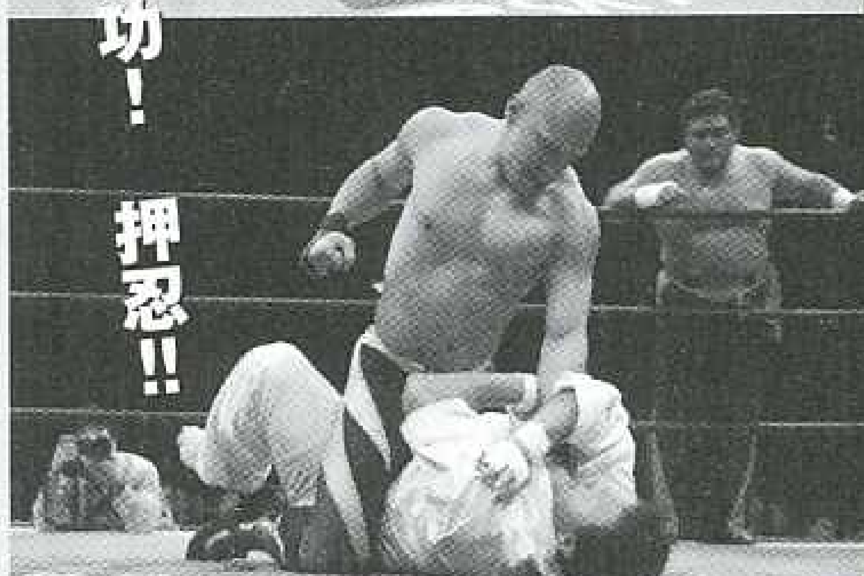
2002.11.21　鹿児島アリーナ　『超プロレス宣言～天下一Jr.トーナメント』

撮影／乾 晋也

小笠原興行、大成功！



押忍!!





小笠原先生の第二の故郷だという鹿児島で行われた小笠原プロデュースのゼロワン興行。リングサイドは3万円と高値が付いていたが、先生の顔の広さで会場はキッチリ埋まった。OH砲と初合体の小笠原はリング上で演武を披露するなどノリノリだったが、試合が始まるとツインタワーズの3メートルからの必殺タワーダンクを食らい悶絶！



橋本・小川・小笠原

初見参のH2Oで「オー、エイチ、ホーッ!!」

天下一Jr.トーナメント開幕!!



今回のシリーズ名にもなっている『天下一Jr.トーナメント』が、この日開幕。出場選手には1つずつ水晶が与えられ、敗れた選手は勝者にそれを与え、最終的に10個集めた優勝者の願い事が叶えられるという、まさにドラゴンボールシステムを採用。果たして、願いを叶えるのは誰だ?





初来日時には、その凄さがイマイチ伝わりきれていなかったフランキー。今回の来日では写真のような破天荒な大技を連発し、一気に評価を高めることに成功!





大谷&田中の炎武連夢は、この日からZERO-ONEと全日本の最強タッグを股にかけた9連戦がスタート。初戦からプレデター&スヌーカJr.組という強敵と激突! 苦しみながらも、幸先のいい勝利を収めた



もう一方のブロックは高岩vs星川のZERO-ONE同士の一戦。こちら側のブロックの本命・高岩が星川のミサイルキックで3カウントを奪われるという波乱含みのスタートとなった！

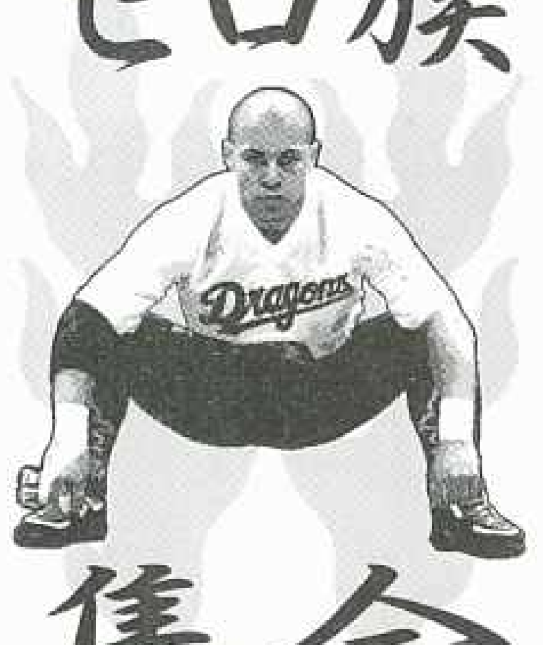


優勝候補筆頭の坂田はトーナメント一回戦で日高と激突。リングス時代、バトのリングで闘っている両者の対戦は得意の飛びヒザで坂田が勝利！



この日、富豪^{2}ダンスの餌食となったのは阿部八郎レフェリー。そう、彼は、あの有名レフェリー阿部四郎の息子さんなのである。恥ずかしそうにダンシング!

ゼロ族集会



にさぁ。

GAMMY ただ、俺の友達で、しばらくプロレスを見てなかった人なんかはゼロワンを凄く面白がってるんだよ。誘わなくても会場に来るようになったし。それまでは修斗、『PRIDE』、プロレスはWWEだけ見てるっていう人が食いついてるんだよね。「昭和」っていうキーワードはたしかにあるんだけど、そうじゃない部分の掴みがもうひとつあればいいんだけどね。

イナズマ でも、いまのゼロワンに「昭和」って感じもあまりしないけどなぁ。

笠井 でも、（藤原）組長はゼロワンで凄く輝いてるよね。こないだの後楽園大会で若手2人を張り倒した試合なんて最高だった。張り手も頭突きも音が違うよ。

サント そうそう！ もうビッシビシ入ってるもんな！

笠井 その表現は嫌だ！（笑）。

サント じゃあ、濁点を取ってヒッシヒシ！

GAMMY 何だよ、それ！（笑）。

サント いや、でも会場に行くとゼロワンの魅力をヒッシヒシと感じるんですよ。

──で、ゼロワンが方向転換したのは今年の1月6日の後楽園大会からじゃないですか。横で呑んでいる小笠原先生が破壊王に向かって「お前のキックはハエが止まる！」って言ってからですよ（笑）。

笠井 そうだね（笑）。たしかに、あそこから面白さの方向性が変わっていったよね。

──（モニターで流れる『PRIDE23』の映像に見入る小笠原に向かって）先生から見て、ゼロワンの外人勢はいかがですか？

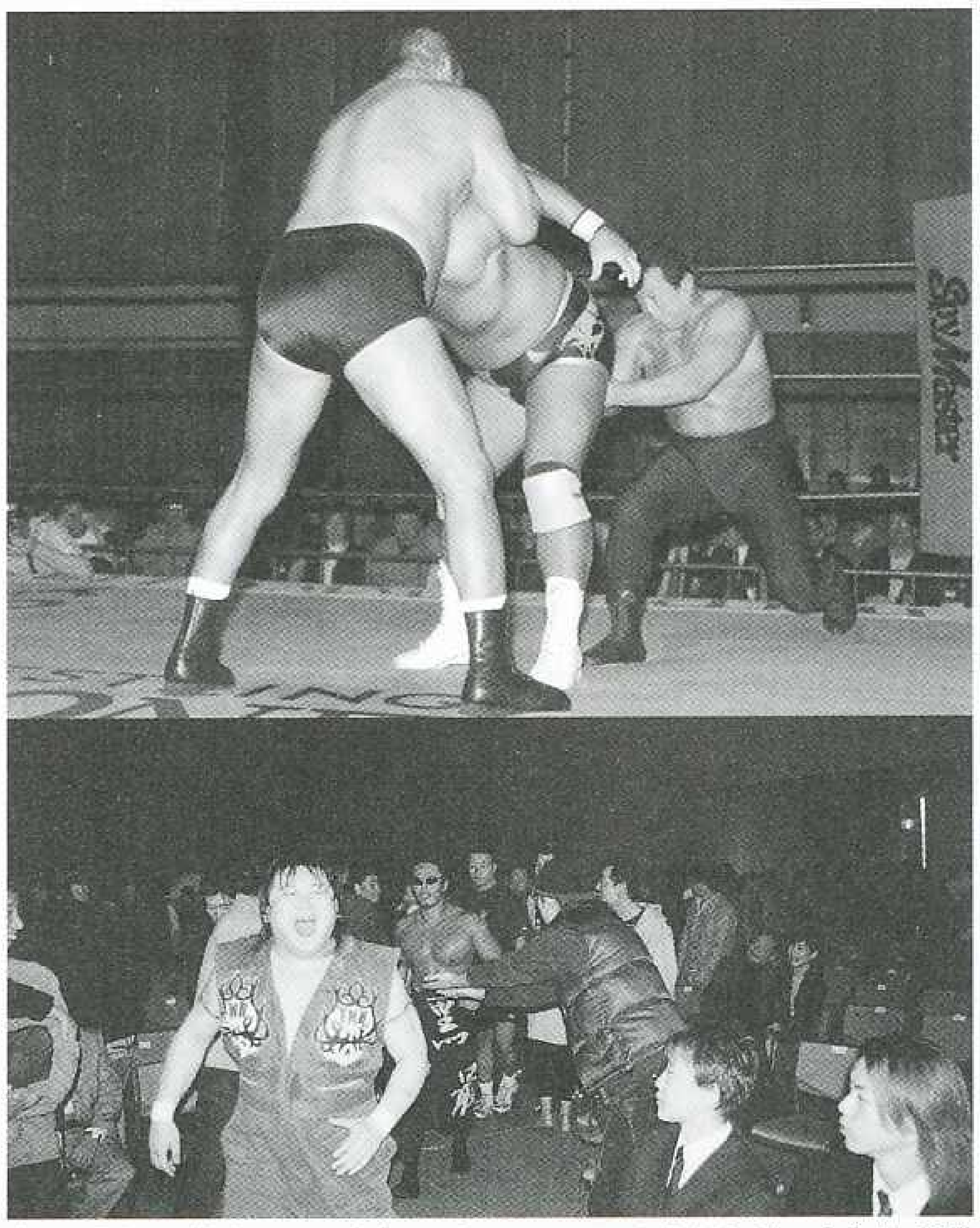
小笠原 いまちょうど読み返してるんですけど『空手バカ一代』に書いてある世界そのまんまですよ。WWEに引き抜かれていくぐらい凄い選手たちが思いっきり当たってくるんだもん。僕も空手の世界じゃ異常に一本勝ちが多かったんで「モンスター」と呼ばれてましたけどね。その僕が見ても彼らは「モンスター」ですよ。

──怪物から見た怪物って、どうなっちゃうんでしょうね？（笑）。

小笠原 お化けを超えてますよ！ だから、総裁もこういう世界を知ってしまったんだなぁと思いましたね。あの漫画の中にあるように、片手でフルの力のパンチやっても通じないからダブルアームでパンチしちゃいましたから（苦笑）。ヤツらはおかしいよ（しみじみと）。

──ヤツらはおかしい（笑）。

小笠原 でもね、異常なほど彼らはクレバーですよ。極真の世界大会で僕はいろんな外人選手を見てきましたけど、彼らよりも何倍ものパワーや身体能力がありながら、それでいてクレバーだし心も強い。「押忍」の精神をわかってますね。僕のことも研究されてますよ。



藤原組長とドン荒川、この2人も、いまのZERO-ONEには欠かせない存在だ。荒川さんに合わせてのひょうきんスタイルから、若手相手のガチガチのスタイルまで組長はZERO-ONEのリングで実に活き活きと闘っている。それは金村、黒田にも同じことが言える。フリー系の選手も光る団体。それがZERO-ONEなのだ

──わ、わかりました。ゼロワンにはロウ・キー以外にも、いい外人選手がたくさん来てますけど、まず誰が思い浮かびますか？

笠井 （即座に）（CW・）アンダーソン！

GAMMY ええっ⁉ そこはプレデターかネイサン（・ジョーンズ）じゃないの？（笑）。

笠井 ロウ・キーを見て「ワ〜ッ！」って気持ちになっても、アンダーソンのスパイン・バスターを見ると普通にビックリしちゃうんだよね。あれはカッコいいよ！

イナズマ なんかバズ・ソイヤー系だよね。外見は地味だけど。

笠井 そうそう。地方で小川と試合してるときなんかでも、小川が技をちょっと失敗した瞬間のリカバリーが凄いからね。ササッと、いつの間にかリングに入ってきてストンピングしたり（笑）。

イナズマ ちょっと客席が静かになると、「オレがやんなきゃ」って感じでコーナーにいるのにリングに入っていくし。小川の穴をうまくフォローしてるよ！

GAMMY 小川番だね（笑）。

──（スティーブ・）コリノなんかも、いまやゼロワンに欠かせない選手だし、プレデターに追いかけられて逃げまどう観客を見ると、改めてああいう選手は必要なんだなって思いますよね、地方では特に。

サント あんなデカイのが暴れてたら、心は〝オヤジのヒザの上〟みたいなね。童心に帰れますよ。

──「デカくて千円！」って谷津さんも言ってましたからね（笑）。

イナズマ そうそう。あと、あの牛丼食い逃げした選手……なんて名前だったっけ？

笠井 キング・ジョー？

──いや、サモアン・サベージからキング・アダモに改名です。

サント でもゼロワンは改名が多すぎるよ！（笑）。

イナズマ 各地方で「はじめて見るサモア人」として、多くの人の記憶に残ってるはずだよ（笑）。

サント でもそういうキャラの方が一見さんには絶対に伝わるよね。

──ネイサンもプロレスはうまくないですけど、来日するたびに進歩を感じさせてくれますよね。

GAMMY ある意味ではデクなんだけど（笑）、でも運動神経が感じられるから、大いなる可能性を期待させてくれるよ。

笠井 7月の両国大会でスパイダーマンばりに金網をガシャガシャっと越えて、スッとロープの上に立ったときはホントにビックリしたもんなぁ。

GAMMY あれは映画ばりだったよね。その後に出てきた外人の通訳も最高だったけど（笑）。

──「お前、誰なんだよ！」って声が多かったですけど、なんか俳優さんらしいですね。

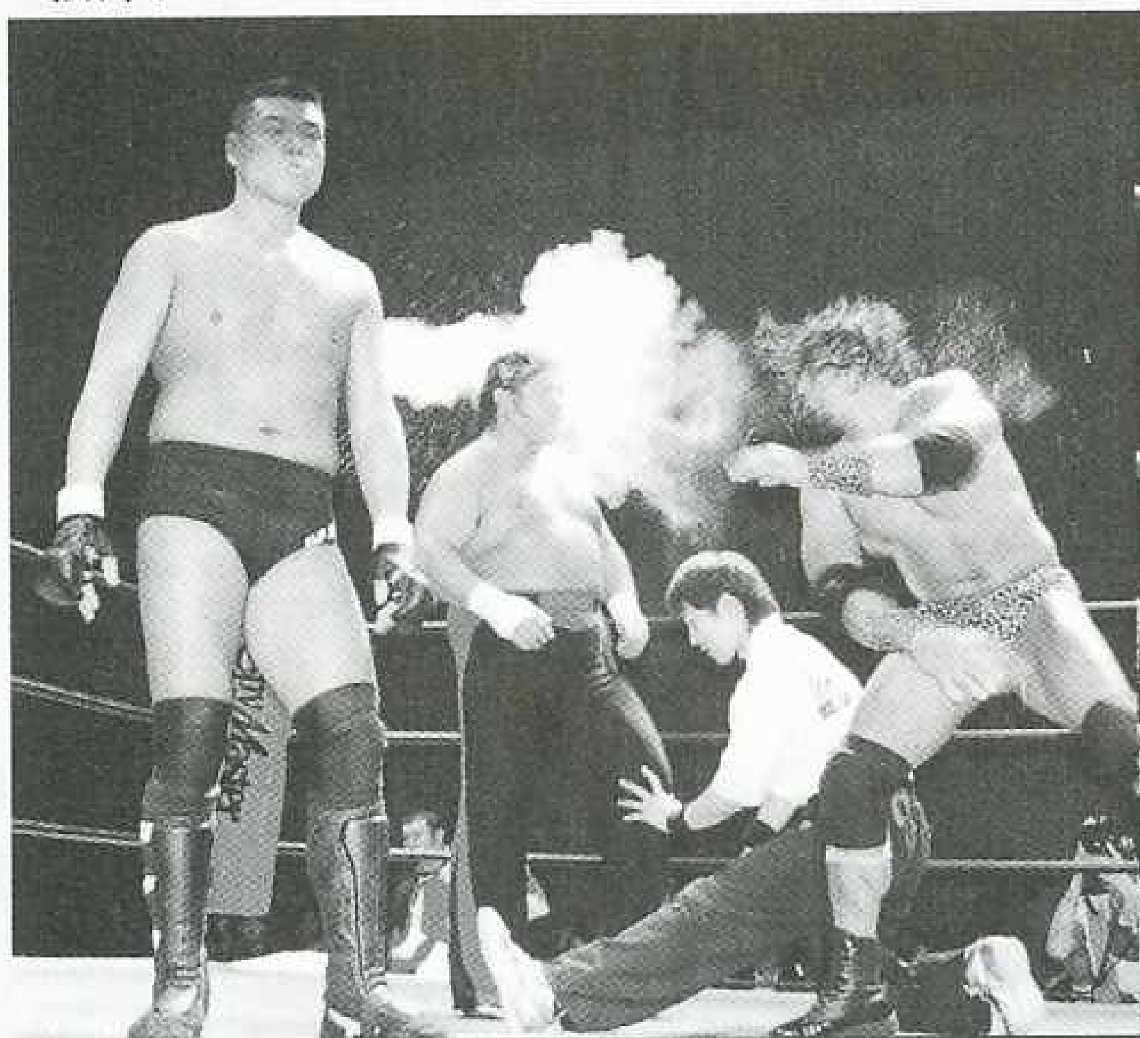
イナズマ あの通訳は常勤させてほしい！（笑）。

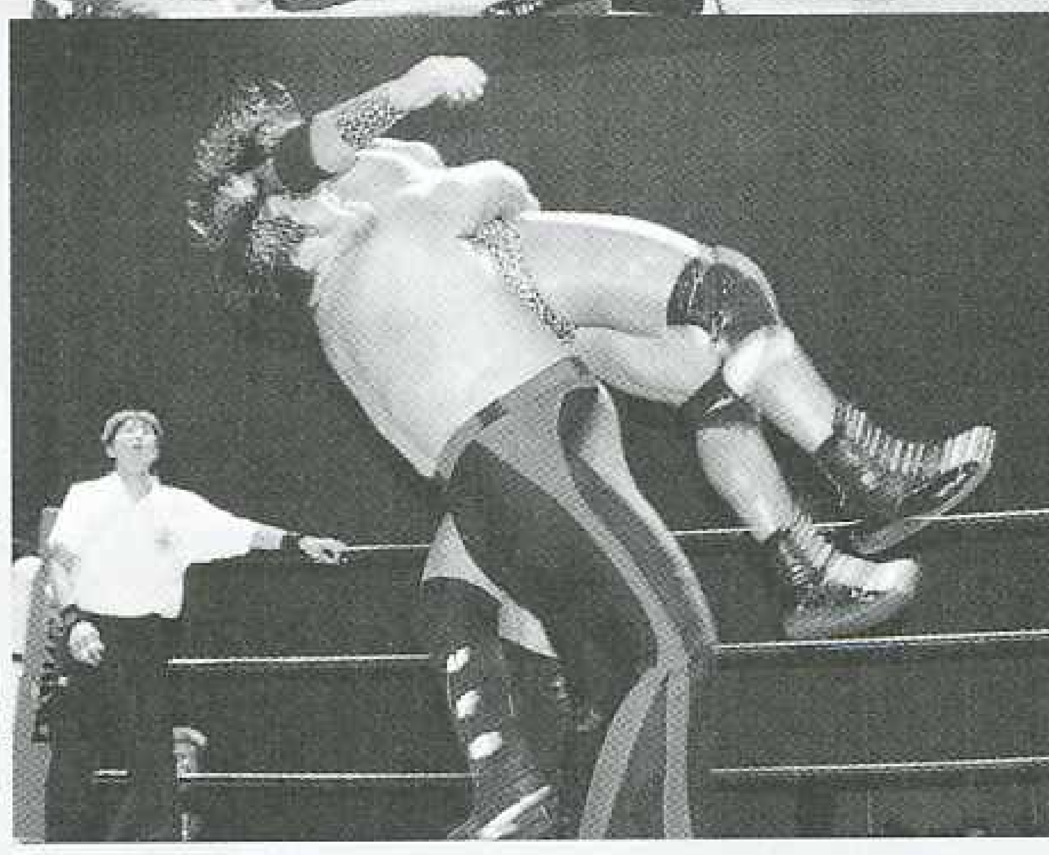
GAMMY 「オマエら、コノヤローッ！……と、言っています」っていうね（笑）。

サント ああいう意訳が出来るのは強いよね。日本代表の通訳だった

撮影／松澤チョロ

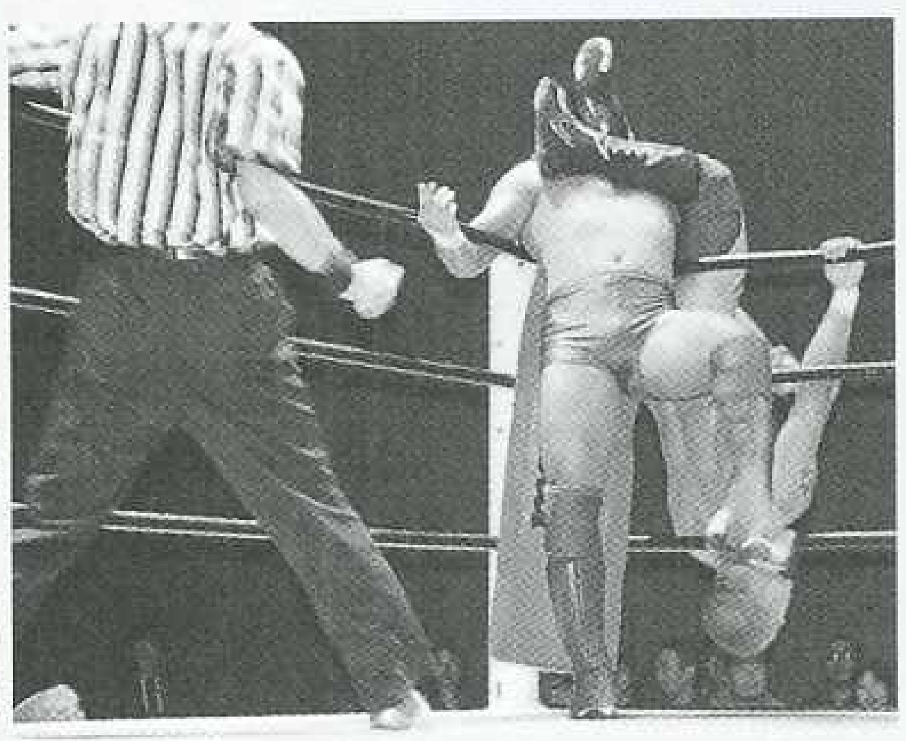
OH砲タッグ王座冷や汗防衛!



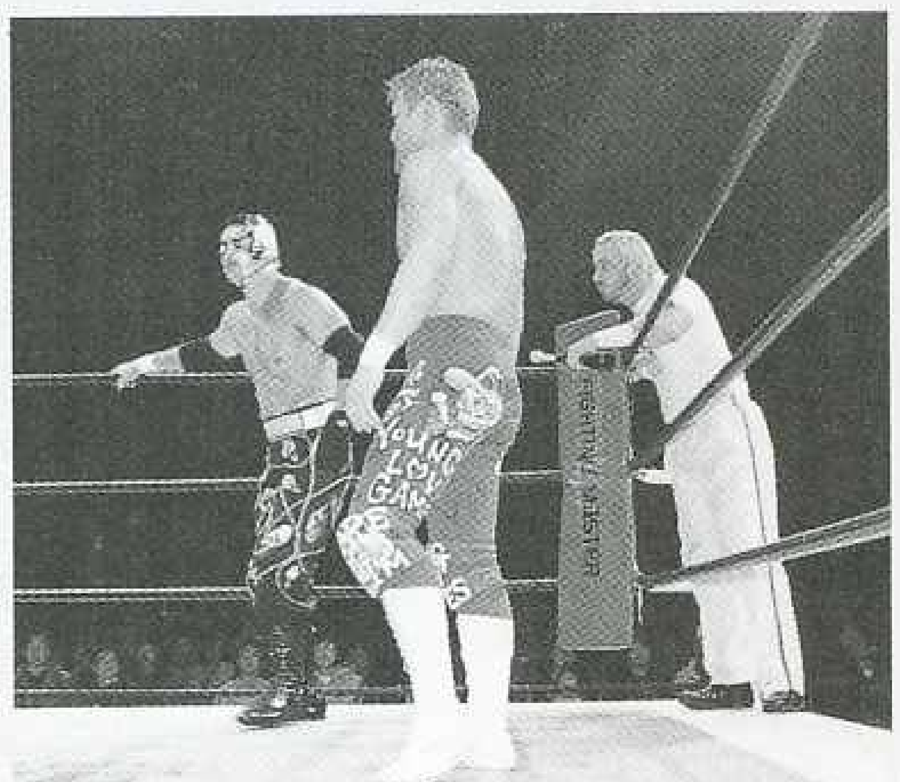




NWAインタコンチのタッグ王者として初防衛戦に挑んだOH砲。ゴング前からスヌーカJr.の白い粉攻撃が破壊王を直撃しプレデター組がペースを握る。その後も小川が集中砲火を浴び防戦一方。最後は「オレごと刈れ」で、なんとか防衛には成功したもののタッグチームとして課題の残る内容に



天下一Jr.トーナメントの最注目カード、坂田vsロウ・キーが実現。相変わらず難解かつ高度な技を繰り出すロウ・キーだったが、坂田の飛びヒザからのスリーパーで敗退！




ZERO-ONE初登場となった全日本のカズ・ハヤシとMr.プロブレム。カズが入場すると、なぜかコリノが現れ「マイ・フレンド・カモン!」とマイクアピール。登場したのは、どっからどう見てもカシン。高岩はカシンを下すと「お前はカシンだろ!」と新日流のツッコミをかました



この日は金村＆黒田組vs小笠原＆小林組という異色対決も組まれ、机やらイスやらプロレス流の攻撃の前に劣勢が続いた空手家コンビだったが、ご覧のような連係も披露！




和牛太の炎武連夢入りが掛かったネイサン組との6人タッグ。気合いが入る和牛太に対し、ヘッドフォンで音楽を聴きながら入場してきたネイサン。リングではサップ顔負けのネイサン・ホップを初披露！

（フローラン・）ダバディと一緒でさ。

サント　あと、大将（＝GAMMY）が言ってたんですけどね、（トム・）ハワードにはリングス残党と試合させたいですよね。

GAMMY　ヴォルク・ハンvsトム・ハワードとかね。

イナズマ　いいなぁ（笑）。『真撃』に出たあと、ディック・フライとハンス・ナイマンがゼロワンに来るって噂があったじゃん。

笠井　それは見たかったなぁ。

――リングスに出ていた、バーリ・トゥードでは結果を出せてない（ビターゼ・）タリエルとかもゼロワンに呼んだら面白いですよね。

サント　でも、知名度のない外人を連れてきて試合をさせるっていうのは、いまの日本のメジャー団体はどこもやってないからね。

GAMMY　新日本がLA道場から呼んできてるじゃん！　ハバナ・ピットブルズとか（笑）。

――さっきから外人の話ばっかりですけど、フリーの日本人選手もゼロワンのリングでは他団体での試合よりも光って見えますよね。

イナズマ　金村（キンタロー）も黒田（哲広）もいいよねぇ！

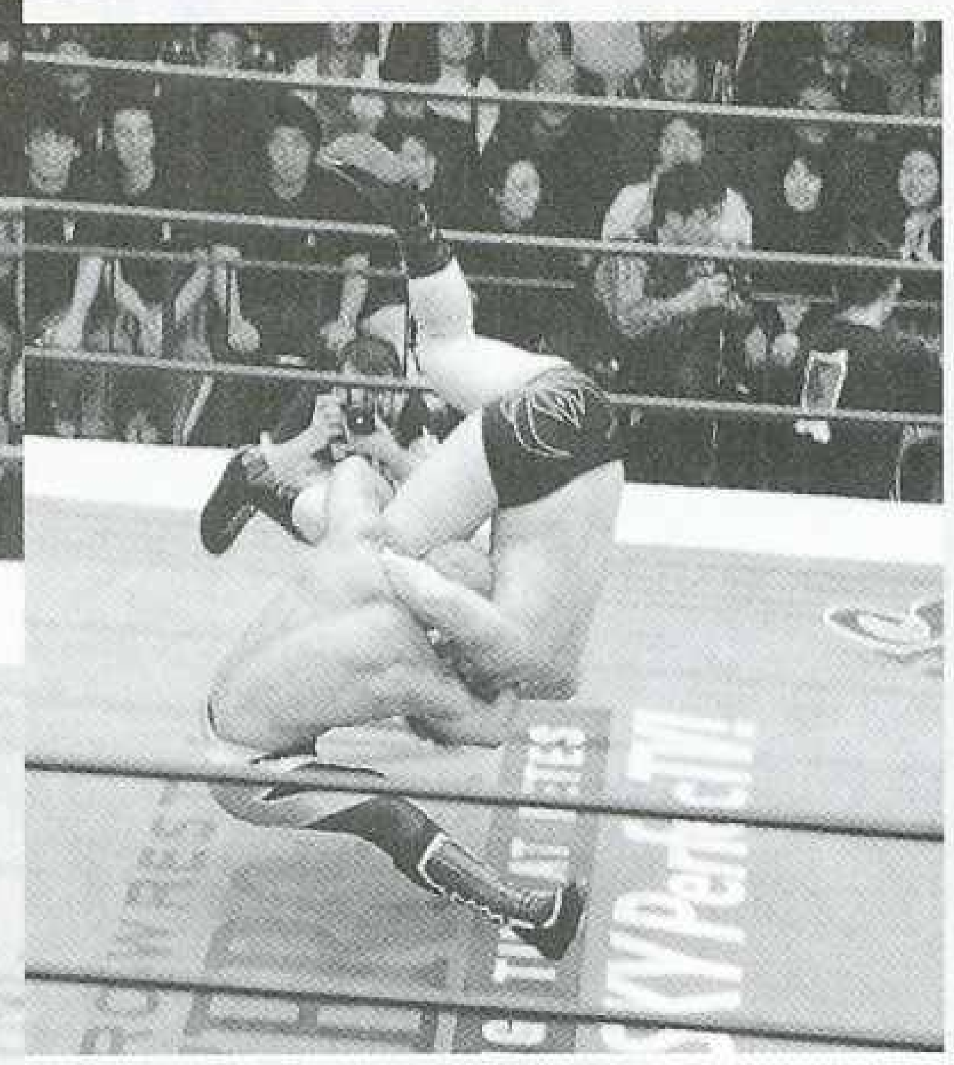
笠井　他の団体で見るよりも「抜け」がいいよ。好きなようにやってる感じがするもん。

イナズマ　坂田（亘）や横井（宏考）みたいな総合系のプロレスラーもゼロワンだからやっていけるって感じがするし。伸び伸びとやってるでしょ。新日本に行ってたらそうはなってないよね（笑）。

撮影／堀江ガンツ

ロウ・キー&フランキー、ズバリ言ってコイツらがゼロワンの「キー」だ!

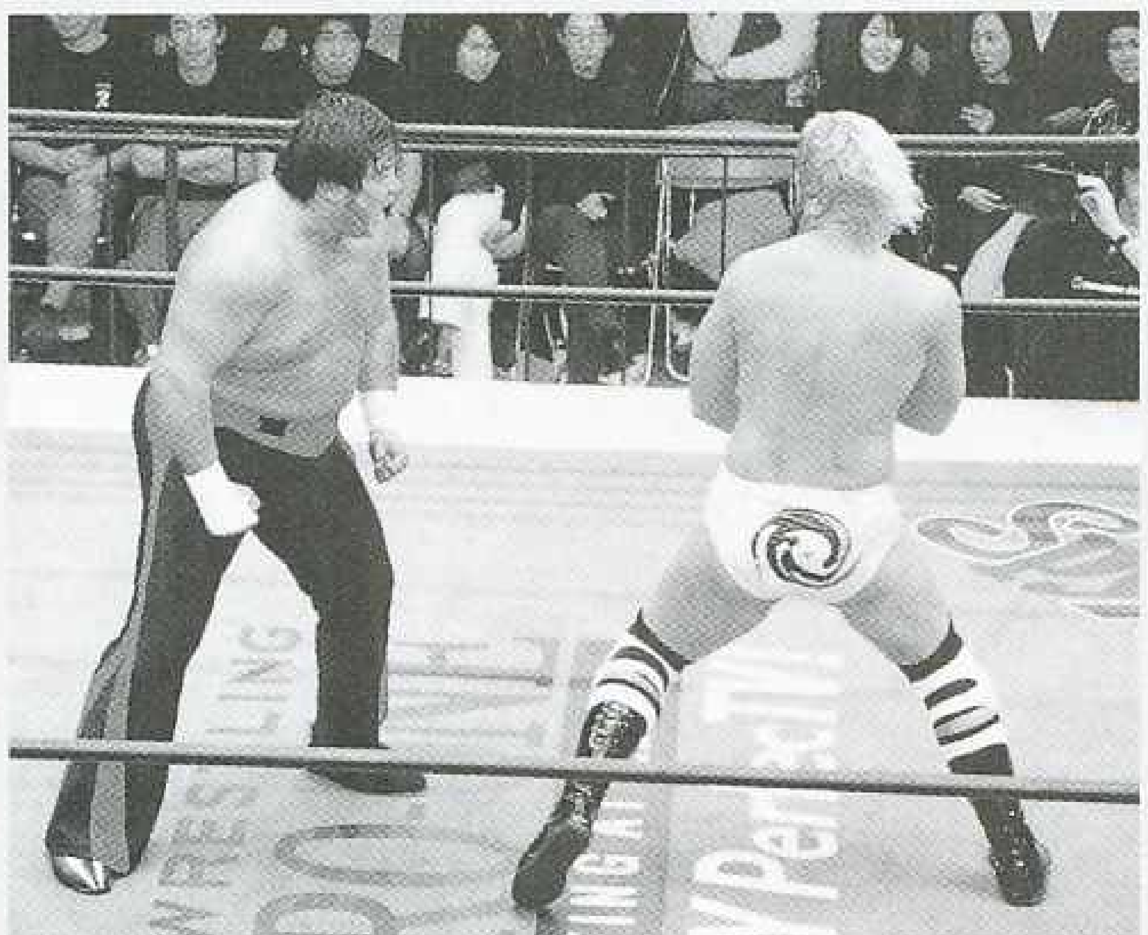




今大会のベストバウトは文句なしにロウ・キー組vs高岩組の6人タッグ。フィニッシュのロウ・キーのキークラッシャー99も相変わらずだが、フランキーの凄技に場内はどよめきっ放し!



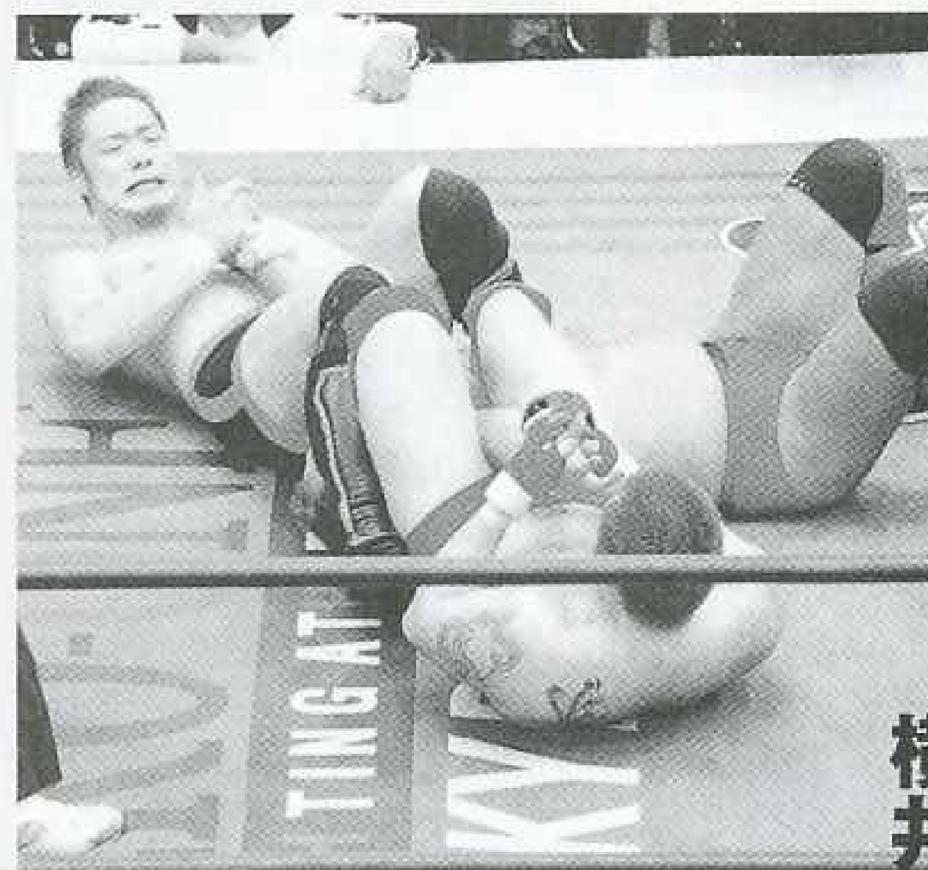
天下一Jr.準決勝戦は、まずは坂田が東郷に負傷箇所を攻められまくるも、一発逆転の飛びヒザからスリーパーで勝利。一足お先に決勝へと駒を進めた。続く小笠原vs星川戦は、大方の予想を裏切り星川が勝利。因縁の坂田vs小笠原戦は、またの機会へと持ち越された

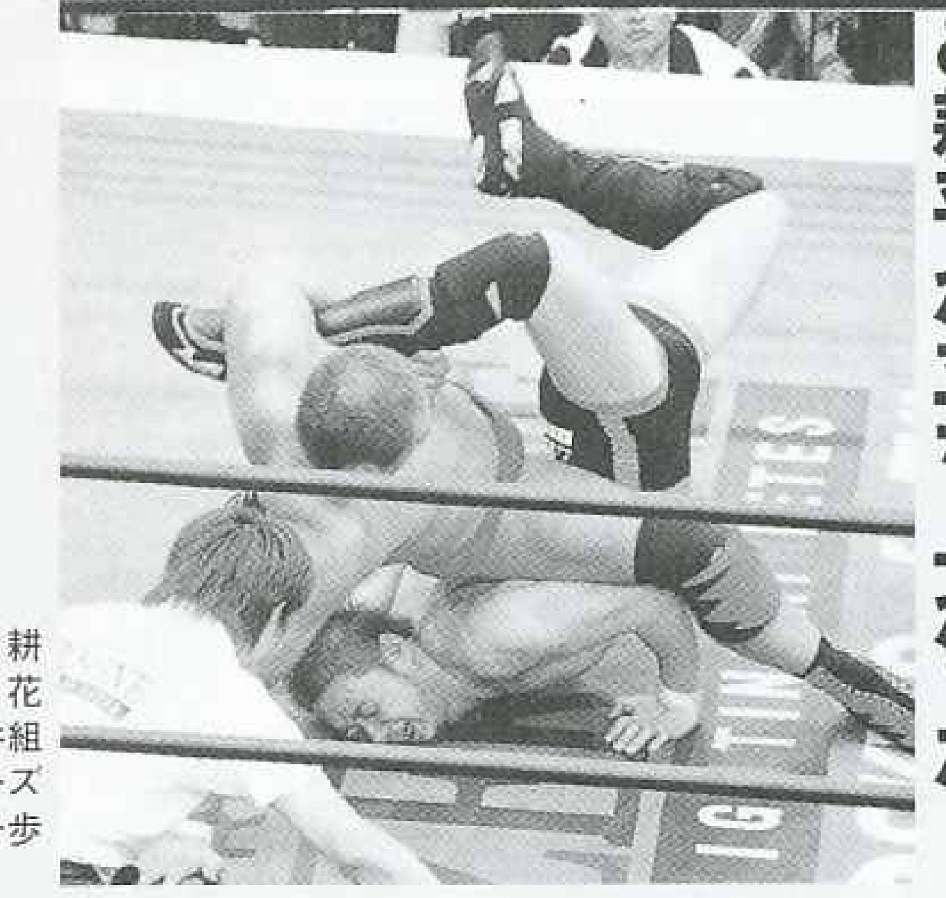




メインで行われたのが破壊王vsコリノ戦。「ヤツに眠っているヤンキー魂を引き出そうと思った」という橋本は、コリノのテーピングに書かれたコリノJr.の名前を踏みつけ挑発した上で叩き潰した

打倒・炎武連夢に横井&耕平が立ち上がった!



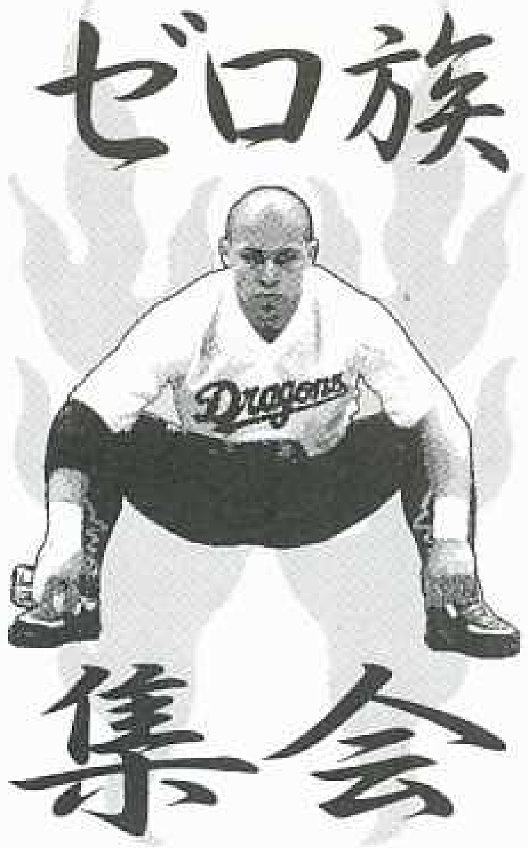


打倒・炎武連夢に向け横井と耕平がタッグを結成。入場途中、花道の大谷&田中を襲撃した横井組はリングに戻ると炎武連夢ポーズで挑発! 敗れはしたが、あと一歩のとこまで2人を追いつめた



前号でも紹介したが、この日は売店でも抗争がボッ発! ゼロワン・チーフデザイナーの肩書きを賭け、富豪2と葛西のTシャツ対決が行われた。結果は見事100枚完売の葛西の勝利!

ゼロ族集会



GAMMY　坂田はプロレスラーにプロレスさせないところがいいんだよね。いまのポジションがいいと思うよ。もし、坂田がゼロワン本隊と合体しちゃったら嫌だもん。

——新日時代の前田みたいに、当たりが強くて対戦相手から嫌がれるっていうのを、ちゃんと自覚しつつもやってますからね。

イナズマ　やっぱり「当たり」でわかっちゃうよね。当たりが弱いっていうのは伝わっちゃうから。一時期、バトラーツがバチバチって言われてたけど、ああいう感じでプロレスの中で見せてくれてるでしょ。バチバチってあえて言わなくても、ゼロワンはそれが当たり前になってるもんね。

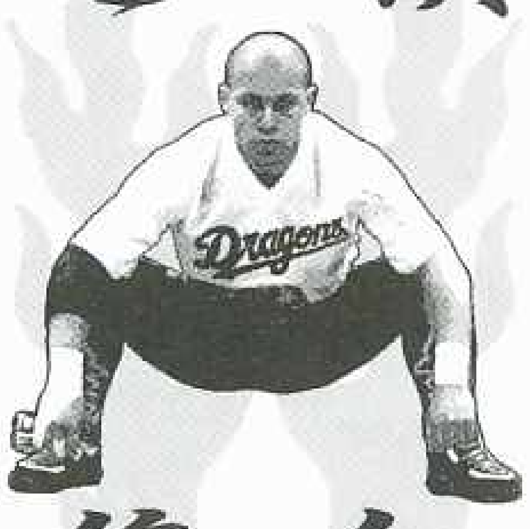
——ゼロワンだけじゃなく、いろんな団体で活躍している炎武連夢は、いかがでしょうか?

GAMMY　いいじゃない! 田中には最初ちょっと嫌悪感があったんだけど、いまじゃ断然認めてるよ! 田中の当たりの強さも凄いことになってるよねぇ。

——外人選手とかもみんな言ってますからね。「タナカのエルボーだけは受けたくない」って（笑）。

笠井　いつだったか、田中vs大谷っていうシングルがあったでしょ? その試合を目的で見に行こうとは

ゼロ族集会



絶対に思わないんだけど、終わってみたら「面白かったなぁ」って普通に思っちゃったし。

GAMMY　ある意味、いまみんなが「炎武連夢と闘いたい」って感じになってるもんね。

笠井　大谷と闘えば面白い試合になるのは間違いないからね。

イナズマ　大谷の試合中のしゃべりも面白いよね。

GAMMY　でも、小島と大谷って新日本の会場では嫌われてた2人じゃん。長州（力）に「しゃべりすぎだ！」とか言われてさ（笑）。

イナズマ　こないだ全日本の会場でも、小島が試合後にマイクアピールしたら渕（正信）に怒られたっていう話もあるしね。

GAMMY　マジで？　いまだにマイク禁止令？

イナズマ　ゼロワンにはそういう選手をシュンとさせちゃうような土壌がないからいいんだと思うな。やったモン勝ちでしょ（笑）。それでいいんじゃないかな？

サント　そうや！　レスラーは本来そうあるべきで、リングの上では横一線じゃないと。上司・部下の関係は持ち込んだらアカン！

——というわけで、最後になりましたがゼロワンの大将・橋本真也

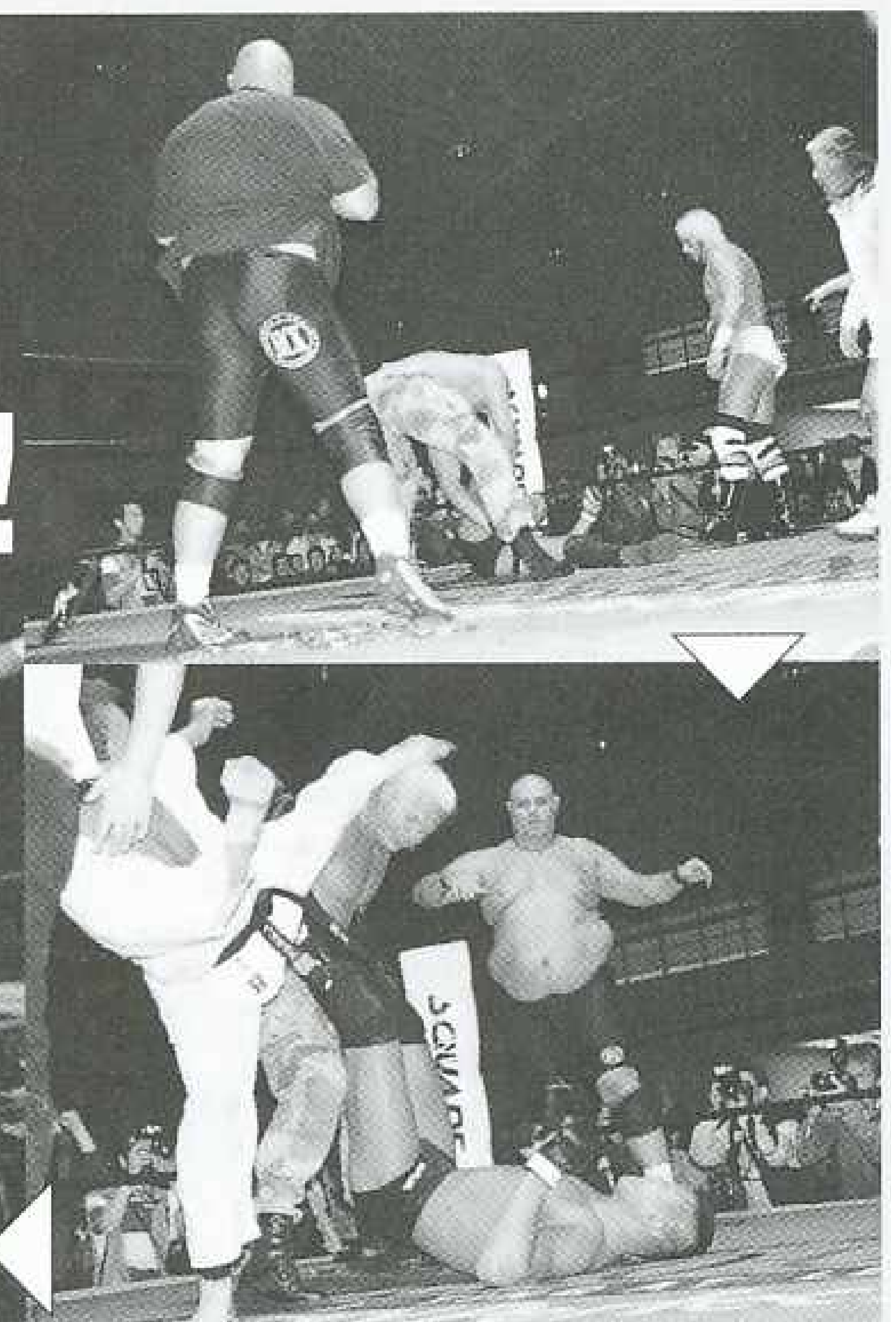
2002.12.08　金沢産業展示館

『超プロレス宣言～天下一Jr.トーナメント』

撮影／松澤チョロ

マット・ガファリ日本再上陸! 巨腹で小川を圧殺!





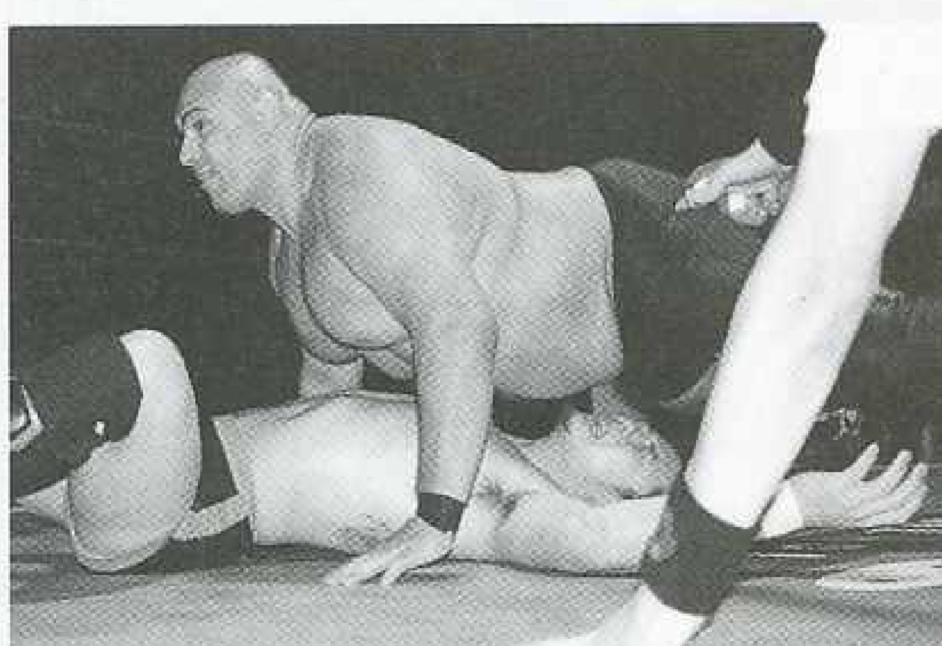
はぁ～、どすこい、どすこい!!　『LEGEND』での小川戦の屈辱を晴らすため、あのマット・ガファリが再度、日本上陸!　メインで小川組が勝利すると太鼓腹を揺らしながらガファリが乱入。パートナーのハワードが小川を抑えつけると、Tシャツを脱ぎ捨てたガファリが小川に180kgの体重を浴びせ失神KO!



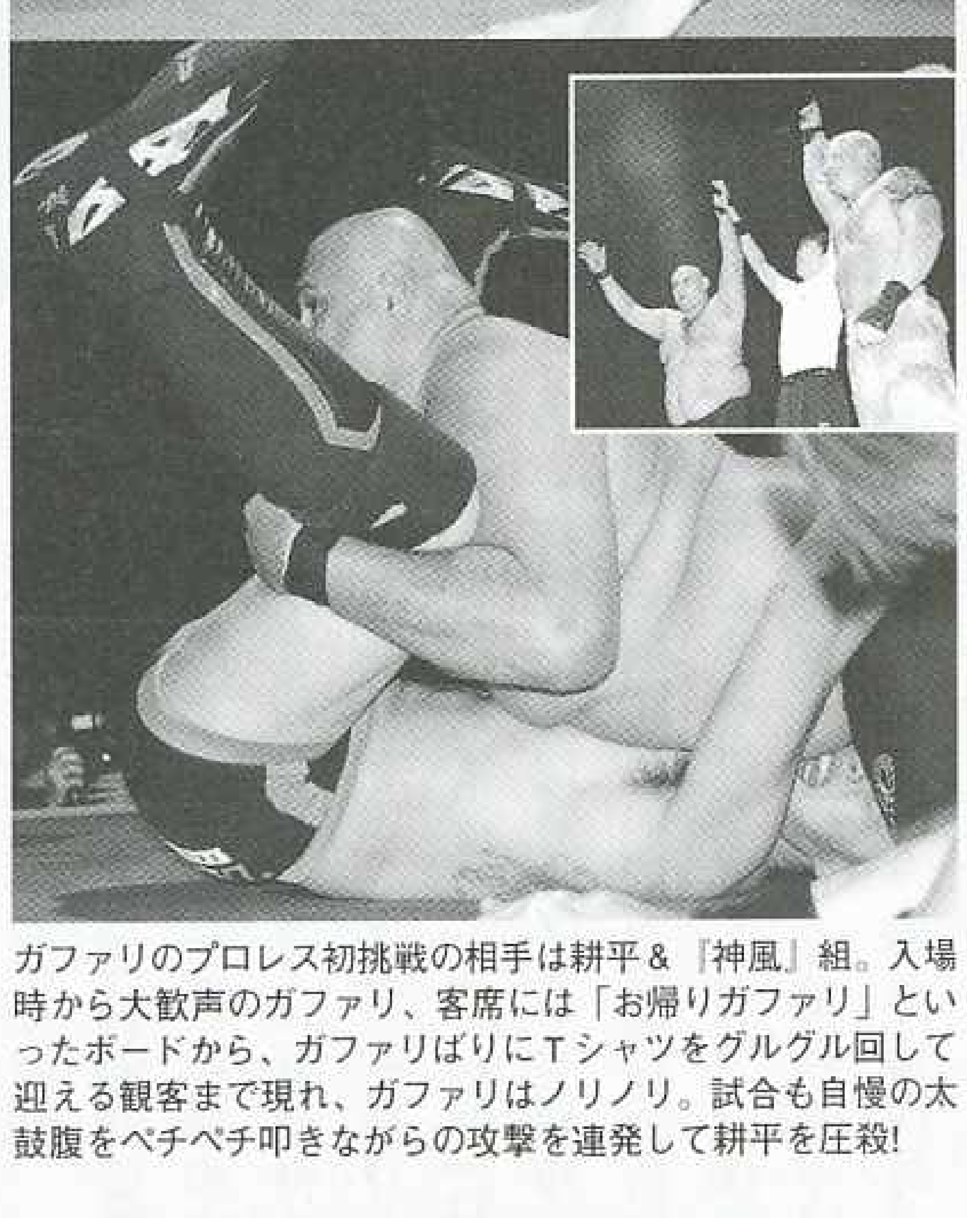




2度目の登場となる橋本&小川&小笠原のユニット・H2O。対戦相手は新超獣コンビ&コリノという、異色の顔合わせ同士の激突となった。小笠原がスヌーカJr.に空手の型を見せつけると負けじとスヌーカもオリジナルの型で対抗し大盛り上がり。最後は破壊王が締めた



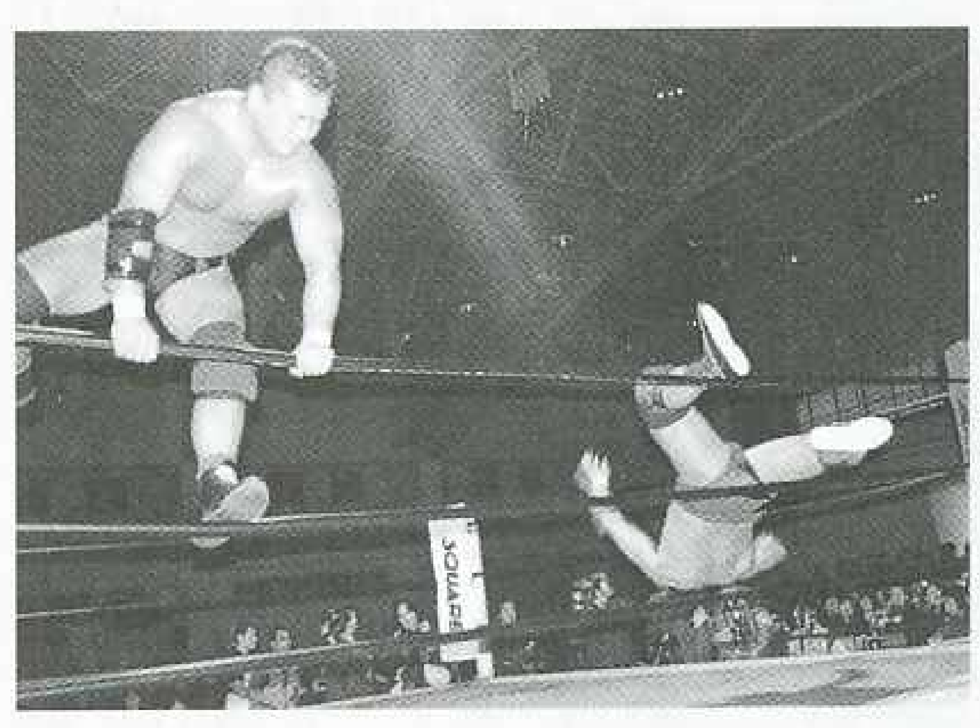




ガファリのプロレス初挑戦の相手は耕平&『神風』組。入場時から大歓声のガファリ、客席には「お帰りガファリ」といったボードから、ガファリばりにTシャツをグルグル回して迎える観客まで現れ、ガファリはノリノリ。試合も自慢の太鼓腹をペチペチ叩きながらの攻撃を連発して耕平を圧殺!



異例とも言える試合開始予定時間を過ぎてから会見を開いた破壊王。この日から参戦予定だったネイサンから「オレはWWEと契約したスーパースターだから出場する試合を選ばせてもらう」と両国以外の大会への出場をキャンセルしてきたと憮然とした表情で語った



もはや芸の域まで達していると言っても過言ではない大谷の試合後ロープずり落ちシーン。この日はガファリフィーバーに負けじと、いつもより余計に危険な角度でリングに落下していった。大丈夫か!?



先生は、みんなに酒を振る舞い、代わりに一杯だけ奢らせ、それを一気飲みするという極真スタイルを披露し、迎えに来た奥さんと家路についた。押忍！

について、どう思いますか？

GAMMY やっぱり破壊王あってのドタバタだからさ。懐は広いよね。ゼロワンがすべて許されてる空間なのは、破壊王の人間性による部分は大きいでしょ。

──でも試合では「？」って感じることも多いですよね（笑）。

GAMMY 大失敗だよ。こないだの『W―1』の試合とか、後楽園でのコリノ戦とかも。

サント たしかに『W―1』のデンプシー戦はトニー・ホーム戦を彷彿とさせる内容だったな（笑）。

イナズマ まあ、試合的な部分だけで破壊王を評価するのは難しいかもしれないけど（笑）、葛西（純）がケガで試合出来なくてお金がないからって、わざわざ売店にスペース空けて「売っていいよ」ってやってるわけでしょ？ そういう部分は男らしくていいよなぁ。

GAMMY おっ、ここでまた大日本プロレスに繋がった！（笑）。

──たしかに破壊王のそういう部分は魅力たっぷりですからね。では、その破壊王と小川のタッグのOH砲は、どう思われますか？

GAMMY まだ、OH砲が思ってるほどファンはOH砲に満足させてもらってないよね。そのギャップを埋めてもらいたい気持ちはあるな。やっぱりホントの意味での敵がいないからだと思うけど。

笠井 そういう意味でも俺はいまこそ小川vs橋本を「どプロレス」で

来年は破壊王と小川の壮大なライバル対決が見たい！



見たいよ。金網マッチで小川が大流血しながら闘ってる姿とか見たいしね。地方でもずっと小川vs橋本の連戦やったりしてさ（笑）。

GAMMY アメリカンだなぁ（笑）。同じカードを金網でやったり腕に皮ヒモつけたり、それでどの試合でも小川がギリギリのところで勝っちゃうんでしょ？「やっぱ強いね」ってことで（笑）。たまに引き分けるけど3試合に1試合は破壊王がフォール負けとか。

笠井 そうそう（笑）。

GAMMY でも結局、小川はまだゼロワンファンの中のゼロワンには入ってきてないんだよ。

笠井 何かしらの通過儀礼は欲しいよね。

イナズマ 小川はそういう部分を分かってるような気はするんだけどね。でも、それを出来てない自分がいるって感じがするな。

GAMMY プレデターに失神させられてた頃は「分かってきたのかなぁ」って感じだったけど、また最近は「わかってないんじゃない？」って感じなんだよねぇ。変にプロレスを覚えてきちゃったんじゃないかな。ホント、来年こそ破壊王に反旗を翻して欲しいよ。それこそ北尾（光司）以来の大ヒールになれる存在なんだから！

笠井 小川には思いっきりブーイング飛ばしたいよね（笑）。

GAMMY それか小川軍団みたいなのを作るのもいいでしょ。藤井（克久）っていう新戦力もUFOに入ったことだし。

サント 横井とか（佐藤）耕平とか総合系の選手は、みんな小川軍団に合流してね。

GAMMY 最終的にはそういう図式になって欲しいよ。

笠井 武藤とか蝶野と絡むのは、もういいからさ。

──まあ、マット・ガファリっていう小川の天敵も来るみたいだし（笑）、しばらくはOH砲でやっていくんでしょうけどね。

GAMMY じゃあ、こうしよう！ ガファリを認める橋本と認めない小川で仲間割れ（笑）。

笠井 来年は破壊王と小川の壮大なライバル物語が見たいよね。

（ここで再び小笠原先生が登場！）

小笠原 そろそろ帰りますんで、みなさんにビールを一杯ずつ奢らせて頂いてもいいですか？

──エッ!? いいんですか？

小笠原 その代わりといっては何ですが、みなさんから私に一杯だけ奢ってください。これが極真スタイルですから！ 押忍!!

──は、はい、わかりました（笑）。

イナズマ 今日はゼロワンの話ってことだったけど、最後は極真スタイルで乾杯しましょう！（笑）。

笠井 いや、その自由さがゼロワンの魅力なんだよ（笑）。

──じゃあ、今後の小笠原先生の活躍と、ゼロワンの発展を願って、カンパ〜イ!!

【12月4日／明大前『梵婆家』にて収録】

半額 紙のプロレス 本誌 Back Number



第8号 1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス&天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ ２０ページにも及ぶ大特集！

¥700 ⇒ ¥350



第16号 1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

¥780 ⇒ ¥390



2000年4月
情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

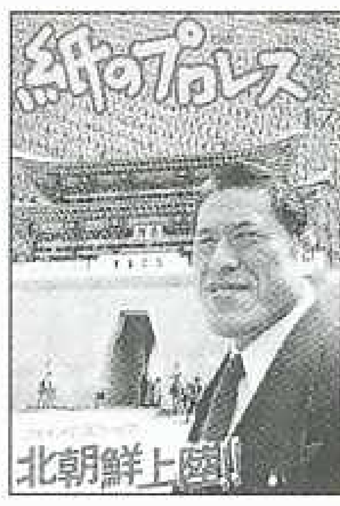
¥2100（税金・送料込み）



第13号 1995年3月号
特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄&上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

¥780 ⇒ ¥390



第17号 1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

¥780 ⇒ ¥390



インタビューという名の鉄拳史
紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

¥2000（税金・送料込み）



第14号 1995年4月号
特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

¥780 ⇒ ¥390



第19号 1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで…ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ&高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

¥780 ⇒ ¥390



パンクラス公式読本[矛]

９７年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

¥1260 ⇒ ¥630



第15号 1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

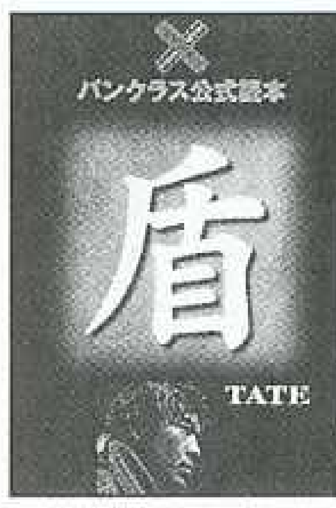
¥780 ⇒ ¥390



極真魂溢れる16人を直撃!
極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／鷹山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

¥1530 ⇒ ¥800



パンクラス公式読本[盾]

９７年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

¥1260 ⇒ ¥630

No.48



02年3月 ¥880

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談実現! 小川直也vsノゲイラ
●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
小川直也／武藤敬司／ミスターポーゴ／ウォーリー山口／ジョシー・デンプシー

No.49



02年4月 ¥880

この夏に究極の格闘技大戦争勃発!? マット界灼熱の噂!
●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●凄! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行! 破壊王も火のヤリ特訓だ!
レッスルマニア座談会／CIMAvsドス・カラスJr.／ウォーリー山口／小畑千代

No.50



02年5月 ¥880

早く試合がしたい!! サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
●充電完了! 桜庭和志が久々の登場!
●パンクラス取材解禁! "尾崎の野郎"も初登場!
●I編集長が新日本に三くだり半!
菊田早苗／大仁田厚／小島聡&NIGO／アレクサンダー大塚／リングスロシア軍団の軌跡

No.51



02年6月 ¥880

ZERO-ONEに願いを! 7・7決戦迫る!
●両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子
●天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談
●"男の中の男"が本誌初登場! 謙吾
小川直也／プレデター／田村潔司／鈴木健／小笠原和彦／ZERO-ONE中村部長／I編集長

No.52



02年7月 ¥880

見えない鎖を引きちぎれ! 行けーッ、小川アァァッ!
●全身プロレスラー・高山善廣
●「トゥーッ!」の素顔を暴露! Mr.フレッド
●USAの渡世人 ドン・フライ
●田村潔司「美濃輪戦を決めた3つの理由」
小川直也／橋本真也／武藤敬司／ロシアン・トップチーム／ブラジリアン・トップチーム

No.53



02年8月 ¥880

灼熱の格闘技ダイナマイト! 世紀のビックイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!
●夢の対談が実現! 高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
●爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
桜庭和志／小川直也／武藤敬司／高阪剛／クレージーMAX／サムソン・クツワダ／一宮章一／トム・ハワード／スティーブ・コリノ

No.54



02年9月 ¥880

ノゲイラ表紙初奪取! 不平等の時代を克服した者こそ英雄になれる!!
●"ミスジャッジ"に猛抗議! ホイス&エリオグレイシー
●"青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●OHビーム発射! 橋本真也×小笠原和彦
ゴールドバーグ／ボブ・サップ／マリオ・スペーヒー／田村潔司／坂田亘／小原道由／猪木快守

No.55



02年10月 ¥880

高田が"最後"に選んだのは田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
●「真剣勝負」発言から7年……運命の男が独白!! 田村潔司
●最後の実力者が遂に『PRIDE』参戦! 金原
●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
●初冬のドームにサクラは咲くか!? 桜庭和志
橋本真也／大谷晋二郎／ノゲイラ&スペーヒー／A・コピィロフ／サスケ&TAKA／佐山聡

No.56



02年11月 ¥880

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
●蘇れ!Uインター伝説!! 安生洋二&金原&高山善廣
●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ～! 鈴木みのる
ニック・ボックウインクル／大谷晋二郎／N・ジョーンズ／TAKAみちのく×カズ・ハヤシ／鈴木健

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送　料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※今号より代引きを開始しました。詳しくはP157、P160を参照してください。

紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋　・渋谷WEST　・新宿　・名古屋　・大阪　・札幌　・福岡
■グレートアントニオ
■東京イサミ

★『紙のプロレス』 NO.1～NO.7／NO.9～NO.12／NO.18／NO.21～NO.22 『猪木とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』『大山倍達とは何か?』は完売!!

紙のプロレス RADICAL Back Number



タマちゃん？ ふざけるな！

今年のマット界の流行語大賞は川村社長「ガチンコ」がブッチギリの1位!!
まだまだ募集中！ NO.46〜55をしっかり読んで投票だ!!



No.5 97年8月 ¥680

高田延彦、樹海へ……初めてのヒクソン戦直前大特集!
●ドン荒川vs藤原喜明“昭和新日対談”
●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
長与千種＆ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー



No.7 完売間近 97年12月 ¥680

反骨の剣ー田村潔司赤いパンツの頑固者、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
●プロレススーパースター列伝・木村健悟
●全女分裂！それでもローリングドリーマー松永会長
●オクタゴンの喧嘩屋・タンク・アボット
前田日明／T・ファンク／アジャコング／ジャガー横田／冬木弘道



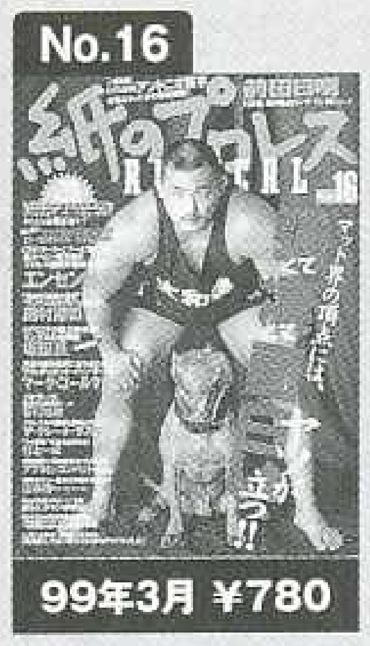
No.10 完売間近 98年6月 ¥680

大和魂は連鎖する一前田日明vsエンセン井上各方面に波紋を投げかけたスクープ対談!
●松永高司vsザ・グレート・サスケ夢の経営者対談
●冬木弘道「プロレスを進化させるとWWFだ」
●元リングスレフェリー北沢幹之引退記念
谷津嘉章／桜庭和志／前田日明／ダイアナ／宮内美穂



No.15 99年2月 ¥780

目を覚ましてください!! 小川vs橋本“1・4事変”勃発!
●A級戦犯か、それとも真の革命児か!? 佐山聡
●前田日明inUSA カレリン戦前のシアトル特訓！浅草キッドの熱烈応援文
●S多重アリバイ・佐野なおき／Mr.K
A・カレリン／高阪剛／馬場さん追悼／語ろうマサ・サイトー／A・浜口親娘／北原光騎



No.16 99年3月 ¥780

格闘ノストラダムス'99エンセン井上のプロレス雑誌表紙奪取記念号
●環境問題を『紙プロ』で語る!?ーアントニオ猪木
●語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ・石川孝志
前田日明／高阪剛／坂田亘／M・コールマン／石川雄規／村上一成



No.24 00年2月 ¥840

頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE.GP』特集
●田村潔司がグレイシー討伐を公約！
●船木vsヒクソン座談会
●WWF大極征！
猪木・鶴田・前田・高田らが黒船を語る！
●サスケ×矢追純一UFO超私櫃宇宙対談！
桜庭和志／堀辺正史／守山竜介／太刀光／嵐／中西百恵



No.25 完売間近 00年3月 ¥840

格闘ロマン続行ーッ!! 猪木イズムを携えた藤田和之『紙プロ』初登場
●グレイシー撃破後の田村潔司を直撃！
●アニマル浜口は15年前から“火の呼吸”を研究！
●暴露本の原点はここにある！ ミスター高橋
前田日明／小川直也／村上一成／サスケ／ダン・ヘンダーソン／ザ・ロック座談会／石川雄規＆小路晃



No.29 00年7月 ¥840

「格闘環境」は刻一刻と変化する！ ノア解禁！方舟の舵を取るのは誰だ!? 秋山準初登場!
●今度はホイス戦！ 桜庭和志
●プロレススーパースター列伝・仲野信市
●本誌独占ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
三沢光晴／ノア勢フルメンバー／村上一成／ボビー・ホフマン／TKおかん／里村明衣子



No.31 完売間近 00年9月 ¥840

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
●桜庭和志×高阪剛のトークバトル中継！レフェリーは浅草キッドだ!!
●川田利明語録
●プロレスという物語について・ダン・スバーン
小川直也／高山善廣／谷津嘉章／堀辺正史／永源遙／ユセフ・トルコ／島田裕二／田村潔司



No.32 00年10月 ¥840

本誌は“新プロレス”を独占します!! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
●田村潔司に快勝!ーA・ホドリゴ・ノゲイラ
●打倒プロレス同盟結成!? 青柳政司×小路晃
●藤波辰爾語録
●プロレススーパースター列伝
前田日明／桜庭和志／山本喧一／金原弘光×滑川康仁／本田多聞



No.34 01年1月 ¥840

プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!! 「猪木祭り」「長州vs橋本戦」を斬りまくり!
●UFCミドル級王者ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝・ミスターヒト
●修斗から『猪木祭り』へ！宇野薫
小川直也／高田延彦／桜庭和志／藪下めぐみ／ボブチャンチン＆オバチャンチン／田中正志／紙プロ大賞2000



No.35 01年2月 ¥840

ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくれ!! 「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZERO－ONE始動！橋本真也×アレクサンダー大塚
●プロレス界統一コミッショナー（就任予定）馳浩が爆弾発言!!
●プロレススーパースター列伝・ジョー樋口
坂田亘／成瀬昌由／滑川康仁／大仁田厚／小路晃／杉浦貴／堀辺正史／田中正志



No.36 01年3月 ¥840

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 面白くなきを面白く! 純プロレス復興記念号
●ノアから独立『PRIDE』参戦!高山善廣を確認せよ!!
●桜庭和志初のシウバ戦ド直前!!
●KOKをしゃぶりつくせ！ 5大企画で大総括!!
金原弘光／ノゲイラ／ヴォルク・ハン／レナート・ババル／TK／田村潔司
三沢光晴／橋本真也／前田日明／大山峻護／W☆ING／ザンディグ／ジニアスXハリー・レイス／鍋野ゆき江



No.37 完売間近 01年4月 ¥840

長州!! 本性出せんのかオラッ!! 小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
●アブダビコンバット2001ー大探検記！ 菊田早苗／田村潔司×ヘンゾ・グレイシー／シェイク・タルヌーン王子
小川直也／橋本真也／桜庭和志／成瀬昌由×山本憲尚／村上一成×小路晃／堀辺正史／石川雄規



No.38 01年5月 ¥840

高田の“忘れ物”は小川!!ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」 5・5小川と長州はどちらが孤独だったのか!?
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子エメリヤーエンコ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー
高田延彦／グンダレンコ・スベトラーナ／力皇猛／杉浦貴／丸藤正道／谷津嘉章／ジミー鈴木／高山善廣



No.39 01年6月 ¥840

どうなるんだ、リングス！ 前田isデッド!? すべての“騒動”に前田日明総帥が答えた!
●選手離脱後の前田道場新エース・金原弘光／滑川康仁
●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
秋山準／山本憲尚／小川直也／成瀬昌由／田上明／石川×臼田×島田／DEEPとは何か



No.40 01年7月 ¥880

開戦間近！ 猪木軍vs K－1に見たいものは“地上最強のプロレス”
●蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説!高山善廣×金原弘光［前編］
●本当か？ 本当なのか!? この叫びを聞け！ 大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
小川直也／三沢光晴／橋本真也／サスケ／郷野聡寛／坂田亘／上山龍紀



No.41 01年8月 ¥880

Can you カミングアウト？“最後の黒船”WWF襲来! どうする「日本のプロレス」!!
●リングス10周年大会！ハンがリングスを振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現！
●W☆INGの真実・茨城清志
小川直也／高山善廣×金原弘光／WWF座談会／辻よしなり／秋山準語録



No.42 01年9月 ¥880

猪木なら何をやっても許されるのか!? アントン総帥の言葉はマット界にとって“福音書”か？“テロ行為”か!?
●失われた“新日本”がここにある!ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●大反響!“ヒャッホー”辻よしなり
●蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
高田延彦／谷津嘉章／カトクンリー／マァ☆ティン／WWF上陸直前特集



No.43 01年10月 ¥880

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! 10・8猪木と小川が「純プロレス」と「純K－1」にリンクを張った!!
●ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー
●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
小川直也／桜庭和志／谷津×グッドリッジ／中野巽耀／須藤元気



No.44 01年11月 ¥880

ノーモアBADアングル!! サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●プロレススーパースター列伝・グレート小鹿
●その修羅場の数々！ シーザー武志
●怪物伝承！ 高山善廣&杉浦貴
ハンス・ナイマン&ディック・フライ／田村潔司／闘龍門大特集／E・ヴァラビーチェス



No.45 01年12月 ¥880

K－1vs猪木軍」は命懸けのエンターテインメントだ!! 『紙プロ』旗揚げ10周年＆RADICAL創刊5周年記念号
●『ケーフェイ』以来の爆弾本投下!ミスター高橋本特集!
ミスター高橋独占インタビュー／前田日明、ミスター・ヒト、佐山聡が「悪魔の書」を語る!
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●葛西純／ウルティモ・ドラゴン／望月成晃／A大塚／金原弘光／矢野×須藤／グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001



No.46 完売間近 02年1月 ¥880

PRIDE.LOVEをぶち壊す男!! 時は来た! 田村潔司、『PRIDE』へいざ討ち入り!!
●さらばリングス！ 金原弘光／浅草キッドの「おつかれさんでした!」
●“ならず者”がDEEPで快勝!ーエル・カネック
●プロレススーパースター列伝・キラー・カン
●金メダルを落とした男・小林孝至



No.47 02年2月 ¥880

WWF日本侵攻5秒前! 激動の新日本、怒りの急展開を読む!!
●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛
大谷晋二郎／小笠原和彦／葛西純／K－1中量級／サスケ／ミスフィッツ

★『紙のプロレスRADICAL』NO.1〜NO.4／NO.6／NO.8 NO.9／NO.11〜NO.14／NO.17〜NO.23／NO.27／NO.28／NO.30／NO.33は完売!!

寒さに負けない元気な読者ページ

紙プロ元気大学

正直、スマン!! 読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。ズバリ今月はお詫びからスタートします。「イラストハガキを送ってくれたみなさま、今回載せる場所がなくてどうもスイマセン!!」。高田vs田村戦についての特集は組むべきだと思ったので、こんな形をとりました。どうでしょ。載せられなかったイラストは、自動的に次号に回ってます。んじゃ、行きますかーッ!!



（山梨県・貝戸夏也）
「オレ今年受験生なのに、こんなことばっかしていいのかなぁ？」➡そりゃぁ、言うまでもなく受験生としてはダメですが、『紙プロ』読者としては非常に優等生だから、いいんじゃない？『紙プロ元気大学』なら、元気ならハガキ送ってくれば合格ですよ。よっ、大学生!! ……ベタなことを書いてしまいました。ま、息抜きってことで、受験もビッシビシ頑張ってね（好フォロー）。

校内巡回

【『紙プロ』56号・面白かった記事】

◎安生&金原&高山◎
★蘇れ！ UWFインター伝説宮戸のエピソードが本当に面白く、電車の中でふき出しそうになってしまった。
（神奈川県・荒井努・37歳・会社員）
➡「抱腹絶倒！」「邪気下し風呂がUインターの強さの秘密だったのか」などなど、56号アンケート1位はブッチギリで「ラッパ先生、お願いします！」……の、裏ゴールデンカップス対談でした。以下、順不同でご紹介します。

◎喫茶店トーク・モード◎
★真夜中の道場マッチが最高！ ありえない妄想なので笑ってしまうが、実に素敵な情景が頭に浮かんだ。
（大阪府・古賀亮平・24歳・フリーター）
➡あの蒼さはすばらしいです。ディテールの細かさが最高でした。「僕もああいう『男の座標軸』を持った人間になりたい（青森県・青木雄大）」と、私も思います。

◎浅草キッド◎
★こいつらおもしれぇ。
（山口県・吉田賢司・25歳・会社員）
➡画家に向かって「絵が上手いね」と言うような感想ですが、素直でいいです。浅草キッドは面白いですよ。

◎高田引退&『PRIDE.23』特集◎
★いつ出るかわからない（笑）『紙プロ』が試合直前に出てくれたので、当日までのオレの気持ちがまるで選手本人みたく、キンチョーしまくり（笑）。
（大阪府・佐久間博・22歳・フリーター）
➡早く出したのに発売日問い合わせの電話の数は変わらず。本屋に行ってねぇな、この人たち、と思いつつも「21日発売です」と言ったら「えぇっ!? 本当ですか!?」と驚かれてしまいました。うーむ。笑い事じゃない。

【『紙プロ』56号・つまらなかった記事】
★つまらなかったのはナシ。だけど紙の新聞が無かったのはいただけない!! ドラゴンネタもゼロでたし。ドラゴンネタがない『紙プロ』は、渡辺真理のいない「ニュースステーション」だ!!

（大阪府・松浦伸宏）
➡前々号の「男の夢」リングスの殿堂ネタ。微妙に笑えるような笑えないような、ちょっとドキドキ。



（東京都・八武崎貴広・19歳・大学生）
➡でも、その例えでいくと、無いほうがいいってことじゃないの？ 違うの？ 他にも「いちばん楽しみにしてる『紙の新聞』がない」など、あまり素直に喜べない同様意見多数でした。

◎ターザン山本・長州力をブッた斬る!!◎
★幼い頃「長州 力子」と兄にあだ名をつけられて以来、キライな長州の記事だから。あと、ターザンさんが最後に「さびしいよぉぉぉぉ」って書いているのが、酔った時の私の日記みたいだから。Wトラウマ。
（東京都・カミン。・28歳・編集制作人）
➡小学校の頃、私の同級生にも同じあだ名の人がいました。長髪真ん中わけでした。さびしい日記はさびしい時に読み返すとツライので、クリスマスシーズンなどは特に気を付けて下さい。

【『紙プロ』にやってほしい企画】
★ボボ・サックの通販。
（鹿児島県・節政徹也・14歳・学生）
➡55号の「紙プロ元気大学」にあったネタですね。これでアナタも晴黒肉弾大魔神……って、下ネタにすぐ飛びつきやがって、この中学生ソウルが！ あれ、本当に中学生じゃん。なら、いいや。

★『紙プロHand』をドコモでも見られるようにしてくれ！
（東京都・ドラゴンイズム伝承者・他多数）
➡やっちゃうぞバカヤロー！ 急いでページをめくりなさい！ そしてもう一度こっちのページにも戻ってきなさい。

★背中を全裸の女性に刺されるのはPOPじゃないと思います。
（埼玉県・中川雅博・25歳・イラストレーター）
➡がんばれ棚橋。01年のトニー・セントクレアー戦はすごくよかったよ。

紙プロ元気大学調べ 今月の好きなレスラー人気ランキング!!

順位	選手
1位	桜庭和志
2位	高田延彦
3位	田村潔司
4位	ケンドー・カシン
5位	ドン・フライ

こちらもUインター勢が文句ナシって感じでベスト3を独占しました。高田が一位かなと思っていたのですが、それでもサクが一位というところが、男の中の男という感じです。興味深いのが続くカシンとドン・フライ。『PRIDE.23』の後でフライがランクインしてくるところが面白いなぁと思わせました。嫌いな選手はフリーになったあの選手がブッチギリ、2位と合わせて師弟コンビで独占なのですが、カチ食らわされそうです。
（11/11～12/8到着分調べ）

紙プロ56号・読者が選ぶ面白かった記事ベスト5

順位	記事
1位	蘇れ！ Uインター伝説 裏ゴールデンカップス・安生&金原&高山対談
2位	高田延彦インタビュー
3位	Uインター事件史
4位	浅草キッド・大いに悩む!!
5位	Uインター元取締役・鈴木健インタビュー

大きな差をつけて「蘇れ！ Uインター伝説」がトップに。続いて、長年のファンからの票を得た高田延彦インタビュー、若いファンにも好評だったUインター事件史。天才2人が思いを語り尽くしてくれた浅草キッドの決意表明が4位、鈴木健インタビューと、まるっきりUインター勢に染まったベスト5でした。

（青森県・青木雄大）
「大久保ちゃん、あんまり女の子に厳しいと、刺されちゃいますよ！」➡前号登場してくれたU-FILE勢、さっそくネタに。大久保ちゃん、女の子に優しそうなのに、実はチェック厳しい人だったんですね。そういえば前号ビデオを募集した「ウルルン」は、中川画伯が貸してくれました。ありがとう画伯。でも「晴れたらイイネ！」の船酔いドラゴンビデオのほうは、ぜひお願いします。





（埼玉県・中川雅博）➡先月のリクエストに画伯が答えてくださいました。武藤敬司&グレート・ムタ!! おぉ～、いいっスね!! かわいい～。しかし画伯本人は「この絵は高校生レベル。描き直す気力がねぇんです」と、えらくロー・テンションなお言葉。忙しい中センキューでした。リクエストは「ほんとにジョーク」あての希望Tシャツデザインの中より、豪ing undergroundさんの「ガス欠後のコピィロフ」というリクエストが面白いので、こっちにお願いしてみよう。これがTシャツになったらどうなるのか非常に見たいとは思いますが、今回はボツだったので、またハガキ送ってください。

衣料部・Tシャツ自慢コーナー



（静岡県・目ガ覚メタロウ）
「ビッシビシと魂も暖まる『魔界倶楽部トレーナー』、中川画伯、誠に有り難う御座います。どげんもごげんもなかろうよう。まったく嬉しいたい」➡前号の「ほんとにジョーク」採用の目ガ覚メタロウ氏より、いつもの自慢、じゃない、ご報告です。いいなぁ。バックスタイルも気が利いてる。新日本さんがグッズ化してくれる日を待ちましょう。それにしても毎号、翌月までに制作してくれているのがスゴイ（そしてそれを間に合わせるように送ってくれる目ガ覚メタロウ氏もすごい）。



紙プロ元気大学 特別講座

「私が感じた高田×田村」

前号の読者ページ、そして『紙プロ』の携帯サイト『紙プロHand』で、『PRIDE23』の感想を募集したところ、たくさんの感想が届きました。掲載しきれなくてゴメンなさい。今回特別に、ささい独断で『紙プロ』病気部の武田いづみちゃんにも原稿をお願いしました。あの試合を体験した、すべての人に送ります。

奇跡の興行を見ました。「美しい」と言う感想しか出てきません。(M・Y)

今、夜中の二時すぎ。高田と田村の試合の結果知りました。セコンドの宮戸とヤマケン、田村の坊主頭、レフェリーの和田さん！ そのへんの単語だけで胸いっぱいです。こんな気分はひさしぶり。(名無し)

「……」こんな気持ちにさせたのは、借金をつくって失踪した父親以来です。涙しか出ません。(ププッピDo!)

シウバに「そんなやつ殺せーっ!」とか、高田vs田村の時のかるい野次やブーイング。高田が去った後すぐの桜庭のテーマにノリノリの観客…。ちょっとついていけませんでした。(I・Y)

勝った瞬間に崩れ落ちた田村に感動した！ 試合内容より田村の心の痛みが伝わる試合だった。(足関十段)

感想。いろいろと考えたけど、ひとこと。「苦い」。(しみ)

こんなに切ない師匠超えがあっただろうか？ 見てて胸がズキズキしました。(グレード佐藤)

何も言うことはない！ 泣きました。高田を殴れない田村の気持ち、思いきり殴って勝ち、高田の引退試合を終わらせた時の田村の気持ちが、こちらにまでチリチリ伝わってきた。これこそがプロレスだと思う。(from mars)

今日のPRIDEは吉田フライ戦がメインイベント。あとの二試合は別の興行だったのではないでしょうか。高田劇場最終公演、みたいな。いやあの二試合も決して悪くはなかったんですが……複雑ですなあ。これもPRIDE、ってことなのかなあ。(H・K)



特別寄稿

病気部日記「病気ですか〜〜ッ!!」特別編

紙プロ病気部・武田いづみ

『22歳の別れ』

先日、ボロボロになって彼と別れた。理不尽さとせつなさで、のたうちまわっている。「別れ」というものを考える。今、私は22歳。「それでも彼を嫌いたくない」と思っている。私は、青い。のたうちまわっている。

11月24日が近づいても、私はまだ迷っていた。こんなものを、こんな身体で受け止められるんだろうか。なんかもう、ホントに「死んじゃう」んじゃなかろうか。——高田延彦引退である。

当日、それは「死にに行く」という気分だった。ただでさえ別れに苦しめられているのに、なんでまた自分から別れの場面に飛び込んでいかなきゃいけないのか。あたしはマゾじゃないっての。でも、いつまでも家でぐったりしているわけにもいかない。あたしはマゾじゃないんだ。

決意した人との別れは、どうしようもなく痛い。バカで幼稚で弱くて優しくて嘘つきな彼は、決意した。その前にも後にも、私をメチャクチャに傷つけて。（べつに冗談とかじゃなく、愛してるよ。でも行くんでしょ。わかってるよ。もう止められないから痛いんだ。）

私はのたうちまわっている。

高田延彦は決意した。引退。高田と「現役」との別れ。「現役」は高田と別れられるんだろうか。のたうちまわらずに。高田vs田村という意味は、私には見えなくなっていた。そこにあるのは、ただ高田とその「別れ」だ。田村の位置付けがうまくいかない。田村は、なんなんだ。私は、どこからどう観たらいいんだろう。

リングに立った高田が、空を見て眉をしかめた。その瞬間、「田村潔司は私だ」と思った。2つの物体が、触れる痛みに耐えながら慎重に接触する。〝触れる〟ことは、〝終わる〟ことだ。私は身を硬くした。高田、惜しんでくれ。一秒でもそこに居ることを惜しんでくれ。今そこに居ること、今まで22年間そこに居たこと、それを惜しんでくれよ。私は同じ姿勢のまま少しも動かずに、のたうちまわった。

別れは、その周りにあるものがきれいでも、汚くても、痛むんだ。失うんだ。高田の「別れ」を潔く受け入れることはできない。というよりも、目の前でジリジリと進行していく別れを観ながら、別れは潔く受け入れてはいけないもののような気がした。

こう考えることがバカげているとしても、私はひたすら「この試合が終わらなければいい」と思った。最後の一撃、あの時の「終わらせてしまった」田村のハッとした顔。ゴングが鳴った後の田村の泣き顔は痛すぎて、つらかった。ここ何日かに比べたらほんの少しだけど、涙が出た。感動でも感傷でもなく、ただ痛くて涙が出た。

高田は田村に「嫌な役目を引き受けてくれてありがとう」と、さわやかに言った。田村は〝高田延彦を観てきた者〟、〝現役〟という、ハッキリしていながら形のないものを背負い、別れの痛みを一身に受ける役目だった。あれは、本当に痛くて痛くて、嫌な役目だったに違いない。

「別れ」は痛い。そして、できることならば別れる者同士は痛み合いたい。あの時、高田はそのリングに立っていることを一秒でも惜しんでくれただろうか。それを思うと、まだ身体の奥のほうが痛んでいる。それは、時間が経たなければ消せない痛みなんだろうけど。

高田延彦がデビューした22年前に私は生まれた。私はまだ、こんなにも青い。恥ずかしいくらいに。それを認めてしまおうと思う。個人的な「別れ」にのたうちまわりながら、私は逃げるのをやめよう。痛み合ったことを見苦しく確かめよう。ここまで私的なものとして試合を観たのは初めてだ。あれはあたしの試合だ。ちょっと、そういうことにさせといてください。

いつみちゃんへの感想・ラブメールはizumi_0630@hotmail.comへ、ビッシビシ。

おハガキ・メール大募集!!

今月は特別版！ 歴史に残る一戦の後ってことで、読者ページもずいぶん思い切ったことをしてみたつもりなんですが、い、いかがでしたでしょうか。イラストハガキ、載っけられなくてゴメンなさい。来月にまわします。え〜、『紙プロ元気大学』では、ご意見、ご感想、イラスト、写真、その他、元気と思い入れのつまったお便りを募集してます。

宛先は、メールは、radical@kamipro.com

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702

(株)ダブルクロス紙のプロレスRADICAL編集部

紙プロ元気大学「もっとやりたかったな〜」係まで。

（本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！ プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと）

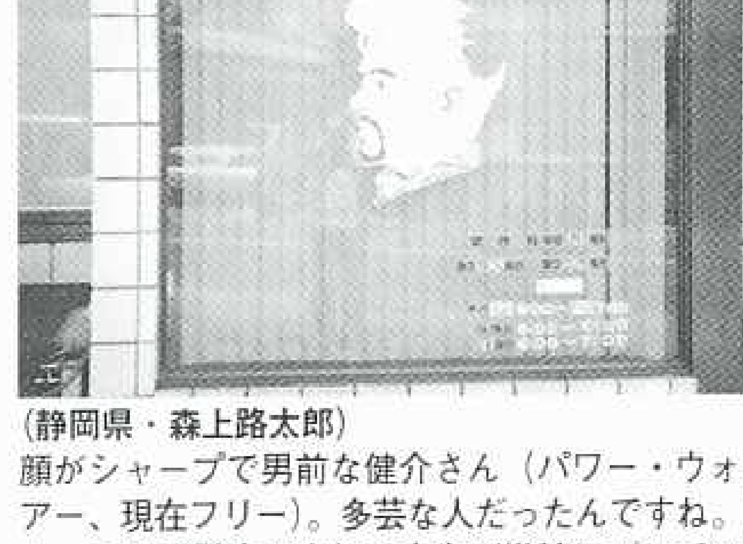


（愛知県・たっつぁん）

「金ちゃんの敗北はある意味、高田の負けよりも残念でした。せめて判定負けなら欽ちゃんが『何とかしてよ〜、がんばったんだからさ……』と言ってくれそうですが……」ども、いつもお世話になってます。毎度「ほんとにジョーク」あてのおたよりです。コメントルームでもボヤキっぱなしだった金ちゃん。翌日も「まったくダメージないよ」と言っていたそうです。残念すぎる。もう一丁！（DSEさんもう一丁！）

今月のタレコミ部

悩める健介、12年前に美容理容世界大会に出場していたことが発覚！



（静岡県・森上路太郎）

顔がシャープで男前な健介さん（パワー・ウォーリアー、現在フリー）。多芸な人だったんですね。しかし、この理髪店は宣伝の方向が微妙にズレていて心地良し。

紙プロ電気部&編集部の送る携帯電話向けサイト
『紙プロHand』iモード参入決定!!
「ドコモユーザーの皆さん、僕(紙プロ)と〝真剣勝負〟して下さい!!(7年前の田村風)」

紙プロHand」だ!!

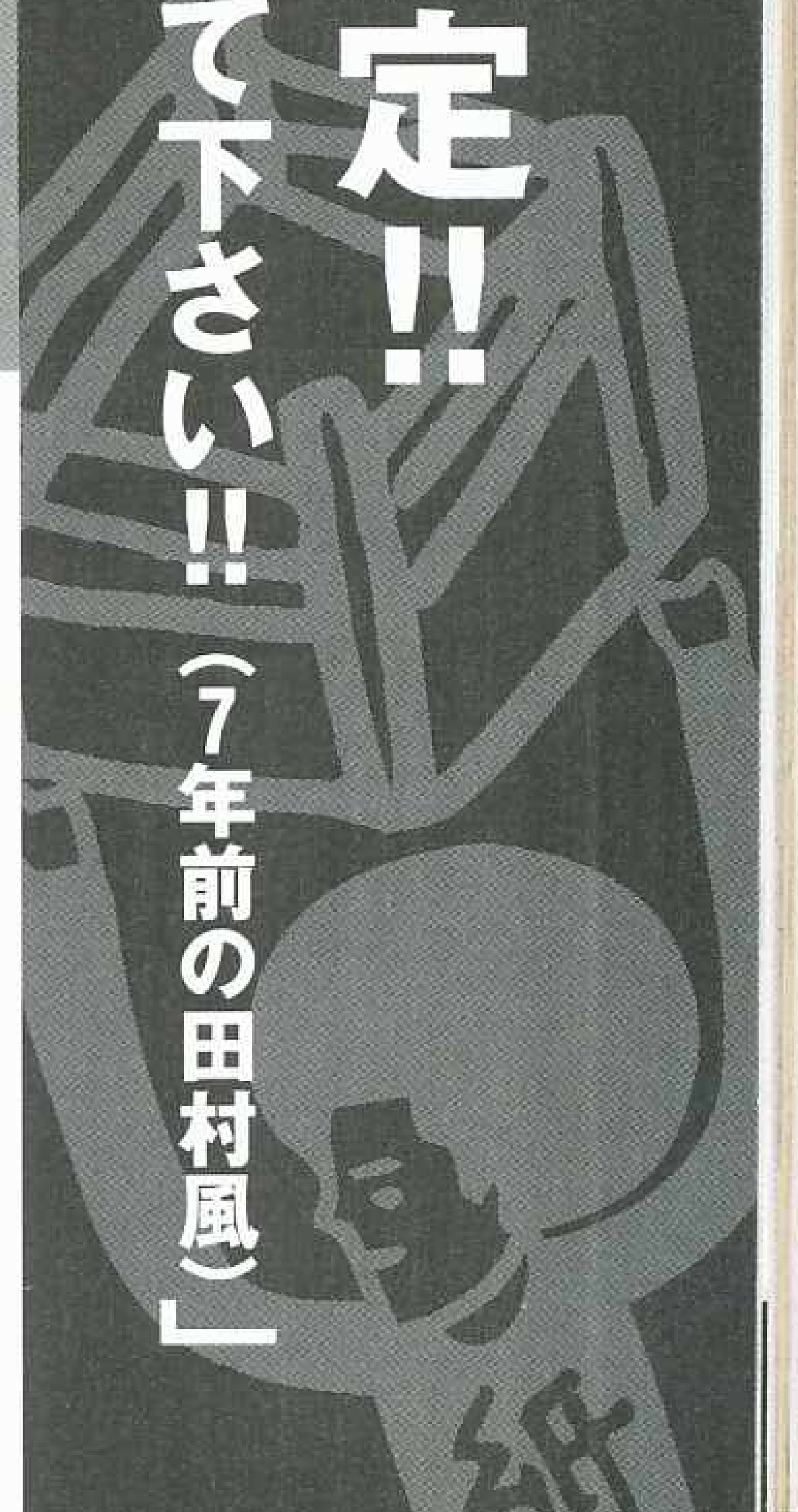
2003年1月中旬より配信決定!!



- 0 本日更新記事 — 新しい記事が、探す手間なく読める!!
- 1 メインニュース — 会見・大会、事件の詳報を、『紙プロ』的切り口でその日のうちにアップ!!
- 2 試合結果速報 — ビッグマッチ・注目団体の試合結果もすぐにチェック!!
- 3 団体別トピックス — 『紙プロ』の注目する団体・ジャンルの、細かい情報をチェック!! 「PRIDE」「総合格闘技」「K-1他立ち技系」「WRESTLE-1」「全日・新日・NOAH」「ZERO-ONE」「闘龍門」「高田道場」「女子格闘技&プロレス」「アナザー」
- 4 おすすめ団体ミニサイト — 『紙プロ』おすすめ団体の選手情報や、待画etcのお土産コーナー!!
- 5 仰天ふろく
- 6 紙プロコラム
- 7 ラディカルコーナー
- 8 試合スケジュール
- 9 あんたが便りコーナー
- 紙プロ最新号情報

スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand

※現在開発中のため、メニュー・内容が実際のものとは異なる場合があります。ご了承くださいまし。



え〜、お待っとうさんでした!!(これはヤマケン風)『紙プロHand』がスタートして1年と2カ月、ようやくauユーザー以外のみなさんにも見ていただく機会ができました。いやぁ、長かった。あちこちで「なんで『紙プロHand』って、ドコモでやらないの?」と聞かれるたびに、やりてぇのはヤマヤマなんだよ、ていうか、やらせろよ、と、思春期男子のような憎まれ口を心で叩いていた日々に、やっとおさらばです。ドコモですよドコモ。iモードですよiモード。プロレスファンにとっては『週プロ愛モード』で有名なiモード。1月中旬、『紙プロHand』が、ドコモでスタートします。価格はEZ版より上がりますが、内容も、超・大幅に改訂します。

なぜ、こんなに喜んでいるかというと、ブランド差別じゃなくて、単に、見てもらえる人が増えるのが嬉しいんです。「見たくない」のはともかく、「見たいのに見れない」という状況を、出来る限りゼロに近づけたいのです。だから、「ドコモで見れないの?」という声が、胸に痛くて悔しかったのです。「Jフォンでは見れないの?」という声もあり、それはまだ痛いのですが、ともかく。ドコモユーザーのみなさん、ズバリ言って加入してください(ストレートに頼んでみた)。月額300円、損はさせません。EZ-webユーザーのみなさん、ありがとう。そしてこれからもヨロシク。これを書いているこの日にも、更新してますよ〜。EZ-web版の大幅リニューアルは、今、いっぱいいっぱいなので、もう少し待って下さい。必ず、さらなる良いものにしていきますので。(ささきぃ)

月額200円 「EZ-web版紙プロHand」も絶賛配信中ダーッ!!

トップメニュー
▼
遊ぶ・楽しむ or EZインターネット
▼
スポーツ
▼
格闘技
▼
紙プロHand

i-mode版が待ちきれない人は、こっちに加入してしまえ!! (両方加入も歓迎)

EZ-web版『紙プロ Hand』メニュー

- ★動画対応の機種なら、動画も見れる!!
- ★日々のニュースをどこよりも早くドラマチックに送る「メガNEWS速攻」
- ★マット界の流れをもう一度見たいときに「メガNEWS保存版」
- ★コボレ話的な話題や情報もフォローする「マット界ブッコミTOPICS」
- ★団体別にニュースや情報を整理した「団体別TOPICS&試合速報」
- ★他のサイトでは、絶対見れない画像付き「ビジュアルNEWS」
- ★『紙プロ』表紙やとんでもない画像も、あなたの携帯にダウンロード! 「画像ギャラリー」
- ★1カ月ごとに見れる「試合スケジュール」でアナタのスケジュールもバッチリ!
- ★「マット界・噂の万華鏡」などのお手軽に読めて濃い読み物も満載!!

月額300円 これが「i-mode版

『紙プロ』にしかない、着メロ・秘蔵待画・iアプリゲームをゲット!!

毎週更新、日替わりコラム!! 吉田豪の「入院させてよ」、山口日昇の鬼畜日記(これだけ不定期)他、大物選手のコラムを予定!!

本誌では読めない「幻の編集後記」、「電気部日記」もココで読める他、読者ページ「紙プロ元気大学」への投稿もできる!!

本誌「RADICAL CALENDAR」が携帯でチェックできる!!

「好きなレスラー・嫌いなレスラー」他、あなたの一票が業界を変える!? 結果は本誌にて発表!!

発売日がすぐわかる!! 内容もチェックできる!!

iMenu ▶ メニューリスト ▶

『紙プロ』と『紙プロHand』は、どう違うのか?

『紙プロ』は雑誌で、『紙プロHand(以下『Hand』と略)』は、携帯電話のウェブサイトです。そんなもん見ればわかりますね。

たまに「それは『紙プロ』が携帯で読めるんですか」と言う人もいます。雑誌の記事が読めるわけじゃありません。内容は上のような感じです。『紙プロ』らしくないと言う人がいると思います。直接言われたこともありますが、こういう時使われる「『紙プロ』らしい」というのは、ハッキリ言えば「携帯で試合結果を配信したりするのは、発売日がいい加減だったり誤植があったりする『紙プロ』らしくない」ということなので、そんな「らしさ」で、切り捨てられてたまるかなのです。

ビッグマッチや、事件が起きたとき、それをすぐ知りたいと思うのは、興味があれば自然なことです。知りたいと思う人がいるならば、その人たちのために、出来る限りのものを配信しようじゃないか。というのが、基本的なところです。知りたいと思ってアクセスして、その結果知ることが出来たとき、その人は、きっとその行為によってもっとプロレスや格闘技が好きになるだろう。『Hand』に日々の情報および事件発言試合結果、そしてコラムを配信しつづけることで、プロレスおよび格闘技に対して、毎日毎日、時間単位、分単位でもっともっとワクワクしつづけてもらいたい。選手が肉体をかけて挑む試合を、もっと楽しめ、手に汗握れるように。

そして、月一回の雑誌『紙プロ』では、試合・事件の中で浮き上がるレスラー、格闘家の人間そのもの、事件、試合の本質に迫る読み物を。毎日の発言、事件、そのすべてが繋がる一戦を深く感じ取ってほしいから。

つまり『Hand』と『紙プロ』は、形態だけじゃなく、伝えようとしている内容において別ものなのです。でも、読者(ユーザー)に、もっともっと、プロレスも格闘技も面白がって欲しい、っつー、基本の志は一緒です。

別ものメディア両方が揃うと、よりお楽しみいただけます。両方そろってこそ面白いです。絶対に。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

ページの都合により、今月は1ページでお送りする情報ページ。こんにちは、担当のささきぃです。東京にも初雪が降り、毎日とても寒いですが、ここでは寒さに負けない熱い情報をお届けします。きっちり読んで、冬休みの計画に役立ててください。よろしく。

大会★GUIDE

>>>年内最後のスマックは、ライト級・ミドル級トーナメント決勝戦!!

ディファ有明から、東京FMホールに場所を移して行われるスマックガール、目玉はライト級・ミドル級トーナメントの決勝戦。ミドル級は、高速タックルのレスリングクィーン・辻ちゃんこと辻結花と、情念の禅道会ファイター・金子真理の闘い!! そして、ライト級は「負ける気がしない。100%自分が勝つ」と言い切った渡邊久江が、無敗の女王しなしさとこと激突!! 自分こそがライト級チャンプに相応しいと信じて疑わない2人の"女王様対決"は見逃せない!! そして、次世代スターとして評価の高い玉井が、久しぶりにスマックに登場する久保田に挑戦!! チケットは完売間近、当日券は若干枚だが、15時より発売するぞ!!



ミドル級トーナメント決勝戦

辻結花（闇愚羅）　金子真理（禅道会）



ライト級トーナメント決勝戦

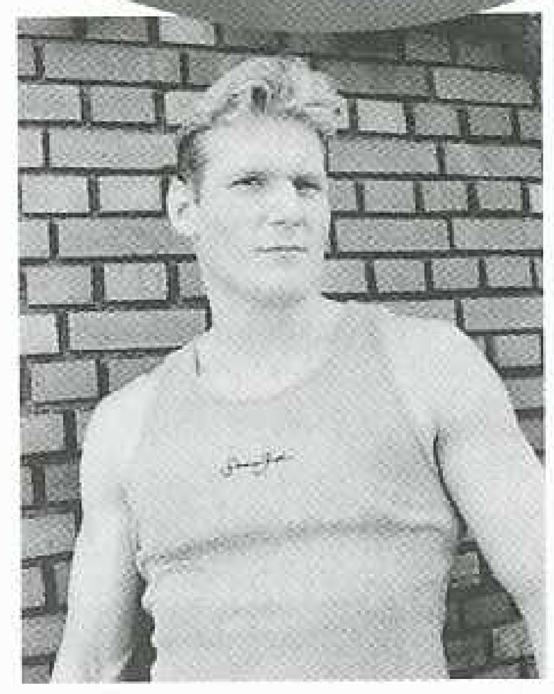
しなしさとこ（AACC）　渡邊久江（LIMIT）

『格闘エンタテイメントSMACKGIRL ～JAPAN CUP 2002 FINAL～』　The last performance of 2002
★日時：12月29日（日）　★試合開始16:30
★会場：TOKYO FMホール（営団地下鉄半蔵門線「半蔵門」駅下車徒歩3分）
★チケット料金：SRS指定席10,000円（最前列のみ/前大会オリジナルビデオ付）／SS指定席5000円／指定席3000円
★問：スマックガール実行委員会 03-5545-4766
★オフィシャルHPアドレス http://smackgirl.com/

▼SGSルール
坂口一美（GF2）VS Eika（拳士館）　亜利弥'（フリー）VS 金井広美（GF2）
▼SGGミドル級　1DAYトーナメント（※参加選手の組合せは当日発表）
眞武和恵（和術慧舟會）・Sayaka（GF・AACC）・大門まい子（闇愚羅）・二宮亜基子（ALIVE）

緊急決定!!　久保田、5カ月ぶりの試合を勝利で飾れるか!?
久保田有希（荒武者）VS 玉井敬子（三晴塾）

>>>ジョシュ・バーネット、いきなりIWGPに挑戦!!



新日本、新年最初から大激震!! 前UFC王者が、IWGPヘビー級王者に挑戦する!! 12月1日、新日本プロレスの贈る新年最初の大会・1月4日東京ドームの一部カード、史上最年少のUFC王者ジョシュ・バーネットのIWGP挑戦が正式に発表された。『紙プロ』54号インタビューで、Uインターの熱烈なファンであることを明かし、三沢光晴のタイガードライバー、タイガースープレックス、エメラルド・フロウジョンは全部マスターしている上に「ボクにはオリジナルホールドまであるんだよ！」と、自身の必殺技まで考えているという見事なプロレス・ファンぶり、いや、実力の片鱗を見せたバーネット。"青い目のケンシロウ（※バーネット本人が考えた、自分のキャッチフレーズ）"バーネットのオリジナル・ホールドが披露されるのか、それとも永田がUFC王者相手にプロレスを叩き込んで勝利するのか!? ＴＫと高山のＮＷＦ王者決定戦もこの日行われる。この２人が新日本でベルトを争う図など、今年最初、だれが想像しただろうか!? 必見だ!!

『WRESTLING WORLD 2003』
★2003年1月4日（土）東京ドーム　試合開始15:00
【IWGP ヘビー級選手権試合】＜王者＞永田裕志 VS ジョシュ・バーネット＜挑戦者＞
【NWFヘビー級トーナメント決勝戦】高阪剛 VS 高山善廣
★問：新日本プロレスリング（株）03-5468-3111

スクール★GUIDE

>>>堀辺先生の講演会「祖国を忘れし者に告ぐ」!!

格闘技界の哲人こと堀辺正史創始師範。「祖国を忘れし者に告ぐ」と銘打たれた講演会は、歴史の真実を武士道という観点から分析し、戦前と戦後で分断されてしまった歴史を繋ぎ合わせ、真の日本人像を探るという目的で開催されている。参加費は無料で、一般の人も多数参加している。
「日本人とは何者なのか」ということに興味のある人は、ゼヒ参加してみよう。
★開催日　毎月第4日曜日
（次回は12月22日）
★時　間　13:00～15:00
★参加費は無料。参加希望の方は日本武道傳骨法會まで問い合わせること。〈予約制〉
★問：日本武道傳骨法會事務局
03-3362-0010

イベント★GUIDE

>>>ターザンと新年を過ごそう!

"猪木祭り"をウラに回して行われる、年内最後の新宿プロレス。終了後、26時からターザン山本スペシャルトークショーに、本誌スーパーバイザー・吉田豪の参加が勝手にブチ上げられているが、吉田豪もどんな内容になるんだか、どんなゲストがいるのかも全く知らないという（山口日昇は正式に欠席を表明）。新宿プロレスでカウントダウン、そのままトークになだれこめ！

『新宿プロレスpresents　We Love プロレス～カウントダウンプロジェクト～』
★日時：2002年12月31日（火）
★試合開始21:00（予定）
★場所：新宿クラブハイツ
※終了後、26時より「ターザン山本の闇討ちスペシャルトークショー」
★チケット・問い合わせは：
ロックウエスト03-3200-9781

春一番★GUIDE

>>>アントン総帥公認!!『春一番の炎のファイター』発売ッ!!

2000年6月28日に発売された伝説的企画物アルバム「レッスル・ディスコ・フィーバー・デラックス」の1曲目に収録された、春一番の「炎のファイター～INOKI BOM-BA-YA～HAL2000 MIX」が、アントン総帥の公認に!!　芸人・春一番の芸能生活の集大成ともいうべき感動の作品が新録および完全版として登場する！C／W曲は『元気ですか体操』!! 元祖"元気になるＣＤ"の発売は1・2・3・（1月23日）ダーッ！



Wood-eye レーベル第一弾
『春一番の炎のファイター』
―INOKI BOM-BA-YE Haruichiban-Remix―
商品番号：WI-10123　価格：¥1000（税抜き）
C/W 元気ですか体操・春一番の炎のファイター［カラオケ］全3曲収録予定
★発売・販売：株式会社ウッドベル
2003年1月23日（木）発売!
★お問い合わせ：
株式会社　ウッドベル 03-3405-1622

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■藤原組長の関節技セミナー開催!
バトラーツジム「B-CLUB」で、藤原喜明組長の関節技セミナーを開催する。伝説の技を身につけるチャンス!　なお、B-CLUBでは今後もプロ選手によるゲストセミナーを開催していく予定。会員なら、参加費もお得!　この機会に入会してみては?
★日時：2003年1月25日（土）19:00～
★参加費：B-CLUB会員 1000円／一般4000円
★問：バトラーツジム「B-CLUB」
048-963-7515

■大谷晋二郎応援会リニューアル!
大谷晋二郎公認応援会「TEAM OHTANI」は、より大きな活動をしていくため、2003年からリニューアル。大谷選手はもちろん、ZERO-ONE選手会もサポートし、ZERO-ONE情報を含めたFCとして生まれ変わる。それに先立って、大谷選手およびZERO-ONEを応援してくれる人を大募集。入会希望の人は、住所・氏名・年齢・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記まで連絡すること。ファンレターも送ろう。
★問：〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　6F ZERO-ONE事務所内「大谷晋二郎公認応援会・TEAM OHTANI　入会係」
★E-MAIL zero_tyu@yahoo.co.jp

■K－DOJO、大会料金の変更
千葉・Bule Fieldで毎週土曜に行われている「CLUB-K2000」の入場料金が、大人2000円から3000円に変更になった。それにともない大会名も「CLUB-K3000」に変更。なお、高校生500円の料金と、小中学生無料!は変更なし。火曜、木曜のCLUB-K500は　大人500円、高校生300円、小中学生以下無料と変更はなし。土曜のみ料金変更となる（来年から火曜の試合は無くなる）。K－DOJOの送る年内最後のビッグマッチは、12月23日（祝）ディファ有明で行われる。特別指定席5000円、自由席4000円、小中学生自由席1000円。指定席は事務所・Blue Fieldのみで発売。詳しくは直接K－DOJO事務局まで。
★問：K－DOJO　043-214-6960

■TVアニメ「タイガーマスク」がDVDになる!
タイガーマスク全105話+タイガーマスク二世33話が完全DVD化!　第1話から36話までを収録した『タイガーマスクBOX1』は、2002年1月21日、東映ビデオ株式会社より36000円で発売。BOX2、BOX3と続々発売決定!　これを見て、お前も虎になれ!!
★問：東映ビデオ（株）宣伝部　03-3545-9302

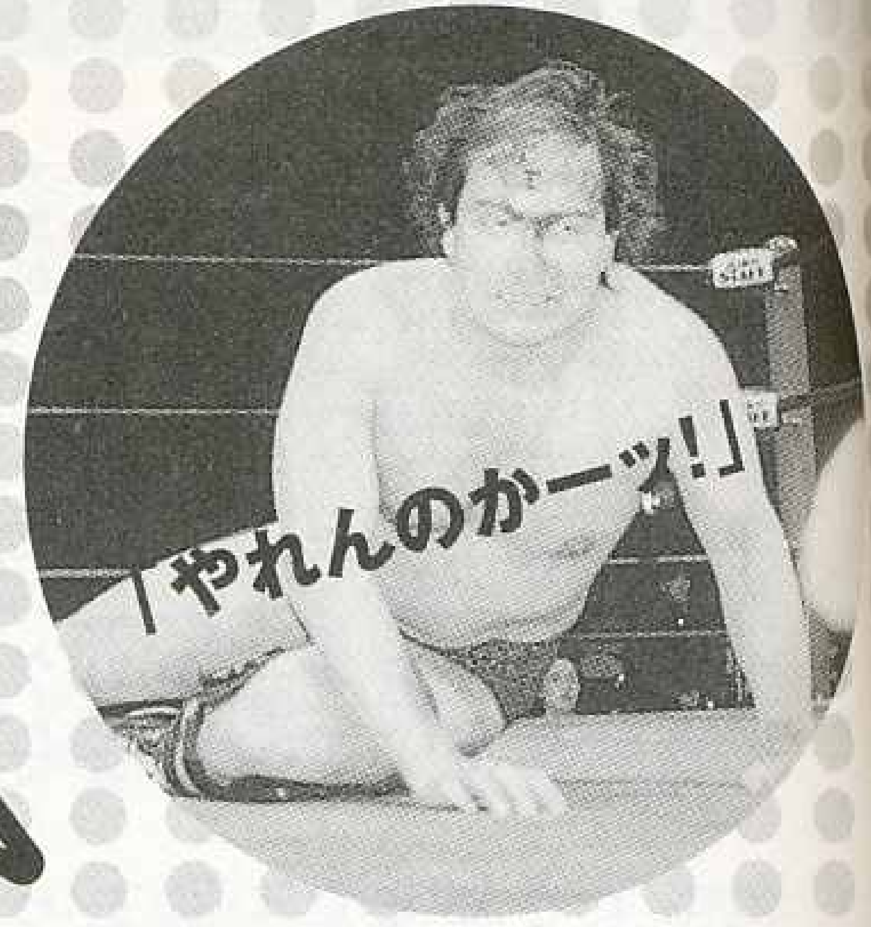
■今月のBCG情報局
BCGでは今年最後のビッグプレゼントキャンペーンとして、入会月の月会費無料!　さらにお宝グッズプレゼントという、まさにビッグなキャンペーンを行っている。先着20名のこのキャンペーン、定員は残りわずか! 興味がある人はすぐに電話をなお、BCGのジム納めは12月28日、2003年は1月6日から始まる。
★問：BCG 03-3560-7911

■"GRABAKA"ジムが会員募集中!
菊田早苗、郷野聡寛、佐々木有生、佐藤光芳、石川英司、三崎和雄、山崎剛らが直接指導!　パンクラス"GRABAKA"の格闘スポーツジムがオープンした。プロ志望者はもちろん、ダイエットにも最適。フィットネス感覚で利用できる明るいジムだ。12月中の申込みは、男性20000円・女性15000円・高校生10000円の入会金がそれぞれ半額になる。月謝は一律10000円、ジムは18:00～22:00までオープン。土曜は14:30～21:30。日曜日は定休。くわしくはHPにアクセスするか、問い合わせしてみよう。
★所在地：東京都中野区東中野4-27-26 ビューフラット1F 03-5348-3092
★HPアドレス http://www.grabaka.com

はみだしNEWS　あの"青空プロレス道場"が帰ってくる!!　2003年2月23日PM7:00よりスタート、詳細は次号で!!
問い合わせは（株）ダブルクロス03-3403-5188&池袋コミュニティカレッジ03-5992-0496まで!!

ジニアスの新テーマ曲は「魅せられて」だとさ

BEST OF THE スパーファム™





新春“悲しき天才”シリーズ

$ナポレオン興行$

裏ドーム1・19北沢タウンホール・ダブルヘッダー(13:00&17:30)

あの“悲しき天才”セッド・ジニアスがリングネームを“闘う帰国子女”ナポレオン S.ジニアスに改名。1・19北沢タウンホールで、なんとダブルヘッダーを敢行するという。前回の大会ではミスター高橋もリングに登場したジニアス興行。『W-1』ドーム大会の裏で、一体どんなファンタジーファイトを見せてくれるのか？SATA...yarnも顔負けのジニアスのエンターティナーぶりをとくと堪能しろ！

【問い合わせ】03-3362-3014 渡辺事務所まで

アパッチ野球軍DVD-BOX発売がとてもうれしい

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL



小室の結婚披露宴をテレビで見てたら、内田裕也・安岡力也・白竜が来てるのでビックリ。南こうせつが「妹」を歌ったあと、裕也さんが「コミック雑誌なんかいらない」、白竜が「誰のためでもない」、力也が「ホタテのロックンロール」を歌って実にいい披露宴でしたね（フィクション多少入ってます）。テレビ画面をウォーリーをさがせのように凝視したけど、さすがにイズマイウはいなかったな。なに食わぬ顔でテーブルに座っていたりとか、ウェーターに扮してワイン運んでる姿を想像してたんだが……。

それにしてもボブ・サップがいろんな番組に出まくりで毎日なにかしらテレビに映っているが、あれがイズマイウだったら？と思えば、それはそれで凄え面白そうだなと感じずにはいられない。ダウンタウン松本が、イズをどう料理するのか？　浜田にデコ叩かれてイズはどんなリアクションを？　土曜の朝に上沼恵美子とイズはどんな会話を？

サップのスピード出世ぶりに地団駄踏んでいるのは、当のイズマイウであろう、「あんな新入りがナゼ？」」と。そしていろいろリサーチした結果、サップがブレイクしたキッカケは“対K―1人形との闘い”と、イズは直感。「よし俺も！」と、いま発売しているヒクソン人形を購入し、さっそく自主トレ開始。ヒクソン人形に悪態をつき、かじりまくるイズマイウ。しかしこのヒクソン人形が、とても硬くて重かった。口を切りまくって、血をダラダラ流しまくるイズマイウ。それでもジャパニーズドリームを夢見て、このトレーニングをやめない。はじめは笑って見てたロス道場のメンツも、一日中ヒクソン人形に話しかけ噛みついてるイズに、恐怖を感じ始め練習に身が入らない。そんな不気味に凍り付くロス道場に顔出しにきた猪木は、窓越しにこの不気味な光景を見てドアを開けるのをためらい、窓からアラン・ゴエスに「どうなってんだ？」とアイコンタクト。ゴエスは口をへの字に曲げ手の平を上にして「わかりませ～ん、ボス」とジェスチャー。数々の修羅場をくぐってきた猪木は、今日はこのまま家に戻った方がいいと判断し、ゴエスに「俺帰るわ」とアイコンタクトし車に戻るのでした……まで。『PRIDE23』にイズマイウ出てたら、最後の集合写真の時にどこまで前に出てくるのかな？とか、イズのこと考えるとキリがありません。



こないだのZSTは、チーム・イリホリのイリの方（今成）のプロモーションのようになってしまい、今成ファンとしてうれしいかぎり。これでガンガン売れっ子選手になってくでしょう。来年は小谷弟vs今成の頂上決戦見れるのかな～。そろそろじっくりと濃いインタビューも見たいぞ（キングダム以前は元々なにをしていたのか？とか）、『ゴン格』でやってくれと思うがスタッフ総入れ替えで、『ゴン格』はなんか濃さの向きが変わってしまったので、しょぼん。

男道コーチ屋稼業・
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

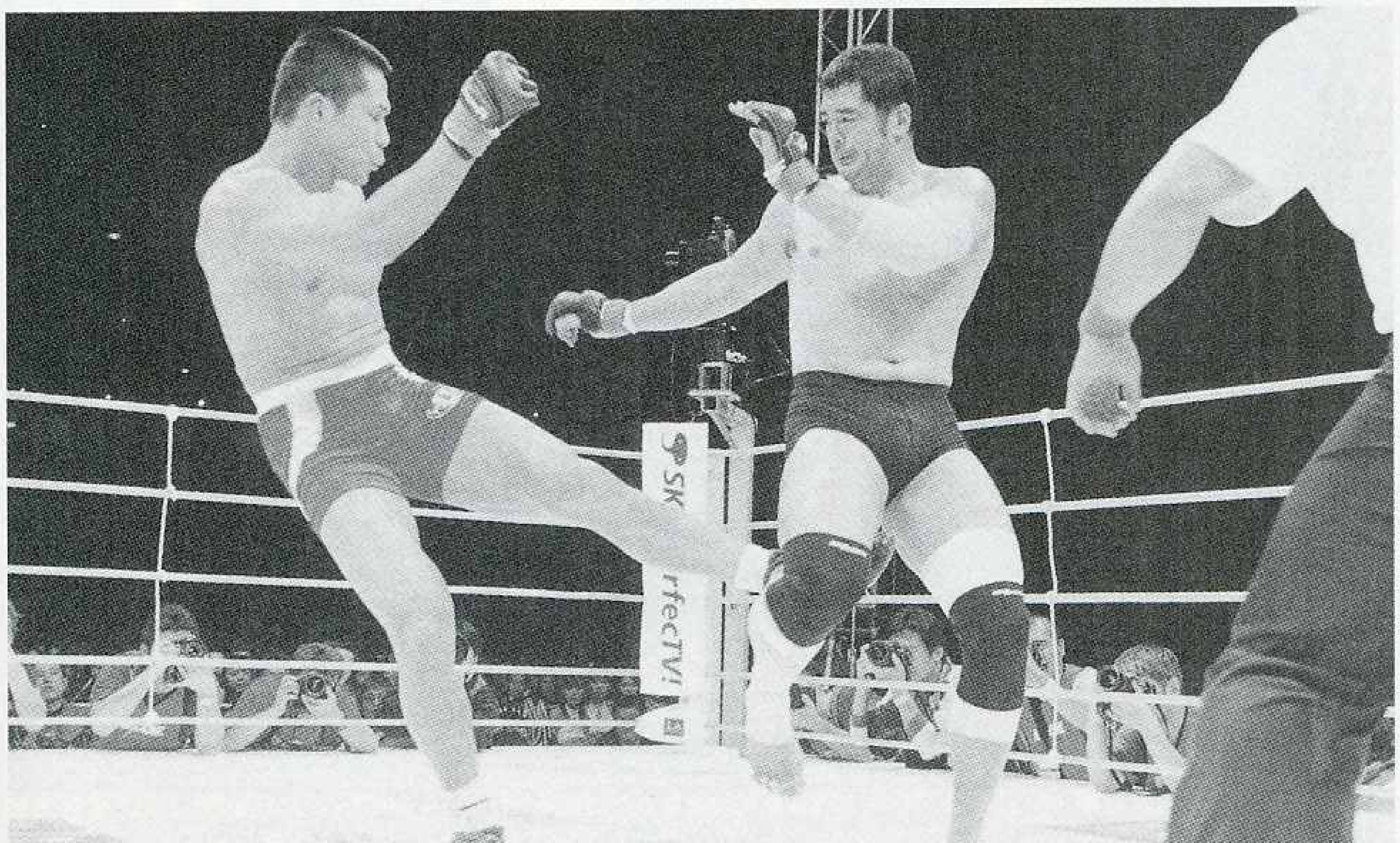
『高田vs田村・試合レポート』の巻

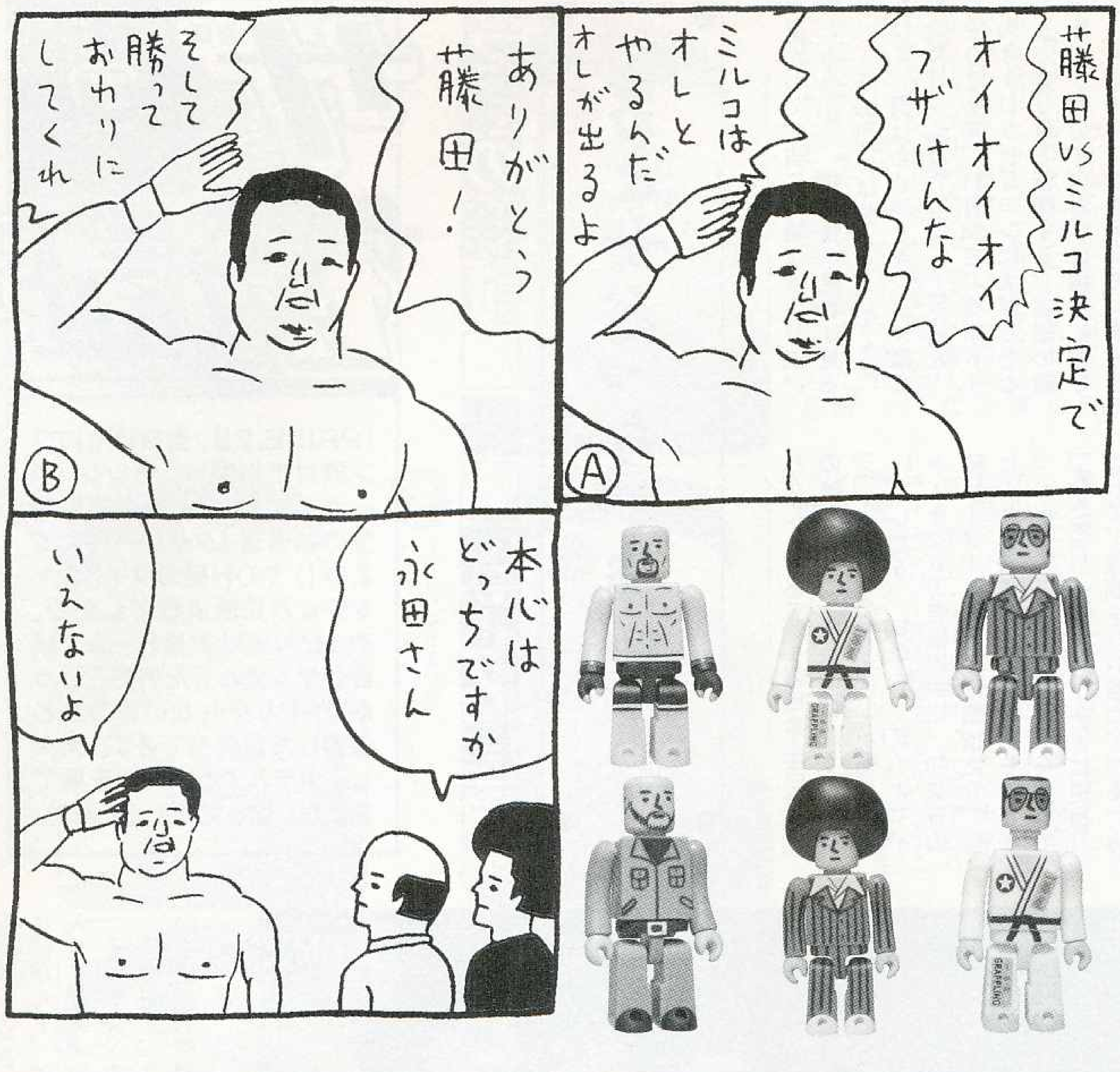
迷い、明らかなる迷い。そして焦燥に突っ伏す沼底の様な時間。思い詰めすぎて紅潮した両頬は正解を探る。

「高田さん！　僕と真剣勝負して下さい！　お願いします！」

己の吐いた警句が歳月の中で気付かぬうちに研ぎ澄まされ、ブーメランの様に田村潔司の身を切る。入場の瞬間、敬愛の分だけ厚めのオープンフィンガーグローブをはめた田村の手には、やはり小太刀が握られていた。命を賭した勝負だけに携える小太刀だが、その日だけは寒い鈍色の真剣と化している。いつもとは違った小太刀を持つ意味が田村を更に追いつめる。真剣を振り翳すのが怖ろしいので真剣はない。抜いた真剣は収め所を美しく探すものだから怖いのだ。しかもこの真剣の切っ先は師匠・高田延彦の喉笛に収まり、墓標を確実に刻むためにあることを望まれている。介錯のための真剣……それは、勝負とは無縁だ。命を絶てと師から託された真剣を、どうして潔く抜くことなど出来よう。勝負をあらかじめ失った真剣と知ってか知らずか観客はなおも美しい血潮に濡れることを求め注視する、残酷。言うなれば、高田vs田村は、端から真剣勝負などではなかったのだ、少なくとも田村にとっては。

重く湿ったゴングと同時に田村潔司の脳内BGMでは『夢芝居』が流れていた。稽古不足を幕は待たない……いつも通りの練習メニューを欠かしたわけではないし、試合のシュミレーションも何万通りと試みた。だが、十分では





チーム・イリホリは染之助染太郎のように「これでもギャラは同じ」とギャグにならないよう、ホリの方（ヤノタク）にもがんばってほしい。門脇を絞め落とした頃の強い輝きをもう一度です。

来年はプロ柔術がまたあるようですが、プロ大会だし刺激あるカードを望みたい。そこで思うのが、小谷弟に完勝し完全復活した門脇や、みんながその噂の実力者ぶりを見たがっている高瀬、そして戸井田の慧舟會実力者トリオに、強豪柔道家の小室＆林らを加えたWKネットワーク連合軍vs日本柔術家の5対5の対抗戦が見たいな。それとは別にメインでは、デラヒーバ先生の試合を組んでもらい、前回のレオジーニョに続いて今回はデラヒーバの妙技を味わいたい。

★

「佐藤クン（『週プロ』編集長）の仕事は中西や永田、健介を『PRIDE』に出すことだよ」って高田は本当にうれしいこと言ってくれる、そのとうりだ。『PRIDE23』の『ゴン格』増刊に再録されてる正直なインタビュー（53～55ページ）も最高。

はなくま・ゆうさく

「青いオトコの汁」やっと出ました。校正ミス2つあります。

ない。いつまでたっても答が出ない。どのような試合をすべきか明確な答が出ないならどれだけ稽古しても不安と無縁ではない。そのうち脳内では女形姿の高田延彦が梅沢富美男ばりに艶やかに舞い踊り、田村を果てしなく撹乱させる。恋はいつでも初舞台……おちょぼ口の高田には白塗りがよく似合う。ナス型の垂れサンにテンガロンハット、乳首がポロリするほどド派手に開襟したピエール・カルダンの柄シャツなどの富美男プライベートスタイルもよく似合う。ターミネーターXばりの成金ニガーファッション（高田道場のロゴの入ったゴツい18金チェーンとか）や、藤本かずまさみたいなステーキハウス店員風バンダナファッション、とにかくなんでも似合ってしまうに違いないファッションリーダー・高田に死角などない。

……ハッ！　ファイティングポーズをとって上体を小刻みに揺らす高田のムーブを梅沢富美男の日本舞踊と見紛っている場合ではない。しかし、だからといってなにをどうすればこの場ではベストなのか、田村にはまったくわからない。夢芝居？　ゴングがなったというのに明らかに田村は考えあぐねていた。

「どうしよう……」

田村の顔には確かにそう書いてあった。田村は自分の放った『真剣勝負』という言葉の意味に、蜘蛛の巣のように絡め取られて藻掻き苦しんでいたのだった。

些か不用意ながらも的確にヒットし高田の表情を強張らせる田村のUWF仕込みのローキック、ローキック、ローキッ……金的。田村の蹴りが高田のリトル延彦にクリーンヒットして試合中断。悶絶する高田に背を向け、コーナーに突っ伏す田村。高田のキンタマが下がるのを固唾を飲んで見守る観衆。以前さわやか新党から立候補した者とは思えないほどさわやかとは程遠い脂汗を浮かべてキンタマ・エスペランサを押さえ転げ回る高田。次第にガックリな空気が東京ドームを支配し出す。これではいけない。

私もこの日はアリーナ席に関係者を装って潜り込み（不自然すぎるヅラを被って「キ●チです」と名乗って）観戦。脳内投稿常連会ひとりプレッシャーズとして高田の姿を花魁やマリリン・マンソンに置き換えてみたりしてキンタマ下がり待ちタイムを楽しくやり過ごしていたのだが、さすがに無理な妄想にも限界が来たので周囲の観客の様子でも伺ってみようと、ふと自分が座っている席の右手に目をやった……え？

あ、安達祐実!?

安達祐実が私の座席の10コぐらい横に座っているではないか！　……しかし何故安達祐実？　やはり高田延彦の引退の瞬間をこの目で見たかったのか？　実はUインター最強を唱えるU信者なのか？　田村のセコンドに宮戸がついていたのを見てやっぱり燃えたのか？　それともシュート・ボクセとBTTの代理戦争に熱くなり、ノゲイラに向かって「おまえの母ちゃんリオの●●●！（伏せ字の中は「三宅綾」が正解）」と口汚く罵声を浴びせていたのか？　それとも吉田秀彦vsドン・フライ戦を見ながらしたり顔で「吉田ってY●W●R●とヤッてんでしょ？　つーことはアレも十文●君とか●リックスの●みたいなもんなんでしょ？」と口汚く罵声を浴びせていたのか？　それとも一試合ごとに「結局これってヤオなんでしょ？」とか確認して百瀬さんを凍り付かせたりしていたのか!?　なんなんだ！　どうなんだ！　安達祐実!!

アーッ！　……安達祐実に気を取られていて見てなかったが、気付けばなんか知らんが高田が大の字になって寝ているではないか！　誰か高田vs田村の試合、どんな内容だったか私に教えて下さい！

おきて・ぼるしぇ



結局、よくよく見たら真横にいたのは安達祐実ではなく、見知らぬ童顔の大人でした。無駄に緊張して損しました。ちょっと萌えました。同情するなら金（あるいはお宝ガールズのバックナンバーなど）をくれ！

ザ・検証

『PRIDE.23』当日はゼロワン取材で福岡へ。カシン（つーかプロブレム）と小笠原先生の初遭遇（タクシー呼んでこい！）やOH砲のタイトルマッチなど見所満載でしたが、やっぱり心は東京ドーム。試合が早く終わったので、どっかでPPV見れないものかと探索したが発見できず。大人しくホテルで有料TVを見てました。俺も男だ！（チョロ）

今月の検証 by 椎名基樹

男と女どっちが強い？

果たして本当に、男は女より強いのだろうか？　格闘技を見れば見るほど、その思いは強くなってくる。だって、男はちょっとキンタマ蹴られただけで、悶絶しちゃうんだもん！

２００２年。11月24日。東京ドームのオーロラビジョンに大写しとなった、寄り目で苦悶する、高田の顔を見て、俺のその思いは頂点に達した。ちなみに、首を傾けて、寄り目にして、口でふぅふぅ息をするだけで、引退試合でオーロラビジョンに大写しになった高田のモノマネが完成するので、学校で職場でやってみよう！　最近俺のモノマネレパートリー（他はギバちゃん、トムとジェリーのトム、生まれたての子鹿など）になっているが、結構ウケるぞ！

しかし、大事な引退試合で、しかも感動せざるをえないマッチメイクで、金的で悶絶しドーム中をざわついた不穏な空気で包んでしまうとは、さすが高田のズッコケ番長ぶり、侮りがたしである。「窪田幸生巨根説」の時も書いたが金的はどうしても「キンタマ→おもしろい」の機能が働いてしまう。しかも、ダイナマイト・キッドの自伝の中に、初来日の時ピーター（ｎｏｔ池畑慎之介）にヒールに徹することを求められたキッドが、どう闘うのか訊ねられて「大丈夫だ。相手をコーナーに逆吊りにして、股間をブン殴ってやる」みたいなことを答えると、ピーターは頭を抱えて（得意ポーズ、目に浮かぶ！）「ダメだよ！　そんなことをしたら笑いが起こるよ」と言ったという記述がある。それを聞いてキッドは「普通、そんなことをしたら、観客は汚いことをするなと、怒り狂うのに変なところだ」と思ったそうだ。これを読んでもわかるように、日本は金的に関して寛容な、と、いうか、下ネタが大好きなお国柄らしい。これはそのまま、日本人の精神年齢の低さをダイレクトに表していると思うが、「キンタマ→おもしろい」じゃないなんて、俺たちからすると、外人って変だよね！


Uのテーマが鳴り響く中、感動のフィナーレを迎えるリング上、他の誰よりも嬉しそうなのが森下社長だった。お前も男だ！

そんなキンタマ大好き国民の集まった会場で、これ以上ないカッコ良い引退試合の相手を選び、いつものように他の追随を許さないカッコいい入場をし、「金的→悶絶」をしてしまうなんて、実に高田らしくて好きだなというか、どこかデジャブを見ているようでさえあった（ドームで高田に、どんよりとさせられるのは、もう慣れっこな、俺たち！）。

で、冒頭の疑問である。果たして本当に男は女より強いのだろうか？　格闘技、特に総合格闘技において、ものすごく大きなウイークポイントがあると、他がどれだけ優れていても、勝てないと俺は思う。それはメンタル面にも大きく作用するからだ。と、すればキンタマはどうだ。要するにキンタマは内臓が体外に出ているのだ。これほど大きなウイークポイントが他にあるだろうか？　もし金的有りで、男と女が闘う場合、女は金的狙いの戦法を綿密に練ることだろう。猪木・アリ状態の下から金的狙い、またパスガード出来れば、ジョーサンがＵＦＣでやられたように、逆袈裟からの金的パンチが必勝パターンとなるだろう。こう考えると、ますます女が有利に思えてくる。

しかし、言い換えれば、これは「キンタマはなしね」のマヌケな大前提の中で、最強を争っているのが、男だということもできる。だから、金的で悶絶する高田は実に男らしいとも言えるのだ。だって、この痛み、女にはわからないんだもん！　だからこの言葉は、高田にこそ贈られるべきなのだ。

高田、やっぱ、お前は男だ！　男の中の男だ！

ＰＳ　田村を選んだ時から、要するに後輩を一番大事にしたのが、高田だったんだなあと思いました。そして、引退興行を見て、いっそうその思いが強くなりました。それがボスの一番問われる資質かなと思ったりしました。やっぱ高田は偉いね。しかし、猪木vsドン・フライ、前田vsカレリン等と比べても、これほど試合内容自体が記憶に留まった、引退試合もないです。高田、ありがとう。長い間、ご苦労様でした！

今月の検証 by せき詩郎

―― 検証・受験の季節到来記念 ――

プロレスと勉強は両立するか？

プロレスで覚える日本の歴史

第一回『江戸幕府編』

プロレスばかりみてるとバカになる、ってことはないかと思うが、プロレスばかり見てるとプロレス的な考え方ばかりしてしまうようになるのは事実であろう。勉強しないでプロレス見たり、プロレスのことばかり考えたりしたため、案の定、大学受験に失敗。がしかし「まあ、今はそういう流れってことで」みたいな言い訳をして親に怒られたという経験は誰にでもあるだろう。というか私はそうだった。もしかしたら私だけかもしれない。

とにかくプロレスと勉強は両立するのかを検証するため、今回は江戸幕府とプロレスを結びつけてみました。またこれは以前やった越中のハチマキシリーズの続きでもあります。受験生の方は大学をブッ潰すくらいの勢いで頑張ってください。



家康
団体（江戸幕府）を作った人。藤波が尊敬してる人でもある。



家光
3代目。鎖国を行い、外国マット界との交流を禁止。



秀忠
2代目。旗揚げしたばかりの幕府組織の整備拡張に努めた。



家継
7代目。新井白石＆間部詮房体制が続き、フロント陣が実権を握る。



家宣
6代目。新井白石や間部詮房のフロント陣と協力し、団体運営。



綱吉
5代目。生類憐みの令で有名。犬（軍団）の連勝が続いた。



家綱
4代目。11歳で将軍デビュー。若手ホープとして期待された。



家斉
11代目。モテモテだったみたい。女性ファンが多数幕府に駆けつけた。



家治
10代目。メインに田沼意次を起用するも、金銭問題が浮上。団体危機に。



家重
9代目。身体虚弱で酒色に溺れた。おもに前座で客を沸かせた。



吉宗
8代目。暴れん坊将軍。その暴れっぷりが将軍幻想を膨らませた。



慶喜
15代目。家康イズム最後の継承者。団体解散を発表。



家茂
14代目。井伊直弼とタッグを組み、公武合体（団体吸収）を推進。



家定
13代目。ペリーと電撃和解。しかし子供がいなかったため団体は自然消滅。



家慶
12代目。家斉体制に反乱。天保の改革を行った将軍家の革命児。

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

さっそくだが、『PRIDE.23』のとき安西グレイシー記者の前に座っていた方からのタレコミメールを紹介。「大会途中で、あの朝岡氏も姿を現したわけなんですよ。最初は校了の打ち合わせをしてたみたいですが……、GACHIBAKAの２人が突然、『書評の星座』を肴にし始めたわけです。“そういえば紙プロ読みました？　ボクはゲラゲラ腹抱えて笑っちゃいましたよ。そういや、安西さんも抜き書かれてたじゃないすか“（朝岡氏）”『俺プロ』のことでしょー。読んだけどねぇ、まったく“（安西氏）”宍倉さんも読んだんですかね？　読んで欲しーなー“（朝岡）”うん、あの人のクレイジーっぷりがよく分かっちゃうよねえ、あれだけでも……って、いやいや、あんなの読ませたら、また寝込んじゃうよ。ホント見せらんないって！　みんな隔離してるもん、紙プロ“（安西）”」とのことで、業界内での注目度も高い書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉



『UWFインターの真実〜夢と1億円〜』（鈴木健／エンターブレイン／1600円）

Uインターといえば、誰もが思わず糞をぶっかけたくなる不愉快な存在だった頃。

フロントの「3バカ」（宮戸優光、安生洋二、鈴木健）に容赦なく噛み付く前田日明と長州力は絶対的なベビーフェイスであり、団体内であからさまに冷や飯を喰わされていた山崎一夫はマット界でも有数のいい人であり、そして新日本との対抗戦ではなくK—1でのバーリ・トゥード戦に挑んだ田村潔司は紛れもなく救世主のはずであった。少なくともUインター崩壊時までは。

ところが、いまでは立場も見事逆転し、**「ヤマちゃんがUWFインターでやっていたことっていえば、月に1回の試合に出るだけ」**で、**「道場での練習には全然来ないし、ミーティングにも顔を出さない」**のに、**「給料だけはしっかり持っていく」**から**「若い選手たちでさえも『あの人、なんなの？』」**と嫌っていたことまで明らかになったんだから本当に恐ろしい限り。

田村にしても、「**パンクラスは『自分からは引き抜きはしない。パンクラスに頭を下げるなら移籍の話はある』とマスコミに言っておきながら、実際はパンクラスのほうから移籍の話が持ち上がったのだ**」と言っておきながら、実はパンクラスに**「田村から『一度会いたい』っていう連絡がきて、それで実際に会いに行ったら、『僕を引き抜いてください』」**（尾崎・談）と自分から持ちかけた上、Uインターには**「給料をいまの倍にしてほしい」**とゴネてからリングスに移籍したらしいのだ！

……といっても真相はわからないんだが、これはあくまでも鈴木健側から見たUインターの**「真実」**を描いた一冊なのである。

もともと鈴木健は**「『プロレスなんてどうせ八百長なんじゃないの？』って思っていた」**クセして、なぜかUインターのヤオガチ問題には踏み込まず**「最強のプロレス団体」**幻想を守り通しているので、そっち方面での**「真実」**を求めるような人にはちょっと物足りないかもしれない。

その代わり、鈴木健の**「真実」**＝呑気っぷりは嫌というほど詰め込まれているから、一部の好き者にはたまらないのであった。

それは**「私にとってマスコミっていう存在は、記者会見のたびに意地悪な質問とかされても、なぜか温かみを感じる大切な人たち」**と言いつつ、Uインターの旗揚げについて**「悪魔の囁き」**と書いた安西グレイシー記者にだけは怒りを燃やした理由として、**「その記事が載ったのって、私が安西さんを女子校の文化祭に連れていってあげたちょっとあとだったこともあって、あのときはさすがに『なんだ？　こいつ』って思った」**と述べていることだけでも、類い希な呑気っぷりは誰にでもわかってもらえることと思う。

なにしろ、安生がヒクソンの道場破りに二日酔いで行ったときにしても、鈴木健はといえば**「その当日、私たちは私たちで『高田杯』のゴルフ大会」**に参加！　ちょうど**「打ち上げの席」**で安生から電話が入れば、**「ヒクソンに負けちゃったの〜？　それはマズイよ。ちょっと明日もう一回道場に行って、勝負してきてよ！」**と、とんでもないことを**「酔った勢いもあって気楽に」**言い放っていたわけなのである！

そんな鈴木健に**「大丈夫ですから。俺たちがいますから！」**と宣言してみせる垣原賢人も含めて、Uインター勢は「青い」というより、むしろ「呑気」すぎだって！

ただ、そこまで呑気な鈴木健にも、**「正直に本音を言ってしまえば、私は高田さんがヒクソンに勝てるとは思ってなかった」**という最低限の冷静さはあったようなのだ。

だからこそ、鈴木健は自律神経と引き換えに高田延彦対マイク・タイソン戦をどうにか実現させ、**「タイソンと闘って、引退してほしい」「引退したあとはワールドワイドな有名人として映画スターになってほしいと願っていた」**のだという。……あれ？　ジャイアント馬場が高田に対して「芸能人になりたい人」呼ばわりしていたのは、もしかしたらそういうことだったのか？

そして予想通り高田がヒクソンに敗れると、鈴木健は**「ヒクソン戦に関しては3度でも4度でも私は高田さんが勝つまでやれ**

ばいいと思っていた。何回も闘っていけば、最後は必ず高田さんが勝つからね」と当たり前のように言い切ってみせるのも、さすがと言うしかないだろう。それだけやったら、そりゃあ1回ぐらいは勝つよ！

こうした呑気さが衝撃的なのはもちろんのこと、プロレスLOVEならぬ高田LOVEな描写がまた、とにかくとんでもなさすぎなのであった。

もともと**「『親友』って呼べる友人がいなかった」**ので、**「ずーっと孤独を感じていたんだけれども、そんな中で『こんなに格好いい人が友だちだったらいいな』っていう気持ち」**を高田に抱き、それで高田のファンクラブを作ったという鈴木健。

そのうち**「年齢的には、はるかに高田さんのほうが年下なのに『兄貴』」**と慕い、**「高田さんとならば一緒に泥棒になってもいい。その罪は俺が全部被ってもいい」**と思い詰めるまでになるんだが、Uインターとはそんな高田延彦という兄貴を愛する男たちが集まった、男のための団体だったのだろう、きっと。

そうでもなければ、鈴木健も**「最初の頃は、宮戸ちゃんは私に対していい印象は持っていなかった」**というたったそれだけの理由で、**「酔った勢いで揉めてしまい、宮戸ちゃんにボコボコに殴られ」**、**「顔に青タンを作って血だらけ」**にされたりはしなかったはずなのだ。

「なんでいい印象を持たれていなかったかっていうと、それは宮戸ちゃんも高田さんのことが大好きだったからだと思う。私と高田さんはファンクラブのこともあって、何かにつけていつも一緒にいたからね。宮戸ちゃんはそれが面白くなかったんじゃないかなと思っている。つまり、わかりやすい言葉にすると、『やきもち』を焼いていたんだろう。その気持ちは私にもよく理解できる。高田さんが宮戸ちゃんや安ちゃんと仲良くしているのを見ていると、逆に私がやきもちを焼いてしまうっていうことがあったから。『男同士で何やってるの？』って思うかもしれないけれども、なんかそういう部分があったんだ」

つまり、Uインターのフロント同士が揉めて、やがて宮戸の離脱に至る発端は、高田を巡るやきもちだったことが電撃発覚！

これにはボクも、長州力が残した「宮戸って何なの？ 高田って何なの？ ねえ、



アイツらホントはホモなんじゃないの？」との名言をつい思い出してしまったんだが、とりあえず鈴木健はホモではないとのこと。

「べつに私は同性愛者じゃないんだけれども、わかりやすい表現としては『高田さんのために自分のすべてを捧げる女房』って感じだった。とにかく高田さんに対する思いは一途だったということ。だから、高田さんが向井亜紀ちゃんと結婚したときには、失恋に似たショックを受けたのも事実」

それで、**「私はあの結婚には反対だった」**と言い出したりするからホモというよりも女子であり、乙女心は複雑なのであった。

……あれ？ もしかしたら第二次UWFが分裂したのも、乙女心を持った鈴木健や宮戸が、あの頃は高だと異常に仲が良かった前田という本妻から高田を奪い取るべく**「前田さんとの縁を切って」**と迫ったことが原因だったのではないだろうか？

神社長と前田の確執にしても、**「神は会社の金を着服している」**というのが前田の妄想ではなく、どうやら本当だったらしいことも描かれていたので、いまさらながら前田に心から同情した次第なのである。

しかし、男たちがここまで高田に惚れ込む気持ちも確かにわからないではない。

たとえば、トレバー・バービックとの異種格闘技戦の直前。肋骨を折り、医者から**「もし、あばらにパンチが入ったら、折れた骨が必ず肺に刺さるから、死ぬ確率は50パーセント」**と忠告され、**「試合を中止にした方がいい」**とヤマちゃんに言われても、高田は**「何いってんの。やるに決まってるよ。やらなきゃ会社はどうなっちゃうの？」**と即答するのだから……。

それでも、やがて会社はどうにかなってしまい、鈴木健は1億円以上の負債を抱えつつも串焼き屋『市屋苑』をオープン。すると、同じぐらいの負債を抱え、Uインターでは**「4000万円ぐらい未払いの給料」**もあって確実に**「お金がない」**はずなのに、ぶらりと店に現れた高田は軽く飲み食いした後、**「『ご祝儀』といって20万円も置いて」**いったのだそうである……。高田、男の中の男だよ！

『高田延彦のカタチ』（東邦出版・編／東邦出版／1333円）

芸能界から格闘技界まで各界の有名人が高田について語るという、Show氏が高田道場出入り禁止処分を喰らうことになったらしい記念すべき一冊がこれ。

あの佐山サトルがカール・ゴッチについて**「本当のゴッチさんの思想っていうのはナチスドイツ。ヒットラーだけどね。『ヒットラーはすばらしい』って言ってたから」**と証言してたり（まさに佐山はゴッチイズムの継承者！）、武藤敬司がデビュー直後の610時代について**「あのヘルメットは猪木さんが『お前、ヘルメット被ってたら、ヘルメット会社のスポンサーがつくかもしれないから被れ』って」**と証言してたりで、高田とは無関係な部分でもいいネタは多数混ざっているものの、正直言ってタもまったくダメなんだが（桜庭対高山、宮戸対安生、そして高田戦直前の田村と、誰がやっても面白くなるはずのインタビューを無駄にするセンスはさすが）、向井亜紀の手記がとにかく絶品なので、とりあえずそこだけでも皆様にぜひ読んでいただきたい次第なのである。

そして案の定、Show氏絡みの対談ネタもまったくダメなんだが……

Uインター時代、**「給料が6カ月連続で出なかったり、信頼していたマネージャーに大切なお金を持ち逃げされたり、さまざまなお金のドロドロに巻き込まれていく姿は本当に痛々しかった」**という、よりにもよってそんな時期に結婚してしまった彼女。

「結婚式のときも先立つ物がなく、婚約指輪もないし、ウエディングドレスも貸衣装でした。打掛を借りる余裕などなく、お色直しの赤いドレスは親しい友人が5万円で作ってくれたものでした。そんな結婚式でしたが、皆さん喜んで来てくださって、ホテルの方に、『うちの宴会場始まって以来のアルコール量が出ました！』『足りなくなって慌てて焼酎を買いに行きました』と言われるくらい盛り上がりました」

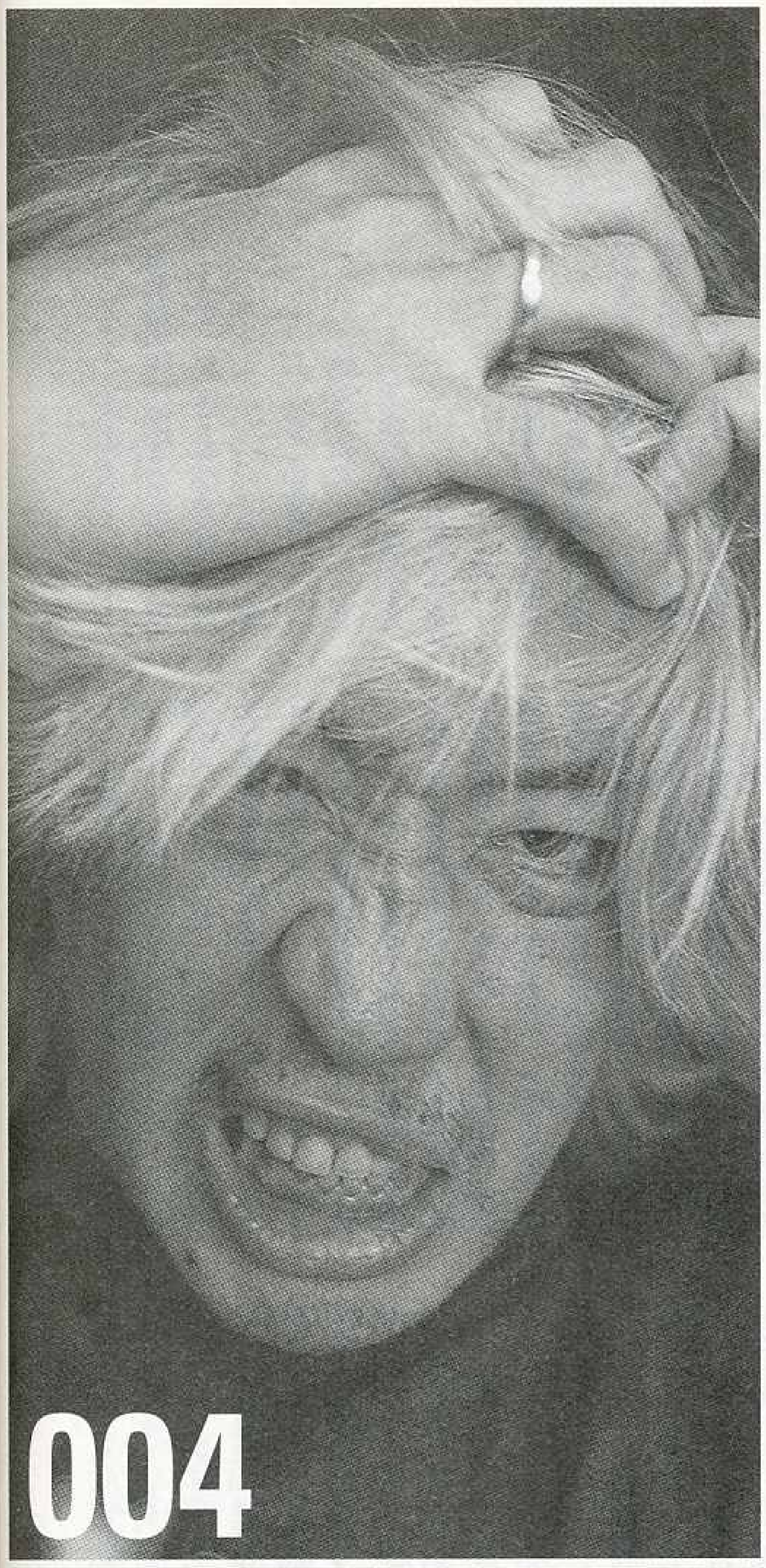
ところが、高田道場を作ってからも実は**「家を売り、車を売り、道場の規模を縮小しつつ、高田の携帯は度々止められました」**ぐらい貧乏してきたのに、鈴木健にはご祝儀を20万円払っていたわけである！

そう。よく「高田が『PRIDE』で配下選手をゴリ押しするのは横暴だ！」などと一部で批判されることにしても、「後輩思いの兄貴」という視点から見たら単なる美談に過ぎなくなるから不思議。

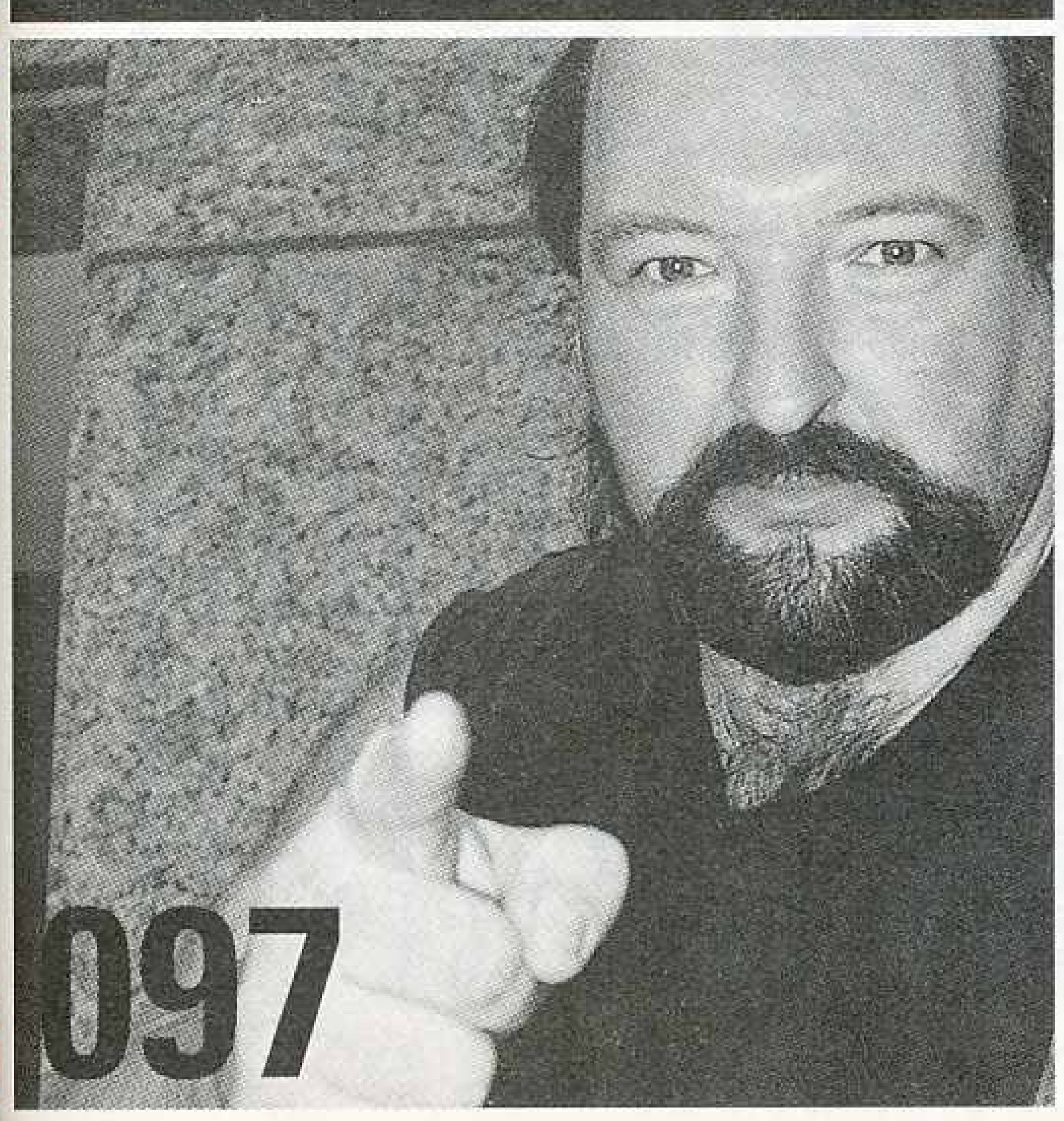
ましてや、それが病気で夢敗れた豊永となると**「今年の8月に国立競技場で行われた興行（Dynamite！）のときの話ですが、稔くんがレフェリーのメンバーに入っていないと言うことを数日前になって知った高田の行動は早かったですよ。主催者に『必ず豊永を入れてください』と有無を言わさぬ勢いで交渉していました」**とのゴリ押しすらも、涙なしには聞けなくなってしまうのであった。

高田が試合に負けた場合、**「ファンから罵声を浴びせられるのを聞きながら控え室の廊下で泣いている亜紀ちゃんが、主人の前では涙を見せまいと、涙を拭いてから高田さんのもとへ向かう」**という医者の証言も感動的であり、普段は罵声を浴びせている人でも思わずもらい泣きすること確実！

ついでに言えば、『PRIDE』チーフプロデューサー・榊原信行氏の**「最後は上半身ハダカになって酔っぱらうくらい、高田さんとは意気投合したんです。今となっては当然のように、そのときも『朝までコース』になって、僕が酔った高田さんをホテルの部屋まで連れて行ってベッドの上に寝かせて……」**という誤解を生みそうな告白も、このとき**「俺はファンもそうだし、Uインターの若いヤツらも、そして自分自身も裏切った」「それでも最後は帳尻を合わせたい」「ヒクソンかタイソンと闘いたい」**と高田がつぶやいたのがきっかけで『PRIDE』が誕生したことを思えば感慨深くてしょうがないのであった。







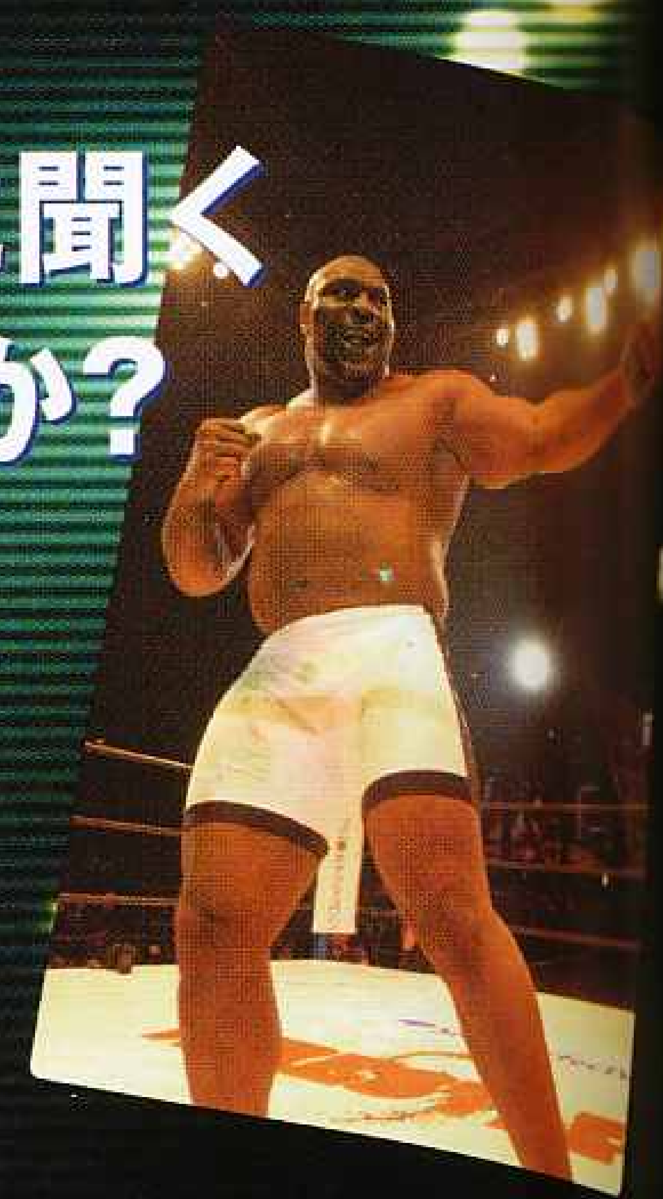
紙のプロレス RADICAL

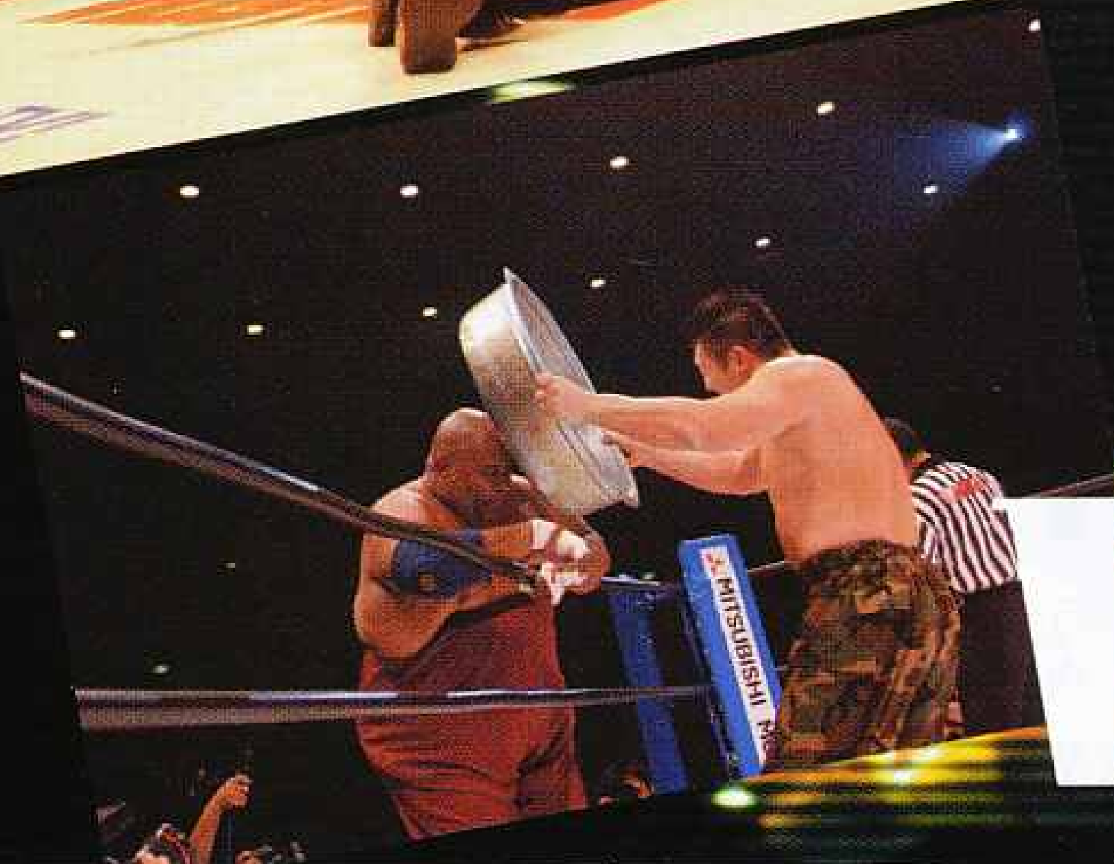
057 CONTENTS

Cover Model :Yoshihiro Takayama & Bob★Sapp　Cover Photo :緒方秀美

賛否両論!　武藤敬司&関係者Xに聞く
今、なぜ『WRESTLE-1』なのか?



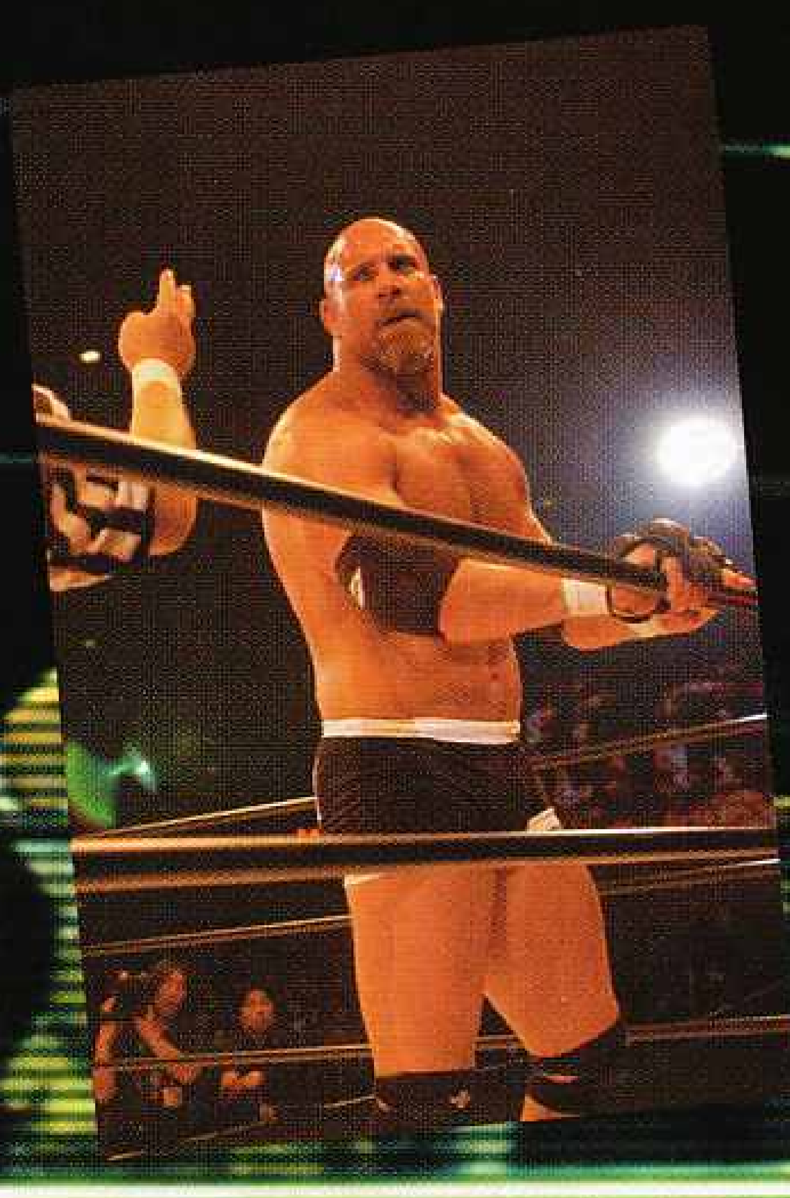




What is WRESTLE-1?

PART II

遂に姿を現したプロレスの壮大な実験舞台『WRESTLE－1』は、プロレス史上最大とも言われる舞台装置、そして「プロレス」という言葉すら使わない空間、さらにバラエティ色を強くしたゴールデンタイムでのテレビ放送など、従来のプロレスの枠を超えたイベントにマット界は賛否両論の声が渦巻いた。そしてこの新たな潮流は早くも1・19東京ドームに進出。はたして今度は何を見せてくれるのか?　鍵を握る武藤敬司と関係者X氏を緊急直撃!



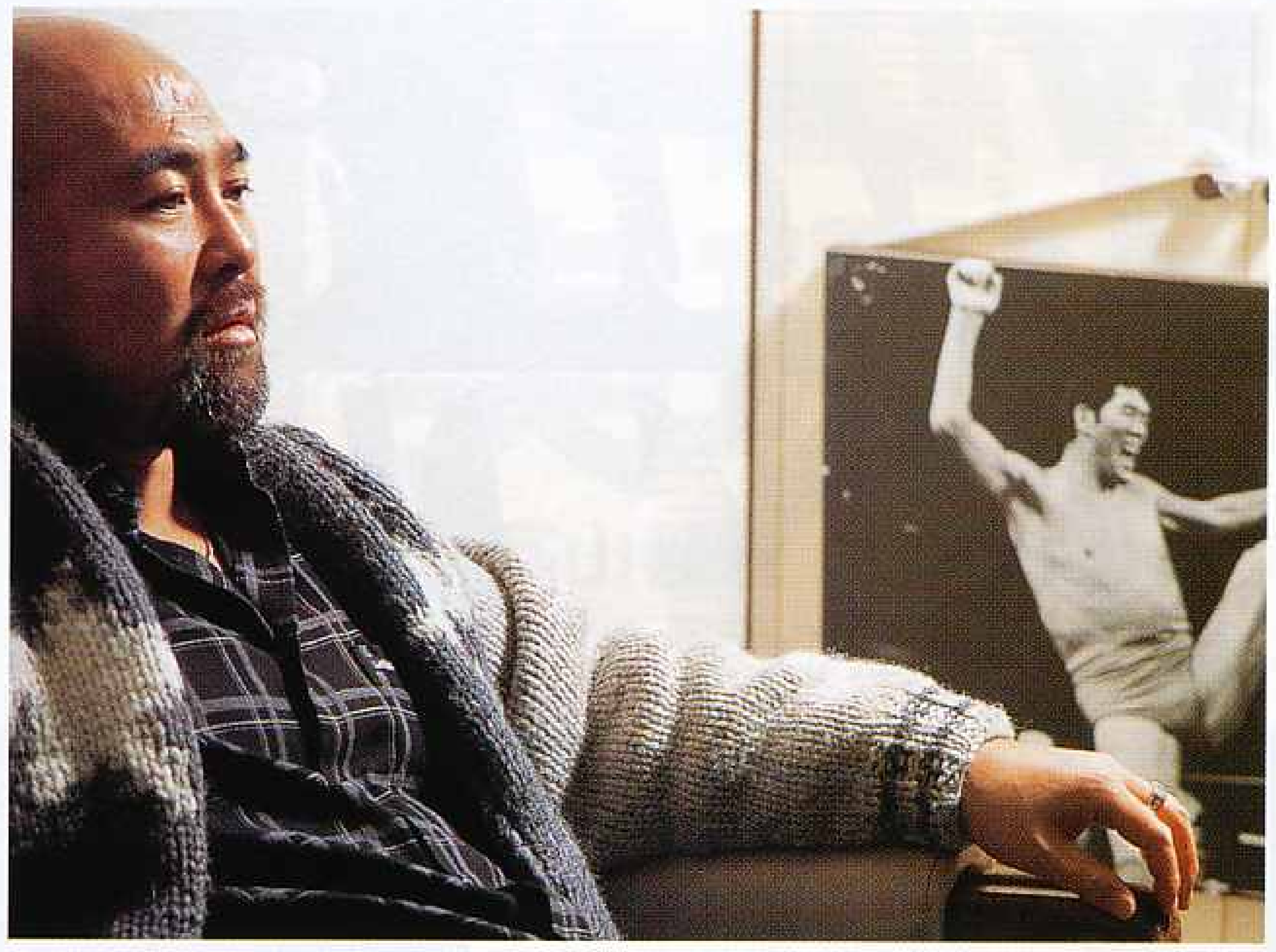


KEIJI MUTOH & X INTERVIEW

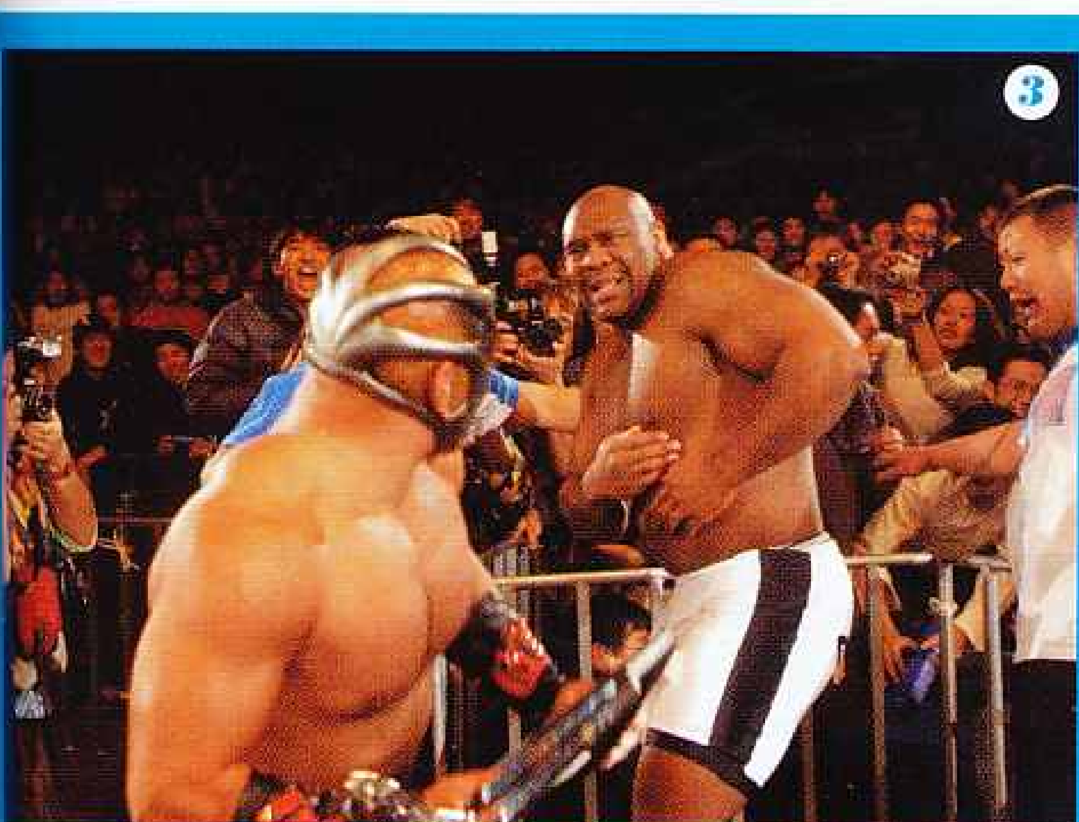
聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇　試合写真／遠藤政文　designed by ZERO graphics

仮に年間100興行全部満員にしても全日本はやっていけない。だから『W-1』をやるしかねぇんだよ！

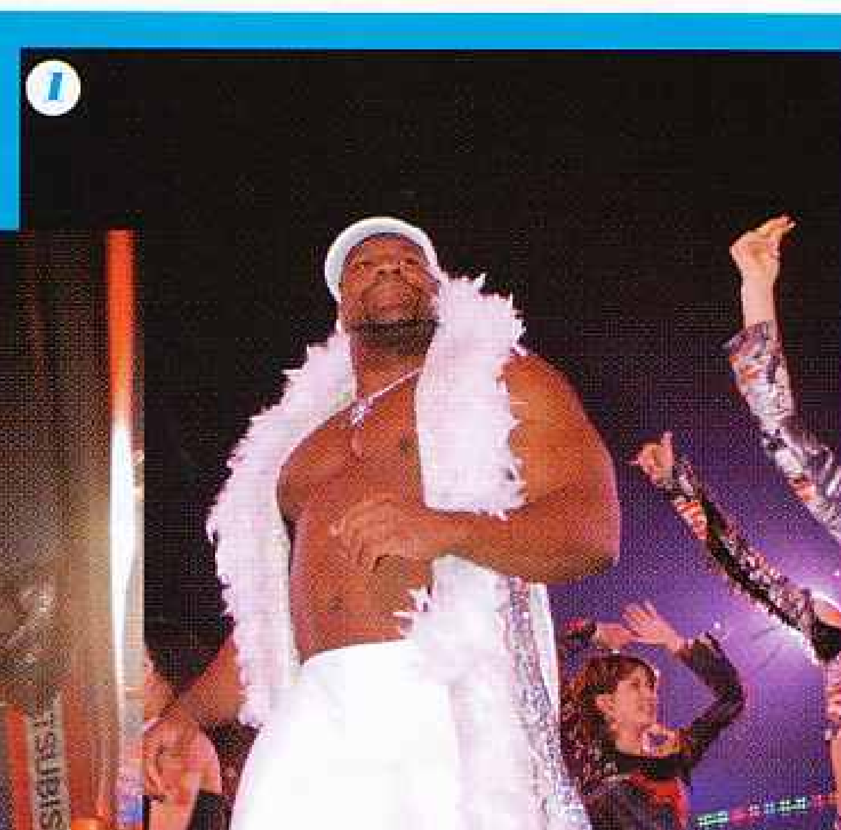
——どうもご無沙汰してます！
武藤　うーし！
——10月に社長就任以降、嵐のような忙しさだったと思いますけど、一昨日『最強タッグ』も終わって、いまようやく一段落といった感じですか？
武藤　いやぁ、全然一段落ついてねぇよぉ。まだいろんな部分で仕事がいっぱい入ってるからね。ただ、（今年はもう）試合がないっていう部分でホッとはしてるよね。昨日はNHKの大河ドラマの撮影だったんだけど、膝とか痛くて、NHKにウチのトレーナーを呼んだもんな。それでテープをギチギチに巻いて撮影に挑んだもん。
——はぁ〜、ドラマ撮影ひとつとっても試合みたいなもんなんですね。そんな中、『WRESTLE-1』（以下『W-1』）という巨大なイベントを立ち上げたわけですけど、11・17横浜アリーナが終わって率直な感想というのはいかがですか？
武藤　なんか、率直な感想っていうのは俺からコメントすることじゃないような気がするんだよね。あれは観た人が良かったかどうか、それがすべてだと思うから。ただ、ビジネス的なことを言ったら視聴率が8・4％っていうことなんだけど、（昨年の）『猪木祭り』なんて裏（紅白）で50％取ってたって15％取ってるからね。そういう部分で考えると、ちょっと不本意な数字かなって思ったりしますよね。その視聴率＝世間だから。でもまぁ、反省部分っていうのはいっぱいあると思うけど、終わっちまったことだからね。
——武藤さん自身は、『W-1』の放送はご覧になられましたか？
武藤　スカパーのヤツは見ましたよ。でも、民放の方は巡業入っちゃったからまだ見てないですね。ただ批判意見も多いんだよなぁ。



——予想された展開ですけど、従来のプロレスファンからの批判は少なからずありますよね。
武藤　ファンだけじゃなく、全日本プロレスの中からでも批判はあるからね。
——あ、社内でもありますか！　武藤選手自身、それは予想の範囲だったんですか？
武藤　予想の範囲じゃないけど、誰だって人から文句を言われるのはいい気はしないよね。ただ、やっぱり現状維持だと衰退するよな。
——衰退する！　「プロレス」というもの自体のパワーがどんどん落ちてる時代ですからね。
武藤　うん、落ちてるよ！　だから、なんで『W-1』っていう興行を打たなきゃならなかったかっていう事情もそこにあるからね。
——人気凋落をくい止めるための起爆剤ですか？
武藤　っていうかさぁ、全日本プロレスって社員、レスラー、これだけ大きなものを抱えてる現状で年間100試合、日本武道館6試合だけでみんなを養っていけないですよ。例えこれが全部成功しても、それだけじゃ養っていけねぇんだよ！
——ああ、なるほど。年間100試合シリーズを組んでっていう形態で会社が成り立っていたのは、昔のテレビ放映権料が何千万、何億って入ってきていた時代だからこそ通用した形であって、いまはそれじゃダメなわけですね。
武藤　そうそう。いまはテレビで毎週放映してくれてる状況じゃないんだから、その中で何とかしていろんな方法論を考えていくしかないじゃないですか。その一つが『W-1』だよな。
——やっぱり全日本プロレスを背負いつつも新しいものを始めるっていう重圧感みたいなものはありましたか？
武藤　いやぁ、『W-1』を「やる」って決まってチケットを売り出してからは一タレントになってるからね。ボブ・サップとやらなきゃないけない、グレート・ムタになってるから。そういう部分では試合には負けたけど存在感は出せたかなって。グレート・ムタを見たお茶の間の視聴者が「なんなんだこいつは!?」って思ってくれたんじゃないかって、そういう作業には満足してるよな。
——ただ、ことテレビ放送については、あまりにも「ボブ・サップ」という個人が全面に出過ぎた感はありませんか？　番組タイトルも『ボブ・サップのバトルエンターテインメント』で。それとも、それさえも『W-1』をテレビで広げるためには必要なことだと思いますか？
武藤　そりゃそうだよな。業界的にも「ボブ・サップが出ると3％は視聴率が上がる」って言われてるからね。そういうのを判断するのは俺たちじゃなくてテレビ側であり世間だからね。どんなに俺が意地を張ったって、それが俺のタレントとしての価値なんだからしょうがねぇじゃん。その中に置かれた立場で満足した仕事ができてるなっていうのはありますね。
——実は昨日、『K-1』のTV放送があった夜9時頃、渋谷に用事があって行ってたんですけど、







①女性ダンサーと共に一生懸命練習した「ボブ・ホップ」を踊りながらサップが入場。格闘技とはまた違う緊張した顔がよい。②リングが突然スモークに覆われると、その中からムタが登場！　前代未聞の入場シーンに会場の興奮が一気に高まる。　③試合が始まるといきなりムタベース。ドラゴンスクリュー、F・エルボー、閃光魔術のフルコースから、場外戦でイス攻撃！　初めて凶器の洗礼を受けたサップはこんな弱々しい表情を見せた。

That's Fantazy! MUTA VS SAPP BOUT REVIEW

○ボブ・サップ
6分33秒
ダイビング・ヘッドバット→体固め
グレート・ムタ×



ワールドカップの時みたいに、「K-1ボブサップ放映中！」みたいな看板が出てる飲食店がけっこうあったんですよ。

武藤　マジで!?　へぇ〜、すっげえなぁ。もう社会現象だね。スポーツ新聞の一面もみんなサップだったもんな。俺が大河ドラマに出た記事なんか、こんなにちっちゃいのにさぁ（笑）。

——でも、逆に言えば、『W-1』もそれだけのタマを持ってるってことですからね。

武藤　じゃあ、俺たちももっと頑張んなきゃいけねぇな。大衆っていうか視聴者に面白いと思わせてから引き止めるのがこっちの作業だからね。

——ただ、『W-1』の地上波番組の中身に対しては、けっこう批判の声が上がっていたりするんですけどね。

武藤　そう？　プロレスを小バカにしてるとか？

——あまりにも作りがバラエティ過ぎるとか。

武藤　でも、もしかしたらそれがいまのプロレス界の現状かもしれないよ。ゴールデンタイムまで持ってくるのがどれだけ大変かって、ホントに世間が評価してくれてたら苦労してないよ！

——武藤選手も一選手でいたことは、テレビをつけるのがこんなに大変な作業とは思ってなかったんじゃないですか？

武藤　うん。「プロレスだ」っていうだけでスポンサーが付かないっていうんだから、認知されてないじゃん。その現状っていうのをまじまじと勉強させられたっていうのはあるよな。俺だってプロレスに対してプライドはあるよ。だけど「K-1や『PRIDE』よりプロレスのほうが上だ」って口で言ったところで現状は違うぜ。いまのプロレスでは東京ドームをフルハウスにできねぇよ！

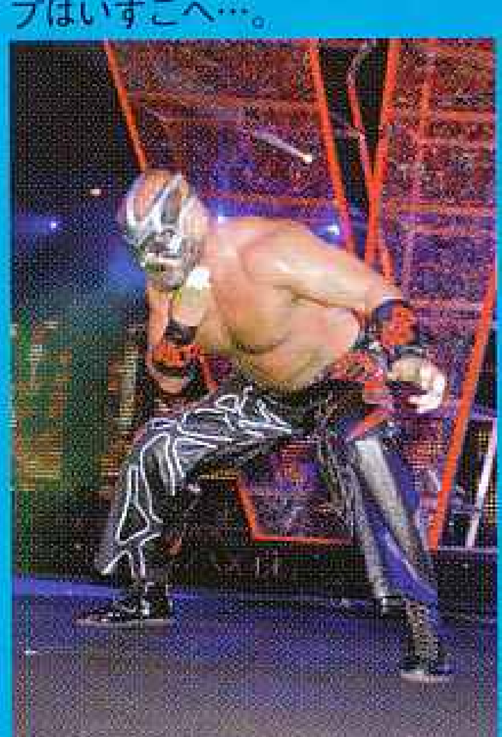
——5万人とか発表してますけど、ホントの現状は違いますもんね。

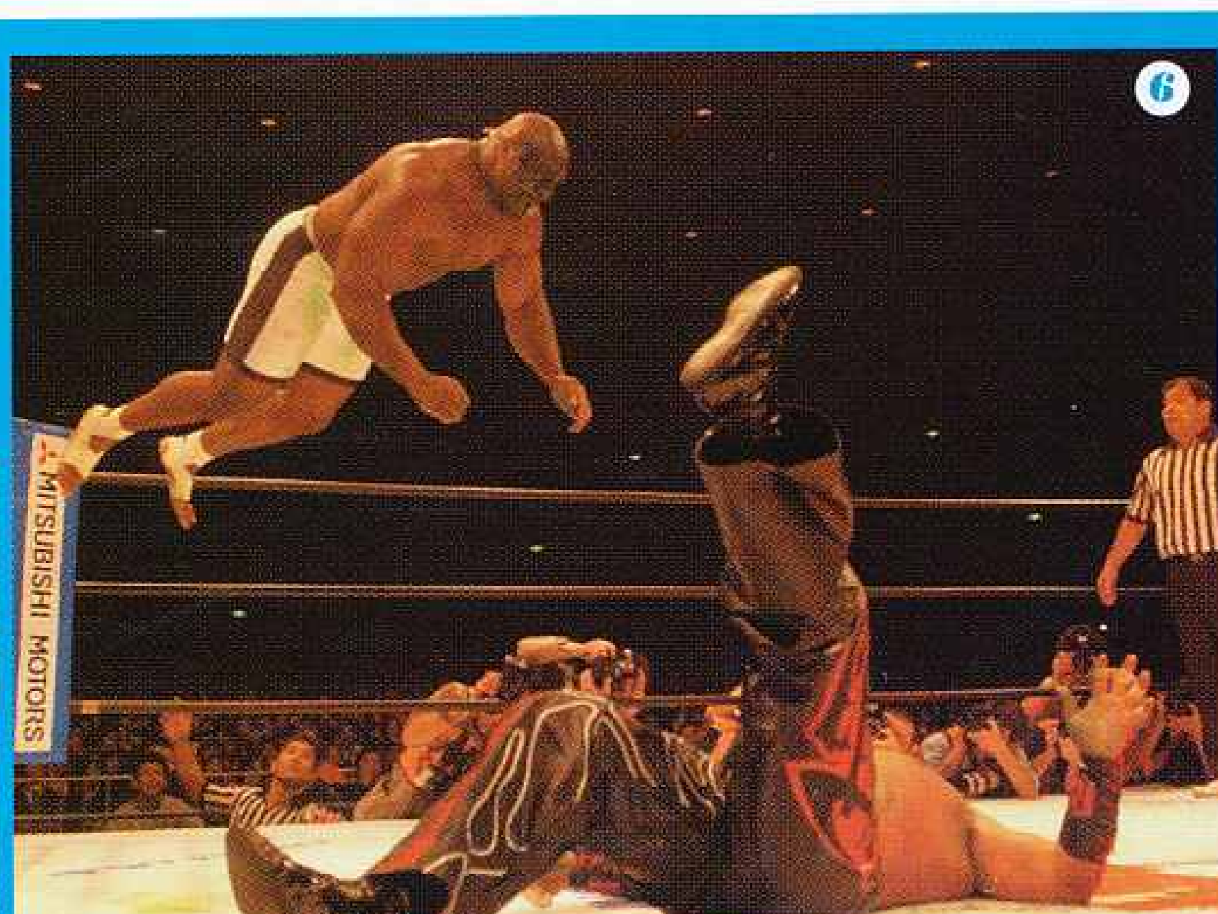
武藤　もっと追い詰められてるぜ。試合内容だってさぁ、プロレスの方が多くのことを表現できると思ってたんだよ。でも俺、昨日のK-1の中継見ちまったんだよな。あの迫力をプロレスで表現できるかっていったら、難しいと言わざるを得ないよ！

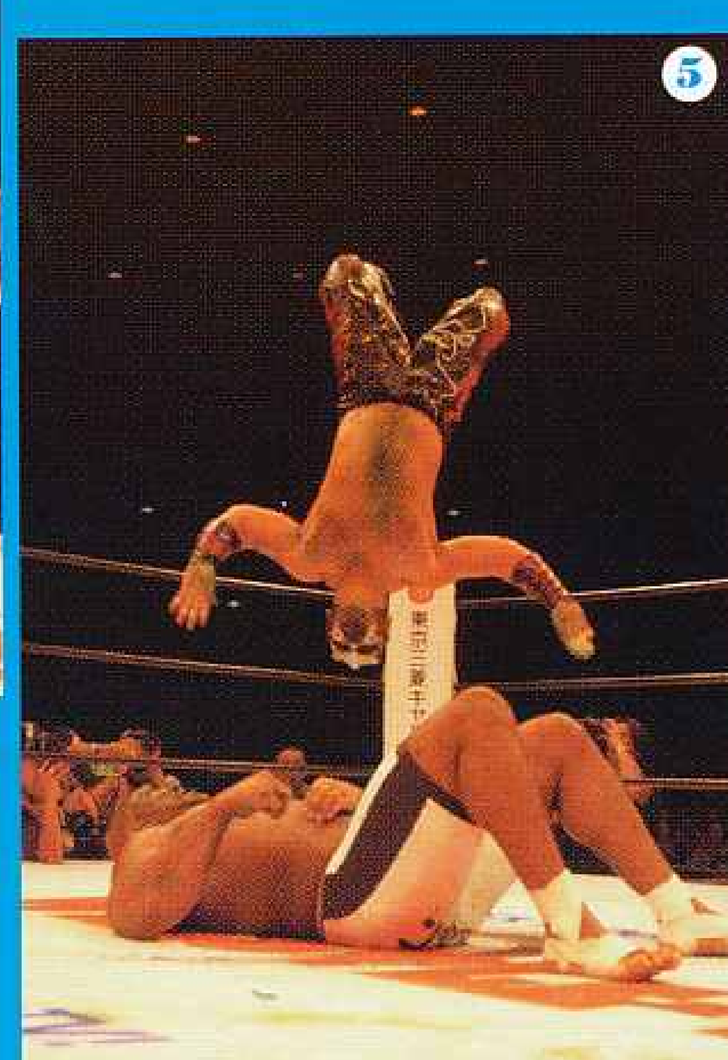
——はぁ〜、武藤さんですらそうですか！

武藤　だからプロレスにしかできないことを、もっと追求していかなきゃならねぇんだよ。

▼サップが勝利のダンスを踊る中、ムタは無言で退場。そしてステージまで来るとおもむろに振り返り毒霧噴射！　すると火花が花道を駆けつけ、サップのいるリングが爆発！　そしてリングは黒い幕に包まれた。サップはいずこへ…。









④リングに戻るとサップが反撃開始。NFL仕込みのタックルから、まさかのプランチャ！　そしてとどめのパワーボムに行こうとするところで、ムタが毒霧噴射！　ビーストの顔がムタの毒に染まった！　⑤するとムタは間髪入れずに切り札ムーンサルトプレス！　しかしカウント2！　⑥逆にサップはチョークスラムから、まさかまさかのダイビング・ヘッドバット！　１８０キロ恐怖の肉弾魔人が降ってきて遂にムタは力つきた……。

―だからレスラーも、もっとイベントスタッフと協力し合わなければダメですよね。馳先生なんかは『週刊ファイト』で「試合前にみんな集められて演出を確認させられた」とか「控室に外部の人間が入ってきた」とか、『W-1』での苦言を書いてましたけど。それを言ってたらダメだと思うんですよ。まぁ、馳先生の場合わかってて書いてる確信犯だと思いますけど（笑）。

武藤 だからそれはレスラーとして面倒臭い作業だし、気の散る事だし、控室にだって知らない人間がドタバタ入って来たりとか、いままでと違う世界だけど、それをひっくるめて、今度はプロレスにしなきゃならないじゃん。ヘンな話、昨日俺も久々にお芝居をやったけど、ああいうドラマっていうものを支えているのは役者だけじゃないよ。照明からカメラの人から喧嘩の仕合いだよ。喧嘩というか意見の言い合いだけど、その中での一体感で作ってるよ。

―それは「役者が偉い」とかそういう問題ではないですからね。

武藤 そういう問題じゃないよ。だからプロレスラーの仕事っていうのもそこからが全部仕事っていうふうに思ってくれないと困っちゃうよな。

（ここで『W-1』の関係者X氏登場）

関係者X どうもお疲れさまです。コーヒー買ってきましたからどうぞ。

武藤 あ、俺ふたつちょうだい。ダブル！

―またコーヒーダブルですか（笑）。では、ここからは武藤さんと関係者XさんのWインタビューでお願いします。Xさんはスタッフの立場から見て、『W-1』の感想っていうのはいかがですか？

関係者X 感動した！

―感動しましたか（笑）。まわりの反響とかはいかがですか？

武藤 「もう、こりごりだ」っていうのもいた？

関係者X みんなそこそこの達成感はありましたよ。一緒に仕事をする人たちってあまり感情的な部分がない人たちばかりだから、ビジネスとして自分の仕事が一つ終ったという結構淡々とした感覚でしたけど。それからTV放送も従来のプロレスファンからはかなりブーイングみたいですけど、マーケットを考えたら大成功ですよね。プロレスの試合を見たい人はPPVを見ればいいんですからね。

―そうですね。プロレスファン的にもPPVは評判いいんですよ。

武藤 PPVは良くて地上波の方はダメなんだ？

―バラエティー的にイジられるとダメみたいですね。でも、ある意味シビアな放送でもありましたからね。

武藤 何がシビアなの？

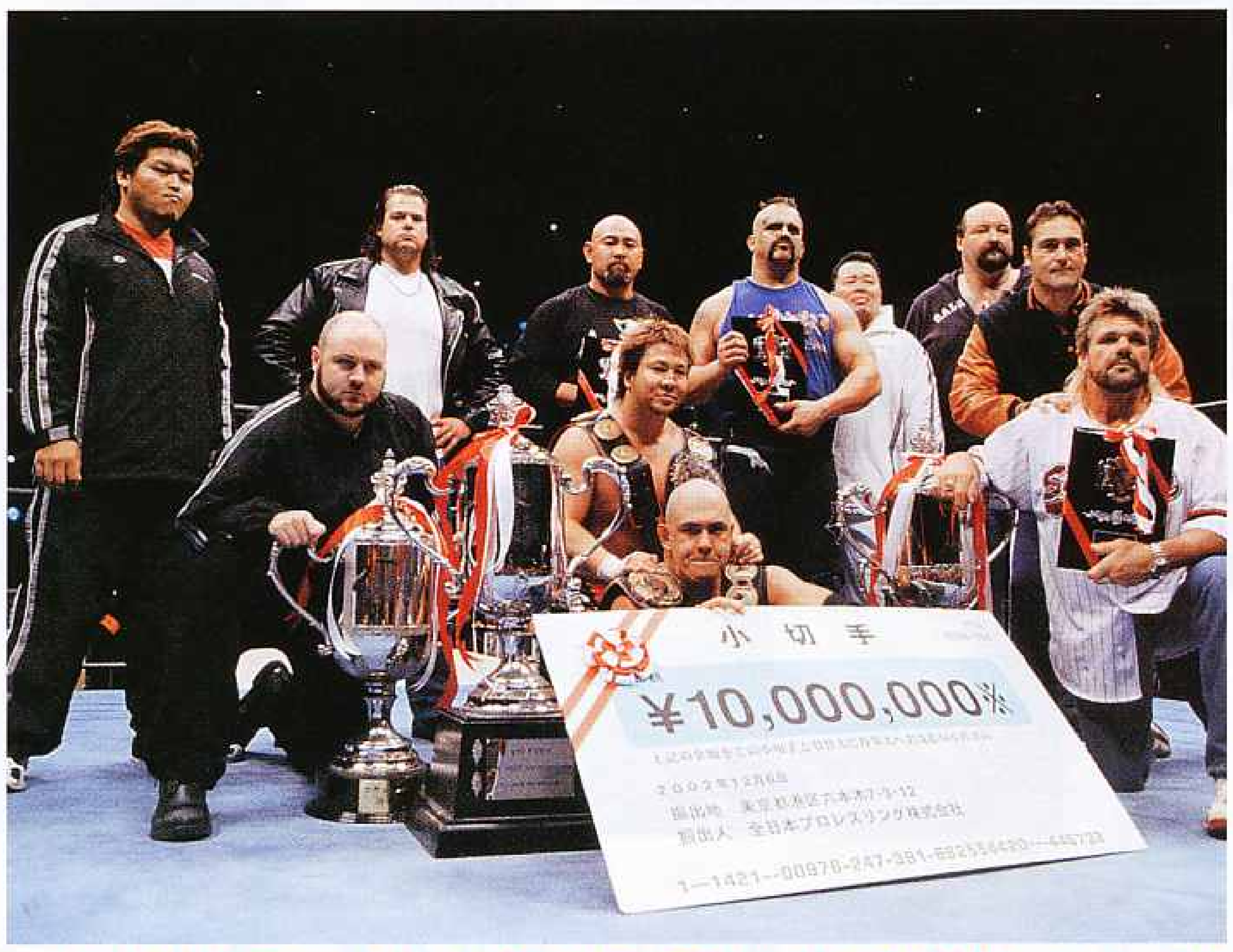
―例えばさたやんの試合なんてフィニッシュが流れないんですよ。さたやんが場外に降りたところで突然「さて、凶器は何を使ったでしょう？」っていうクイズになって、CM明けに「正解は金だらいでした」で終っちゃうんですよ（笑）。

武藤 へ〜、当たったら何か貰えんの？

―い、いや、そういうんじゃないです（笑）。

武藤 な〜んだ。

関係者X でも、前々日の深夜に放送した番組ではフィニッシュまで流してるんですよね。だから全部完璧にすみ分けられてるんですよ。会場とPPVと日曜深夜と火曜のゴールデンタイムという4つに客層を含めてキッチリ作り分けてるんです。



年末の風物詩『最強タッグ』は、小島聡＆太陽ケアの新世代タッグが初優勝。しかし、最終戦の武道館大会は、残念ながら観客動員、盛り上がり共に今ひとつだった。

武藤 それって最高だよな。たいしたもんだよ。全日本の中だけでやれったって絶対できないよな。

―確かに理想ですよね。で、実際に会場で見るとイベントとしてテンポが良くて、観客としてのストレスがなかったっていうのが凄く大きかったんですけど、欲を言えばソフトの部分である試合内容がイマイチだったかなとも思うんですけど。

武藤 うん。初対面同士が多いからな。あと集客を考えた場合ネームバリューがある格闘家を呼んだけど、プロレスラーとしての経験はそんなにないじゃん。でも逆に言ったらこれから育つってことだからね。変な話、ボブ・サップがいまニューヨークに行って、ビンス（・マクマホン）がそのまま使うかって言ったら多分使わないと思うよ。

―プロレスラーの実力っていう部分でも、本職から見たら荒い部分はたくさんありますか？

武藤 あるよ。だけど、そういう部分は超越していいじゃん。要は俺らは表現する商売であって、何を客に訴えるかっていうことをやってるわけだから。平々凡々にいい仕事だけこなして何もお客に訴えることがないんだったら、下手くそでも荒々しく訴えたほうが絶対にいいもんね。

―武藤選手から見てサップ以外で可能性が見えた選手はいましたか？

武藤 サム・グレコなんてあのままプロレスラーとして通用するよな。あとは見てる人が感情移入する方法論だけで、ホントにパーフェクトに使えるよ。あとねぇ、違った面白さで、俺はアイツのことスゲェ好きなんだよ、（ケビン・）ランデルマン！ トランポリンに乗ってるみたいにピョンピョン飛んでさぁ、あれ面白れぇよぉ！

―滞空時間のやたら長いエルボードロップとかいいですよね（笑）。

関係者X だからってランデルマンが全日本に上がったら、持ち味が消えると思うんですよね。

武藤 そうなんだよなぁ。

―だから今後難しくなるのは、全日本と『W-1』の兼ね合いをどうするかってことだと思うんですけど。

武藤 非常に悩んでますよ。

関係者X 全日本内部からも「兼ね合いはない」って声もあるぐらいだから、もういいんじゃないですか。

―『W-1』が成功した後もそういう声はあるんですか!? でもここまで来たら全日本を『W-1』のハウスショーにするしかないかなとも思うんですよ。

関係者X 昔は武道館を年6回やっても一日でチケットは売れてたんですって。全日本内部はそう言ってるんだから、いいんですよ。

―まぁ、そういう時代もありましたけどね（笑）。

関係者X その時代の思い出を大事に暖めていけばいいんじゃないですか？ やりたいようにやらせてあげましょうよ。

―その時代は戻ってくるんですかね（笑）。

武藤 待ってるだけじゃ戻って来ねぇよぉ！ ただ、プロレスの興行形態自体がもう限界なのかもしれねぇな。いまが昔と違うのは、力道山の時代のプロレスってその当時からしたら凄い斬新で、とんでもなくハイセンスで、ハイカラなものが来たなっていう共感を得たような気がするんだよね。だけど極端な話、それが何十年かずっと変わってなかったから、ハイカラがハイカラじゃなくなってたんだよ。もう何年も前からさ。

―50年間ハイカラなわけないですからね（笑）。

武藤 ハハハ、そうだよな。その間にハイカラって言われるものがK-1とか『PRIDE』に移っちゃったんだよね。


―では、これからの課題は、プロレスをどうやってK-1とか『PRIDE』のは違うハイカラなものにするかっていう作業ですよね。

武藤 そうそう。それが『W-1』ですよ！

―いま武藤選手的には構想として何かありますか？

武藤 さっきドラマの話をしたけど、やっぱり一人で作り上げるものじゃないじゃん。俺個人としてはいかに1月19日（『W-1』東京ドーム）にいいコンディションで臨めるかっていう体調面しか

石井館長には本当に感謝している。あの人がいなかったら俺らスタート地点にすら立てなかった。



の試合を見たい人はPPVを見ればいいんですか

全部完璧にすみ分けられてるんですよ。会場とP

がったら、持ち味が消えると思うんですよね。

俺、ホントはホーガンなんかじゃなくて「あゆ」を『W-1』に上げたいんだよ（笑）

考えてないからね。ただ横浜アリーナより空間がデカイからな。演出っていうものがどうなるのかなっていう興味はあるよね。どうあの空間を生かすかって。難しいのか簡単なのかどっちだろうなぁ……難しいだろうなぁ（笑）。

関係者X　お金もかかりますからね。ホントは舞台設置を前々日からやりたかったんですけど、前々日はコンサートが入ってて、前日の朝から仕込むことになったんですよ。普通だったら前日の夜からなんですけど。

――それだけ大掛かりっていうことですよね。今回のコンセプトっは何かあるんでしょうか？

武藤　もちろん世間に対する訴えだよ。それしかねぇよ！　だから変な話、次はホーガンが出るとかいろいろ言われてるけど、俺ホントは女の子を上げてぇんだよ。

――お、女の子ですか!?　ジョーニー・ローラーとか？

武藤　いや、そんなんじゃなくてさぁ、「あゆ」とかね（笑）。

――あゆ!?　あゆって、浜崎あゆみですか？

武藤　そうだよ。面白ぇじゃん（笑）。

――そりゃ面白いですけど（笑）。どうやって使うんですか？

武藤　例えば……、その鈴木あゆ？

――浜崎あゆみですよ！（笑）。

武藤　その「あゆ」がさぁ、セコンドでも解説でもついて、試合にもちょっとちょっかい出すんだよ。それに怒ったレスラーが、「あゆ」に手を出しちゃうんだよ。そしたら凄ぇヒート買うぜ！（笑）。

――ガハハハ！　猪木vsタッキーの比じゃないでしょうね（笑）。そりゃ面白いですけど、そこまで行っていいのかなぁ……

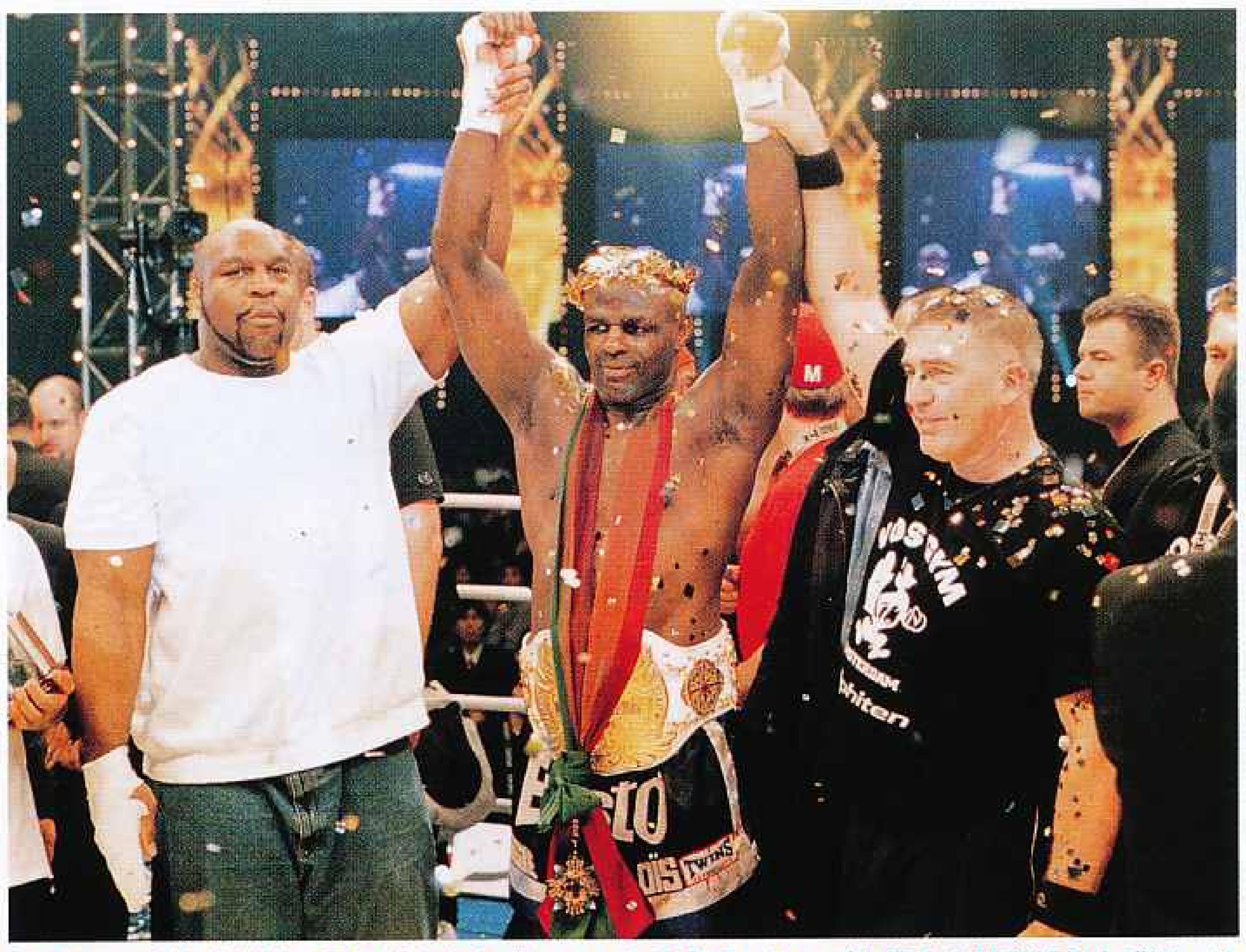
武藤　だってWWFが最初にアメリカで認知されたのって、シンディー・ローパーをリングに上げたからだぜ。そうやって世間取り込んでいったんだからさぁ。

――次の『「W-1」ではWWEに対抗する」みたいなこと言ってましたけど、そういうことなんですか？（笑）。

武藤　直接そういうことじゃないけど、興行煽るためにしょうがなく俺が吠えたんだよ（笑）。でも、『W-1』をWWEみたいに育てていきたいですけどね。

関係者X　内容はWWEっぽくはしないですけど、ビジネス的なライバルですよね。

武藤　まだライバルまでいってないだろ。目指すは、だろ。



『最強タッグ』武道館の翌日行われた『K－1』はボブ・サップ人気もあり空前の大盛況。はたして11・19『W－1』東京ドームはどうなるか？

――WWEも人気が落ちてると言われながら1万人入る会場で2daysが即ソールドアウトですからね。フジテレビが今度WWEの後援と放送をするんじゃないかっていう話もありますけど、そうなると『W-1』としても影響はあるんじゃないですか？

関係者X　WWEはフジテレビの違う部署がやるんでしょ？　だから影響はないと思いますよ。

武藤　ただ、WWEとかは向こうからスポンサーを持ってきてるんだよね。こっちは裸で勝負してるんだからさぁ。

――そっちの方が何倍も大変ですよね（笑）。

武藤　それでやっとあそこまでチャンスを頂いたんだから。立場が違うよなぁ。

――これはちょっと言いづらいと思うんですけど、そのチャンスをもらうきっかけとなった石井館長が、昨日「在宅起訴へ」っていう報道がされたんですけど、これによって『W-1』にも何らかの影響は出てくると思いますか？

武藤　どうだろうなぁ。俺は事件については何もわからないし、コメントしようがねぇよ。だけどそういう問題は抜きにして、俺は石井館長にはホント感謝してますよ。石井さんがいなかったら、俺らスタート地点にも立てなかったかもしれないからね。だから、せっかく頂いたチャンスっていうのは俺は絶対にものにしていきたいし、事件とそれとはまた別だよね。

――石井館長が手を引くことになった場合、フジテレビも『W-1』から手を引いてしまうということはないですか？

武藤　確かに最初は石井さんと俺で何とかお願いしてテレビがくっついた形だけど、そっから先は俺たちの器量次第だったからね。

関係者X　始まりとしての顔はもちろん大きいですけど、館長はいる間は安心というわけでもないし、シビアな世界ですよ。

武藤　俺たち常に崖っぷちで商売してるからね。視聴率が悪ければ退かれるし、何にしたって常に状況は一緒ですよ。それに基本的には今回の事件がある、ない問わず、石井さんは表には出ないって言ってたよね。「武藤ちゃんが出なきゃダメだよ」っていうふうに言われてたんだよ。

関係者X　ビジネスっていう部分でのアドバイスはもちろんありますけど、リング上やマッチメイクに関しては違いますからね。

――なるほど。では、いまの状況下において他団体とかは意識しますか？

武藤　意識しますよ。何だかんだ言ったって31日に『猪木祭り』があって1・4には新日本（東京ドーム）があって、1・10にノア（日本武道館）があって1・19にウチらがあって、WWEがポンポーンとあって、2月になったらまた同じような状況でしょ？　近年まれにみるぐらいプロレス、格闘技に金が落ちるはずなんですよね。ただどこも潤わない！（キッパリ）。

――金が落ちるはずなのに潤わない（笑）。

武藤　こういう状況って、戦争って言ったら戦争だしな。

――そんな中で橋本選手、蝶野選手とはどういうスタンスで付き合っていこうと思ってますか？

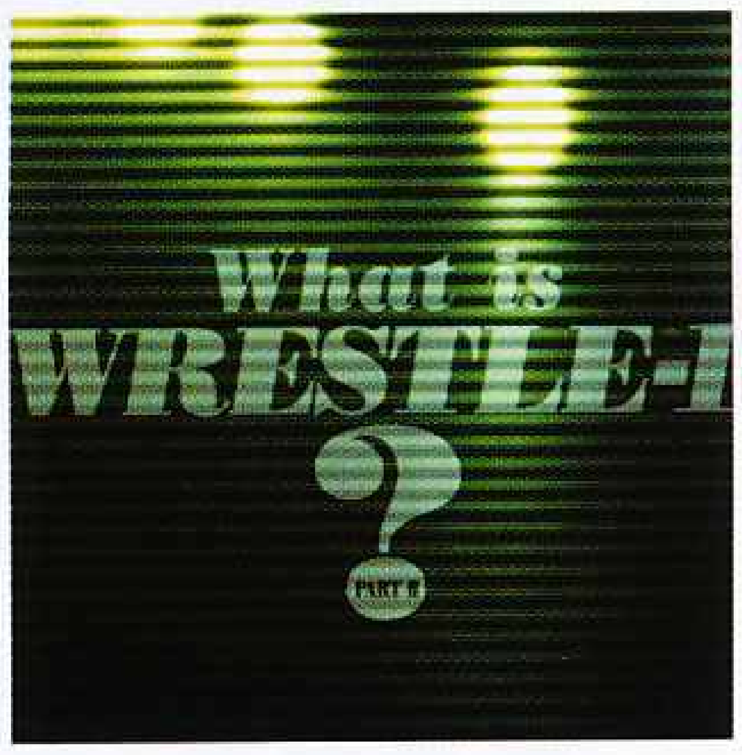
武藤　こればっかりはどのようなって決めていけないよ。みんながみんな団体抱えてるしさ。本音を言えば協力しないでもすむような体制も作りたいよ。でも、集客とかいろんなことを考えた場合、そこまでプロレスっていうのはいま土壌が高くないんですよ。だからありったけことをしなければいけない状況であって、ホントは『W-1』でドンドン理想を作っていきたいよ。

――でも、現有戦力だけじゃそこまでのパワーは出ないってことですよね。いまは武藤選手が橋本選手や蝶野選手と協調していかなければならない時期だと。

武藤　個人的に蝶野が来てくれたのも俺は直接、蝶野と話をしてないんですよ。だけど新日本の中でも蝶野だけが行くって言ったっていう情報も聞いて、それはそれで凄く嬉しいし、感謝してますよ。それから、橋本があぁやって試合をしに来てくれたことも凄い感謝してますよ。

――今後も彼らが上がる可能性はありますか？

武藤　あると思うよ。ただそこにはビジネスっていうものが生まれてくるじゃない。だから簡単に



できることじゃないよな。

――蝶野選手なんか『W-1』に一番合ってるんじゃないかと思いますけどね。

関係者X　横浜アリーナでも、格好良かったですよねぇ。

――蝶野選手がテレビで「『WRESTLE-2』は俺にやらせろ！」みたいなことを言ってましたけど、あれは本音入ってますよね。

関係者X　新日本プロレスっていうものは抜きにして、蝶野さんのセンスで大会をプロデュースしたら面白いかもしれないですよね。

武藤　そういうのもアリだよね。ただ本来、新日本でもできるんだけどなぁ。

関係者X　いや、新日本っていうかプロレス界ではできないですよ。なぜかって言うと、プロレス界だったら1億貰うのが仕事じゃないですか。ボクたちがいまやってることって1億円貰って、1億円以上のメリットを出してくれたところに与えるっていう仕事なんですよ。だからプロレス界では絶対にできないですよ。

――なるほど。確かにプロレス界って、テレビ局自体をスポンサーにしてきた特殊な世界ですからね（笑）。では、最後に今年は武藤選手にとって激動の1年だったと思うんですが、来年はどうしていきたいっていう抱負はありますか？

武藤　そんなもん一寸先は闇だよ（笑）。いまはどの業界も同じだと思うよ。2～3年先なんて見れないよ。置かれてる状況がいつも崖っぷちだもん。

――とすると、当面の目標は東京ドームに全神経を集中させるっていう感じですか？

武藤　そればっかりじゃないよ。正月からシリーズが始まるし、多分、大阪府立とかも三冠戦になるだろうしな（その後、グレート・ムタvsザ・グラジエーターが決定）。そういうのあるし大変だよ。

関係者X　いま、武藤さんとか小島さんのファンのおかげで食えてるんですけど、ビジネス形態がどうしても旧来の全日本ファンを相手にした形になってるから上手くいかないんでしょうね。いま現在のマーケットを見て、それに合わせてビジネスをやっていければいいんですけどね。

――方向性といわゆる全日本の会場に来ている人たちが求めているものと、ちょっとズレがありますよね。

関係者X　年6回の武道館スタンプラリー、後楽園が年に20回ぐらいあるスタイルで、試合でみせて、「お客さんはスポンサーです」っていうスタイルはそれはそれでいいんですけど、変えていかなきゃダメなんですよ。

武藤　さっきも言ったけど、それを100%こなせても放映料なしではやっていけないからな。

関係者X　その興行形態を仮に年6回の武道館を年1回にして凄いプレミアをつけて、そのかわりに両国を武藤さんのフランチャイズにするとか、そういうちょっとしたことって面白いじゃないですか。そういうアイディアがなぜ出てこないのかなって思うんですよ。川田さんが主役の時は武道館で勝負して、武藤さんが主役の時は両国で勝負して、そういうことだけでも随分マーケットが広がると思うんですけどね。いまは魚がいない池に一生懸命に釣り竿をたらして、餌付けて、撒き餌蒔いて何も釣れない状態ですからね。魚を養殖しなければいけないのに、いつまでも釣り竿たらしてますから。

――そうですよねぇ（笑）。

関係者X　池を変えたらいいんですけど、変えないんですよ。

――いまは、しょうがないから武藤選手が遠洋漁業に出かけていくっていう感じですもんね（笑）。

武藤　そうそう（笑）。それで、せっかく釣ってきた魚を池に逃がしたら「水が違う！」なんて言われちゃうからな（笑）。

――ガハハハ！　いろいろ大変ですけど、来年はたくさんの魚が釣れるように期待してます！

武藤　うーし！　もう身体はボロボロだけど、頑張るしかねぇよな！

【02年12月8日／全日本プロレス事務所にて収録】



採点させてよ！ '02

11・17『W-1』出演者を『紙プロ』が勝手に勤務査定！

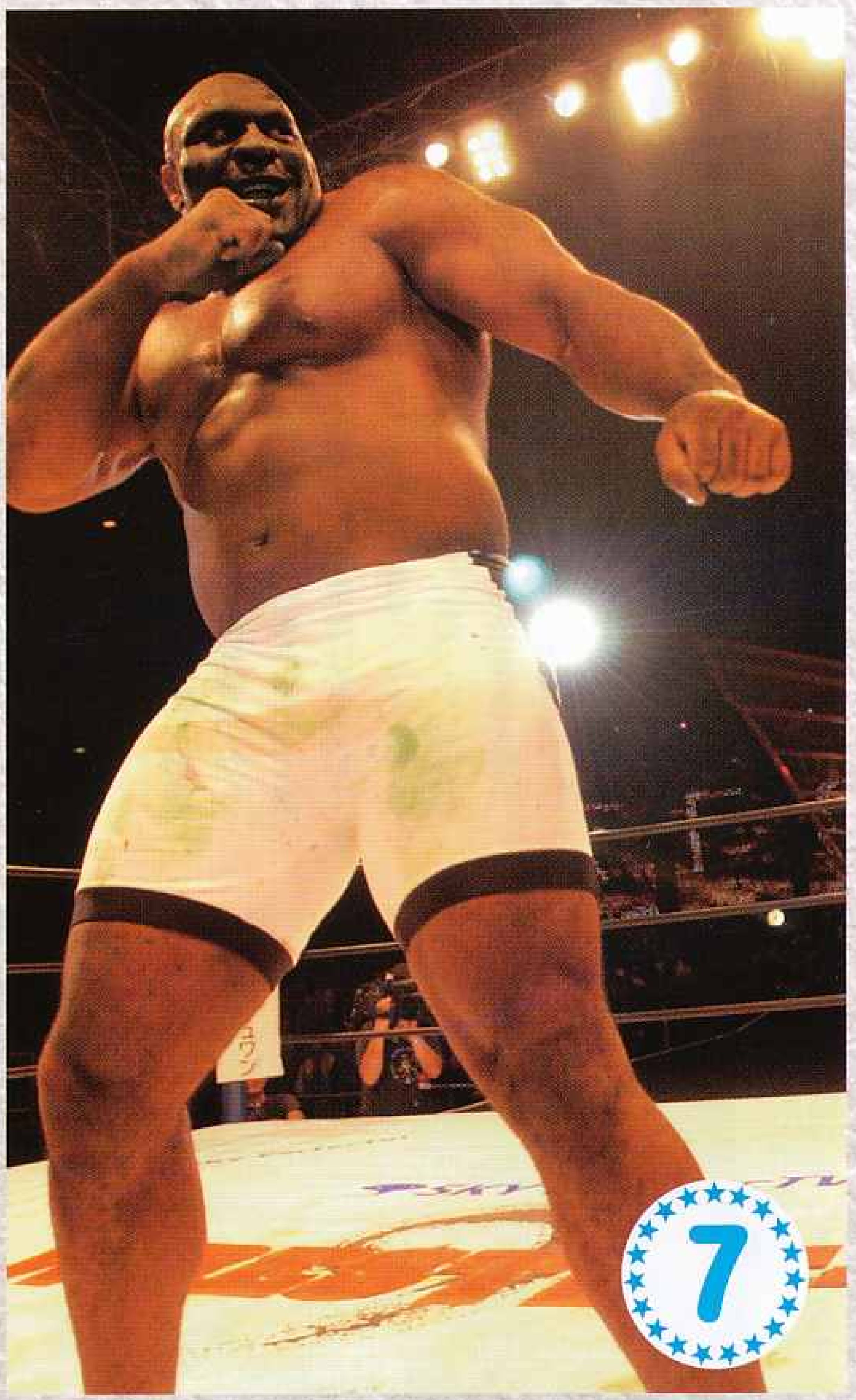
発表当初は参加メンバーすら発表されなかった"謎掛けイベント"『WRESTLE-1』。蓋を開けてみると、アメプロ、新日、ZERO-ONE、ルチャリブレ、さらにはPRIDE、K-1、UFC、そしてボブ・サップと、各分野の大物が大集合していた。はたして、彼らは「ファイタジーファイト」をどう表現したのか!? フランチャイズである全日レスラー以外の"出演者"を『紙プロ』が独断と偏見で勤務査定してみました。



ウルトラマンは3分以上闘ったらダメだって!

ビル・ゴールドバーグ
BILL GOLDBERG

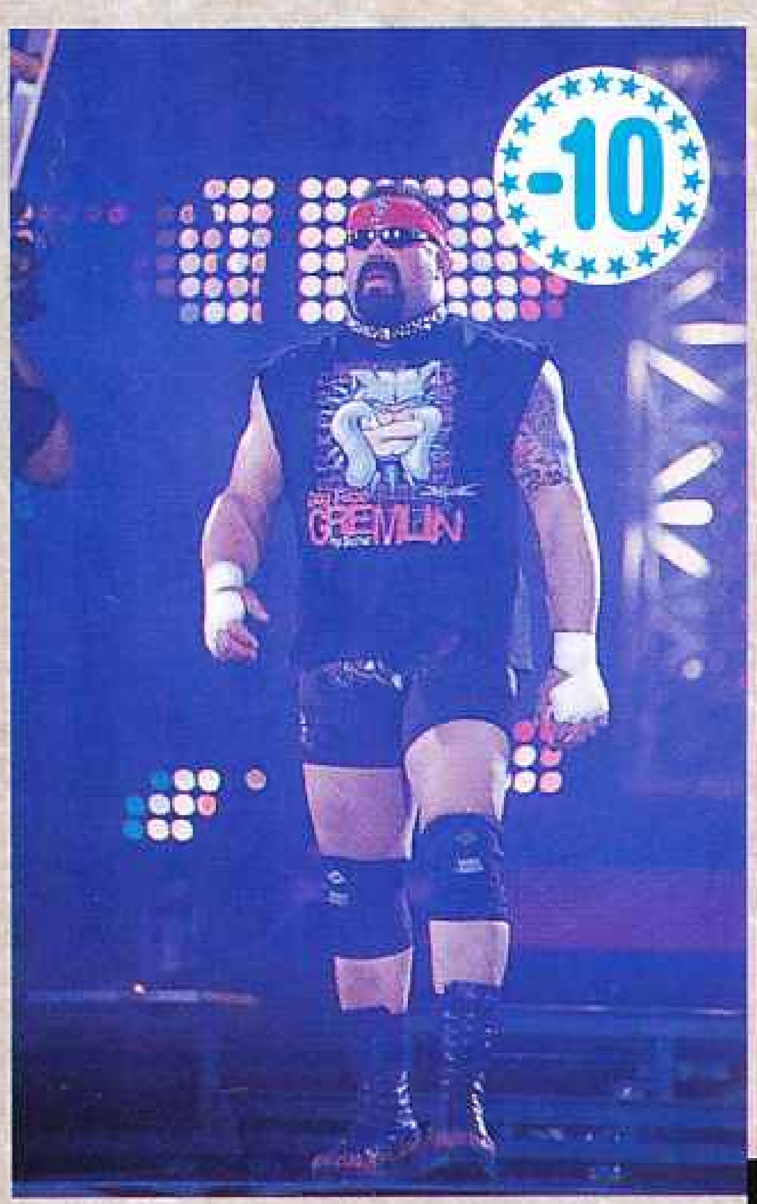
サンディエゴから、自家用機、国際線、ヘリを乗り継いでの緊急来日! 会場へ向かうワゴンに乗り込んだ映像が、夜のはずなのに明るかったのはご愛敬だ。車を降りてリングへ直行。これで秒殺してくれたら完璧だったが、待望のスピアー、ジャックハマーこそ出たものの、なぜか試合はもっさりとした展開に。まさかリック・スタイナーを使った新日本の陰謀では……。



サップのサービス精神大爆発! でも…

ボブ・サップ
BOB SAPP

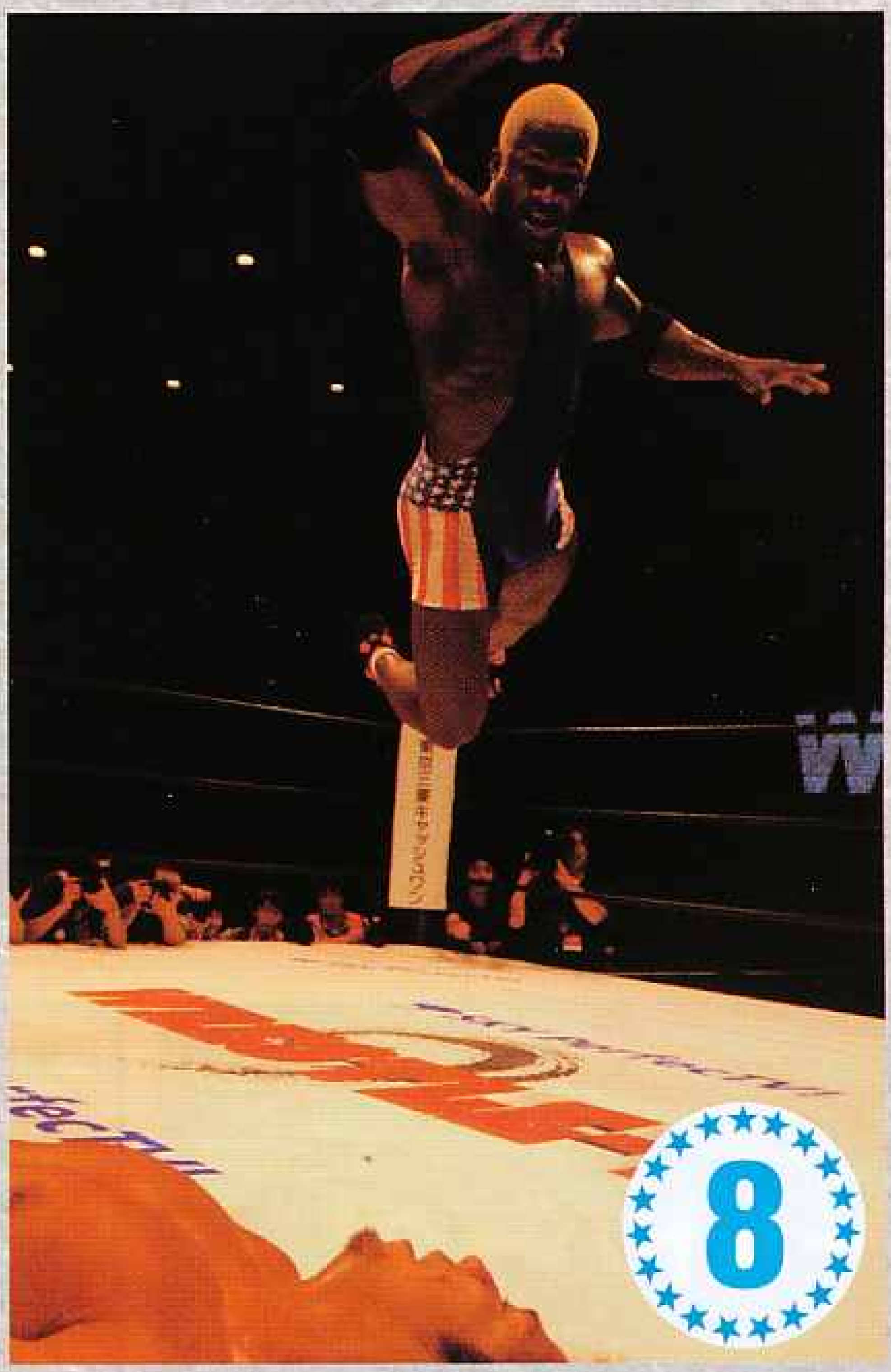
番組名が『ボブ・サップの～』であったことでもわかる通り、今大会の主役であるサップ。「ボブ・ホップ」での入場、毒霧、凶器攻撃初体験、さらにプランチャなど空中殺法披露と、目一杯頑張ってくれたが、その「頑張り」「一生懸命さ」ばかりが目に付き、野獣性が影を潜めたのが残念。プロレスって難しいと考えされられたのだった。



ゴールドバーグの魅力を完封したA級戦犯!

リック・スタイナー
RICK STEINER

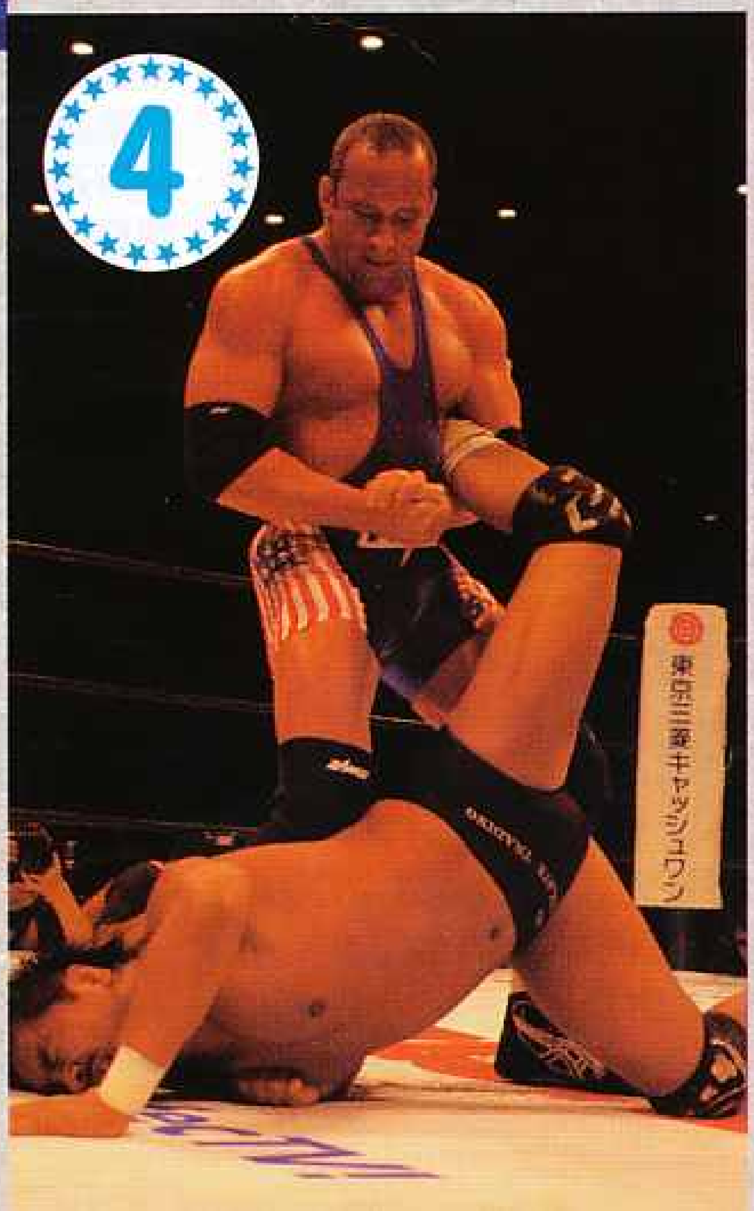
ズバリ、ゴールドバーグの引き立て役として登場したこの男。彼の仕事はどれだけゴールドバーグの迫力を引き出すかにあったハズだ。それなのに、ああそれなのに。よりによって、3分間ファイター相手にダラダラ6分も引っ張って、ゴールドバーグの魅力を完封。これじゃ8月の初来日時、見事な秒殺負けを演じた小島＆ケアが浮かばれないよ！ 失格！



逸材発掘! 21世紀のジミー・スヌーカか、ダグ・ファーナスか!?

ケビン・ランデルマン
KEVIN RANDLEMAN

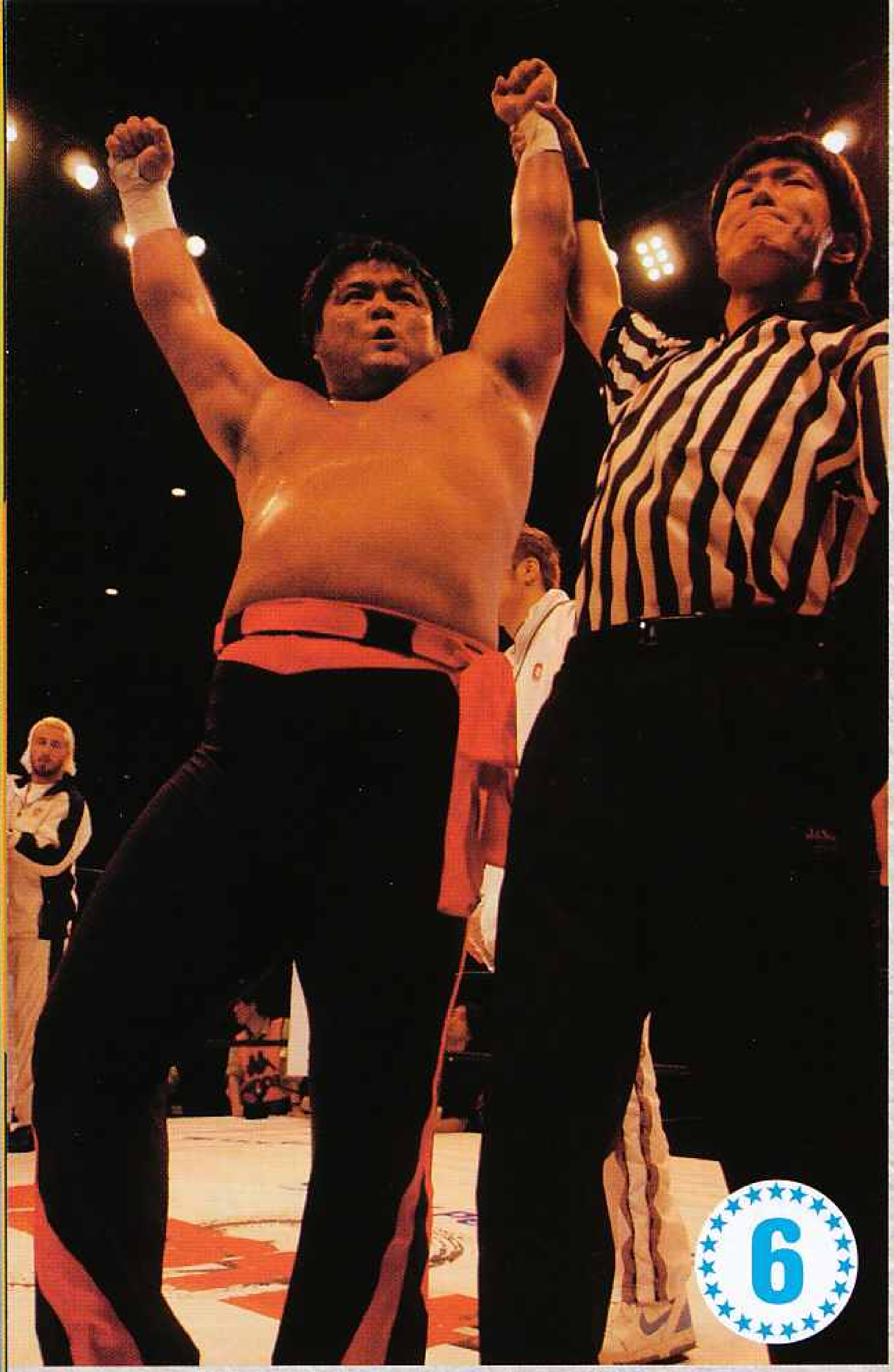
ＵＦＣ王者時代から『オバケジム』を通じて、ＷＣＷのレスラーたちと交流があったランデルマンが遂にプロレスデビュー！ もともとジャングル番長キャラ、異常なまでの跳躍力というプロとしての華を持ちながら、バーリトゥードの試合になると超安全運転でファンをガックリさせてきた男だけに、試合でも大暴れできるプロレス参入は大正解であろう。ゼヒ継続参戦希望!



残念! 第1回『猪木祭』のMVP本領発揮ならず!

マーク・コールマン
MARK COLEMAN

一昨年の大晦日に行われた第１回『猪木祭り』では、ＰＲＩＤＥファイターによる「なんちゃってプロレス」が横行する中、ただひとりハードヒットなプロレスを披露し、プロレスラーとして大いに株を上げたコールマン。しかし、今回はプロレスに慣れ始めてしまったがためか、ちょいと迫力不足。コジ＆馳という名人２人が相手なんだから、もっと大暴れしてもいいのに、と思わずにいられなかったのだ。



破壊王、『W-1』を『真撃』と勘違い？

橋本真也

HAKAIOH

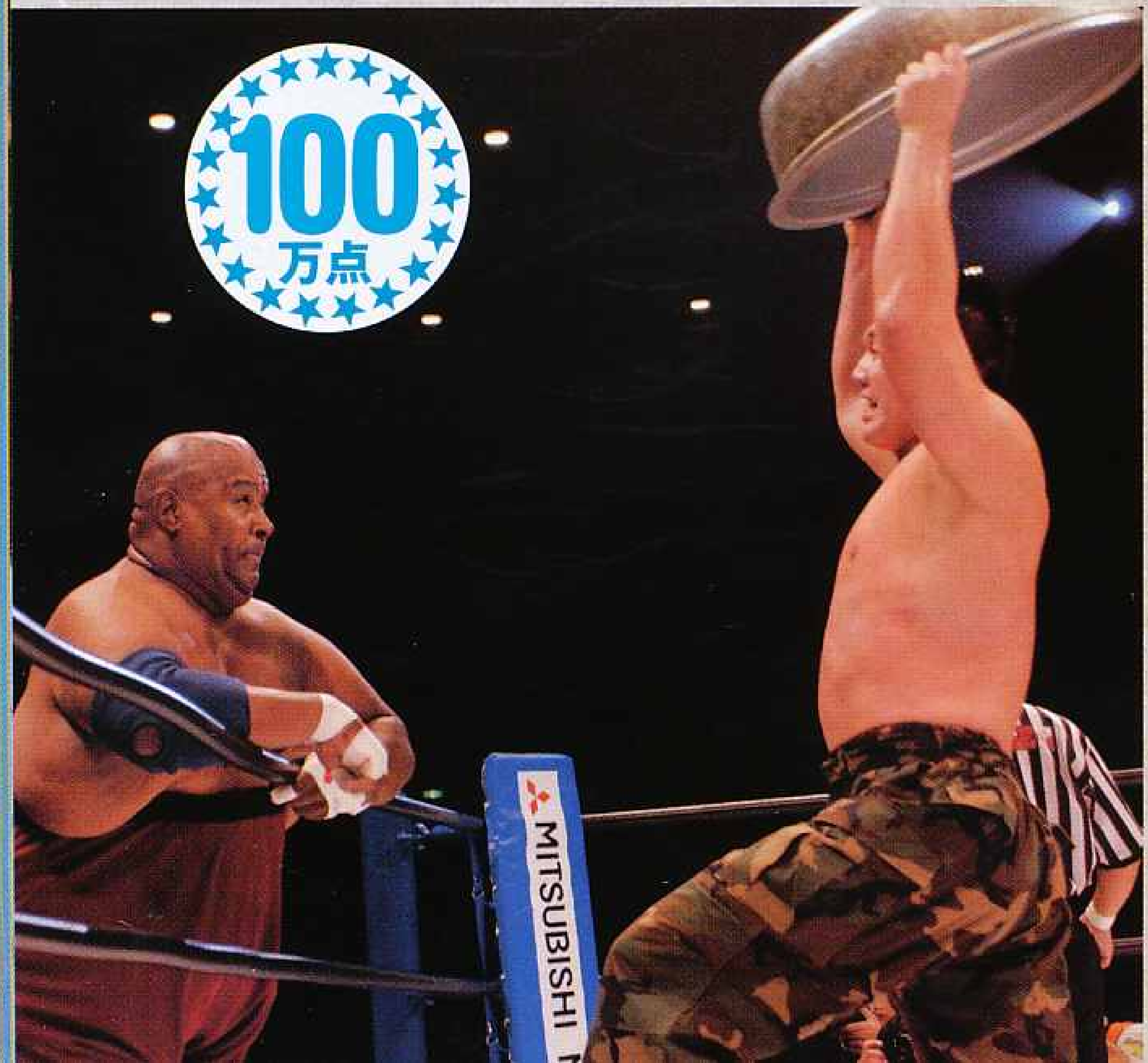
団体の垣根を超えて『W-1』のリングに登場した我らが破壊王。「これぞプロレス!」というものを存分に見せつけてくれるかと期待されたが、何を勘違いしたか『ファイタジーファイト』のリングで、誰も望んでない「異種格闘技戦」を堂々敢行! どうやら破壊王、『W-1』を『真撃』と勘違いしてしまったようです。は〜、カックン。

文句ナシ! 今大会最大級のインパクト!

SATA…yarn

SATA…YARN

お待たせしました! ある意味、今大会最大のインパクトを与えてくれた男・さたやんの登場だ!「バカバカしいと思うなよ、やってる本人大まじめ」という、見ごろ食べごろ笑いごろなフレーズがピッタリ合うような、やればやるほど館内温度を氷点下にしてくれるファイトは「お見事」の一言。秘密兵器「大回転チョップ」などは、まさにクレイジーサイクロン級の旋風を巻き起こしてくれたのだった。

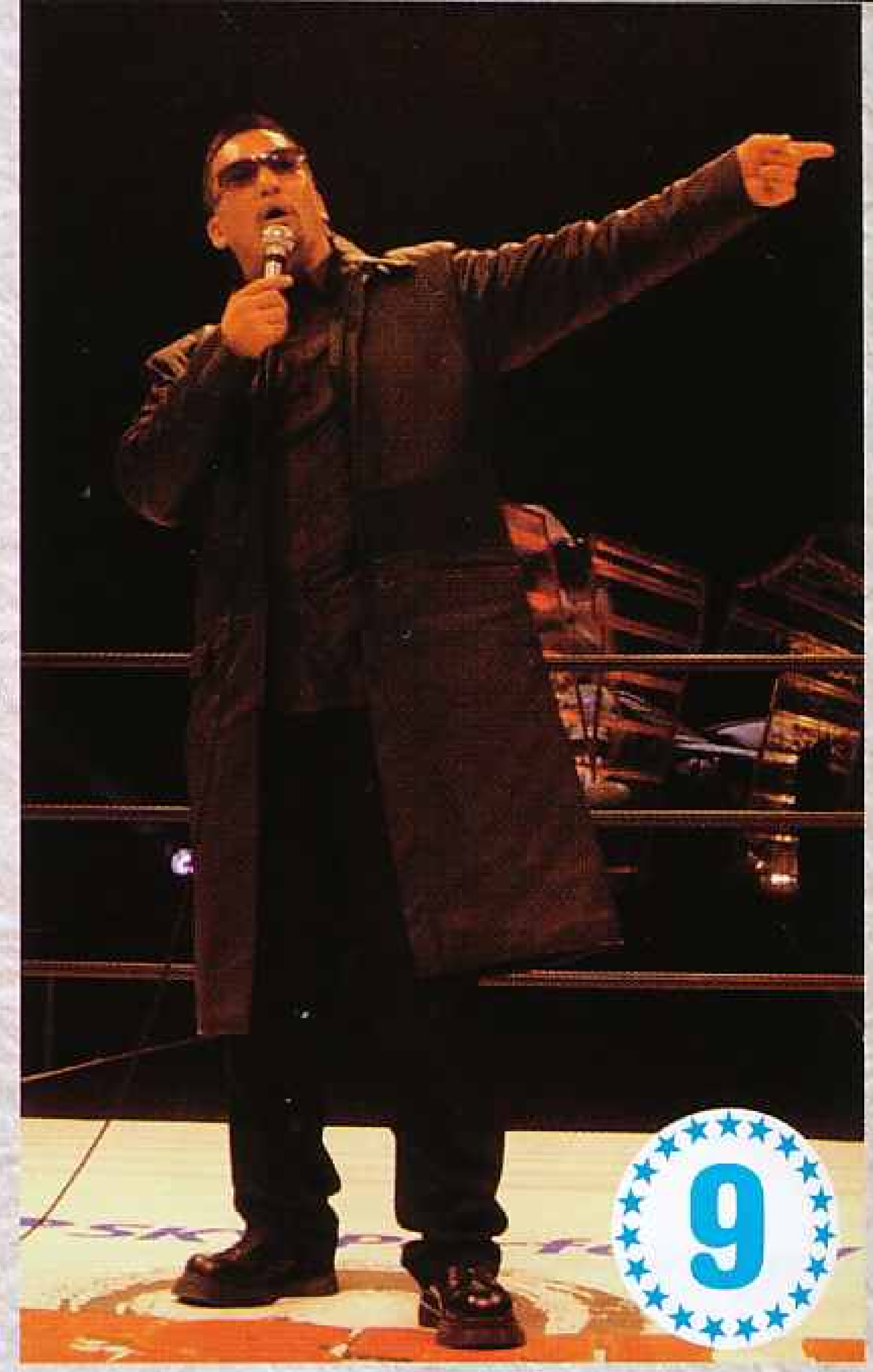


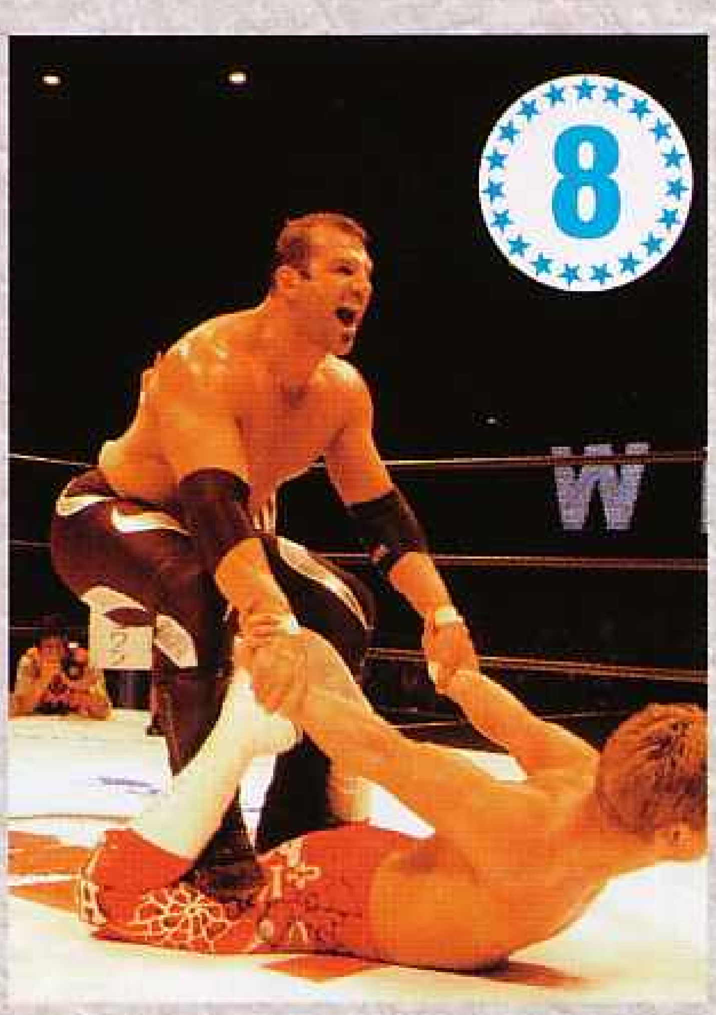
もしかしたら『W-1』に最も似合うのは、この男かもしれない

蝶野正洋

MASAHIRO CHONO

『W-1』という空間においては、何もリングで試合するレスラーだけが評価されるものではない。ショーの一部として登場したならば、たとえマイクだけでも、立派な“出演者”なのだ。というわけで、この日最も大歓声で迎え入れられ、見事なマイクアピールでがなり、放送席で素に戻りそれが会場に流れて観客を爆笑させた蝶野こそがこの日のMVPだ。





さすが元WCW
まったく違和感ナシ!

サム・グレカラス

SAM GRECARAS

WCWのレスラー養成所『パワープラント』時代の同僚サップを石井館長に紹介したという事実だけで、今年の裏MVPをあげてもいいサム・グレコ。実はWCW時代はサップより遥かにプロレスラーとしての評価が高かったというだけに、空中殺法から吊り天井まで見せる見事な闘いぶり。でも、マスクを被らず最初から素顔だったらもっと驚いたのに。



お行儀良い“平成のシン”は見たくない

ジョシー・デンプシー

JOSH DEMPSY

試合前は『W-1』の作り込まれた世界をぶち壊してしまうのではないかと、心配＆期待されていた“平成のタイガー・ジェット・シン”ことデンプシー。演出もお構いなしに場外客席で大暴れ……ということも予想されたが、なぜか行儀良くクリーンファイトに終始。破壊王から十字を取ったのは笑えたが、もっと狂ってほしかった。



ビバ、メヒコ！ プロレスでも魅力爆発

ドス・カラスJr.

DOS CARAS Jr.

生粋の二世ルチャ・ドールにも関わらず、なぜか日本ではプロレスよりバーリ・トゥードでの活躍が多いドスJr.。ガチンコは強いがプロレスでは木偶の坊では?との悪い噂も立ち始めていたが、どうしてどうして、プロレスのリングでも華麗かつ力強いファイトを展開! リフトアップからノーモーションのジャーマンは必見。素晴らしい!

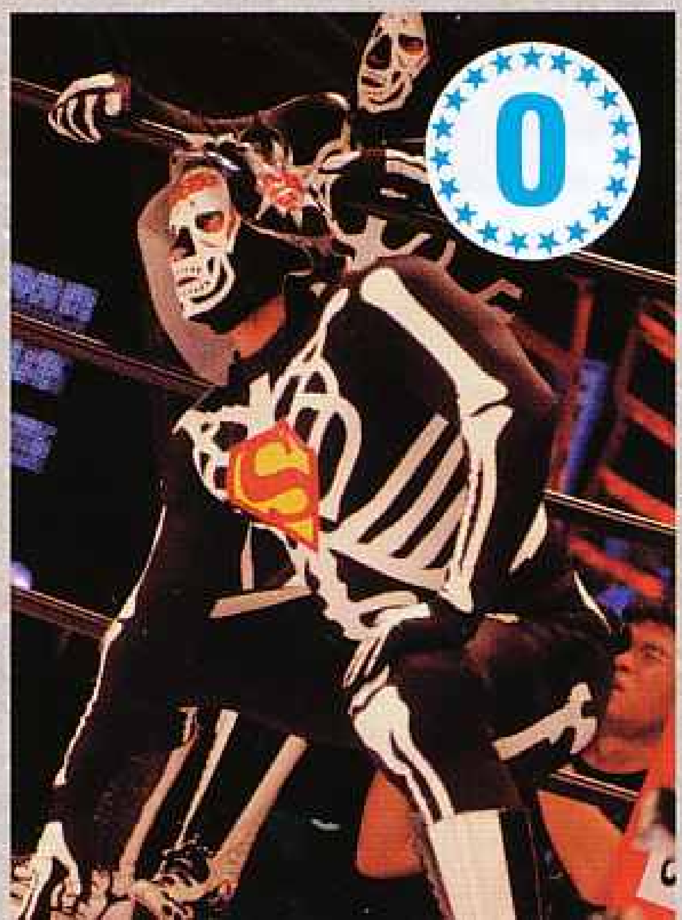
「スリラー」に合わせて踊る宇野君って一体…

THE APEMAN NIGO

CAORU UNO

6・9APE興行限定のレスラーかと思われたTHE APEMANが、NIGO（2号）となって『W-1』に登場! 正体は武藤も認めるプロレスの才能を持つ宇野君だったわけだが、今回は初のルチャドール相手とあって、ちょっとやりにくそう。しかし、本人はそんなことより、前回と同じコスチュームを使ってしまったことを悔やんでいたのであった。





蛍光塗料塗って出直してこい!

ラ・パルカ＆スペル・パルカ

LA PULCA & SPER PULCA

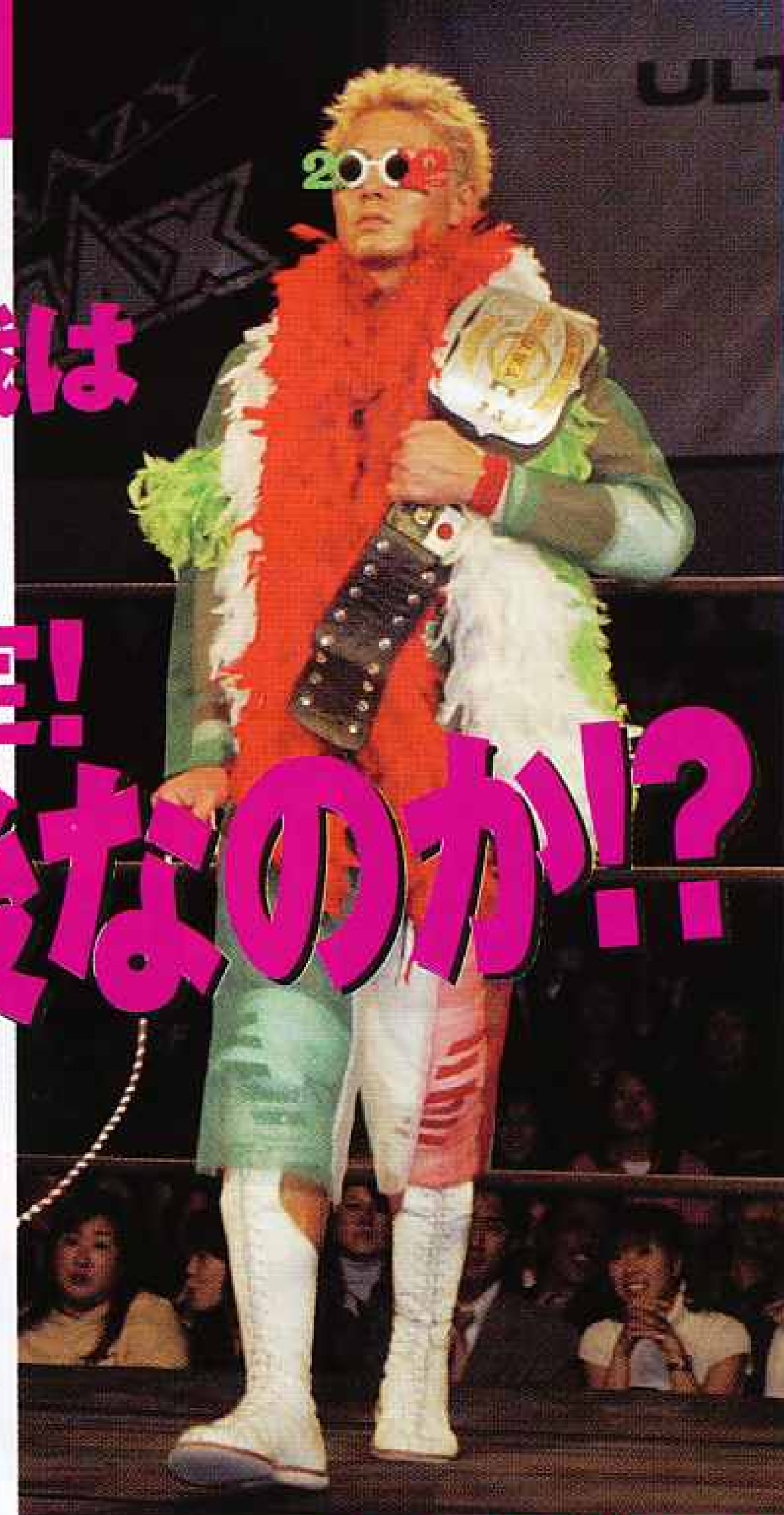
「スリラー」のテーマに乗って、ノリノリで登場したラ・パルカとスペル・パルカのホネホネロッカーズ。ズバリ最大の見せ場は場内が暗転したとき、暗闇の中浮かび上がった「ガイコツ」が闘うところだったが、いまいち“骨”が光らず企画倒れに。蛍光塗料たっぷり塗って、出直してこい！

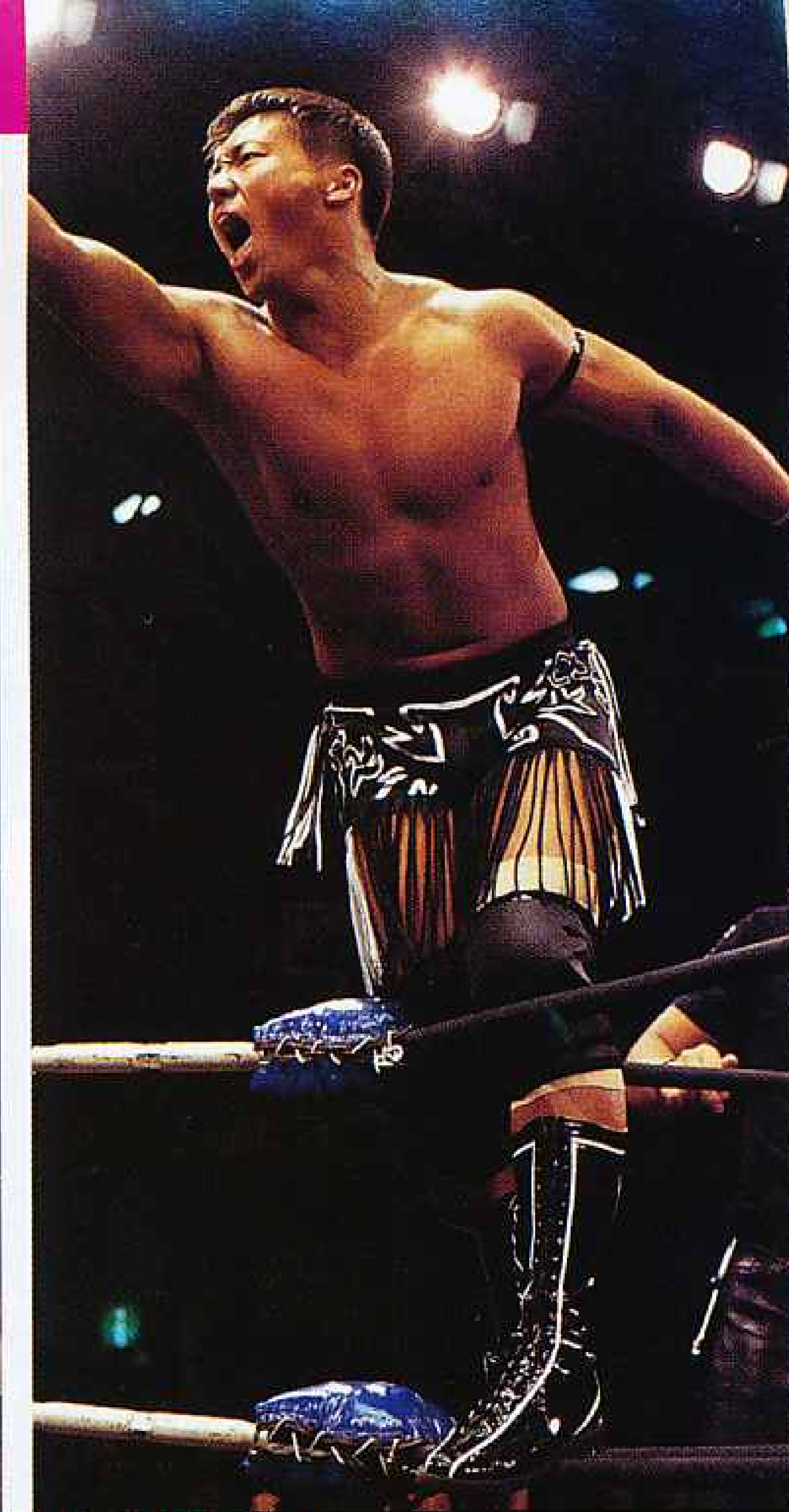
撮影／遠藤政文　構成／堀江ガンツ

12月25日＆26日　後楽園ホール

闘龍門JAPAN･T2P2連戦は JAPANvsT2P 全面対抗戦第2弾に決定!

これがT2Pの最後なのか!?





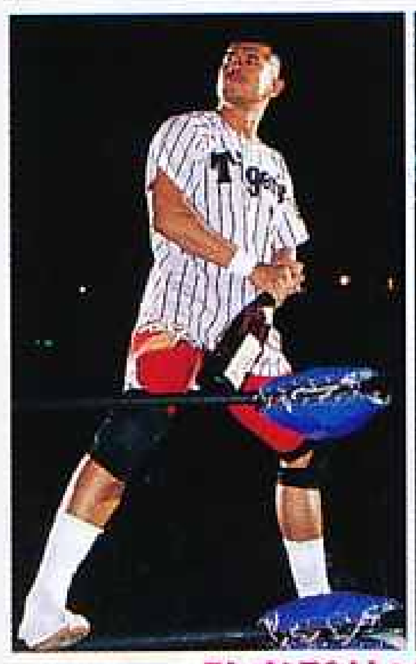
インターナショナルライトヘビー級選手権

チャンピオン
ミラノコレクションAT
（T2P／イタリアン・コネクション）

vs

チャレンジャー
CIMA
（闘龍門JAPAN/C-MAX）

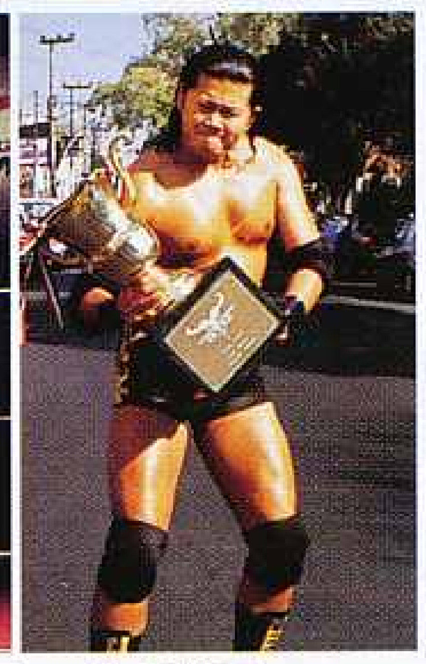
その他予想カード





敗者髪伸ばしマッチ
新井健一郎vsペスカトーレ八木
（闘龍門正規軍）　（イタリアン･コネクション）





望月成晃vs大鷲透
（闘龍門正規軍）　（T2P）

人気沸騰！　各団体が観客動員に苦戦する中、唯一超満員札止めを連発し、いまやプロレス界では数少ないプラチナチケットと化している闘龍門の後楽園ホール大会。そんな爆発的な後楽園人気を反映してか、これまたメジャーを含む各団体が年末のビッグマッチで大コケを連発する中、闘龍門はあえて大会場に手を出さず、なんと20、25、26日の後楽園３ＤＡＹＳで勝負してきた！　中でも注目されるのが、25日（闘龍門ＪＡＰＡＮ）、26日（Ｔ２Ｐ）の後楽園２連戦。ここでは９・８有明コロシアムで行われた闘龍門史上最大のビッグマッチに続く、闘龍門ＪＡＰＡＮvsＴ２Ｐ全面対抗戦パート２が決定。しかも、今回は正真正銘団体の存亡が掛かった潰し合いになりそうなのだから見逃せない。というのも、チケットが即完売するほどの人気を博しているのは、あくまで「闘龍門ＪＡＰＡＮ」の興行であり、逆にＴ２Ｐの方はＣＩＭＡやマグナムといったＪＡＰＡＮのスター選手の参戦なしでは、興行が成り立たなくなっている現状があるからだ。これでは、自主興行を開催している意味がない。ＣＩＭＡはそこにつけ込み、Ｔ２Ｐのエース、ミラノコレクションＡＴとの“大将戦”に勝って、Ｔ２Ｐ解散を迫る腹づもりだ。はたして崖っぷちに立たされたＴ２Ｐは、26日で本当に終わってしまうのか、はたまた大どんでん返しが待ち受けているのか!?　何かが起こりまくる後楽園２連戦。２日続けて行くしかない！



フジイさんとミニゴリラ“ベネティア”の動向にも注目！

闘龍門大会スケジュール

■12月
- 21日(土)静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール 開始18:30
- 22日(日)静岡・焼津市民体育館 開始13:30
- 23日(月)神奈川・相模原市立総合体育館 開始13:30
- 25日(水)東京・後楽園ホール 開始18:30
- 26日(木)東京・後楽園ホール(T2P) 開始18:30
- 28日(土)愛知・名古屋国際会議場イベントホール 開始18:00
- 30日(月)神戸・チキンジョージ 開始16:00

■1月
- 11日(土)埼玉・本川越ぺぺホール・アトラス 開始17:00
- 12日(日)埼玉・越谷桂スタジオ 開始17:00
- 13日(祝・月)静岡・ツインメッセ静岡 開始15:00
- 18日(土)東京・八王子市民会館 開始18:30
- 19日(日)三重・四日市オーストラリア記念館 開始18:00
- 23日(木)東京・後楽園ホール 開始18:30
- 24日(金)静岡・富士川町総合体育館 開始18:30
- 26日(日)千葉・木更津倉形スポーツ会館 開始18:30
- 27日(月)東京・後楽園ホール 開始18:30
- 30日(木)神戸・チキンジョージ 開始19:00

お問合せ：闘龍門JAPAN　TEL:078-333-9797

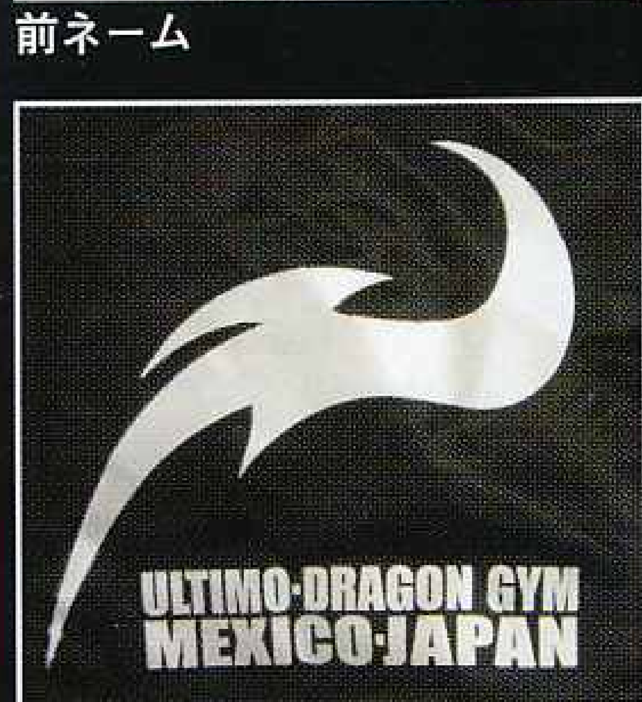
ウルティモ･ドラゴン カムバック･ワールドツアー 記念グッズの紹介

オリジナル・ベンチコート　￥15,000





前ネーム



後ロゴ

オリジナル・ジャージ￥26,000
カムバック・ワールドツアー記念U・ドラゴンマスク￥65,000も発売!

カムバック記念缶入りTシャツ　￥4,500

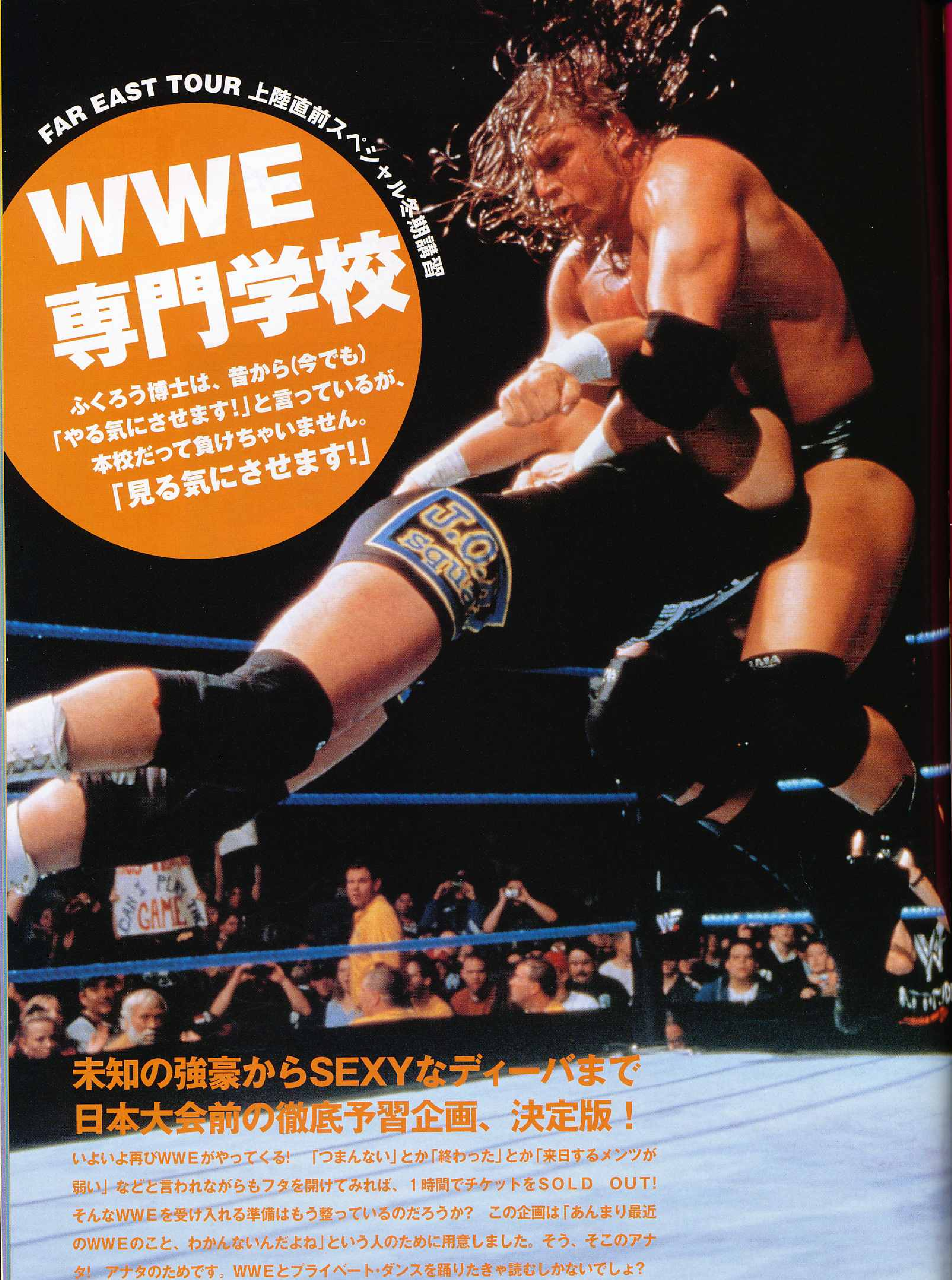




BACK



Tシャツ缶



FAR EAST TOUR 上陸直前スペシャル冬期講習

WWE 専門学校

ふくろう博士は、昔から(今でも)「やる気にさせます!」と言っているが、本校だって負けちゃいません。「見る気にさせます!」

未知の強豪からSEXYなディーバまで 日本大会前の徹底予習企画、決定版!

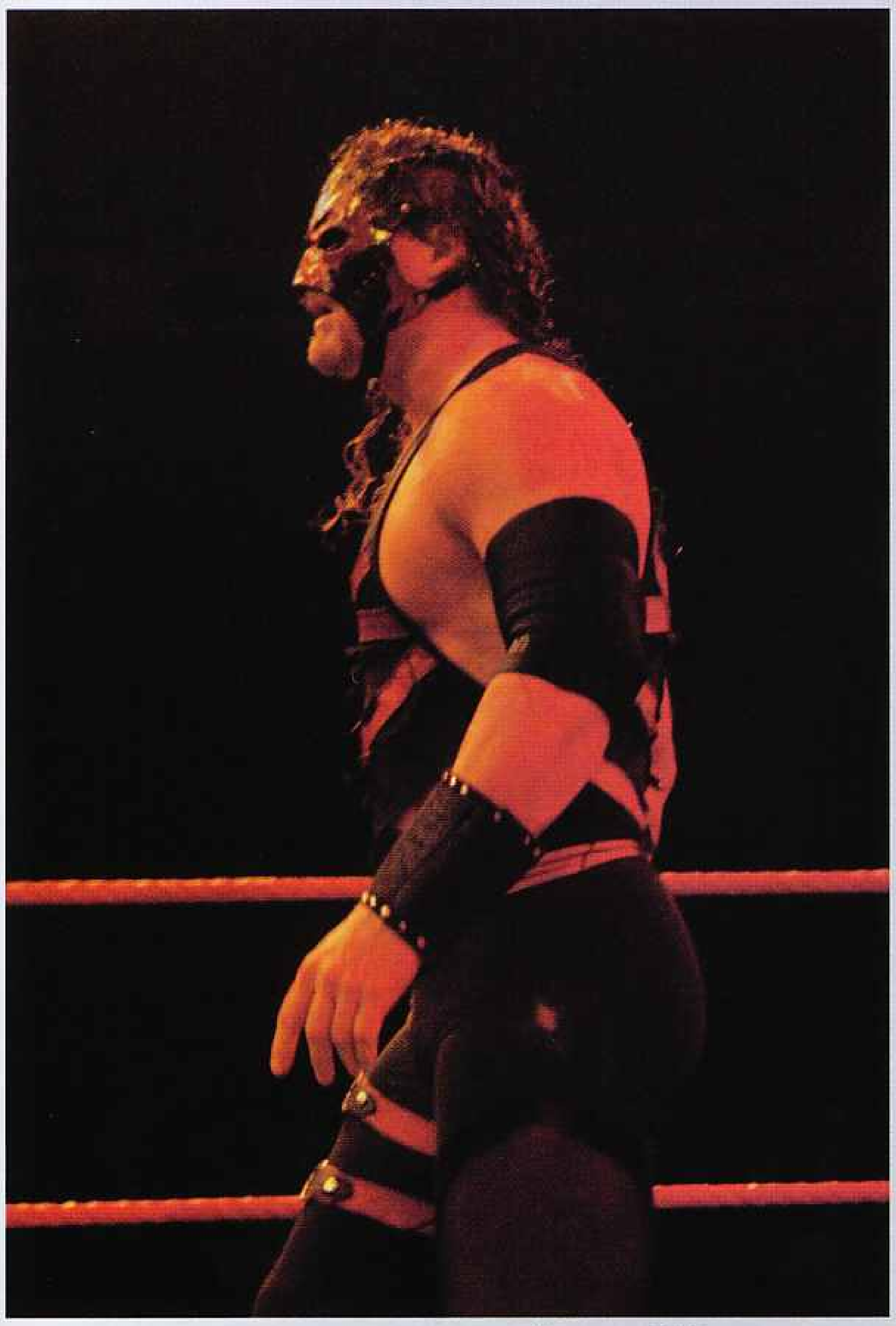
いよいよ再びWWEがやってくる! 「つまんない」とか「終わった」とか「来日するメンツが弱い」などと言われながらもフタを開けてみれば、1時間でチケットをSOLD OUT! そんなWWEを受け入れる準備はもう整っているのだろうか? この企画は「あんまり最近のWWEのこと、わかんないんだよね」という人のために用意しました。そう、そこのアナタ! アナタのためです。WWEとプライベート・ダンスを踊りたきゃ読むしかないでしょ?

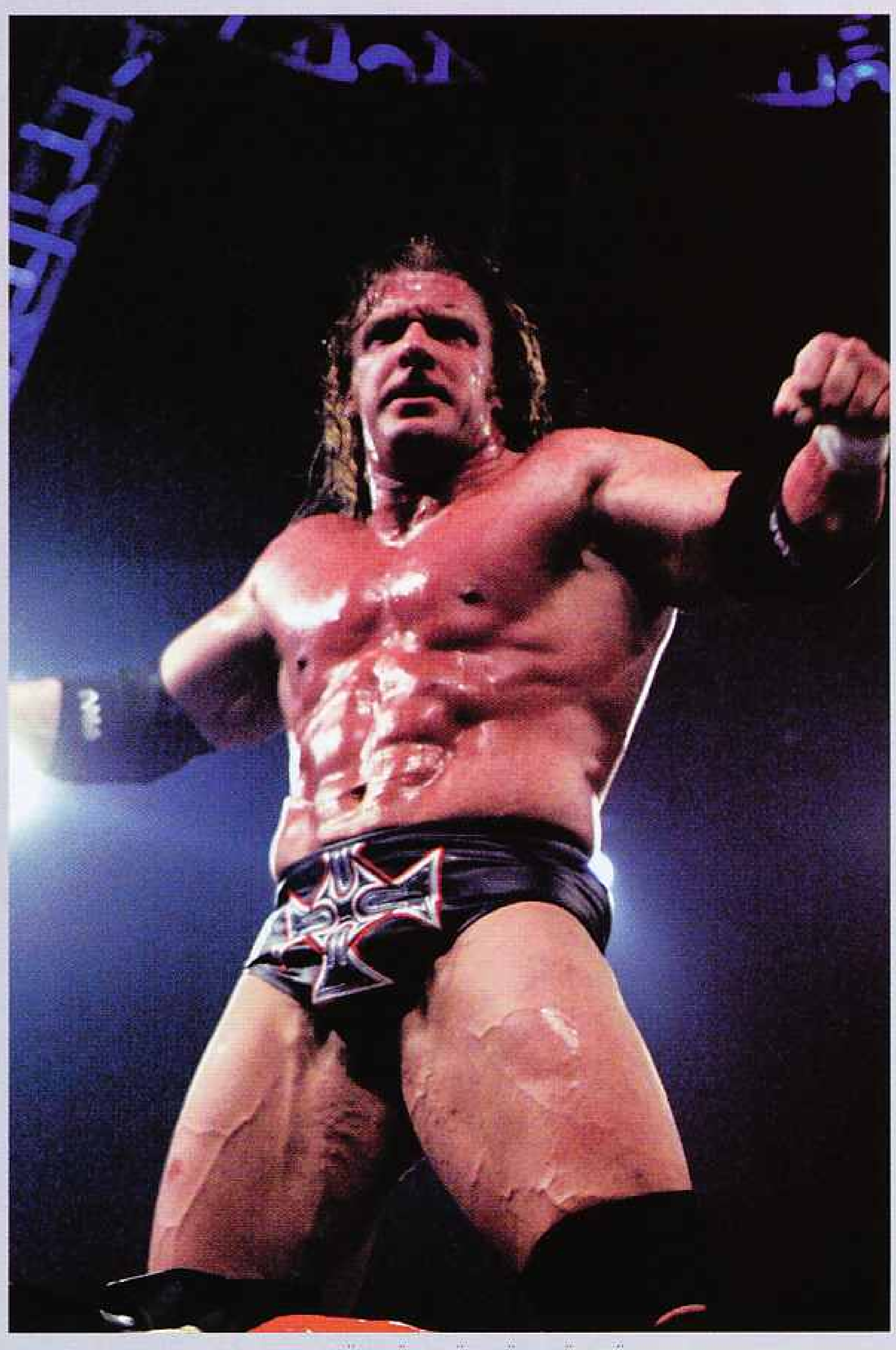
構成/スモーノブ　写真協力/Jスカイスポーツ　撮影/ジミー鈴木(P140~143)　designed by ZERO graphics

WWE FAR EAST TOUR JANUARY '03

彼らは"プロレスラー"じゃない。"スーパースターズ"だ!

『RAW』スーパースターズの傾向と対策





BIG RED MACHINE KANE

214cm 147kg

小さい頃にアニキに顔面を焼かれた恨みを晴らすべくアンダーテイカーの弟として、マネージャーのポール・ベアラーが連れてきたのがケイン。WWEにしては珍しい、大型選手のマスクマン。ヤケドの痕を隠すためのマスクだ。最初はすぐ消えそうなキャラクターだと思ってたら、結構動けるし見栄えも良いしってことで、今じゃストーリーラインに欠かせない、定着した人気を獲得している。ファイヤーマッチなどを経てアニキと和解。どう見ても外見はヒールっぽいのにベビーフェイス人気は絶大だ。トップロープからのダイナミックなジャンピング・クローズラインやらキメのファイヤーやら見どころもたくさん。火を自在に使えるってキャラで、リーガルがコミッショナー時代に部屋の至るところに火をつけたこともありました。そんなケインの中身の初来日は藤原組! 最近ではケガから復帰してさらにそのベビーっぷりに拍車がかかったけど、HHHとのケイティ・ヴィック死姦ネタが大不評。それも強制終了で、今後さらなる展開がありそう。(イナズマ★K)

THE GAME HHH

196cm 112kg ●アメリカ・ニューハンプシャー州出身

待望の日本初来日。現時点でアジアツアーの主役とも言える男だ。モーターヘッドの曲で入場する姿は完璧の一言。WWE初登場当初は、ユルくヘンチクリンなチェンバロの曲に乗って、ブロンド女(WWEを訴えたあのセイブル)と共に入場していた貴族ギミック時代とは天地の差である。その後、ショーン・マイケルズやリック・ルードと結成したD-ジェネレーションX(DX軍)でブレイク。ショーン・マイケルズの子分的役割が大ウケしたが、ステファニーとの夫婦路線から冷酷な知能犯として絶対的ヒールとして独り立ち。ラストマン・スタンディングマッチやアイアンマン・マッチ、ストーンコールド轢き逃げ犯、ステフ略奪結婚といった数多くの名勝負、名シーンを量産したアティテュード路線後期立役者である。ちなみに彼氏、すぐに闇に葬られたあの伝説のストーリー「ケイティ・ヴィック事件」のライティングにも参画していたとのこと。ジョーニー・ローラーの元彼氏、現ステファニーの彼氏でもある。(阿部タケシ)

GOLDUST

201cm 113kg

ブッカーTのタッグパートナーとして、ちょいと間抜けなナイスキャラとして大活躍のゴールダスト。この性転換&変態キャラは往年の名レスラー、ダスティ・ローデスの息子ダスティン・ローデスの変身した姿だ。以前はこのギミックが嫌で団体を離れたなんて話もあったのに、WWE復帰後は以前にも増したキャッチーなキャラとして人気を博している。それにしてもWCWからのUターン組の中で、アティチュード路線以前のキャラがそのまま通用してるのってゴールダストだけじゃないか。それだけブッカーとのコンビが相性良かったってことでしょう。飛行機で目撃した時も、帽子を深くかぶって誰にも気付かれないようにって空気出しまくってたし。ダスティン自身は相当シャイな性格らしい。何か吹っ切れたのかダスティン!? Uターン組が続々クビを切られる中でも、TVマッチに定着してるのは見事。呼吸法とあのアクションをキメれば、スゥ〜ッ、ゴールダスト!(イナズマ★K)

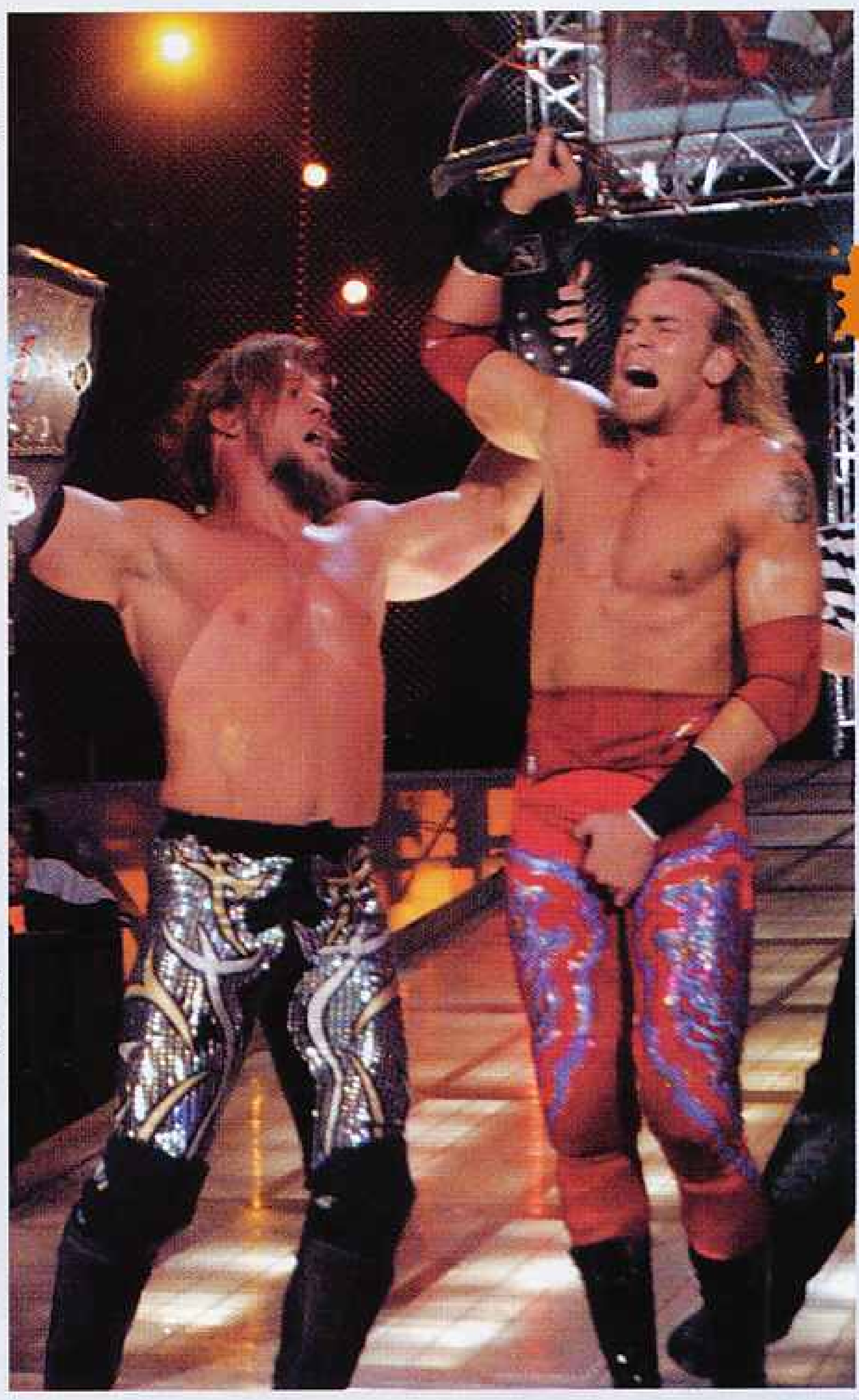


Y2J
CHRIS JERICHO

183cm 104kg ●カナダ・ウィニペグ出身

3月1日、横浜アリーナに上陸したWWEスーパースターズが打ち上げをしている現場に潜入した日本一の写真週刊誌『FRIDAY』の編集次長・仙波久幸氏。ジェリコとの因縁も深い仙波氏に間近で見た彼の素顔を語ってもらった。(スモー)

「ジェリコはハートがいい! ミュージシャンもやってるからノリが良くて、打ち上げのときは率先して盛り上げてたね。そこでジェリコに顔面ペイントされてしまったわけです。『俺にはワイフがいるんだ! 変な顔で帰ったら怒られる! 離婚の危機になったらどうする!?』って言ったんだけど、『関係ねえよ』『ユー・アー・ペイントマン!』ってね。で、時は変わってレッスルマニアの時に自分の友達が小川直也選手に同行してハルク・ホーガンに会いに向こうへ行ったんだけど、『ペイントマンはどうしてる? 嫁さんとうまくいってるのか?』ってジェリコが心配してたらしい。それ聞いて自分もジェリコに会いたくなってさ……」(仙波氏のおっかけは続く!)



CHRISTIAN

178cm 97kg ●カナダ・オンタリオ州出身

エッジとの名タッグでハーディーズと名勝負数え歌を展開して、何度もタッグチャンピオンに君臨したクリスチャン。エッジの弟というキャラだったけど、ほんとの兄弟じゃありません。エッジに注目が行く事が多かったけど、それも彼の適格なムーヴがあればこそだ。エッジ&クリスチャン解散後、エッジは人気者路線をひた走っているけど、クリスチャンは、地団駄のたうち回りアクションやら、ウィリアム・リーガルやランス・ストームらと嫌米軍団を作ったり、ヒールなんだけど憎めない路線をひた走る。そんな彼の初来日は、石川孝志率いる新東京プロレス! ジェリー・モロー(=稲妻二郎)率いるカナダ軍のカナディアン・ロッキーズ(ジェイ&アダム)の一員として、松崎駿馬なんかと試合してたのだ。日本のインディ恐るべし。とにかく寿司が大好きのクリスチャン。マヌケなんだけど憎めないキャラは、TAJIRIの日記にたびたび出てくるバックステージでの彼の姿そのものじゃないか。(イナズマ★K)



5TIMES CHAMPION
BOOKER T

191cm 113kg ●アメリカ・テキサス州出身

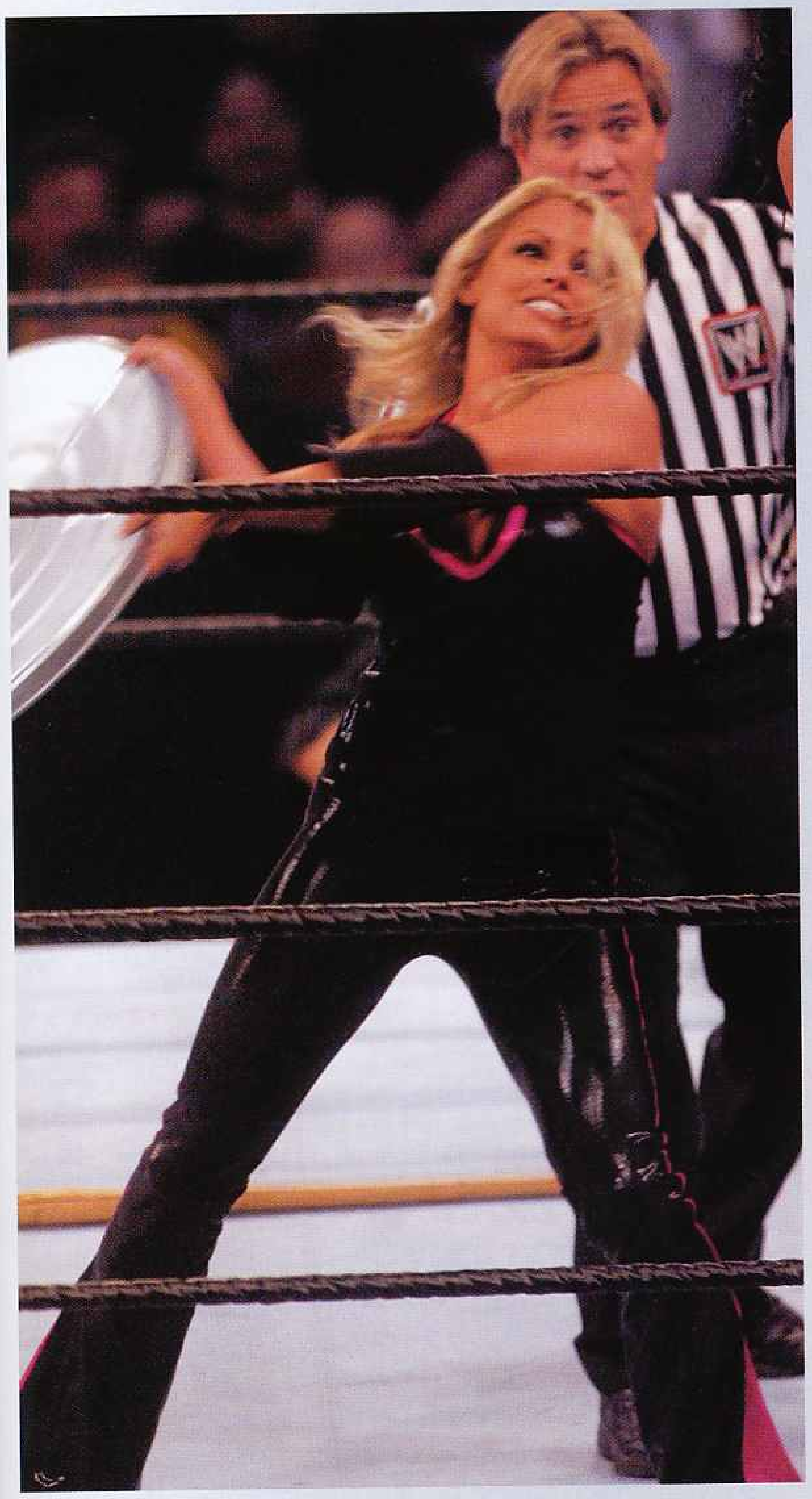
そのイイ顔とバネと最強必殺技"スピンルーニー"(ブレイクダンスです!)を武器に、今や『RAW』の一番人気を争う選手となったブッカーT。ゴールダストとのタッグも、お互いの良い味を引っぱり出しまくっている。そんなブッカーは、新日本にアニキのスティーヴィ・レイと共に来日していた。しかし初来日は、ケンドー・ナガサキや維新力がトップを張ってたNOW! 同時期にはブラッドショーも来てたのだから、またもや日本インディ恐るべし。そんな歴史を経てWCWの後期には正統派として最後のチャンピオンにまでなる。WWE移籍後のマヌケキャラには、最初は本人の気持ちを察するに余りあるって感じだったけど、いつの間にやら普通にベビーフェイスになってるのは、人を引き付ける天性のキャラがあればこそだ。そういえば、番組内でのお宅拝見コーナーで成功者の証である大邸宅&広い庭のゴルフコースも披露してました。さすがは5タイムス・チャンピオン、SUCKA〜!(イナズマ★K)

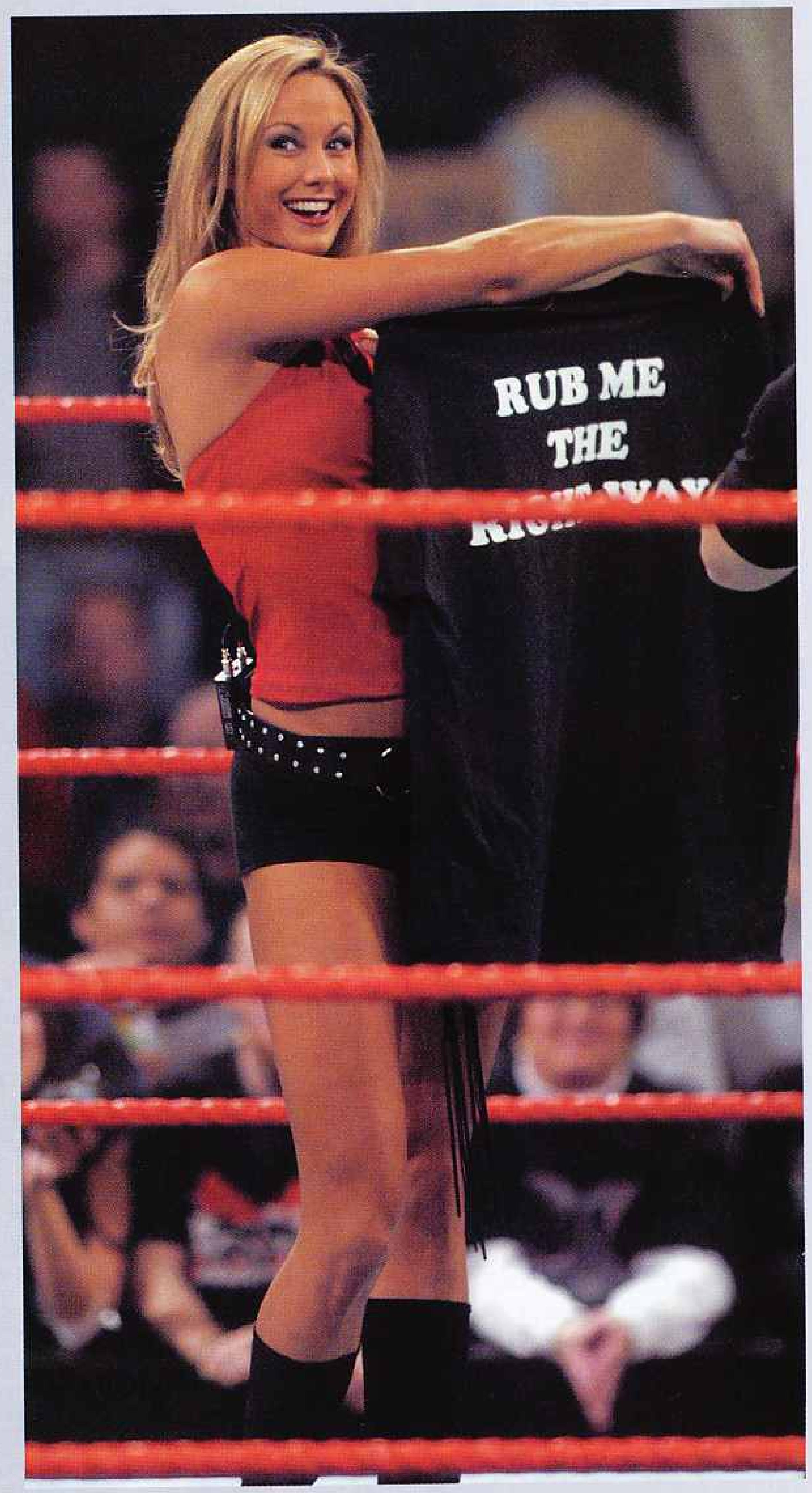
WWE FAR EAST TOUR JANUARY '03

DIVA STACY KEIBLER

●アメリカ・ボルチモア出身（仙波氏は現住所もGET!）

日本一の写真週刊誌『ＦＲＩＤＡＹ』編集次長・仙波氏が語るスーパースターズの続き!「ジェリコに会いたくて、こないだの『サバイバーシリーズ』に行ったんだ。タイムズスクエアにある全室スウィート・ルームのホテルにWWEスーパースターズが泊まるらしいという情報を入手してね。自分もそこに宿を変えて、ずっとチェックイン待ちしてたら選手がぞろぞろ入ってきて、記念写真を撮りまくり！ ＨＨＨ、ＲＶＤ、フレアー、ジェリコは別ホテルだったから会えなかったけど、ほとんどの選手にサインと記念撮影をしてもらったよ。ただ、ステーシーだけが来なかった。今年の３月に来た時に記念写真を撮るのをためらっちゃったから、どうしても2SHOTを撮りたかったんだ。なぜためらったか？ だって、あの人レスラーじゃないもん。ディーバだからさ、恥ずかしいじゃん（ポッ)。そんなわけで大会当日の昼から5時間位ロビーで待ってたけど





結局ダメでね。翌日はジミー鈴木氏のレンタカーに乗って、ＮＹから車で２時間ぐらいのところにある会場で『RAW』があって、試合は普通に見た。で、その帰り道に会場近くのマックにいたら、何とステーシーが入ってきたんだよ! トリッシュとビクトリアも! 大興奮して『アイ・アム・ペイントマン! ドゥ・ユー・リメンバー・ミー？』って話しかけたら、『オオッ! ペイント・ボーイ!』って、ハグですよ！ ハグ! 42歳の男に対して『ボーイはねえだろう』と思ったけど（笑)。情報によるとテストとは実生活でもラブラブ交際中らしいけど、そんなこと関係なく感じがいい！ 別れ際に『今度の日本大会は金曜・土曜だから、土曜日の夜に飲みましょう』って言ってくれたんだよ! 日本で言えば、藤原紀香、小池栄子、浜崎あゆみがマックにいて『飲みに行きましょう？』って誘われたようなもんだよ！ 奇跡だよね（しみじみ)。記念撮影？ もちろんしたよ！」

DIVA TRISH STRATUS

●カナダ・トロント出身

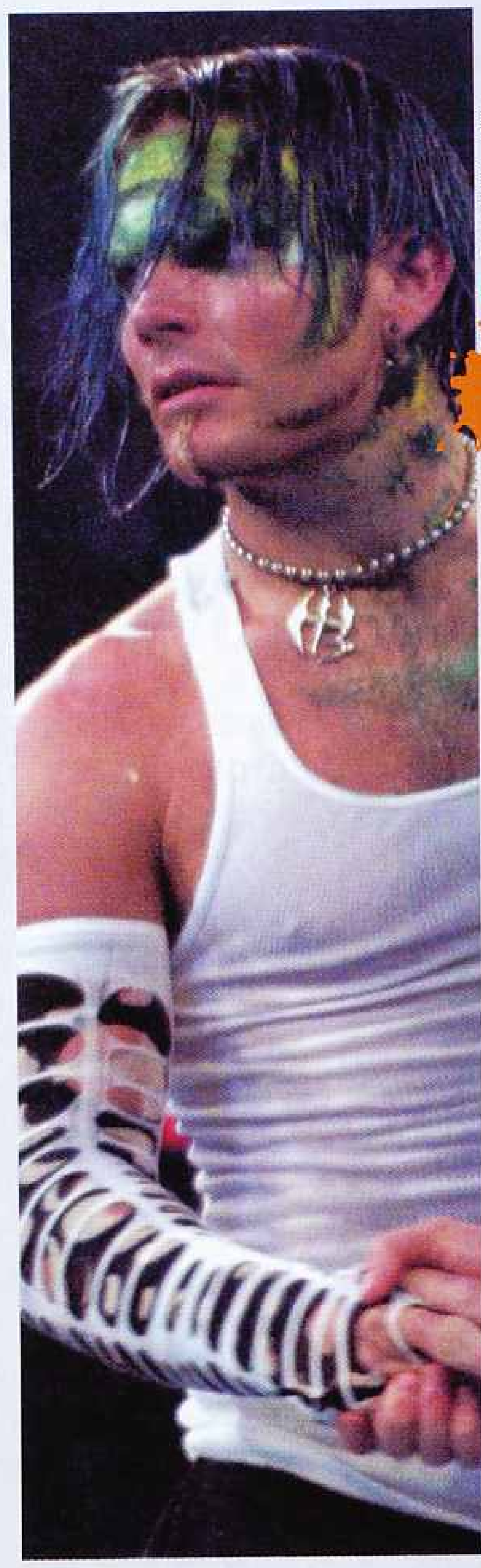


R-V-D!

ROB VAN DAM

183cm 99kg
●アメリカ・テキサス州出身

1992年にインディーマットでデビュー後、93年には全日本プロレスに初来日。96年にECWに参戦し、兄弟子ともいえるサブゥと共にアメリカインディ界のトップレスラーに君臨した。「ヴァンダーミネーター（ソバット）」や、「ファイブスタースプラッシュ（フロッグスプラッシュ）」といった身の危険を恐れない自虐ファイトが観客の琴線を揺さぶりまくる。彼のファイトスタイルに「Holly Shit!(オメェ、ホントスゲェよ！)」の掛け声が起こることもしばしば。ECWが崩壊し、2001年WWE参戦までのわずかな時期に全日本プロレスに再び来日している（RVD&サブゥ&TARUvs神田&望月享&ダークネス・ドラゴンという奇跡的なマッチメイクも実現）。リングネームの由来はあの俳優から拝借。ちなみに本家ヴァン・ダムのジャン・クロードさんは、格闘技通信のインタビューで「RVD、誰それ?」とムッとしていた。俳優を目指していた頃もあり、「Xファイル」にチョイ役で出演したこともあるらしい。（阿部タケシ）



JEFF HARDY

186cm 101kg
●アメリカ・ノースカロライナ州出身

マティテュードことマット・ハーディーの3歳下の実弟。実家の裏庭のトランポリンで空中技などのプロレス・テクニックを研究していたモプロレスオタク（入団後に見せたその幼少の頃のVTRはWWEのフロントも絶賛し、実際に番組で使われたほど）。そんな研究が実を結び、1993年にECWFで兄のマットを相手にデビュー。その後、何度もWWEのトライアウトを受けるが、契約まで至らなかった過去もある苦労人。その後NWAテリトリーのインディーでレスリング修行を積み、1998年に晴れてWWEと兄弟で契約。ドラキュラギミックで人気を博していたガングレルとのユニット経て、テリー（元ゴールダスト妻）を従えハーディーボーイズを結成。エッジ＆クリスチャンとの破天荒な抗争をきっかけに人気爆発。ラダーやケージの頂上からのスワントーン・ボムで観客のハートをワシ掴みにした。そんな彼氏、プライベートは非常にルーズらしく、ビッグ・ショウに「シュート」を仕掛けられたこともある。（阿部タケシ）

Heart Break Kid

SHAWN MICHAELS

185cm 103kg
●アメリカ・テキサス州出身

この人はほんと凄すぎ！ ハートブレイク・キッド（HBK）ことショーン・マイケルズが、現在のWWE人気の確立に貢献した度合いは計り知れない。もともとはミッドナイト・ロッカーズとしてマーティ・ジャネッティとのタッグチームで活躍。その後シングルプレイヤーとして大成。そしてDジェネレーションXを結成したり、ホーガン時代からアティチュード路線への橋渡しをした男だ。そのファイトスタイルは、受け身取りまくりのハードバンプ野郎。腰のボルトもその代償だ。必殺スウィート・チン・ミュージックなど、その流れる様な動き一つ一つが素敵すぎる。ライバル関係だったブレッド・ハートを光らせたのも間違いなく彼。ストーンコールドとのシングルマッチで引導を渡してからほぼ引退していたが、今年遂に復帰。敬虔なクリスチャンなだけに、試合を決めたのも神様のお告げがあったからだという。そして先日の『サバイバー・シリーズ』では、まさかのチャンピオン返り咲き！（イナズマ★K）



いまだ来日は未発表だが、是非とも日本で見たい！

TEST

198cm 127kg
●カナダ・トロント出身

ストーリーではステフと結婚寸前までこぎ着けながら、飛ぶ鳥の勢いにあったＨＨＨに見事かっさらわれ、全世界でショッパイ男の烙印を押された不憫な男。次に「T&A」なるユニットをアルバートと結成。その名前の由来、テスト＆アルバートという名前に加えて、ユニットにトリッシュがいたことからTits&Ass（胸とケツ）という実に簡単なネーミング。その後、酷評プンプンのアン・アメリカンズ（嫌米軍団）の国旗振り（平成維震軍的に言うとアキトシ）に所属し、ますます存在感が薄くなり、さらに会社からのギミック・チェンジに逆らいクビ寸前に追い込まる。最近シブシブ、短パンに短髪になった。最近はステーシーとのユニットで活動中。プライベートでもステーシーと交際しているとの噂。実際、春先に発売されたWWEマガジンに「好きなタイプはテスト」と書いてあったから、ますますハラの立つ男なのである。元「モトリークルーのボディーガード」という経歴はホントかどうかさえ疑わしくなってきた。（阿部タケシ）



なぜWWEは僕らの財布のヒモを緩めてしまうのか?

WWE関連グッズが続々リリース!

初期『レッスルマニア』の話は W-1関係者に読んでほしい!!



『WWE　レッスルマニア
オフィシャル・インサイダーストーリー』（角川書店）
著：ベイシル・V・デヴィートJr.　ジョー・レイデン
訳：森本恵介　日本語版解説：阿部タケシ
版型：B 4変形　全208ページ　オールカラー
価格：￥3600（税別）　12月25日発売予定
※原書にはDVDがついていたのだが、諸般の事情により日本語版にはDVDがつかないので要注意。しかし、そんなこと関係ないくらいの内容の濃さ！　読めばわかるさっ！

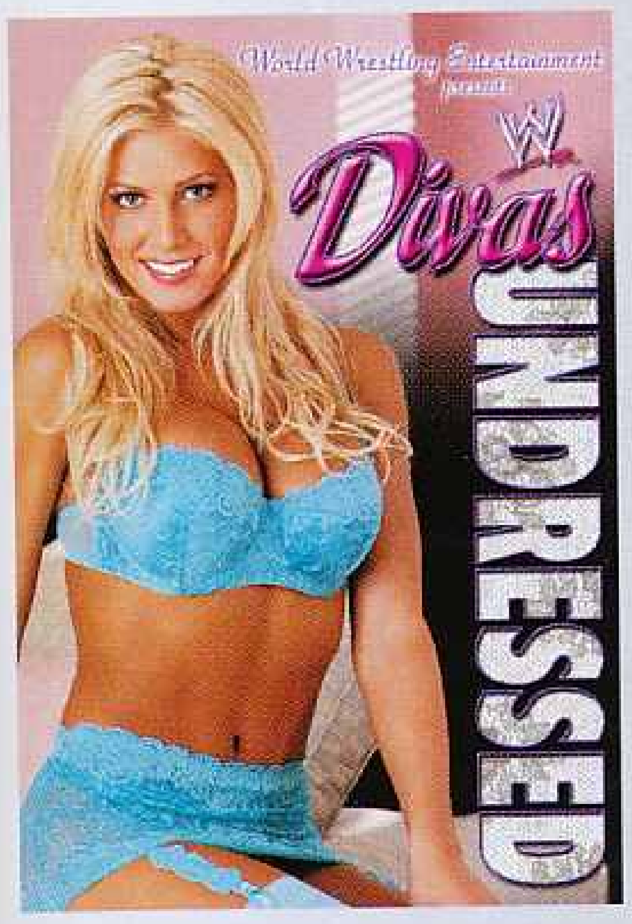
日本のプロレス団体関係者は必読だ！　そう断言できる、圧倒的な内容の写真集である。本誌49号で紹介した『WWF WRESTLEMANIA:THE OFFICIAL INSIDER'S STORY』（原書）の日本語翻訳版なのだが、僕は英語が読めないのでビジュアル面しか紹介しなかったが……活字部分が凄いんです！

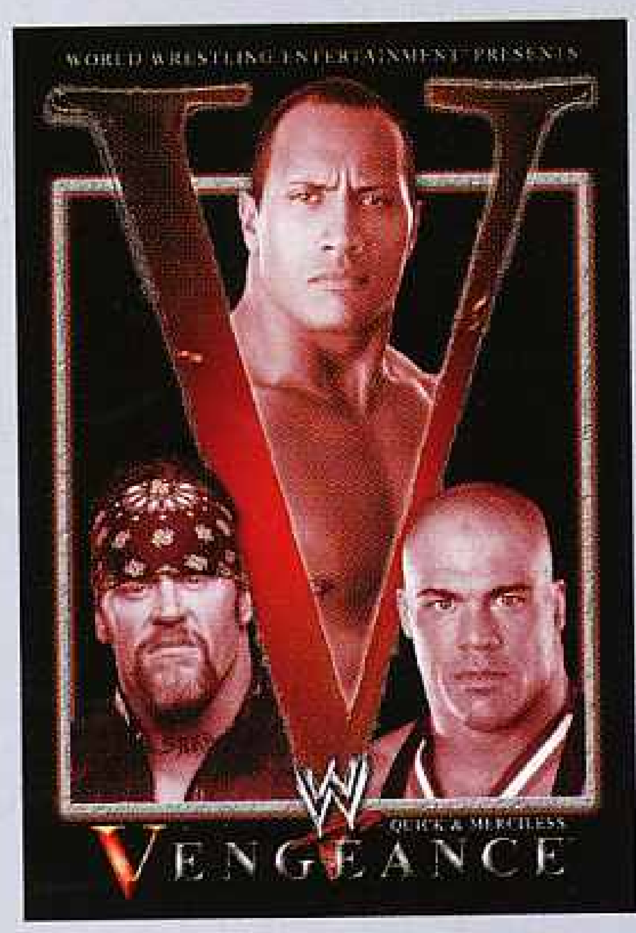
著者は『レッスルマニア1』直前に入社した宣伝部長で、各回の『レッスルマニア』を企画段階から紹介していくのだが、じつに興味深い。舞台裏というプロレス界の絶対的タブーを切り売りするのはWWEお得意の手法だが、改めて感じるのは辞めた選手やトラブルを起こした選手にはとにかく厳しいということ。ミスターTなどは「練習しない」「弱い」「わがまま」と徹底的にコキおろす。何も俳優にそこまで言わなくても……という激辛ぶり（その一方で、現在も活躍している選手やマクマホン一家は絶賛されている）。とにかくナゾの多い会社なのでひとつひとつのエピソード（特に会議の場面）がマニアにはたまらない。

特に興味深いのは『レッスルマニア』創成期のエピソードだろう。ようやくエンターテイメントの芽が出始めた現在の日本のプロレス界と重ね合わせて見ると楽しさ倍増!!　あるベテランのレスラーが「お前のやってることはフェイクだ！」とビンスを罵るシーンなどは、W－1のスタッフは涙なしには読めないはず。それに対するビンスの反論も、確固たる意志がヒシヒシと伝わってくるのでまた涙。さらに驚かされるのは、会議の席でビンスが思いつくまま出した適当なアイデアを全社員が必死になって形にしていくこと。藤波社長の思い付き発言が全然形にならない（むしろ逆のことが起こる）のとは正反対なのだ。ホーガン、モハメド・アリ、シンディ・ローパー、悪趣味ピアニストのリバラッチが1枚の写真に収まってしまうような表層の華やかさとヘビーなトラブルが続く舞台裏のギャップは最高にスリリングだ！

この1冊を通じて現在のWWEが巨大帝国を築くまでの18年間という長い歴史を読み込むことによって、日本のプロレス界が進むべき道を知ることが出来るはずだ。そして、この本を通じて浮き彫りになるのはビンスの野望の大きさと、選手やスタッフに対する寛容な心、そして「この一家のどこに虚実の境界線があるのか？」という疑問だ。いや、読めば読むほど分からなくなるだけなんだが。（スモー）

12月21日発売のDVD/VHS作品を紹介 『ディーバ　アンドレスト』に全盛期のWWEを見た!!





『ヴェンジェンス』
DVD：¥3.800/180分
PIBW-7167
ビデオ：￥5.800/120分
PIVS-7437

『ディーバアンドレスト』
DVD：¥3.800/180分
PIBW-7168
ビデオ：￥5.800/120分
PIVS-7438
※収録内容
ディーバ・マガジンの撮影風景の舞台裏、特別インタビューも収録。

いよいよ、ここ日本でもWWEのDVDを字幕つきで楽しめる時代になったのは嬉しい限り。そんなわけで、今月も2本のDVDが発売されるので、その内容を紹介しよう。

まず紹介しなければいけないのは、WWEが世界に誇る美女軍団（通称「ディーバ」）のDVDだ！　タイトルは『ディーバ　アンドレスト』直訳すれば「ディーバ素っ裸」か？　ド直球!　最高だ!!

これはWWEの直営店“The World”で2002年6月に行われたディーバたちのミスコン大会なのだ。参加者はステーシー、トーリー、トリッシュ、テリー、ニディアなど、そうそうたるメンツ。さらに審査員として砂かぶり席にはポール・ヘイマン、メイヴェン、エッジ、アル・スノーといったスーパースターズが陣取り、実況席にはマイケル・コール＆ジェリー“ザ・キング”ローラーの名コンビ!　ミスコン大会を通じて、こうして画面に登場するすべての野郎どもの欲望がマグマのように沸き出してくる。そして、会場を埋め尽くしたボンクラたちがディーバの水着姿を拝むたびにいちいち漏らすため息のような声が会場を覆いつくす。メイヴェンは恋人トーリーの姿を鼻の下を伸ばして見守り、ヘイマンは超ハイテンションで尻の写真を撮るのに忙しく、キングはキングでディーバの控室にカメラを設置して盗撮を……と、単なるミスコンの枠には収まりきらないストーリーラインが最高!　そんな中でもディーバたちは、ある意味で裸よりもエロい姿で審査員、そして画面の前の僕らを挑発してくる。そして迎えた結果発表、勝ったのは誰だ!?　現在のWWEが失った（と言われている）アホでマヌケなノリで全力疾走している完成度の高い一本である。

そして、今月発売となるもう一本のDVDは7月の特番『ヴェンジェンス』だ。メインイベントはロック・テイカー・カートの3名による豪華な3スレッドWWE統一王座戦。さらにエリック・ビショフとステファニー・マクマホンの両GMによるトリプルH引き抜き合戦に決着が付いた瞬間も収録。ストーンコールド不在のWWEにおいて鍵を握る男“HBK”ことショーン・マイケルズも緊急登場！現在の『RAW』が形成される瞬間を予習しておこう!

というわけで、この2本のDVDはどちらも12月21日(土)に発売！　さらに、驚くべき特典も用意されているぞ。今回のDVDには1月24日、1月25日のWWE来日興行『WWE FAR EAST TOUR』チケットプレゼント応募券付なのだ!　買うしかない!（スモー）

WWEといえばJスカイスポーツ!! 舞台裏公開系の超強力新番組『コンフィデンシャル』がいよいよ放送開始!!

本誌前号での既報通り、Ｊスカイスポーツが話題の新番組『コンフィデンシャル』放送を正式に決定した！　しかし、どうやら「Ｆ」問題がネックになり、「ＷＷＥ」と名称変更以後の番組が放送されることになるようだ。これにより「オースチン離脱」の回は放送されなくなった模様だ。くぅ〜、残念！　しかし、それでも注目しないわけにはいかない新番組であることに変わりはない。世界最高峰のスポーツ・エンターテイメントを裏側まできっちり堪能させてくれる禁断の新番組に注目だ！

それだけじゃない！　年末年始のスペシャル番組として2002年10月26日に行なわれた英国のPPV大会「リベリオン」を２時間半枠でたっぷり放送！　さらに2002年8月にオーストラリアにて開催された『グローバル・ワーニング・ツアー』を2時間枠でお届け！　メインにはブロック・レスナー対トリプルH対ロックがWWＥ王座戦としてラインナップされているので注目だろう。いまやすっかり俳優業に専念してしまっているロック様の試合が拝める貴重な機会なので見逃すことは出来ない。

というわけで、2003年からまたまた分厚くなったＪスカイスポーツのWWＥ番組をしっかりチェックしよう!　尚、再放送予定や詳しい情報についてはhttp://www.jskysports.comを参照のこと。（スモー）

今後の放送予定

●WWＥスペシャル　『アルマゲドン102』
01／05　sun　15:00　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　『グローバル・ワーニング・ツアー』
12／31　tue　19:00　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　ＵＫ特番『リベリオン』
01／01　wed　19:00　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　コンフィデンシャル<新番組>
12／28　sat　18:00　Ｊスカイスポーツ３
12／29　sun　18:00　Ｊスカイスポーツ３
12／30　mon　18:00　Ｊスカイスポーツ３
12／31　tue　18:00　Ｊスカイスポーツ３
01／01　wed　18:00　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　ロウ
12／23　mon　16:00　Ｊスカイスポーツ３
12／30　mon　16:00　Ｊスカイスポーツ３
01／06　mon　15:00　Ｊスカイスポーツ３
01／13　mon　15:00　Ｊスカイスポーツ３
01／20　mon　15:00　Ｊスカイスポーツ３
01／27　mon　15:00　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　スマックダウン
12／25　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
01／01　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
01／08　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
01／15　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
01／22　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
01／29　wed　16:00　Ｊスカイスポーツ１
●WWＥ　ヴェロシティ
12／27　fri　17:00　Ｊスカイスポーツ３
01／03　fri　17:00　Ｊスカイスポーツ３
01／10　fri　17:00　Ｊスカイスポーツ３
01／17　fri　15:30　Ｊスカイスポーツ３
01／24　fri　15:30　Ｊスカイスポーツ３
01／31　fri　15:30　Ｊスカイスポーツ３
●WWＥ　ヒート
12／21　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３
12／28　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３
01／04　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３
01／11　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３
01／18　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３
01／25　sat　16:30　Ｊスカイスポーツ３

※これらはすべて初回放送の予定です。
※放送日程は諸事情により変更になる可能性があります。

キムチ!　焼肉!　WWＥ! WWＥ韓国観戦ツアー

日本大会の前日の大会の前日に韓国で行われる大会の観戦ツアーが決まった!!
〜ボンボネーラ植田朝日＆バンバンビガロＧＡＭＹと行く　WWＥ韓国観戦ツアー〜
航空券、空港使用料、ホテル宿泊代、WWＥ韓国大会、リングサイドのチケットが込みで７万円は安い！！　ちなみに宿泊はソウル市内一流ホテルです。観戦は１月２３日ですので、もちろん２４日のWWＥ代々木大会には間に合います。２４日の正午くらいに成田に着く便で帰国予定。

【内容】２００３年１月２２〜２４日の２泊３日
【定員】４０名（先着順）
【締切】２００３年１月１０日
【お問い合せ】（株）ノーブル（担当　石田）
TEL.０３−３５６８−３１００
E-mail:noble-travel@attglobal.net

本誌バックナンバーの WWＥ特集もよろしく!



今年3月の日本大会直前号（Ｎ０.４７）では観戦ガイドが満載!　東京ダイナマイトのハチミツ二郎さんによる日本語応援ボードの書き方講座「和風板の作り方」というページは、今大会でも参考になるはず。購入方法はＰ114〜115参照。

“ If you smell what the Rock is cookin' ” な 音声解説付きDVD『スコーピオン・キング』発売!!





<DVD>※初回限定！　超豪華プレミアムBOX仕様
【価格】3800円（税抜）
【字幕】英語／日本語／韓国語
【音声】英語・5.1ch 5.1dts／日本語・5.1ch
【収録時間】約92分（本編）・約70分（映像特典）
<VHS>
【価格】16000円（税抜）【収録時間】約92分（本編）

【発売元】ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン（株）

ロック様の初主演映画『スコーピオン・キング』のDVDが、いよいよ12月20日から発売されるぞ！

この作品、大ヒットした『ハムナプトラ』シリーズの番外編ということもあり、大変な注目を集めたわけだが期待にたがわぬ大ヒットで、あの『マトリックス』を抜いて全米歴代NO.1新記録を達成！（4月公開作品における全米公開３日間での記録）。

ミリオンズ・ア〜ンド・ミリオンズのロック様ファンなら、既にご覧になっているだろうと思うが、今回のDVDには様々な特典がついているので要チェック!　NGシーンや重要なシーンの別バージョン、さらにはロック様自身による音声解説までついている!

映画界で破竹の快進撃を続けるロック様だが、今年の『サマースラム』ではなんとブーイングが飛んでいたのを覚えている方も多いだろう。あまり試合に出ないでおいしいところを持っていけば、当然反発も生まれる。あるいは「映画には興味ねえ」とおっしゃるプロレスファンもいるかもしれない。そんな人にオススメしたいのは、空手の黒帯と抜群のプロポーションと超越的な美貌の持ち主、ケリー・ヒュー。WWEディーバに勝るとも劣らない闘う女神であり、ロック様との熱いロマンスを繰り広げるこの映画のヒロインである彼女を見るためにDVDを買うのもいいだろう。

というわけで、ロック様が好きな人もそうじゃない人も、このDVDを手に持ったらJust bring it!!（レジに）。（スモー）

FAR EAST TOUR JANUARY '03

トリプルHの下半身がWWEを支えている!?

WWEの虚実皮膜を突け！

アメリカでは番組視聴率の低迷が続き、さらにはNYタイムズ・スクウェアにある「WWE The World」の前エクゼクティブマネージャーが売上金の横領疑惑で逮捕され、ますます湿っぽい最近のWWE。そんなWWEにも浮上の兆しが見え始めた模様。今号では、この団体の虚実皮膜（つまり虚と実の境界線）に迫ってみたい。この原稿を読めば危険な境界線を綱渡りする男・HHHから目が離せなくなるはずだ!!

2つの王座を巡る激闘！

まず、WWEの『レッスルマニア18』以降から『サバイバー・シリーズ』に至るまでの王座戦線を振り返ってみよう。

『レッスルマニア18』はセミ前にもかかわらず、その試合のクオリティや観客のノリなどを含め、大半の方がホーガンvsロックしか記憶にないかと思われる。当然だろう。しかし、そんな状況下でクリス・ジェリコを破り第二代WWE統一王座に就いたのはHHHだったのだ。これが混乱の始まりだった。ベルトはホーガンに奪われ、そのホーガンはアンダーテイカー（以下テイカー）に奪われ、テイカーからロックに渡り、そしてブロック・レズナー（以下レズナー）がロックを破り統一王座に就いた。レズナーは10月にテイカー相手に防衛し、11月の『サバイバー・シリーズ』にてビッグ・ショウを相手にタイトルマッチを行ったが、片腕だったポール・ヘイマンの寝返りにより防衛に失敗。統一王者はビッグ・ショウとなった。この『サバイバー・シリーズ』のWWE王座戦では当初、レズナー対ホーガン戦がラインナップとして上がっていたが、既報どおりホーガンがWWEとバイバイ（フミ斉藤調）したことで、レズナーの相手にビッグ・ショウとクリス・ベノワが浮上してきたのだが、結局ビッグ・ショウが抜てきされた。「なぜビック・ショウが？」という疑問はおそらく12月の特番『アルマゲドン』で明らかになるはずだ。

『RAW』と『SMACK DOWN』（以下『SD』）がドラフトにより分割されてしまったことは前号で詳しく書いたが、この2リーグ制でもう一つの問題が発生している。チャンピオン・ベルトの問題だ。ステフはタイトルホルダー（当時）だったレズナーと『SD』専属契約を結んでしまう。これによって、「両方の番組に出演できる」というタイトルホルダーの特権が無効となり、『RAW』からベルトが無くなってしまった。そこでビショフはWCWのベルトを持ち出して、WWE世界王座と改称、強引にHHHを第一代王者に指名してしまったのだった。

というわけで、WWEには現在『SD』が運営する「統一王座」（従来のWWEのベルト）と『RAW』が運営する「WWE世界王座」（旧WCWのベルト／通称フレアーベルト）の二本ベルトが存在していることになる。



最近ますます色気ムンムンのステファニーは『SD』のGM、彼氏のトリプルHは『RAW』のバックステージで絶大な発言力を誇る。ストーリー上では離婚しても、このカップルが実質的にWWEを仕切っているのか？

『サバイバー・シリーズ』大爆発！

11月のPPV大会『サバイバー・シリーズ』にて最も注目を集めたのが、WWE世界王座のベルトを賭けたHHH、HBK、ブッカーT、RVD、ケイン、クリス・ジェリコによるエリミネーション・チェンバーマッチであった。この聞き慣れない試合形式について少し紹介しておこう。ドーム型のスチールケージ内にランダムで選出された2名のレスラーが試合を開始。その間、残りの人間はリング下の別の檻に閉じ込められており、5分経過するたびにその檻の扉が開き、試合に合流するというもの。最後まで残った選手が王座に就けるというゲーム性の高い、いかにも『RAW』向きな試合形式だった。

結果はショーン・マイケルズがスイートチンミュージックをHHHに決めWWE世界ヘビー級を奪取！　祝福する大歓声と紙ふぶきで、会場のMSGは実に感動的な情景となった。戦前からかなりの注目度が高かった今回の『サバイバー・シリーズ』の観客動員数は17390人。WWEにおけるMSG興行最高動員記録を打ち立てたのだった！

このエリミネーション・チェンバー・マッチで使用された円形の檻の建設期間は一ヶ月、建設費は約50万ドル（約6000万円）だと言うから、WWEは当然一回ポッキリで終わらせること考えておらず、最低でも年間一回はPPVで使用していくようだ。

で、結局WWEでは誰が一番強いのか？

そんなWWEは、2003年1月に『RAW』10周年記念番組を放映する予定だという。今まで『RAW』に参加した全てのレスラー達に招待状を出しているということだから注目だ。さらにこの号が発売される頃、あのジェリー"キング"ローラーの自伝が全米で発表されるとのこと。どんなエロ話が書いてあるのか興味津々である。

そう、キングのエロ話もさることながら、ステフ（26歳）が10月にハワード・スターン（キング・オブ・メディアと呼ばれ、アメリカのDJ。女性差別発言や毒舌がバツグン）の番組に出演して、見事なエロトークを展開した。ステフの知られざるプライベートが明かされたのだから全米のアメプロファンは耳をかっぽじって聞き入ったに違いない。

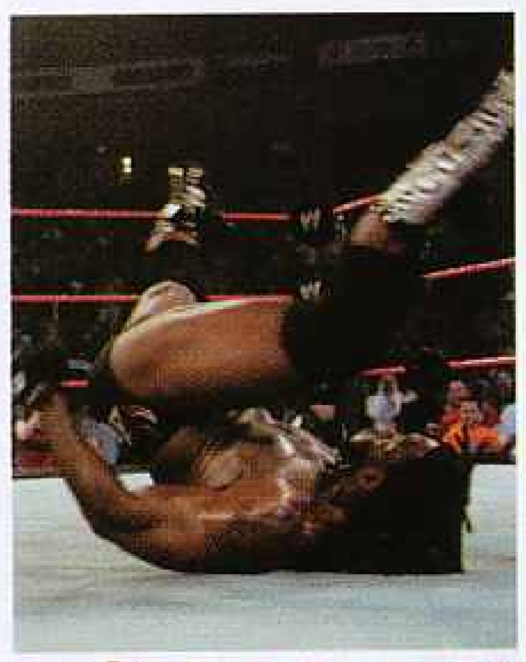
まず一番気になるHHHとの関係だが、「ええ、付き合っているわ」とあっさり認めたが、「父からは付き合うなと言われたわ」と意外な苦労話も告白。しかし、ここからエロトーク直球勝負！「HHHは体毛を全部剃っているわ（笑）。私はTバックが大好きで、下の毛は剃ってるわよ（キッパリ）。彼とSEX？　よくするわ」とジョーニー・ローラーが聴いたら、まず気絶しそうな発言を連発。そのHHHとの"アレの相性"だが、「HHHとのSEXはいままでの中で最高の類に入るわ」の発言にアレのデカさを確信したのはHHHの鼻を見ればお分かりのとおり。さらに「もし彼がプロポーズしてくれたら、断る理由なくOKなんだけど」と電波を通じてHHHを威嚇までしてみせた。さらに「アナルセックスにも挑戦してみたいわ」とこれまたジョーニー・ローラーが聴いたらバズーカ（not新日Ver.）をぶっ放しかねない発言。さらに「アブノーマルなプレイ？　拘束プレイはしたけど、イマイチだったわ」と攻守どちらであったか？そんな妄想を抱かずにはいられないコメントも飛び出す始末。とどめに「でも3Pには興味ないのよ（キッパリ）」とロイヤルランブル形式はお好きでない様子。そのエロトークは天井知らず。そして再度HHHについてだが、「HHHとの関係に終わりが来たら？　HHHのレスリング人生そのものも終わりね」とコメント。やっぱりステフはあのステフそのまんまなんだなぁと、幻想が確信に変わったワケで。ハワード・スターンと風車の理論を展開した彼女、さすがはプロレス一家。そのバンプは最高であった。おそるべし！マクマホン一家！　リング内外でも話題の絶えない、そんなWWEは今後も注目ですよ、ホント。

阿部タケシ■ta_abe@yahoo.co.jp
TX系「WWEアフターバーン」（公式サイト、角川書店「レッスルマニアオフィシャルインサイダーストーリー」、洋泉社「What?アメリカンプロレス読本」などいろいろ執筆させていただいてます。インディーズ系バンド「ANALOG STYLE」と"企画系女優"朝河蘭が気になります。

4時限目
体育

WWE FAR EAST TOUR JANUARY '03

VIVA! ブッカーT!
スピンルーニーをマスターせよ!



自称「スポーツ・エンターテインメント界で最もシビレるムーブ」"スピン・ルーニー"は試合中、唐突に始まるので見逃すな!



イラスト/笠井修

給食 居酒屋トーク

ある熱狂的ワンフーによる居酒屋での独白
ステーシーとプライベート・ダンスしたい!

日本一の写真週刊誌『FRIDAY』編集次長・仙波氏のトークは、酒の量とともに加速度を増していく! いったい何がそこまで仙波氏を駆り立てるのか?

「自分も今年の正月頃までは興味なかったんだけどね。WWF(当時)が日本に来日して、(スーパースターズと)知り合っちゃったからね。おっかけ小僧みたいなことは中学・高校時代までやってたけど、それが40歳を過ぎてから再燃するとは思わなかったねぇ(笑)。でも、ペイントマンの正体は内緒なんだよ。じつは日本のパパラッチ雑誌で仕事してるなんて思ってないだろうし、言えないよ。えっ、ディーバと仲良くなって最終的に何を望むかって? う〜ん、食事を一緒にしたいな。そりゃ夢の中では、トリッシュやステーシーにプライベート・ダンスしてるけどね。どっちが好みかっていうのは難しい問題だなぁ。日本人的にはトリッシュの方が小柄だし豊満だから親近感が湧くんだけど、ただプライベート・ダンスするならステーシーかな。個室で密着してディーバが踊ってくれるなんて夢だなぁ」





(左)今年3月1日の深夜、六本木に出現したペイントマン。ステーシーと一緒の写真には写ったが2SHOTじゃなかった。(右)コネチカット州で実現した執念の2SHOTがコレ。

※プライベート・ダンスとはストリップバーなどでお金を払うと、踊り子さんが個室で密着ダンスしてくれるサービスのことです

HR 連絡事項

大会チケットが取れなくても"おたのしみ"はいっぱいやって来る!
締切直前すべり込みニュース! これは試験に出ます!!

●ザ・ハリケーンが来日!

今年3月にも来日したザ・ハリケーンが年末の日本に飛来する! 12月28日は大阪で、29日は東京でそれぞれ記念撮影&サイン会を行うぞ! こんなチャンスは滅多にない! 見逃したらバチが当たる。仙波氏ばりにビッシビシ出待ち&入り待ちで歓迎するもよし、クールに参加するもよし、お土産渡すもよし、とにかく参加してみよう。

SOLLUNA WWE.com PRESENTS
WWE/ザ・ハリケーン来日サイン会
2002年12月28日(土)大阪・SOLLUNAショップ
12月29日(日)東京・後楽園ホール展示会場
※両日とも14時スタート。サインフォトとポラロイド記念撮影券がセットになったチケットは¥2500にてSOLLUNAおよび後楽園ホールプレイガイドで発売中! お問い合わせはSOLLUNA WWE.com TEL.06-6282-0020(12時~20時まで)。http://www.sollunawwe.com

●TAJIRIが来日!


昨年末もサイン会でやってきたTAJIRIが、今年はトークショーをしに凱旋帰国! 現時点(12月13日)では日本大会への参加はいまだ正式アナウンスされていない(参加するのかどうかもわからない)が、TAJIRIが帰ってくる! その肉声をナマで聞く貴重なチャンスなのでビッシビシ参加しよう!

TAJIRIトークショー
2002年12月27日(金)東京・プレスレス(品川区上大崎2-13-35)
※18時30分スタート。ゲストにはK-DOJOの藤田ミノル選手が登場だ! 楽しいトークと食事が込みで料金は8500円。チケットはCNプレイガイドにて発売中。お問い合わせはTBSラジオ・エンターテインメント・マザース事務局 TEL.03-5775-2853まで。この模様は、TBSラジオ『B-ジャンク・エンタマナイト』にて後日放送される。

●ビンスが「オースチンは戻ってくる」と明言!

ライター・阿部タケシ氏の情報によれば、『マイアミ・ヘラルド』紙のインタビューに答えたビンス・マクマホンが、ストーンコールドとザ・ロックのリング復帰を明言した、とのこと。まあ、おそらく来年の話なので鬼は笑うかもしれないが、WWEファンには泣きたくなるくらい嬉しいアナウンスだ。ストーンコールドの1月復帰説や日本大会来日説などの噂は根強いが、果たしてどうなるか? 楽しみに待とう!

※今月のWWE特集は以上です!! 起立!! 気をつけ!! 礼!! また来月~!!



2003年1月 ハシフ・カーン&SHOGUN 日本初見参!

来日前にモンゴルで独占取材敢行!?

遂に、あのハシフ・カーンが日本へやってくる!
2003年1月5日、後楽園で行われるZERO-ONE★U$Aに、
モンゴルからハシフ・カーン、そして翌6日にはSHOGUNの参戦が発表された。
とは言っても、何から何まで謎だらけの、ハシフ・カーン&SHOGUN。
この2人のレスラーは一体どんな選手なのか？　思いきってモンゴルまで飛び、
ハシフ・カーンの来日直前インタビューを敢行！　その正体に迫った!

聞き手／松澤チョロ
撮影／モーリー
designed by matsu (Two three)

——ハシフさん、来年の1月5日に遂に日本で試合が決まったみたいなので、お話を聞かせてもらおうと思って、はるばるモンゴルまでやってまいりました！

ハシフ ここモンゴルなの？

——そうですよ（笑）。ハシフ・カーンって、モンゴル人ってことでいいんですよね？

ハシフ ん？ ……そ、そうや。

——プロレスデビューは、やっぱりモンゴルなんですか？

ハシフ いや、モンゴルには相撲はあってもプロレスはないから。だから、オレはプロレスラーを目指してカナダに流れ着いたんや。もう14年も前の話になるけどな。

——それ以降は表舞台には登場してないんですか？

ハシフ そうや！ 今回、14年の沈黙を破り、ハシフ・カーン、遂に日本上陸！ オレは日本まで自分の強さを試しに行くんや！

——あ、そういう意味があったんですか。でも、14年というと、相当ブランクがあると思いますけど、体調的には問題ないんですか？

ハシフ 問題なし。ハシフ・カーンは14年間眠りについていただけだから、当時と何も変わらない。

——14年前のハシフ・カーンはポジション的には、どのぐらいの位置にいた選手だったんですか？

ハシフ オレはヒールだったんだけど、まあ真ん中ぐらいだろうな。

——あ、真ん中ですか（笑）。けっこう控え目な選手なんですね。

ハシフ 控え目っていうか、当時はスターがいたからな。でもカルガリーはデッカイ人が少ないとこでな。オーエン・ハートかダイナマイト・キッドとか。ヒールのトップはジェリー・モローだから。

「オレは史上最強の三流レスラーなんや！」

——稲妻二郎がトップでしたか。で、日本のファンの間では、ハシフ・カーンの来日が決まって結構盛り上がってるんですよ。

ハシフ 嘘つけ！（笑）。

——いや、ホントですよ。今度の1月が初来日になるわけですか？

ハシフ まあ、そうなるよなぁ。日本ではハシフ・カーンとして試合したことないもん。

——たしかに見たことないです。

ハシフ でもよ、一言言っとくけど、何も変わらねえよ！（キッパリ）

——そうですか（笑）。ぶっちゃけ、橋本真也の試合スタイルに近いって思っていいんですか。

ハシフ でも、ちょっと違うな。

——どの辺が違うんですか？

ハシフ 何が違うか、よ～く探してみよう！ 違いを見つけられるヤツはいるのか？って（笑）。

——間違い探しじゃないんですから（笑）。でもコスチュームも含めて、あまり変わりはないと？

ハシフ ちょこっとな、所々（笑）。

——所々違うと。ちなみに、ハシフ・カーンのフィニッシュホールドは、どんな技なんですか？

ハシフ ハシフ・カーンは……何だったかなぁ？

——覚えてないんですか？（笑）。

ハシフ でも、ニールキックは良かったよ。

——やっぱりニールキックですか（笑）。ところで、ハシフ・カーンのカーンっていうのは、どこから来てるんですかね？

ハシフ そりゃ、モンゴルのキラー・カーンからだよ。

——やっぱり。血がつながってたりするんですかね？（笑）。

ハシフ 知らん。そんなもん覚えてねえよ！（笑）。

——日本に対する印象を聞かせてもらえませんか？

ハシフ いい国だと思うよ。日本に呼んでくれてありがとう！（突然）お前ら、三流レスラーのハシフ・カーンが見たいのか？

——エッ!? ハシフ・カーンって三流レスラーなんですか（笑）。

ハシフ そうや。オレはカナダでは三流レスラーだったけど、カルガリーでは一番強かったんだよ。

——三流ではあったけど、強さに関しては自信があったんですね。

ハシフ そうや。

——ハシフさんそっくりの橋本さんは、海外遠征中に相手をよくケガさせるんで試合を干されてたって聞きましたけど（笑）。

ハシフ オレは、ずっと干されたわけじゃないからな。1週間のウチで毎日試合があったのが、1試合とか2試合に減らされたりな。

——それって、だいぶ干されてるじゃないですか？（笑）。

ハシフ あ、そうか（笑）。

——干された原因っていうのは、やっぱり、橋本真也さんと同じように当たりが強いっていうか。

ハシフ そういうのもあったし、焚き付けもあったし……そういう話は思い出したくないな。

——海外遠征時代には、あまりいい思い出はないんですか？

ハシフ 思い出せばツラかったこともたくさんあったけど、いまとなってはいい思い出だよ。

——海外遠征って、そういうものなんですかねぇ。

ハシフ ホント、帰りたいばっかりだったからなぁ。ただ、やっぱり日本じゃ見れないような景色とか見れたし。やることないから夢ばっか見てた。妄想だらけ（笑）。

——妄想だらけ！（笑）。

ハシフ ホントだよ。女のことでも仕事のことにしても夢ばっか見てた。あとは妄想（笑）。

——蝶野さんとかもそうですし、レスラーは外人の奥さんをもらったりする人が多いですけど……。

ハシフ （さえぎって）オレも危なかったな（笑）。

——外人女性と深い恋に落ちたこととかあったんですか？

ハシフ いや、テネシーにいた時



に、途中でよく寄るマクドナルドがあったんだよ。そこにベスっていう娘がいたんだよ。

—マクドナルドの店員ですか。

ハシフ　そう。メチャクチャかわいかったよ、ちっちゃくて。その娘とうまくいってたら、間違いなく結婚してただろうな。

—凱旋帰国することもなく、向こうに永住してましたか（笑）。

ハシフ　うん。オレの好みだったんだよな（しみじみと）。

—それは記憶をたどると何時代になるわけですか？

ハシフ　SHOGUN時代やな……って、なに言わせるんや！（笑）。

—アハハハ。今度の大会では、そのSHOGUNも出ますけど、ジミー鈴木さんに話を聞いたら、SHOGUNは試合前のデモンストレーションで、笹崎（伸司）さんが持った人参を日本刀でぶった斬ってたって言ってましたけど。

ハシフ　そうそう。やってたんだよ。だから、今度の後楽園でもデモンストレーションやらせるよ。人参、誰かに持たせてな（笑）。

—笹崎さんは呼べないんですか？

ハシフ　呼ぼうにも、どこにいるかわかんねえよ。

—行方不明なんですかね。

ハシフ　あと、ジェリー・モローとか出したかったんだけどな。どうしてんのかわかんねえんだよ。

—わかんないだらけですね（笑）。でもジェリー・モローって、まだプロレスをやってんですか？

ハシフ　えっ？　調べてよ！　まだやってりゃ、オレ呼びたいんだよ。

—そうですか。どなたか、ジェリー・モローの消息をご存知の方は『紙プロ』編集部までご連絡ください。ハシフさんから素敵なプレゼントがあると思います！

ハシフ　んなもん、ねえよ！（笑）。

—そういえば、ハシフさんは海外遠征当時、寂しさのあまり、コレクトコールでバンバン電話しまくってたみたいですね。

ハシフ　アハハハハハッ！

—合宿所に月に何十万分も電話してたんですよね？

ハシフ　何十万じゃ済まないよ。一年で4百何十万だよ（笑）。

—それはかけすぎですよ！（笑）。

ハシフ　それに合宿所になんかに電話するわけないじゃん！　合宿所に電話するのは用事があるときだけだよ。電話したのは女のところ！

—まあ、そうでしょうね（笑）。



一体、ハシフ・カーンは、どんなコスチュームで、どんな試合を見せてくれるのだろう？　2003年1月5日、ZERO-ONE★U＄A後楽園大会。「お前は橋本だろ!」なんてヤジは飛ばさず、みんなでハシフコールを送ろう!

ハシフ　そういえば、ハシフ・カーンはスズメも食べようとしたんだよなぁ……（しみじみと）。

—エッ!?　海外でもスズメを食べようとしてたんですか（笑）。

ハシフ　スズメを取って食おうとしたのはカルガリーだから。あんまり腹減っちゃって、安達さんのところの米びつから米を取ってたら「ネズミがいるな」って言われたこともあったし（笑）。

オレはヒトさんの言うことしか聞かんのや! ヒトさんが来なかったら日本へは行かんぞ!!

—そのネズミの正体はハシフさんだったわけですね（笑）。

ハシフ　そうや（笑）。でもな、オレはミスター・ヒトの言うことしか聞かないから。ヒトさんが来なかったらオレは日本へは行かんぞ！

—あららら。じゃあ、なんとしてでもヒトさんには来てもらわないといけないですね。

ハシフ　まあ、来てくれるやろ！

—それならいいですけど。SHOGUNのマネージャーはトージョー・ヤマモトさんって方だったみたいですけど、ピストル自殺をしちゃったんですよね。

ハシフ　そう。あれは●●が悪いんだけどな。

—そ、そうなんですか？

ハシフ　●●は女に狂っちゃってな。それでオレは怒ったんだよ。まあ、いろいろとあったからな。

—最後に、ハシフ・カーンのここを見てくれっていうセールスポイントは何かあるんですか？

ハシフ　……探せって！

—テメェで探せと（笑）。ハシフ・カーンっていうは一回限りの登場になるわけですよね？

ハシフ　いや、ウケたら別よ。

—ウケれば、また来日の可能性もあると（笑）。日本でのターゲットって誰かいるんですか？

ハシフ　そうやな？　向こう（カルガリー）にいた馳！

—馳さんがターゲットですか。

ハシフ　あと、日本にはマサ・チョーノはいるのか？

—いますよ。いまは新日本のマッチメイカーをやってますね。

ハシフ　偉くなったな（笑）。アイツともやりたいし、あと、オレはグレート・ムタも倒すから！

—ムタもいっちゃいますか。

ハシフ　グレート・ムタは一流や！　倒してやろうじゃねえか！

—でも、ハシフ・カーンは三流なんですよね（笑）。

ハシフ　でも、まぎれもなくカルガリーでは一番強かったんだ！

—史上最強の三流レスラーが日本初上陸ということなんですね。

ハシフ　そうや。それにオレはチンギスハンになる夢を見たんや。

—また凄い夢を見ますね（笑）。

ハシフ　その夢を、日本に帰った橋本という男が受け継いだんや。

—橋本さんがチンギスハンになるんですか？

ハシフ　いや、アイツはチンギスハンじゃなくて信長になるって言ってたけどな（笑）。

—言いそうですね（笑）。でもホント、ハシフさんと橋本さんは趣味嗜好も近いんですね。

ハシフ　オレも橋本という男と一緒で時代劇とか好きなんだよな。もしかしたらオレたちは同じDNAなのかもしれないな（笑）。

—たぶん、そうでしょう（笑）。ハシフさん、最後に何か読者にメッセージはありますか？

ハシフ　（無視して）誰だ！　14年間も眠りについていたオレのことを起こしたのは!?

—だ、誰なんでしょう？（笑）。

ハシフ　誰だ！　オレに壊されたいヤツは!?

—だ、誰もいないと思います。

ハシフ　ZERO—ONEってとこはオレを干さないのか？　それは大丈夫か？

—社長がしっかりしてる人なんで大丈夫じゃないですか？（笑）。

ハシフ　そうか（笑）。お前ら、来年の1月5日の後楽園、最強の三流レスラーを観に来てくれ！

【12月11日／モンゴルにて収録】

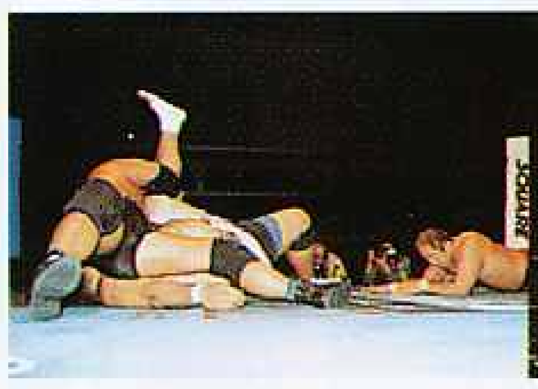
2002.12.10　つくばカピオ『EPICENTER』

ガファリが飛んだ！　組長も圧殺!!





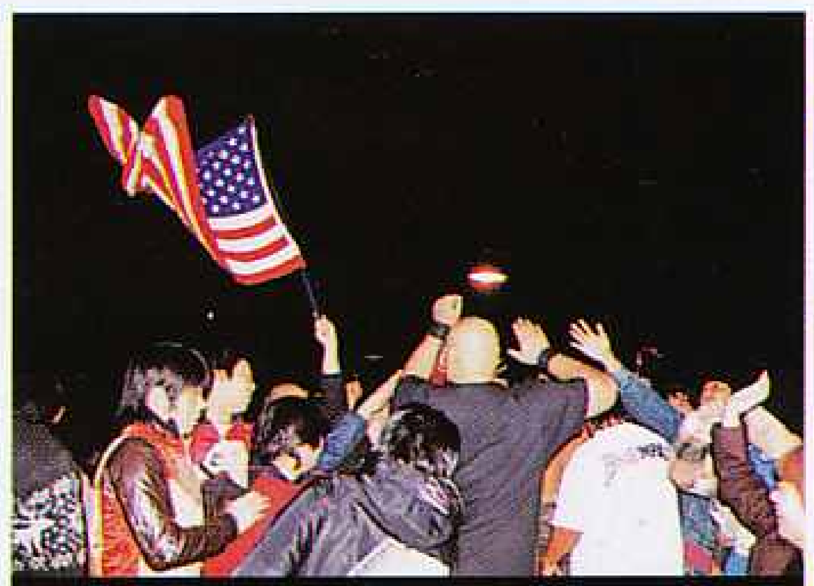
試合前、自身の興行で勝手に炎武連夢のタイトルマッチを組んだ冬木が姿を見せ橋本と会談。あえなく物別れに終わると、冬木は金村等と共に橋本を襲い、さらにベルトを強奪し逃走!　メイン後、乱入した金村と黒田に対し、破壊王は「お前ら、誰にケンカ売ってんだ!」と、かなりご立腹!

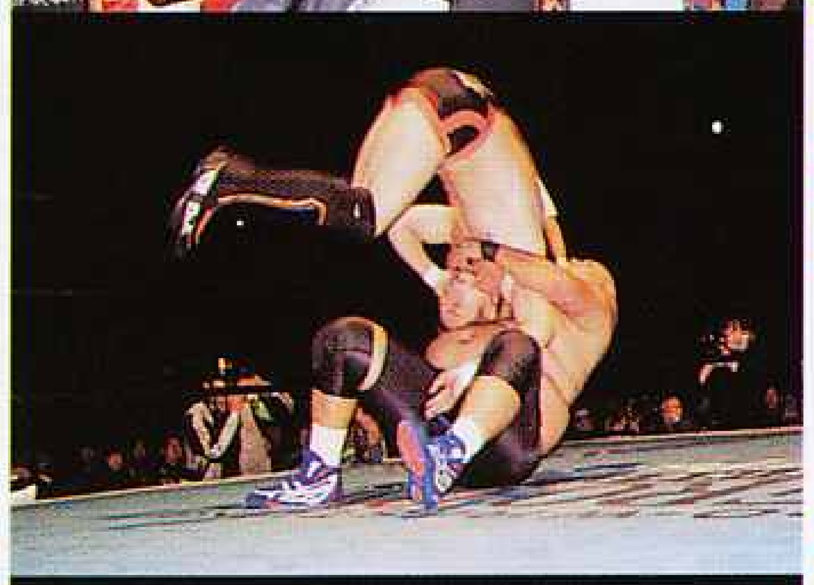




パートナーとはいえパフォーマンスでは互いに負けられないアダモとコリノ。アダモのダンスに負けじとコリノも踊り狂った。試合は大谷レフェリーが3カウントを数え炎武連夢の勝利!

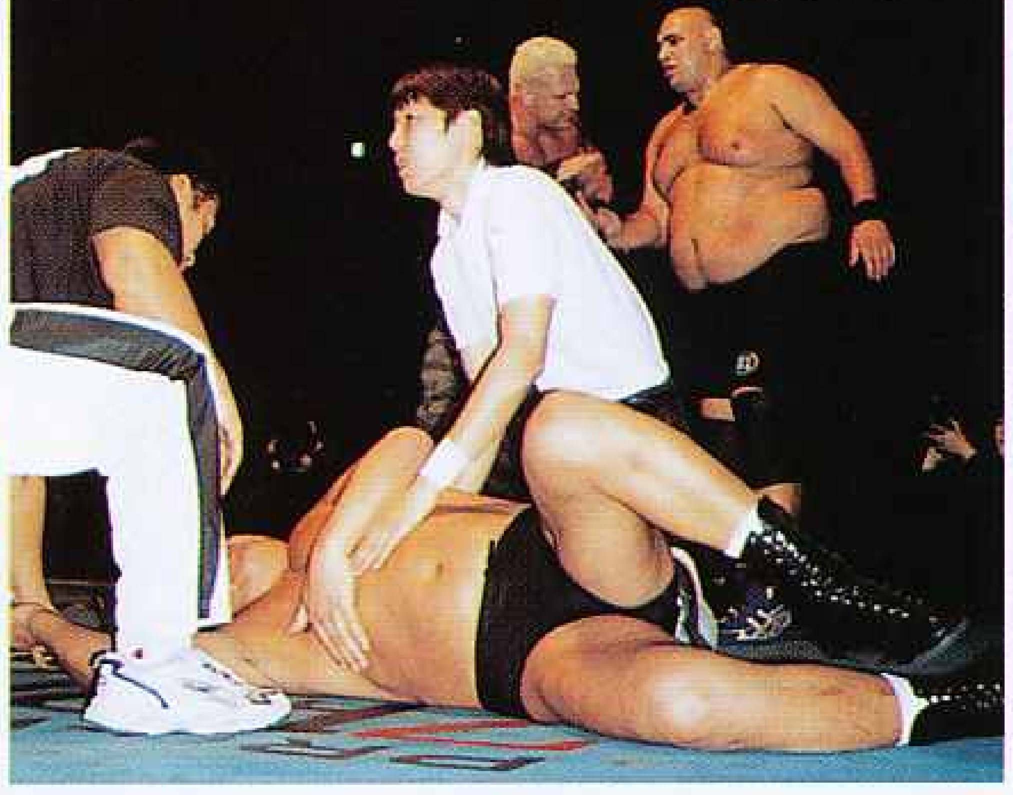
入場時には星条旗を掲げたファンがガファリを歓迎。この日はハワードと組んで藤原＆耕平組と対戦したガファリ。耕平を軽々とブン投げ、代わって出てきた組長相手に本家顔負けのリアル腹固めを披露！　さらにコーナーを利用したジャンピング・ガファリアタックからのガファリプレスで組長をも圧殺!!











2002.12.13　千葉公園体育館

破壊王のピンチに暴走王が殴り込み!!

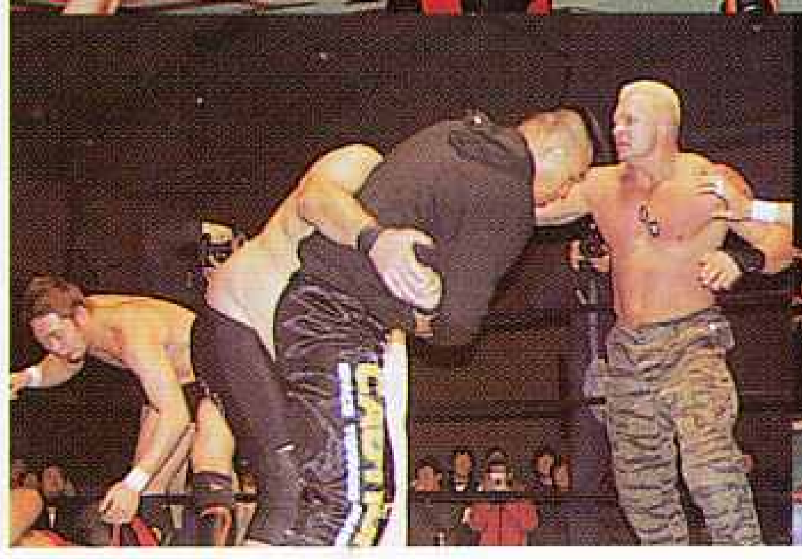




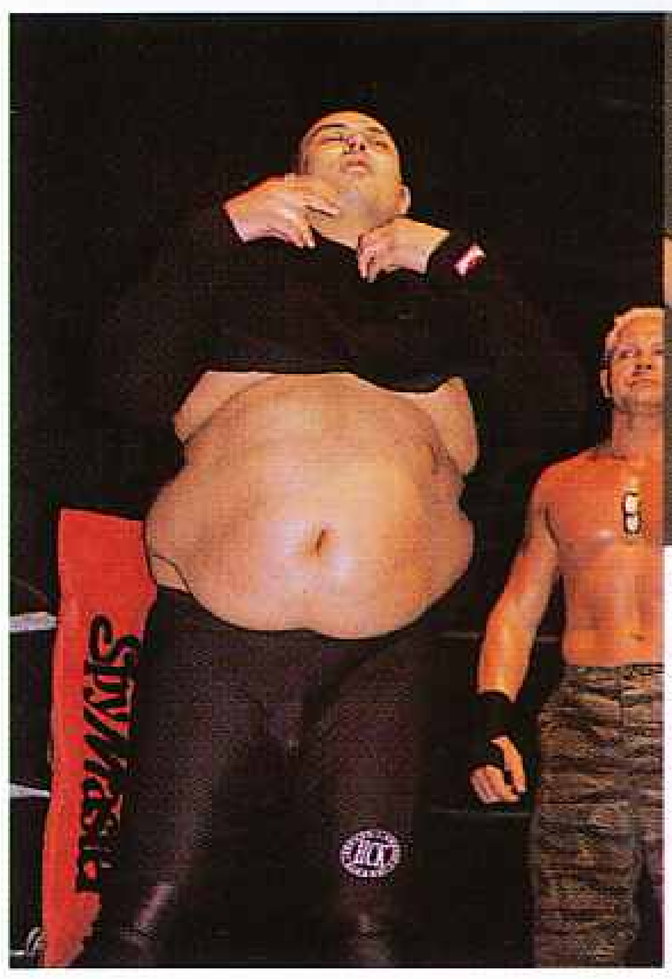
「クソデブ!!　明後日は、ボコボコにしてやるからな!!　割れないコンタクトして来いよ、このヤローッ!!」と、絶妙のマイクでガファリを挑発。破壊王も「このクソデブ!!（観客笑）あんなゼイ肉の固まりと一緒にするな!!」と体脂肪率の違いを強調して一喝。試合に出ていない小川とともに「オー、エイチ、ホーッ!!」を観客と唱和した

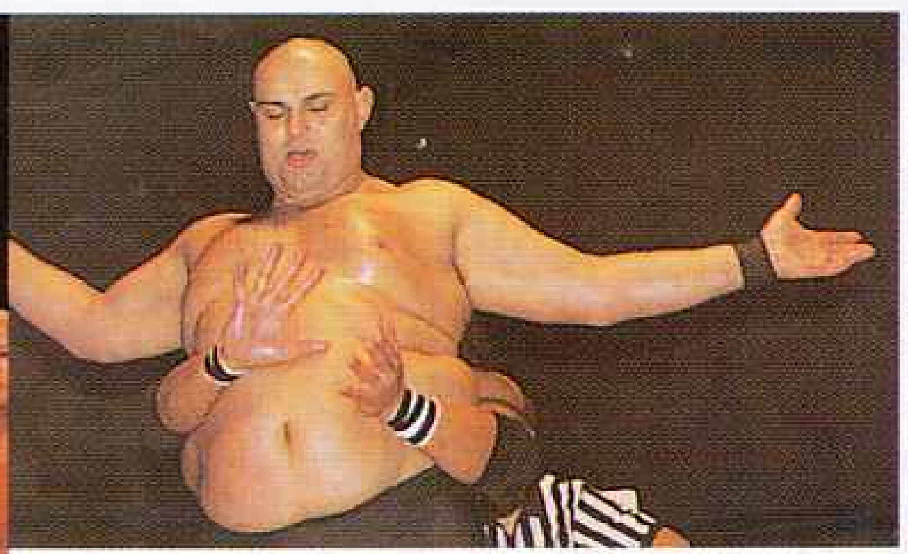


炎武連夢＆黒毛和牛太組と激闘を繰り広げた破壊王に、突如ガファリが襲いかかった!!　180キロのガファリ・プレスを受け、失神してしまった破壊王を、暴走王・小川直也が救出!!



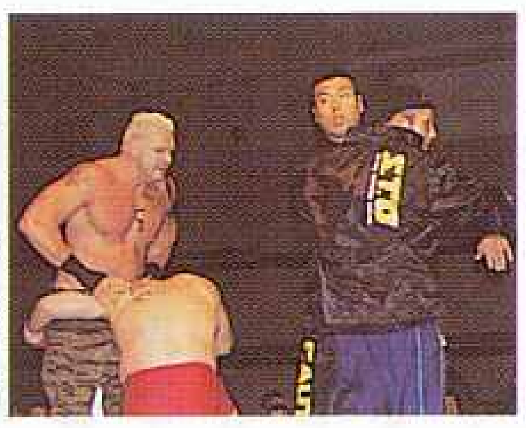






“リビング・レジェンド”マット・ガファリは、大歓声の中、トム・ハワードとタッグを組んでセミファイナルへ登場。リングでTシャツを脱ぐと、館内には大きなどよめきが起きた。スヌーカがジャーマンを決めようとしても……その腹には手が回らず!!　途中、スヌーカのパンチで右目を押さえ、一時戦闘不能に陥るという“悪夢”を思い起こさせるシーンがあったものの、ハワードにタッチして難を逃れ、最後はガファリ・プレスでスヌーカJr.をマットに沈めた

小川イズムを受け継いで、ガチンコで行きたいと申していた（by川村社長）藤井克久。小川のセコンドとして、ゼロワンマットに帯同中



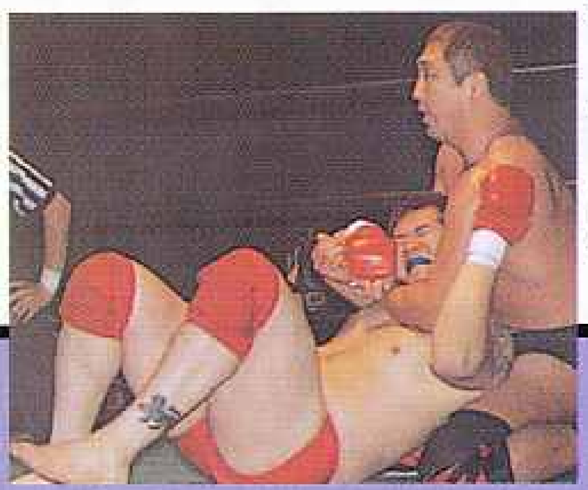
暖房設備のない千葉公園体育館。あまりに寒いので、山笠Z"信介の提案で休憩時間にラジオ体操が行われた。体を動かして暖まったところで、後半戦出発ーッ!!

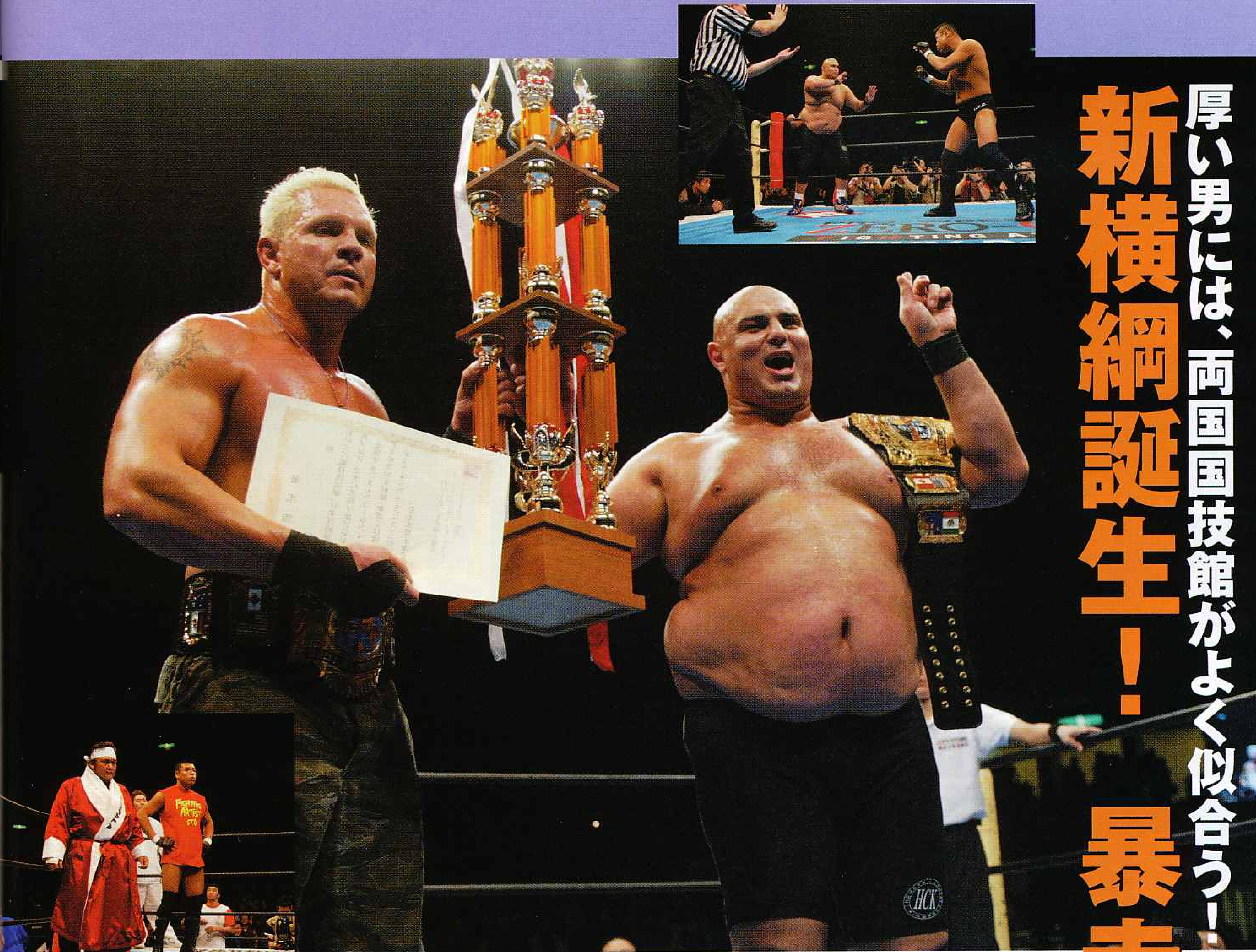




今回ゼロワン発参戦のガファリに、すっかりおいしいところを取られてしまったプレデター。いつもより多めに暴れて退場

全日本との掛け持ち地方巡業で、日本全国に火をつけまくった炎武連夢の大谷＆田中。この日は『PRIDE』戦士・横井宏考や佐藤耕平相手に熱い闘いを繰り広げた。今一歩、耕平に及ばずフォール負けしてしまった和牛太の炎武連夢入りは却下したが、同じく入団を志願したカシンは即決OKを出した





厚い男には、両国国技館がよく似合う！
新横綱誕生！ 暴走王、肉弾に散る!!

撮影／乾 晋也





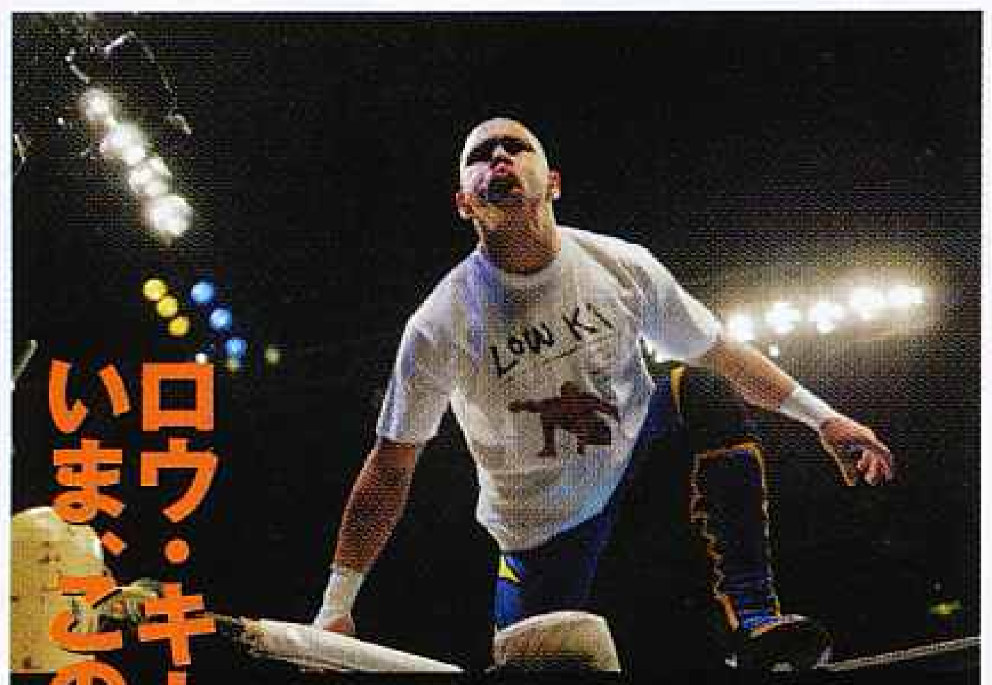
見てみぃ、この腹ッ!! ジャーマンに持ち込もうにも、手が回りきらないガファリ腹。破壊王キック、小川のSTOで追い込むも、必殺技“オレごと刈れ”は、破壊王が180キロのガファリに圧殺されてしまい、逆効果に。最後は空飛ぶ肉弾、ガファリ・プレスで小川を圧殺!! OH砲のNWAタッグベルトが、ガファリ＆ハワード組に奪われてしまった。ガファリは報道陣に向かって「メリ～クリスマ～ス!!」と叫び、控室へ消えた

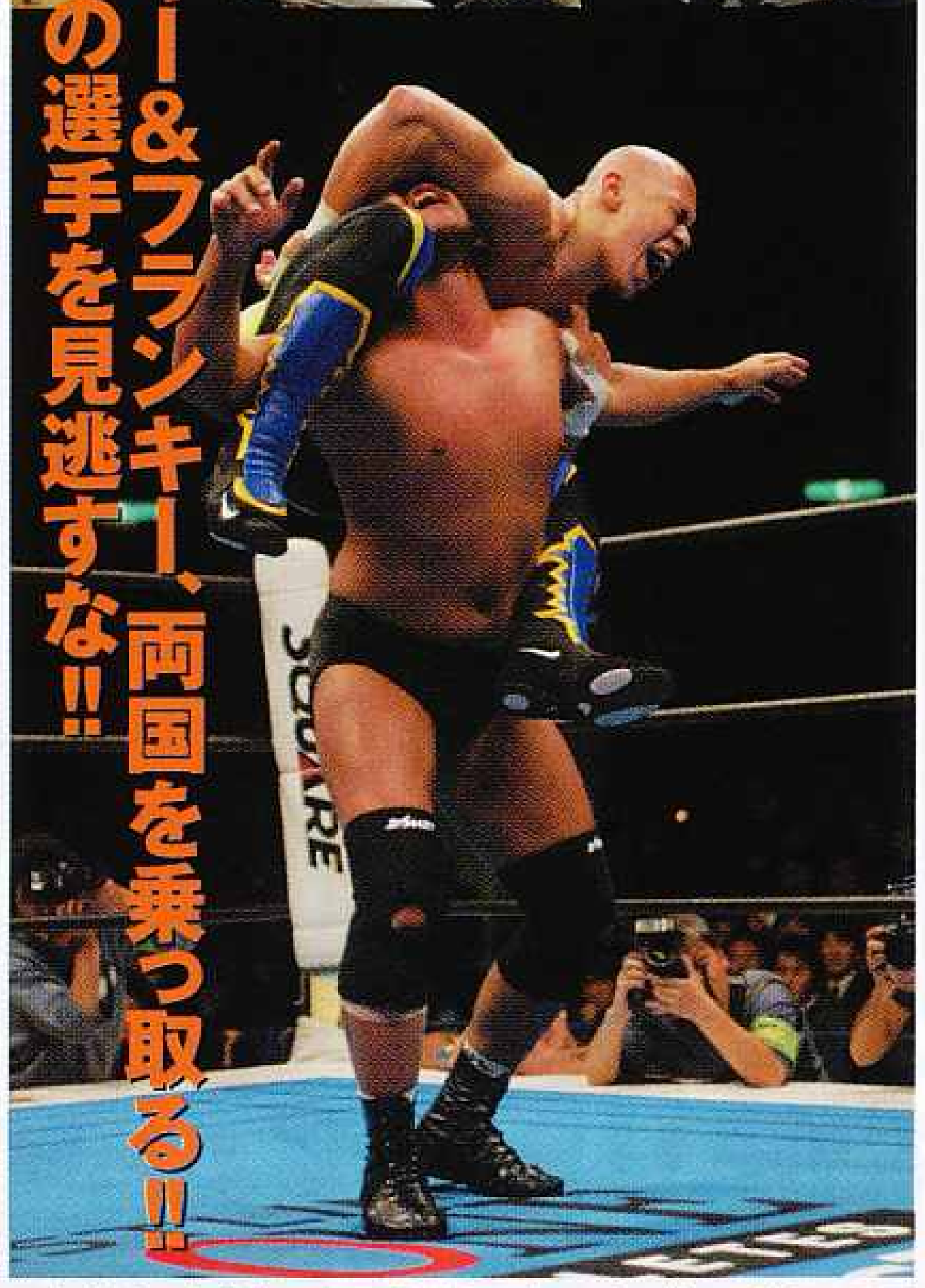
初っ端の第1試合から、ネイサン・ジョーンズvsザ・プレデターの金網デスマッチという、お腹いっぱいなカードのそろった12・15両国大会。見るべきところ、紹介したいところは山のようにありましたが、ここでは会場を訪れることが出来た（ガンツさん・斉藤さんは〆切真っ最中、会長は寝坊）私ささきぃと、チョロさんの個人的な視点で語りたいと思います。

チョロさんのベストバウトは、ぶっちぎりでロウ・キー&スパンキーvs田中将斗&高岩竜一。この試合が良かったというのは同意見です。チョロさんいわく「日本では、まだまだ名の知られていないロウ・キーとスパンキーが、技だけで両国中を沸かせている様を見ると、涙が出そうになった」ということです。……そこまでの感動を私は受けとめていませんが、ロウ・キーの試合が多くの人に伝わったのは確かです。それにしてもチョロさんは最近だいぶ涙もろい気がします。なぜだろう？

私のベストバウトは、メインのOH砲vsマット・ガファリ&トム・ハワード、次いで小笠原和彦（プロレス大賞新人賞受賞）vsケンドー・カシンでした。メインは、ガファリの腹にばかりついつい目がいってしまったのですが、それでも「いちばん強い（by破壊王）」OH

ロウ・キー&フランキー、両国を乗っ取る!! いま、この選手を見逃すな!!





田中将斗&高岩竜一組に敗戦するも、バツグンの動きで両国の観衆に大きなインパクトを残したロウ・キー&フランキー(写真はロウ・キー)。休憩時間には、ロウ・キーのサイン入りTシャツを求める人が『紙プロ』売店に長蛇の列を作り、警備員まで出動。この日一番の売り上げを記録した(はず)

「おい小笠原、タクシー呼んでこい」!! カシンvs小笠原、因縁の激突!!







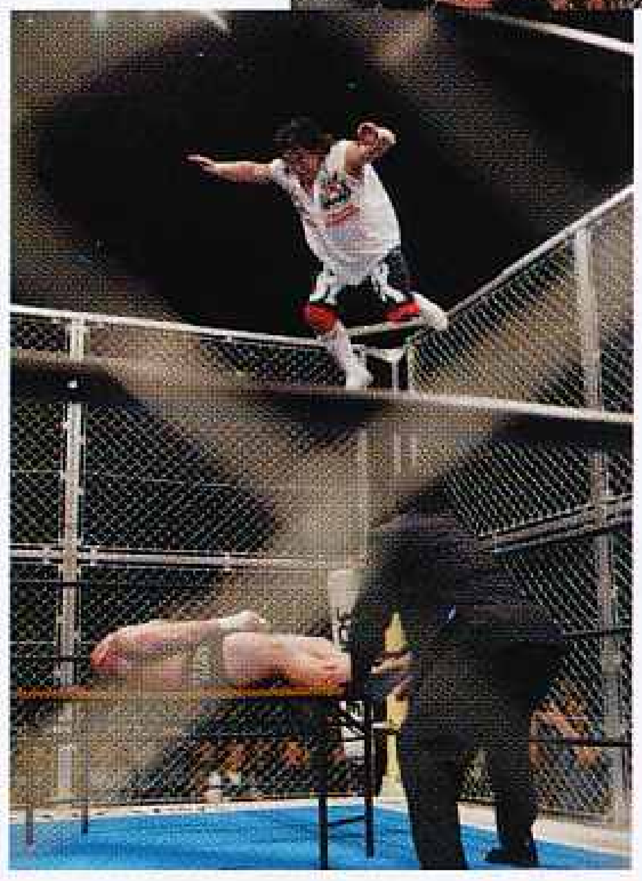


度重なる下っ端扱いにブチ切れた空手狂・小笠原和彦とケンドー・カシンの一戦は、序盤、小笠原が攻め込むも、レフェリーへの誤爆であわてる小笠原のスキをつき、カシンが攻勢に立って腕ひしぎで勝利。試合後は、小笠原の弟子や高岩、セコンド陣入り乱れての大乱闘に。全日本のカズ・ハヤシは、せっかくついて来たのにカシンにいきなり蹴られる

金網2連戦の行方は?

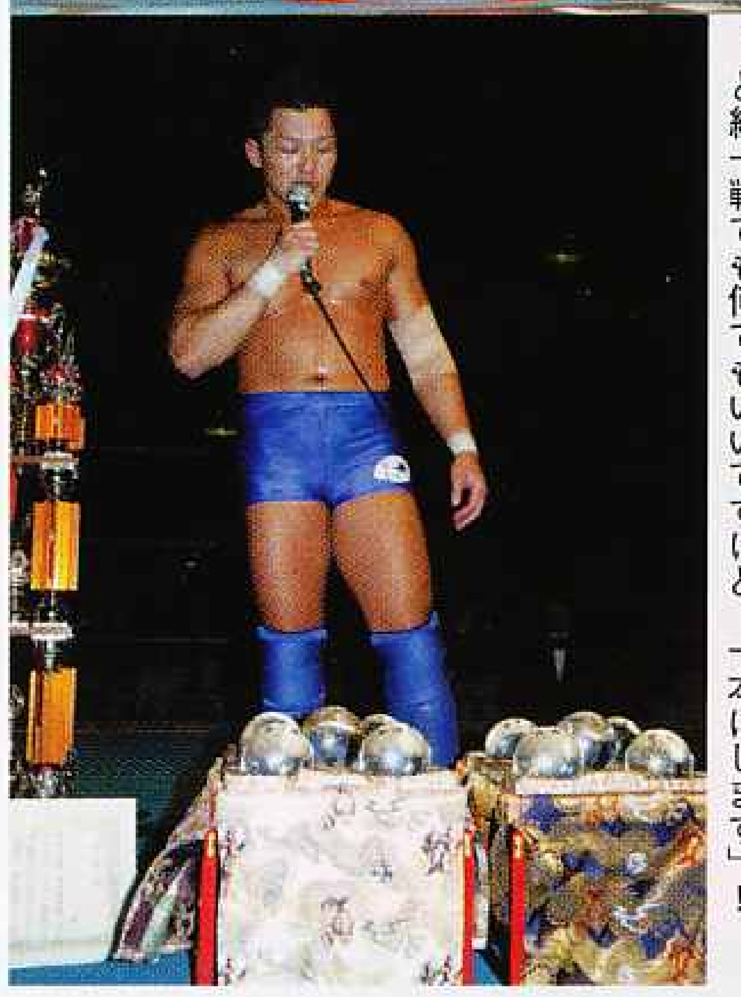


ネイサン、やっぱりWWE入り!! ラストマッチの相手、宿敵・プレデターと、金網内で固い握手。再びZERO-ONEマットに戻ってくることを約束した



高くて固い金網から、初のダイブを行った金村キンタロー。机ダイブでマッコリーを撃破、だが、すぐにデンプシーの狂拳が黒田にサク裂して試合終了。密度の濃い3分58秒となった





天下一Jr.トーナメントを制したのは、坂田亘!! 水晶を10個集めた、坂田の願いは? 「栄子と結婚かー!?」と愛ある冷やかしも飛ぶ中、坂田は「結婚、と言いたいところですけど、ベルトは、ひとつの団体に一本でいいと思うんで、ロウ・キーと統一戦でも何でもいいですけど、一本にします」!!

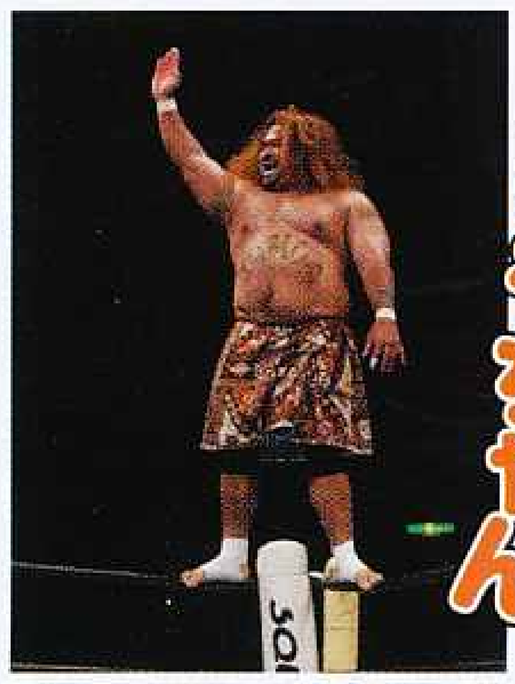






大谷晋二郎と小島聡、熱い男同士がセミファイナルで大激戦!! “いっちゃうぞ顔面ウォッシュ”、ドラゴンスープレックス、エルボーと必殺技の応酬の末、最後は小島のラリアート2連発が大谷をマットに沈めた。大谷は再戦をアピール、小島もこれに笑顔で答えた

両国でのアダモちゃん



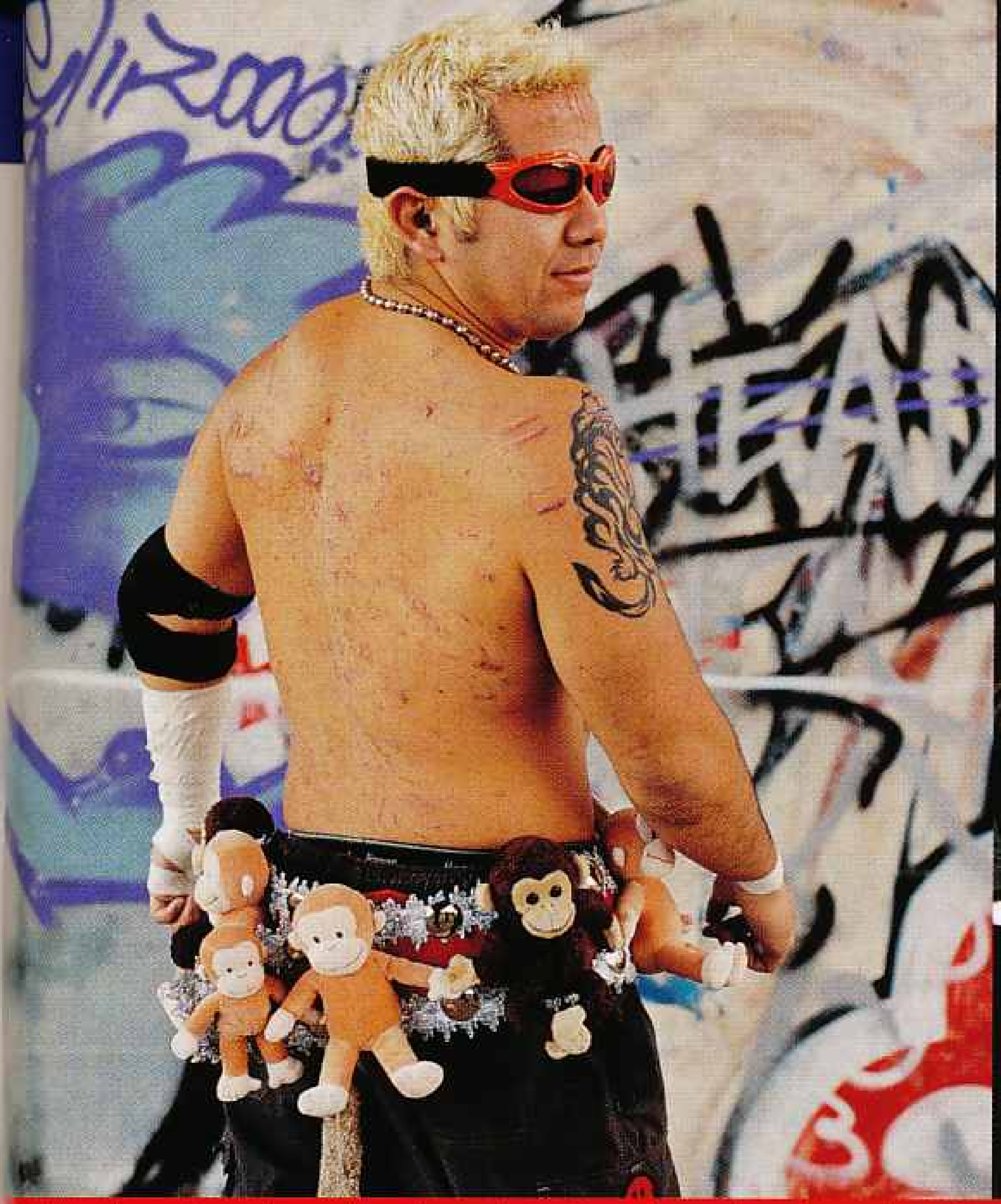
「アダモちゃーん」という観客の声に「ハァーイ」と答えることを覚えたキング・サーモァンズのキング・アダモ。スティーブ・コリノと、観客をもコール合戦で一緒に闘わせた

砲が最後は勝利してくれるものだと信じていました。その期待は裏切られてしまったのですが、裏切られ、OH砲が敗れ、そのあっけなさを感じた時、自分がOH砲の2人を「いちばん強い」と信じていたことを知ったのでした。

そして、カシンと小笠原先生の「タクシー呼んでこい」という思いがけないところからスタートした因縁の対決。前回(7・7)の両国大会では、ビジョンが使われてないことを残念がっていたのですが、今回は映像がちゃんと生かされていて、ゼロワン福岡大会、全日本武道館での「タクシー呼んでこい」、それに怒る小笠原先生、の映像があったおかげで、非常に危なっかしいカシンの闘いは、スリリングで楽しく面白く見ることができました。試合後の「オレも次は仲間の炎武連夢を連れてくる。その時はプロブレムだ」というコメントまで、常にこっちの考えの先を行ってくれる、職人芸のようなカシンの問題児ぶりにひたすら感心した一戦でした。以上、非常に偏った両国大会・小学生の作文風レポート担当は、〆切間際、唯一手が空けられた、ささきぃでした。 (ささきぃ)

目玉はハシフ・カーンだけじゃない！

見てみ、この驚愕のラインナップ！まさにガイジン天国!!（隠し玉もあるぜよ）





遂にあの男（お猿）が帰ってくる！サル・ザ・マン、ヒラデルヒアよりZERO-ONE初参戦!!

ケガで長期欠場中だった、この男が遂に帰ってくる！　サル・ザ・マンとして一体どんなファイトを見せるのか？　対戦相手は誰なんだ!?

親子で登場！コリノ with COLBY

破壊王とのシングルではテーピングに書いた息子の名前をガンガン踏みつけられてしまったコリノ。今回は愛息コービィーの前でカッコいいところを見せられるのか？

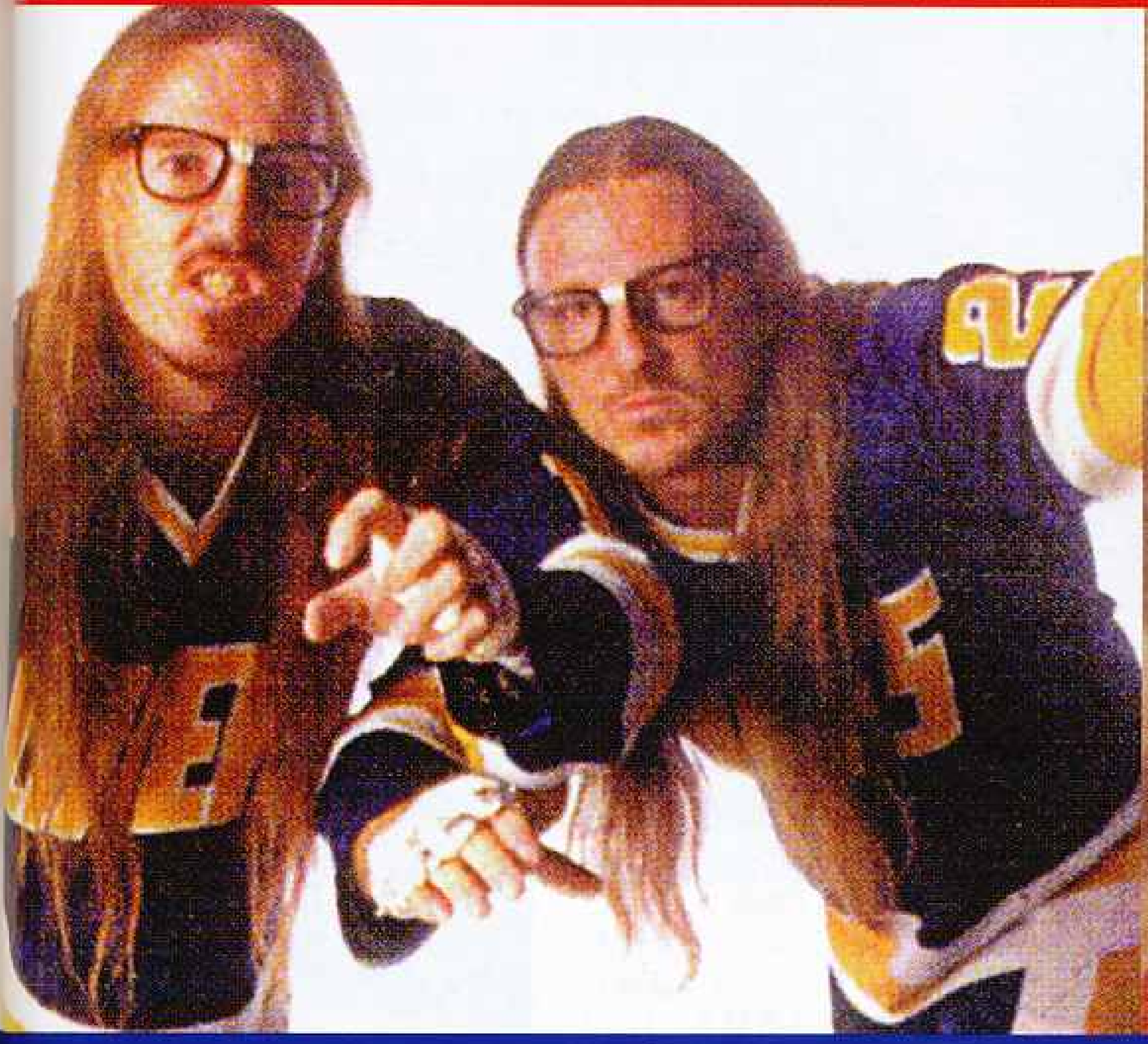
1・5&6ZERO-ONE★U$A発進!!

どんなキャラかは来日までのお楽しみ！バラード・ブラザーズ

小島に「バカ兄弟」と言われたのは炎武連夢の大谷&田中だが、この双子のタッグチーム、バラード・ブラザーズも相当な「バカ兄弟」顔で期待ができる

コイツがハシフ・カーンの相手か!?ジェイソン・アルカトラス

モンゴルから日本初上陸となるハシフ・カーン。その対戦相手として、名前が挙がっているのが、マンハッタン島からやって来た、ジェイソン・アルカトラスだ！





全国のZERO-ONE、そしてアメプロファンの皆さん、こんにちは！今回、そんな皆さんに耳寄りなニュースが届いてます！　すでに耳にしている人も多いかと思いますが、橋本真也率いるZERO-ONEが来年1月、新団体（？）を旗揚げ。その名も〝ファイティング・イリュージョン〟ZERO-ONE★U$A！

団体名が示すとおり、このZERO-ONE★U$Aでは、将来のアメリカマット界を担うであろう選手を招聘。すでにNWA、NWA-TNA、ROH、PWF、UPWと提携。今大会には、現在、アメリカ、日本、カナダ、サウジアラビア、イギリス、モンゴル、メキシコ、オーストラリアから参戦が予定されており、初期IWGPもビックリの参加国となっている。

早速、ZERO-ONE★U$A、注目の出場選手を紹介しよう！

まずは、特別出場選手として、モンゴルから襲来するのが今号で独占インタビューを敢行しているハシフ・カーン。そして、SHOGUNという謎の日本人レスラーの出場も決定している。知る人ぞ知る、この2人の伝説のレスラーに会えるのは、各1日限り。

もう1人の特別出場選手は、ちょっぴり懐かしの200%マシン！　正体はは正真正銘の本物のあの男だ！

さらに、ヒラデルヒアからは、サル・ザ・マンの参戦が決定！　熱心な『紙プロ』読者なら、この男（お猿）の正体はバレバレだとは思うが、みんなもバナナを持って、お猿の復帰戦を見届けよう！　ウッキーッ!!

ここまで読んで、「なんだよ、全然USAじゃないじゃん！」と思った方もいるだろうが、心配はいりません。

マニアの間では、ロウ・キー級の逸材と言われているポール・ロンドン、AJスタイルズから、兄弟タッグチームのS・A・T、双子タッグチームの



新参者が多数来日するZERO-ONE★U$A。アンダーソン、ロウ・キー、ハワードといったZERO-ONEの常連ガイジンたちも、対抗意識から、これまで以上に熱く気合いの入った試合を見せてくれるのは間違いない

出場予定選手

特別出場選手

◎ハシフ・カーン（モンゴル）5日
◎SHOGUN（日本）6日
◎200%マシーン（不明）

出場予定選手

◎スティーブ・コリノwith COLBY（アメリカ）NWA
◎トム・ハワード（アメリカ）UPW
◎ジェイソン・アルカトラス（マンハッタン島）
◎Lowki（アメリカ）ROH
◎CWアンダーソン（アメリカ）NWA
◎AJスタイルズ（アメリカ）NWA- TNA
◎ポール・ロンドン（アメリカ）ROH
◎S.A.T（アメリカ）NWA- TNA（兄弟タッグチーム）
◎プリンス・ナナ（サウジアラビア）
◎バラード・ブラザーズ（カナダ）（双子タッグチーム）
◎サル・ザ・マン（ヒラデルヒア）PWF
◎フレディ（エルム街）
◎オージー・ビーフ（オーストラリア）
※ZERO-ONE所属選手他、総勢20～26名程度参戦予定

“未知の強豪”大挙襲来!!!



左上が今回来日予定のAJスタイルズ、その隣も同じく来日予定のポール・ロンドン。
その他の選手は、今後、ZERO-ONE★U$A、あるいはZERO-ONEに参戦する可能性あり

ガイジン好きは行くしかない！ 1・5&6は後楽園へGO!!

バラード・ブラザーズ、サウジアラビアの本物の王様の息子というプリンス・ナナなど、初来日の、まだ見ぬ強豪が、わんさか上陸するのだ！

もちろん、ZERO-ONE常連ガイジンのロウ・キー、アンダーソンらも参戦。コリノは『火祭り02』に続き、息子のコービィー君を引き連れ親子での参戦。他にも、イギリスからミスター・オオタニ、ECWからマサ・タナカ、オーストラリアからオージー・ビーフ、なんとエルム街からフレディ等々、何やら怪しげなレスラーも名を連ねているが、とにかく、行って損なし！ 見て驚くこと間違いなし！ ZERO-ONE★U$A発射ッ！

破壊王NEWS

アントンに続き橋本真也のパチスロが登場！ その名も『破壊王』!!



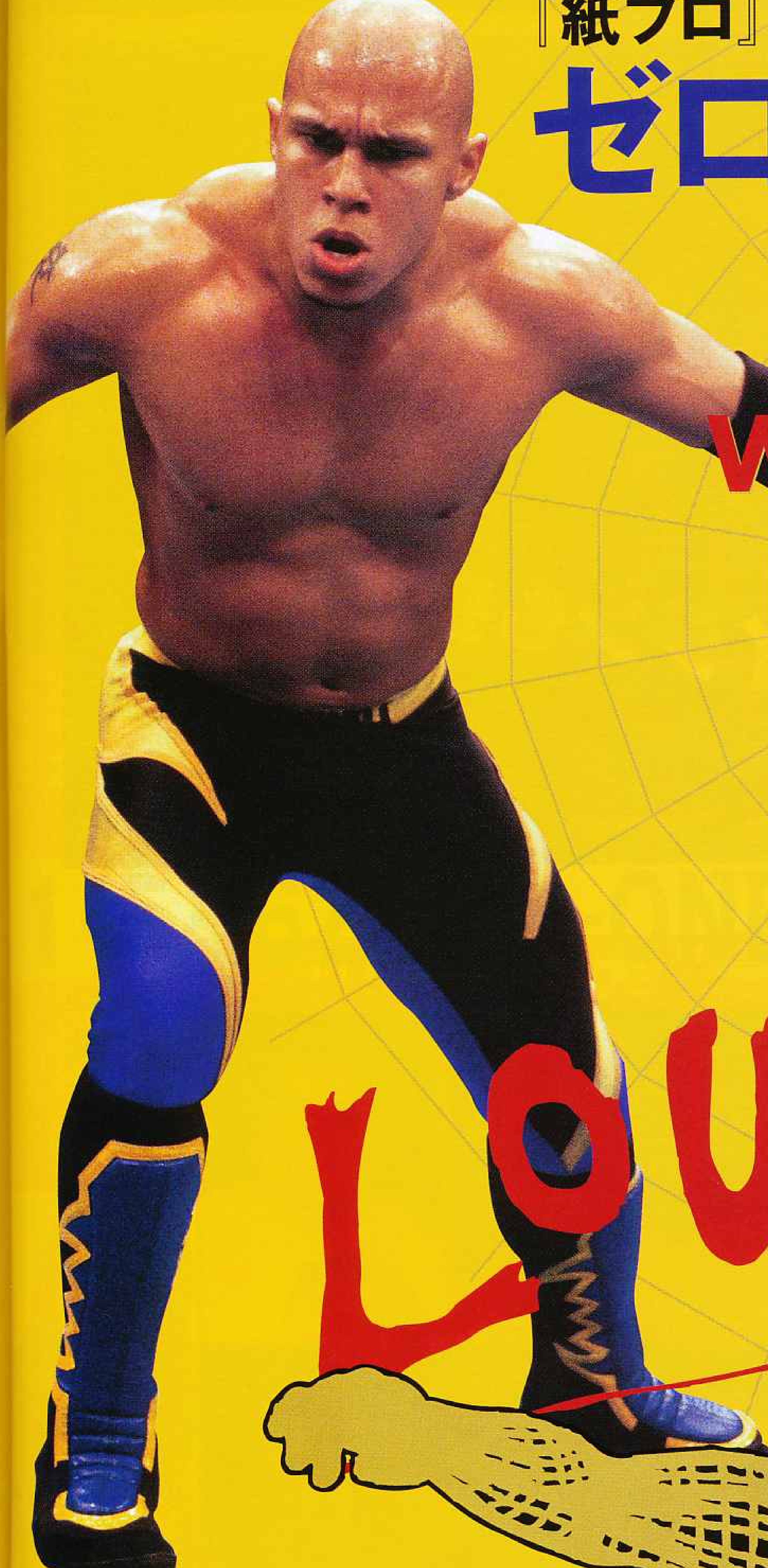
12月12日、東京ドームホテルで橋本真也コラボレーション・パチスロ新機種『破壊王』の発表記者会見が行われた。プロレスラーでパチスロのキャラクターに選ばれるのはアントニオ猪木に次いで2人目。橋本も「やるからには、あの人にも負けたくない」と意気込みを語った。この機種には破壊王の声なども、ふんだんに使われ、パチスロファンだけではなく、プロレスファンも十分楽しめる作りになっている。来年1月から全国のパチンコ店に設置されるという。

『紙プロ』発 ZERO-ONEグッズ最新作は

ゼロ族イチオシのこの男!!

WHAT'Sロウキー!?

知りたければ
P105「ゼロ族集会」
を読め!
そして会場に行け!



LOW Ki



ロウキーTシャツ

¥3,000　S or M or L



【完成予想図】

ZERO-ONEグッズを買わずに年を越せるもんか!!

年を越しても買えますよ!(当たり前)ゼロ族に入りますかーッ!?

ハシフ・カーン、Mr.フレッドシリーズ

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』(イエロー)
¥3,800　S or M or L or XL



ハシフ・カーンTシャツ『破不可』(ホワイト)
¥3,800　S or M or L or XL



ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　M or L or XL





破壊王激白!!「コイツは偽物や!!」

本誌が「これがハシフ・カーンだ!」と報道してきた上の写真ですが、実は「ショーグン」であることが発覚!! 橋本真也様には謹んでお詫び申しあげます(田村張りに深々とオジキして)。で、ハシフ・カーンは!?

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ(ネイビー)
¥3,800　S or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ(ベージュ)
¥3,800　S or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ(カーキ)
¥3,800　S or M or L or XL



Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or XL



代引きもやってます　『紙プロ』通販

TPOにあわせて選べる通販方法
消費税サービス
全国どこでも送料一律500円(離島、山間部は除く)
代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)代引手数料約¥315がかかります。(代引金額によって異なります)御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留

希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)を現金書留で
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702(株)ダブルクロスまで送り下さい。
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、なぜか年齢を必ず表記してください。

郵便振替

希望商品の代金+送料一律¥500(何枚でも可。離島、山間部は除く)を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154(株)ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、なぜか年齢を必ず表記してください。

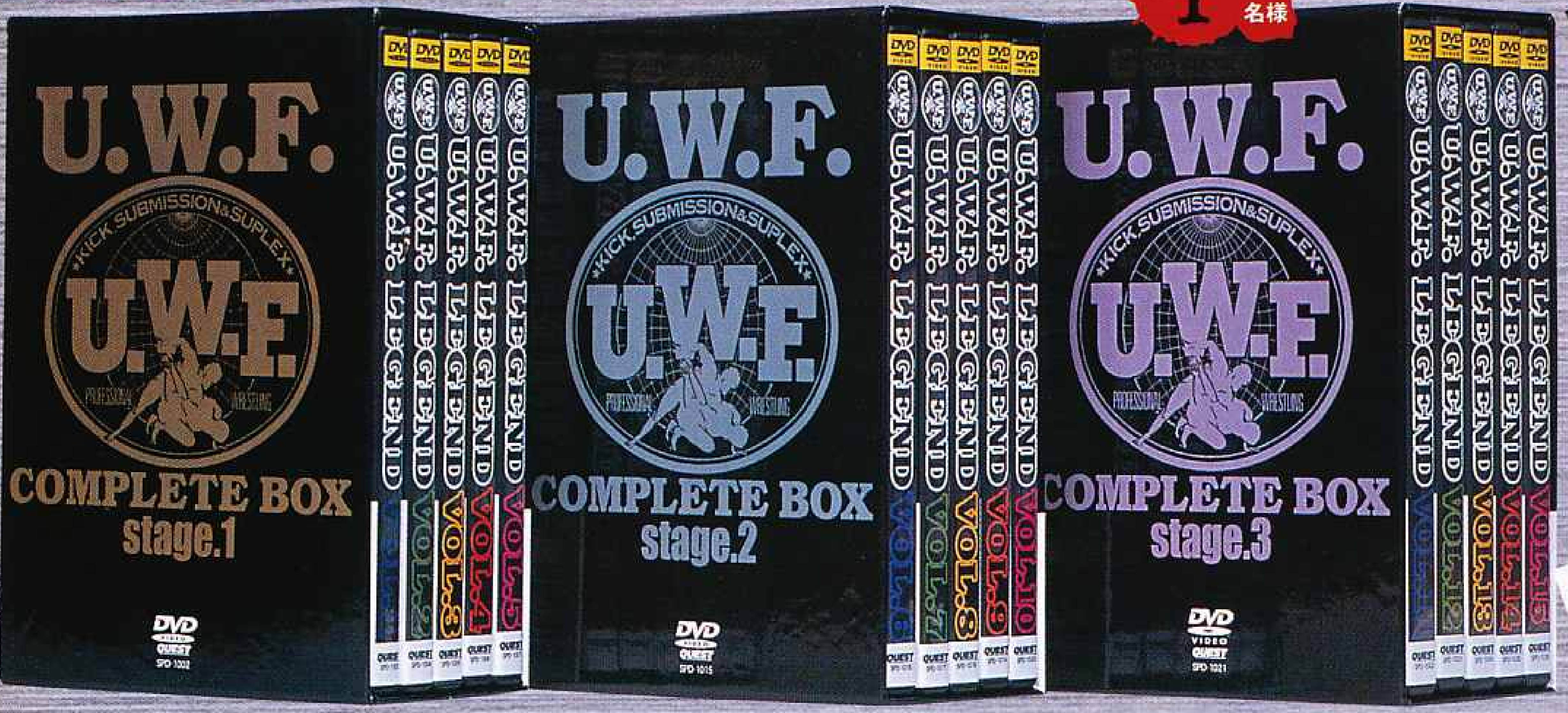
髙田ぁ！　みんなが泣いてるぞぉ！
髙田延彦引退記念読者プレゼント

11･23東京ドーム髙田総裁の「Uインター出身のヤツら、ちょっと上がってこいや！」の呼びかけに、
最初に応えたのはUインター常連ガイジンだったバットニュース・アレン！
……じゃなくてグッドリッジ！　何でだよ！　まぁ、いつ何時予想もしない出来事は起こりますが、
本誌読プレコーナーも皆さんの予想を遙かに超えた確率で当選しますので、御応募お待ちしております!!

TAKADA & U.W.F.

髙田道場【TEL】03-5749-5030
【URL】http://www.takada-dojo.com/top.html

セットで1名様



●U.W.F.COMPLETE BOX Stage1～3
本当か、本当なのか!?　一時代を築いた第二次UWF全30大会をノーカット完全収録！　前田「選ばれし者の恍惚と不安、二つ我に有り」で始まり、船木「前田さん！　前田さん！　リングに上がってください！」で幕を閉じた伝説をしかと見届けよ！　全15枚組の超大作！　各￥20,000
【クエスト提供】

1名様

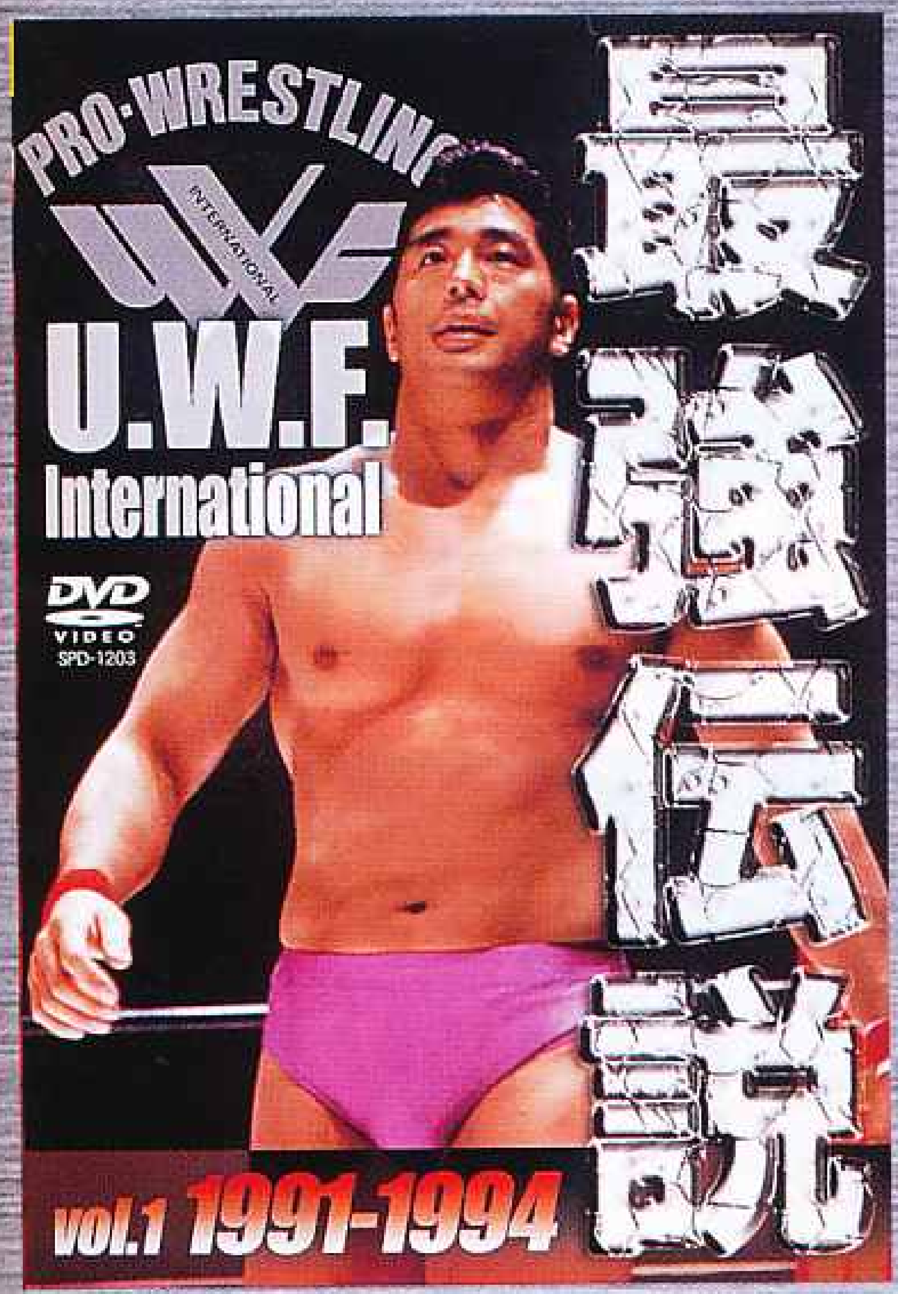


●髙田ファイナルTシャツ／ガウンデザイン
髙田総裁の入場テーマ「トレーニング・モンタージュ」を思わず口ずさんでしまう！ そんなTシャツです　￥4,500
【髙田道場提供】

1名様



●髙田ファイナルTシャツ／忌野清志郎デザイン
「トランジスタ・ラジオ」が聞こえてくる！ そんな清志郎デザインの仰天Tシャツです　￥4,500
【髙田道場提供】





セットで1名様

●U.W.F.International最強伝説
前号応募殺到につき再び登場！　髙田、田村、桜庭、金原、高山らUインター戦士の激闘を100試合に渡ってお送りする！　ベイダー、オブライトら最強ガイジンもしっかり暴れているぞ！　Uインターの試合を見たいやつは送ってこいや！　各￥10,500
【クエスト提供】

1名様



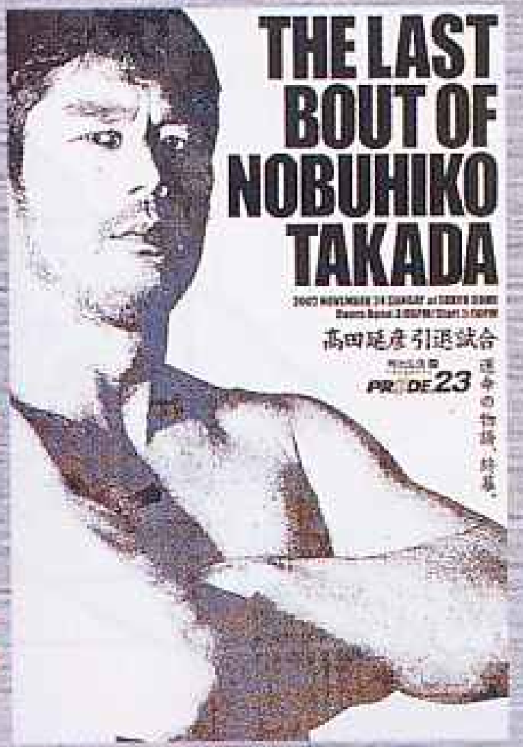
●髙田ファイナルタオル
汗をふくなんて、なんと罰当たりな！　神棚に飾っておきたいタオルです　￥2,700
【髙田道場提供】

3名様



●「髙田延彦」のカタチ
田村、桜庭、そして破壊王までいるんや!!　髙田総裁に縁がある人たちがその想いを言葉にした！　髙田道場協力によるボリュームたっぷりの一冊だ
【東邦出版提供】
【URL】http://www.toho-pub.com

1名様



●「PRIDE.23」パンフレット
髙田総裁が表紙を飾る豪華パンフレット！　大会後でも読み応え十分ですよ
【編集部提供】

5名様



●UWFインターナショナルの真実～夢と1億円～
鈴木健氏執筆によるUWFインター本の決定版。「手に入らないんです！　どうにかしてください！」と当編集部まで電話が殺到するほどの売れ行き！　5冊ほどどうにかしました
【エンターブレイン提供】
【TEL】03-3499-9300　【URL】http://www.enterbrain.co.jp/

『PRIDE』

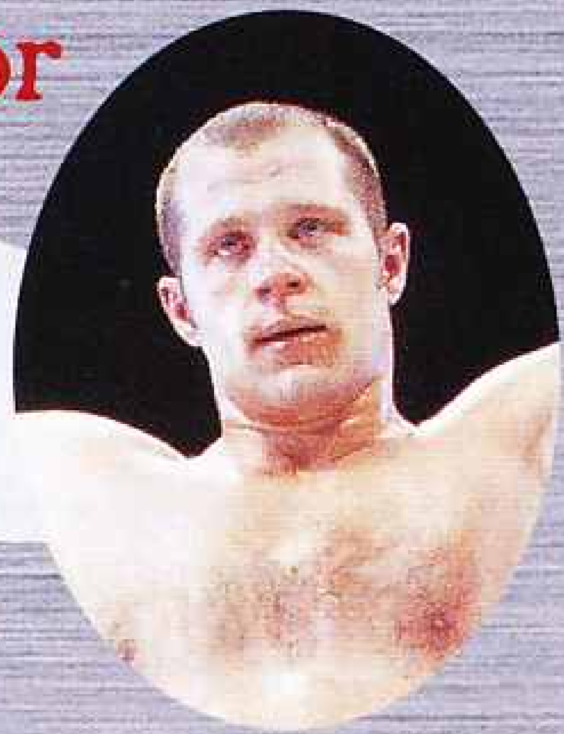
1名様



●『PRIDE』の怪人・腕時計
『PRIDE』会場などでおなじみで、アントン総帥がとってもとっても大きな大きな大きな信頼を寄せる作家・百瀬博教氏モデルウオッチー　ダイナマイッ！　な逸品だ
【イグニッション提供】

Emelianenko Fedor





1名様



●ロシアン・トップチームTシャツ（ヒョードルサイン入り）
ヒーリングに勝ったというか虐待した感があるヒョードル。ロシアン・トップチームのTシャツにサインしてくれました　【エメリヤーエンコ・ヒョードル提供】

I.V.Y.BOOKs

名古屋本店【TEL】052-459-7122
春日井店【TEL】0568-33-8808
【URL】http://www.mmjp.or.jp/IVY/

各1名様



●はじめの一歩／鷹村Tシャツ
●はじめの一歩／マンガTシャツ
●はじめの一歩Tシャツ

ボクシングのジムといえば「丹下ジム」じゃなくて「鴨川ジム」! そんな世代に送る「はじめの一歩」シリーズ

Tacox

【ORSO提供】【TEL】04-7131-9677
【URL】http://www.ki-jin.com/orso/

各3名様



●Tacox NEVER DIE
●Tacox REAL FIGHTING
●Tacox（長袖）

タイガーマスクTシャツや朝日昇デザインTシャツを手掛けるORSOが続々とTシャツをリリース! 五味Tシャツも販売してるので修斗マニアは必見

Big blue

【TEL】03-3435-2883
【URL】http://s-ovation.com/bigblue.html



●FREAK U ロングスリーブ
●GOLDUST Tシャツ
●TRIPLE Hキャップ
●DIVAS Tシャツ

各1名様

1月WWE再来襲に備え、Big Blueで全身WWEグッズを身に纏え! 場所は浜松町なのでディファ有明帰りに寄ってみよう

【Big Blue 提供】

BAMBAM BIGELOW

下北沢店【TEL】03-3460-1145 渋谷店【TEL】03-3477-1145 大阪店【TEL】06-6245-1602
【URL】http://www.bambam88.com/contents.html

各1名様



●スプリングマントレーナー
●フィッシャーズTシャツ
●インベーダーキャップ

着々と日本征服を推し進めるBAMBAM BIGELOWから新商品! ホームページもかかさずチェックしろ!

BOOK/CD

各1名様

●BEST HIT I.W.A!

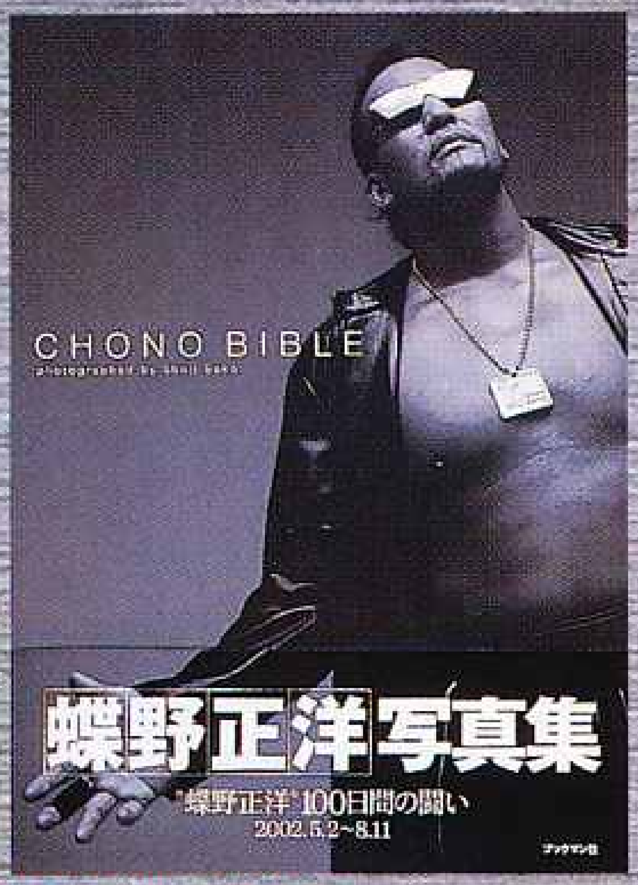
マット界のミュージックシーンの先端を突っ走るIWAから待望のベスト盤が堂々のリリースなのよ! 【IWA提供】

●全日本プロレス「王道バク進!」

創立30周年記念オフィシャルCDは全日本の歴史に名を残したレスラーたちのテーマ曲をガッチリ収録。オープニングはブッチャーの「バーバ!」コールから! 辛倒モノ! 【吉田豪提供】







●蝶野正洋写真集

「アイ・アム・チョーノッ!」と「オラッ!」しか印象に残らないが、良く聞くとかなり面白いことを言っている黒い総帥。写真集もしっかり見ような 【編集部提供】

J STAR

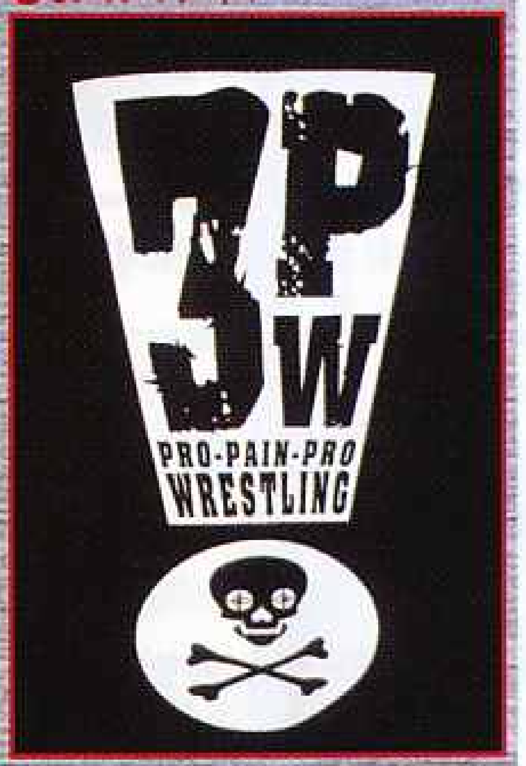
【TEL】 06-6926-2888
【URL】 http://www.jstar.co.jp/

各1名様

●サブゥ・サイン入りTシャツ



●3PW Tシャツ





●サブゥ・サイン入りポートレート

往年のレスラーのサイン色紙や愛用品なども取りそろえ、マニアは失禁確実の大阪プロレスショップ。京橋に行ったら必ず寄ろう!

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦今年のMVP&ワーストレスラー
⑧今年のベスト&ワーストバウト
⑨今年の名言&珍言

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「全裸包丁」係まで

※締切は2003年1月20日（月）当日消印有効

TSUJI



1名様

●辻結花Tシャツ

タックル→テイクダウンされたい選手NO.1辻ちゃんからの頂きモノです【辻結花提供】

ZERO-ONE➡WWE

各1名様



●ネイサン・ジョーンズ サイン入りジャンパー

ネイサン、プレゼントです! WWE入りする鋼鉄巨人からビックなプレゼント!

●レオナルド・スパンキー サイン入りTシャツ

レオ様もWWE行き! 改名させてまで売り出した破壊王の目に狂いはなかった!

RADICAL GIFT

『紙プロ』が送る年末スペシャルグッズ!!

限定100セット Kapraギフトセット



Bセット
サービス価格
¥8,800 M or L

●Kapraパーカー［カーキー／前ジッパー・後イエロープリント・裏起毛］
●ニット帽［ブラック／ホワイト刺繍入り］
●トートバック［ブラック／ホワイトプリント］



Aセット
サービス価格
¥8,800 M or L

●Kapraパーカー［ネイビー／前ジッパー・後ホワイトプリント・裏起毛］
●ニット帽［ネイビー／ホワイト刺繍入り］
●トートバック［ネイビー／ホワイトプリント］

「代引き」を開始!!『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

●問い合わせ （株）ダブルクロス 03-3403-5188

「Kapraとは何なの？」と言う方に、簡単にKapraの説明です。

ズバリ、『紙のプロレスRADICAL』の略なのです。
もちろんみんなも知っているKappaのパロディです。パクリ（薄利）多売続行ッ！ へ〜ックション!!
デザインはもちろん、はなくま先生作。
『紙プロ』シンボルマークのリングおじさんとリングアフロ（リングお兄さん）が一年前新旧世代交代の試合の際、背中を向けあっちゃって、困ったヘックションにリングおじさんが、『最初は背中を向けていても、闘うときは、地球を一周してでも相手と向き合って、正々堂々闘うんだ』と最後にくれたメッセージ。意味の深〜い（？）ものなのです。
今回は、『不景気をぶっとばせ〜！』『もうすぐクリスマス！』と言うことで、Kapraギフトセットを作ってみました。プレゼントにも最適。『トートbagなんか使わね〜よ！』と言う頭のカチカチお兄さん。妹、彼女、お母さんにプレゼントしてもいいよね！お値段もグ〜ンとお得なセット価格です。Kapraパーカーbackプリントをトートbagに入れてお届けです（もちろんニット帽付き）。
『紙プロ』読者のみなさんも人と闘うときは、背中(back）を向けずに正々堂々とね！
と言うことで、今年も『クルシミマス』の、ひとり衣料部・林“ヘックション”一枝でした。

紙のプロレス RADICAL
No.57
2002年12月25日発行
No.58は
1月下旬発売予定!
※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

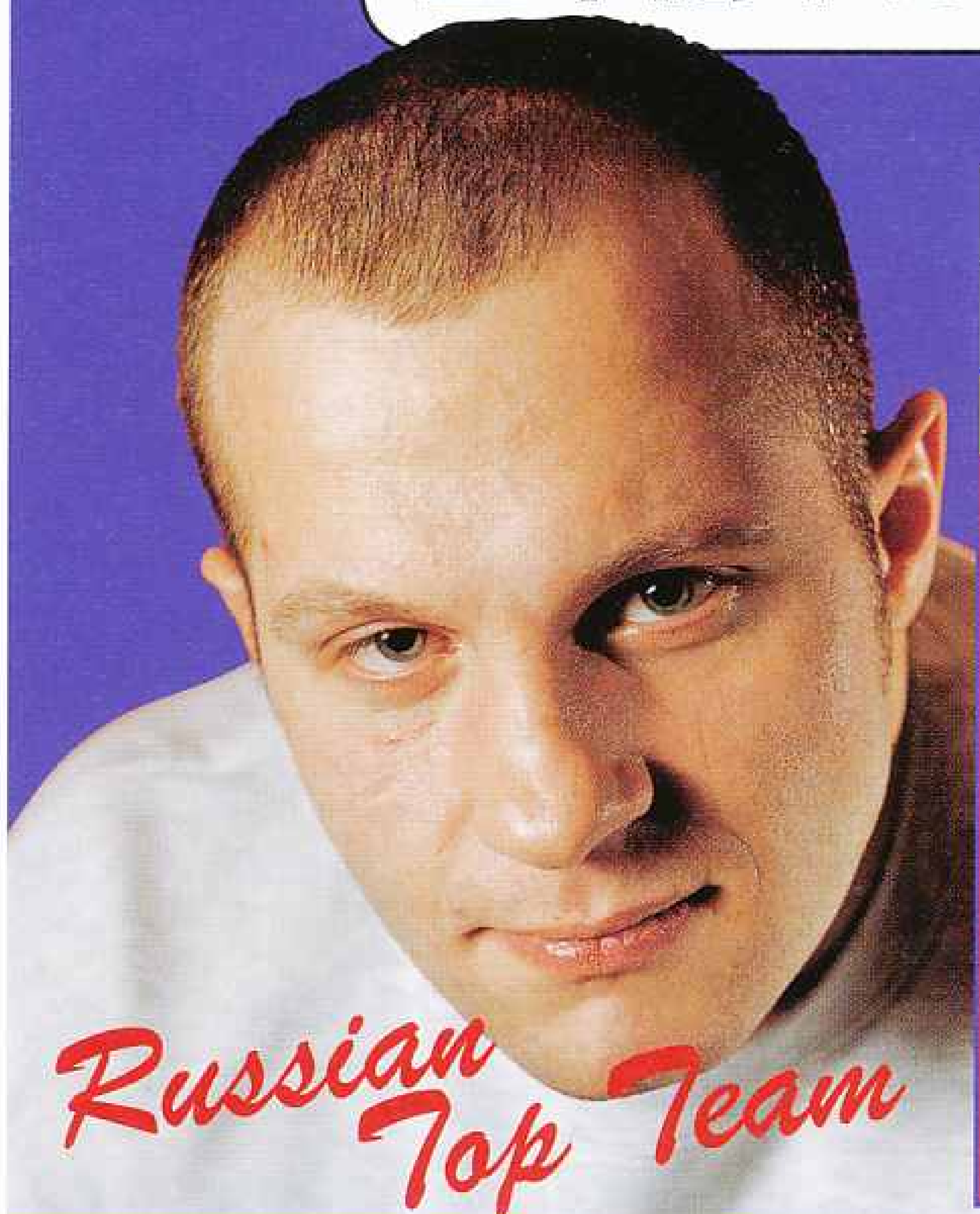
STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（高田引退記念非番）
スーパーバイザー
吉田豪
スーパー助っ人
スモーノブ
助っ人
片山ボン
ジャイ子
ひとり電気部
さささぃ
アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
海老沢勇
古賀ゆきえ（以上Zero graphics）
カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃
お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元 株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元 株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188（編集・制作）

皇帝閣下は、皆が着るのがお望みだ!!





ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800　S or M or L or SOLD OUT



ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800　S or M or L or SOLD OUT



『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,000　S or M or L or XL



『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,000　S or M or L or XL

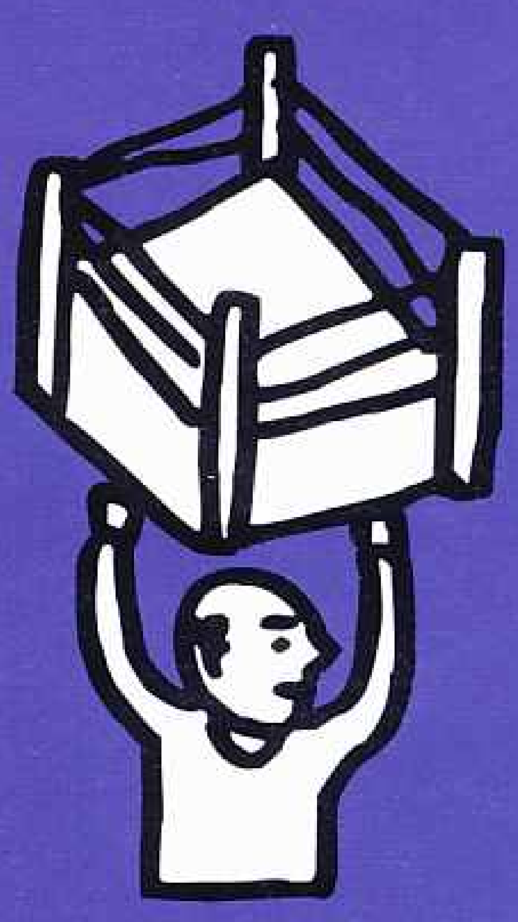


田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800　S or M or L



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　S or M or L or XL





リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥3,800　S or M or SOLD OUT



リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500　S or M or L



Kapra半袖Tシャツ〈デニム〉
¥3,500　S or SOLD OUT or L

残りわずか!



紙プロネックピース
¥~~1,200~~ ➡ 大特価 ¥600



ヴォルク・ハンTシャツ
¥3,800　S or M or L

残りわずか!



SS Tシャツ半ソデ〈赤〉
¥3,500　SOLD OUT or M［残りわずか］ or L



U.M.F.トリムシャツ〈白×青〉
¥3,000　SOLD OUT or SOLD OUT or L



通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン（TEL.03-3221-6237）★東京イサミ（TEL.03-3352-4083）★岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）★宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）★大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）★グレート・アントニオ（TEL.03-3219-9550）★大阪・バディスラム（TEL.06-6645-1378）★三恵格闘技SHOP長崎（TEL.095-824-8658）★三恵格闘技SHOP諫早（TEL.0957-22-4646）

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZIN MOOK219
2003 NO.57
驚ガクの創刊6周年記念号!!
平成15年1月25日発行 編集発行人/山口日昇
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

9784898296998
ISBN4-89829-699-8
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69860—19

印刷:図書印刷株式会社

☎INDEX

*50音及びアルファベット順

アルシオン	→03-5745-6101	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24　サンハイツ1004
大阪プロレス	→06-6636-6672	〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36　フェスティバルゲート2F
怪獣王国	→03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
キャプチャー	→044-959-3333	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1　横山ビルB1
キングダム・エルガイツ	→0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
栗栖ジム	→06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
喧嘩プロレス二瓶組	→044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル
国際プロレス	→0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
修斗コミッション	→03-5824-1324	〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8　若山ビル201
新日本プロレス	→03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
掣圏道	→03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607
全日本女子プロレス	→03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
全日本プロレス	→03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
大日本プロレス	→045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
ダイプロデュース(大仁田興行)	→03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F
髙田道場	→03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1
高山堂	→03-5464-2806	〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア
闘龍門JAPAN	→078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8　TOWA元町ビル901
トータルワークアウト	→03-3280-5557	〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24　明るいビル
ドリームステージエンターテインメント	→03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103
バトラーツ	→0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
パンクラス	→03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
プロレスリング・ノア	→03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
みちのくプロレス	→019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
DDT	→03-3868-9181	〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7　MORIMOTO FLATS 4F
DEEP 2001事務局	→052-339-0303	〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
GAEA JAPAN	→03-5459-3101	〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1 F
GCM COMUNICATION (和術慧舟會、A^2GYM、RJW)	→03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F
IWAジャパン	→03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401
Jd'	→03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F
JWP	→03-5849-2341	〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
K−1 事務局	→03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
KAIENTAI DOJO	→043-214-6960	〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
LLPW	→03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ピクセル文京105
NEO	→044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
SMACK GIRL実行委員会	→03-5545-4766	〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5　ノアビル12階
SPWF	→03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル
T.A.M.A	→042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
U-FILE CAMP	→044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
UFO	→03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F
WEW	→03-5958-5651	〒176-0005 東京都豊島区南大塚3-34-4ニューヴァリー2F
WMF	→03-5362-7364	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-26　テクノ四谷ビル2F
WWS	→0495-24-6900	〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23　レインボー本庄106
ZERO-ONE	→03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
ZIPANG	→03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21　ハイネス梅里201
ZST	→03-5321-9595	〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2　廣川ビル4F

サタケる大爆笑2002

11·17「WRESTLE-1」
笑撃の初登場!



ドリフターズトリビュート！
I LOVE金だらい

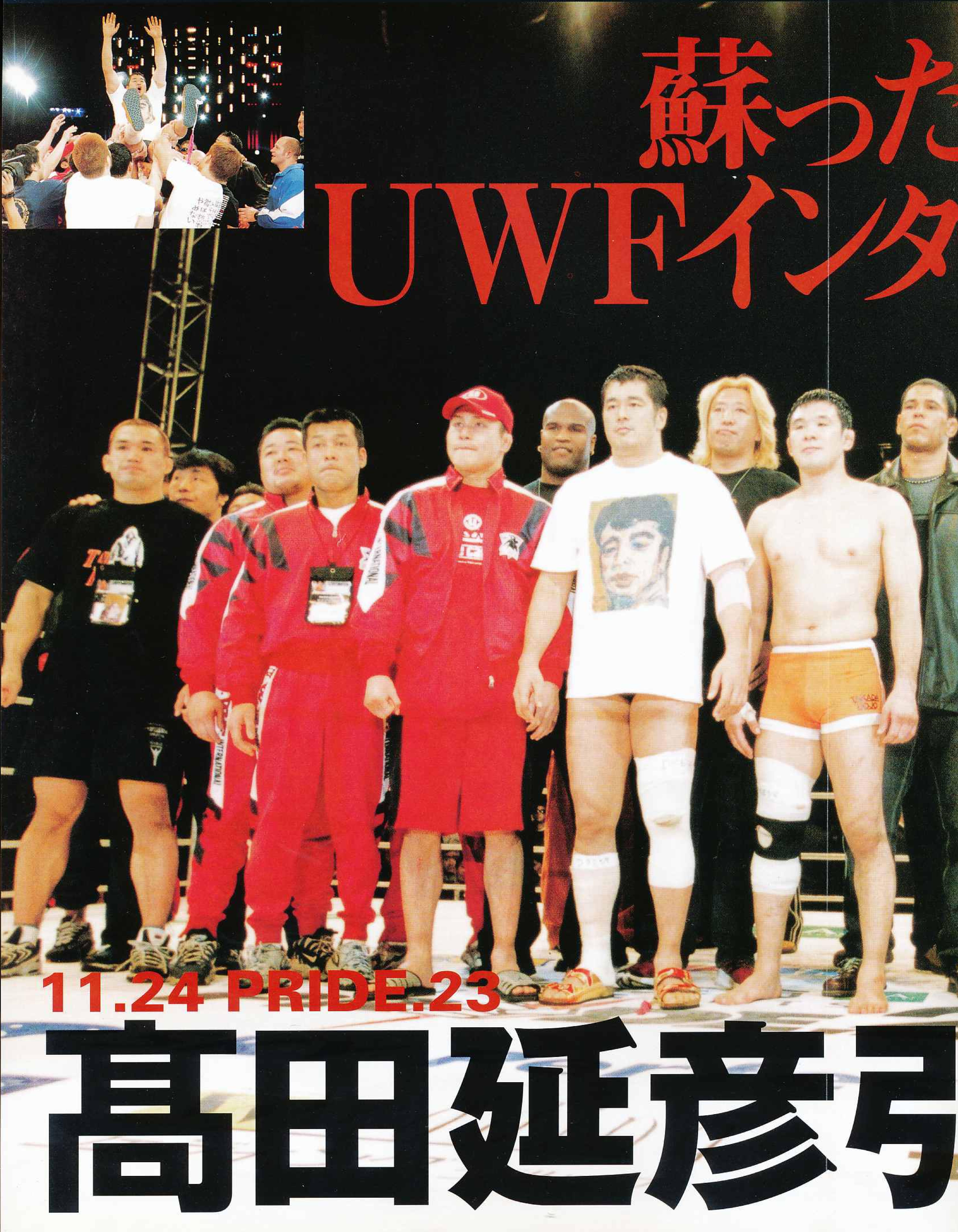
ダメだこりゃ
次いってみよう！
（いかりや長介調）

ジャパニーズ・エンターティナー
SATA...yarn

った!
インター伝説



彦引退——。



蘇ったUWFイン

11.24 PRIDE.23

髙田延彦

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　◎ ジャン斉藤
♠ 松澤チョロ　♥ さささぃ
◆ 堀江ガンツ

パーアリーナ(17:00)★◎

6:00)

)
♥

00)

♥
00)

)

11 SAT.

全日本■広島・福山ビッグローズ(17:00)
闘龍門■埼玉・本川越ぺぺホール・アトラス(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

12 SUN.

闘龍門■埼玉・桂スタジオ(17:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
WMF■東京・バトルスフィア東京(14:00)
GAEA■　東京・後楽園ホール(12:00)
全女■東京・全女事務所ガレージマッチ(12:00)
アルシオン■大阪・デルフィンアリーナ(17:00)

13 MON.

全日本■大阪・大阪府立体育館(15:00)
みちのく■宮城・Zepp　Sendai (14:00)
闘龍門■静岡・ツインメッセ静岡(16:00)
ノア■京都・KBSホール(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(17:00)
Jd' ■東京・後楽園ホール(12:00)

15 WED.

ノア■島根・松江 くにびきメッセ (18:30)

17 FRI.

ノア■山口・下松市民体育館 (18:30)

18 SAT.

闘龍門■東京・八王子市民会館(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

19 SUN.

『WRESTLE—1』■東京・東京ドーム(17:00)★◎
闘龍門■三重・四日市オーストリア記念館(18:00)
ノア■香川・高松市市民文化センター(15:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
LLPW■東京・後楽園ホール(12:30)

21 TUE.

ノア■広島・東広島運動公園体育館 (18:30)

22 WED.

ノア■山口・海峡メッセ下関 (18:30)

23 THU.

ノア■愛媛・テクスポート今治 (18:30)

24 FRI.

WWE■東京・国立代々木競技場第1体育館(19:00)
闘龍門■静岡・富士川町総合体育館(18:30)
ノア■高知・高知県民体育館 (18:30)
LLPW■東京・バトルスフィア東京 (19:00)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)

25 SAT.

WWE■東京・国立代々木競技場第1体育館(18:00)
出身地別東西決戦■東京・後楽園ホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

26 SUN.

ZERO—ONE■福岡・博多スターレーン(17:00)★
ノア■兵庫・神戸ワールド記念ホール(15:00)
Jd' ■千葉・Jd' 柏道場(13:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
K—DOJO ■埼玉・越谷桂スタジオ(14:00)
DEMOLITION■東京・お台場メディアージュ6F・SDM(17:00)

27 MON.

ZERO—ONE■島根・くにびきメッセ(18:30)★

29 WED.

ZERO—ONE■岡山・岡山県卸センター展示場オレンジホール(18:30)★

30 THU.

ZERO—ONE■山口・徳山市総合スポーツセンター(18:30)★

30 FRI.

ZERO—ONE■広島・広島グリーンアリーナ小ホール(18:30)★
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス (19:00)

2 February

1 SAT.

ZERO—ONE■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)★
大阪■大阪・大阪城ホール(15:00)

2 SUN.

ZERO—ONE■東京・ディファ有明(16:00)★
シュートボクシング■東京・後楽園ホール(18:00)

8 SAT.

K—DOJO ■埼玉・本川越ぺぺホール(18:00)

9 SUN.

K—DOJO ■神奈川・小田原川東タウンセンターマロニエホール (19:00)

RADICAL CALENDAR

12 December

21 SAT.

パンクラス■東京・ディファ有明(18:30)
闘龍門■静岡・アクトシティ浜松(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
WMF■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

22 SUN.

闘龍門■静岡・焼津市民体育館(13:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
DDT■東京・後楽園ホール(12:00)♠
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インホール(14:00)
全女■神奈川・川崎市体育館(15:00)
イーグルプロ■東京・板橋区産文ホール(12:30)

23 MON.

『PRIDE.24』■福岡・マリンメッセ福岡(16:30)★◎
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■神奈川・相模原市立総合体育館(13:30)
WMF■埼玉・本川越ペペホールアトラス(14:00)
K−DOJO ■東京・ディファ有明 (19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)
JWP■東京・ JWP道場 (12:30)

24 TUE.

ノア■東京・ディファ有明(19:00)

25 WED.

闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)

26 THU.

T2P■東京・後楽園ホール(18:30)♦♥

27 FRI.

WEW■東京・後楽園ホール(19:00)

28 SAT.

闘龍門■愛知・名古屋国際会議場イベントホール(18:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

29 SUN.

ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)♥★
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
Jd' ■東京・後楽園ホール(12:00)
SMACK GIRL■東京・東京FMホール(16:30)♠♥

30 MON.

闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(16:00)

31 TUE.

INOKI BOM-BA-YA2002■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(17:00)★◎
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(23:00)
新宿プロ■東京・歌舞伎町クラブハイツ(21:00)

1 January

2 THU.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)

3 FRI.

全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (16:00)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)

4 SAT.

新日本■東京・東京ドーム(15:00)♥
DDT■東京・お台場 スタジオドリームメーカー (16:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

5 SUN.

全日本■長野・長野運動公園総合体育館(15:00)
ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♥
大阪■大阪・和泉市民体育館(13:00)
大日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場(13:00)
全女■埼玉・桂スタジオ(13:00&17:00)
Jd' ■東京・北沢タウンホール(13:00&17:00)
r■東京・六本木TSKホール(15:00)♠

6 MON.

ZERO−ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♥
全日本■三重・四日市オーストラリア記念館(18:00)

7 TUE.

WEW■東京・後楽園ホール(17:00)

8 WED.

全日本■山口・宇部市俵田翁記念体育館(18:30)
大日本■千葉・千葉公園体育館(18:00)

10 FRI.

全日本■山口・岩国市体育館(18:30)
ノア■東京・日本武道館(18:30)

11 SAT.

全日本■広島・福
闘龍門■埼玉・本
大阪■大阪・デル

12 SUN.

闘龍門■埼玉・桂
IWA■東京・後楽
大阪■大阪・デル
WMF■東京・バト
GAEA■　東京・
全女■東京・全女
アルシオン■大阪

13 MON.

全日本■大阪・大
みちのく■宮城・Z
闘龍門■静岡・ツ
ノア■京都・KBS
大阪■大阪・デル
NEO■東京・北沢
Jd' ■東京・後楽

15 WED.

ノア■島根・松江

17 FRI.

ノア■山口・下松市

18 SAT.

闘龍門■東京・八
大阪■大阪・デル

19 SUN.

『WRESTLE−1』
闘龍門■三重・四
ノア■香川・高松市
大阪■大阪・デル
LLPW■東京・後

21 TUE.

ノア■広島・東広島

22 WED.

ノア■山口・海峡

23 THU.

ノア■愛媛・テクス

24 FRI.

WWE■東京・国立
闘龍門■静岡・富